

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|----------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 情報メディアの活用 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | IC1211 |
| 英 文 名 | Practical Use of Information and Media | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必修 | |
| 担 当 者 | 堀出 雅人 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>私たちの生活にいまや欠かすことができない携帯電話やスマートフォン。仕事や暮らしに関わる情報をいつでもどこでもインターネットを介して収集することが可能となりました。企業や自治体も、消費者や住民が求める情報、また周知が必要な情報を的確に伝えるために、ホームページやSNSを活用した広報活動に力を入れています。就職先として企業や自治体職員等を目指す上で、配属された部署での事業PRなどを周知するために、ホームページやSNSを使って広報する力は必須のものとなるでしょう。そこで本授業では、就職先で基本的な広報活動が担える力を育成することを目指します。具体的に、PCやスマートフォンを活用し、華頂生やオープンキャンパスへの参加を考えている高校生等を対象に、総合文化学科での学びなどをわかりやすく広報する課題に取り組みます。入学広報センターで広報を担う担当者の方からアドバイスを得ます。広報活動を進めるにあたって職場では役割分担して組織として取り組むことがあります。そこで授業中もその練習としてグループワークによって広報物の制作を求めます。また、学修成果の可視化に向けてプレゼンテーションを実施します。以上を通して、受講生一人ひとりそれぞれの情報メディアの「活用」力を高めていきます。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>(1)情報メディアの特徴を説明することができる (2)職場等で情報メディアを活用した基本的な広報ができる (3)仲間と協力して一つの目標に向かって活動できる (4)情報発信する際のルールやマナーが説明できる</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | テキストはありません。各回に印刷資料の配布または必要事項を板書します。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業中に適宜指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出を求めるコメントカードについては、後日、授業の際に講評したり、必要に応じてコメントを添えて返却します。グループワークで作成する各課題については適宜アドバイスを行います。事前に評価指標を伝え、その指標に則り、プレゼンテーションの回にチェックし、指導を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 授業中盤から課題制作のためにグループワークを実施します。 課題制作上、学校備え付けのPCとは別に、各自の所持しているスマートフォンやタブレットPCを使用する場合があります。 配慮事項のある学生は事前に相談してください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の業務経験など：特定非営利活動法人学習開発研究所 所員として、E-Learninシステムの設計および運用に携わる。 | | | | | | | | |

| 授業名 | 情報メディアの活用 | |
|------|-----------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容)「情報メディアの活用」の15回を通した目標と内容を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 シラバスを読んでくる 事後 授業の感想や要望をコメントカードに記入して次回に提出 |
| 第2回 | 情報メディアの特徴 | (学修内容)情報の送信側と受信側、それぞれの立場から情報メディアの特徴を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前「情報メディア」の意味を辞書などで調べてくる 事後 情報の送受信の特徴をコメントカードにまとめ次回提出 |
| 第3回 | インターネットを活用した広報 | (学修内容)企業や自治体では消費者や地域住民に向けてホームページやSNSを活用した広報に力を入れている。具体的な例を挙げてその特徴を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 企業や自治体のホームページを1つずつ閲覧してくる 事後 授業で示された基準をもとに事前学習で調べたページをチェックする |
| 第4回 | ホームページ上での広報の特徴 | (学修内容)企業や自治体の広報用ホームページの現在のおおよその構成を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 複数の企業や自治体のホームページを閲覧し比較してくる 事後 広報用ホームページの特徴をコメントカードにまとめ次回提出 |
| 第5回 | SNS上での広報の特徴 | (学修内容)企業や自治体が行いSNSを活用した広報の実態を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 企業や自治体が行うSNS上の広報活動を調べてくる 事後 各SNSの特徴を生かした広報の在り方をコメントカードにまとめ次回提出 |
| 第6回 | 「炎上」等トラブルを防ぐために | (学修内容)著作権への抵触、不適切な画像・動画の拡散、攻撃的な記事のアップなど「炎上」の実際と防ぐためのチェック体制について説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 企業や自治体のネット上での広報における「炎上」事例を調べる 事後「炎上」回避する要点をコメントカードにまとめ次回提出 |
| 第7回 | 広報活動にチャレンジ | (学修内容)【グループワーク】本学の入試広報等を想定し、届けたい受信者の興味関心を意識して、記事作りのテーマを考え決めることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 記事にするテーマを考えてくる 事後 グループワークで出た意見をもとに更に記事内容を検討してくる |
| 第8回 | 広報用記事のフレーム決定 | (学修内容)【グループワーク】メディアの特徴を意識した記事の構成を提案することができる。次回フィールドワークの目標設定し準備することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 参考になる広報記事を探す 事後 フィールドワークに向けて下調べなど各自準備を整える |
| 第9回 | 広報用記事の材料収集 | (学修内容)【フィールドワーク】広報記事に掲載する材料を探すために大学近隣でフィールドワークに参加し成果を挙げることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 記事作成のため必要な材料を事前にピックアップしておく 事後 フィールドワークを実施した反省をコメントカードにまとめ次回提出 |
| 第10回 | 収集した材料の加工 | (学修内容)【グループワーク】フィールドワークで収集したデータを集約して、記事に掲載するデータを文字の挿入など適宜加工することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 フィールドワークで収集した材料をできるようにデータを保管 事後 広報記事の内容を検討してくる |
| 第11回 | 広報用記事の作成 | (学修内容)【グループワーク】広報記事をグループ内で分担して作成することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 グループ内で担当を割り振り、事前準備を進める 事後 プレゼンテーションに向けて、記事を完成させて発表の段取りを整える |
| 第12回 | 完成した広報用記事の共有 | (学修内容)【プレゼンテーション】グループごとに作成した広報用記事と工夫した点を紹介することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 限られた時間の中でプレゼンするため、プレゼンの練習を前日までにやる 事後 プレゼンの反省をコメントカードにまとめ次回提出 |
| 第13回 | 広報用動画の編集 | (学修内容)【グループワーク】フィールドワークで撮影した画像データをPCソフトやスマホアプリを活用しつなげ動画にすることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 動画に掲載する画像を整理しておく 事後 次回の発表に向けて動画を完成させる |
| 第14回 | 制作した広報用動画の発表 | (学修内容)【プレゼンテーション】制作した広報用動画をグループごとにプレゼンすることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 前日までに動画を完成、メンバーとプレゼンの練習をおこなう 事後 他のグループからのコメントを記録し最終レポートに反映させる |
| 第15回 | 学修成果のふりかえり | (学修内容)情報メディアを活用した広報の意義と制作上の要点を説明することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 授業を振り返りインターネットを活用した広報の要点を整理する 事後 最終レポートに向けて、他の受講生から出た意見を記録しておく |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | 情報ビジネス演習 a | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | CS1106 |
| 英文名 | Information Business Practice a | | | 開講時期 | 秋学期 | | 必修選択 | 必修 | |
| 担当者 | 岩佐 真代 | | | 対象学生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 現在、パーソナルコンピュータを介した記録や情報検索などが日常的におこなわれ必要不可欠となっている。コンピュータを用いた基本的な情報活用能力を習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。演習データの提供や提出はICTを活用して実施する。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる 4) インターネットリテラシーを習得し、インターネットやSNSを適切に利用できる 5) 課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 | | |
| テキスト | 情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2016対応版(オーム社) | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出された制作物やプレゼンテーションについてはコメントを付けて返却します | | | | | | | | |
| 留意事項 | 情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。 2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業初回にアナウンスします。 研究室前にも掲示しますので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 情報ビジネス演習 a | |
|------|---|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション Windowsの基本操作 メールの基本操作 情報セキュリティ、モラル | (学修内容) 授業概要の説明、情報処理室の使用手法、Gメールの送受信 アカウントの追加、情報に関するリスク・対策・モラルについて (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス、教科書第1章(1-3を除く)、第2章を読む 入学時に配布されたGメール、ポータルサイトの冊子を読み持参 |
| 第2回 | Word 1 (基本操作) | (学修内容) USBメモリ使用上の注意、Wordの開始、保存、終了 コピー & 貼り付け、ページ設定、書式設定、文字カウント (事前事後学修課題の内容) (30分) USBメモリを購入し持参する、教科書第1章1-3、第3章3-1、3-2を読む 第2回課題 (Word・書式設定をした文書) をメールに添付し提出 |
| 第3回 | Word 2 (文書作成と整形) | (学修内容) 検索と置換、ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入 インデントとTabキー、箇条書きなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-3、3-4を読む 第3回課題 (Word・Tabキーを使用した文書) をメールに添付し提出 |
| 第4回 | Word 3 (図入りの文書の作成) | (学修内容) 図形、画像の作成、挿入、テキストの配置 Snipping Tool の使い方など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-5を読む 第4回課題 (Word・図形や画像を使用した文書) をメールに添付し提出 |
| 第5回 | Word 4 (表作成) 文献検索 | (学修内容) 単純な表、複雑な表の作成 文献検索について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-5を読む、第5回課題 (Word・表) を印刷し提出 文献検索より書籍を1冊選んで読み、次回持参 |
| 第6回 | Word 5 (総復習) | (学修内容) 課題の作成 (レジメの作成) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第6回課題 (Word・レジメ) をメールに添付し提出 |
| 第7回 | Excel 1 (基本操作、関数) | (学修内容) セル、シート等、各画面の説明、データ入力 簡単な計算式など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-1、4-2-1を読む 第7回課題 (Excel・セル番地を使用した計算) をメールに添付し提出 |
| 第8回 | Excel 2 (関数) | (学修内容) 各種関数 (合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など) (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-2を読む 第8回課題 (Excel・関数を使用した計算) をメールに添付し提出 |
| 第9回 | Excel 3 (表、グラフの作成) | (学修内容) 罫線、文字の配置、セルの挿入・削除・結合 棒、折線、円、複合などのグラフ、印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-3、4-4、4-8を読む 第9回課題 (Excel、Word・グラフ) を印刷し提出 |
| 第10回 | Excel 4 (既存データベースの利用) | (学修内容) e-Stat のデータを利用し、情報を分析評価し整理する (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章を復習し、レポート案を作成してくる |
| 第11回 | Excel 5 (総復習) | (学修内容) 前回の情報分析結果をレポートにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 第11回課題 (e-Statデータを利用したレポート) をメールに添付し提出 |
| 第12回 | PowerPoint 1 (基本操作) | (学修内容) スライドサイズの変更、スライドマスターの編集、箇条書き インデント、Tabキーの使い方、画像の加工、アニメーションの設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-1、5-2、5-3を読む 第12回課題 (PowerPoint・画像加工) をメールに添付し提出 |
| 第13回 | PowerPoint 2 (Word、Excelとの連携) | (学修内容) グラフ、表の作成、ノートの記入、印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-7を読む 第13回課題 (PowerPoint・グラフ) を印刷し提出 |
| 第14回 | PowerPoint 3 (総復習) | (学修内容) プレゼンテーション技法 最終プレゼンテーション用のスライドを作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-4、5-5、5-6を読む 発表用スライドを完成させ、メールに添付し提出 |
| 第15回 | PowerPoint 4 (プレゼンテーション) | (学修内容) PowerPointを使ったプレゼンテーションの実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表用原稿を作成する |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-----------------------------|--------------------------|------------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | 現代文化 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | IC1205 |
| 英文名 | Contemporary Culture | | | 開講時期 | 春学期 | | 必修選択 | 必修 | |
| 担当者 | 長光 太志 | | | 対象学生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 現代に特徴的な文化現象について何点か取り上げ、それを理論的・分析的に考える方法を学びます。分析に際しては、インターネットが社会に実装される直前の1990年代と現在を比較することで、現時点の文化をだけを理解するのではなく、現代文化の歴史的な流れや変容にも意識を向けます。受講生の数を見ながら、適宜グループワークやディスカッションを行います。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 現代文化の分析を通じて、文化の論じ方が理解できる 2) 現代文化の特徴的な要素が理解できる | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (ワークショップの内容) | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テキスト | 授業中、パワーポイントを掲示し、テキスト代わりにプリントを配布する | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | グループワークやワークショップあるいは口述の終わりに教員からの講評をします。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | グループワーク、ワークショップへの参加は特に重要視されます。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業終了後に実施する | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 現代文化 | |
|------|----------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 授業の概要と計画について (事前事後学修課題の内容) (60分) シラバスの内容を確認しておくこと |
| 第2回 | モバイルメディア | (学修内容) 公衆電話が架橋した「声の文化」と「文字の文化」について考える (事前事後学修課題の内容) (80分) 事後学習として、授業中に配布したプリントを完成させる |
| 第3回 | カメラ文化 | (学修内容) 小型化、端末化するカメラが示す現代文化について考える (事前事後学修課題の内容) (80分) 事後学習として、授業中に配布したプリントを完成させる |
| 第4回 | テレビ文化と動画文化の関係性 | (学修内容) テレビとネット上の動画文化がどのような関係を保ってきたのかを考える (事前事後学修課題の内容) (80分) 事後学習として、授業中に配布したプリントを完成させる |
| 第5回 | インターネットと大学生文化 | (学修内容) 大学生にインターネットがどのように利用されてきたのかを考える (事前事後学修課題の内容) (80分) 事後学習として、授業中に配布したプリントを完成させる |
| 第6回 | 音楽文化 | (学修内容) CDを売る時代から、体験を売る時代に变化した背景を考える (事前事後学修課題の内容) (80分) 事後学習として、授業中に配布したプリントを完成させる |
| 第7回 | ファッション文化の新局面 | (学修内容) リアルな身体表現からバーチャルな身体表現へファッションの力点が移動した点を考える (事前事後学修課題の内容) (80分) 事後学習として、授業中に配布したプリントを完成させる |
| 第8回 | マンガ | (学修内容) 媒体と作品の多様化傾向について考える (事前事後学修課題の内容) (80分) 事後学習として、授業中に配布したプリントを完成させる |
| 第9回 | ゲーム | (学修内容) 「バーチャル」から「日常」への力点の移動を考える (事前事後学修課題の内容) (80分) 事後学習として、授業中に配布したプリントを完成させる |
| 第10回 | スポーツ観戦 | (学修内容) グローバル化、ローカル化、物語化の進行について考える (事前事後学修課題の内容) (80分) 事後学習として、授業中に配布したプリントを完成させる |
| 第11回 | 社会運動 | (学修内容) 暮らしを通じた社会変革の試みについて考える (事前事後学修課題の内容) (80分) 事後学習として、授業中に配布したプリントを完成させる |
| 第12回 | 書店 | (学修内容) 邪道書店の平成史を考える (事前事後学修課題の内容) (80分) 事後学習として、授業中に配布したプリントを完成させる |
| 第13回 | ショッピング | (学修内容) 商業ビルが媒介する文化の変容について考える (事前事後学修課題の内容) (80分) 事後学習として、授業中に配布したプリントを完成させる |
| 第14回 | 外食 | (学修内容) セルフサービスという文化について考える (事前事後学修課題の内容) (80分) 事後学習として、授業中に配布したプリントを完成させる |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 授業の全体を総括する (事前事後学修課題の内容) (80分) 事後学習として、これまで配布したプリントを自分なりに整理する |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | 表現文化 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | IC1206 |
| 英文名 | Representation Culture | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 全 炳昊 | | | 対象学生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 現代文化は、独自のテーマや領域において様々な表現の「ツール」を介して現象する。多様な担い手によって拡散する現代文化の特徴を知るため、授業では多様なジャンルで展開する総合コンテンツとしての「韓流」という文化現象に注目する。韓流の歴史や展開過程、担い手間の相互関係から韓流が如何にグローバル化へ乗り出したのか、またその過程に内在している問題は何かを考察することで、現在進行形である韓流の「イマ」を探る。授業の導入としては、現代文化に対する理解とともに理論的考察を進め、続けて韓流の歴史や各ジャンル別の展開過程について見ていきたい。後半には、韓流をめぐる問題とともに、日韓両国の関係において韓流がどのような役割や機能を担うことができるのか、その可能性を図るため、韓国社会における日本文化（「日流」）の様子とその特徴についての考察を行う。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 日常的で身近な文化現象の社会的背景や意味を知ることができる。 韓流の歴史と展開過程を通して、特定の文化現象が社会の中でどのような役割と機能を持っているのか、把握することができる。 韓流という文化現象の理解から、日韓関係の今後について考えることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業） | | グループワーク ICT活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テキスト | 特に指定しません。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 井上俊 編（2014）『現代文化を学ぶ人のために』世界思想社 クォン・ヨンソク（2010）『「韓流」と「日流」？文化から読み解く日韓新時代』NHKブックス | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | メールにてコメントを行います。 postjeon@gmail.com | | | | | | | | |
| 留意事項 | 毎回の講義時に与えられるワークシートは自分の言葉で作成し、必ず提出すること。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 講義時間前後に限って、控え室などに在室します。 他には、メールにて授業関連の相談などを行います。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実務経験など：映画配給会社にて、日本語と韓国語の翻訳・通訳に関する企画および運用の統括として勤務。 企業と行政の現場における通訳業務に携わる。 | | | | | | | | |

| 授業名 | 表現文化 | |
|------|--------------------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション・「みせもの」としての文化 | (学修内容) 講義概要と進行の流れ なぜ、「韓流」に焦点を合わせているのか。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。 |
| 第2回 | 現代文化を考える - 「都市的」生活様式としての文化 | (学修内容) 都市的な生活様式における現代文化の特徴 「都市的」であることの意味を知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。 |
| 第3回 | 現代文化を考える - 「消費する(される)」ものとしての文化 | (学修内容) 「消費」の担い手は誰なのかを知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。 |
| 第4回 | 現代文化を考える - 「情報」を共有する手段としての文化 | (学修内容) 私たちが求めているものとは何か。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。 |
| 第5回 | 文化研究の視点と方法 - いくつかの理論的アプローチ | (学修内容) 「カルチュラル・スタディーズ」と「言説分析」 「ジェンダー・スタディーズ」と「文化的再生産」 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。 |
| 第6回 | 何が「表現」されるのか - 「韓流」の歴史と現状 | (学修内容) 文化現象としての「韓流」の歴史と現状 (グループワークで韓流を自由に語る) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。 |
| 第7回 | 何が「表現」されるのか - 戦略としての「韓流」と担い手 | (学修内容) 商業戦略としての韓流から文化戦略へ ダイナミック・コリアの正体 / (GWの成果をプレゼンする) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。 |
| 第8回 | どのように「表現」されるのか - ドラマシーンにおける「韓流」 | (学修内容) 「冬ソナ」から韓流「時代劇」ブームまで 韓流トレンド・ドラマ (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。 |
| 第9回 | どのように「表現」されるのか - 映画シーンにおける「韓流」 | (学修内容) 韓国映画産業の歴史と戦略 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。 |
| 第10回 | どのように「表現」されるのか - 音楽シーンにおける「韓流」 | (学修内容) K-popの過去と現在 音楽が国境を越える時 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。 |
| 第11回 | どのように「表現」されるのか - 文学シーンにおける「韓流」 | (学修内容) 韓国版「ハルキスト」たち 大型書店における「日本文学コーナー」の意味 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。 |
| 第12回 | 今までの総括 - 「韓流」という文化現象の実像と虚像 | (学修内容) 問題と今後を考える。 (グループワークで韓流を自由に語る) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。 |
| 第13回 | 相反する「表現」のカタチ - 韓国社会における「日流」 | (学修内容) 文学、アニメを中心とする「日流」の実像 (グループワークで韓流を自由に語る) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。 |
| 第14回 | 相反する「表現」のカタチ - 「韓流」と「日流」の狭間で日韓関係を考える | (学修内容) それぞれの文化現象から「みえる」もの (グループワークで韓流を自由に語る) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。 |
| 第15回 | 成果発表および総括 | (学修内容) 身近な韓流との関わりから思うこと。 課題設定および報告会 / (GWの成果をプレゼンする) (事前事後学修課題の内容)(60分) 報告の準備をしておくこと。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 現代スポーツ文化 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | IC1207 |
| 英 文 名 | Contemporary Sport Culture | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 新矢 昌昭 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | スポーツは、身体、物質、精神など文化と密接な関係にあります。この講義では、スポーツがどのように文化に影響を与えたのかをスポーツの歴史を通して考えていきます。特に、オリンピックや近代スポーツに注目し現代文化との関係や問題を考えていきます。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 文化としてのスポーツを理解することができる 2) オリンピックの歴史や問題点などを理解することができる 3) 現代社会でのスポーツの意義を考えることができる | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (85 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (15 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | 使用しない。プリントを配布する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 適宜紹介する | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 配布資料についての解説、グループワーク発表などにコメントを加える | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 配布資料は必ずよみ、自身でまとめておくこと。講義中に考えを求める。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室の扉に掲示する | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 現代スポーツ文化 | |
|---------|----------------------------|--|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容)この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでおく | |
| 第2回 | スポーツとは何か | (学修内容)スポーツの定義 (事前事後学修課題の内容)(60分) スポーツに対するイメージを考えて、まとめておく | |
| 第3回 | 近代スポーツの誕生 | (学修内容)近代スポーツとは何か (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読んでおく | |
| 第4回 | オリンピックとは | (学修内容)オリンピックの歴史 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読んでおく | |
| 第5回 | 近代オリンピックとは | (学修内容)近代オリンピックの光と影 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読んでおく | |
| 第6回 | ベルリンオリンピック | (学修内容)ヒトラーとオリンピック (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読んでおく | |
| 第7回 | ベルリンオリンピックを見る | (学修内容)ベルリンオリンピックのDVD鑑賞 (事前事後学修課題の内容)(60分) 感想文を書く | |
| 第8回 | オリンピックとナショナリズム | (学修内容)国家とスポーツの関係 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読んでおく | |
| 第9回 | オリンピックとナショナリズムについてのグループワーク | (学修内容)グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回で学んだことについて自分の問題点としてまとめておく | |
| 第10回 | 現代社会の中のスポーツとプロ | (学修内容)現代社会の中のスポーツの位置づけと職業としてのスポーツ (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読んでおく | |
| 第11回 | スポーツとジェンダー | (学修内容)スポーツの中の男女 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読んでおく | |
| 第12回 | プロ野球の歴史 | (学修内容)電鉄会社とプロ野球 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読んでおく | |
| 第13回 | プロ野球とファン | (学修内容)ファンはどのようにできるのか (事前事後学修課題の内容)(60分) スポーツ新聞を読んでおく | |
| 第14回 | アシックス スポーツミュージアム見学 | (学修内容)アシックス スポーツミュージアムでスポーツについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) アシックス スポーツミュージアムのHPを読んでおく | |
| 第15回 | まとめ | (学修内容)全体のまとめ (事前事後学修課題の内容)(60分) アシックス スポーツミュージアムの感想文の提出 | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | メディア文化史 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | IC1210 |
| 英文名 | History of Media Culture | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 富川 拓 | | | 対象学生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>本授業では、様々なメディア・メディア文化の歴史や現状、課題について、具体的な事例を通して学び、自身とメディアとの関わり方を意識して考えられるようになることを目標としています。</p> <p>授業では、講義に加えてグループワーク・ディスカッション・フィールドワーク・発表を実施し、メディア・メディア文化に対する理解を深めます。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 様々なメディア・メディア文化の特徴、現状と課題について学び、メディアリテラシーを身につける。</p> <p>2) 自身とメディアとの関わり方を意識して考えられるようになる。</p> <p>3) グループワーク、ディスカッション、発表、フィールドワークなどに主体的に取り組むことができるようになる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テキスト | 特に指定しません。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に適宜指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | レポートに対してはコメントを行います。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 日頃からメディアに関心を持つようにしてください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業終了後に実施します。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | メディア文化史 | |
|------|-------------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容)授業の概要、学修成果・到達目標、評価方法、授業計画等について (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前にシラバスの内容を確認しておいてください。 |
| 第2回 | メディア文化 | (学修内容)メディア、社会、文化、メディア文化について (事前事後学修課題の内容)(60分) 学習内容を復習し、用語などを覚えるようにしてください。 |
| 第3回 | メディアの歴史 1 声からテレビまで | (学修内容)声、文字、印刷と書籍、新聞、ラジオ、テレビ、マスメディアとパーソナルメディアについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 学習内容を復習し、用語などを覚えるようにしてください。 |
| 第4回 | メディアの歴史 2 電話から電子メディアまで | (学修内容)電話、ポケベル、メール、携帯電話、スマホ、ビデオ通話、電子メディア、メディアリテラシー・情報リテラシーについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 学習内容を復習し、用語などを覚えるようにしてください。 |
| 第5回 | 日本文化とメディア 1 マンガ、アニメ等 | (学修内容)マンガ・アニメ・映画・ゲームについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 日本のマンガ・アニメ・映画・ゲームについて事前に各自で調べてきてください。 |
| 第6回 | 日本文化とメディア 2 グループディスカッション | (学修内容)日本文化とメディアについて、グループでディスカッションし、発表する (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自でディスカッション、発表の振り返りをしてください。 |
| 第7回 | ジェンダーとメディア 1 性別役割分業、異性愛主義等 | (学修内容)ジェンダー、性別役割分業、異性愛主義、男女共同参画について (事前事後学修課題の内容)(60分) 学習内容を復習し、用語などを覚えるようにしてください。 |
| 第8回 | ジェンダーとメディア 2 ジェンダー表象 | (学修内容)メディアにおけるジェンダー表象について (事前事後学修課題の内容)(60分) 普段から接しているメディアにおけるジェンダー表象について、各自で調べ、分析してください。 |
| 第9回 | 子育て・教育とメディア | (学修内容)子育て・教育とメディアとの関連、絵本や教科書について (事前事後学修課題の内容)(60分) 学習内容を復習し、用語などを覚えるようにしてください。 |
| 第10回 | 地域とメディア 1 フィールドワークの準備 | (学修内容)個人、グループでフィールドワークの準備。現地での質問項目等をグループでディスカッションして検討。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 現地の情報等を各自で調べておいてください。 |
| 第11回 | 地域とメディア 2 地域メディアの見学等 1回目 | (学修内容)フィールドワーク。地域メディアの見学等。1回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) フィールドノートの整理 1回目 |
| 第12回 | 地域とメディア 3 地域メディアの見学等 2回目 | (学修内容)引き続き、フィールドワーク。地域メディアの見学等。2回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) フィールドノートの整理 2回目 |
| 第13回 | 地域とメディア 4 地域メディアの見学等 3回目 | (学修内容)引き続き、フィールドワーク。地域メディアの見学等。3回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) フィールドノートの整理 3回目 |
| 第14回 | フィールドワークの振り返り | (学修内容)グループワークと発表 (事前事後学修課題の内容)(90分) 各自で振り返り(グループワークと発表)の準備をしておいてください。 |
| 第15回 | メディア文化論 振り返りとまとめ | (学修内容)グループワークと発表 (事前事後学修課題の内容)(90分) 各自で振り返り(グループワークと発表)の準備をしておいてください。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 情報サービス | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | IC1208 |
| 英 文 名 | | | | 開 講 時 期 | 春学期 | 必 修 選 択 | 選 択 | | |
| 担 当 者 | 渡邊 雄一 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 図書館における情報ニーズとサービス、レファレンスツール及びレファレンスプロセスについて学習する。情報サービスとは何か、また情報やサービスを提供する際に注意すべきことは何か、図書館と図書館員の役割を把握することが目的である。図書館における情報サービスの実際を理解するために、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 図書館における情報サービスの種類とその内容について説明することができる。 2) レファレンス事例とレファレンス資料に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テ キ ス ト | 授業にて指示する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 『情報サービス論』(現代図書館情報学シリーズ5)、山崎久道、樹村房、2012年 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 図書館の情報サービスについて理解を深めるために、公共図書館などに出向き、興味関心のあるテーマについて図書館員に質問し、レファレンスサービスを体験していただくことが望ましい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館で勤務。実務経験をもとに情報サービスについて話をします。 | | | | | | | | |

| 授業名 | 情報サービス | |
|------|----------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスを読んでおくこと。 |
| 第2回 | 情報社会と図書館 | (学修内容)図書館の役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 情報社会の特質についてまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。 |
| 第3回 | 情報サービスの実際 直接的サービス | (学修内容)情報サービスのうち直接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1回授業で解説したレファレンスサービスの概要について復習し、まとめておくこと。 |
| 第4回 | 情報サービスの実際 間接的サービス | (学修内容)情報サービスのうち間接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 情報サービスの種類と内容をまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。 |
| 第5回 | レファレンスサービスの理論と実際 | (学修内容)レファレンスサービスの理論を学習する。サービスの実施に関わる具体的問題についてグループディスカッションを行うことで理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(20分) レファレンスサービスの理論に関わる配付プリントをよく読んでおくこと。 |
| 第6回 | レファレンスプロセス | (学修内容)レファレンスプロセスの概念について学習し、情報探索行動に対応したレファレンスプロセスの在り方について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(20分) レファレンスプロセスに関するプリントを配付するのでよく読んでおくこと。 |
| 第7回 | 情報検索と情報検索システム 種類と内容 | (学修内容)情報検索の種類・内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 情報検索システムに関する配付資料をよく読んでおくこと。 |
| 第8回 | 情報検索と情報検索システム 検索過程 | (学修内容)情報検索システムにおける検索過程の内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、OPACを用いて特定のテーマに関する情報検索を行い、結果をまとめておくこと。 |
| 第9回 | 情報サービスにおける各種情報源の利用法 | (学修内容)個々の情報源の特性を理解し、多様な情報源を駆使した情報サービスを提供する技能を習得する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館に行き、授業中に紹介した各種情報源を手に取り、利用すること。 |
| 第10回 | 情報サービスと知的財産権 | (学修内容)著作権法について概説し、図書館における複写サービスなどについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 図書館に行き、複写サービスの内容と範囲を確認しておくこと。 |
| 第11回 | オンラインデータベース | (学修内容)オンラインデータベースの作成から利用までの流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、いくつかのオンラインデータベースを用いて情報検索を行い、それぞれのオンラインデータベースの特徴をまとめておくこと。 |
| 第12回 | 電子ジャーナル | (学修内容)電子ジャーナルの種類について概説する。オープンアクセス雑誌と機関リポジトリについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館に行き、電子ジャーナルを利用しておくこと。 |
| 第13回 | レファレンス事例について(プレゼンテーション) | (学修内容)レファレンス質問とその回答についてまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表レジュメを作成する。 |
| 第14回 | レファレンス資料の概要について(プレゼンテーション) | (学修内容)前回のレファレンス事例中にある参考資料について、レファレンス資料としての特徴をまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表レジュメを作成する。 |
| 第15回 | まとめ | (学修内容)今後の情報サービスあり方について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回までの配付プリントを読んでおくこと。 |

| | | | | | | | | | |
|---------------------------------|---|-----------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|---------|-----------|----------|--------|
| 授 業 名 | サブカルチャー | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | IC1212 |
| 英 文 名 | Subculture | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 全 炳 昊 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授 業 の 概 要 | <p>「サブカルチャー」という言葉は、それが使われる国や地域、集団、時代に応じて指し示す意味内容が違って来る、多義的な概念である。こうしたサブカルチャーの多義性について理解してもらうために、授業では、在日コリアンの歴史と文化、そして現在を中心テーマに設定している。日本社会におけるサブ(マイノリティーor非主流or周辺人)としての生活を余儀なくされた在日コリアンの歴史を通して、彼ら独自の生活様式や文化が如何にしてサブカルチャーとして定着したのか、その展開過程に注目する。授業の流れとしては、導入としてのサブカルチャーに対する理解を図るための理論的背景から、在日コリアンの歴史と文化、そして彼らの生活様式がどのように維持・変化してきたかについて考察する。合わせて後半に至っては、様々な在日(ブラジル・中国・ベトナム)の様相を比較・考察することで、日本社会における「多文化共生」の可能性について考えてみたい。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | <p>サブカルチャーの多義性について理解することができる。 在日コリアンの歴史と文化、生活様式について理解することができる。 多文化共生の可能性に対する自分なりの見解を示すことができる。</p> | | | | | | | | |
| 学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T 活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T 活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力 (| 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テ キ ス ト | 特に指定しません。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 伊奈正人(1999)『サブカルチャーの社会学』世界思想社 ディック・ヘプディジ(1986)『サブカルチャー-スタイルの意味するもの』未来社 尹健次(2015)『「在日」の精神史1・2・3』岩波書店 | | | | | | | | |
| 課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法 | メールにて対応いたします。 postjeon@gmail.com | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 事前学習は必要ありませんが、毎回の講義時に出されるワークシートは自分の言葉で作成し、必ず提出すること。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ウ ー | 授業時間前後に限って、控え室などに在室します。 その他、授業関連の相談などには、メールにて対応いたします。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：映画配給会社にて、日本語と韓国語の翻訳・通訳に関する企画および運用の統括として勤務。 企業と行政の現場における通訳業務に携わる。 | | | | | | | | |

| 授業名 | サブカルチャー | |
|------|---|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション・「サブ」が意味するもの：講義概要と進行の流れ | (学修内容) なぜ、「在日コリアン」に注目するのか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。 |
| 第2回 | サブカルチャーとは何か - サブカルチャーの正体 | (学修内容) 様々なサブカルチャーの様相 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。 |
| 第3回 | サブカルチャーとは何か - 理論的アプローチ | (学修内容) 「イデオロギー」としてのサブカルチャー 「ポスト・モダン」なサブカルチャー (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。 |
| 第4回 | サブカルチャーとは何か - 実態としてのサブカルチャー | (学修内容) サブカルチャーの担い手は誰なのか。 地域と集団、そして時代から考えるサブカルチャーの実像 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。 |
| 第5回 | 「在日」を生きる - オールドカマーとニューカマー | (学修内容) 在日コリアンの歴史を考える。 (グループワークで思いを共有する) (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。 |
| 第6回 | 「在日」を生きる - 映しだされる「在日」(1) : 映画の中の在日「表象」 | (学修内容) 映画の素材としての「在日」を考える。 (DVD教材などを使った鑑賞会を行う) (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。 |
| 第7回 | 「在日」を生きる - 映画解説および分析 | (学修内容) 映画の素材としての「在日」を語る。 (グループワークで思いを共有する/プレゼンを行う) (事前事後学修課題の内容) (30分) 映画に対するコメントを用意すること。(A4-1枚程度) |
| 第8回 | 「在日」を生きる - 映しだされる「在日」(2) : 映画の中の在日、家族、そして日本社会 | (学修内容) 映画の素材としての「在日」を考える。 (DVD教材などを使った鑑賞会を行う) (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。 |
| 第9回 | 「在日」を生きる - 映画解説および分析 | (学修内容) 映画の素材としての「在日」を語る。 (グループワークで思いを共有する/プレゼンを行う) (事前事後学修課題の内容) (30分) 映画に対するコメントを用意すること。(A4-1枚程度) |
| 第10回 | 「在日」を生きる - 在日コリアンの文化と生活様式 | (学修内容) 地域文化としての「在日」 民族教育はいかに継続するのか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。 |
| 第11回 | 「在日」を生きる - 日本人と韓国・朝鮮人と在日 | (学修内容) 在日コリアンにとって、「アイデンティティ」とは何か。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。 |
| 第12回 | 「在日」の様相 - 在日ブラジル人の場合 | (学修内容) 地域と集団、そして文化 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。 |
| 第13回 | 「在日」の様相 - 在日中国人の場合 | (学修内容) 地域と集団、そして文化 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。 |
| 第14回 | 「在日」の様相 - 在日ベトナム人の場合 | (学修内容) 地域と集団、そして文化 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。 |
| 第15回 | 成果報告および総括 | (学修内容) 「在日」との出会いから見えるもの(課題および報告会) (GWの成果としてプレゼンを行う) (事前事後学修課題の内容) (60分) 報告会の準備をしておくこと。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | 先端的京都体験 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | IC1405 |
| 英文名 | Ultramodern Kyoto Experience | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 新矢 昌昭 | | | 対象学生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>京都は「古都」というイメージがあるが、明治以降、近代化と「古都」の両輪で形成された都市であった。この講義では、この近代化と「古都」の両方に注目し、現代における京都を考えたい。また体験や見学を通して先端的京都を意義を考えていく。そのためにアクティブラーニングを導入する。具体的には、ディスカッション、グループワークなどを実施する</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 近代化と「古都」を考えることができる 2) 先端的京都の意義を理解することができる 3) 「京都らしさ」を考えることができる</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テキスト | 使用しない、プリントを配布する | | | | | | | | |
| 参考書 | 適宜紹介する | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 配布資料についての解説、発表などにコメントを加える | | | | | | | | |
| 留意事項 | 日常的に京都をどんな町か考えてほしい | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室の扉に掲示 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 先端的京都体験 | |
|------|-----------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく |
| 第2回 | 近代化する京都 | (学修内容) 京都の近代化事業について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布史料を読んでおくこと |
| 第3回 | 京都疎水と第四回内国博覧会 | (学修内容) 京都の近代化の象徴である疎水と内国博覧会の光と影 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布史料を読んでおくこと |
| 第4回 | 事前学習 | (学修内容) 事前学習の発表と討論 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメの作成 |
| 第5回 | フィールドワークー京都疎水 | (学修内容) 現地調査 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメ作成準備 |
| 第6回 | フィールドワークー柳原銀行記念資料館の見学 | (学修内容) 現地調査 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメ作成準備 |
| 第7回 | 事後学習 | (学修内容) フィールドワーク地についての事後発表と討論 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメの作成 |
| 第8回 | 京都「古都」構想 | (学修内容) 岩倉具視の提言 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布史料を読んでおくこと |
| 第9回 | 「古都」京都はどのように定着したのか | (学修内容) 「古都」京都に寄与した文学、広告 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおくこと |
| 第10回 | 修学旅行と京都 | (学修内容) 修学旅行の地、京都はどのように定着したのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおくこと |
| 第11回 | 京都のグローバル企業 | (学修内容) 先端技術を有する企業の特徴と歴史 (事前事後学修課題の内容) (60分) グローバルな視野に立つ京都の企業を調べておく |
| 第12回 | 事前学習 | (学修内容) 事前学習の発表と討論 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメの作成 |
| 第13回 | オムロンの見学 | (学修内容) 現地調査 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメ作成準備 |
| 第14回 | 島津製作所創業記念資料館の見学 | (学修内容) 現地調査 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメ作成準備 |
| 第15回 | 事後学習 | (学修内容) フィールドワーク地についての事後発表と討論 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメの作成 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | ことばと文化 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | IC1301 |
| 英文名 | Words and Expressions | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 伊藤 茂樹 | | | 対象学生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | ことばの持つ可能性は無限である。そして私たちは、ことばを通して社会を形成している。日常的に使用する言葉の由来。辞書にみる言葉の持つ意味の多様性。ことばを発信する出版文化、ことばの遊び...様々な角度からことばの意義を探り学んでいきます。ビデオを見たり、フィールドワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行いながら授業を進めます。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 言葉の持つ意味を辞書等で確認することができる。 2) 言葉を伝える出版文化の意義を理解できる。 3) 日常生活での言葉の意義を理解できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (70%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テキスト | 適宜、プリント等を配布します。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出したレポートはコメントをつけて返却します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 後日、研究室に掲示します。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | ことばと文化 | |
|---------|------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション - 言葉の成り立ちと文化 | (学修内容) 言葉の持つ意味がどのようなものであるのか。本講義の授業内容を説明します。 (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを確認してください。 |
| 第2回 | 生活の中で使う言葉 - 仏教語 | (学修内容) 私たちが使用する言葉はどのようなところから始まり、どのように変化するのか考えます。 (事前事後学修課題の内容) (20分) ノートをまとめてください。配布プリントを読み返してください |
| 第3回 | 漢字、ひらがな、カタカナ | (学修内容) 日々使用する漢字・ひらがな・カタカナについて学ぶ。成り立ちを学びます。 (事前事後学修課題の内容) (20分) ノートをまとめてください |
| 第4回 | フィールドワーク-漢字博物館の見学 | (学修内容) 漢字博物館に行き、実際の成り立ちを学びます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 見学に参加して、発見したことや感想を書いて提出。 |
| 第5回 | 辞書の世界 | (学修内容) 言葉の意味は、辞書を使って知ることができます。辞書の種類や見方を学びます。図書館、演習室で行います。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 辞書の種類をノートにまとめてください |
| 第6回 | フィールドワーク-今年の漢字 | (学修内容) 毎年今年の漢字が発表される清水寺へ行きます。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 感想文を書く。 |
| 第7回 | ことばを伝える - 出版文化の成り立ち | (学修内容) 本の流通、出版、蔵書といった内容を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (20分) ノートをまとめてください。配布プリントを見直してください。 |
| 第8回 | 本のあれこれ - 和本の種類や装丁 | (学修内容) 本の装丁は時代とともに変わります。和本の種類を学んでゆきます。 (事前事後学修課題の内容) (20分) ノートをまとめてください。配布プリントを見直してください。 |
| 第9回 | 笑いのことば - 落語から学ぶ | (学修内容) 泣き笑いありの落語について。歴史や成り立ちを学んでゆきます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ノートをまとめてください。配布プリントを見直してください。 |
| 第10回 | 落語鑑賞 - DVDで東西の落語を鑑賞 | (学修内容) 東京、上方落語を見比べて、ことばの文化の違いを学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 江戸落語と上方落語の言葉の違いから感じ取ることを、まとめてください。 |
| 第11回 | プレゼンテーション | (学修内容) 大阪と関西の言葉の違い。感じ取ることの相違を発表します。言葉の違いは何を生み出すか？ ディスカッションします。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 発表の内容をレポートにまとめてください。 |
| 第12回 | 和歌について - 百人一首 | (学修内容) 和歌について学びます。百人一首の成立とその内容について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 百人一首についてまとめてください。 |
| 第13回 | フィールドワーク-嵯峨小倉山へ | (学修内容) 百人一首の嵯峨小倉山へ行きます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 感想文を書いてください。 |
| 第14回 | 言葉遊びを探る | (学修内容) 言葉遊びには、どのようなものがあるのでしょうか。調べて確認して実際に皆でやってみましょう。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 言葉遊びにはどのようなものがあるのが調査してください。各自が発表した内容をまとめること。 |
| 第15回 | 講義の総括 | (学修内容) これまでの内容を復習して確認します。 (事前事後学修課題の内容) (20分) これまでのノートや配布プリントを確認してください。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 芸術と文化 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | IC1303 |
| 英 文 名 | Art and Culture | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 伊藤 茂樹 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>芸術とは、人間の生活に潤いをもたらします。芸術には様々な分野があります。それぞれ先人の苦悩や努力があらわされており、学ぶことがたくさんあります。本講義では、そのような芸術と文化の関連を学んでゆく事を目的とします。具体的には、京都（特に東山区）の中にある様々な芸術的な事象（たとえば仏像、庭園、建築物）、または、舞台芸術等について学び、フィールドワークを通して何かの知見を得、その内容をプレゼンテーションしてもらいます。文化的な意義に踏みこみ、深く学んでゆきます。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | <p>1) 芸術が私たちの生活にもたらす意義を確認出来る。 2) 鑑賞の知識を得て、物事を正確に捉えることを確認出来る。 3) 鑑賞の際、自分なりの見解を持つことが出来る。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 必要な資料を配布します。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | なし | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたレポートは、コメントをつけて返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 講義中指示します。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 芸術と文化 | |
|------|-------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容)本講義で講義する内容を説明します。日本文化における芸術の意義を概説します。 (事前事後学修課題の内容)(20分) まずは、シラバスをよく読んでください。講義の内容をしっかりと把握すること。 |
| 第2回 | 造像芸術について - 仏像 | (学修内容)仏像の種類や姿について学びます。鑑賞する基礎知識を学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布したプリントをよく読み返してください。内容をまとめること。 |
| 第3回 | 仏師について | (学修内容)仏像を造る仏師について学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントやノートをよく見返しておくこと。次週のフィールドワークの下準備をしておくこと。 |
| 第4回 | フィールドワーク | (学修内容)フィールドワークを行います。華頂学園周辺の名刹を訪ね、これまで学んだ知識を駆使して仏像を鑑賞しましょう。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発見したことや感想を書くこと |
| 第5回 | プレゼンテーション | (学修内容)フィールドワークを通して得た知見を発表してもらいます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 発表内容を提出出来るようにととのえて下さい。 |
| 第6回 | 庭園について | (学修内容)日本の庭園を学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ノートをまとめ、配布プリントをまとめてください。 |
| 第7回 | ふすま絵について | (学修内容)ふすま絵の意義について学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ノートをまとめ、配布プリントをまとめてください。 |
| 第8回 | フィールドワーク - | (学修内容)フィールドワークを行います。華頂学園周辺の名刹を訪ね、庭園やふすま絵を鑑賞します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 見学して発見したことや感想をまとめてください。 |
| 第9回 | 寺院建築について学ぶ | (学修内容)寺院における建造物(仏殿、門、塔...)の種類や建築方法を学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ノートをしっかりとまとめてください。配布プリントを見直すこと |
| 第10回 | 東山知恩院について | (学修内容)知恩院における芸術的文化(建築、庭、ふすま絵)を学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 知恩院の芸術的文化について調べて下さい。 |
| 第11回 | フィールドワーク - 知恩院 - | (学修内容)これまで学んだ知識を駆使して、知恩院を鑑賞します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発見した内容や感想をまとめること。 |
| 第12回 | 舞台芸術について | (学修内容)落語、歌舞伎等の舞台芸術を学びます (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントとノートを見直してください。 |
| 第13回 | フィールドワーク-新京極誓願寺 - | (学修内容)落語の祖安楽庵策伝ゆかりの誓願寺へ参拝に行きます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 感想をまとめてください。 |
| 第14回 | 舞台芸術の鑑賞 | (学修内容)DVDで落語を鑑賞をします。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 落語について感想をまとめてください。 |
| 第15回 | プレゼンテーション | (学修内容)講義の中から関心のあるところを中心に調べてプレゼンテーションしてください。 (事前事後学修課題の内容)(60分) しっかりと発表内容をまとめてください。講義のあとレポートにすること。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | 比較文化 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | IC1305 |
| 英文名 | Comperative Culture | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 秋山 裕之 | | | 対象学生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>文化の定義を概観したのち、いくつかのトピックを通してそれらがいかに多様であるかを示す。 学生どうしでのディスカッションを通して多様性への理解を深め、自身の視点を相対化・客体化できるようになることを目指す。 文化について包括的に考察し、その多様性を尊重することができるようになるための材料を提示したい。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 価値観の多様性や文化的偏見について理解を深めることができる。 2) 文化を比較することで得られる知見にどのような意義があるかを見出すことができる。 3) 多様な物差しがあることを意識したうえで価値判断ができるようになる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テキスト | なし 毎回プリントを配布する。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 電通総研 日本リサーチセンター(編)『世界主要国価値観データブック』2008年 同友館 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 授業内でコメントする | | | | | | | | |
| 留意事項 | 小グループでのディスカッションを重視しますので積極的に発言してください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は3号館4階学生演習室にて掲示。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 比較文化 | |
|---------|--------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション 文化とは何か | (学修内容) 講義スケジュール、文化の定義 (事前事後学修課題の内容) (5分) シラバスを読んでくる |
| 第2回 | 小さな比較の実践 | (学修内容) 小グループでディスカッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 比較するテーマを考えておく |
| 第3回 | 名付けの文化 1 | (学修内容) ブッシュマンの名付け、諸外国の名付け (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の名前の由来を確認しておく |
| 第4回 | 名付けの文化 2 | (学修内容) 名付けのバリエーションと変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の子にどんな名を付けたいか考えておく |
| 第5回 | 混ざり合う文化 1 | (学修内容) 明治期の日本文化にみられる諸外国の影響 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第6回 | 混ざり合う文化 2 | (学修内容) 現代日本文化<から/>の影響 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第7回 | 植民地主義と文化侵略 | (学修内容) アフリカにおける植民地主義の影響 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第8回 | 文化の画一化 | (学修内容) アメリカニゼーション (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第9回 | 日本における文化交流・文化発信の現在 | (学修内容) 現代日本文化の海外展開 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第10回 | 海外文化とステレオタイプ | (学修内容) 文化的偏見 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第11回 | 価値観の多国間比較 1 | (学修内容) 生活における重要度の多国間比較(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第12回 | 価値観の多国間比較 2 | (学修内容) 信頼度の多国間比較(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第13回 | 価値観の多国間比較 3 | (学修内容) 幸福度・満足度・家庭教育の多国間比較(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第14回 | 比較文化を行うために | (学修内容) 定量データと定性データ (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第15回 | 多国間比較の実践 | (学修内容) 定性データによる多国間比較(グループワークとプレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) (60分) 比較するテーマを考えて下調べをしておく |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 現代社会の動き | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | IC1306 |
| 英 文 名 | Social Movement in Today's World | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | 必 修 選 択 | | 選 択 | |
| 担 当 者 | 新矢 昌昭 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 社会学を通して考えると、さまざまな社会に起こっている現象はどのように見えてくるのだろうか。この講義では、わたしたちの身近なできごとから現代社会の特徴を考えるとともに、わたしたちがいかに社会に左右される存在なのか、について考えていく。主として、現代社会における家族を見て行くが、現代社会に対する複眼的な目を養って欲しい。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 現代社会を理解することができる 2) 複眼的な視野を養うことができる 3) 社会と人間の間を関係を考えることができる | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (85 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (15 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テ キ ス ト | 使用しない。プリントを配布する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 講義中に適宜指摘する | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 配布資料についての解説、グループワーク発表などにコメントを加える | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | わからないことは講義後に聞くように | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室の扉に掲示 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 現代社会の動き |
|---------|------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく |
| 第2回 | 近代家族の誕生ー西欧 | (学修内容) 西欧近代家族の形成過程 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく |
| 第3回 | 近代家族の誕生ー日本 | (学修内容) 日本の家族史 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく |
| 第4回 | 現代家族の行方 | (学修内容) 現代家族の特徴、家族の未来 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく |
| 第5回 | 恋愛結婚 | (学修内容) 恋愛結婚の可能性と行方 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく |
| 第6回 | ジェンダー | (学修内容) 現代社会とジェンダー (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく |
| 第7回 | 「見えない貧困」 | (学修内容) 現代社会における貧困問題について (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく |
| 第8回 | 若者論 | (学修内容) 現代社会における若者の生きづらさ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく |
| 第9回 | グループワーク | (学修内容) 若者論を疑う (事前事後学修課題の内容) (60分) グループワークで使用するプリントを予め読んでおくこと |
| 第10回 | 「わたし」とは何か | (学修内容) アイデンティティの確立は可能か (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく |
| 第11回 | 「世間」とは何か | (学修内容) 日本は社会ではなく、「世間」では (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、考えをまとめておく |
| 第12回 | 「空気」とは何か | (学修内容) 「空気」に敏感なわたしたち (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、考えをまとめておく |
| 第13回 | 閉塞感を感じる社会 | (学修内容) 何故、わたしたちは閉塞感を感じてしまうのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、考えをまとめておく |
| 第14回 | 個人について | (学修内容) 日本で個人は可能なのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、考えをまとめておく |
| 第15回 | 全体のまとめ | (学修内容) われわれはどこへ行くのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | コミュニケーション演習 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | IC1302 |
| 英文名 | Communication Practice | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 武田 康晴 | | | 対象学生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>コミュニケーションには、意思や情報のやり取りのことで、大きく分けて言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションがある。また、相手や場面、状況によってコミュニケーションの内容は変化する。例えば「挨拶をする」という行為について、笑顔なのか無表情なのか、親しい相手なのか初対面の相手なのか、部屋の中なのか道路なのか、朝なのか夜なのか...、仕方や状況によってコミュニケーションは大きく異なり、伝わる意思や情報も変化してくる。この授業では、様々な角度からコミュニケーションを取り上げ、実際に学生がコミュニケーションを体験することを通じて、コミュニケーションの意味を学び、社会生活の中で意識してコミュニケーションを活用できる力を身につけることを目的とする。授業は、ほぼ全ての回でワークショップ、ディスカッション、プレゼンテーションなどの演習を実施する。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 原稿を見ずに1分間自己紹介、3分間自己紹介ができるようになる。 2) 非言語コミュニケーションの要素を含む資料を用いて1つのテーマについて説明できるようになる。 3) 授業開始時に比べ「コミュニケーション能力が向上した」と自信を持ち、根拠を説明できるようになる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (60%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テキスト | 必要に応じて資料を配布する。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 課題や振り返りシートについては必ず目を通し、必要に応じて口頭やコメントの記入で対応する。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 演習ですので「参加」が前提となります。積極的な発言ばかりが参加ではありませんが、「参加している」ということを強く意識して授業に参加して下さい。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室に掲示し、授業中に口頭でも伝達する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | コミュニケーション演習 | |
|------|------------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション（コミュニケーションに関する講義） | （学修内容）コミュニケーションに関する簡単な講義、簡単な演習取り入れ、演習に導入する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） シラバスを読んでおく。演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。 |
| 第2回 | コミュニケーションに関する演習（基本の自己紹介） | （学修内容）基本の自己紹介（1分、3分）を作成し、実演して、教員も交えて学生同士意見交換をする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。 |
| 第3回 | コミュニケーションに関する演習（状況に合わせた自己紹介） | （学修内容）自分に起こりえる状況を2つ挙げ、前回の基本の自己紹介（1分）をアレンジして、状況に合わせた自己紹介を作成、実演する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。 |
| 第4回 | コミュニケーションに関する演習（いいところ探し） | （学修内容）目に見えるいいところ、目に見えないいいところをワークシートに書いて準備し二人一組で演習を行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。 |
| 第5回 | コミュニケーションに関する演習（絵本の読み聞かせ） | （学修内容）絵本を教材として活用し、色々な読み方を実演し、聞いている側がどのような印象を得たのかをディスカッションする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。 |
| 第6回 | コミュニケーションに関する演習（気持ちの表現） | （学修内容）表情、姿勢、態度などの非言語行動を活用して、喜怒哀楽など気持ちを表現してみる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。 |
| 第7回 | コミュニケーションに関する演習（気持ちの表現） | （学修内容）声のトーン、大きさ、調子など非言語行動を活用し、言語的には同じ文章を喜怒哀楽など気持ち込めてを表現してみる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。 |
| 第8回 | 中間の振り返りとカンファレンス | （学修内容）前半の演習内容を振り返るとともに、学生が演習に対する思いなどを話せる機会を設定する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 授業内容を踏まえ演習に関する振り返りシートを作成し、それとは別に中間レポートを作成する。 |
| 第9回 | コミュニケーションに関する演習（図形の伝達） | （学修内容）幾何学的な図形を見て、それを言語だけで伝えることで、言語コミュニケーションのみの不十分さを体験する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。 |
| 第10回 | コミュニケーションに関する演習（似顔絵の作成） | （学修内容）顔写真を見て、顔つき等を言語コミュニケーションのみで伝え、似顔絵を作成する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。 |
| 第11回 | コミュニケーションに関する演習（状況の説明） | （学修内容）写真や短い動画を見て、状況について言語コミュニケーションのみを使って伝達する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。 |
| 第12回 | コミュニケーションに関する演習（地図づくり） | （学修内容）断片的な情報の書かれたカードを用い、グループで除用法を集約することでちづを作ることで、情報の意味を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。 |
| 第13回 | コミュニケーションに関する演習（価値観の競売） | （学修内容）価値観の競売ゲームを通じて、自分の価値観の傾向、価値観の違いなどについて体験的に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。 |
| 第14回 | コミュニケーションに関する演習（価値観のすり合わせ） | （学修内容）各自が価値観の順位づけをし、ディスカッションによりグループとして順位を付けることで価値観のすり合わせを体験的に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 演習内容を意識して、演習に関する振り返りシートを作成する。 |
| 第15回 | コミュニケーション演習のまとめ | （学修内容）授業全体を振り返りコミュニケーションの効果、意義、留意点等を確認するとともに受講の効果等についてディスカッションする。 （事前事後学修課題の内容）（120分） ディスカッションについては振り返りシートを作成、授業全体に関する総括レポートを作成する。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 情報サービス演習 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | IC1304 |
| 英 文 名 | | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 渡邊 雄一 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 情報サービス、レファレンスサービス業務に必要な各種情報源（冊子体、電子データ）の基礎知識や検索理論・検索技法を講義と演習を通して学習する。また、レファレンス質問事例をもとに冊子体の文献情報の読み方、利用法等を図書館の蔵書探索を通じて学習する。発信型情報サービスの理解を深めるために、グループワーク、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 図書館利用者の情報要求に対し、適切な情報源(電子情報、冊子情報)を用いて情報探索することができる。 2) 情報検索理論を理解し、適切な情報検索技術を用いて検索することができる。 3) バスファインダーの調査成果についてプレゼンテーションすることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力 (| 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 原田智子『情報サービス演習』（現代図書館情報学シリーズ7）、樹村房、2016年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 今まどこ『図書館学情報学基礎資料』、樹村房、2016年 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 毎回の講義で紹介された専門用語は意味・用法等を復習してマスターすること。 講義で紹介されたデータベースについては、授業後に再度利用し、そのデータベースの特性、内容、利用法等をしっかりと復習すること。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに情報サービス、レファレンスサービスについて解説を行います。 | | | | | | | | |

| 授業名 | 情報サービス演習 | |
|------|--------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容)本講義の概要を理解し、授業計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。 |
| 第2回 | 情報サービスの設計と評価 | (学修内容)情報サービス、レファレンスサービスの概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト1章、2章を読んで予習しておくこと。 |
| 第3回 | 情報探索の基礎 | (学修内容)情報検索理論について、検索方式、検索語、トランケーションを中心に学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト2章を読んで予習しておくこと。 |
| 第4回 | 情報資源の探し方 | (学修内容)さまざまな情報資源の種類、使い方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回講義の検索基礎理論を理解しておくこと。 テキスト3章を読んで予習すること。 |
| 第5回 | Webページ、Webサイトの探し方 | (学修内容)Webページ、Webサイト、検索エンジン、インターネット上の情報の探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト4章を読み予習すること。 |
| 第6回 | 図書情報の探し方 | (学修内容)図書情報の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト5章を読み予習すること。 |
| 第7回 | 雑誌および雑誌記事の探し方 | (学修内容)雑誌、雑誌記事の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト6章を読み予習すること。 |
| 第8回 | 新聞および新聞記事の探し方 | (学修内容)新聞の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト7章を読み予習すること。 |
| 第9回 | 言葉、事柄、統計の探し方 | (学修内容)言葉、事柄、統計資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト8章を読み予習すること。 |
| 第10回 | 歴史、日時、地理、地名、地図の探し方 | (学修内容)歴史、日時、地理、地名、地図資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト9章、10章を読み予習すること。 |
| 第11回 | 法律、判例、特許の探し方 | (学修内容)法令、判例、特許資料の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト12章を読み予習すること。 |
| 第12回 | 発信型情報サービス | (学修内容)発信型情報サービス(パスファインダー)の構築する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト15章を読み予習すること。 |
| 第13回 | 人物、企業、団体の探し方 | (学修内容)人物、企業、団体資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト9、10章を読み予習すること。 |
| 第14回 | レファレンスコレクションの整備 | (学修内容)レファレンスコレクションの整備・評価の在り方について学習する。Web上に公開されているデータベースの調査、評価を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト14章を読み予習すること。 |
| 第15回 | パスファインダーの調査成果発表まとめ | (学修内容)パスファインダー調査成果を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自調査結果の発表準備を行う。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | ビジネス文書表現 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | CS1114 |
| 英文名 | Business Writing | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 水谷 隆 | | | 対象学生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>ビジネスの現場で用いる文章は、特定の相手に対して、必要な事項を過不足なく、誤解の生じないよう分かりやすく伝達することを目的としたものです。その目的にかなう文章を作成するためには、文章の受け手を明確に意識し、伝えるべき内容にふさわしい形式で、簡潔に表現することが必要です。この授業では、ビジネスの現場にふさわしい形式（フォーマット）と言語表現のポイントを説明した上で、実際に文書を作成することで、その体得を図ります。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 読み手と目的を明確に意識した文章表現ができる。 2) 既定のフォーマットに適した文書が作成できる。 3) 必要かつ十分な要件を記した文書が作成できる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業） | | グループワーク ICT活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テキスト | プリントを配布します。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 実務技能検定協会編『ビジネス文書検定 実問題集3級 第59回~第63回』早稲田教育出版2018年 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたレポートは、学生相互の批評とともに、コメントを付して返却します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 授業の進行等の事情に応じて各回の内容を変更することがあります。なお、その際には事前事後学習課題と併せて、前もって連絡します。 国語辞典あるいはそれに類するもの（スマホのアプリ等）を持参してください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室に日時を貼付するので、確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | ビジネス文書表現 | |
|---------|---------------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス ビジネス文章表現とは | (学修内容) 授業の運営方針の確認。ビジネスで用いる文章の特徴についての解説。 作文。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、シラバスを読んでおく。 |
| 第2回 | 読者を想定した文章のポイント | (学修内容) 批評の観点提示と学生相互の批評。作文の修正。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、第1回目授業での作文を読み返す。 |
| 第3回 | 目的別文章の理解と体得 エントリーシートとは | (学修内容) エントリーシートについての解説。記入のための構想。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、エントリーシートについて自分なりに調べておく。 |
| 第4回 | 目的別文章の理解と体得 エントリーシート記入 | (学修内容) エントリーシートの作成。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、卒業後の希望職種をいくつか具体的に想定しておく。 |
| 第5回 | 目的別文章の理解と体得 相互批評 | (学修内容) 批評の観点提示と学生相互の批評。エントリーシートの修正。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、第5回目授業で作成した文章を読み返す。 |
| 第6回 | 受け手に応じて変化する表現 | (学修内容) ビジネス現場での口頭表現、待遇表現についての解説。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、敬語の用法について再確認しておく。 |
| 第7回 | 受け手に応じて使い分ける用語 | (学修内容) ビジネス用語およびフレーズについての解説と調査。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 復習として、授業時に学んだ用語を用いて短文の作文をする。 |
| 第8回 | ビジネス文書の基本形式 社外文書 | (学修内容) 社外文書についての解説。案内状の作成。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 復習として、同形式別内容の文書を2通以上作成する。 |
| 第9回 | ビジネス文書の基本形式 社内文書 | (学修内容) 社内文書についての解説。届出書の作成。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 復習として、同形式別内容の文書を2通以上作成する。 |
| 第10回 | ビジネス文書の基本形式 社交文書 | (学修内容) 社交文書についての解説。添え状等の作成。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 復習として、同形式別内容の文書を2通以上作成する。 |
| 第11回 | 手紙文の形式 基本的形式 | (学修内容) 手紙の基本的形式についての解説。私信の作成。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、手紙の書き方について自分なりに調べておく。 |
| 第12回 | 手紙文の形式 相互批評 | (学修内容) 批評の観点提示と学生相互の批評。手紙の形式に関する補足説明。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 課) 復習として、各自作成した手紙を書き直す。 |
| 第13回 | 手紙文の形式 形式の応用 | (学修内容) 礼状および年賀状に付いての解説。作成。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、年賀状の書き方について自分なりに調べておく。 |
| 第14回 | 電子メールの作法 | (学修内容) 電子メールの特質についての解説。作成。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、ビジネスメールの作法について自分なりに調べておく。 |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 授業の振り返りと自己評価。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、授業全体を振り返り、自己の課題と今後の学修について考えておく。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|----------------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | 情報ビジネス演習 b ~ g | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | CS1106 |
| 英文名 | Information Business Practice b~g | | | 開講時期 | 春・秋学期 | | 必修選択 | 必修 | |
| 担当者 | 猿渡 綾子・乾 真理子・岩佐 真代・谷口 永里子 | | | 対象学生 | 幼児教育1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 現在、パーソナルコンピュータを介した記録や情報検索などが日常におこなわれ必要不可欠となっている。コンピュータを用いた基本的な情報活用能力を習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。演習データの提供や提出はICTを活用して実施する。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる 4) インターネットリテラシーを習得し、インターネットやSNSを適切に利用できる 5) 課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 () () | | | |
| テキスト | 情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2016対応版(オーム社) | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出された制作物やプレゼンテーションについてはコメントを付けて返却します | | | | | | | | |
| 留意事項 | 情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。 2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業初回にアナウンスします。 研究室前にも掲示しますので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 情報ビジネス演習 b ~ g | |
|------|---|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション Windowsの基本操作 メールの基本操作 情報セキュリティ、モラル | (学修内容) 授業概要の説明, 情報処理室の使用法, Gメールの送受信 アカウントの追加, 情報に関するリスク・対策・モラルについて (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス、教科書第1章(1-3を除く)、第2章を読む 入学時に配布されたGメール、ポータルサイトの冊子を読み持参 |
| 第2回 | Word 1 (基本操作) | (学修内容) USBメモリ使用上の注意, Wordの開始、保存、終了 コピー & 貼り付け, ページ設定, 書式設定、文字カウント (事前事後学修課題の内容) (30分) USBメモリを購入し持参する, 教科書第1章1-3、第3章3-1、3-2を読む 第2回課題 (Word・書式設定をした文書) をメールに添付し提出 |
| 第3回 | Word 2 (文書作成と整形) | (学修内容) 検索と置換, ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入 インデントとTabキー、箇条書きなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-3、3-4を読む 第3回課題 (Word・Tabキーを使用した文書) をメールに添付し提出 |
| 第4回 | Word 3 (図入りの文書の作成) | (学修内容) 図形、画像の作成、挿入, テキストの配置 Snipping Tool の使い方など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-5を読む 第4回課題 (Word・図形や画像を使用した文書) をメールに添付し提出 |
| 第5回 | Word 4 (表作成) 文献検索 | (学修内容) 単純な表、複雑な表の作成 文献検索について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-5を読む, 第5回課題 (Word・表) を印刷し提出 文献検索より書籍を1冊選んで読み、次回持参 |
| 第6回 | Word 5 (総復習) | (学修内容) 課題の作成 (レジメの作成) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第6回課題 (Word・レジメ) をメールに添付し提出 |
| 第7回 | Excel 1 (基本操作、関数) | (学修内容) セル、シート等、各画面の説明, データ入力 簡単な計算式など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-1、4-2-1を読む 第7回課題 (Excel・セル番地を使用した計算) をメールに添付し提出 |
| 第8回 | Excel 2 (関数) | (学修内容) 各種関数 (合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など) (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-2を読む 第8回課題 (Excel・関数を使用した計算) をメールに添付し提出 |
| 第9回 | Excel 3 (表、グラフの作成) | (学修内容) 罫線、文字の配置、セルの挿入・削除・結合 棒、折線、円、複合などのグラフ, 印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-3、4-4、4-8を読む 第9回課題 (Excel、Word・グラフ) を印刷し提出 |
| 第10回 | Excel 4 (既存データベースの利用) | (学修内容) e-Stat のデータを利用し、情報を分析評価し整理する (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章を復習し、レポート案を作成してくる |
| 第11回 | Excel 5 (総復習) | (学修内容) 前回の情報分析結果をレポートにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 第11回課題 (e-Statデータを利用したレポート) をメールに添付し提出 |
| 第12回 | PowerPoint 1 (基本操作) | (学修内容) スライドサイズの変更, スライドマスターの編集, 箇条書き インデント、Tabキーの使い方, 画像の加工、アニメーションの設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-1、5-2、5-3を読む 第12回課題 (PowerPoint・画像加工) をメールに添付し提出 |
| 第13回 | PowerPoint 2 (Word、Excelとの連携) | (学修内容) グラフ、表の作成, ノートの記入, 印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-7を読む 第13回課題 (PowerPoint・グラフ) を印刷し提出 |
| 第14回 | PowerPoint 3 (総復習) | (学修内容) プレゼンテーション技法 最終プレゼンテーション用のスライドを作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-4、5-5、5-6を読む 発表用スライドを完成させ、メールに添付し提出 |
| 第15回 | PowerPoint 4 (プレゼンテーション) | (学修内容) PowerPointを使ったプレゼンテーションの実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表用原稿を作成する |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|------------|-----------------------------------|--------------------|----------------------------|------------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | キャリアデザインa | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | CS1105 |
| 英 文 名 | Career Design a | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必修 | |
| 担 当 者 | 堀出 雅人 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>現在の雇用・労働を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、個人の選択肢も多様化し、それに伴ってチャンスとリスクも拡大する傾向にある。同時に、企業組織と従業員個人の関係も変化してきており、かつてのような「会社任せ」ではなく、自ら主体的に自分自身のキャリアをデザインしながら、その目標に向かって学習と経験を積み重ねていくことが必要になっている。</p> <p>自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性・自律性をもったキャリア開発を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識するため、講義と共にグループワークやプレゼンテーションを行う。授業を通した学びを基盤として今後の大学生活、インターンシップ、実習、就職活動をより主体的に臨む態度を伸ばす。</p> <p>また、今社会で求められる人材として、コミュニケーション能力や仲間との協力や他者との協調性が求められる。そのため、グループワークやプレゼンテーションを授業に導入する。1時間かけて行うグループワークも設定しているが、毎回、数分間、隣や前後で意見交換したり簡単なワークを行ったりする時間も設ける。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 自らの将来を切り拓くため、働く意味、キャリアやキャリア・デザインの重要性を説明することができる。 2) 自分の大学生活の送り方について明確な意識と進路実現に向けた具体的な行動計画を立てることができる。 3) 進路実現のためインターンシップや実習や就職活動に取り組み意義と心構えを表現することができる。 4) 課題解決に向けて自主的に、また、仲間と積極的にコミュニケーションを取り協力して臨むことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 () | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | noa出版 『書き込み式 キャンパスライフデザインBook 社会で活躍できる「なりたい自分」への道のり』 noa出版 2013年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業中に適宜指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出を求める課題に対して、授業中での講評、あるいは、適宜、コメントを付けて返却することで学修成果へのフィードバックを行います。 グループでのプレゼンテーションの際は事前に評価指標を公表します。その指標に沿って、発表後に各グループへコメントを返します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 書き込み式のテキストを採用します。授業中に書き込みながら進め最後に提出を求めます。各自一冊必ずテキストは購入してください。職場で求められる対人関係に関する基本的な力を習得をめざしているため、授業中にグループワークをおこないます。いつも一緒にいるメンバーとグループワークを行ってばかりでなく、多くの受講生と対話できるワークを実施するので積極的に関わりを持ってください(対人関係など配慮事項のある受講生は早めに相談してください)。毎回の授業時にふりがえりシートや清書へのプリントを配布します。授業担当の指示をよく聴き適切に提出しましょう。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業実施期間中の毎週水曜日お昼休み | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | <p>実践的教育 教員の業務経験など：特定非営利活動法人学習開発研究所 所員として、就職支援の一環として、理工系学部の大学生・大学院生と企業技術者との学びを通じた交流機会の企画、実施に携わる。</p> | | | | | | | | |

| 授業名 | キャリアデザインa | |
|------|---|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ・ガイダンス ・「キャリア」の意味 | (学修内容) 授業の目的・ゴールを説明できる キャリアの定義を説明できる(テキストpp.2-5) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: シラバスを読み、授業の概要を把握する 事後: 「働く意味」「働く理由」を周りの有職者や退職者に聴き取り |
| 第2回 | ・いまの「自分」 ・自分の「強み」発見 | (学修内容) 今までの自分を振り返りその結果を記述することができる 自分の「強み」を相手に説明できる(テキストpp.7-14) (事前事後学修課題の内容)(60分) 学修: 各学校段階で印象に残っている思い出をテキストp.6に書き出す 学修: 配布資料「自分の強みを証明しよう」を清書、次回提出する |
| 第3回 | ・自己PR文の作成 | (学修内容) 前回の授業の学修成果を踏まえ、就職活動を意識した自己PR文を作成することができる(テキストpp.15-19) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 清書した配布資料「自分の強みを証明しよう」を家族、先輩等に見せてコメントを得る 事後: 配布資料「自己PR文」を清書し次回提出 |
| 第4回 | ・なりたい「自分」 ・これから目指す自分像を発見する | (学修内容) 自分の憧れの存在から自分が求める理想の自分像を説明できる(テキストpp.20-28) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: テキストp.20を参考に、憧れの存在を3名挙げし、理由を考える 事後: 今後大切にしたい価値観をコメントカードにまとめ次回に提出 |
| 第5回 | ・社会の流れとキャリア ・商品やサービスが消費者に届くまでの仕組み | (学修内容) 商品・サービスの製造・流通・販売の例から「業界」「企業」「職種」について説明できる(テキストpp.29-34) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 今まで憧れた仕事を思い出し書き出してくる 事後: テキストp.34を完成させる |
| 第6回 | ・業界研究入門 ・業界研究する上の基礎基本 | (学修内容) 業界研究をインターネット等を活用して行い、現時点で自らが目指す業界を2つ選び出すことができる(テキストpp.35-37) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: 業界研究する上で有益な資料を探す 事後学修: 配布資料「自分の目指す業界」を清書し次回提出 |
| 第7回 | ・社会で求められる資質・能力 ・社会で求められる「人財」像 | (学修内容) 社会や企業で求められる資質・能力について説明できる(テキストp.38-44) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 自分が目指す業界から一社抽出し、企業が掲げる「人財」像を書き出す 事後: テキストp.44を完成させる |
| 第8回 | ・大学での学び ・大学での自身の学びを振り返る | (学修内容) テキストの質問に書き出す過程で、大学生活を振り返り、進路を実現していくための大学での学修環境を整える(テキストp.45-50) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 高校での学び(生活)と大学での学び(生活)との違いを考えてくる 事後: テキストp.50を完成させる |
| 第9回 | ・これからの大学生活 ・今後の大学生活をイメージする | (学修内容) 「大学生すごろく」を自ら作る過程で今後の進路を検討する(テキストpp.51-54) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 卒業までに考えられるイベントを考えてくる 事後: テキストp.54を完成させる |
| 第10回 | ・大学を活用して「なりたい自分」へ ・大学生活を通じた目標設定 | (学修内容) 「なりたい」自分を目指し、大学での学びの目標を書き出すことができる(テキストpp.55-59) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 理想の大学生活を考えてくる 事後: テキストp.59を完成させる |
| 第11回 | ・行動計画の作成 ・マイルストーンを活用した行動計画作り | (学修内容) 前回の目標設定に基づき「なりたい自分」を実現するための行動計画を作成できる(テキストpp.60-63) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: テキストp.60を参考に、行動計画のマイルストーンを考えてくる 事後: テキストpp.62-63を完成させる |
| 第12回 | ・行動計画表(ガンチャート)の作成 ・「なりたい自分」を目指した行動計画表作り | (学修内容) 前回の行動計画に基づいて行動計画表(ガンチャート)を作成できる(テキストpp.64-66) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 「ガンチャート」など表にまとめるメリットを調べ考えてくる 事後: 配布資料「行動計画表」を次回までに完成させ提出 |
| 第13回 | ・キャンパスライフカレンダーの作成 ・時系列シートを活用し卒業までのカレンダーの作成 | (学修内容) 前回までの行動計画をカレンダーに落とし込み、行動計画を具体化できる(テキストpp.67-71) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 「キャンパスライフ」から一年間のスケジュールを確認してくる 事後: 配布資料「キャンパスカレンダー」を次回までに完成させ提出 |
| 第14回 | ・「なりたい自分」を一緒に目指す仲間作り ・同じ業界を目指す仲間とのグループワーク | (学修内容) 【グループワーク】行動作成表とキャンパスカレンダーを見せ合い、共通して取り組める点を抽出しグループ独自の行動計画を立てる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 「行動作成表」と「キャンパスカレンダー」をできるように 事後: 次回の発表に向けて、スライド資料をグループで協力して作成する |
| 第15回 | ・仲間との学習成果の共有 ・学修成果の発表 | (学修内容) 【プレゼンテーション】前回の「グループワーク」の学修成果を発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: 発表用スライド資料を完成し、授業日までに担当教員に提出 事後学修: 最終レポート作成に向けて、発表で出た意見などを書き残す |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|------------|---------------------------------|--------------------|--------------------------|------------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | キャリアデザインb・c | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | CS1105 |
| 英 文 名 | Career Design b・c | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必修 | |
| 担 当 者 | 堀出 雅人 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1AB・1CD | | | | |
| 授業の概要 | <p>現在の雇用・労働を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、個人の選択肢も多様化し、それに伴ってチャンスとリスクも拡大する傾向にある。同時に、企業組織と従業員個人の関係も変化してきており、かつてのような「会社任せ」ではなく、自ら主体的に自分自身のキャリアをデザインしながら、その目標に向かって学習と経験を積み重ねていくことが必要になっている。</p> <p>自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性・自律性をもったキャリア開発を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識するため、講義と共にグループワークやプレゼンテーションを行う。授業を通した学びを基盤として今後の大学生活、インターンシップ、実習、就職活動をより主体的に臨む態度を伸ばす。</p> <p>また、今社会で求められる人材として、コミュニケーション能力や仲間との協力や他者との協調性が求められる。そのため、グループワークやプレゼンテーションを授業に導入する。1時間かけて行うグループワークも設定しているが、毎回、数分間、隣や前後で意見交換したり簡単なワークを行ったりする時間も設ける。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 自らの将来を切り拓くため、働く意味、キャリアやキャリア・デザインの重要性を説明することができる。 2) 自分の大学生活の送り方について明確な意識と進路実現に向けた具体的な行動計画を立てることができる。 3) 進路実現のためインターンシップや実習や就職活動に取り組み意義と心構えを表現することができる。 4) 課題解決に向けて自主的に、また、仲間と積極的にコミュニケーションを取り協力して臨むことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 () | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | noa出版 『書き込み式 キャンパスライフデザインBook 社会で活躍できる「なりたい自分」への道のり』 noa出版 2013年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業中に適宜指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出を求める課題に対して、授業中での講評、あるいは、適宜、コメントを付けて返却することで学修成果へのフィードバックを行います。 グループでのプレゼンテーションの際は事前に評価指標を公表します。その指標に沿って、発表後に各グループへコメントを返します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 書き込み式のテキストを採用します。授業中に書き込みながら進め最後に提出を求めます。各自一冊必ずテキストは購入してください。職場で求められる対人関係に関する基本的な力を習得をめざしているため、授業中にグループワークをおこないます。いつも一緒にいるメンバーとグループワークを行ってばかりでなく、多くの受講生と対話できるワークを実施するので積極的に関わりを持ってください(対人関係など配慮事項のある受講生は早めに相談してください)。毎回の授業時にふりがえりシートや清書へのプリントを配布する。授業担当の指示をよく聴き適切に提出しましょう。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：特定非営利活動法人学習開発研究所 所員として、就職支援の一環として、理工系学部の大学生・大学院生と企業技術者との学びを通じた交流機会の企画、実施。 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | キャリアデザインb・c | |
|---------|---|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | ・ガイダンス ・「キャリア」の意味 | (学修内容) 授業の目的・ゴールを説明できる キャリアの定義を説明できる(テキストpp.2-5) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: シラバスを読み、授業の概要を把握する 事後: 「働く意味」「働く理由」を周りの有職者や退職者に聴き取り | |
| 第2回 | ・いまの「自分」 ・自分の「強み」発見 | (学修内容) 今までの自分を振り返りその結果を記述することができる 自分の「強み」を相手に説明できる(テキストpp.7-14) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 各学校段階で印象に残っている思い出をテキストp.6に書き出す 事後: 配布資料「自分の強みを証明しよう」を清書、次回提出する | |
| 第3回 | ・自己PR文の作成 | (学修内容) 前回の授業の学修成果を踏まえ、就職活動を意識した自己PR文を作成することができる(テキストpp.15-19) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 清書した配布資料「自分の強みを証明しよう」を家族、先輩等に見せてコメントを得る 事後: 配布資料「自己PR文」を清書し次回提出 | |
| 第4回 | ・なりたい「自分」 ・これから目指す自分像を発見する | (学修内容) 自分の憧れの存在から自分が求める理想の自分像を説明できる(テキストpp.20-28) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: テキストp.20を参考に、憧れの存在を3名挙げし、理由を考える 事後: 今後大切にしたい価値観をコメントカードにまとめ次回に提出 | |
| 第5回 | ・社会の流れとキャリア ・商品やサービスが消費者に届くまでの仕組み | (学修内容) 商品・サービスの製造・流通・販売の例から「業界」「企業」「職種」について説明できる(テキストpp.29-34) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 今まで憧れた仕事を思い出し書き出してくる 事後: テキストp.34を完成させる | |
| 第6回 | ・業界研究入門 ・業界研究する上の基礎基本 | (学修内容) 業界研究をインターネット等を活用して行い、現時点で自らが目指す業界を2つ選び出すことができる(テキストpp.35-37) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 業界研究する上で有益な資料を探す 事後: 配布資料「自分の目指す業界」を清書し次回提出 | |
| 第7回 | ・社会で求められる資質・能力 ・社会で求められる「人財」像 | (学修内容) 社会や企業で求められる資質・能力について説明できる(テキストp.38-44) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 自分が目指す業界から一社抽出し、企業が掲げる「人財」像を書き出す 事後: テキストp.44を完成させる | |
| 第8回 | ・大学での学び ・大学での自身の学びを振り返る | (学修内容) テキストの質問に書き出す過程で、大学生活を振り返り、進路を実現していくための大学での学修環境を整える(テキストp.45-50) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 高校での学び(生活)と大学での学び(生活)との違いを考えてくる 事後: テキストp.50を完成させる | |
| 第9回 | ・これからの大学生活 ・今後の大学生活をイメージする | (学修内容) 「大学生すごろく」を自ら作る過程で今後の進路を検討する(テキストpp.51-54) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 卒業までに考えられるイベントを考えてくる 事後: テキストp.54を完成させる | |
| 第10回 | ・大学を活用して「なりたい自分」へ ・大学生活を通じた目標設定 | (学修内容) 「なりたい」自分を目指し、大学での学びの目標を書き出すことができる(テキストpp.55-59) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 理想の大学生活を考えてくる 事後: テキストp.59を完成させる | |
| 第11回 | ・行動計画の作成 ・マイルストーンを活用した行動計画作り | (学修内容) 前回の目標設定に基づき「なりたい自分」を実現するための行動計画を作成できる(テキストpp.60-63) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: テキストp.60を参考に、行動計画のマイルストーンを考えてくる 事後: テキストpp.62-63を完成させる | |
| 第12回 | ・行動計画表(ガンチャート)の作成 ・「なりたい自分」を目指した行動計画表作り | (学修内容) 前回の行動計画に基づいて行動計画表(ガンチャート)を作成できる(テキストpp.64-66) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 「ガンチャート」など表にまとめるメリットを調べ考えてくる 事後: 配布資料「行動計画表」を次回までに完成させ提出 | |
| 第13回 | ・キャンパスライフカレンダーの作成 ・時系列シートを活用し卒業までのカレンダーの作成 | (学修内容) 前回までの行動計画をカレンダーに落とし込み、行動計画を具体化できる(テキストpp.67-71) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 「キャンパスライフ」から一年間のスケジュールを確認してくる 事後: 配布資料「キャンパスカレンダー」を次回までに完成させ提出 | |
| 第14回 | ・「なりたい自分」を一緒に目指す仲間作り ・同じ業界を目指す仲間とのグループワーク | (学修内容) 【グループワーク】行動作成表とキャンパスカレンダーを見せ合い、共通して取り組める点を抽出しグループ独自の行動計画を立てる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 「行動作成表」と「キャンパスカレンダー」をできるように 事後: 次回の発表に向けて、スライド資料をグループで協力して作成する | |
| 第15回 | ・仲間との学習成果の共有 ・学修成果の発表 | (学修内容) 【プレゼンテーション】前回の「グループワーク」の学修成果を発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 発表用スライド資料を完成し、授業日までに担当教員に提出 事後: 最終レポート作成に向けて、発表で出た意見などを書き残す | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------------------------------|-----------------------------------|------------|----------------------------|-----------------|------------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | ビジネスマナー a | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CS1113 |
| 英 文 名 | Business Etiquette a | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 東野 國子 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>ビジネスマナーは、社会の常識やルールを学ぶことによって、相手の立場に立った行動することを基本とします。本講義では働く場での人間関係や環境を知り、より良い人間関係を築くことに欠かすことのできないコミュニケーション能力の向上を目指します。また働く場にふさわしい社会人としての立ち居振る舞いについてはロールプレイを通して演習し実践力を身に付け、接客対応ができるまでの応用力を身に付けることを目標とします。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 社会人としてふさわしい立ち居振る舞いができる。 2) 人間関係を円滑にするコミュニケーションができる。 3) 働く場のルールや環境を知り、「働く」ことに対する意識と心構えができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 () | | | プレゼンテーション能力 () | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 水原道子編著 『ビジネスとオフィスワーク』 樹村房 2012年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 講義中に指示します | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出された課題についてはコメントをつけて返却します。実技についてはその場でコメントします。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 授業で学修したことはすぐに実践してください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施します。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | <p>実践的教育 教員の実務経験など：国際博覧会でコンパニオンの研修と管理を担当。 一般企業等での新人研修、ビジネスマナーの研修を多数担当。大学ではビジネスマナー、秘書実務、コミュニケーション技法、就職面接対策、インターンシップ事前マナー研修を担当。 秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接客実務検定準1級面接審査員の経験を有する。</p> | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | ビジネスマナー a | |
|---------|---------------------|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | オリエンテーション/働くことへの心構え | (学修内容) 授業の進め方についてのオリエンテーション/学生と社会人の違いを知り働くことへの心構えについて学修する (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業までにシラバスをよく読んで確認しておく | |
| 第2回 | 話し方/基本のあいさつ | (学修内容) 話し方の基本を学修し感じの良い挨拶や立ち居振る舞いをペアワークで練習する (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として感じの良い挨拶の仕方を身に付けるための練習を行う | |
| 第3回 | 話し方/敬語をつかう | (学修内容) 敬語の種類と作り方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として基本的な敬語を覚える | |
| 第4回 | 話し方/接遇用語をつかう | (学修内容) 敬語と接遇用語を使い、人間関係を円滑にするコミュニケーション力を身につける (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として基本的な接遇用語を覚える | |
| 第5回 | 話し方/気を付けたい表現 | (学修内容) 自他の使い分けや間違った敬語表現を学び、色々場面を想定してペアワークで練習をする (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として学修した話し方を色々な場面で実践する | |
| 第6回 | 電話対応/電話の受け方 | (学修内容) 電話対応の基本を学び、感じの良い電話の受け方ができるようにする (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として感じの良い電話の受け方ができるように練習をする | |
| 第7回 | 電話対応/電話のかけ方 | (学修内容) 感じの良い電話のかけ方を学び、色々な場面を想定してペアワークで練習をする (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として実習先やインターンシップ先に電話ができるように練習しておく | |
| 第8回 | 来客の対応の基本 | (学修内容) 来客対応の基本を学び、感じよくお客様を迎える準備をする/ペアワークで練習をする (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として感じの良い笑顔、挨拶、立ち居振る舞いができるようにする | |
| 第9回 | 接客業務の応用とクレーム対応 | (学修内容) 色々な職場を想定してグループワークでコミュニケーションをとる練習をする (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として自分が目指す職場でのコミュニケーションの取り方を練習しておく | |
| 第10回 | 職場の環境とスケジュール管理 | (学修内容) 働く環境を知り、仕事の進め方やスケジュールの立て方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として職場の環境や仕事の内容、仕事の進め方について確認しておく | |
| 第11回 | 資料のファイリング | (学修内容) 効率的に事務的な業務を行うために必要な資料の管理やファイリングについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として自分が興味をもつ業界の情報を集め、内容を整理する | |
| 第12回 | 会議の種類と進め方 | (学修内容) 職場での会議の種類や進め方についてグループワークで学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として簡単な会議の議事録を作成する | |
| 第13回 | 冠婚葬祭の常識 | (学修内容) 社会人として常識的な冠婚葬祭業務について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として冠婚葬祭についての知識を確認しておく | |
| 第14回 | 文書管理/文書の種類と作成 | (学修内容) 職場で必要とされる文書の種類や作成の基本について学修する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として例を参考にしながら簡単な社内文書が書けるようにしておく | |
| 第15回 | 文書管理/一般の手紙と作成 | (学修内容) お礼状などの一般文書について学修し、作成ができるようにする (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として色々な場面を想定してお礼状が書けるようにしておく | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|----------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | ビジネスマナー b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CS1113 |
| 英 文 名 | Business Etiquette b | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | 必 修 選 択 | | 選 択 | |
| 担 当 者 | 東野 國子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>ビジネスマナーは、社会の常識やルールを学ぶことによって、相手の立場に立った行動することを基本とします。本講義では働く場での人間関係や環境を知り、より良い人間関係を築くことに欠かすことのできないコミュニケーション能力の向上を目指します。また働く場にふさわしい社会人としての立ち居振る舞いについてはロールプレイを通して演習し実践力を身に付け、接客対応ができるまでの応用力を身に付けることを目標とします。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 社会人としてふさわしい立ち居振る舞いができる。 2) 人間関係を円滑にするコミュニケーションができる。 3) 働く場のルールや環境を知り、「働く」ことに対する意識と心構えができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |
| テ キ ス ト | 水原道子編著 『ビジネスとオフィスワーク』 樹村房 2012年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 講義中に指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出された課題についてはコメントをつけて返却します。実技についてはその場でコメントします。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 授業で学修したことはすぐに実践してください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施します。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | <p>実践的教育 教員の実務経験など：国際博覧会でコンパニオンの研修と管理を担当。 一般企業等での新人研修、ビジネスマナーの研修を多数担当。大学ではビジネスマナー、秘書実務、コミュニケーション技法、就職面接対策、インターンシップ事前マナー研修を担当。 秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇実務検定準1級面接審査員の経験を有する。</p> | | | | | | | | |

| 授業名 | ビジネスマナー b | |
|------|---------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション/働くことへの心構え | (学修内容) 授業の進め方についてのオリエンテーション/学生と社会人の違いを知り働くことへの心構えについて学修する (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業までにシラバスをよく読んで確認しておく |
| 第2回 | 話し方/基本のあいさつ | (学修内容) 話の仕方の基本を学修し感じの良い挨拶や立ち居振る舞いをペアワークで練習する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として感じの良い挨拶ができるように練習しておく |
| 第3回 | 話し方/敬語をつかう | (学修内容) 敬語の種類と作り方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として基本的な敬語を覚える |
| 第4回 | 話し方/接遇用語をつかう | (学修内容) 敬語と接遇用語を使い、人間関係を円滑にするコミュニケーション力を身につける (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として基本的な接遇用語を覚える |
| 第5回 | 話し方/気を付けたい表現 | (学修内容) 自他の使い分けや間違った敬語表現を学び、色々な場面を想定してペアワークで練習する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として学修した話し方を色々な場面で実践する |
| 第6回 | 電話対応/電話の受け方 | (学修内容) 電話対応の基本を学び、感じの良い電話の受け方ができるようにする (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として感じの良い電話の受け方ができるように練習をする |
| 第7回 | 電話対応/電話のかけ方 | (学修内容) 感じの良い電話のかけ方を学び、色々な場面を想定してペアワークで練習する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として実習先やインターンシップ先に電話ができるように練習しておく |
| 第8回 | 来客対応の基本 | (学修内容) 来客対応の基本を学び、感じよくお客様を迎える準備をする/ペアワークで練習をする (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として感じの良い笑顔、挨拶、立ち居振る舞いができるようにする |
| 第9回 | 接客業務の応用とクレーム対応 | (学修内容) 色々な職場を想定してグループワークでコミュニケーションをとる練習をする (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として自分が目指す職場の色々なコミュニケーションの取り方を練習しておく |
| 第10回 | 職場の環境とスケジュール管理 | (学修内容) 働く職場を知り、仕事の進め方やスケジュールの立て方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として職場の環境や仕事の内容、仕事の進め方について確認しておく |
| 第11回 | 資料のファイリング | (学修内容) 効率的に事務的な業務を行うために必要な資料の管理やファイリングについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として自分が興味をもつ業界の情報を集め、内容を整理する |
| 第12回 | 会議の種類と進め方 | (学修内容) 職場での会議の種類や進め方についてグループワークで学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として簡単な会議の議事録を作成する |
| 第13回 | 冠婚葬祭の常識 | (学修内容) 社会人として常識的な冠婚葬祭業務について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として冠婚葬祭についての知識を確認しておく |
| 第14回 | 文書管理/文書の種類と作成 | (学修内容) 職場で必要とされる文書の種類や作成の基本について学修する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として例を参考にしながら簡単な社内文書が書けるようにしておく |
| 第15回 | 文書管理/一般の手紙と作成 | (学修内容) お礼状などの一般文書について学修し、作成ができるようにする (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として色々な場面を想定してお礼状が書けるようにしておく |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|----------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 社会人マナー | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | IC1403 |
| 英 文 名 | Social Manners | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 東野 國子 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>社会人として知っておくべき常識とマナーについて学修します。社会常識を日常生活・仕事に関連させて考え、自らの行動・実践に応用することができることを目標としています。具体的には社会人としての立ち居振る舞いや言葉遣いの演習を通して、より良い人間関係の構築に欠かせないコミュニケーション能力の向上を目指します。また自己表現の重要性を認識することで、就職活動等の面接や実社会で必要となる「自分で考えること」や「伝えること」も含めて社会人としての基礎的マナーをグループワークやロールプレイを行いながら学んでいきます。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 社会人としての常識を知り、自らの行動や実践に応用できる。 2) マナーや言葉遣いの演習を通して自己表現ができる。 3) 人間関係を円滑にするコミュニケーションができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | 社会稲本恵子他著 『社会人基礎力 大学生の社会人準備講座』 晃洋書房 2018年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 『新社会人の教科書』 仕事のスキル&マナー 株式会社学研プラス 2016年 『人間関係もうまくいく大人の気づかい&マナーノート』 永岡書房 2016年 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出された課題物についてはコメントを付けて返却します。実技についてはその都度コメントを返します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 授業で学修したことはすぐ実践し、身につけるようにしてください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施します。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | <p>実践的教育 教員の実務経験など：国際博覧会でコンパニオンの研修と管理を担当。 一般企業等での新人研修、ビジネスマナーの研修を多数担当。大学ではビジネスマナー、秘書実務、コミュニケーション技法、就職面接対策、インターンシップ事前マナー研修を担当。 秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇実務検定準1級面接審査員の経験を有する。</p> | | | | | | | | |

| 授業名 | 社会人マナー | |
|------|--------------------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション/社会人の常識とマナーとは | (学修内容) 授業計画について グループワークにより社会人の知っておくべきことを考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前にシラバスの内容をよく読んで確認しておくこと |
| 第2回 | 働く上で知っておくべきこと | (学修内容) 働くということや働く上でのルールを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として自分自身が社会で働く上で必要なことをまとめておくこと |
| 第3回 | 第一印象の大切さ | (学修内容) 第一印象の重要性と構成要素を知り、それぞれのポイントを学び、グループで自己紹介をする (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として印象の良い自己紹介を練習する |
| 第4回 | 社会人に必要な立ち居振る舞い | (学修内容) 社会人として必要な立ち方、座り方、お辞儀の仕方や挨拶の仕方を学び、ロールプレイを行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として学んだ立ち居振る舞いが身につくまで練習しておく |
| 第5回 | 社会人として必要な言葉遣い 1 敬語とは何かを学ぶ | (学修内容) 敬語の種類と基本的な作り方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として次週までに基本的な敬語を覚える |
| 第6回 | 社会人として必要な言葉遣い 2 社会での敬語の使い方を知る | (学修内容) 立場や職位による敬語の使い分けを学び、グループで練習をする (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として学んだ敬語の使い分けを実践する |
| 第7回 | 社会人として必要な言葉遣い 3 接遇用語を学んで人間関係をよくする | (学修内容) 接遇用語学び、動作を付けてペアワークで実践する (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として学んだことを学校など色々な場面で実践する |
| 第8回 | 話を伝える・話を聴く | (学修内容) 人間関係を円滑にするための話の仕方と聴き方を学ぶ/ペアワークで練習する (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として学んだことを学校など色々な場面で実践する |
| 第9回 | 目的をもって話す | (学修内容) 色々な場面で目的を持って話す練習をする/自己アピールを考えグループ内で発表する (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として感じのよい自己アピールが出来るように練習する |
| 第10回 | 電話対応 1 電話の特徴と受け方の基本を学ぶ | (学修内容) 電話対応の基本を学び、ペアワークで電話を受ける練習をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として基本的な受け答えと、伝言メモが作成できるようにする |
| 第11回 | 電話対応 2 電話のかけ方の基本を学ぶ | (学修内容) 電話をかける際の注意点と基本的な電話用語を学ぶ/ペアワークを行う (事前事後学修課題の内容)(90分) 復習として実習先やインターンシップ先を想定した感じの良い電話ができるように練習しておく |
| 第12回 | 訪問のマナー 1 基本的な訪問時のマナーを知る | (学修内容) 基本的な訪問時のマナーや上座・下座、名刺の受け渡しについて学ぶ/ペアワークを行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として学んだことを実践できるようにしておく |
| 第13回 | 訪問のマナー 2 来客対応の基本を学ぶ | (学修内容) 来客の受付と対応について学ぶ/グループワークを行う (事前事後学修課題の内容)(90分) 復習として学んだことを実践できるようにしておく |
| 第14回 | 文書の作成 1 手紙を書くための基本を学ぶ | (学修内容) 手紙の構成と手紙用語、封筒の書き方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(90分) 復習として実習先や企業などにお礼状が書けるようにする |
| 第15回 | 文書の作成 2 ビジネス文書の基本を知る | (学修内容) ビジネス文書の種類と書き方について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として例を見ながら簡単な社内文書が書けるようにする |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | インターンシップ | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CS1107 |
| 英 文 名 | Internship | | | 開 講 時 期 | 春学期 | 必 修 選 択 | | 選 択 | |
| 担 当 者 | 新矢 昌昭 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 夏季休暇中に行うインターンシップを通して社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。主としてインターンシップに向けての準備や企業研究をグループごとに行い発表する。講義内では、意見や質疑応答を積極的に行うことが重視される | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) プレゼンテーション能力、探究心を養うことができる 2) 企業研究、自己分析をすることができる 3) インターンシップを通して、社会への理解、職業意識を高めることができる | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力 (| 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テ キ ス ト | 使用しない。プリントを配布する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 講義中に適宜指摘する | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | グループワーク、発表へのコメントを加える | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | インターンシップは、受け入れ先の時間を割き実施してもらうため、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室の扉に掲示する | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | インターンシップ | |
|---------|------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容)この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでおく |
| 第2回 | グループワークの実践 | (学修内容)課題に対するグループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、自身の考えをまとめておく |
| 第3回 | グループワークの実践と復習 | (学修内容)課題に対するグループワークとグループワークの振り返り (事前事後学修課題の内容)(60分) 先週で学んだ自身の考え、反省点をまとめておく |
| 第4回 | 会社見学の準備 | (学修内容)会社見学先の企業研究発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) 会社見学先を理解するため、資料、情報収集を行っておく |
| 第5回 | 会社見学の実施 | (学修内容)会社見学 (事前事後学修課題の内容)(60分) 会社見学先での意見や質問を考えておく |
| 第6回 | 会社見学のまとめ | (学修内容)会社見学の振り返り発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) 会社見学先で、自身が学んだことについてのレジュメ作成 |
| 第7回 | 外部講師による講義1回目 | (学修内容)働くこととは何か (事前事後学修課題の内容)(60分) 自身にとって働くこととは何かを考えておく |
| 第8回 | 外部講師による講義2回目 | (学修内容)近年の就職活動についての動向 (事前事後学修課題の内容)(60分) 就職活動に対する疑問を考えておく |
| 第9回 | 外部講師による講義3回目 | (学修内容)インターンは何故するのか (事前事後学修課題の内容)(60分) インターンをなぜするのかを考えておく |
| 第10回 | 就業体験先の確認 | (学修内容)就業体験先企業の確認と諸注意 (事前事後学修課題の内容)(60分) インターンに関する必要書類の作成 |
| 第11回 | インターンシップの準備 | (学修内容)インターンシップ先企業分析 (事前事後学修課題の内容)(60分) インターンシップ先企業についての資料、情報収集 |
| 第12回 | インターンシップの事前学習1回目 | (学修内容)インターンシップ先企業についての研究発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成 |
| 第13回 | インターンシップの事前学習2回目 | (学修内容)インターンシップ先企業についての研究発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成 |
| 第14回 | インターンシップ事前説明会 | (学修内容)インターンシップの心構えと準備 (事前事後学修課題の内容)(60分) 『インターンシップの手引き』を読んでおく |
| 第15回 | インターンシップに向けて | (学修内容)インターンシップ先企業の最終確認と諸注意と抱負発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) インターンシップに向けての自身の抱負を考えておく |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | インターンシップ | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CS1115 |
| 英 文 名 | | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | 必 修 選 択 | 選 択 | | |
| 担 当 者 | 新矢 昌昭 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 春季休暇中に行うインターンシップを通して、さらなる社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。インターンシップや講義を通して自分がどんな仕事や職種に向いているかという職業適性を把握する。特に、外部講師や企業見学先では、自身の意見や質問を積極的に行って欲しい。また、就職活動に向けて個人ごとに就職希望先企業の研究を行い発表する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 自身の職業適性を把握することができる 2) 自身の職業、職種選択を決定し、自身の将来を見据えることができる 3) 社会人を養うことができる | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 使用しない。プリントを配布する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 講義中に適宜指示する | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | グループワークや発表に関して、コメントを加える | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 春学期と同じく、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室の扉に掲示する | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | インターンシップ | |
|---------|---------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) 春学期インターンシップの報告書を提出 |
| 第2回 | インターンシップ報告会1 | (学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ |
| 第3回 | インターンシップ報告会2 | (学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ |
| 第4回 | インターンシップ報告会3 | (学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ |
| 第5回 | 希望就職先の事前研究 | (学修内容) 企業研究について (事前事後学修課題の内容) (60分) 該当企業の情報、資料収集 |
| 第6回 | 希望就職先の研究発表 | (学修内容) 企業研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 該当企業の研究成果レジュメ |
| 第7回 | 会社見学事前学習 | (学修内容) 会社見学先について (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先を理解するため、資料、情報収集を行っておく |
| 第8回 | 会社見学の実施 | (学修内容) 会社見学 (事前事後学修課題の内容) (30分) 会社見学先での意見や質問を考えておく |
| 第9回 | 会社見学事後学習 | (学修内容) 会社見学の振り返り発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先で、自身が学んだことについてのレジュメ作成 |
| 第10回 | 外部講師による講演1回目 | (学修内容) 経営者による講演 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講演先企業の研究。意見や質問を考えておく |
| 第11回 | 外部講師による講演2回目 | (学修内容) 経営者による講演 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講演先企業の研究。意見や質問を考えておく |
| 第12回 | 学外授業 | (学修内容) 大阪企業家ミュージアム見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大阪企業家ミュージアムについて調べておく。意見や質問を考えておく |
| 第13回 | インターンシップの準備 | (学修内容) インターンシップ先企業の確認と諸注意 (事前事後学修課題の内容) (60分) 必要書類を作成しておく |
| 第14回 | インターンシップ事前学習 | (学修内容) インターンシップ先企業についての研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成 |
| 第15回 | インターンシップ事前説明会 | (学修内容) 職業体験の心構えと準備 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『インターンシップの手引き』を読んでおく |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | インターンシップ | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CS1107 |
| 英 文 名 | Internship | | | 開 講 時 期 | 春学期 | 必 修 選 択 | 選 択 | | |
| 担 当 者 | 新矢 昌昭 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 夏季休暇中に行うインターンシップを通して社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。主としてインターンシップに向けての準備や企業研究をグループごとに行い発表する。講義内では、意見や質疑応答を積極的に行うことが重視される | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) プレゼンテーション能力、探究心を養うことができる 2) 企業研究、自己分析をすることができる 3) インターンシップを通して、社会への理解、職業意識を高めることができる | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力 (| 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テ キ ス ト | 使用しない。プリントを配布する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 講義中に適宜指示する | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | グループワーク、発表へのコメントを加える | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | インターンシップは、受け入れ先の時間を割き実施してもらうため、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室の扉に掲示する | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | インターンシップ | |
|------|------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく |
| 第2回 | グループワークの実践 | (学修内容) 課題に対するグループワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、自身の考えをまとめておく |
| 第3回 | グループワークの実践と復習 | (学修内容) 課題に対するグループワークとグループワークの振り返り (事前事後学修課題の内容) (60分) 先週で学んだ自身の考え、反省点をまとめておく |
| 第4回 | 会社見学の準備 | (学修内容) 会社見学先の企業研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先を理解するため、資料、情報収集を行っておく |
| 第5回 | 会社見学の実施 | (学修内容) 会社見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先での意見や質問を考えておく |
| 第6回 | 会社見学のまとめ | (学修内容) 会社見学の振り返り発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先で、自身が学んだことについてのレジュメ作成 |
| 第7回 | 外部講師による講義1回目 | (学修内容) 働くこととは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 自身にとって働くこととは何かを考えておく |
| 第8回 | 外部講師による講義2回目 | (学修内容) 近年の就職活動についての動向 (事前事後学修課題の内容) (60分) 就職活動に対する疑問を考えておく |
| 第9回 | 外部講師による講義3回目 | (学修内容) インターンは何故するのか (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンをなぜするのかを考えておく |
| 第10回 | 就業体験先の確認 | (学修内容) 就業体験先企業の確認と諸注意 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンに関する必要書類の作成 |
| 第11回 | インターンシップの準備 | (学修内容) インターンシップ先企業分析 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先企業についての資料、情報収集 |
| 第12回 | インターンシップの事前学習1回目 | (学修内容) インターンシップ先企業についての研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成 |
| 第13回 | インターンシップの事前学習2回目 | (学修内容) インターンシップ先企業についての研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成 |
| 第14回 | インターンシップ事前説明会 | (学修内容) インターンシップの心構えと準備 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『インターンシップの手引き』を読んでおく |
| 第15回 | インターンシップに向けて | (学修内容) インターンシップ先企業の最終確認と諸注意と抱負発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップに向けての自身の抱負を考えておく |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|------------------------------------|------------------|-----------------------------|------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | プレゼンテーション演習 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | IC1406 |
| 英 文 名 | Presentation Practice | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | 必 修 選 択 | | 選 択 | |
| 担 当 者 | 堀出 雅人 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>複雑化する社会の中で、職場や地域社会の場において、さまざまな価値観をもった他者と協働するにあたり、自らの意見やアイデアを相手にわかりやすく伝えるための力（「プレゼンテーション力」）が今後より一層求められるでしょう。国際的な競争に生き残るための技術革新や新商品の開発、我が国が抱える少子高齢、人口減少をはじめさまざまな社会的課題など、私たち一人ひとりから生み出されるアイデアや解決方法がいま必要とされています。その解決法を他者と共有し、共感を生み出したり、アイデアとアイデアをつなげ創造するためのツールとして、プレゼンテーションの場が会社や地域社会で設けられています。そこで、この授業では、プレゼンテーションの作成を助けるMicrosoft社のPowerPointの基本的な操作方法の習得とともに、オリジナルのスライド資料作りおよびプレゼンを通して、相手にわかりやすく伝え共感を生み出すための力を伸ばすことを目的としています。そのため、授業中に、教室のPCを活用した作品作り、クリッカーをはじめ学内ネットワークを活用した作品に対する学生と教員とのやりとり、プレゼンテーションとその評価などアクティブ・ラーニングを実践します。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 対 象 業 務 | <p>(1)職場や地域を想定し、社会人として自らの考えを相手にわかりやすく伝えることができる (2)PowerPointの基本的な操作方法を習得できる (3)課題に対して自ら工夫して作品づくりに取り掛かることができる (4)他者の意見やアイデアを参考に、自らの作品のより善く修正することができる</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T 活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テ キ ス ト | noa出版 『ドリルマスター PowerPoint 2016 & プレゼンテーション』 noa出版 2016年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業時に適宜指示します | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 授業終了時にコメントカードを配布し、次回の授業時冒頭に提出をもとめる場合は、その授業時間中での講評や後日各自にコメントをつけたカードを返却します。最終課題として、各自、文化をテーマにスライド資料を作成し、プレゼンを実施しますが、その計画、途中経過、プレゼンといった区切り区切りで資料などをチェックし、より内容が充実するように適宜助言をします。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | パソコンを操作する時間が増えます。人前での発表を課題とします。特別な配慮が必要がある場合は事前に相談してください。 基本的にテキストに沿って学修を行うため、必ずテキストを購入をお願いいたします。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の業務経験など：特定非営利活動法人学習開発研究所 所員として、E-Learninシステムの設計および運用に携わる | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 授 業 計 画 |
|-------------|--------------------------------|--|
| プレゼンテーション演習 | | |
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 本授業のねらいと流れを説明することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 シラバスを読んでくる 事後 授業の感想をコメントカードにまとめ次回提出 |
| 第2回 | プレゼンテーションの基本を学ぶ | (学修内容) 自らのプレゼンテーション能力を磨く必要性を説明できる(テキストの範囲:STEP1) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP1を読んでくる 事後 ネットや雑誌などでビジネスの世界等でプレゼンに関する記事を調べる |
| 第3回 | プレゼンテーションの達人たち/PowerPointの立ち上げ | (学修内容) 【ICT活用】内容 人を惹きつけるプレゼンの達人のプレゼンの特徴を説明できる, PowerPointの立ち上げ方法を理解し, 操作できる. (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP2を読んでくる 事後 授業の感想を配布するコメントカードにまとめ次回提出 |
| 第4回 | PowerPointを活用した資料作成 | (学修内容) 資料の作成過程とアウトラインの作成方法を理解し操作できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP3を読んでくる 事後 「良い」プレゼン資料のポイントをコメントカードにまとめ次回提出 |
| 第5回 | プレゼンテーションの作成 | (学修内容) 状況に応じたスライドテーマの選択しスライド作成の準備ができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP4を読んでくる 事後 日本(京都)文化・国際文化・現代文化で調べたい文化を次回まで決める |
| 第6回 | プレゼンテーションを編集 | (学修内容) スライド資料の編集やヘッダーとフッターを操作できる 調べたい文化についてインターネット等で情報を獲得できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP5を読んでくる 事後 受講生に紹介した文化のテーマを決める |
| 第7回 | 特殊な文字やイラストを挿入 | (学修内容) ワードアートと画像の挿入方法を理解し操作できる 他の受講生に紹介した文化の材料を整理することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP6を読んでくる 事後 発表用スライド資料の構成を考える |
| 第8回 | 表やグラフを挿入 | (学修内容) 説得力を高めるプレゼン作りのため, データをExcelでグラフ化したものを貼り付けられる. 情報を引用する際の注意事項を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP7を読んでくる 事後 発表用スライド資料のテーマに沿った統計データを検索する |
| 第9回 | 図形の挿入 | (学修内容) PowerPointの機能としてSmartArtや図形・表をスライドに挿入することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP8を読んでくる 事後 発表スライド資料にも図形や表を挿入するため, その内容を検討する |
| 第10回 | アニメーション効果 | (学修内容) プレゼンの効果をより高めるアニメーション機能を理解し操作できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP9を読んでくる 事後 発表スライド資料を作成しはじめる |
| 第11回 | 発表準備 | (学修内容) プレゼンを行い際に必要な準備物を理解し用意することができる(パソコンとプロジェクターの接続方法や手元資料の印刷方法等) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 STEP10を読む 事後 発表スライドの途中経過を報告できるように準備する |
| 第12回 | プレゼンする時の注意事項 | (学修内容) プレゼンを行い際の服装や話し方、質疑応答の仕方など基本事項を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 STEP13を読む 事後 発表スライドの完成・提出にむけて準備を進める |
| 第13回 | プレゼンの成果発表 | (学修内容) 【プレゼンテーション】自らが取り上げたテーマに沿ってプレゼンテーションを行い質疑応答ができる(一人5分程度) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 発表用プレゼンを完成させ当日までに担当教員にデータを提出 事後 プレゼンを終えた反省点をコメントカードにまとめ次回に提出 |
| 第14回 | プレゼンの反省とスライド資料の改善 | (学修内容) 【ICT活用】発表会の結果を受けて、他者の意見を参考にスライド資料を修正することができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP11,STEP12を読む 事後 修正したスライド資料を期日までに教員にデータで提出 |
| 第15回 | 学修成果のふりかえり | (学修内容) プレゼンの達人といまの自分のプレゼン力と比較し、今後、どういった力をつける必要があるか分析し、授業後の学びにつなげることができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 これまでの授業をふりかえった感想をコメントカードにまとめ提出 事後 最終レポートに向けて教員の他の受講生のコメントをまとめる |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|----------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 保育フィールドワーク | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CE1407 |
| 英 文 名 | Child Care Field Work | | | 開 講 時 期 | 春・秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 乾 真理子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 保育現場での体験を通して、保育の実像をつかみながら、望ましい職業観を身につけてほしい。また、その都度行う振り返りにより、これからの学校での学びの意義を理解し、学びと働くことの関連性の把握を期待する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 保育の業務について、具体的に述べるができる。 2) 大学での学びと保育現場を関係づけることができる。 3) 子どもや保育者と関わることで、コミュニケーション能力を向上できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | 必要に応じて資料を配布します。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領 その他適宜、提示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたレポートについては、コメントをつけて返却する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 学校指定の保育施設に自ら申し込み、体験学習を行う。土曜や夏休みなど、授業時間以外を用いて体験学習を行う。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 初回に提示する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 保育フィールドワーク | |
|---------|-------------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 学校指定の園の紹介および、実習に向けての手続き等の説明を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 希望の実習先を調べて概要を提出する。 |
| 第2回 | 実習に向けての心構え | (学修内容) 実習先の選定を行う。実習に向けての注意点の説明を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習先の教育・保育方針を調べて提出する。 |
| 第3回 | 体験実習 保育者の子どものかかわり方 | (学修内容) 保育者と子どものかかわり方を観察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体験したことを振り返り、レポートを作成し提出する。 |
| 第4回 | 体験実習 保育中の保育者の仕事を知る | (学修内容) 保育者の行動をよく見て学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体験したことを振り返り、レポートを作成し提出する。 |
| 第5回 | 体験実習 子どもにかかわる | (学修内容) 子どもと積極的にかかわる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体験したことを振り返り、レポートを作成し提出する。 |
| 第6回 | 実習の中間報告会 | (学修内容) 実習の経験を共有することにより、保育現場の理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習：今後の実習のための準備を行う。 |
| 第7回 | 体験実習 園での生活の流れを知る | (学修内容) 園での1日の流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体験したことを振り返り、レポートを作成し提出する。 |
| 第8回 | 体験実習 年齢による発達の違いを知る | (学修内容) 年齢による子どもの特徴を気に掛ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体験したことを振り返り、レポートを作成し提出する。 |
| 第9回 | 体験学習 絵本の読み聞かせをする | (学修内容) 絵本を読み、子どもの反応に答える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体験したことを振り返り、レポートを作成し提出する。 |
| 第10回 | 体験学習 園庭での活動 | (学修内容) 園庭での子どもとのかかわりを通して、園の環境を体感する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体験したことを振り返り、レポートを作成し提出する。 |
| 第11回 | 体験学習 園の生活環境を観察する | (学修内容) 普段の環境と実習先の環境を比較する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体験したことを振り返り、レポートを作成し提出する。 |
| 第12回 | 体験学習 遊びの展開を楽しむ | (学修内容) 子どもたちとの遊びを通して、遊びの変化を楽しむ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体験したことを振り返り、レポートを作成し提出する。 |
| 第13回 | 体験学習 保育場面以外の保育者の仕事を知る | (学修内容) 子どものいない時間や場面での保育者の仕事を知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体験したことを振り返り、レポートを作成し提出する。 |
| 第14回 | 体験学習 保育現場での行事 | (学修内容) 行事に参加する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体験したことを振り返り、レポートを作成し提出する。 |
| 第15回 | まとめ フィールドワークで学んだことを発表する | (学修内容) 実習の経験を発表しあう。経験を共有することにより、保育現場の理解を深め、学びとの関連を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育現場の仕事についてレポートにまとめて提出する。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | ビジネス文書表現 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | CS1114 |
| 英文名 | Business Writing | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 水谷 隆 | | | 対象学生 | 幼児教育1回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>ビジネスの現場で用いる文章は、特定の相手に対して、必要な事項を過不足なく、誤解の生じないよう分かりやすく伝達することを目的としたものです。その目的にかなう文章を作成するためには、文章の受け手を明確に意識し、伝えるべき内容にふさわしい形式で、簡潔に表現することが必要です。この授業では、ビジネスの現場にふさわしい形式（フォーマット）と言語表現のポイントを説明した上で、実際に文書を作成することで、その体得を図ります。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 読み手と目的を明確に意識した文章表現ができる。 2) 既定のフォーマットに適合した文書が作成できる。 3) 必要かつ十分な要件を記した文書が作成できる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業） | | グループワーク ICT活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 | | |
| テキスト | プリントを配布します。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 実務技能検定協会編『ビジネス文書検定 実問題集3級 第59回~第63回』早稲田教育出版2018年 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたレポートは、学生相互の批評とともに、コメントを付して返却します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 授業の進行等の事情に応じて各回の内容を変更することがあります。なお、その際には事前事後学習課題と併せて、前もって連絡します。 国語辞典あるいはそれに類するもの（スマホのアプリ等）を持参してください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室に日時を貼付するので、確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | ビジネス文書表現 | |
|---------|---------------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス ビジネス文章表現とは | (学修内容) 授業の運営方針の確認。ビジネスで用いる文章の特徴についての解説。作文。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、シラバスを読んでおく。 |
| 第2回 | 読者を想定した文章のポイント | (学修内容) 批評の観点提示と学生相互の批評。作文の修正。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、第1回目授業での作文を読み返す。 |
| 第3回 | 目的別文章の理解と体得 エントリーシートとは | (学修内容) エントリーシートについての解説。記入のための構想。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、エントリーシートについて自分なりに調べておく。 |
| 第4回 | 目的別文章の理解と体得 エントリーシート記入 | (学修内容) エントリーシートの作成。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、卒業後の希望職種をいくつか具体的に想定しておく。 |
| 第5回 | 目的別文章の理解と体得 相互批評 | (学修内容) 批評の観点提示と学生相互の批評。エントリーシートの修正。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、第5回目授業で作成した文章を読み返す。 |
| 第6回 | 受け手に応じて変化する表現 | (学修内容) ビジネス現場での口頭表現、待遇表現についての解説。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、敬語の用法について再確認しておく。 |
| 第7回 | 受け手に応じて使い分ける用語 | (学修内容) ビジネス用語およびフレーズについての解説と調査。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 復習として、授業時に学んだ用語を用いて短文の作文をする。 |
| 第8回 | ビジネス文書の基本形式 社外文書 | (学修内容) 社外文書についての解説。案内状の作成。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 復習として、同形式別内容の文書を2通以上作成する。 |
| 第9回 | ビジネス文書の基本形式 社内文書 | (学修内容) 社内文書についての解説。届出書の作成。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 復習として、同形式別内容の文書を2通以上作成する。 |
| 第10回 | ビジネス文書の基本形式 社交文書 | (学修内容) 社交文書についての解説。添え状等の作成。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 復習として、同形式別内容の文書を2通以上作成する。 |
| 第11回 | 手紙文の形式 基本的形式 | (学修内容) 手紙の基本的形式についての解説。私信の作成。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、手紙の書き方について自分なりに調べておく。 |
| 第12回 | 手紙文の形式 相互批評 | (学修内容) 批評の観点提示と学生相互の批評。手紙の形式に関する補足説明。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、各自作成した手紙を書き直す。 |
| 第13回 | 手紙文の形式 形式の応用 | (学修内容) 礼状および年賀状に付いての解説。作成。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、年賀状の書き方について自分なりに調べておく。 |
| 第14回 | 電子メールの作法 | (学修内容) 電子メールの特質についての解説。作成。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、ビジネスメールの作法について自分なりに調べておく。 |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 授業の振り返りと自己評価。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、授業全体を振り返り、自己の課題と今後の学修について考えておく。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | インターンシップ | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | CS1115 |
| 英 文 名 | | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | 必 修 選 択 | 選 択 | | |
| 担 当 者 | 新矢 昌昭 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 春季休暇中に行うインターンシップを通して、さらなる社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。インターンシップや講義を通して自分がどんな仕事や職種に向いているかという職業適性を把握する。特に、外部講師や企業見学先では、自身の意見や質問を積極的に行って欲しい。また、就職活動に向けて個人ごとに就職希望先企業の研究を行い発表する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 自身の職業適性を把握することができる 2) 自身の職業、職種選択を決定し、自身の将来を見据えることができる 3) 社会人を養うことができる | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テ キ ス ト | 使用しない。プリントを配布する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 講義中に適宜指示する | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | グループワークや発表に関して、コメントを加える | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 春学期と同じく、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室の扉に掲示する | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | インターンシップ | |
|---------|---------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (60分) 春学期インターンシップの報告書を提出 |
| 第2回 | インターンシップ報告会1 | (学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ |
| 第3回 | インターンシップ報告会2 | (学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ |
| 第4回 | インターンシップ報告会3 | (学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ |
| 第5回 | 希望就職先の事前研究 | (学修内容) 企業研究について (事前事後学修課題の内容) (60分) 該当企業の情報、資料収集 |
| 第6回 | 希望就職先の研究発表 | (学修内容) 企業研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 該当企業の研究成果レジュメ |
| 第7回 | 会社見学事前学習 | (学修内容) 会社見学先について (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先を理解するため、資料、情報収集を行っておく |
| 第8回 | 会社見学の実施 | (学修内容) 会社見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先での意見や質問を考えておく |
| 第9回 | 会社見学事後学習 | (学修内容) 会社見学の振り返り発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先で、自身が学んだことについてのレジュメ作成 |
| 第10回 | 外部講師による講演1回目 | (学修内容) 経営者による講演 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講演者先企業の研究。意見や質問を考えておく |
| 第11回 | 外部講師による講演2回目 | (学修内容) 経営者による講演 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講演者先企業の研究。意見や質問を考えておく |
| 第12回 | 学外授業 | (学修内容) 大阪企業家ミュージアム見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大阪企業家ミュージアムについて調べておく。意見や質問を考えておく |
| 第13回 | インターンシップの準備 | (学修内容) インターンシップ先企業の確認と諸注意 (事前事後学修課題の内容) (60分) 必要書類を作成しておく |
| 第14回 | インターンシップ事前学習 | (学修内容) インターンシップ先企業についての研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成 |
| 第15回 | インターンシップ事前説明会 | (学修内容) 職業体験の心構えと準備 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『インターンシップの手引き』を読んでおく |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 図書館概論 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | CL1705 |
| 英 文 名 | Introduction to Library | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 渡邊 雄一 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を学んでいく。図書館をめぐる今日的課題についての理解を深めるために、実際の事例にもとづいたグループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 図書館の機能・役割を理解し、基本的な専門用語については意味を説明することができる。 2) 図書館というものが人間の暮らしにおいて持つ意味、歴史の中で果たしてきた役割について説明することができる。 3) 図書館の今日的課題に関して、現状と課題について自己の見解をプレゼンテーションすることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力 (| 課題発見・解決能力) (| | | |
| テ キ ス ト | 『図書館概論』（JLA図書館情報学テキストシリーズ 1）、塩見昇、日本図書館協会、2012年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 随時指示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 授業で学んだことを自分で経験して確かめるために、居住地の公共図書館を積極的に利用すること。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館について話をします。 | | | | | | | | |

| 授業名 | 図書館概論 | |
|------|-------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。 |
| 第2回 | 図書館とは | (学修内容)図書館の定義、種類について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.13~P.20をよく読んでまとめておくこと。 |
| 第3回 | 図書館の理念:図書館の自由など | (学修内容)「図書館の自由に関する宣言」について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.57~P.64をよく読んでまとめておくこと。 |
| 第4回 | 図書館の自由について考える | (学修内容)図書館の自由に関してグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「図書館の自由に関する宣言」(テキストP.65~P.67)を読んでおくこと。 |
| 第5回 | 図書館法規と行政 | (学修内容)公共図書館の根拠となる法的基盤について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「教育基本法」、「社会教育法」の条文を読んでおくこと。 |
| 第6回 | 図書館の歴史的展開(欧米) | (学修内容)欧米における公立図書館の制度化の歴史について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.225~P.228をよく読んでまとめておくこと。 |
| 第7回 | 図書館の歴史的展開(日本) | (学修内容)日本の図書館の歴史的展開を概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.229~P.232をよく読んでまとめておくこと。 |
| 第8回 | 公共図書館の制度と機能 | (学修内容)「図書館法」の構成と性格を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「図書館法」の条文を読んでおくこと。 |
| 第9回 | 公共図書館のサービス | (学修内容)公共図書館が提供するサービスについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.146~P.150をよく読んでまとめておくこと。 |
| 第10回 | 公立図書館の管理運営について考える | (学修内容)公立図書館の管理運営に関してグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指定管理者制度に関する配付プリントをよく読んでおくこと。 |
| 第11回 | 学校図書館の制度と機能 | (学修内容)学校図書館の役割と機能について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.161~P.168をよく読んでまとめておくこと。 |
| 第12回 | 大学図書館の制度と機能 | (学修内容)大学図書館の法的根拠、機能などについて考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.177~P.183をよく読んでまとめておくこと。 |
| 第13回 | 専門図書館の制度と機能 | (学修内容)専門図書館の特性、類別、機能などについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.190~P.193をよく読んでまとめておくこと。 |
| 第14回 | 国立図書館の制度と機能 | (学修内容)国立図書館の法的基盤、図書館奉仕などについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.203~211をよく読んでまとめておくこと。 |
| 第15回 | 出版文化と図書館 | (学修内容)出版文化と図書館の貸出サービスとの関係についてグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.45~P.48をよく読んでまとめておくこと。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|----------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 図書館情報資源概論 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | CL1702 |
| 英 文 名 | Introduction to Library Information Resource | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必修 | |
| 担 当 者 | 渡邊 雄一 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 近年多様化している図書館情報資源について、その類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存など、図書館業務に必要な情報資源に関する知識を習得することを目的とする。また、図書館の将来を見通した資料収集のあり方や、利用者に対する情報サービスの方法や心得に関する基本的知識の習得も目指す。図書館情報資源をめぐる今日的課題に関してグループディスカッションを行いながら授業を進める。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 図書館が扱う資料(印刷資料、非印刷資料、電子資料)の種類と特性について理解し、説明できる。 2) 図書館で受け入れる資料の処理方法や取り扱い方の注意点、修復方法を理解し、説明できる。 3) ネットワーク情報資源や電子情報資源について理解し、説明できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | 藤田岳久編『図書館情報資源概論』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望8),学文社 2016年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | まど子編『図書館情報学基礎資料』樹村房,2016年 馬場俊明編『図書館情報資源概論 JLA図書館情報学テキストシリーズ 8』日本図書館協会,2012 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 図書館を積極的に利用し、図書館資料の種類・特色について調べておくこと。 積極的な授業参加が求められる。特に、グループディスカッションでは積極的に発言し、意見交換すること。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館資料について解説します。 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 図書館情報資源概論 | |
|---------|-----------------------------------|--|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 授業展開の解説、図書館が取り扱う知識と情報の性質について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスの内容を確認しておくこと。 | |
| 第2回 | 図書館情報資源の経緯 | (学修内容) 図書館資料全般の特質、歴史について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト2章p.12-17を読んでまとめておくこと。 | |
| 第3回 | 印刷資料・非印刷資料の類型と特質 | (学修内容) 資料の類型、図書、逐次刊行物、小冊子、視聴覚資料、マイクロ資料、障害者向け資料の定義、種類、特徴、などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト3章p.18-25 を読んでまとめておくこと | |
| 第4回 | 電子資料、ネットワーク情報資源の類型と特質 | (学修内容) 電子資料、ネットワーク情報資源の定義と特徴、ネットワーク型情報資源、パッケージ型電子資料の種類と特質について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト4章p.26-31を読んでまとめておくこと。 | |
| 第5回 | 地域資料、行政資料、灰色文献 | (学修内容) 地域資料の意義、地域資料、行政資料、灰色文献の定義について理解し、地域資料の収集、情報発信のあり方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト5章p32-37を読んでまとめておくこと。 | |
| 第6回 | 情報資源の生産(出版)と流通 | (学修内容) 出版の流通、図書の制作の過程について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト6章p. 38-43を読んでまとめておくこと。 | |
| 第7回 | 図書館業務と情報資源に知識関する知識 図書館と著作権 | (学修内容) 図書館情報資源利用と著作権法の関わりについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「図書館と著作権法」に関する情報をインターネットで調べ、わからない言葉を書き出しておくこと。 | |
| 第8回 | コレクション形成の理論 | (学修内容) コレクション形成における資源、コレクション形成理論の史的展開について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト8章p. 50-57を読んでまとめておくこと。 | |
| 第9回 | コレクション形成の方法 | (学修内容) 蔵書構築と蔵書構成、選択、収集、形成、維持について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト9章p. 58-63を読んでまとめておくこと。 | |
| 第10回 | 人文・社会科学分野の情報資源とその特性 | (学修内容) 人文・社会科学、科学技術分野、各分野の学問的諸領域、情報資源へのアクセスについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト10章p.64-71を読んでまとめておくこと。 | |
| 第11回 | 科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性 | (学修内容) 科学技術分野、生活分野の意味、科学技術情報、科学技術コミュニケーション、生活分野の学術文献の特色について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト11章p.72-77を読んでまとめておくこと。 | |
| 第12回 | 資料の受入・除籍・保存・管理の実際 | (学修内容) 資料の受入、除籍、保存、資料管理のあり方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト12章p.78-85を読んでまとめておくこと。 | |
| 第13回 | 情報生産の新たな仕組みと図書館情報資源 | (学修内容) クラウドソーシング、クラウドコンピューティング、オープンソース・オープンアクセスなどについて学習する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト13章p.86-91を読んでまとめておくこと | |
| 第14回 | 電子書籍、電子ジャーナルー 図書館情報資源としての意義と課題 | (学修内容) 電子書籍の現状と意義について学習する。電子ジャーナルに関してグループディスカッションを行い、現状と課題について考察する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト14章p.92-97を読んでまとめておくこと | |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 総復習 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト15章p.98-117を読んでまとめておくこと | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|----------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 図書館基礎特論 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CL1703 |
| 英 文 名 | Special Lecture on Library | | | 開 講 時 期 | 春学期 | 必 修 選 択 | 選 択 | | |
| 担 当 者 | 渡邊 雄一 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 図書館司書資格の授業でこれまで学習した内容を発展的に深める。図書館におけるサービス内容を整理し、図書館サービスに関わるテーマを各自で設定し、関連する文献資料を収集、整理し、自己の見解をまとめ、伝達できるようにする。また、図書館の今日的課題の一つである広報活動の在り方について、グループワーク、プレゼンテーションを通して実践的に学習する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 対 達 目 標 | 1) 各自の関心のあるテーマについて、印刷媒体・電子媒体の資料を用いて適切な情報を収集し、整理し、レポートの形に仕上げる。 2) 自らの考えを映像資料にまとめることができる。 3) 図書館サービスを紹介する映像資料を通して、プレゼンテーションを10分間行うことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | 授業中に指示する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業中に指示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | フィードバックとして理解度を測る小レポートを回収後に解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 講義形式ではなく、受講者自身が図書館やデータベースを利用しながら必要な資料を収集し、整理し、成果物を作成し、発表する授業形式であるため、積極的に授業に出席することが求められる。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館の今日的課題について話をします。 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 学修項目 | 学修内容・課題 |
|---------|------------------------------|---|---------|
| 授 業 計 画 | | | |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。 | |
| 第2回 | 図書館資料の探索と活用 | (学修内容)図書館資料を効率的に探索し、それを整理する方法について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 図書館での情報検索の方法について考えておくこと。 | |
| 第3回 | レファレンスサービスを考える | (学修内容)図書館の情報サービスの柱であるレファレンスサービスについて説明する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に向き、レファレンスサービスを体験しておくこと。 | |
| 第4回 | レファレンス質問を考える | (学修内容)レファレンス質問を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) インターネット等を利用してレファレンス事例を探しておくこと。 | |
| 第5回 | レファレンス回答をつくる | (学修内容)図書館資料を探索し、前回の授業で作成したレファレンス質問の回答を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に向き、レファレンス資料に目を通しておくこと。 | |
| 第6回 | 図書館の広報活動について考える | (学修内容)図書館の広報活動の概要を説明する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 広報の意義について考えておくこと。 | |
| 第7回 | 図書館サービスを紹介するビデオを作成するグループをつくる | (学修内容)レファレンスサービスを中心とした図書館紹介ビデオを作成する。グループをつくる。レファレンス質問を決める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レファレンス回答を完成させておくこと。 | |
| 第8回 | 図書館サービスを紹介するビデオを作成するシナリオをつくる | (学修内容)図書館サービスを紹介するビデオのシナリオを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ストーリーを考えておくこと。 | |
| 第9回 | 図書館サービスを紹介するビデオを作成する絵コンテをつくる | (学修内容)図書館サービスを紹介するビデオの絵コンテを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シナリオを完成させておくこと。 | |
| 第10回 | 図書館サービスを紹介するビデオを作成する仮撮影 | (学修内容)仮撮影を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シナリオと絵コンテを完成させておくこと。 | |
| 第11回 | 図書館サービスを紹介するビデオを作成するシナリオ修正 | (学修内容)図書館サービスを紹介するビデオのシナリオを修正する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 仮撮影の内容を振り返る。 | |
| 第12回 | 図書館サービスを紹介するビデオを作成する本撮影 | (学修内容)本撮影を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シナリオを完成させておくこと。 | |
| 第13回 | 図書館サービスを紹介するビデオを作成する編集 | (学修内容)撮影したビデオの編集作業を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) サウンドトラックなどの準備をしておくこと。 | |
| 第14回 | 発表 | (学修内容)完成した図書館サービス紹介ビデオを発表する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) ビデオを完成させておくこと。 | |
| 第15回 | まとめ | (学修内容)授業を振り返り、レポートを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでに発表した内容をまとめ、新たに必要な資料があれば入手しておくこと。 | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 情報資源組織論 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | CL1707 |
| 英 文 名 | Theory of Informational Resource Organization | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 喜多 祐子 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 図書館の利用者に情報資源に関する情報を提示し、情報資源そのものを提供できるよう、目録作業、分類作業、件名付与といった間接サービスについて学習する。また、地域、一国、あるいは国際的なレベルでの書誌コントロール、急速な発展を遂げた書誌情報ユーティリティ、メタデータ、書誌データの活用法などに関しても解説を行なう。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 情報資源の組織化を行う意義や目的について説明できる。 2) 情報資源の目録作成に関する基礎的事項を説明することができる。 3) 分類法を理解し、書架を管理する方法を理解できる。 4) 主題分析、統制語検索の手法について理解できる。 5) コンピュータを利用した書誌情報の作成とその活用について理解することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 講義内で配布するプリント。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 講義で紹介。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出物を添削し、コメントをつけて返却する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実務経験など：宝塚市立中央図書館 資料調査員 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 情報資源組織論 | |
|---------|----------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 情報資源組織化の意義 | (学修内容) 情報資源組織の業務と意義 (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、図書館員の業務内容をリストアップしておく |
| 第2回 | 目録の役割と種類 | (学修内容) 目録の役割、目録の種類 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする |
| 第3回 | 目録記入の構成 | (学修内容) 書誌記述の規則、『日本目録規則』の概要 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする |
| 第4回 | 標目の役割 | (学修内容) 標目の機能、標目の種類、典拠ファイル (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする |
| 第5回 | 主要な書誌記述規則 | (学修内容) 主要な目録規則の概要 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする |
| 第6回 | 集中目録作業 | (学修内容) 書誌データの流通、MARC (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする |
| 第7回 | 共同目録作業 | (学修内容) 総合目録、書誌ユーティリティ (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする |
| 第8回 | 書誌コントロールと標準化 | (学修内容) 書誌コントロールの種類と歴史 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする |
| 第9回 | OPACの管理と運用 | (学修内容) OPACの機能と管理、メタデータ、RDF (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする |
| 第10回 | 主題の分析と検索 | (学修内容) 主題分析の意義、自然語、統制語 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする |
| 第11回 | 件名標目表とシソーラス | (学修内容) 件名標目表、シソーラス、「基本件名標目表」の構成 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする |
| 第12回 | 図書の配架方法 | (学修内容) 案内板、図書の配架方法、分類の留意点 (事前事後学修課題の内容) (20分) 各自 図書館へ行き、図書の配架方法、および図書館利用者が目的の場所へたどりつけるよう配置された案内板の記載内容を確認しておく |
| 第13回 | 日本十進分類法による分類作業 | (学修内容) 分類法の概要、「日本十進分類法」の構成 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする |
| 第14回 | 多様な情報資源組織の配架と分類記号の付与 | (学修内容) 学内の図書館を見学し、別置資料の配架方法とその図書ラベルを確認。別置されている理由、課題について解説 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする |
| 第15回 | 主要な分類法 | (学修内容) 主要な分類法の概要 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 図書館制度・経営論 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | CL1706 |
| 英 文 名 | Theory of Library System and Management | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必修 | |
| 担 当 者 | 渡邊 雄一 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について学習するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態について学習する。図書館経営やサービス計画に関して理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを実施する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 図書館設置を規定する法律の内容を理解し、説明することができる。 2) 図書館組織、管理、運営、施設等の、図書館経営に関する基本的な内容を理解し、説明することができる。 3) 図書館サービス計画に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 授業中に指示する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業中に指示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 地域の公共図書館に足を運び、その活動状況を観察しておくこと。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館制度や経営について話をします。 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 学修項目 | 学修内容・課題 |
|-------|--------------------------|------|--|
| 第1回 | ガイダンス | | (学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。 |
| 第2回 | 図書館の制度 | | (学修内容)図書館設置を規定する各法律について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。 |
| 第3回 | 図書館法 | | (学修内容)図書館法の条文を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館法の条文を読んでおくこと。 |
| 第4回 | 他館種の図書館に関する法律 | | (学修内容)学校図書館法、国立国会図書館法などについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学校図書館法、国立国会図書館法の条文を読んでおくこと。 |
| 第5回 | 図書館サービスと法律 | | (学修内容)著作権法、個人情報保護法などについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 著作権法の条文を読んでおくこと。 |
| 第6回 | 図書館の管理運営の外部化 指定管理者制度 | | (学修内容)指定管理者制度について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 指定管理者制度について調べておくこと。 |
| 第7回 | 図書館の管理運営の外部化 PFI | | (学修内容)PFIについて解説する。管理運営の外部化に関して問題点をグループ討議する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) PFIについて調べておくこと。 |
| 第8回 | 図書館のサービス計画 | | (学修内容)図書館サービスの計画について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。 |
| 第9回 | 図書館のマーケティング | | (学修内容)図書館におけるマーケティングの内容・方法について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。 |
| 第10回 | 図書館の建築計画 | | (学修内容)図書館建設手順の流れについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。 |
| 第11回 | レイアウト図をつくる ゾーニング計画 | | (学修内容)ゾーニング計画をつくる。適切なレイアウトについてグループで討議を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館のゾーニングを調べておくこと。 |
| 第12回 | レイアウト図をつくる 書架 | | (学修内容)図書館のレイアウト図をつくる。書架を並べる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館の書架配置について調べておくこと。 |
| 第13回 | レイアウト図をつくる 閲覧席 | | (学修内容)図書館のレイアウト図をつくる。閲覧席を並べる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館の閲覧席配置について調べておくこと。 |
| 第14回 | レイアウト図を発表する ゾーニング計画 | | (学修内容)作成したゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レイアウト図を完成させる。 |
| 第15回 | レイアウト図を発表する コンセプト・レイアウト図 | | (学修内容)コンセプトをふまえて作成したゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レイアウト図を完成させる。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 生活支援技術 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Livelihood Support Skills | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 馬場 まみ・塩田 二三子 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>生活に関わる知識は、健康な生活を営むうえでも、福祉の現場ではたらくうえでも必要である。介護の対象となる人が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するために必要な基本的な事象について以下の内容で講義する。理解を深めるために、適宜グループワークを実施する。</p> <p>1．家庭生活を運営するための基礎知識 2．衣食住の基礎</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1．生活に関わる基本的な知識を身につけ、実践することができる。 2．介護の対象となる人が個々の状態に応じた家事を自立的に行えるよう支援できる。 3．獲得した知識を、福祉の現場で役立てることができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 新版 福祉のための家政学 - 自立した生活者を目指して - 建帛社 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 随時指示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出物については理解度を確認し解説を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨んでほしい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 初回の授業で連絡する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 生活支援技術 |
|---------|--------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 科目ガイダンス 生活支援と家事 | (学修内容) 講義の目標、現代社会における生活と家族について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 |
| 第2回 | 家族をどうとらえるか | (学修内容) 家族の変化と現状 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 |
| 第3回 | 家族と法律 | (学修内容) 家族に関わる法律について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 |
| 第4回 | 家庭経済 | (学修内容) 生活設計と家計について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 |
| 第5回 | 被服の役割と機能 | (学修内容) 被服着用の目的と被服の機能について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 |
| 第6回 | 被服の素材 | (学修内容) 被服素材の種類と特徴について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 |
| 第7回 | 被服の選択と管理 | (学修内容) 衣服の品質表示と管理について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 |
| 第8回 | 住生活 | (学修内容) 住まいの役割と機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 |
| 第9回 | 食生活の機能と食文化 | (学修内容) 食生活の現状と課題についてグループで考える。 行事食など日本の食事文化について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 |
| 第10回 | 栄養素の種類と消化・吸収・代謝 | (学修内容) 五大栄養素について、その特徴と主な働きを見るときともに、それらがどう消化・吸収され、代謝されていくか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 |
| 第11回 | 食事摂取基準 食品の分類と選択 | (学修内容) 何をどれだけ食べればよいのか。 自分の食事のバランスはどうか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 加工食品の食品表示の部分を持ってこること。 |
| 第12回 | 食の安全と食中毒 | (学修内容) 食の安全をめぐる現在の問題 食中毒の種類や予防 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 食の安全をめぐる最近のニュースを見つけておく。 |
| 第13回 | 健康と食生活 | (学修内容) 国民健康・栄養調査とは ライフステージ別の食生活の問題点 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「食育推進計画」の概要を調べ、各ライフステージの問題点を確認しておく。 |
| 第14回 | 献立作成 | (学修内容) 献立作成に必要な基本的な知識と生活習慣病における留意点 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 |
| 第15回 | 調理 | (学修内容) 調理の基本操作と料理様式 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|---------------------------------|--------------------------------|-----------------|-------------------------|---------|-----------|----------|--|
| 授 業 名 | 社会の理解 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Understanding Society | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | 必 修 選 択 | 必修 | 必修 | |
| 担 当 者 | 野田 隆生 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>わたしたちは、生計が安定し、安心して安全な地域社会の中で暮らすことができれば、特段の不満は生まれません。しかし、日本経済の不況や自然災害による被災者の二次被害などが、容赦なく国民の生活を奈落の底へと誘っている現実がある。そうした時に、国は社会保障という枠組みで、国民の生活を立て直す施策を展開するという仕組みがある。本講では、国民一人ひとりに付与されている尊厳の保持や権利擁護の視点に基づきながら、地域の中で生きていくために必要とされる社会保障について理解することを目的とします。さらには、子どもの貧困、子ども虐待、障害、高齢化、ワーキングプアなどの問題を取り上げ、その現状と背景を分析しながら原因と解決策をディスカッションを通して考えていきたい。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | <p>1) 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養うことができる。 2) 対象者の生活を地域の中で支えていく視点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につけることができる。 3) さまざまな環境にある対象者への介護実践に対応できるように、社会保障の制度や施策についてその基礎的な知識を身につけることができる。 4) 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養うことができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 () | | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | | |
| テ キ ス ト | 増田幸弘・三輪まどか・根岸忠 編著『変わる福祉社会の論点』信山社 2018年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 講義時に随時、文献・資料を紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 小レポートにはコメントを添えて返却する。プレゼンテーションの後には、批評ならびにコメントを行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究するようにして下さい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ウ ー | 授業初回時に連絡をします。基本的に研究室(1R-404)に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 社会の理解 | |
|------|--------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | はじめに | (学修内容)本講の進め方や成績評価の方法について説明する。 (事前事後学修課題の内容)(15分) テキストのはしがきと目次を見ておくこと。 |
| 第2回 | 地域がどう変わったのか、変わるのか | (学修内容)地域の現状や市町村の役割について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「地域が変わる」(pp.3-40)を読んでおくこと。 |
| 第3回 | 高齢者を支える地域の仕組み | (学修内容)高齢者を取り巻く社会環境について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の内容をまとめておくこと。 |
| 第4回 | 介護とケアと子育てと | (学修内容)用語を頼りに現代社会における福祉的課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 介護と子育てのうちいずれかのトピックスを用意しておく。 |
| 第5回 | 家族の変容 | (学修内容)家族のあり用について誰が介護をするのか、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「家族が変わる」(pp.41-80)を読んでおくこと。 |
| 第6回 | 生まれ方の多様化 | (学修内容)子どもの誕生をめぐる問題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「2生まれ方の多様化」を読んでおくこと。 |
| 第7回 | 無戸籍児の福祉 | (学修内容)無戸籍児の現状とその課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「4日本国民なのに登録されない!？」を読んでおくこと。 |
| 第8回 | 高齢者に群がる人びと | (学修内容)認知症高齢者の現状とその課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「6高齢者に群がる人びと」を読んでおくこと。 |
| 第9回 | 外国人労働者の受け入れとAI・ロボット時代 | (学修内容)外国人労働者の受け入れをめぐる現状と課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「働き方が変わる」(pp.81-128)を読んでおくこと。 |
| 第10回 | 現代日本における貧困について | (学修内容)貧困の現状と課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「「中流」が変わる?」(pp.129-172)を読んでおくこと。 |
| 第11回 | 老後の社会保障 | (学修内容)高齢者世帯の現状と課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「-4国民皆年金ではないの?」を読んでおくこと。 |
| 第12回 | 医療体制の変容と自分らしい最期を迎えるには | (学修内容)医療制度の変遷と終の棲家について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「医療が変わる」(pp.173-220)を読んでおくこと。 |
| 第13回 | 介護予防と社会保障 | (学修内容)予防重視型システムのあり方について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「5健康づくり・介護予防と社会保障」を読んでおくこと。 |
| 第14回 | 福祉現場のこれから | (学修内容)高齢者が増加する中で福祉施設に求められるものは何なのかを、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「福祉現場が変わる」(pp.221-255)を読んでおくこと。 |
| 第15回 | まとめにかえて ～介護の魅力って、なに?～ | (学修内容)介護の魅力について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テーマに沿った内容でまとめ、発表の準備を行っておくこと。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 介護の基本 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Fundamental Nursing Care I | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 高岡 理恵 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉士の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>そのために、介護福祉士の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、介護を必要とする人の理解や介護実践における安全とリスクマネジメントについての介護実践の知識を理論的に学ぶ。</p> <p>この授業は、講義を主とするが、ディスカッションを行い進めていく。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>多様化・高度化する介護ニーズ、介護福祉を取り巻く状況について理解することができる</p> <p>介護福祉士の専門性について理解できる。</p> <p>介護福祉士に求められる専門職としての態度が形成される</p> <p>介護実践における安全とリスクマネジメントについて理解できる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 新・介護福祉士養成講座『介護の基本』、中央法規 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 適宜、紹介します | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 授業内レポートについては確認後返却します | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 介護福祉を取り巻く状況等について、歴史的背景をおさえつつ、現在進行形である様々な課題について思考できるよう新聞やニュース等に目をむけてください | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ウ ー | 水曜日12：10～12：50 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務 | | | | | | | | |

| 授業名 | 介護の基本 | |
|------|--------------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス 介護の目的、基本的な考え方 | (学修内容) シラバスに沿って授業の進め方を知る。介護とは何か、ディスカッションを行いながら介護福祉士のイメージを膨らませる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 介護とは何か、介護福祉士の職務は何かを考え言語化し発表できるようにしておく |
| 第2回 | 障がいを持つ人の介護の歴史 ノーマライゼーションの理念 | (学修内容) 障がいを持つ人の介護の変遷をから海外の優生思想、ノーマライゼーションについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 ノーマライゼーションについて調べ発言できるようにしておく |
| 第3回 | 障がいを持つ人の介護の歴史 基本的人権と尊厳の保持 | (学修内容) 戦争時における障がいを持つ人の基本的人権や尊厳について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 基本的人権について調べ発言できるようにしておく |
| 第4回 | 日本の社会福祉史における介護福祉の位置づけ | (学修内容) 日本社会、家族機能の変化と高齢者に対する介護の変遷について学ぶ(施設介護、在宅介護) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 在宅介護の変遷についてホームヘルプサービスをもとに調べてくる |
| 第5回 | 介護福祉制度のなりたちと発展 | (学修内容) 時代に伴う介護ニーズの変化と措置制度から契約制度への変換を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 介護保険法第1条を読み理解し、説明できるようにしておく |
| 第6回 | 介護福祉士の役割と機能1 法的根拠 | (学修内容) 社会福祉士及び介護福祉士法、及び介護福祉士養成や介護福祉士を支える専門職団体の役割や機能を学習する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 社会福祉士及び介護福祉士法の法的根拠を調べる |
| 第7回 | 介護福祉士の役割と機能2 求められる介護福祉士像 | (学修内容) 求められる介護福祉士像と生涯研修制度について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 |
| 第8回 | 介護福祉士の役割と機能3 専門職の倫理 | (学修内容) 介護福祉職の職業倫理や法廷遵守についてディスカッションをしながら学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 介護福祉職の職業倫理について調べる |
| 第9回 | 介護福祉士の役割と機能4 介護福祉の基本理念 | (学修内容) 介護福祉士の基本理念である「尊厳」「自立支援」を支える介護について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 自身の考える「自立支援」とは何かを明確にしてくる |
| 第10回 | 多職種の機能と役割1 多職種の役割と専門性の理解 | (学修内容) 医療・保健職の役割や機能について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 介護職がチームで働くための多職種の職種と役割について調べる |
| 第11回 | 多職種の機能と役割2 多職種の役割と専門性の理解 | (学修内容) 介護福祉士以外の福祉職、その他インフォーマルな機能と役割について学習する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 自身の地域のインフォーマル、フォーマルサービスを調べまとめる |
| 第12回 | 介護従事者の安全と健康管理 | (学修内容) 介護労働に関する法律を理解し、安全な労働環境と作業環境について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 介護労働によるリスクとは何か調べ、発表できるようにしておく |
| 第13回 | 介護における安全の確保とリスクマネジメント | (学修内容) 実習施設に多い感染とリスクマネジメントについて演習を行いながら学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 感染症と感染経路について調べてくる |
| 第14回 | 介護福祉を取り巻く課題1 課題への取り組みとまとめ | (学修内容) 授業や時事から得た知識をもとに、介護福祉を取り巻く課題について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 授業で学んだ内容、時事からの情報から介護福祉を取り巻く課題を明らかにするために必要な資料をそろえる |
| 第15回 | 介護福祉を取り巻く課題2 課題発表 | (学修内容) 授業や時事から得た知識をもとに、介護福祉を取り巻く課題について考えたことを発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後 発表資料(レポート)を作成する |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|-----------------------------------|----------------------------|------------------|------------------|------------|------------|-----------------|--|
| 授 業 名 | 介護の基本 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Fundamental Nursing Care | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 野田 隆生 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>住み慣れた地域で可能な限り生活を継続したいと願っている高齢者や障害者に対して、そのニーズを充足するために保健・医療・福祉の専門職からなる多職種の連携が叫ばれて久しい。本講では、介護福祉士の役割や機能について地域共生社会の理念などを通して理解し、現場において介護実践に求められる観察力、判断力及び思考力を養うことを目的とします。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 介護福祉士に求められる役割と機能について理解し、専門職としての態度を養うことができる。 2) 専門職倫理について理解し、介護実践における判断力や思考力を養うことができる。 3) 多職種の専門性を理解し、自立に向けた介護について考えることができる。 4) 介護を必要とする人の生活を支援するためのサービスをマネジメントすることができる。 5) 介護におけるリスクマネジメントと労働環境の整備・改善について考えることができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | | | 汎用的技能 | |
| | | 態度・志向性 | | | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | プレゼンテーション | | | | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 介護福祉士養成講座編集委員会編『介護の基本』中央法規 2019年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 講義時に随時、文献・資料を紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 小レポートにはコメントを添えて返却する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究することができるようにして下さい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ウ ー | 授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室(1R-404)に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 介護の基本 | |
|------|------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | はじめに | (学修内容)本講の進め方や成績評価の方法について説明する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストを必ず購入しておくこと。 |
| 第2回 | 介護福祉士の専門性 | (学修内容)介護福祉士を取り巻く社会環境を整理し、その専門性について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。 |
| 第3回 | 介護福祉士の倫理 | (学修内容)介護福祉士の倫理について、ワークシートを使用しながらディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の講義後に配布したワークシートを完成させて、持参する。 |
| 第4回 | 介護サービスの特性と歴史の変遷 | (学修内容)戦後の高齢者福祉に関する制度の変遷とその背景について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。 |
| 第5回 | 高齢者に対する居宅系サービスの場とその特性 | (学修内容)高齢者への居宅系福祉サービスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 必要事項を記したワークシートを完成させ、持参すること。 |
| 第6回 | 高齢者に対する入所系サービスの場とその特性 | (学修内容)高齢者への入所系福祉サービスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 必要事項を記したワークシートを完成させ、持参すること。 |
| 第7回 | 障害者に対する居宅系のサービスの場とその特性 | (学修内容)障害者への居宅系福祉サービスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 必要事項を記したワークシートを完成させ、持参すること。 |
| 第8回 | 障害者に対する入所系サービスの場とその特性 | (学修内容)障害者への入所系福祉サービスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 必要事項を記したワークシートを完成させ、持参すること。 |
| 第9回 | 介護実践における連携について | (学修内容)多職種連携、チームケアについて理解し、介護福祉士の役割について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。 |
| 第10回 | 介護における安全の確保について | (学修内容)安全確保におけるリスクマネジメントについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。 |
| 第11回 | 介護の場における事故防止と安全対策について | (学修内容)介護の現場において予測できる事態への対応について、口頭発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) プレゼンテーションに必要な資料を収集し、まとめておくこと。 |
| 第12回 | 感染症対策について | (学修内容)感染症について理解し、対応について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。 |
| 第13回 | こころとからだの健康管理 | (学修内容)専門職として必要なセルフケアについて、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。 |
| 第14回 | よりよく生きるために | (学修内容)高齢者・障害者が最期まで生き生きを支えることができる地域社会について、口頭発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) プレゼンテーションに必要な資料を収集し、まとめておくこと。 |
| 第15回 | 最終講 ～介護への「望み」～ | (学修内容)介護への「望み」について、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 全講をふりかえり、「望み」について考えておくこと。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|---------------------------------------|------------------|--------------------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | リハビリテーション論 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Rehabilitation Theory | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 中平 剛志 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>リハビリテーションの理念を理解し、「障害」に対するリハビリテーションの視点を学びます。 対象者の自立支援に向けた「リハビリテーション」の専門性に触れ、介護との接点を考えることが 授業全体の共通したテーマになります。個人の考えを他者に伝え、考え方の多様性に触れることを目的として、 グループワークやプレゼンテーションなども実施します。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) リハビリテーションに関連する職種を理解し、その専門性を説明することができる 2) 基本的な介護技術についてリハビリテーションの理論や技術を活用できる 3) 障害の構造について「ICF」モデルを用いて説明することができる 4) 事例を通じて「ICF」モデルを活用してアセスメントができる 5) 介護とリハビリテーションの連携について説明することができる</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T 活用 (双方向型授業) | | グループワーク I C T 活用 (自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 各授業で資料を配布します。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | <p>ICFの理解と活用 ~人が「生きること・生きることの困難(障害)」をどうとらえるか~ 著者：上田 敏 出版社：きょうされん</p> | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたレポートは、添削とコメントを記載して返却いたします。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ウ ー | <p>質問などは、メールで受け付けます。 takeshi.nakahira@ocr.ac.jp</p> | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | <p>実践的教育 教員の実務経験など：現在、理学療法士（非常勤）として介護老人福祉施設に勤務しています。</p> | | | | | | | | |

| 授業名 | リハビリテーション論 | |
|------|-------------------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | リハビリテーションの理念・歴史・役割について | (学修内容) リハビリテーションの語源、リハビリテーションの歴史と定義、理学療法 の定義について (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと |
| 第2回 | A D L (日常生活活動) の基本的概念とリハビリテーションについて | (学修内容) A D L の定義、A D L の範囲、self care とIADL・APDLについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと |
| 第3回 | 疾病と障害について | (学修内容) 疾病(疾患)と障害の関係について 一次障害と二次障害について (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと |
| 第4回 | 介護技術基本論(1):理論と実技 | (学修内容) 姿勢の定義、姿勢の安定性、バランスについて ポジショニングの基本 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと |
| 第5回 | 介護技術演習(1):実技 | (学修内容) 基本動作(寝返り動作、起き上がり動作、座位保持)について 基本手順から障害の特徴に応じた技術・シーティングの基本 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実技が主となるので、積極的に授業に参加することが前提になります 授業以外にも各自で練習して下さい |
| 第6回 | 介護技術演習(2):実技 | (学修内容) 基本動作(立ち上がり動作、移乗動作) 基本手順から障害の特徴に応じた技術 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実技が主となるので、授業に参加することが前提になります 授業以外にも各自で練習して下さい |
| 第7回 | 障害の構造について(1)ICIDHモデルとICFモデルの歴史的変遷 | (学修内容) I C I D HからI C Fへの歴史的変遷について (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと |
| 第8回 | 障害の構造について(2)IDHモデルとICFモデルの概念 | (学修内容) I C F諸相の理解について (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと |
| 第9回 | 障害の構造について(3)ICFモデルの実践事例検討(情報収集) | (学修内容) 事例検討としてV T Rを視聴して情報収集を実施する (事前事後学修課題の内容) (60分) 第9回~第10回の学習内容を、第11回でプレゼンテーションします。 その後、個人でレポートを作成し提出してもらいます |
| 第10回 | 障害の構造について(4)ICFモデルの実践事例検討(情報の整理) | (学修内容) 得た情報をI C Fモデルに整理する過程を経験する (事前事後学修課題の内容) (60分) 第9回~第10回の学習内容を、第11回でプレゼンテーションします。 その後、個人でレポートを作成し提出してもらいます。 |
| 第11回 | 障害の構造について(5)ICFモデルの作図・まとめ | (学修内容) I C F図を作成して、プレゼンテーションする クラスで共有し、ディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (120分) I C F図をレポートとして作成して提出してもらいます |
| 第12回 | リハビリテーション関連職種と専門性(リハビリテーション・チーム) | (学修内容) リハビリテーション・チームの構成、関連職種の専門性について チームアプローチについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと |
| 第13回 | 介護予防とリハビリテーション | (学修内容) 病期とリハビリテーションの役割 介護予防の位置づけ、介護予防の意義について (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと |
| 第14回 | サルコペニアについて 栄養管理とリハビリテーション | (学修内容) サルコペニアについて 栄養とリハビリテーションについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと |
| 第15回 | 介護とリハビリテーションの連携 | (学修内容) 事例を提示して介護とリハビリテーションの連携について検討する 「長期臥床者へのリハビリテーションアプローチと介護の視点」 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 介護ソーシャルワーク論 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Theory of Nursing Care | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 武田 康晴 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>ソーシャルワークとは、狭義には相談援助をさす言葉であり、広義には社会福祉援助全般をさす言葉である。本講義では、ソーシャルワークを広義にとらえ、ソーシャルワークを実践する1つの技術として介護を明確に位置付けることで、ソーシャルワークの理論に基づく介護の展開について考えていく。介護福祉学は実践の学であることから、理論を学ぶだけでなく、学生が自分で考え、自分の意見を表明し、教員や学生同士でディスカッションする場面を大切に授業を進める。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 介護とソーシャルワークの関係について明確に説明できるようになる。 2) ソーシャルワークの歴史的展開について基本概念の変遷について概要を説明できるようになる。 3) ソーシャルワークの基礎理論を用いて介護場面(事例)について解説できるようになる。 4) ソーシャルワークの理論に基づく介護について、自分自身が実践する前提で例を挙げて説明できるようになる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力 (| 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テ キ ス ト | 必要なプリント等を配布する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 必要に応じて紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出課題(レポート等)については口頭でコメントするか、コメントを記入して現物を返却する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 「介護ソーシャルワーク」という概念は決して主流ではないので、既存の「介護」という概念にとらわれず、学びの中で常に新しく柔軟に考えることを大切にする。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室に掲示し、授業時に口頭でも伝える。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 学修項目 | 学修内容・課題 |
|---------|------------------------------------|--|---------|
| 授 業 計 画 | | | |
| 第1回 | 授業オリエンテーションと導入 | (学修内容) 授業の内容についてオリエンテーションを実施するとともに、現時点で介護について持っているイメージを挙げてKJ法で整理する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容に目を通し、質問を3つ以上考えておく。 | |
| 第2回 | ソーシャルワークとは何か? (ソーシャルワークの定義) | (学修内容) 国際ソーシャルワーカー連盟の定義他いくつかの定義を引用、解説しながら、ソーシャルワークの特徴、目的等について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、事後: インターネット等を活用してソーシャルワークのグローバル定義について解説を確認し、要点を書きだしておく。 | |
| 第3回 | ソーシャルワークの成立背景 (慈善組織協会とメアリー・リッチモンド) | (学修内容) 産業社会の近代化に伴い慈善事業の組織化が必要となった背景と、必然的に科学としてのソーシャルワークが萌芽した経緯について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 授業の際に提示するいくつかの語句について調べてくる。事後: ソーシャルワークの成立の流れとして説明できるように復習しておく。 | |
| 第4回 | ソーシャルワークの理論的展開 (課題解決アプローチまで) | (学修内容) ソーシャルワークの理論的変遷について、診断主義と機能主義の論争を経て課題解決アプローチに至る経過を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 授業の際に提示するいくつかの語句について調べてくる。事後: 理論的展開の流れとして説明できるように復習する。 | |
| 第5回 | ソーシャルワークの理論的展開 (医学モデルから生活モデルへ) | (学修内容) 1980年を境に医学モデルから生活モデル(社会モデル)に転換し現在に続くソーシャルワークの理論的基礎について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 授業の際に提示するいくつかの語句について調べてくる。事後: 医学モデルと生活モデルの違いについて具体例を挙げて説明する。 | |
| 第6回 | ソーシャルワークの専門性 (価値観、知識、技術) | (学修内容) ソーシャルワークの専門性について、専門性の構成要素という視点から明らかにする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配布した資料について予習しておく。事後: 価値観と知識・技術の関係について説明できるようになる。 | |
| 第7回 | ソーシャルワークの専門性 (価値観に関する演習) | (学修内容) 全国介護福祉士の倫理綱領をワークシートに加工し、各項目について具体例を考え、教員と学生、学生同士がディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 全国介護福祉士の倫理綱領に目を通しておく。事後: ディスカッションを通じて感じたことをまとめる。 | |
| 第8回 | ソーシャルワークの専門性 (生活の援助という視点) | (学修内容) ソーシャルワークは生活の援助であることをおさえ、その視点からこれまでの援助活動を検証する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 生活の特徴について説明できるように準備しておく。事後: 生活の特徴を踏まえた援助実践を1つまとめる。 | |
| 第9回 | ソーシャルワークの基本原則 (講義) | (学修内容) バイステックの7原則を丁寧に読み込むことで、ソーシャルワークの基本原則、立ち位置について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配布する資料を読み込んでおく。事後: 授業の内容を復習し、具体例を挙げて説明できるようになる。 | |
| 第10回 | ソーシャルワークの基本原則 (演習) | (学修内容) バイステックの7原則を加工した演習シートを活用し、援助場面における反映についてディスカッションを取り入れながら授業を進める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: バイステックの7原則について概要を説明できるようになっておく。事後: 演習を通じて学んだことをシートに線を引き整理する。 | |
| 第11回 | 介護現場におけるソーシャルワーク (高齢者福祉) | (学修内容) 高齢者福祉現場におけるソーシャルワーク実践について事例を用いて検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配布した資料を読み込んでおく。事後: 事例検討の成果をまとめなおしておく。 | |
| 第12回 | 介護現場におけるソーシャルワーク (障害児者福祉) | (学修内容) 障害児者福祉現場におけるソーシャルワーク実践について事例を用いて検討する。1 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配布した資料を読み込んでおく。事後: 事例検討の成果をまとめなおしておく。 | |
| 第13回 | 災害と介護ソーシャルワーク | (学修内容) 最も介護ソーシャルワークが必要となる災害時の援助活動について、災害派遣福祉チームの動きも交えて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前: 事前に配布する資料(厚生労働省通知)に目を通し、質問を考えておく。事後: 組織図等を確認しておく。 | |
| 第14回 | 災害と介護ソーシャルワーク | (学修内容) 災害ソーシャルワークの枠組みを踏まえ、東日本大震災、熊本地震、西日豪雨の事例を活用し、質疑応答を交えながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前: 過去の災害について、概要を調べておく。事後: 授業の内容を踏まえ、感想、考察、今後の展望など自分の考えをノートにまとめる。 | |
| 第15回 | 授業の振り返りと総括 | (学修内容) 要点を確認しながら授業の内容を振り返り、質疑応答によって深めていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: これまでの授業内容を振り返り質問を考えておく。事後: 介護ソーシャルワークに対する自分の考えをレポートにまとめる。 | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|---|
| 授業名 | チームマネジメント論 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Theory of Team Management | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 必修 | | |
| 担当者 | 高岡 理恵 | | | 対象学生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>介護実践は介護のみならず医療や保険等からなる包括的なチームによる実践です。この授業では、介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営と管理、人材育成の活用、それらに必要なリーダーシップとフォロワーシップなど、チームで働く力を養うためのストレスマネジメントやチームマネジメントの基礎的な知識を身につけることを目指します。本授業では、講義の他、いくつかの現場へ出向き、様々なチームのあり方、多様なメンバーでの会議、事業所組織の経営について学ぶ機会をもちます。</p> <p>また、反転授業を行うため、事前にしておかなければならない学修課題については必須です。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>福祉サービスにおける組織の機能や構造を理解できる チームでケアを展開するために必要なチームの構成や役割について理解できる リーダーとフォロワーの役割について説明できる チームで働くためのストレスマネジメントについて理解できる</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業） | | グループワーク ICT活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テキスト | 新介護福祉士養成講座『人間の理解』中央法規 適宜、プリントを配布します | | | | | | | | |
| 参考書 | 古川久敬『グループマネジメント入門』日本介護協会出版会 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 授業内レポートは確認後、コメントを入れ返却を行う | | | | | | | | |
| 留意事項 | マネジメントの知識や、介護実践にかかわる問題理解と解決にむけた考え方を得るために役立ちます。様々な現場へ出向く機会もあるので、積極的に学んでください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 水曜日12:10~12:50 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | チームマネジメント論 | |
|---------|---------------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス 実習から学ぶチームマネジメント | (学修内容) チームとは、チームマネジメントを4つの特性を軸に介護サービスに求められるマネジメントの視点を学習する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 8月実習で学んだチームとチームを構成するメンバーを整理しておく |
| 第2回 | チームの機能と構造 | (学修内容) 介護実践におけるチームの重要性を理解し、ディスカッションを行いながらチームの目的、リーダーとフォロワーの役割を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 8月実習で学んだチームの目標について整理しておく |
| 第3回 | 介護従事者の心身の管理 介護労働と感情労働 | (学修内容) 感情労働の意味を理解し、介護労働への影響について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 感情労働をしている他の職種について調べ発言できるようにする |
| 第4回 | 介護従事者の心身の管理2 ストレスとストレスマネジメント | (学修内容) 介護労働におけるストレス要因とそのマネジメント方法についてディスカッションを行いながら学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 自身のストレスと、マネジメント方法について書式にまとめる |
| 第5回 | スーパービジョンの機能と役割 | (学修内容) スーパービジョンの機能について学ぶ。演習を通して理解を深める (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 スーパービジョンの機能について調べ発言できるようにする |
| 第6回 | チーム内の関係性をつくるマネジメント | (学修内容) 人間関係を作るための傾聴力、情動のマネジメントについて学習する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 人間関係を構築するための基本的姿勢について調べる |
| 第7回 | プリセプター制度の意義、目的、方法 | (学修内容) 介護実習施設におけるプリセプター制度の意義、目的、方法について学習する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 介護施設におけるプリセプター制度について調べ発言できるようにする |
| 第8回 | チーム運営の基本 組織と運営管理 | (学修内容) 多様な施設の組織図を活用し、法人と事業所、事業所組織の階層等について学習する (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 11月実習施設の組織図を持参し、構造を人に伝えられるように準備する |
| 第9回 | チーム運営の基本2 組織と運営管理の実際 | (学修内容) 協力施設に出向き実習、事業所の組織とマネジメント方法について学習する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後 学んだ内容をまとめレポートにして提出する |
| 第10回 | 事業所組織の役割と機能 | (学修内容) 介護サービスに関係する設備、備品、人材確保やハラスメント防止について学習する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 11月実習で学んだ施設・事業所の設備や備品等の取り扱いについてまとめ人に伝えられるように準備する |
| 第11回 | 実践力を高めるためのチームマネジメント | (学修内容) 介護実践の事例を活用し、リーダーシップ及びフォローシップの実際を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 11月実習で学んだチームの目的とリーダーやフォロワーの果たす役割についてまとめ人に伝えられるように準備する |
| 第12回 | コンピテンシーの育成 | (学修内容) 意欲づけとコンピテンシーを高めるためのコーチングを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 事前に配布した資料を読み、説明できるようにしておく |
| 第13回 | 人材の育成と管理1 キャリア開発の仕組み | (学修内容) 介護施設における委員会やOJTの必要性和活用について学習する(委員会、OJT等) (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 OJTとOFF J Tについて説明できるようにしておく |
| 第14回 | 人材の育成と管理2 キャリア開発の仕組みの実際 | (学修内容) 協力施設に出向き実習、委員会やOJTが、どのように策定されているのかを学習する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後 学んだ内容をまとめレポートにして提出する |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 自らのキャリア目標を意識するためのありたいリーダー像を明確にする (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後 自身のありたいリーダー像についてまとめレポートにして提出する |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|---|
| 授業名 | ターミナルケア論 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Thory of Terminal Care | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 必修 | | |
| 担当者 | 野田 隆生 | | | 対象学生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>「死」とは何か？「いのち」って何だろう？この問いにははっきりとした答えはあるのだろうか。人は必ず死ぬという事実は、知識としてみなさんは理解しています。しかし、あなた自身や親しい人が余命いくばくもないと告知を受けたとしたら、あなたはどのような思いを抱きますか。</p> <p>本講では、まず現代社会における「死」の様相を明らかにし、次いで「死にゆく人」への関わりについて社会福祉なかならず介護においてどのような視点で捉えていくことが必要とされるのかについて考察を深めていきたい。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 現代社会における「死」と「生」について意見を述べるができる。</p> <p>2) 自らの死生観を養うことができる。</p> <p>3) 介護における終末期の関りについて「こころ」と「からだ」の両面より支援する技術と創造力を身につけることができる。</p> <p>4) 「生きること」への執着ではなく人生観を見出すことができる。</p> <p>5) 安楽死や尊厳死の違いについて説明することができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (65%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (35%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テキスト | 随時資料を配布する。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 講義時に随時、文献・資料を紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 小レポートにはコメントを添えて返却する。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究することができるようにして下さい。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | ターミナルケア論 | |
|---------|--------------------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | はじめに ～「死」とは何なのか？～ | (学修内容) 講義の進め方、成績評価の方法について説明する。 「死」に関してディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(15分) シラバスより学びの道筋をイメージしておく。 |
| 第2回 | 現代社会における誕生と死 | (学修内容) 統計資料に基づき誕生と死の現状を把握し、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 『国民の福祉と介護の動向』『国民衛生の動向』や人口動態統計のサイトを閲覧しておく。 |
| 第3回 | 社会問題としてのターミナル・ケア | (学修内容) ターミナル・ケアが社会問題となっている背景について学び、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 時事問題の中から学修項目に照らした気になる話題を選択しておく。 |
| 第4回 | ターミナル・ケアの歴史 ～ホスピス・PCUの成立過程～ | (学修内容) ターミナル・ケアの歴史をその語義よりたどりながら、ホスピスならびにPCUへと変遷する過程について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 紹介した書籍を読んでおく。 |
| 第5回 | ターミナル・ケアの歴史 ～ビハラの誕生と成立過程～ | (学修内容) 仏教と基礎としたターミナル・ケアの成立過程について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 紹介した書籍を読んでおく。 |
| 第6回 | 全人的ケアについて ～4つの痛みへのアプローチ～ | (学修内容) 全人的痛みの理解とその援助について事例を通じて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 紹介した書籍を読んでおく。 |
| 第7回 | ホスピス病棟の実際 ～がん看護専門看護師を通じて～ | (学修内容) ビデオ鑑賞；ホスピス病棟では、どのようなケアが展開されているのかを知り、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。 |
| 第8回 | ビハラ病棟の実際 ～病と向き合う僧侶を通じて～ | (学修内容) ビデオ鑑賞；ビハラ病棟では、僧侶がどのようなケアを展開し、患者と向き合っているのかを知り、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。 |
| 第9回 | 痛みを緩和する ～寄り添うケアに向けて～ | (学修内容) ビデオ鑑賞；終末期の患者をアセスメントし、シートに記入する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、アセスメントシートに患者のニーズを記入し、どのようなケアを展開する必要があるのかをまとめる。 |
| 第10回 | 痛みを緩和する ～遺されるものへのケア～ | (学修内容) ビデオ鑑賞；遺族の気持ちに寄り添いながら展開される緩和ケアについて知り、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。 |
| 第11回 | 生死をめぐる諸問題 ～生殖補助医療とその課題～ | (学修内容) 生殖補助医療の現状と代理出産の現実から主題に迫っていく。 資料をよく読み込んだ上で、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配布したワーク・シートを作成しておくこと。 |
| 第12回 | 生死をめぐる諸問題 ～安楽死と尊厳死～ | (学修内容) 安楽死と尊厳死の違いを理解し、現場にて齟齬なく意見を述べる事ができるよう事例を通して学び、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配布したワーク・シートを作成しておくこと。 |
| 第13回 | 満足な看取りは可能か？ ～福祉施設での看取り～ | (学修内容) ビデオ鑑賞；福祉施設での看取りについて考え、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。 |
| 第14回 | 満足な看取りは可能か？ ～在宅緩和ケアの現場より～ | (学修内容) ビデオ鑑賞；在宅での緩和ケアの現場を取り上げ、家で看取ることについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。 |
| 第15回 | まとめにかえて ～「生ききる」ことを支える介護とは～ | (学修内容) 「生ききる」ことを支えることのできる地域社会の構築について考え、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) これまでの学びについて各回の要点をまとめておくこと。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | コミュニケーション技術 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Communication Skills I | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 名賀 亨 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | 介護に焦点をあてソーシャルワークの視点から、介護を必要とする人と支援する人の関係を良好なものにするために必要な「コミュニケーション」について、ロールプレイやグループワークなどを通してその理念を理解するとともに具体的スキルを修得することを目指す。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 人間関係におけるコミュニケーションの意味と大切さを理解できる 2) 具体的に相手との適切なコミュニケーションを実践することができる 3) 相手の意識を高め自主性を高めるようなファシリテーションを理解し実践することができる | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 諏訪茂樹 編著 大谷佳子 著 基礎から学ぶ介護シリーズ 利用者とうまくかわるコミュニケーションの基本 中 中央法規 2013 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 課題レポートや適宜行う発表に関してその内容を評価するとともに、関連事項を加味してその解説を行いそれぞれの学びを促す。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | ロールプレイなども含めて参加型の内容を中心に授業を進めるので、自発的かつ主体的な授業参加を求める。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 水曜日 昼休み | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術 |
|---------|------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学 修 項 目 | 学 修 内 容 ・ 課 題 |
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション | (学修内容) 授業の意義、進め方について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認しておく |
| 第2回 | コミュニケーションの基本 | (学修内容) コミュニケーションの意味、利用者満足とコミュニケーションなど基本を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP8～16を読み、メッセージを共有することの意味について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第3回 | コミュニケーションマインド 1 | (学修内容) 心を開いて相手に接することや熱意をもって接することについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP34～41を読み、余裕のある態度で接することや熱意を高める接し方について、整理しまとめる。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第4回 | コミュニケーションマインド 2 | (学修内容) 傾聴、受容、共感のコミュニケーションを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP42～53を読み、傾聴や気持ちに寄り添うことについて整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第5回 | 言語的なテクニック&スキル 1 | (学修内容) 挨拶や敬語など相手への気遣いや心配りを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP54～62を読み、挨拶から始まる友好的関係について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第6回 | 言語的なテクニック&スキル 2 | (学修内容) 自信や意欲を引き出す言葉がけや質問の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP63～70を読み、肯定的な言葉や開かれた質問、熱意を伝える相槌について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第7回 | 言語的なテクニック&スキル 3 | (学修内容) 言葉の繰り返しや沈黙あるいは明確化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP71～78を読み、言葉の一部を繰り返すことや沈黙することの意味を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第8回 | 言語的なテクニック&スキル 4 | (学修内容) 要点を整理して返すことや気持ちに理解を示すことについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP79～84を読み、要約・共感について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第9回 | 言語的なテクニック&スキル 5 | (学修内容) 受け入れてもらえるような指示のあり方や助言の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP85～93を読み、ティーチングについて整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第10回 | 言語的なテクニック&スキル 6 | (学修内容) 考えを引き出し支持することや声のトーンについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP94～101を読み、コーチングについて整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第11回 | 準言語的なテクニック&スキル | (学修内容) 適度な声の大きさや話す速度について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP102～105を読み、声の大小による影響や話す速度の影響について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第12回 | 非言語的なテクニック&スキル 1 | (学修内容) コミュニケーションで重要な表情や目線など非言語コミュニケーションについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP106～111を読み、自然な笑顔や目の高さの大切さについて整理しまとめておく。 |
| 第13回 | 非言語的なテクニック&スキル 2 | (学修内容) コミュニケーションで大切なアイコンタクトや姿勢などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP112～118を読み、アイコンタクトの効果や姿勢の及ぼす影響について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第14回 | 非言語的なテクニック&スキル 3 | (学修内容) コミュニケーションにおける動作や装いさらに適切な距離について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP119～124を読み、身のこなし方や身だしなみについて整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) これまでの授業を振り返りながらコミュニケーションの重要性や適切なあり方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの授業を振り返っておく。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|---------------------------------|--------------------------------|-----------------|-------------------------|---------|-----------|----------|--|
| 授 業 名 | コミュニケーション技術 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Communication Skills | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | 必 修 選 択 | 必修 | | |
| 担 当 者 | 木村 あい | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>様々な障がいのある人と円滑な援助関係の構築のために、障害に応じた基本的知識と具体的なコミュニケーション方法について学ぶ。また、介護を必要とする人の家族や他の職種に対するコミュニケーション方法、さらには介護福祉士として自分の意見や感情を述べる力を身につける。</p> <p>授業の方法としてはコミュニケーションに障害のある人との援助関係形成について、ビデオ等の視聴覚教材や事例、ロールプレイ、グループワーク、ディスカッションを用いて演習形式で学習する。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>障害に応じたコミュニケーション方法を身につけることができる。 自分の考えを整理して他者に伝えることができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 () | | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | | |
| テ キ ス ト | 適宜紹介する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 適宜紹介する | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | コメントをつけて返却する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 初回の授業で説明する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | <p>実践的教育 教員の実務経験など：障害者の入所施設で生活指導員として勤務 シリアダマスカス脳性麻痺教育センターに青年海外協力隊員として派遣</p> | | | | | | | | |

| 授 業 名 | コミュニケーション技術 | |
|---------|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 授業の進め方 介護実習の振り返り (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておくこと 介護実習について説明できるように準備をしておくこと |
| 第2回 | 障害の特性に応じたコミュニケーション技法 実習からの気づき | (学修内容) 実習で困った場面をピックアップして、それをロールプレイで再現する。 ビデオ撮影をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習の振り返りを行う。 |
| 第3回 | 障害の特性に応じたコミュニケーション技法 実習からの気づき | (学修内容) ビデオを視聴し、自身のコミュニケーションの特徴を知り、よりよい方法を考える(ディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習での自らの課題について振り返りを行うこと。 |
| 第4回 | 障害の特性に応じたコミュニケーション技法 視覚障がいのある人とのコミュニケーション | (学修内容) 視覚障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫について考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 傾聴、共感についてを復習しておく。 |
| 第5回 | 障害の特性に応じたコミュニケーション技法 聴覚障がいのある人とのコミュニケーション | (学修内容) 聴覚障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫について考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 非言語コミュニケーションについてを復習しておく。 |
| 第6回 | 障害の特性に応じたコミュニケーション技法 言語障がいのある人とのコミュニケーション | (学修内容) 言語障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫を考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 非言語コミュニケーションを復習しておく。 |
| 第7回 | 障害の特性に応じたコミュニケーション技法 コミュニケーション障がいのある人とのコミュニケーション | (学修内容) コミュニケーション障がいのある人の事例でロールプレイを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) コミュニケーションについてを復習しておく。 |
| 第8回 | 障害の特性に応じたコミュニケーション技法 発達障がいのある人とのコミュニケーション | (学修内容) 発達障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫を考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 受容について復習しておく。 |
| 第9回 | 障害の特性に応じたコミュニケーション技法 知的障がいのある人とのコミュニケーション | (学修内容) コミュニケーション技術 を復習しておく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 受容についてを復習しておく。 |
| 第10回 | 障害の特性に応じたコミュニケーション技法 重度障害児とのコミュニケーション | (学修内容) 重度障害児とのコミュニケーションの留意点や工夫を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 受容についてを復習しておく。 |
| 第11回 | 介護における家族とのコミュニケーション 配慮・気遣い | (学修内容) 家族とのコミュニケーションにおいて、配慮すべき事項や・気遣いについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) コミュニケーションの技法を復習しておく。 |
| 第12回 | 介護における家族とのコミュニケーション 利用者本人と家族の意向の調整を図る技法 | (学修内容) 利用者本人と家族の意向の調整を図る技法を事例を通し実践する。 (ロールプレイ) (事前事後学修課題の内容) (30分) コミュニケーションの技法を復習しておく。 |
| 第13回 | 介護における家族とのコミュニケーション 相談、助言、指導 | (学修内容) 家族とのコミュニケーションにおける、相談、助言、指導について学ぶ (グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 相談援助についてを復習しておく。 |
| 第14回 | 介護におけるチームのコミュニケーション 報告、連絡、相談 | (学修内容) その人を支えるチーム内のコミュニケーションにおいて、報告、連絡、相談の重要性について事例を通して考える。(ロールプレイ) (事前事後学修課題の内容) (30分) 相談援助を復習しておく。 |
| 第15回 | 介護におけるチームのコミュニケーション アサーティブコミュニケーション | (学修内容) アサーティブコミュニケーションについて グループワーク (事前事後学修課題の内容) |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 生活支援技術 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Livelihood Support Skills I | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 岡本 浄実 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>「生活とは何か」「生活支援とは何か」を理解し、利用者の暮らしの場や地域に密着した支援として住居環境の整備や家事支援における介護のあり方、応急時や災害時の介護について学びます。この授業では、高齢者が暮らす施設や介護予防事業で行われているレクリエーション活動や介護予防運動を実施するためのアセスメントの視点、素材の選び方と展開の方法をペアワークやディスカッションは実技を行いながら授業を進めます。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活支援を行うためのアセスメントの視点を説明できる。 2) 生活に活かすICFが説明できる。 3) 生活の意欲を引き出す介護予防活動を企画できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 使用しない、授業時に資料を配布する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | <p>最新 介護福祉養成講座 6 生活支援技術 介護福祉士養成校座編集委員会編集 2019 中央法規 楽しさを通した心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法 公益財団法人 日本レクリエーション協会 2017</p> | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたレポートについては、コメントを付けて返却します。実技については、この都度コメントを返します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 授業では、実際に体を動かすことで体の動きやそのときの感じ方を確認をする内容を含みます。また、自分の住む地域で行われている活動を他者の視点で考える機会としてください。今までに気づけなかったことに気づくことができると思います。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業の終業後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 生活支援技術 | |
|------|------------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 1 オリエンテーション | (学修内容) 1 授業概要の説明 2 事前課題の口頭発表とディスカッション 3 タンプリンクタワーの体験から観察を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 親世代が20代の頃の楽しみについて3分の口頭発表 事後 タンプリンクタワーの体験からの気づきをレポートにまとめ授業時に提出 |
| 第2回 | 2 健康的な生活 | (学修内容) 1 健康的な生活 2 食行動 3 事前課題の口頭発表とディスカッション 4 睡眠行動 5 休養行動 6 健康行動論 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 休養について3分の口頭発表とディスカッション 事後 生活と健康行動論との関わりをレポートにまとめ授業時に提出 |
| 第3回 | 3 生活支援の基本的な考え方 | (学修内容) 1 生活支援とは 2 社会の変化と生活 3 事前課題の口頭発表とディスカッション 4 家事の変化と生活 5 流行と生活 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 便利になった家事用品について3分の口頭発表とディスカッション 事後 社会の変化と生活についてレポートにまとめ授業時に提出 |
| 第4回 | 4 生活に活かすICF～ボードゲームから背景因子を学ぶ～ | (学修内容) 1 ICFとは 2 事前課題の口頭発表とディスカッション 3 ボードゲーム 4 コピーから背景因子を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 子どもの頃の遊びについて3分の口頭発表 事後 ボードゲームのコピーについてレポートにまとめ授業時に提出 |
| 第5回 | 5 生活に活かすICF～できることを活用する～ | (学修内容) 1 できることに注目する 2 事前課題の口頭発表とディスカッション 3 学習とは 4 意欲とは 5 できることに注目した活動例 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 3日坊主になったことについて3分の口頭発表 事後 意欲を引き出す目標についてレポートにまとめ授業時に提出 |
| 第6回 | 6 生活に活かすICF～楽しいとは～ | (学修内容) 1 楽しさの押し売り 2 事前課題の口頭発表とディスカッション 3 楽しさとは 4 アイスブレイク～緊張をほぐす～ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 楽しさとはについて自身の経験を例に3分の口頭発表 事後 アイスブレイクについてレポートにまとめ授業時に提出 |
| 第7回 | 7 自立に向けた介護～介護過程と生活意欲～ | (学修内容) 1 自立とは 2 アイスブレイクの発表とディスカッション 3 楽しさとは 4 ペアワークでアイスブレイク～緊張をほぐす～を体験する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 アイスブレイクを3分間実施 事後 楽しさについてレポートにまとめ授業時に提出 |
| 第8回 | 8 自立に向けた介護～社会参加～ | (学修内容) 1 地域で暮らす 2 事前課題の口頭発表とディスカッション 3 人との関わり 4 外出支援～バリアフリー～ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 居住地の魅力について3分の口頭発表とディスカッション 事後 観光地のバリアフリーについてレポートにまとめ授業時に提出 |
| 第9回 | 9 介護予防～総合型支援事業～ | (学修内容) 1 介護保険の変遷 2 事前課題の口頭発表 3 居場所づくり 4 生活支援と介護予防 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後 総合型支援事業について調べ3分間で口頭発表 事後 居場所づくりについてレポートにまとめ授業時に提出 |
| 第10回 | 10 介護予防～介護予防運動の実際～ | (学修内容) 1 介護予防とは 2 事前課題の口頭発表とディスカッション 3 フレイルとロコモ、サルコペニア 4 ペアワークで生活における体の動きを体験 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 居住地区の介護予防事業について調べ3分間で口頭発表 事後 体の動きと生活についてレポートにまとめ授業時に提出 |
| 第11回 | 11 生活支援～入所・通所施設の活動～ | (学修内容) 1 入所施設と地域連携 2 事前課題の口頭発表とディスカッション 3 通所施設の活動プログラム 4 活動の素材を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 地域の高齢者施設について調べ3分間の口頭発表 事後 活動の素材の理解についてレポートにまとめ授業時に提出 |
| 第12回 | 12 生活支援～家族・地域の関わり～ | (学修内容) 1 介護と家族 2 事前課題口頭発表とディスカッション 3 認知症カフェ・注文を間違えるカフェ 4 事業の企画・運営 5 事業の成功と失敗 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 認知症カフェについて調べ3分間の口頭発表 事後 事業支援の方法についてレポートにまとめ授業時に提出 |
| 第13回 | 13 生活支援～災害時の備え～ | (学修内容) 1 阪神・新潟・東日本・熊本・北海道地震からの学び 2 事前課題の口頭発表とディスカッション 3 災害時のライフライン 4 防災から減災へ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 地域の防災活動について調べ3分間の口頭発表 事後 災害からの学びについてレポートにまとめ授業時に提出 |
| 第14回 | 14 生活支援～HUGを体験する～ | (学修内容) 1 非難所運営 2 事前課題の口頭発表とディスカッション 3 HUG(非難所運営ゲーム) 4 情報収集と判断 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 AIと介護について調べ3分間の口頭発表 事後 HUGからの学びについてレポートにまとめ授業時に提出 |
| 第15回 | 15 生活支援～ICTの活用とAI、実技試験～ | (学修内容) 1 ICTを活用した介護 2 実技試験 3 AIと介護 4 最後のひととき (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 ICTを活用した介護支援について調べ3分間で口頭発表 事後 授業をまとめ試験レポートに活用す |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 生活支援技術 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Livelihood Support Skills | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 鈴木 みどり | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>多様な住まいにおいて、住まいにおける安心・快適な室内環境の確保のための居住環境の整備について理解する。また福祉用具の機能を理解し、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する技術を学び、これまでの暮らしを継続させるための視点や工夫を学ぶ。</p> <p>実際に福祉用具を使用しながら体験的に学ぶ。また、多様な福祉用具の機能と活用方法を理解するために見学実習を行う。グループワークやディスカッションを行いながら授業を進める。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 快適な生活環境を整備するためのアセスメントができる。</p> <p>2) 対象者の能力に応じた福祉用具を選択することができる。</p> <p>3) 多様な住まい方を理解することができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力 (| 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テ キ ス ト | 新・介護福祉士養成講座 『生活支援技術』 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業にて指示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたレポートについては、コメントを付けて返却します。口述については、その都度コメントを返します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 自分が車椅子で生活しているならば、どんなことがバリアになるか・生活している環境の中で想像してみてください。バリアフリーやユニバーサルデザインも気にしてみてください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | <p>実践的教育 教員の実務経験など：福祉用具販売・レンタル、リフォームの会社の代表取締役。福祉用具専門相談員・2級建築士の実務経験をもちに多様な住まいや住環境整備、福祉用具についてお話しします。</p> | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 生活支援技術 | |
|---------|--|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 授業の概要説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておくこと |
| 第2回 | 自立に向けた居住環境の整備：居住環境の整備の意義と目的 | (学修内容) 住まいの役割や居住環境整備の身体的・心理的・文化的意義と目的について理解できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、もし自分が高齢者で動作がしにくい場合に自宅内でのバリアになる事を書き出す |
| 第3回 | 自立に向けた居住環境の整備：高齢者の多様な住まい 高齢者施設（従来型・ユニット型）について | (学修内容) 高齢者施設（従来型・ユニット型）について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、高齢者施設（従来型・ユニット型）についてレポートにまとめて提出する |
| 第4回 | 自立に向けた居住環境の整備：高齢者の多様な住まい サービス付高齢者向け住宅について | (学修内容) サービス付高齢者向け住宅について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、サービス付高齢者向け住宅についてレポートにまとめて提出する |
| 第5回 | 自立に向けた居住環境の整備：高齢者の多様な住まい 有料老人ホームについて | (学修内容) 有料老人ホームについて理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、有料老人ホームについてレポートにまとめて提出する |
| 第6回 | 自立に向けた居住環境の整備：住まいの変遷と住居の維持管理や災害に対する備えについて | (学修内容) 住居の維持管理や災害に対する備えについて理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、住居の維持管理や災害に対する備えについてレポートにまとめて提出する |
| 第7回 | 自立に向けた居住環境の整備：居住環境のアセスメント | (学修内容) 利用者の状況・状態に応じた居住環境のアセスメントを事例を通じて理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、利用者の状況・状態に応じた居住環境についてレポートにまとめて提出する |
| 第8回 | 自立に向けた居住環境の整備：居住環境のアセスメントと計画 | (学修内容) 利用者の状況・状態に応じた居住環境のアセスメントと改善計画をグループワークをして理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、アセスメントと改善計画をしてみの気づきをレポートにまとめて提出する |
| 第9回 | 福祉機器の意義と活用：福祉用具の概念と目的 | (学修内容) 福祉用具活用の意義と目的、福祉用具の分類や介護ロボットについて理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、身近にある福祉用具を書き出しておく |
| 第10回 | 福祉機器の意義と活用：利用者の能力に応じた福祉用具の機能と活用方法（ベッド関連・排泄関連・入浴関連他） | (学修内容) 福祉用具の機能やそれぞれのメリット・デメリットについて理解する（ベッド関連・排泄関連・入浴関連他） (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、福祉用具（ベッド関連・排泄関連・入浴関連他）のそれぞれの機能についてレポートにまとめて提出する |
| 第11回 | 福祉機器の意義と活用：利用者の能力に応じた福祉用具の機能と活用方法（移動移乗関連・コミュニケーション関連・自助具他） | (学修内容) 福祉用具の機能やそれぞれのメリット・デメリットについて理解する（移動移乗関連・コミュニケーション関連・自助具他） (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、福祉用具（移動移乗関連・コミュニケーション関連・自助具他）のそれぞれの機能についてレポートにまとめて提出する |
| 第12回 | 福祉機器の意義と活用：福祉用具見学 | (学修内容) 福祉用具の体験をしながら理解を深める (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、福祉用具体験を通じて学んだことや感じたことをレポートにまとめて提出する |
| 第13回 | 福祉機器の意義と活用：制度の利用 | (学修内容) 介護保険や障害者総合支援法の下での福祉用具と住宅改修 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、介護保険下での福祉用具と住宅改修についてレポートにまとめて提出する |
| 第14回 | 福祉機器の意義と活用：リスクマネジメント | (学修内容) 福祉用具のリスクとリスクマネジメントについてグループディスカッションを通じて理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、福祉用具のリスクマネジメントについて気づきをレポートにまとめて提出する |
| 第15回 | 福祉機器の意義と活用と自立に向けた居住環境の整備のまとめ | (学修内容) 事例を通して福祉用具導入や住環境改善にあたり、多職種連携や状態の変化に気づくことの大切さを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、福祉用具導入や住環境改善にあたり連携する職種を書き出しておく |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------------|------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 介護技術 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Nursing Care Work Skills | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 木村 あい | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>科学的根拠を踏まえながら、居住環境の整備、移動の介護、身支度の介護技術を実践する。学生自身が援助者・モデルになり、利用者の気持ちの理解を深める。また、利用者の気持ちを知ること、介護実践に活かせるよう工夫をする。</p> <p>ICFの視点に基づいたアセスメントを行い、対象者の能力を活用・発揮できるようからだの動きを理解した上で、基本的な介護技術を学ぶ。また、住環境や最新の福祉用具を学ぶために、フィールドワークとしてバリアフリー展に参加する。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>介護実践の根拠を説明できる 基本的な介護技術を身につける。 される側(介助を受ける側)の気持ちを理解できる</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 新・介護福祉士養成講座 『生活支援技術』中央法規 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 適宜紹介する | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 次の授業時にフィードバックを行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 予習・復習をしっかりと行ってください。 介護技術を実践しますので、上靴と動きやすい服装を準備してください。授業内で確認します。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 初回の授業で説明する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | <p>実践的教育 教員の実務経験など：障害者の入所施設で生活指導員として勤務 シリアダマスカス脳性麻痺教育センターに青年海外協力隊員として派遣</p> | | | | | | | | |

| 授業名 | 介護技術 | |
|------|--|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 介護技術の進め方と考え方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認しておくこと |
| 第2回 | 自立に向けた環境の整備 | (学修内容) 住環境の意義、居住環境のアセスメント、掃除について フィールドワーク、バリアフリー展に参加 (事前事後学修課題の内容) (60分) 住環境の意義、居住環境のアセスメント、掃除の予習をしておくことノートをまとめておく |
| 第3回 | 自立に向けた環境の整備 シーツ交換 | (学修内容) シーツ交換、物品整理について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめとシーツ交換、物品整理予習 |
| 第4回 | 自立に向けた移動の介護 移動の意義と目的、ボディメカニクス | (学修内容) 移動の意義と目的、ボディメカニクスについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめと移動の意義と目的、ボディメカニクスの予習 |
| 第5回 | 自立に向けた移動の介護 ICFの視点に基づくアセスメントと移動・移乗の介護 | (学修内容) ICFの視点に基づくアセスメントと移動・移乗の介護について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習 |
| 第6回 | 自立に向けた移動の介護 ベッド上での移動 | (学修内容) 安全で的確な移乗・移動の介助方法 ベッド上での移動について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習とベッド上での移動の予習 |
| 第7回 | 自立に向けた移動の介護 車いすへの移乗 | (学修内容) 安全で的確な移乗・移動の介助方法 車いすへの移乗について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と車いすへの移乗の予習 |
| 第8回 | 自立に向けた移動の介護 福祉用具を活用した移乗 | (学修内容) 安全で的確な移乗・移動の介助方法 福祉用具を活用した移乗について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と福祉用具を活用した移乗の予習 |
| 第9回 | 自立に向けた移動の介護 歩行等移動 | (学修内容) 安全で的確な移乗・移動の介助方法 歩行等移動について 車いすや杖での外出支援の実習を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と歩行等移動の予習 |
| 第10回 | 自立に向けた身支度の介護 生活習慣と装いの楽しみを支える介護 | (学修内容) 生活習慣と装いの楽しみを支える介護について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と生活習慣と装いの楽しみを支える介護について教科書を読んでおく |
| 第11回 | 自立に向けた身支度の介護 整容 | (学修内容) 整容(爪きり、化粧、髭剃り、洗顔、整髪、耳掃除等)について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と整容についての予習 |
| 第12回 | 自立に向けた身支度の介護 衣服の着脱 | (学修内容) 衣服の着脱について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と衣服の着脱についての予習 |
| 第13回 | 自立に向けた身支度の介護 衣服(着物)の着脱 | (学修内容) 衣服(着物)の着脱と着物のたたみ方について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と衣服(着物)の着脱と着物のたたみ方 |
| 第14回 | 演習課題 事例 | (学修内容) 事例をもとにアセスメントし介護技術を実践する (事前事後学修課題の内容) (120分) 前回までの復習 |
| 第15回 | 総括 | (学修内容) 全15回の授業の振り返り (事前事後学修課題の内容) (120分) 復習 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-------------|--------------------------|-----------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 介護技術 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Nursing Care Work Skills | | | 開講時期 | 春学期 | | 必修選択 | 必修 | |
| 担当者 | 高岡 理恵 | | | 対象学生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | 対象者の能力を活用し、自立を支援するための生活支援技術（食事・排泄・清潔保持）の基本を習得する。自分が行った技術について、科学的に説明できる能力を身につけるための学習とする。 この授業は、2コマを利用し、理論と実践を行う。実践については、学内で自分自身が対象者になる実体験を行うとともに、協力施設に向いて行うこともある。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 基本的な生活支援技術を身につける 2) 実践の根拠について説明できる。 3) 介護を受ける側の気持ちを理解できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業） | | グループワーク ICT活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 | | |
| テキスト | 新・介護福祉士養成講座「生活支援技術」、中央法規 | | | | | | | | |
| 参考書 | 適宜紹介する | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 毎回行う小テストは、確認後コメントをいれて返却を行う。 提出されたレポート等においても同様。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | なぜ、この方法をとっているのかということを常に頭におきながら介護技術を行ってください。 実践時には、メモを取りながら積極的に見学を行ってください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 水曜日 12:10~12:50 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 介護技術 | |
|---------|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス 自立にむけた食事の介護 食事介助の意義と目的 | (学修内容) 授業の概要説明、食事介助の社会・文化的意義、身体的、心理的意義について、また食事を行う際の視点について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前 シラバスを読んでおくこと |
| 第2回 | 自立にむけた食事の介護 食事介助の基本 | (学修内容) 「食べる」ための準備、環境整備を行い、介護技術を実践(実習)する (事前事後学修課題の内容)(45分) 後 テキストテキストp 2～40でわからない語句を調べノートにまとめ提出する |
| 第3回 | 自立にむけた食事の介護 用具の選択と食事形態 | (学修内容) 食事に必要な様々な用具を見学し、食事形態(とろみ、ミキサー等)を試食し、口から食べる意味について考える。外出し見学実習を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 後 見学実習した中からの気づきや感想をレポートにする |
| 第4回 | 自立にむけた食事の介護 用具の選択と食事形態の振り返り 食事後の口腔ケア | (学修内容) 見学実習レポートをもとに振り返り、ディスカッションを行う。食事後の口腔ケアの意義や目的、方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 後 テキストp41～80でわからない語句を調べノートにまとめ提出する |
| 第5回 | 自立にむけた食事の介護 心身の状態に応じた食事介助 | (学修内容) 見学実習を行い、配膳、食事、下膳の様子を知る。一人の人を対象にし、その人の心身状態を観察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 後 心身状態に応じた食事場面を観察したことをレポートにまとめる |
| 第6回 | 自立にむけた食事の介護 心身の状態に応じた食事介助の振り返り 自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔の介護の意義と目的 | (学修内容) レポートをもとに食事介護を振り返りディスカッションを行う。 入浴・清潔保持の意義、視点について理解する (事前事後学修課題の内容)(45分) 後 テキストp81～150でわからない語句を調べノートにまとめ提出する |
| 第7回 | 自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の基本的介護 | (学修内容) 「清潔保持」ための準備、環境整備を行い、介護技術を実践(実習)する。足浴、手浴の実践 (事前事後学修課題の内容)(45分) 後 テキストp 151～220でわからない語句を調べノートにまとめ提出する |
| 第8回 | 自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の基本的介護 入浴におけるリスクとリスクマネジメント | (学修内容) 「清潔保持」を行うための準備、環境整備を行い、介護技術を実践する 全身清拭の実践 洗髪の実践入浴における事故とその対応を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 後 テキストp221～270でわからない語句を調べノートにまとめ提出する |
| 第9回 | 自立にむけた入浴・清潔保持の介護 心身の状態に応じた入浴・清潔保持の介護 特殊入浴を行う利用者 | (学修内容) 見学実習を行い、特殊入浴の様子を知る。一人の人を対象にし、その人の心身状態を観察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 後 心身状態に応じた入浴場面を観察したことをレポートにまとめる |
| 第10回 | 自立にむけた入浴・清潔保持の介護 心身の状態に応じた入浴・清潔保持の介護 一般浴を行う利用者 | (学修内容) 見学実習を行い、一般入浴の様子を知る。一人の人を対象にし、その人の心身状態を観察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 後 心身状態に応じた入浴場面を観察したことをレポートにまとめる |
| 第11回 | 自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の介護振り返り 自立にむけた排泄の介護 排泄介護の意義と目的 | (学修内容) レポートをもとに入浴介護を振り返りディスカッションを行う。 排泄介護の意義について、また、視点について理解する (事前事後学修課題の内容)(45分) 後 テキストp271～330でわからない語句を調べノートにまとめ提出する |
| 第12回 | 自立にむけた排泄の介護 排泄の基本的介護 | (学修内容) 「排泄介護」を行うための準備、環境整備を行い、介護技術を実践する 用具を使用した排泄介護(ポータブルトイレ、便尿器、おむつ) (事前事後学修課題の内容)(45分) 後 テキストp310～でわからない語句を調べノートにまとめ提出する |
| 第13回 | 自立にむけた排泄の介護 心身の状態に応じた排泄介護 | (学修内容) 後 見学実習を行い、排泄介護の様子を知る。一人の人を対象にし、その人の心身状態を観察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 後 心身状態に応じた排泄場面を観察したことをレポートにまとめる |
| 第14回 | 自立にむけた排泄の介護 介護技術の振り返り | (学修内容) レポートをもとに入浴介護を振り返る。ストマのある方の対応について学ぶ。今まで学んだ介護技術の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前 実技テストの準備として練習を行う |
| 第15回 | 実技テストと振り返り | (学修内容) 実技テストを行い、その後振り返りディスカッションを行う。なぜその方法をとったのかということの説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 後 実技テストに必要な知識について用紙にまとめ提出する |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 介護技術 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Nursing Care Work Skills | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 高岡 理恵 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | 対象者の能力を活用し、対象者の状態・状況に応じた自立を支援するための生活支援技術（休息・睡眠）、医療との連携や人生の最終段階の経過に沿った介護方法を習得する。また、実践の根拠について説明できる能力を身につける。この授業は、2コマ連続で、理論と実技を行う。介護技術の総まとめであるので、しっかり受講してください。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 医療との連携の中で介護福祉士の役割を理解し、言語化することができる 基本的な介護技術が一人で習得できる 実践の根拠について説明できる | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 新・介護福祉士養成講座「生活支援技術」中央法規 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 宮崎総一郎・佐藤尚武『睡眠と健康』、放送大学教育振興会、2013 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 見学実習のレポートについては、コメントを入れて返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 施設での実践時には、メモを取りながら積極的に見学を行ってください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ウ ー | 水曜日 12:10~12:50 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 学修項目 | 学修内容・課題 |
|---------|---|---|---------|
| 授 業 計 画 | | | |
| 第1回 | ガイダンス 休息・睡眠の介護 | (学修内容) 実習から得た学び(介護技術)を振り返りディスカッションを行う 休息・睡眠の意義と介護の視点について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 前 実習で学んだことについて(介護技術)まとめて発表できるようにしておく | |
| 第2回 | 休息・睡眠の介護 安眠を阻害する要因 | (学修内容) 生活習慣と睡眠の関係について学ぶとともに褥そうへの予防を考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 前 配布した資料を読み整理しておく | |
| 第3回 | 休息・睡眠の介護 安眠を促す介護 | (学修内容) 室内環境や寝具の選択について学ぶ リラクゼーションの方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 前 自分自身の睡眠環境についてまとめる | |
| 第4回 | 休息・睡眠の介護 休息・安眠につながる介護の工夫 | (学修内容) 電法の意義と方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 後 今日学んだ内容についてレポート提出 | |
| 第5回 | 休息・睡眠の介護 心身の状態に応じた休息・睡眠の介護 リラクゼーション | (学修内容) 見学実習を行い、休息・睡眠の様子を知る。 実際にリラクゼーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 後 リラクゼーションを通して考察をレポートにする | |
| 第6回 | 休息・睡眠の介護 心身の状態に応じた休息・睡眠の介護 環境整備 | (学修内容) 見学実習を行い、休息・睡眠の様子を知る。 実際に環境整備を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 後 環境整備を通して考察をレポートにする | |
| 第7回 | 休息・睡眠の介護 医療と介護 介護福祉士と医療行為、医療的ケア | (学修内容) レポートをもとに休息・睡眠の介護を振り返りディスカッションを行う 医師法第17条に基づく内容の理解を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 後 医師法第17条を読み介護福祉士の行う医療的ケアの意味を考える | |
| 第8回 | 医療と介護 薬剤使用 | (学修内容) 介護福祉士が行う薬剤使用の意味と方法、留意点について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 前 配布した資料を読み整理しておく | |
| 第9回 | 医療と介護 緊急時の対応 | (学修内容) 異常時の発見と緊急時の対応について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 前 屋内外における事故について調べておく | |
| 第10回 | リラクゼーションの実践 | (学修内容) 東山ふれあい広場にてリラクゼーションとコミュニケーションの実践を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 後 実践レポートを書き提出する | |
| 第11回 | 実践の振り返り 人生の最終段階における介護 | (学修内容) 人生の最終段階の意義とその段階にある人への介護の視点 臨終に向かうプロセスと生活支援について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 前 デスカンファレンスの意味、方法について調べてくる | |
| 第12回 | 人生の最終段階における介護 | (学修内容) 死後のケアと家族への対応について理解する (事前事後学修課題の内容)(45分) 前 グリーフケアの意味を調べてくる | |
| 第13回 | 知識と技術の統合 介護技術のまとめ | (学修内容) 介護技術の総復習を行い、自身で介護技術試験の作成を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 前 作成に必要な根拠となる資料を集めておく | |
| 第14回 | 知識と技術の統合 介護技術試験の作成 | (学修内容) 介護技術試験を作成する (事前事後学修課題の内容)(60分) 前 作成に必要な根拠となる資料を集めておく | |
| 第15回 | 知識と技術の統合 介護技術試験発表と振り返り | (学修内容) 介護技術試験の発表を行い内容を振り返りディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 後 行ったあとの振り返りをレポートにして提出する | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|---|
| 授業名 | 介護過程 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Nursing Care Process I | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 必修 | | |
| 担当者 | 高岡 理恵 | | | 対象学生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。介護過程では、対象者との関係を構築することから始まる。利用者を知るために情報を集め、情報が意味することを解釈・分析を行い課題を見出し、課題解決にむけて介護実践の方法を計画的に進め、評価・修正するという思考過程を身につけます。</p> <p>介護福祉士が行う介護とはこの思考過程の有無に左右されるほど大切な授業です。主にディスカッションを行うながら進めていきます。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実践における介護過程の意義を理解し、介護過程を展開するための一連のプロセスと視点を説明できる。 2. アセスメントの意義を理解し、なぜその目標をおいたのかを科学的に説明することができる。 3. 利用者と家族への説明と同意が、職業倫理に基づいた重要事項であることを理解し事例に活かすことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業） | | グループワーク ICT活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テキスト | 適宜、プリントを配布します。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 上田敏『ICFの利用と活用』萌文社 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出された作成物は確認後、返却を行います。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | この科目は利用者を理解したいという思いから始まります。単に課題を行わなければならないという視点ではなく、この人はどういう生活を望んでいるのだろうかという視点を大切にしてください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 水曜日 12:10~12:50 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務 | | | | | | | | |

| 授業名 | 介護過程 | |
|------|-----------------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス 介護過程の展開を学ぶ前に | (学修内容) 授業の概要説明。無意識な行動を意識化するワークを行い、意識化を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 シラバスを読んで理解する |
| 第2回 | 介護過程の意義と基礎的理解 介護過程の意義・目的、プロセス | (学修内容) 介護過程とは何か、本人の望む生活の実現と科学的な思考過程に基づく実践の理解を学ぶ。介護過程のプロセスを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後 ICFとICIDHについて調べる |
| 第3回 | 介護過程の意義と基礎的理解 ICFの理解 | (学修内容) ICIDHからICFへの変遷を知り、障害のとらえ方を学ぶ 調べてきたことについてディスカッションを行いながら進める (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 ICFについて事例を出し説明できるようにする |
| 第4回 | 介護過程の展開方法 ニーズをとらえる技法、コミュニケーション | (学修内容) アセスメントの意味を理解し、ニーズをとらえる技法としてのコミュニケーションについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 教員の情報を収集する(10回目までの継続した課題) |
| 第5回 | 介護過程の展開方法 ニーズをとらえる技法、観察 | (学修内容) アセスメントの意味を理解し、ニーズをとらえる技法としての観察方法について学ぶ。映像を観察し、情報収集を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 授業で行った観察をICFに分類しまとめる |
| 第6回 | 介護過程の展開方法 ニーズをとらえる技法、傾聴 | (学修内容) 宿題である分類箇所についてディスカッションを行いながら進める ICFに分類した情報の確認、生情報の意味について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 観察ノートを提出できるようにまとめる |
| 第7回 | 介護過程の展開方法 ニーズをとらえる技法、測定 | (学修内容) アセスメントの意味を理解し、ニーズをとらえる技法としての測定(客観的)について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 対象を決め、測定を行う |
| 第8回 | 介護過程の展開方法 情報の統合と分析 | (学修内容) 事例を使用し、情報の統合と科学的根拠をもとに分析する意味と方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事後 マズローの欲求階層論についてまとめてくる |
| 第9回 | 介護過程の展開方法 ニーズの意味とニーズの優先 | (学修内容) ニーズの意味を理解し、マズローの欲求階層論等からニーズの優先度の視点について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 自己の目標を設定する |
| 第10回 | 介護過程の展開方法 生活課題と支援目標 | (学修内容) 宿題である自己の目標をみながら、ディスカッションしながら目標の設定、設定時の留意点、見直し方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 自己の目標が可能になるための計画を作成する |
| 第11回 | 介護過程の展開方法 計画と実施 | (学修内容) 介護計画の視点と留意点、書き方及び実施後の記録方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 評価の種類について調べる |
| 第12回 | 介護過程の展開方法 評価とは | (学修内容) 調べてきた内容をもとに、評価の意味、時期、評価方法についてディスカッションしながら学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 宿題である教員の情報収集をまとめてくる |
| 第13回 | 事例を用いた情報収集と分析 | (学修内容) 宿題である情報収集を用いてICFに分類する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 足りない情報を収集する 分析に必要な資料を集めておく |
| 第14回 | 事例を用いた目標設定と計画 | (学修内容) 情報の分析、目標設定および計画を作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 授業時間にできなかったものについて仕上げる |
| 第15回 | 介護サービス計画(ケアプラン)との関係 | (学修内容) 介護サービス計画と介護過程の関係について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 ケアプランについて調べてくる |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|-------------------------|----------------------------|-----------------|------------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 介護過程 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Nursing Care Process | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 金澤 美穂子 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | 利用者の望む生活の実現のためには、利用者ひとりひとりの生活上の課題を明確にし、根拠に基づいた介護実践が求められる。この授業では、その課題を解決していく介護過程について、事例を通して学んでいく。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1)介護過程の全体像を説明できる。 2)介護過程の各プロセスの思考方法を理解できる。 3)事例において、介護過程の展開を実施できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (思考・判断力) | プレゼンテーション能力 () | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 介護福祉士養成講座編集委員会編 最新・介護福祉士養成講座 介護過程 中央法規 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 大川弥生 「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用 中央法規 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出された課題は、コメントをつけて返却する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 授業で使用したプリントや作成したシートなどは、毎回持参してください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉法人洛東園 特別養護老人ホーム洛東園 介護職員・介護支援専門員として勤務 | | | | | | | | |

| 授業名 | 介護過程 | |
|------|--|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション 介護過程の意義と目的 | (学修内容) 授業概要の説明 介護過程の意義と目的を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) シラバスを確認しておいてください。 テキスト 第1章を読んでおいてください。 |
| 第2回 | 介護過程の全体像 | (学修内容) 介護過程の全体像、各プロセスの思考方法を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト 第2章第1節、2節を読んでおいてください。 |
| 第3回 | アセスメント 情報収集 | (学修内容) 情報収集における視点を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト 第2章第3節を読んでおいてください。 |
| 第4回 | アセスメント 情報の解釈、関連付け、統合、生活上の課題 | (学修内容) アセスメントにおける専門的諸知識の統合について (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト 第2章第4節を読んでおいてください。 |
| 第5回 | 施設で生活する利用者の事例検討 1 情報収集 | (学修内容) 事例を通して情報収集を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布した事例を読んでおいてください。 |
| 第6回 | 施設で生活する利用者の事例検討 2 情報の整理、全体像 | (学修内容) グループワークを通してさらに情報収集を進め、対象の全体像を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回作成した情報収集を整理しておいてください。 |
| 第7回 | 施設で生活する利用者の事例検討 3 情報の解釈、関連付け、統合、生活上の課題 | (学修内容) 整理した情報に他の科目で学習した知識を活用し、解釈、関連付け統合をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 整理した情報の中にある語句を説明できるように調べておいてください。 |
| 第8回 | 施設で生活する利用者の事例検討 4 介護目標・計画立案 | (学修内容) 介護目標の設定方法、計画立案の方法を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回作成したアセスメントシートを読んでおいてください。 テキスト 第2章 第5節を読んでおいてください。 |
| 第9回 | 施設で生活する利用者の事例検討 5 実施・評価 | (学修内容) 実施における留意点、記録の方法を理解する。 評価における留意点を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト 第2章 第6節、第7節を読んでおいてください。 |
| 第10回 | 在宅で生活する利用者の事例検討 1 情報収集 | (学修内容) 事例を通して情報収集を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布した事例を読んでおいてください。 |
| 第11回 | 在宅で生活する利用者の事例検討 2 情報の整理、全体像 | (学修内容) グループワークを通してさらに情報収集を進め、対象の全体像を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回作成した情報収集を整理しておいてください。 |
| 第12回 | 在宅で生活する利用者の事例検討 3 情報の解釈、関連付け、統合、生活上の課題 | (学修内容) 整理した情報に他の科目で学習した知識を活用し、解釈、関連付け統合をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 整理した情報の中にある語句を説明できるように調べておいてください。 |
| 第13回 | 在宅で生活する利用者の事例検討 4 介護目標・計画立案 | (学修内容) 介護目標の設定方法、計画立案の方法を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 在宅で利用できる様々なサービスについて調べておいてください。 テキスト 第2章 第5節を読んでおいてください。 |
| 第14回 | 在宅で生活する利用者の事例検討 5 実施・評価 | (学修内容) 実施における留意点、記録の方法を理解する。 評価における留意点を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト 第2章 第6節、第7節を読んでおいてください。 |
| 第15回 | 介護過程の実際 総括 | (学修内容) 介護老人福祉施設で実践された介護過程の展開について (事前事後学修課題の内容) (60分) 介護過程のそれぞれのプロセスの復習をしておいてください。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 介護過程 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Nursing Care Process | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 高岡 理恵 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法が理解できることを目的とします。</p> <p>夏季実習で行った介護過程の展開を見直し、上記の目的と照らし、自身に必要な学びを深める授業となります。</p> <p>個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるように、この授業においては、事例を使用し、介護過程の展開を行います。</p> <p>介護過程の展開を行うためには、科学的根拠が必要となるため、様々な知識を必要とするので、授業以外にもおおいに専門書を読んでください。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1. チームとして介護過程を展開することの意義を理解できる</p> <p>2. 対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開ができる</p> <p>3. 介護過程の展開について、人に説明することができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 授業内容に沿ったワークシートと資料を必要に応じて配布する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 適宜、紹介します | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 課題（事例）は確認後、コメントをいれ返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | <p>テキストで紹介されている考え方や他の人の考えに左右されず、自分の考えや視点を明らかにし、その考えをわかりやすく人に説明できるようにしてください。</p> <p>特に、介護過程では人間科学の視点が大きくその人に影響しますので、テキスト以外の本も参考にしてください。</p> | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ウ ー | 水曜日12：10～12：50 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | <p>実践的教育</p> <p>教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務</p> | | | | | | | | |

| 授業名 | 介護過程 | |
|------|----------------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス 介護過程とチームアプローチ1 | (学修内容) 夏季実習で行った介護過程の展開を再確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 再確認に必要な資料(指導者やチームからのコメント等)を集める |
| 第2回 | 介護過程とチームアプローチ2 他の専門職のケアとの関係性 | (学修内容) 介護過程を行う上でのチームとチームアプローチについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 夏季実習で行った介護過程の展開を他の専門職のケアとの関係性から再確認し、根拠に必要な資料を集める |
| 第3回 | 介護過程とチームアプローチ3 チームとしての介護過程の展開 | (学修内容) チームの目標設定とチームケアの必要性について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 夏季実習で行った介護過程の展開をチームで共有するための資料として必要な資料を集める |
| 第4回 | 介護過程とチームアプローチ4 カンファレンス | (学修内容) 夏季実習で行った介護過程の展開を再確認したものを資料をもとにカンファレンスを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 発表後の教員からのコメント等を踏まえレポートにする |
| 第5回 | 介護過程の展開の理解1 事例理解 | (学修内容) 事例の確認を行い、介護過程の展開の方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 情報の読み込みに必要な資料を集める |
| 第6回 | 介護過程の展開の理解2 ICFの観点を考える | (学修内容) 事例からICFへの分類を行い、ICFの理解を深める (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 ICFについて復習しておく |
| 第7回 | 介護過程の展開の理解3 統合・分析 | (学修内容) 事例をもとに情報を統合し分析を行い、分析に必要な知識を再確認する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後 分析に必要な資料を集める |
| 第8回 | 介護過程の展開の理解4 ニーズの抽出と優先 | (学修内容) 事例からニーズを抽出しニーズの考え方、利用者主体について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 マズローの欲求段階を復習しておく |
| 第9回 | 介護過程の展開の理解5 目標設定 | (学修内容) 事例からその人の望む目標設定の考え方について学ぶ。短期目標、長期目標を考えたを確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後 分析から目標までを模造紙にまとめる |
| 第10回 | 介護過程の展開の理解6 計画策定 | (学修内容) 優先順位の高い目標設定を行い、それが可能になるための計画を策定する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後 計画に必要な内容をまとめ模造紙にまとめる |
| 第11回 | 介護過程の教授法1 介護過程の振り返り | (学修内容) 介護過程の振り返りを行い、ひとつひとつの意味の言語化を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 介護過程を教えるために必要な資料として、今までに配布した資料、参考になる図書をまとめ持参する |
| 第12回 | 介護過程の教授法2 レジユメの作成 | (学修内容) 介護過程を教えるため(言語化)にディスカッションを行いながら必要なレジユメの作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後 時間内でできなかった箇所について計画をたてて行く |
| 第13回 | 介護過程の教授法3 レジユメの作成と指導 | (学修内容) 介護過程を教えるため(言語化)に必要なレジユメを作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後 レジユメを最後まで完成させる |
| 第14回 | 介護過程の教授法4 レジユメを使った発表 | (学修内容) レジユメを使って発表準備を行う (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前 発表に必要な物品等の準備を行う |
| 第15回 | 介護過程の教授法5 介護過程の展開についての発表 | (学修内容) 介護過程の教授法をプレゼンテーションする (事前事後学修課題の内容) (90分) 事後 発表を行い、事後指導された内容を含め振り返りしたものをレポートにして提出する |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 介護総合演習 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Nursing Care Practce I | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 必修 | | |
| 担当者 | 高岡 理恵 | | | 対象学生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。介護実習の教育効果を高めるため、介護実習に向けての心がまえ、動機付け、事前の実習する施設や事業所についての理解等の準備を行うとともに、その他介護実習に必要な知識・技術・態度等について習得することをねらいとする。講義を中心とするが、ディスカッションを通し、理解を深められるように進めていく。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>介護実習の目的や目標を理解し、それらに必要な事前の準備及び学習をすることができる 介護福祉士の職務について理解し、言語化することができる 実習のイメージを膨らませ、自身の実習目標や学習課題を言語化・明確化できる</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 | | |
| テキスト | 新・介護福祉士養成講座『介護総合演習』、中央法規 | | | | | | | | |
| 参考書 | 社会福祉小六法 是枝祥子他『介護職のための根拠に基づいた記録の書き方』エルゼビアジャパン、2006 福祉用語辞典 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 授業内レポートは確認後添削を行い返却する。実習目標、実習記録、プロセスレコード等の実習課題についても同様である。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 実習先では、知識や技術と同様、利用者や職員とのコミュニケーションや誠実な態度が求められます。授業においても積極的に教員とコミュニケーションをとるようにしてください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 水曜日 12:10~12:50 必要なときにはGメールを活用して連絡してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務 | | | | | | | | |

| 授業名 | 介護総合演習 | |
|------|--|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス 介護実習の概要 1 | (学修内容) 教員紹介、シラバスを見ながら授業の内容を確認する。 介護実習の全体概要を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 配布した資料を読んでおく |
| 第2回 | 介護実習の基本的理解 2 介護実習の位置づけ 介護総合演習の位置づけ | (学修内容) 介護福祉士カリキュラムにおける介護実習の位置づけについて学ぶ 介護実習の種類について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後 配布した資料(介護実習の意義と目的)を読み、内容を省察できるようにする |
| 第3回 | 介護実習の基本的理解 3 介護実習の意義と目的 | (学修内容) 介護実習の意義と目的についてディスカッションしながら学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事後 特別養護老人ホーム、老人保健施設の基本的な理解ができるよう法的根拠を理解してくる |
| 第4回 | 介護実習の場の理解 1 入所施設の理解(高齢) | (学修内容) 映像を利用し、特別養護老人ホーム、老人保健施設の基本的な理解と利用者像について理解する。実習での学ぶべきポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事後 重症心身障害児施設の基本的な理解ができるよう法的根拠を理解してくる |
| 第5回 | 介護実習の場の理解 2 入所施設の理解(障がい) | (学修内容) 重症心身障害児施設の基本的な理解と利用者像について理解する。実習での学ぶべきポイントを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事後 ホームヘルプ事業、ショートステイの基本的な理解ができるよう法的根拠を理解してくる |
| 第6回 | 介護実習の場の理解 3 利用サービス事業所の理解(三本柱) | (学修内容) ホームヘルプ事業、ショートステイの基本的な理解と利用者像について理解する。実習での学ぶべきポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事後 小規模多機能型居宅介護、デイサービス事業の基本的な理解ができるよう法的根拠を理解してくる |
| 第7回 | 介護実習の場の理解 4 利用サービス事業所の理解(小規模多機能) | (学修内容) 小規模多機能型居宅介護、デイサービス事業の基本的な理解と利用者像について理解する。実習での学ぶべきポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事後 障がい者自立支援法に基づく施設の基本的な理解ができるよう法的根拠を理解してくる |
| 第8回 | 介護実習の場の理解 5 利用サービス事業所の理解(障がい者) | (学修内容) 障がい者自立支援法に基づく施設の基本的な理解と利用者像について理解する。実習での学ぶべきポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 配布した資料を読み、整理しておく |
| 第9回 | 事前学習の内容と方法 1 心構えと注意点 | (学修内容) 介護実習事前準備と事務手続きを行う。実習にあたっての心構え、注意点を再確認を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 介護実習に必要な事務手続きを行う |
| 第10回 | 事前学習の内容と方法 2 実習記録 | (学修内容) 実習記録の意義と目的、書き方について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後 映像をみて記録を書き提出する |
| 第11回 | 事前学習の内容と方法 3 プロセスレコード | (学修内容) プロセスレコードの書き方と活用法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (45分) 事後 どこかの時間の一部分をきりとってプロセスレコードを作成する 実習施設の概要について調べてくる |
| 第12回 | 事前学習の内容と方法 4 実習目標 | (学修内容) 夏季実習施設の基本的理解を行う。 自己の目標を明確化する (事前事後学修課題の内容) (45分) 事後 実習目標の下書きを行う |
| 第13回 | 事前学習の内容と方法 5 実習目標指導 | (学修内容) 個別指導 自己の目標を明確化したものを言語化しディスカッションを通し、実習目標を完成させる (事前事後学修課題の内容) (45分) 事後 実習目標を完成させる |
| 第14回 | 事前学習の内容と方法 6 介護過程の展開 | (学修内容) 介護過程の実践に必要な事前準備を行う。実習前に必要な記録物の確認及び作成を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 記録物の整理を行う |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 事前オリエンテーションの内容確認 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後 介護実習記録への書き込める事項を埋める |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 介護総合演習 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Nursing Care Practce | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 高岡 理恵 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。介護実習の効果をも高めるため、介護実習にむけての事前学習を行うとともに、介護実習を振り返り、介護の知識や実践と結び付けて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。また、質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義と、その方法について理解できることをねらいとする。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>介護の知識や技術を実践と結び付けることができる。 自己の課題を明確にし、言語化することができる。 エビデンスの構築につながる実践研究を行うことができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 新・介護福祉士養成講座『介護総合演習』、中央法規 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 適宜、紹介します | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 実習評価についてはルーブリックで示す。実習施設から返却された評価については個別面談にて評価を確認する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 介護福祉士養成の締めくくりとして、他の教科で学んだ内容と実習からの学びを統合し、実践研究を行います。エビデンスの構築につながるように、文献を収集し自主的に研究を行ってください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ウ ー | 水曜日 12:10~12:50 必要なときにはGメールを活用して連絡してください | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 介護総合演習 | |
|---------|---------------------------------|--|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | ガイダンス 介護実習事前準備 | (学修内容) 授業の進め方、11月実習の事前準備を行う。 ルーブリックを使用して自己評価を行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事後 カンファレンスの方法について調べてくる | |
| 第2回 | 実習の振り返り カンファレンスの方法 | (学修内容) カンファレンスの方法及び手続きを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後 夏季実習テーマ(2)を決め、振り返り資料を作成する。A4 1枚に1つのテーマ。 | |
| 第3回 | 実習の振り返り カンファレンス | (学修内容) 夏季実習についてのカンファレンスを行い、他者からの意見により自分自身の課題に気づく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 教員の質疑及び応答を含め夏季実習のまとめを作成する | |
| 第4回 | 実習に関する基礎知識 実習準備 | (学修内容) 実習施設決定と実習内容の理解をする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事後 実習施設の概要について調べてくる。資料持参すること。 | |
| 第5回 | 事前学習の内容と方法 実習施設の理解 | (学修内容) 客観的・主観的に夏季実習評価を行い、自己覚知を行う。 実習施設の概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習施設・事業所がある地域について調べてくる | |
| 第6回 | 事前学習の内容と方法 実習施設の場の特色(地域性の理解) | (学修内容) 実習施設・事業所がある地域の理解及び社会資源の理解をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後 自己の目標を明確化し、実習目標を下書きする | |
| 第7回 | 事前学習の内容と方法 実習目標 | (学修内容) 実習目標を明確にし、言語化できるようにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後 実習目標及び実習施設の概要を記録にまとめる | |
| 第8回 | 学内オリエンテーション | (学修内容) 施設・事業所の事前オリエンテーションの内容確認 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事後 介護実習記録に施設の概要等を記録する。 | |
| 第9回 | 実習帰校日 | (学修内容) 実習中における疑問等への対応 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後 テーマを決め、介護実習の振り返りを発表できるよう資料を作成する | |
| 第10回 | 実習の振り返り | (学修内容) 11月実習についてテーマを決めカンファレンスを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後 研究テーマを決める | |
| 第11回 | 介護実践探求 1 | (学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テーマに即した必要な文献等を収集する | |
| 第12回 | 介護実践探求 2 | (学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ。 文献の取り扱い方について理解する。11月介護実習評価を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料(研究方法)を読み研究を進める | |
| 第13回 | 介護実践探求 3 | (学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ 章立てに基づいて研究を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料(研究方法)を読み研究を進める | |
| 第14回 | 介護実践探求 4 | (学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ 発表資料を作成する (事前事後学修課題の内容) (120分) 配布した資料(研究方法)を読み研究を進める | |
| 第15回 | 介護実践探求 5 | (学修内容) 介護実践研究を発表する (事前事後学修課題の内容) (45分) 質疑応答した内容をまとめて提出する | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 発達と老化 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Development and Aging | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 中村 洋子 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を学習する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 人間の成長と発達の基礎的理解ができる。 老化に伴うこころとからだの変化と生活を理解ができる。 高齢者に多い疾病と症状を理解ができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 林 泰史他編「発達と老化の理解」（メヂカルフレンド社）最新版 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 鈴木隆雄他編「からだ年齢辞典」朝倉書店（2009年版） | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 毎回理解度テストを回収後、次週に解説を実施します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 人間の成長・発達なので、ライフサイクルすべての年齢層において、幅広く学ぶことが求められる。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業開始時、曜日時間を伝えますので、確認してください。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：市役所、医療少年院にて保健師として勤務。 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 学修項目 | 学修内容・課題 |
|---------|--------------------------------|--|---------|
| 授 業 計 画 | | | |
| 第1回 | オリエンテーション 高齢者を取り巻く現状・情勢 | (学修内容) 授業の目的・計画・内容・評価について 現在の厚生労働省に動きについて (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバス等を事前に確認しておくこと | |
| 第2回 | 発達段階別に見た成長と発達およびその課題 | (学修内容) 人間の成長と発達について、発達理論の紹介や各年代での発達課題について (事前事後学修課題の内容)(30分) 出生から高齢者までの発達課題を確認し、まとめておくこと (次回発表) | |
| 第3回 | ライフサイクルの中の老年期 | (学修内容) ライフサイクルの中の老年期とはどのような時期か 現代の高齢者の生きてきた時代について (事前事後学修課題の内容)(30分) 高齢者の生きてきた時代を調査し、表にしておくこと (次回発表) | |
| 第4回 | 高齢者に多い症状・病気(全般について) | (学修内容) 高齢者の病気の割合・症状の現れ方 高齢者に生じやすい症状や病気について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の該当箇所を確認しておくこと | |
| 第5回 | 加齢に伴う機能低下(呼吸器・消化器系の変化・泌尿器系の変化) | (学修内容) 呼吸器・消化器・泌尿器系の機能低下とは (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を理解しておくこと | |
| 第6回 | 加齢に伴う機能低下(感覚器およびその他の器官の変化) | (学修内容) 聴力・視力・歯科・皮膚の加齢に伴う変化について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の該当箇所を確認しておくこと | |
| 第7回 | 加齢に伴うこころの変化・神経系の変化 | (学修内容) 高齢者の心理的变化について、神経系の変化について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書及び配布資料を確認すること | |
| 第8回 | フレイル(虚弱)のメカニズムとは | (学修内容) フレイルが起こるメカニズムと日常生活での留意点 (事前事後学修課題の内容)(30分) フレイルガイドをまとめること。 (次回発表) | |
| 第9回 | 高齢者に多い疾病とその予防(高血圧) | (学修内容) 生活習慣病としての高血圧がもたらす影響とその予防について 脳卒中とは (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書を確認しておくこと。 | |
| 第10回 | 高齢者に多い疾病とその予防(糖尿病および合併症) | (学修内容) 最近特に急増している糖尿病とその合併症について 重症化予防の大切さについて (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料及び教科書の確認をしておくこと。 | |
| 第11回 | 高齢者に多い疾病とその予防(肥満と痩せ) | (学修内容) 高齢者の栄養状態について 厚生労働省の重点課題について (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料、教科書及び資料の確認をしておくこと | |
| 第12回 | 高齢者に多い疾病とその予防(動脈硬化症・心筋梗塞) | (学修内容) 循環器系の疾病管理とその予防について (循環器疾患予防法とは) (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を読んでおくこと | |
| 第13回 | 高齢者に多い疾病とその予防(サルコペニア等骨格系) | (学修内容) 高齢者に起こりやすいロコモ・サルコペニアについて 転倒予防について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書を事前に読んでおくこと | |
| 第14回 | 高齢者多い疾病とその予防(精神疾患・歯周病等その他の疾病) | (学修内容) その他、高齢者に多い病気について、精神疾患や歯周病、肺炎等 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書をまとめ、確認すること。 | |
| 第15回 | 地域における他職種との連携 全体のまとめ | (学修内容) 介護福祉士とその他の職種との連携をどのように行うか 全体の授業のまとめ (事前事後学修課題の内容)(30分) 今まで用いた資料をすべて確認し、持参すること。 | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 認知症の理解 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Study of Dementia | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必修 | |
| 担 当 者 | 中村 洋子 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | 認知症の人の身体的な機能、心理的・社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。認知症の医学的側面の理解、診断、治療、予防のための知識を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 脳の仕組みが理解できる。 認知症の症状、治療、予防が理解できる。 認知症の方の生活を理解し、支援ができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 中村裕子他編「認知症の理解と介護」メヂカルフレンド社（最新版） | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 恩蔵絢子著「脳科学者の母が、認知症になる」河出書房新社（2018年） 河野和彦監修「認知症の事典」成美堂出版（2018年） | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 脳の仕組みについては、小テストを行い確認する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 最新の認知症の医療は目覚ましく進化している。最新の情報を新聞等興味を持ち、読んでおくこと。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室に曜日時間等、貼り出しますので、確認してください。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：市役所、医療少年院、保健師として勤務 | | | | | | | | |

| 授業名 | 認知症の理解 | |
|------|---------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション 最近の認知症に対する動き | (学修内容) 授業の目的・計画・内容・評価について 最近の医療的な動向について (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスをよく読んでおくこと |
| 第2回 | 認知症の歴史とを取り巻く情勢 | (学修内容) 認知症の今までの経過とそれを取り巻く社会的な流れについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料を確認しておくこと |
| 第3回 | 脳の仕組みと老化による脳の変化 | (学修内容) 脳のそれぞれの部位の名称と機能について 加齢に伴う一般的な変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当箇所を確認しておくこと |
| 第4回 | 認知症の診断と検査 | (学修内容) 認知症の診断はどのようにされているか。 検査項目はどのようなものか (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書をまとめ、わかりやすい表にすること。 次回発表) |
| 第5回 | アルツハイマー型認知症の原因と症状 | (学修内容) アルツハイマー型認知症の特徴的な症状とその原因となるものは (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当箇所を確認しておくこと 参考文献も見しておくこと |
| 第6回 | 脳血管性認知症の原因と症状 | (学修内容) 脳血管性認知症の特徴的な症状と原因について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の確認をしておくこと 参考文献参照すること |
| 第7回 | レビー小体型認知症の原因と症状 | (学修内容) レビー小体型認知症の特徴的な症状と原因について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の確認をしておくこと 参考文献で確認すること |
| 第8回 | 前頭側頭型認知症・その他の認知症の原因と症状 | (学修内容) 前頭側頭型認知症・その他の認知症の特徴的な症状 (事前事後学修課題の内容) (30分) 解剖学的な部位の確認をしておくこと 参考文献を参照すること |
| 第9回 | それぞれの認知症の最新治療 | (学修内容) 認知症の最新医療と治療ガイドラインについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料を確認しておくこと。 |
| 第10回 | 認知症の方の行動や心理の理解 | (学修内容) 全般的な症状(BPSD)への対応について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料、教科書を確認しておくこと |
| 第11回 | 認知症の方の日常生活の理解 | (学修内容) 軽度から重度の方の日常生活について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書を確認しておくこと |
| 第12回 | 軽度認知症とは | (学修内容) 軽度認知症(MC)の方の診断・発症するまで (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書を読んでおくこと |
| 第13回 | 認知症の予防とは | (学修内容) 生活習慣病等により認知症予防できることは (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読んでまとめておくこと。 |
| 第14回 | 認知症の方の家族への支援 | (学修内容) 在宅・施設の認知症の方の家族への支援とは (事前事後学修課題の内容) (30分) 家族への支援方法をまとめて、次回発表する。 |
| 第15回 | まとめ 認知症に対する制度について | (学修内容) 認知症の方が制度を利用するには。 全体的なまとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) 今までに配布された資料をすべて確認、持参すること |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|----------------------------|-------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 認知症の理解 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Study of Dementia | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 中村 洋子 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | 認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 認知症に伴う生活への影響と認知症ケアが理解できる。 地域での連携と協働が理解できる。 家族への支援ができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | プレゼンテーション | | | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (6 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (4 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力 (| 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テ キ ス ト | 中村裕子他編「認知症の理解と介護」 メヂカルフレンド社（最新版） | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 認知症介護研究・研修東京センター編 三訂『認知症の人のためのケアマネジメント「センター方式の使い方・活かし方」』中央法規（2012年） 本田美和子他編「ユマニチュード入門」医学書院（2014年） | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 小テストを実施し、その次の回に解説します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 「認知症の理解」で学んだ基礎を復習しながら、実際の介護を学ぶので、「認知症の理解」で学んだ資料等を常に持参のこと。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業開始時に提示します。確認しておいてください。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：市役所、医療少年院にて保健師として勤務。 | | | | | | | | |

| 授業名 | 認知症の理解 | |
|------|-----------------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション 認知症の医学的側面の復習 | (学修内容) 授業の目的、計画、内容、評価について 前学期の復習をする (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおくこと 前学期の学びを復習しておくこと |
| 第2回 | 認知症の方の主な症状と介護 | (学修内容) 認知症の主な症状の復習と介護時に必要なこと (事前事後学修課題の内容) (30分) いろいろな症状を復習し、まとめておくこと。 (次回発表) |
| 第3回 | 認知症の方の生活困難さと介護 | (学修内容) 実際に困難となっている症状に対する介護とは何か (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当部分をまとめておくこと。 |
| 第4回 | アルツハイマー型認知症の方の援助・支援 事例を通して | (学修内容) 事例を通して、アルツハイマー型認知症の方の特徴的な症状に対する介護を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例をまとめておくこと。 (次回発表) |
| 第5回 | 脳血管性認知症の方の援助・支援 事例を通して | (学修内容) 事例を通して、脳血管性認知症の方に対する介護を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の事例部分を読んでおくこと |
| 第6回 | レビー小体型認知症の方の援助・支援 事例を通して | (学修内容) 事例を通して、レビー小体型認知症の方の介護を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例をまとめて次回発表のこと。 |
| 第7回 | 前頭側頭型認知症の方の援助・支援 事例を通して | (学修内容) 事例を通して、前頭側頭型認知症の方の介護を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の事例部分を読んでおくこと |
| 第8回 | 認知症の方の生活の場と介護(食事・排泄) 事例を通して | (学修内容) 事例を通して、認知症の方の食事・排泄の場での介護を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例をまとめ、介護を考えておくこと。 |
| 第9回 | 認知症の方の生活の場と介護(入浴・身だしなみ) 事例を通して | (学修内容) 事例を通して、認知症の方の入浴・身だしなみの場と介護を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の事例部分を読んでおくこと。 |
| 第10回 | センター方式の目的と理念 | (学修内容) パーソンセンタードケアについて、理念等を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考文献を読んでおくこと |
| 第11回 | センター方式に使用方法(アセスメント・ワークシート等) | (学修内容) センター方式を使用し、事例を検討する (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考文献を使用しながら、事例をまとめておくこと。 (次回発表) |
| 第12回 | ユマニチュードの理念と内容 | (学修内容) CDを参考に、ユマニチュードの理念・テクニックを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布された資料をよく読んでおくこと |
| 第13回 | ユマニチュードを実際に実施 事例を通して | (学修内容) 事例を通して、ユマニチュードを実際に実施してみる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例をまとめておくこと |
| 第14回 | 地域における認知症対策 事例を通して | (学修内容) 各地域で実施されている認知症対策について具体的に学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当する教科書やその他資料を読んでおくこと |
| 第15回 | 認知症ケアの現状と今後のケアについて 全体的まとめ | (学修内容) 世界の認知症対策等、今後の対策について 全体的なまとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料や教科書を読んでおくこと 今まで配布された資料すべてを確認し、持参のこと |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|----------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 障害の理解 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Study of Disability | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 武田 康晴 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | <p>本講義のタイトルは「障害の理解」ではあるが、単に医学レベルでの障害の理解ではなく、社会モデルとしての障害理解を重視し、また障害をもちながら営む「生活」という視点で障害について理解を深めていく。障害に関する考え方は医学モデルから社会モデル、生活モデルへと変遷し、介護福祉士は介護という専門性を用いて生活支援に取り組むソーシャルワーカーだからである。具体的には、障害概念の変遷、主観としての障害、障害者福祉の制度、障害種別と生活、障害種別と介護等について扱っていく。単なる知識の習得だけではなく実践に活用できる応用力・実践力の獲得を目指すため、学生同士、教員と学生によるディスカッションを取り入れながら授業を進める。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 対 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害者福祉の基本理念であるノーマライゼーションについて、成り立ちを含め説明することができる。 2) 障害概念について、医学モデルと生活モデルの違いについて明確に説明することができる。 3) 自立支援について、介護場面における具体例をあげて説明することができる。 4) 各種の障害（身体障害、知的障害、精神障害、発達障害など）について、特徴を説明することができる。 5) 各種の障害特性と介護の留意点について、基礎的な事柄を説明することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 (| | |
| テ キ ス ト | プリントを配布する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業の中で随時紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | レポート等に関してはコメントの記入、口頭での解説で対応する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 実戦を想定して授業を実施するので、常に自分の考えを持ちながら授業に参加する。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室前に掲示し、授業中に口頭でも伝える。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 障害の理解 | |
|------|--|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション 障害に対するイメージ | (学修内容) シラバスを活用しながら授業計画について説明する。 障害に対するイメージについて、講師と学生がディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: シラバスの内容を確認しておく。 |
| 第2回 | 障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーションについて | (学修内容) 障害者福祉の基本理念のうちノーマライゼーションについて、定義、内容、達成過程、現代的意義について解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配布したプリントを読み、質問事項をまとめておく。事後: ノーマライゼーション達成過程の具体例についてまとめる。 |
| 第3回 | 障害者福祉の基本理念 自立と自立支援 | (学修内容) 障害者福祉の基本理念である自立と自立支援について、概念成立の背景から福祉分野での意味について具体例を交えながら解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 自立と自立支援に関する自分なりの考えをまとめておく。事後: 自立と自立支援について、介護現場での具体例を書き出してみる。 |
| 第4回 | 障害とは 医学モデルと生活モデル | (学修内容) 障害者基本法から生活モデルへの価値の転換という視点から、国際障害分類及び国際生活機能分類について具体例を交えて解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配流したプリントを読み、分かったことをまとめておく。事後: ICFを活用した介護支援の例について書き出してみる。 |
| 第5回 | 障害とは 法制度に見る障害の定義 | (学修内容) 障害者基本法など各種法制度に位置付けられた障害の定義について、法律の成立や改正の背景も含めて解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配布したプリントを読み、障害の定義にあたる部分に線を引いてくる。事後: 各障害について、特徴の概要についてノートにまとめる。 |
| 第6回 | 障害とは 障害が及ぼす心理的影響 (障害の主観的側面) | (学修内容) 障害をもつ人の側に立ち、障害の心理的・主観的側面について基本事項を解説し、ディスカッションにより共感的理解に近づけていく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 書籍またはインターネットで障害者の雪を探し、気持ちに着目して呼んでくる。事後: ディスカッションで感じたことをまとめる。 |
| 第7回 | 障害の理解とその援助 身体障害 (肢体不自由・内部障害) の理解と援助 | (学修内容) 身体障害のうち肢体不自由と内部障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配布したプリントを読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。 |
| 第8回 | 障害の理解とその援助 進退障害 (視覚障害・聴覚障害) の理解と援助 | (学修内容) 身体障害のうち視覚障害と聴覚障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配布したプリントを読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。 |
| 第9回 | 障害の理解とその援助 知的障害の理解と援助 | (学修内容) 知的障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配布したプリントを読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。 |
| 第10回 | 障害の理解とその援助 発達障害の理解と援助 | (学修内容) 発達障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配布したプリントを読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。 |
| 第11回 | 障害の理解とその援助 精神障害の理解と援助 | (学修内容) 精神障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配布したプリントを読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。 |
| 第12回 | 障害の理解とその援助 難病の理解と援助 | (学修内容) 難病について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配布したプリントを読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。 |
| 第13回 | 事例研究 障害者の事例について介護福祉の視点から分析、検討 | (学修内容) これまで学んできた知識を総括的に活用し、障害者の事例について介護福祉の視点から分析、検討しディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前: これまでの学修内容を振り返り、不明点は解決しておく。事後: ディスカッションの内容をまとめる。 |
| 第14回 | 事例研究 障害者の事例について介護福祉の視点から分析、検討 | (学修内容) これまで学んできた知識を総括的に活用し、障害者の事例について介護福祉の視点から分析、検討しディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前: これまでの学修内容を振り返り、不明点は解決しておく。事後: ディスカッションの内容をまとめる。 |
| 第15回 | 授業の総括と質疑応答 | (学修内容) 全ての授業内容を総括的に振り返りながらまとめ、学生の質問に質疑応答形式で答えながら内容をさらに深めていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業を振り返り、質問事項をまとめておく。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|----------------------------|------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | こころとからだのしくみ | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Structure of Mind and Body | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 中村 洋子 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | こころのしくみが理解できる。 からだのしくみが理解できる。 介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる知識を理解する事ができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | プレゼンテーション | | | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 小坂橋喜久代他編「こころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社（最新版） | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 鈴木隆雄他編「からだ年齢辞典」朝倉書店（2009年） 海堂尊著「トリセツ・カラダ」宝島社（2009年） 久住眞理他編「ヒューマン」人間総合科学大学（2018年） | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 小テストを実施し、次回に解説をします。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 介護をする上では、基本的なこころやからだのしくみの理解は必須。十分な理解をするため、医学的知識を理解できるように予習復習をしておくこと。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室に貼付しますので、確認しておいてください。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：市役所、医療少年院にて保健師として勤務。 | | | | | | | | |

| 授業名 | こころとからだのしくみ | |
|------|-----------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション 人間のからだの成り立ちの理解 | (学修内容) 授業の進め方・主な内容・評価方法についての説明 人間のからだの成り立ちについて (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおくこと |
| 第2回 | からだの形、臓器の理解 | (学修内容) 人間のからだの形とそれぞれの部位の名前 それぞれの臓器と役割をまとめ発表 (事前事後学修課題の内容) (30分) 複雑な体の名称については教科書、参考書をまとめること |
| 第3回 | 細胞・組織・器官・器官系から人のからだへ | (学修内容) それぞれの細胞の仕組みから組織となり器官となる仕組み (事前事後学修課題の内容) (30分) 生理学的な部分については、参考文献を確認しておくこと |
| 第4回 | 生命活動を調節する仕組み | (学修内容) ホメオスタシスのもとでの生命活動とは しくみについてまとめる(次回発表) (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書をよく読んでおくこと |
| 第5回 | 内蔵機能と自律神経系の働き | (学修内容) 自律神経、交感神経、副交感神経の働きとは (事前事後学修課題の内容) (30分) 複雑なので、必ず復習をしておくこと |
| 第6回 | 呼吸と循環器の仕組み | (学修内容) 呼吸、循環器の仕組みについて バイタルサインとは(実際に実施する) (事前事後学修課題の内容) (30分) 実施した内容をまとめておくこと |
| 第7回 | 外界の変化に対応し、調節する仕組み | (学修内容) 特異的防御システムとは、非特異的防御システムとは 免疫系について (事前事後学修課題の内容) (30分) 免疫系をまとめ、次回発表 教科書を確認しておくこと |
| 第8回 | 外界からの有害物質の侵入を避ける仕組み | (学修内容) 細菌等外部からの侵入に対処するしくみについて ストレスに対するしくみ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書を読んでまとめておくこと |
| 第9回 | 再生と修復の仕組み | (学修内容) 生命活動としての再生、修復の仕組みについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書を確認しておくこと |
| 第10回 | 人の一生のリズム | (学修内容) 形態と機能の変化 こころとからだの変化 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料・教科書を読んでおくこと |
| 第11回 | 脳のつくりと働きの理解 | (学修内容) 生命活動としての脳・大脳辺縁系の役割 大脳皮質の役割 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料・教科書を確認しておくこと |
| 第12回 | 心と脳のつながり | (学修内容) こころを作り出す脳 感覚・知覚・認知とは (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料・教科書を確認しておくこと |
| 第13回 | 人間の行動を引き起こすこころのしくみ | (学修内容) 欲求のしくみとは 感情のしくみとは (事前事後学修課題の内容) (30分) 欲求のしくみ、感情の仕組みをまとめ、次回発表 教科書を確認しておくこと |
| 第14回 | 社会的人間としてのこころのしくみ | (学修内容) 自分を守る心のしくみ 社会性を引き出すこころとは (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書を読んでおくこと |
| 第15回 | 全体のまとめ | (学修内容) 基礎的なからだこころのしくみについて、全体的なまとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料をすべて確認しておくこと |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|----------------------------|------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | こころとからだのしくみ | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Structure of Mind and Body | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 中村 洋子 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ及び機能低下が生活に及ぼす影響について理解する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 基礎で学んだからだ及びこころのしくみを応用することができる。 それぞれの生活上の場面に応じたからだ及びこころのしくみを理解できる。 人生の最終段階のケアに応じたからだ及びこころのしくみを理解できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | プレゼンテーション | | | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 小坂橋喜久代他編「こころとからだのしくみ」 メヂカルフレンド社（最新版） | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 鈴木隆雄他編「からだの年齢事典」朝倉書店（2009年） 玉置妙憂著「死にゆく人の心に寄り添う」光文社新書（2019年） | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 小テストを実施し、次回に解説します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 基礎的なことに加えて事例等を用いて学ぶため、専門用語等多くなるのでよく学ぶこと。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業開始時に表示します。確認しておいてください。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の業務経験など：市役所、医療少年院にて保健師として勤務。 | | | | | | | | |

| 授業名 | こころとからだのしくみ | |
|------|----------------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション 基礎的なからだ、こころについて学ぶ目的 | (学修内容) 授業の進め方・主な内容・評価方法についての説明 基礎的なからだ・こころの機能を学ぶ目的について (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスの確認 「こころとからだのしくみ」の復習をしておくこと |
| 第2回 | 身支度に関連したこころとからだの基礎知識 | (学修内容) 身支度の持つ意味について 感覚器、洗顔、口腔、更衣、爪などの構造としくみ (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書該当箇所を読んでおくこと |
| 第3回 | 機能低下が及ぼす身支度への影響 | (学修内容) 視覚機能等の機能が低下してきた時の身支度に及ぼす影響 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事例についてまとめておくこと。 (次回発表) |
| 第4回 | 「活動・移動」に関連したこころとからだのしくみ | (学修内容) 身体の骨と関節、筋、神経の働きやしくみ (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書を読んでおくこと |
| 第5回 | 日常生活動作等生理的意味・心理的意味 | (学修内容) 活動・移動に必要な姿勢と動作 立位・坐位の保持のしくみと歩行のしくみ (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書を確認しておくこと |
| 第6回 | 機能低下が及ぼす活動・移動への影響 | (学修内容) 機能低下が移動時、運動時に及ぼす負担や影響 からだへの影響・心理的な影響 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事例をまとめておくこと。 教科書・配布資料を見ておくこと |
| 第7回 | 「食事」に関連したこころとからだのしくみ | (学修内容) 人間にとっての食事や食べるしくみ 栄養所要量について (事前事後学修課題の内容)(30分) 範囲が広いので、教科書を広く読んでおくこと |
| 第8回 | 機能低下が及ぼす食事への影響 | (学修内容) 食欲の低下や疾病があり食べるものの制限のある人 窒息予防や脱水について (事前事後学修課題の内容)(30分) 事例をまとめておくこと。 (次回発表) |
| 第9回 | 「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ | (学修内容) 人体を外部から守る皮膚のしくみ 清潔のために必要なこと (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書を確認しておくこと |
| 第10回 | 機能低下が及ぼす入浴・清潔保持への影響 | (学修内容) 視覚等の機能低下・入浴が及ぼす影響・起こしやすい事故など (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料・教科書を確認しておくこと |
| 第11回 | 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ | (学修内容) 便・尿の生成のしくみ 排泄の意味 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書を確認しておくこと |
| 第12回 | 機能の低下が及ぼす排泄への影響 | (学修内容) 運動機能の低下がもたらす排泄への影響 消化器官の低下による影響 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事例をまとめておくこと。 (次回発表) |
| 第13回 | 「睡眠」に関連したこころとからだの仕組み | (学修内容) 加齢による睡眠時間及び睡眠構造の変化 サーカディアンリズムについて (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書を読んでおくこと |
| 第14回 | 死にゆく人のこころとからだのしくみ | (学修内容) 「死」への姿勢 終末期から危篤時のからだについて (事前事後学修課題の内容)(30分) 事例を通して学ぶので、事前に読んでおくこと |
| 第15回 | 「死」の時の医療職との連携 まとめ | (学修内容) 医療との連携の実際と介護の連携 全体的なまとめ (事前事後学修課題の内容)(30分) 今までの資料すべてに目を通しておくこと |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|----------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 医療的ケア | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Medical Care | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 必修 | | |
| 担当者 | 中島 香織 | | | 対象学生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | 介護福祉士の基礎的教育をベースとして、医療的ケアを受ける人の立場にたつて尊厳を守ることができる。また、医療的ケアを安全・適切に実施するために、感染予防、安全管理体制について知識を身につける。さらに、医療職と介護職の連携の重要性と役割を認識する。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 個人の尊厳と自立、医療的ケアに関係する法律・制度について説明できる。 医療的ケアについて医療職と介護職の連携について説明できる。 医療的ケアの実施において、リスクマネジメントやヒヤリハットなど安全な療養生活について説明できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業） | | グループワーク ICT活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テキスト | 川井 太加子 「医療的ケア」 メヂカルフレンド社 13 | | | | | | | | |
| 参考書 | 随時紹介する | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 「提出されたレポートは、コメントをつけて返却します」 | | | | | | | | |
| 留意事項 | ・教科書中心に進めるので、事前学習・復讐をして授業に臨んでください。 ・わからないことは調べたり、聞くなどして明らかにし、その都度理解しておいてください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実際経験など：済生会京都府病院 看護師 水無瀬訪問看護ステーション 管理者 水無瀬ケアプランセンター ケアマネジャー | | | | | | | | |

| 授業名 | 医療的ケア | |
|------|------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 人間と社会（尊厳と自立） | （学修内容）医療的ケアを学ぶ経緯、医療の倫理・医療的ケアを受ける利用者の尊厳と自立、個人情報について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習としてテキストを熟読して、「尊厳」について意見を述べられるようにしておくこと。 |
| 第2回 | 医療的ケアに関する制度 | （学修内容）保健医療制度、医療的ケアに関連する制度を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習としてテキストに載っている制度をノートに書きあげてくること。 |
| 第3回 | 医療的ケアと医行為 | （学修内容）医療的ケア、介護職と医行為とはなにかについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として介護職が行ってもよいことを調べておくこと。 |
| 第4回 | チーム医療と介護職の連携 | （学修内容）チーム医療とその実際・安全な療養生活について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習としてテキストを熟読して、チーム構成職種を書きあげてくること。 |
| 第5回 | リスクマネジメント | （学修内容）安全で確実な医療的ケアを実施するためのリスクマネジメント及びヒヤリハットとアクシデントを理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習としてヒヤリハットとアクシデントの違いを述べられるようにしておくこと。 |
| 第6回 | 感染予防 | （学修内容）感染予防（スタンダードプリコーション）、職員の健康管理の必要性を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストを熟読しておくこと。終了後、学んだことをレポートにまとめ提出する。 |
| 第7回 | 滅菌と消毒 | （学修内容）居室などの療養環境の清潔や消毒方法（消毒と滅菌、消毒液の使い方等）を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（3分） 予習としてテキストを熟読して消毒方法を理解しておくこと。 |
| 第8回 | 健康状態の把握（バイタルサイン） | （学修内容）健康状態の把握、バイタルサインや観察、報告の必要性を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習としてテキストを熟読してバイタルサインの項目を理解しておくこと。 |
| 第9回 | 急変状態（連絡と報告） | （学修内容）身体・精神の健康と急変時の対応を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習としてテキストを熟読して急変時に報告する内容をまとめておくこと。 |
| 第10回 | 急変状態（救急蘇生） | （学修内容）救急蘇生法の知識と技術、救急時の対応や連絡方法を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストを熟読しておくこと。終了後、学んだことをレポートにまとめ提出する。 |
| 第11回 | 呼吸のしくみと働き | （学修内容）高齢者及び児童の呼吸の状態観察と呼吸の異常の観察や利用者への対応を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習としてテキストの呼吸器のしくみの図を理解しておくこと。 |
| 第12回 | 喀痰吸引とは | （学修内容）痰の排出のしくみ、喀痰吸引の必要性を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習としてテキストを熟読して、喀痰吸引が必要な状態を理解しておくこと。 |
| 第13回 | 喀痰吸引に伴うリスク | （学修内容）感染予防、喀痰吸引により生じる危険を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 終了後、学んだことをレポートにまとめ提出すること。 |
| 第14回 | 消化器系のしくみと働き | （学修内容）高齢者及び児童の食品摂取から消化吸収までのしくみを理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習としてテキストの消化器のしくみの図を理解しておくこと。 |
| 第15回 | 経管栄養とは | （学修内容）経管栄養の必要性、実施上の留意点を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習としてテキストを熟読して、経管栄養の必要な人とはどのような人かを理解しておくこと。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|---------------------------|--------------------------|------------------|------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 医療的ケア | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Medical Care | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 中島 香織 | | | 対 象 学 生 | 専攻科介護専攻 | | | | |
| 授業の概要 | 介護福祉士の基礎的教育をベースとして医療的ケアを安全・適切に実施するための、専門的知識を習得する。医療的ケアを安全かつ感染防止をふまえ、技術を習得する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 評価基準に沿って、シュミレータを用いて喀痰吸引を実施することができる。 評価基準に沿って、シュミレータを用いて経管栄養を実施することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (基準に達する技術) | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 川井 太加子 「医療的ケア」 メヂカルフレンド社 13 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 随時紹介する | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたレポートはコメントを付けて返却します。 実技については、その都度コメントを返します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：済生会京都府病院 看護師 水無瀬訪問環濠テーション 管理者 水無瀬ケアプランセンター ケアマネジャー | | | | | | | | |

| 授業名 | 医療的ケア | |
|------|---|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 喀痰吸引概論 ・痰の吸引とは ・人工呼吸器と吸引 | (学修内容) ・痰を排出するしくみと痰貯留を示す状態を理解する。 ・人工呼吸器装着時の吸引のリスク (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習としてテキストを熟読、人工呼吸器のしくみを理解しておくこと。 |
| 第2回 | 喀痰吸引概論 ・子供の吸引 ・吸引を受ける利用者や家族の気持ち | (学修内容) ・吸引を必要とするこどもとは ・吸引の実施に関する説明と同意 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習としてテキストを熟読、大人と子供の違いを理解しておくこと。 |
| 第3回 | 喀痰吸引概論 ・呼吸器系の感染と予防 ・吸引に伴う利用者の変化 | (学修内容) ・感染を示す状態とその予防 ・吸引後の観察と報告 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習としてテキストを熟読、喀痰吸引後の観察項目を書きだしておくこと。 |
| 第4回 | 経管栄養概論 ・経管栄養実施上の留意点 ・こどもの経管栄養とは | (学修内容) ・必要物品、内容に関する知識 ・こどもの経管栄養の適応 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習としてテキストを熟読、大人と子供の違いを理解しておくこと。 |
| 第5回 | 経管栄養概論 ・経管栄養を受ける利用者や家族の気持ち ・急変時、事故発生時の対応と事前対策 | (学修内容) ・経管栄養を受ける利用者の気持ち・家族の気持ちと対応 説明と同意 ・経管栄養注入時、おこりやすい症状 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習としてテキストを熟読、経管栄養注入時におこりやすい症状を書きだしておくこと。 |
| 第6回 | 記録の書き方、報告 | (学修内容) 記録の意義・記録内容・書き方、報告内容 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習としてテキストを熟読、記録に書く内容を理解しておくこと。 |
| 第7回 | 喀痰吸引(気管)実施手順解説 | (学修内容) 気管吸引の手順と留意点の説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) 喀痰吸引のDVD学習、気管吸引の手順を理解しておくこと |
| 第8回 | 喀痰吸引(鼻)実施手順解説 | (学修内容) 鼻吸引の手順と留意点の説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) 喀痰吸引のDVD学習、鼻吸引の手順を理解しておくこと |
| 第9回 | 喀痰吸引(口)実施手順解説 | (学修内容) 口吸引の手順と留意点の説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) 喀痰吸引のDVD学習、口吸引の手順を理解しておくこと |
| 第10回 | 喀痰吸引(気管)演習 | (学修内容) 気管吸引手順と留意点の復習 (事前事後学修課題の内容)(30分) 喀痰吸引のDVD学習、気管吸引の手順を理解しておくこと |
| 第11回 | 喀痰吸引(鼻)演習 | (学修内容) 鼻腔吸引手順と留意点の復習 (事前事後学修課題の内容)(30分) 喀痰吸引のDVD学習、鼻吸引の手順を理解しておくこと |
| 第12回 | 喀痰吸引(口)演習 | (学修内容) 口腔内吸引手順と留意点の復習 (事前事後学修課題の内容)(30分) 喀痰吸引のDVD学習、口吸引の手順を理解しておくこと |
| 第13回 | 経管栄養実施手順解説 | (学修内容) 必要物品・設置・利用者の観察と準備・実施を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 経管栄養のDVD学習しておくこと |
| 第14回 | 経管栄養演習(経鼻) | (学修内容) 経鼻栄養手順と留意点の復習 (事前事後学修課題の内容)(30分) 経管栄養のDVD学習、経鼻の手順を理解しておくこと |
| 第15回 | 経管栄養演習(胃瘻) | (学修内容) 経管栄養手順と留意点の復習 (事前事後学修課題の内容)(30分) 経管栄養のDVD学習、胃瘻の手順を理解しておくこと |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|--------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | 人間と仏教 a・b・c・d・e | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | CS1101 |
| 英文名 | Human and Buddhism | | | 開講時期 | 春・秋学期 | | 必修選択 | 必修 | |
| 担当者 | 伊藤 茂樹 | | | 対象学生 | 総合文化1回生、幼児教育1A・1B・1C・1D | | | | |
| 授業の概要 | 本授業は仏教の起源である開祖釈尊の生き方とその教え、また法然の生涯と教えを中心として概説することにより、我々の生きる意義を理解することを目指す。「ブッダの生涯」「ブッダの教え」「法然の生涯」「法然の教え」というテーマの下に、宗教観、仏教という宗教誕生の必然を概説し、私たちの人間形成に意義を持つ内容を学び、建学の理念を学んで行きたい。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 建学の精神を理解することが出来る。 2) 釈尊の教えである「苦」の理念を自らの問題として理解することが出来る。 3) 法然の平等思想を理解することが出来る。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (70%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (汎用能力) | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | | |
| テキスト | 『ブッダと法然』(学術図書出版社、2019年) | | | | | | | | |
| 参考書 | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 理解度テストを回収の後、解答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 後日研究室前に掲示します。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 人間と仏教 a・b・c・d・e | |
|------|-----------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 「仏教とは何か」 | (学修内容) 宗教とは？ 仏教とはどのような教え？ 何故仏教を学ぶの？ 仏教を学ぶ基本中の基本を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおく。 |
| 第2回 | 「仏教から学ぶこと」 | (学修内容) 建学の理念を概説します。華頂学園の環境をみつめてみましょう。宗教、仏教を学ぶ意義について学びましょう。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 釈尊について、教科書を一通り読んでおくこと。建学の精神をノートにまとめる。 |
| 第3回 | 「知恩院御廟参拝」 | (学修内容) 法然上人の御廟を参拝します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 御廟参拝をレポートにまとめる。 |
| 第4回 | 「ブッダの生涯 誕生」 | (学修内容) 仏教の開祖ブッダの生涯を、誕生とその事蹟、出家以前の生活について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ブッダの誕生について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後は、ノートを整理する。 |
| 第5回 | 「ブッダの生涯 四門出遊」 | (学修内容) ブッダの出家の経緯(四門出遊等)について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四門出遊について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後は、ノートを整理する。 |
| 第6回 | 「ブッダの生涯 苦行」 | (学修内容) ブッダが出家の後、苦しい修行を何度も経験し、三十五歳で悟りを開いたことについて概説します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 出家後のブッダについて、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後は、ノートを整理する。 |
| 第7回 | 「ブッダの生涯 悟り」 | (学修内容) 悟りの内容である縁起の思想。四諦八正道について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四諦八正道について、該当する教科書を読むこと。 授業後はノートを整理する。 |
| 第8回 | 「ブッダの生涯 釈尊の伝道」 | (学修内容) 釈尊は、35歳で悟りを開いて後、教化伝道の生活を送ります。釈尊の教化伝道の生活を学びます。確認テストを実施します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 釈尊の伝道について、該当する教科書の範囲を読むこと。 授業後は、ノートを整理する。 |
| 第9回 | 「法然の生涯と思想 誕生」 | (学修内容) 法然上人の誕生とその背景について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法然上人の誕生について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。 |
| 第10回 | 「法然の生涯と思想 父の死」 | (学修内容) 法然上人は9歳で父の死に直面します。その後、僧侶としての道を進んでゆきます。比叡山登山と、延暦寺での修学について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 父の死について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。 |
| 第11回 | 「法然の生涯と思想 修学」 | (学修内容) 法然上人は、比叡山で一定の年月を修行して過ごした後、南都遊学をします。浄土教に出会うまでを概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法然上人の比叡山修学、南都遊学について、教科書の該当する範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。 |
| 第12回 | 「法然の生涯と思想 立教開宗」 | (学修内容) 法然上人の浄土宗開宗と、浄土宗の教えについて学びます。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 浄土宗の開宗について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。 |
| 第13回 | 「法然の生涯と思想 大原問答」 | (学修内容) 大原問答と東大寺講説について、概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大原問答と東大寺講説について該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。 |
| 第14回 | 「法然の生涯と思想 臨終」 | (学修内容) 専修念仏教団の法難と法然上人の臨終について概説します。また知恩院の成立も理解します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法難、臨終について、該当する教科書の範囲を読むこと授業後、ノートの整理をする。 |
| 第15回 | 講義総括 | (学修内容) 講義のまとめ、ブッダ・法然の教えが現代の我々とどのように関わるかを考えます。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 全15回分授業のノートを読み返しておくこと。ブッダの悟り、法然上人の教えをまとめる。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 基礎ゼミナール | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CS1102 |
| 英 文 名 | Freshman Seminar I | | | 開 講 時 期 | 春学期 | 必 修 選 択 | 必修 | | |
| 担 当 者 | 工藤 美和子 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 2年間の学びで、日本文化・現代文化における知識を学び、大学での学びに必要な能力を獲得することを目的とすると同時に、社会人としての基本的教養を身につけることで、将来への見通しをたてることを目的とします。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 大学での学びの見通しをもつことができる。 2) 学生生活を送るうえで必要な書く力を身につけることができる。 3) 学生生活を送るうえで必要な情報検索能力を身につけることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 特に指定しません。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業内にて指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたレポートやレジュメはコメントを付けて返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 個人発表やグループ活動の進捗状況によって修整するなど、授業時に変更を加えていくこともあります。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室に日時を貼付するので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 基礎ゼミナール | |
|------|-----------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 高校と大学の違い(1)履修登録 | (学修内容)講義・演習位置づけ、必修・選択・資格科目、インターンシップなど授業形態の違いを理解する。自ら学ぶ学習内容をデザインする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 授業をまとめておく。 |
| 第2回 | 高校と大学の違い(2)学生生活をデザインする | (学修内容)大学教員とは何か、教員への連絡方法、ポータルサイトやGメールの使用方法を知る。学生生活のタイムマネジメントを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ポータルサイトやGメールを使ってみる。タイムマネジメントを作成してみる。 |
| 第3回 | 目標と方法(1)学びの動機づけ | (学修内容)目標と方法の違いを理解し、長期目標と短期目標の考え方を学ぶ。総合文化学科のディプロマポリシーの意味を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 大まかな長期目標と短期目標をたててみる。 |
| 第4回 | 目標と方法(2)実際に目標をたててみよう | (学修内容)目標のたてかたを学び、ステップアップシートへ書き込む。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業の振り返りをする。 |
| 第5回 | 大学での学び方(1)単位と授業 | (学修内容)大学で自立的に学ぶための基本的な学び方を理解する。単位とは何か、講義の受け方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業の振り返りをする。 |
| 第6回 | 大学での学び方(2)講義とは何か | (学修内容)講義の受け方、ノートの取り方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業の振り返りをする。 |
| 第7回 | レポートの書き方(1)基本の書式と構造 | (学修内容)レポートの基本的な書き方(体裁、書式)や構造を習得する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業をまとめておく。 |
| 第8回 | レポートの書き方(2)小レポート作成 | (学修内容)課題の小レポートを書いてみる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 小レポートに取り組み、提出する。 |
| 第9回 | レポートの書き方(3)小レポート添削 | (学修内容)課題の小レポートを添削し、レポートの書き方の理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レポートを返却するので、振り返りを行う。 |
| 第10回 | 発表用資料作成(1)発表方法 | (学修内容)発表の方法(レジュメ、口頭発表、パワーポイント等)を知る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の小レポートをもとにレジュメ発表の準備を行う。 |
| 第11回 | 発表用資料作成(2)レジュメ作成 | (学修内容)わかりやすいレジュメ作成のためのポイントを学ぶ。レジュメを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の小レポートをもとに発表の準備を行う。 |
| 第12回 | 発表を行う 個別発表(プレゼンテーション)グループA班 | (学修内容)レジュメを作成し発表(プレゼンテーション)を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に担当教員にレジュメを見せ、指導をしてもらうこと。 |
| 第13回 | 発表を行う 個別発表(プレゼンテーション)グループB班 | (学修内容)レジュメを作成し発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に担当教員にレジュメを見せ、指導をしてもらうこと。 |
| 第14回 | プログテストとステップアップシートの振り返り | (学修内容)プログテスト(客観的)やステップアップシート(主観的)によって客観的・主観的振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 自己の振り返り、強みを見つける。 |
| 第15回 | 課題 | (学修内容)夏期休暇中に取り組む課題について知る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 課題の準備を行う。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|------------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 基礎ゼミナール A ~ K | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | CS1102 |
| 英 文 名 | Freshman Seminar IA ~ K | | | 開 講 時 期 | 春学期 | 必 修 選 択 | 必 修 | | |
| 担 当 者 | 武田 康晴・乾 真理子・小川 隆昭・名賀 亨・伊藤 茂樹・野田 隆生・山部 泰司・山本 明美・平尾 隆史・鈴木 えり子・水谷 隆 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 1回生春学期の基礎ゼミナールは「初年次教育」と位置づけ、大学での学びの特徴、目的を見据えて学ぶ意義、学びの方法として講義の受け方、レポートや小論文の書き方、発表資料作成の仕方、プレゼンテーション方法などを体験的に学ぶ。また、その中に幼児教育学科としての取り組みを盛り込んでいく。授業形態としては、20人までの少人数クラスを専任教員が担当し、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなど演習を基本として実施する。また、客観的評価としてのPROGテストや主観的評価としての学修ポートフォリオ等も活用しながら、学生が自分自身と向き合うことができるようゼミナールを運営していく。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | 1) 幼児教育学科のディプロマポリシーを理解している。 2) 将来の目的を明確に説明できる。 3) レポートの書き方の基礎を身につけ実践できるようになる。 4) 発表方法(資料、口頭発表)の基礎を身につけ実践できるようになる。 5) 担当教員や学生と良好なコミュニケーションを図ることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テキスト | 必要に応じて資料等を配布する。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出物については必ず添削し、授業の運営や個別面談の資料として活用する。また、必要に応じ、コメントして返却する。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 基礎ゼミナールは、授業の1つですが、学修や学生生活の基礎を支える役割も果たします。毎回の出席はもちろん、担当教員や学生同士で積極的にコミュニケーションを図って下さい。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業時に伝える。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 基礎ゼミナール A ~ K | |
|---------|--|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | オリエンテーションとゼミへの導入（履修登録等のサポート含む）全体での授業を予定 | <p>（学修内容）基礎ゼミナールの位置づけやプログラムなどを確認しながらゼミの役割を共有する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>シラバスを確認しておく。講義要項を確認して不明な点をなくす。質問事項をメモする。</p> | |
| 第2回 | オリエンテーションとゼミへの導入（2年間流れ、Gmailの使い方など）全体での授業を予定 | <p>（学修内容）学校行事や学科行事を含めて2年間の流れを共有し、ポータルサイトやGmailの使い方、学修ポートフォリオの記入などを理解する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>華頂短期大学のホームページを開いてみる。Gmailを使い、ゼミナール担当教員にメールを送信する。</p> | |
| 第3回 | お互いに知り合うワークショップ（学校生活のイメージ作り） | <p>（学修内容）自己紹介シート等を作成、それを使った自己紹介などを通じてゼミメンバーと交流する。また、オリエンテーションでの疑問を解消する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>キャンパスライフや講義要綱に目を通し、自分に関係のある箇所に線を引いて確認する。</p> | |
| 第4回 | お互いに知り合うワークショップ（少人数の関係づくり） | <p>（学修内容）二人一組や小グループも活用しながら、ゼミメンバーが交流を通じて互いに知り合う。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>本日のゼミで分かったことをノートに書き出す。</p> | |
| 第5回 | 合同ゼミナール（絵本大賞の説明、SNSの注意点、課外活動など）全体での授業を予定 | <p>（学修内容）幼児教育学科全体に関係する絵本大賞、子どもデパート、SNSの注意点などについて説明・共有する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>華頂短期大学のホームページを確認しておく。絵本大賞のテーマを考え所定の用紙で提出する。</p> | |
| 第6回 | 学生生活の目標（望む将来について考える） | <p>（学修内容）適宜ワークシートも活用しながら将来の夢や望む将来像を整理する。また、学生同士で共有する時間を持つ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>将来の夢について聞かれたらどう答えるか考えておく。ワークシートを完成して提出する。</p> | |
| 第7回 | 学生生活の目標（望む将来に向かう計画を立てる） | <p>（学修内容）適宜ワークシートを活用しながら、1年後の目標や1年間で取り組むことなどを整理する。また、学生同士で共有する時間を持つ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>教員や学生とのコミュニケーションを参考に自分の計画をブラッシュアップする。</p> | |
| 第8回 | 興味のあるテーマについて情報収集 | <p>（学修内容）望む将来像や実現の計画も参考に、自分の興味のあるテーマについて図書館等を活用して調べてみる。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分）</p> <p>何について調べるかを考えておく。調べた内容についてノートに整理する。</p> | |
| 第9回 | 興味のあるテーマについて情報収集 | <p>（学修内容）図書館等も活用して調べた興味のあるテーマについてまとめる。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分）</p> <p>授業時間と合わせてまとめを完成し提出する。</p> | |
| 第10回 | 大学での学び方（課題の探求、授業の受け方、ノートの取り方、試験について） | <p>（学修内容）春学期の前半を振り返り、各自のノートも参照しながら、大学での学び、ノートの取り方、筆記試験・レポート試験について整理する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>自分の書いたノートを持参する。授業で分かったことを復習し、翌日の授業から実践する。</p> | |
| 第11回 | レポートの書き方 | <p>（学修内容）レポートの基本的な書き方（体裁、書式、テーマ選び、内容）を習得する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分）</p> <p>基本的な書き方を踏まえて、短いレポートを書いて提出する。</p> | |
| 第12回 | レポートの書き方 | <p>（学修内容）基本的な書き方を踏まえて作成したレポート（事後学習）を学生が相互添削し、レポートの書き方の理解を深める。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>授業中に添削したレポートを清書して提出する。</p> | |
| 第13回 | プレゼンテーション資料の作成 | <p>（学修内容）発表方法（口頭、レジュメ、ポスター、パワーポイント）や分かりやすい資料作成のポイントを学ぶ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分）</p> <p>前週までに作成したレポートについて資料を作成する。</p> | |
| 第14回 | 春学期の振り返り | <p>（学修内容）PROGテストや学修ポートフォリオ、また春学期に作成したワークシートも活用し春学期の学修について振り返りを行う。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分）</p> <p>振り返りで気付いたことをまとめておく。</p> | |
| 第15回 | 春学期の振り返り と夏季休暇に向けて | <p>（学修内容）振り返りで気付いたことを共有し、夏季休暇の過ごし方について計画を立てる。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分）</p> <p>基礎ゼミナールの内容を踏まえ、春学期全体について振り返りレポートを作成する。</p> | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|----------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 基礎ゼミナール | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CS1110 |
| 英 文 名 | Freshman Seminar II | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | 必 修 選 択 | 必 修 | | |
| 担 当 者 | 工藤 美和子 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 日本文化・現代文化における知識を学び、社会人としての基本的教養を身につけ、社会に貢献できる基礎力と応用力を育成することを目的とします。目的を達成するために、グループワークやプレゼンテーションの機会を設けます。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 大学における学びの見通しをもつことができる。 2) 日本文化・現代文化について必要な知識を学び、豊かな教養を有することができる。 3) 将来目標をたて、達成のために主体的に行動することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | 特に指定しません。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業内で指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたレポートや発表用レジュメはコメントを付けて返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 個人発やグループ活動の進捗状況によって修整するなど、授業時に変更を加えていくこともあります。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室に日時を貼付するので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 基礎ゼミナール | |
|------|---------------------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 基礎ゼミナール の振り返り | (学修内容) 基礎ゼミナール で学んだことを振り返ります。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 基礎ゼミナール の内容を整理する。各自ゼミ生が課題発表の準備を行う。 |
| 第2回 | 課題の発表および質疑応答 (1) 個別発表・A班 | (学修内容) A班に振り分けられた学生の個人課題の発表と質疑応答を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表担当者はレジュメを作成し、他のゼミ生は自分の課題の調査を行う。 発表者は質問やアドバイスをまとめたメモを作成する。 |
| 第3回 | 課題の発表および質疑応答 (2) 個別発表・B班 | (学修内容) B班に振り分けられた学生の個人課題の発表と質疑応答を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表担当者はレジュメを作成し、他のゼミ生は自分の課題の調査を行う。 発表者は質問やアドバイスをまとめたメモを作成します。 |
| 第4回 | 課題の発表および質疑応答 個別発表グループC | (学修内容) 課題の発表と質疑応答を行います。グループワーク発表による活動方針、目標の協議を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表担当者はレジュメを作成し、他のゼミ生は自分の課題の調査を行う。 発表者は質問やアドバイスをまとめたメモを作成する。 |
| 第5回 | グループワーク 研究課題の選択 | (学修内容) A～D班の4グループに学生を振り分けて、グループごとに研究課題を設けグループワークを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表する研究テーマを決めて、グループ内で役割を決める。 |
| 第6回 | グループワーク 活動方針と目標 | (学修内容) グループワークの活動方針、目標をたてます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 活動の準備、整理、発表の準備を行う。 |
| 第7回 | グループ合同の場での発表 (プレゼンテーション) グループA班・B班 | (学修内容) 研究テーマ、活動方針、目標について発表します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 活動の準備、発表内容の整理を行う。 |
| 第8回 | グループ合同の場での発表 (プレゼンテーション) グループC班・D班 | (学修内容) 研究テーマ、活動方針、目標について発表します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 活動の準備、発表内容の整理を行う。 |
| 第9回 | グループワーク 発表後のまとめ | (学修内容) グループ発表の整理を行い、各自小レポートにまとめ提出します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表後の整理を行い、小レポートを作成する。 |
| 第10回 | 各自ゼミ生の個別活動 課題を決める | (学修内容) 各自ゼミ生が設定した課題の活動の準備を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自らの到達段階の予想を立てる。 |
| 第11回 | 各自ゼミ生の個別活動 発表準備 | (学修内容) 各自ゼミ生が設定した課題について発表の準備を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 活動の準備、整理、発表の準備を行う。指導教員に進捗状況を報告すること。 |
| 第12回 | 各自ゼミ生によるプレゼンテーション A班 | (学修内容) A班に振り分けられた各自ゼミ生が設定した課題について個別発表を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 活動の準備、整理、発表の準備を行う。 発表後は小レポートを作成し担当教員に提出すること。 |
| 第13回 | 各自ゼミ生によるプレゼンテーション B班 | (学修内容) B班に振り分けられた各自ゼミ生が設定した課題について個別発表を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 活動の準備、整理、発表の準備を行う。 発表後は各自小レポートを作成し担当教員に提出すること。 |
| 第14回 | 発表の振り返りと今後の学習計画策定 | (学修内容) 創作表現演習 ・ ・ ・ キャリア計画にむけて学修計画を策定します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 創作表現演習およびキャリア計画に必要な準備は何かを考える。 |
| 第15回 | 授業の総括 | (学修内容) 基礎ゼミナール 全体の振り返りを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 創作表現演習の準備を行う。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|-----------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|---------|-----------|----------|--------|
| 授 業 名 | 基礎ゼミナール A ~ K | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | CS1110 |
| 英 文 名 | Freshman Seminar IIA~K | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | 必 修 選 択 | 必修 | | |
| 担 当 者 | 武田 康晴・乾 真理子・小川 隆昭・名賀 亨・伊藤 茂樹・野田 隆生・山部 泰司・山本 明美・平尾 隆史・鈴木 えり子・水谷 隆 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 基礎ゼミナール は、春学期に引き続き教員と学生、学生同士のコミュニケーションや協働を基本とし、学修や学生生活の基盤となる時間と位置づけられる。内容については、幼児教育学科全体として取り組む「絵本の作成」を軸にテーマを設定したフィールドワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなど演習を基本として実施する。また、春学期に作成した計画や学修ポートフォリオ等も活用しながら、学生が自分自身と向き合うことができるようゼミナールを運営していく。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | 1) 幼児教育学科のディプロマポリシーを理解している。 2) 将来の目的を明確に説明できる。 3) レポートの書き方の基礎を身につけ実践できるようになる。 4) 発表方法(資料、口頭発表)の基礎を身につけ実践できるようになる。 5) 担当教員や学生と良好なコミュニケーションを図ることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T 活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T 活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力 (| 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テ キ ス ト | 必要に応じて資料等を配布する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 必要に応じて紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出物については必ず添削し、授業の運営や個別面談の資料として活用する。また、必要に応じ、コメントして返却する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 基礎ゼミナールは、授業の1つですが、学修や学生生活の基礎を支える役割も果たします。毎回の出席はもちろん、担当教員や学生同士で積極的にコミュニケーションを図って下さい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業時に伝える。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 基礎ゼミナール A ~ K | |
|---------|----------------------------|--|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | 夏季休暇の振り返りと秋学期への導入 | (学修内容) 春学期の最後に策定した夏季休暇の計画も参考に夏季休暇を振り返る。また、秋学期の学修、学生生活について確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく。学修ポートフォリオの当該箇所を入力する。 | |
| 第2回 | 絵本作成の準備 (私の好きな絵本) | (学修内容) 各自が自分の好きな絵本を持参し、お互いに読み聞かせや紹介をして共有し、絵本作りのヒントを得る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 図書館や学科演習室も活用し、自分の好きな絵本を選定しておく。 | |
| 第3回 | 手作り絵本の作成 (ストーリー、構成) | (学修内容) 絵本のストーリーや基本構成を考えるとところから、絵本作りをスタートする。また、個別面談の準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ストーリーの概要を考えてくる。個別面談シートを記入して提出する。 | |
| 第4回 | 手作り絵本の作成 (ページ割、下絵) 個別面談 | (学修内容) コピー用紙のサンプルも活用し、ページ割、下絵など絵本の作成を進める。また、並行して個別面談を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時間以外も活用して絵本作成を進める。 | |
| 第5回 | 手作り絵本の作成 (下絵、ストーリー配置) 個別面談 | (学修内容) 提出用の用紙に下絵、ストーリーを配置して絵本の作成を進める。また、並行して個別面談を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時間以外も活用して絵本作成を進める。 | |
| 第6回 | 手作り絵本の作成 (完成に向けた作業) 個別面談 | (学修内容) 各自の進度に合わせて絵本の作成を進める。また、並行して個別面談を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時間以外も活用して絵本作成を進める。 | |
| 第7回 | 手作り絵本の作成 (完成に向けた作業) 個別面談 | (学修内容) 各自の進度に合わせて絵本の作成を進める。また、並行して個別面談を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時間以外も活用して絵本作成を進める。 | |
| 第8回 | フィールドワーク (見学) | (学修内容) 保育の視点を意識して公園や動物園等の近隣施設を訪問・見学し、保育の視点を学ぶ。実施日が前後することがある。 (事前事後学修課題の内容) (30分) フィールドワークの成果をまとめておく。 | |
| 第9回 | フィールドワークの振り返り | (学修内容) フィールドワークを通じて学んだことを出し合い、グループで話し合うことで保育の視点を整理する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) グループで話し合った内容をまとめる。 | |
| 第10回 | テーマの選定とレポート作成について | (学修内容) 次週より実施する保育教材研究を通じて学ぶテーマを選定し、春学期の資料も活用してレポート作成について確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 春学期の資料 (レポート作成) について確認しておく。授業を踏まえ、自分の探究するテーマを決定する。 | |
| 第11回 | 保育教材の探求 | (学修内容) 各自またはゼミ単位で設定したテーマに沿って保育教材 (または保育に関連する内容) について探求する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 探求成果をノートにまとめておく。 | |
| 第12回 | 保育教材の探求 | (学修内容) 各自またはゼミ単位で設定したテーマに沿って保育教材 (または保育に関連する内容) について探求する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 探求成果をノートにまとめておく。 | |
| 第13回 | 保育教材の探究 | (学修内容) 各自またはゼミ単位で設定したテーマに沿って保育教材 (または保育に関連する内容) について探求する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの探求成果をレポートにまとめる。 | |
| 第14回 | 絵本大賞の発表と表彰式 (全体) | (学修内容) ゼミ推薦 (一次審査) 作品の中から大賞、奨励賞等を選出 (二次審査) し表彰する。また 2 年生ゼミへの準備を進める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業時に配布する所定の用紙に必要事項を記入して提出する。 | |
| 第15回 | 1年間の振り返りと絵本の完成 | (学修内容) 基礎ゼミナールで取り組んできた内容を中心に 1年間の学生生活を振り返る。また絵本を製本して完成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の内容を参考にまとめたレポートを作成する。学修ポートフォリオの当該箇所を入力する。 | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|--------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 人生と哲学 a・b | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Life and Philosophy | | | 開講時期 | 春・秋学期 | | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 西本 明央 | | | 対象学生 | 歴史2回生、幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>「哲学」とはあらゆる対象に、常にその真の姿を求める行為である。批判的に捉え直したり、自ら考えたりする姿勢である。自ら主体的に考え、また共に考え合うことによって、新たな視点を見出すことを目的とする。「哲学」は我々の日常への深い洞察から始まるものである。そこで、我々に身近なテーマを毎回取り上げ、共に再考する。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 情報をただ受け取るだけでなく、自ら主体的に考えて、自らのものとしてすることができる。 2) あらゆることに対し、批判的に考え直し、それを表現することができる。 3) 自らの人生観・世界観を意識し、表現することができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (100%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (汎用能力) | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | | |
| テキスト | 随時、プリント配布。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | フィードバックとして、レポートの採点に対して質問があれば回答します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 講義を中心として行う。テキストは特定しないが、種々に考える題材を提供することにより、自分自身の考えをまとめ、ノートを作るよう努力して下さい。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 講義の直後 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 人生と哲学 a・b | |
|------|-----------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 「哲学」とは | (学修内容)「哲学」という学問の原点について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでおく。 |
| 第2回 | 「philosophia」とは | (学修内容)「philosophia = 知を愛すること」とは如何なることが共に考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回授業のノートを読み返し再考する。 |
| 第3回 | 「哲学」の意義とは | (学修内容)「哲学」の存在意義について共に考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回授業のノートを読み返し再考する。 |
| 第4回 | 「行為とその選択」とは | (学修内容)「行為」を選択する自由と、「選択」する基準について共に考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回授業のノートを読み返し再考する。 |
| 第5回 | 「科学」とは | (学修内容)「科学」とは何が共に考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回授業のノートを読み返し再考する。 |
| 第6回 | 「哲学」と「科学」とは | (学修内容)「哲学」と「科学」は補い合うことを共に考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回授業のノートを読み返し再考する。 |
| 第7回 | 「価値」とは | (学修内容)「価値」とは何かについて共に考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回授業のノートを読み返し再考する。 |
| 第8回 | 「目的」とは | (学修内容)「目的」を決めるものは何かについて共に考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回授業のノートを読み返し再考する。 |
| 第9回 | 「常識」とは | (学修内容)「常識」とは何かについて共に考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回授業のノートを読み返し再考する。 |
| 第10回 | 「法律」とは | (学修内容)「法律」とは何かについて共に考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回授業のノートを読み返し再考する。 |
| 第11回 | 「自然」とは | (学修内容)「自然」とは何かについて共に考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回授業のノートを読み返し再考する。 |
| 第12回 | 「環境」とは | (学修内容)「環境」とは何かについて共に考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回授業のノートを読み返し再考する。 |
| 第13回 | 「言葉」とは | (学修内容)「言葉」とは何かについて共に考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回授業のノートを読み返し再考する。 |
| 第14回 | 「認識」・「概念」とは | (学修内容)「認識」・「概念」とは何かについて共に考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回授業のノートを読み返し再考する。 |
| 第15回 | 講義総括 | (学修内容)講義のまとめ、我々の日常への新たな視点について共に考える。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 全14回授業のノートを読み返し再考する。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|------------------------------------|-----------------------------------|------------|----------------------------|------------|------------------|--------------|--|
| 授 業 名 | ジェンダー論 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Gender Studies | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 斧出 節子 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生、幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>「女性である」「男性である」ということは、あまりに当たり前すぎて日常的に意識化されないことが多い。しかし、人は生まれた瞬間から女性または男性いずれかのカテゴリーに入れられ、文化的・社会的にふさわしい行動が期待される。本講義ではまず、どのような過程を経て、女性、男性になっていくのかを「社会化」という点からとらえ、「ジェンダー（文化的・社会的性差）」を相対化することを試みる。そして、現実の生活の中でジェンダーがどのように機能し、どのような課題を含んでいるのかを探っていく。理解を深めるためにビデオを見たり、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) ジェンダーとは何かについて理解することができる。 2) 現代社会におけるジェンダー差の課題について理解することができる。 3) 自分自身、今後開発すべき能力は何かを理解することができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (80 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (20 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 () | | | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 『女性学・男性学 改訂版 ジェンダー論入門』伊藤公雄ほか（有斐閣アルマ） | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 『初めて学ぶジェンダー論』伊田広行 著（大月書店）、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子ほか編著（ミネルヴァ書房）、『ジェンダー論をつかむ』千田有紀ほか著（有斐閣）、『未来をひらく男女共同参画 - ジェンダーの視点から』西岡正子編（ミネルヴァ書房）、『働く女子の運命』濱口桂一郎（文春文庫）ほか、随時紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | フィードバックとして、リアクションペーパーに対してコメントをします。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 遠くの誰かの問題ではなく、自分自身の問題として考えてほしい。ディスカッションも行い、受講者は授業への積極的な参加が求められます。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | <p>実践的教育 教員の実務経験など：大阪市立高校教諭（家庭科・保健科） 大阪市阿倍野保健所非常勤心理相談員 （財）21世紀ひょうご創造協会 兵庫県家庭問題研究所非常勤嘱託研究員 （公財）京都市男女共同参画推進協会 理事長 （公財）世界人権研究センター 嘱託研究員</p> | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | ジェンダー論 |
|---------|------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | セックスとジェンダーの違い | (学修内容) ジェンダーの概念を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、授業計画の全体像をは把握しておく |
| 第2回 | 「らしさ」とは何か | (学修内容) 男らしさ、女らしさについて考える(グループワーク含む) (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく |
| 第3回 | 男女二分法について | (学修内容) 二つに分けることはどういうことを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の授業内容をまとめておくこと |
| 第4回 | 性における多様性: 性の複数の次元 | (学修内容) 性の複数の次元について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく。 |
| 第5回 | 性における多様性: 性の少数派 | (学修内容) 性の少数派について理解する。ビデオ学習し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく |
| 第6回 | 文化とジェンダー | (学修内容) 文化によるジェンダーの違いを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく。 |
| 第7回 | 幼児期の性役割の社会化 | (学修内容) 親と子どもの相互作用について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく |
| 第8回 | シンデレラとジェンダー | (学修内容) 映像を分析する(グループワーク含む) (事前事後学修課題の内容) (30分) グリム童話について調べておくこと |
| 第9回 | メディアがジェンダー形成に与える影響 | (学修内容) メディアが与える影響を考える(グループワーク含む) (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題レポートを作成しておくこと |
| 第10回 | 教育とジェンダー: 隠れたカリキュラム | (学修内容) 隠れたカリキュラムについて理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の授業内容をまとめておくこと |
| 第11回 | 教育とジェンダー: 隠れたカリキュラムの実態 | (学修内容) 自分の経験をもとに、隠れたカリキュラムの実態について考える(グループワーク・ディスカッションを含む) (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく |
| 第12回 | デートDVとジェンダー | (学修内容) デートDVの実態とメカニズムを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) DVとは何か調べておく |
| 第13回 | 男女雇用機会均等法 | (学修内容) 男女雇用機会均等法の成立過程とその内容について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく |
| 第14回 | 男女共同参画社会をめざして | (学修内容) 各領域でのジェンダー平等の実態について (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の授業内容をまとめておくこと |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) これまでのまとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) 疑問点をまとめておくこと |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|---|
| 授業名 | 中国語 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Chinese | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 于敏 | | | 対象学生 | 歴史2回生、幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | この講座ではオリジナルの教材をコピーして使う。前期・後期の一年を通して、中国の文化、生活習慣などを紹介しながら、実用的な中国語会話を学習することが目的になる。前期では特にピンインの発音法、スペリングのルールを勉強し、中国語の簡体字の読み方と書き方に慣れてもらいながら、文法に拘らない簡単な会話文を覚えて行く。なお、漢字伝来の歴史を実感させるために、課外授業を行う予定をしている。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) ピンインを見て正しい発音ができるようになること。 2) 中国の漢字を読めるように、書けるようになること。 3) 初歩的なコミュニケーションに必要な会話を覚える。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (60%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テキスト | オリジナルプリント | | | | | | | | |
| 参考書 | 特になし | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたテストや宿題など回答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 特になし | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業終了後に実施する | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 中国語 | |
|---------|---------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 中国語について | (学修内容)ピンインとは何か、中国語と日本語の違いを紹介し、発音を練習 (事前事後学修課題の内容)(30分) 1回目、特になし |
| 第2回 | 発音の勉強 | (学修内容)単母音、中国の地理 (事前事後学修課題の内容)(30分) 2回目、前回の発音を復習しておく |
| 第3回 | 発音の勉強 | (学修内容)複母音、文章語と話し言葉 (事前事後学修課題の内容)(30分) 3回目、前回の発音を復習しておく |
| 第4回 | 発音の勉強 | (学修内容)声調のパターン、標準語と方言 (事前事後学修課題の内容)(30分) 4回目、前回の発音を復習しておく |
| 第5回 | 発音の勉強 | (学修内容)子音 音節の構成 (事前事後学修課題の内容)(30分) 5回目、前回の発音を復習しておく |
| 第6回 | 発音の勉強 | (学修内容)発音とスペリング 中国の繁体字と簡体字と日本の漢字 (事前事後学修課題の内容)(30分) 6回目、前回の発音を復習しておく |
| 第7回 | 発音の勉強 | (学修内容)鼻音 文法の基本知識 (事前事後学修課題の内容)(30分) 7回目、前回の発音を復習しておく |
| 第8回 | 発音の総まとめ | (学修内容)発音小テスト、会話の勉強に入る (事前事後学修課題の内容)(30分) 8回目前回の発音を復習しておく |
| 第9回 | 会話の勉強 | (学修内容)新出語・文法を解説、会話文を読む (事前事後学修課題の内容)(30分) 9回目、新出語の発音を予習 |
| 第10回 | 課外授業の予定 | (学修内容)奈良の唐招提寺を訪ねて、中国文化の伝来を探る (事前事後学修課題の内容)(30分) 10回目、唐招提寺について事前に調べる |
| 第11回 | 会話の勉強 | (学修内容)新出語・文法を解説、会話文を読む (事前事後学修課題の内容)(30分) 11回目、新出語の発音を予習 |
| 第12回 | 会話の勉強 | (学修内容)新出語・文法を解説、会話文を読む (事前事後学修課題の内容)(30分) 12回目、前回の新出語・文法を復習しておく |
| 第13回 | 会話の勉強 | (学修内容)新出語・文法を解説、会話文を読む (事前事後学修課題の内容)(30分) 13回目、前回の新出語・文法を復習しておく |
| 第14回 | 復習 | (学修内容)会話文を読む (事前事後学修課題の内容)(30分) 14回目習った会話文を復習しておく |
| 第15回 | 総まとめ | (学修内容)発音と会話を復習する (事前事後学修課題の内容)(30分) 15回目、前期の学習内容を確認する |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 中国語 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Chinese | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | 必 修 選 択 | | 選 択 | |
| 担 当 者 | 于 敏 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生、幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 春学期に引き続き、オリジナルの教材をコピーして使う。中国の文化、生活習慣を紹介しながら、実用的な中国語会話を学習することが目的になる。後期では簡単な会話を学修しながら、中国語の文法をしっかりとまとめて学習して、自己紹介など簡単な作文も書けるように練習を重ねる。映像教材も取り入れながら、更に中国語に対する興味を高め、日本の食文化には中国の伝統的な文化の要素が含まれている事を実感させるために、学外授業を実施する予定をしている。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 日常に使う簡単な会話を使えるようになる。 2) 自分で既習語を応用した文章を作れるようになる。 3) 中国語の文章を読んで、大体の内容が理解できるようになる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | オリジナル教材のコピーを使用 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 特になし | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたテストや宿題など回答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 前期授業を取らなかった人は、前半部の勉強をまとめて学習しておくのが望ましい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 中国語 |
|---------|------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 前期の勉強を復習する | (学修内容) 前期のプリントを使う (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当学習範囲をノート等を書きながらまとめておく |
| 第2回 | 前期の勉強を復習する | (学修内容) 前期のプリントを使う (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当学習範囲をノート等を書きながらまとめておく |
| 第3回 | 基本文法の勉強 | (学修内容) 文の構造 (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当学習範囲をノート等を書きながらまとめておく 応用できるように練習する |
| 第4回 | 会話の勉強 | (学修内容) 自己紹介 (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当学習範囲をノート等を書きながらまとめておく 声を出して読んだりして、覚える |
| 第5回 | 基本文法の勉強 | (学修内容) 文の構造 (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当学習範囲をノート等を書きながらまとめておく 応用できるように練習する |
| 第6回 | 会話の勉強 | (学修内容) 趣味 (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当学習範囲をノート等を書きながらまとめておく 声を出して読んだりして、覚える |
| 第7回 | 基本文法の勉強 | (学修内容) 疑問文のパターン (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当学習範囲をノート等を書きながらまとめておく 応用できるように練習する |
| 第8回 | 会話の勉強 | (学修内容) 食べ物 (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当学習範囲をノート等を書きながらまとめておく 声を出して読んだりして、覚える |
| 第9回 | 学外授業の予定 | (学修内容) 大学周辺において中国文化に影響を受けた身近なテーマを取り上げた体験を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 体験するテーマの文化的な背景など、事前に調べておく |
| 第10回 | 基本文法の勉強 | (学修内容) 否定の選択 (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当学習範囲をノート等を書きながらまとめておく 応用できるように練習する |
| 第11回 | 会話の勉強 | (学修内容) 好き嫌い (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当学習範囲をノート等を書きながらまとめておく 声を出して読んだりして、覚える |
| 第12回 | 基本文法の勉強 | (学修内容) 簡単な複文構造 (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当学習範囲をノート等を書きながらまとめておく 応用できるように練習する |
| 第13回 | 会話の勉強 | (学修内容) 買い物 (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当学習範囲をノート等を書きながらまとめておく 声を出して読んだりして、覚える |
| 第14回 | 会話の勉強 | (学修内容) 旅行 (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当学習範囲をノート等を書きながらまとめておく 声を出して読んだりして、覚える |
| 第15回 | 総まとめ | (学修内容) プリントをまとめて復習 (事前事後学修課題の内容) (30分) できたかどうかをチェックする |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|--------------------------|----------------------------|-----------------|----------------------|--------------|--|
| 授 業 名 | ハンゲル | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Hangul | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 韓 亨 模 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生、幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 多文化が共生する今日、隣国である韓国の言葉や文字を学び、さらには韓国の文化に対する理解を深める。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1. ハンゲルの仕組みを理解し、正しく読み・書きができる。 2. 韓国語で基本的な文法を使って、まとまりのある文章が書ける。 3. 韓国語で基礎的なコミュニケーションができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (汎用的能力) | プレゼンテーション能力 () | | 課題発見・解決能力 (積極性) | | |
| テ キ ス ト | 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』 木内明 著（国書刊行会） | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 随時指示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 理解度テストを回収後、解答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 特になし。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | ハンゲル | |
|------|-----------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 講義の進め方、韓国語について、あいさつ (事前事後学修課題の内容) (90分) 韓国語のあいさつを復習して使えるようにする。教材等の準備。 |
| 第2回 | 基礎・第2課 基本母音 | (学修内容) 10の基本母音、あいさつ (事前事後学修課題の内容) (90分) 基本母音の復習をして発音できるようにする。書けるようにする。 韓国語でのあいさつを復習して使えるようにする。 |
| 第3回 | 基礎・第3課 基本子音 | (学修内容) 平音、激音、濃音、鼻音、流音、自己紹介 (事前事後学修課題の内容) (90分) 平音、激音、濃音、鼻音、流音を復習して発音できるようにする。書けるようにする。韓国での自己紹介を復習して使えるようにする。 |
| 第4回 | 基礎・第4課 複合母音 | (学修内容) 11の複合母音、自己紹介 (事前事後学修課題の内容) (90分) 11の複合母音を復習して発音できるようにする。書けるようにする。 韓国語での自己紹介を復習して使えるようにする。 |
| 第5回 | 基礎・第5課 パッチム | (学修内容) 代表子音、実用表現 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまで勉強した子音を復習して発音と書き方を総復習する。 韓国語の実用表現を復習して使えるようにする。 |
| 第6回 | 基礎・第6課 発音の変化 | (学修内容) 有声音化、連音、流音化、激音化、実用表現 (事前事後学修課題の内容) (90分) 有声音化、連音、流音化、激音化のルールを復習してしっかり覚える。 韓国語の実用表現を復習して使えるようにする。 |
| 第7回 | 基礎・第6課 発音の変化 | (学修内容) hの弱化、濃音化、口蓋音化、鼻音化、実用表現 (事前事後学修課題の内容) (90分) hの弱化、濃音化、口蓋音化、鼻音化のルールを復習してしっかり覚える。 韓国語の実用表現を復習して使えるようにする |
| 第8回 | 復習 | (学修内容) 文字(ハンゲル)と発音のまとめ (事前事後学修課題の内容) (90分) これまでに勉強した文字(ハンゲル)を総復習する。 発音のルールを総復習する。 |
| 第9回 | 第1課 私は浅井ゆかりです | (学修内容) ~は / ~です (事前事後学修課題の内容) (90分) 「~は / ~です」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。 綴りを覚える。 |
| 第10回 | 第2課 出身はソウルですか | (学修内容) ~が / ~ですか (事前事後学修課題の内容) (90分) 「~が / ~ですか」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。 綴りを覚える。 |
| 第11回 | 第3課 図書館ではありません | (学修内容) ~ではありません / ~ではありませんか (事前事後学修課題の内容) (90分) 「~ではありません / ~ではありませんか」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。 綴りを覚える。 |
| 第12回 | 第4課 時間がありますか | (学修内容) います・あります / いません・ありません (事前事後学修課題の内容) (90分) 「います・あります / いません・ありません」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。 綴りを覚える。 |
| 第13回 | 第5課 インターネットをします | (学修内容) します・しますか / 何 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「します・しますか / 何」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。 綴りを覚える。 |
| 第14回 | 第6課 貿易会社で働いています | (学修内容) (打ちとけた) します・しますか/います・いません (事前事後学修課題の内容) (90分) 「(うちとけた) します・しますか/います・いません」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。 綴りを覚える。 |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 春学期のまとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの総復習 文字、発音のルール、文法、表現を総復習する。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|----------------------------|------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | ハンゲル | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Hangul | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 韓 亨 模 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生、幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 多文化が共生する今日、隣国である韓国の言葉や文字を学び、さらには韓国の文化に対する理解を深める。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1. ハンゲルの仕組みを理解し、正しく読み・書きができる。 2. 韓国語で基本的な文法を使って、まとまりのある文章が書ける。 3. 韓国語で基礎的なコミュニケーションができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | プレゼンテーション | | | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (汎用的能力) | プレゼンテーション能力 (積極性) | 課題発見・解決能力 | | | | |
| テ キ ス ト | 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』 木内明 著（国書刊行会） | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 随時指示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 理解度テストを回収後、解答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | ハンゲルが読めることが望ましい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | ハンゲル | |
|---------|---------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 講義の説明、あいさつ、自己紹介、実用表現 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前学期の復習 |
| 第2回 | 第7課 東大門市場に行きます | (学修内容) (かしまった)です・ます (事前事後学修課題の内容) (90分) 「(かしまった)です・ます」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。 |
| 第3回 | 第8課 しょっちゅうスーパーで買います | (学修内容) ヲ体、(打ちとけた)丁寧 / ~しに (事前事後学修課題の内容) (90分) 「ヲ体、(打ちとけた)丁寧 / ~しに」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。 |
| 第4回 | 第8課 しょっちゅうスーパーで買います | (学修内容) 母音の縮約 / 変則用言の丁寧形 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「母音の縮約 / 変則用言の丁寧形」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。 |
| 第5回 | 第9課 それは1万ウォンです | (学修内容) 漢数詞 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「漢数詞」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。 |
| 第6回 | 第10課 今、何時ですか | (学修内容) 時間 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「時間」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。 |
| 第7回 | 第10課 今、何時ですか | (学修内容) 固有数詞、助数詞 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「固有数詞、助数詞」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。 |
| 第8回 | 第11課 日本語を話されますか | (学修内容) 尊敬語 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「尊敬語」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。 |
| 第9回 | 第12課 そんなに遠くありません | (学修内容) 用言の否定 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「用言の否定」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。 |
| 第10回 | 第12課 そんなに遠くありません | (学修内容) ~するといいです (事前事後学修課題の内容) (90分) 「~するといいです」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。 |
| 第11回 | 復習 | (学修内容) 敬語(丁寧語・尊敬語)の復習 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまでの「敬語(丁寧語・尊敬語)」の復習 |
| 第12回 | 第13課 いつ韓国に来ましたか | (学修内容) 過去形 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「過去形」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。 |
| 第13回 | 第13課 いつ韓国に来ましたか | (学修内容) 変則用言の過去形 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「変則用言の過去形」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。 |
| 第14回 | 第14課 民俗村に一緒に行きましょう | (学修内容) 勧誘の表現(~しましょう / ~しよう) (事前事後学修課題の内容) (90分) 「勧誘の表現(~しましょう / ~しよう)」の韓国語の文法ルールを整理し、使えるようにする。綴りを覚える。総復習。 |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 秋学期のまとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの復習 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 英語・コミュニケーション | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | |
| 英文名 | English Communication | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 早瀬 和栄 | | | 対象学生 | 歴史2回生、幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 演習形式の授業を通して、リーディング・、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域において総合的な英語力をバランスよく習得する。予習していることを前提にテキストを進める。また、専門領域に関連する教材や、異文化理解にもつながる多読も授業に取り入れる。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を身につけることができる。 2) 自身のことについて、簡単な単語を用いて意見を伝えることができる。 3) 平易な英語絵本を訳すことなく、英語のまま理解することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 | | |
| テキスト | 『スヌーピーと英会話』 今泉志奈子 (英宝社) | | | | | | | | |
| 参考書 | 保育英語検定受験予定者は各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し、学習に取り組むことが望ましい。 『保育英語検定3級テキスト(改訂版)』 社団法人保育英語検定協会著 (本の泉社)、2057円 『保育英語検定2級テキスト(改訂版)』 社団法人保育英語検定協会著 (本の泉社)、2057円 『保育英語ワークブック (保育英語検定3級問題集)』 社団法人 国際子育て支援機構著、1472円 『保育英語ワークブック (保育英語検定2級問題集)』 社団法人 国際子育て支援機構著、1472円 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたりレポートについては、コメントを付けて返却します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 本授業では定期試験を実施する。 5回以上の欠席は認めないが、正当な理由がある場合は考慮しますので、必ず報告すること。 授業には辞書を必ず持参すること。 授業の進み具合によって、授業計画は前後することがあります。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 英語・コミュニケーション |
|---------|-----------------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容)到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介 (事前事後学修課題の内容)(15分) 本授業のシラバスを読む |
| 第2回 | Unit 1 流行について話すとき | (学修内容)流行について話すときの英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp.3-5 の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第3回 | Unit 2 親しい友人たち、仲間に話しかけるとき (1) | (学修内容)親しい友人との会話で使う英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp.6-10 の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第4回 | Unit 3 ボイフレンド・ガールフレンドについて話すとき(1) | (学修内容)ボイフレンドやガールフレンドについて話すときの英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp.11-16 の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第5回 | Unit 4 凝っているものについて話すとき | (学修内容)凝っているものについて話すときの英語表現、プレゼンテーションの実践。 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp.17-21 の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第6回 | Unit 5 微妙な程度をあらわすとき | (学修内容)微妙な程度をあらわす英語表現 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp.22-28 の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第7回 | Unit 6 謝罪に対する返事・強い拒否・打ち消し | (学修内容)謝罪に対する返事や拒否の英語表現 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp.29-33 の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第8回 | Unit 7 学生ことば いろいろ | (学修内容)学生ことばの英語表現 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp.34-42 の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第9回 | Unit 8 親しい友人たち、仲間に話しかけるとき (2) | (学修内容)クラブ活動や趣味を共有する仲間の間で使う英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp.43-48 の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第10回 | Unit 9 気を取り直して言い直すとき | (学修内容)状況を受け入れて、自分の意見を話すときの英語表現、プレゼンテーションの実践。 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp.49-54 の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第11回 | Unit 10 ボイフレンド・ガールフレンドについて話すとき(2) | (学修内容)異性を褒めるときの英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp.55-61 の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第12回 | Unit 11 強い同意、賛成をあらわすとき | (学修内容)賛成の気持ちを伝える英語表現 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp.62-66 の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第13回 | Unit 12 とっさの一言 | (学修内容)驚いたときなどに思わず反射的に出てくる英語表現 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp.67-71 の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第14回 | Unit 13 ちょっと話しておきたい とっておきの話があるとき | (学修内容)とっておきの話を切り出す際の英語表現、プレゼンテーションの実践。 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp.72-76 の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第15回 | テキストの総復習 | (学修内容)文法と日常会話に使える英語表現の復習 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの英作文問題の見直し |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 歴史学演習 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | History Seminar | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 工藤 美和子 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 卒業研究論文を作成していくうえでの基礎となる作業を説明します。同時にその実践を各自ゼミ生が行っていく形式をとります。研究史の整理に関するプレゼンテーションの後には小レポートを提出します。また目次案の作成と章ごとの概要も各自ゼミ生ごとにまとめて提出します。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 卒業研究論文のテーマ決定をすることができる。 2) 研究史を整理することができる。 3) 卒業研究論文の構成と目次案および章立てを作成することができる。 4) 草稿作成を行うことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 特に指定しません。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 各自ゼミ生のテーマにそって指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたレポートはコメントを付けて返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 卒業研究論文を作成するうえでの基礎および基本的作業を、春学期に徹底的に行いましょう。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室に日時を貼付するので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 歴史学演習 | |
|------|------------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 卒業研究論文作成の日程の確認およびその心構えについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 説明されたことをメモにして復習すること。各自ゼミ生が卒業論文研究の計画書を作成し提出すること。 |
| 第2回 | 卒業研究論文のテーマの確認 | (学修内容) 卒業研究論文のテーマについて、各自ゼミ生ごとに確認します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自ゼミ生は卒業研究論文テーマについて説明できること。 |
| 第3回 | 参考文献リストのチェック | (学修内容) 各自ゼミ生ごとに参考文献リストのチェックを行い、確認します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 参考文献リストを作成し提出できるようにしておくこと。 |
| 第4回 | 研究史の整理 | (学修内容) 各自ゼミ生が参考文献などを活用して、各自テーマの研究史を整理します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 研究史の整理をする。 |
| 第5回 | 研究史の整理 発表準備 | (学修内容) 各自ゼミ生が参考文献などを活用して、各自の研究テーマの研究史を整理し発表の準備をします。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に、発表の準備に必要なレジュメを作成する。レジュメは指導教員に確認してもらうこと。 |
| 第6回 | 研究史の整理と発表 前半グループ (プレゼンテーション) | (学修内容) 各自ゼミ生が参考文献などを活用して、各自の研究テーマの研究史を整理し、発表(プレゼンテーション)をします。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備をしておくこと。発表後は小レポートを提出する。 |
| 第7回 | 研究史の整理と発表 後半グループ (プレゼンテーション) | (学修内容) 各自ゼミ生が参考文献などを活用して、各自の研究テーマの研究史を整理し、発表(プレゼンテーション)をします。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備をしておくこと。発表後は小レポートを提出する。 |
| 第8回 | 卒業研究論文の個別面談 前半グループ | (学修内容) 各自ゼミ生の卒業研究論文の研究テーマについて個別面談を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自ゼミ生は研究テーマについて整理する。 |
| 第9回 | 卒業研究論文の個別面談 後半グループ | (学修内容) 各自ゼミ生の卒業研究論文の研究テーマについて個別面談を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自ゼミ生は研究テーマについて整理する。 |
| 第10回 | 論文構成と目次案 | (学修内容) 各自ゼミ生の論文構成を考え、目次案を作成し提出します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 目次案を提出する。 |
| 第11回 | 論文構成と章立て 章立ての作成 | (学修内容) 各自ゼミ生の論文構成を考え、章立てを作成し提出します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 章立てを提出する。 |
| 第12回 | 論文構成と目次案・章立ての確認 | (学修内容) 各自ゼミ生は論文構成を考え、目次案と章立ての確認を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 目次案と章立てを見直す。 |
| 第13回 | 草稿執筆の準備 | (学修内容) 草稿について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 草稿について各自復習する。 |
| 第14回 | 草稿執筆 | (学修内容) 各自ゼミ生が卒業研究論文の大まかな草稿を作成していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 草稿を執筆する。指導教員に草稿を提出し指導を受ける。 |
| 第15回 | 草稿執筆 完成に向けて | (学修内容) 各自ゼミ生の草稿を確認したうえで、講義の振り返りを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 草稿の作成を引き続き行う。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 歴史学演習 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | History Seminar | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 工藤 美和子 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 卒業研究論文の具体的作成についての方法を説明します。各自ゼミ生が、卒業研究論文執筆を行い、内容の確認と卒業研究中間発表を行い提出を目指します。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 卒業研究中間発表を行い、論文のポイントをプレゼンテーションすることができる。 2) 卒業研究中間発表を行い、指導助言を論文に反映できる。 3) 卒業研究論文を決まったフォーマットに合わせて完成させ、期日までに提出することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (80 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (20 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 特に指定しません。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 各自ゼミ生のテーマにそって指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたレポートはコメントをつけて返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | はやめに取り組み、余裕あるスケジュールで卒業研究論文の完成を目指しましょう。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室に日時を貼付するので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 歴史学演習 | |
|------|-----------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 論理的に書くには | (学修内容) 歴史学演習 の振り返りを行います。論理的な書き方について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをしておく。 |
| 第2回 | 主張と根拠 | (学修内容) 主張と根拠の関係性について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをしておく。 |
| 第3回 | 卒業研究論文中間発表会の準備 目的 | (学修内容) 各自ゼミ生が卒業研究論文中間発表会の準備をします。発表内容について個別のアドバイスを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の活動、整理、準備をすること。 |
| 第4回 | 卒業論文中間発表会の準備 方法 | (学修内容) 各自ゼミ生が卒業研究論文中間発表会の準備をします。発表内容について個別のアドバイスを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の活動、整理、準備をすること。 |
| 第5回 | 卒業研究論文中間発表会の準備 考察 | (学修内容) 各自ゼミ生が卒業研究論文中間発表会のレジュメを作成します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメの確認、発表の練習を行うこと。 |
| 第6回 | 卒業研究論文中間発表会・第1回 | (学修内容) 卒業研究論文の中間発表を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 1グループ8名ごとで発表を行う。事前に指導教員にレジュメを提出する。発表後はアドバイスをメモし考察すること。 |
| 第7回 | 卒業研究論文中間発表会・第2回 | (学修内容) 卒業研究論文の中間発表を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にレジュメを提出する。発表後はアドバイスをメモし考察すること。 |
| 第8回 | 卒業研究論文中間発表会・第3回 | (学修内容) 卒業研究論文の中間発表を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にレジュメを提出する。発表後はアドバイスをメモし考察すること。 |
| 第9回 | 卒業研究論文構成の再確認 | (学修内容) 卒業研究論文の内容の再確認を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 卒業研究論文中間発表の事後指導を受ける。 |
| 第10回 | 草稿作成 序論・本論・結論の3部構成を知る | (学修内容) 卒業研究論文提出にむけて草稿を整え、体裁内容を点検します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 草稿作成にとりかかる。必ず担当教員に進捗状況を知らせ指導をうけること。 |
| 第11回 | 草稿作成 序論を書く | (学修内容) 卒業研究論文提出にむけて草稿を整え、体裁内容を点検します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 草稿作成にとりかかる。必ず担当教員に進捗状況を知らせ指導をうけること。 |
| 第12回 | 草稿作成 本論を書く | (学修内容) 卒業研究論文提出にむけて草稿を整え、体裁内容を点検します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 草稿作成にとりかかる。必ず担当教員に進捗状況を知らせ指導をうけること。 |
| 第13回 | 草稿作成 本論と結論を書く。 | (学修内容) 卒業研究論文提出にむけて草稿を整え、体裁内容を点検します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 草稿作成にとりかかる。必ず担当教員に進捗状況を知らせ指導をうけること。 |
| 第14回 | 提出準備 | (学修内容) 卒業研究論文提出にむけて草稿を整え、体裁内容を点検します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 提出前の点検作業を行う。 |
| 第15回 | 卒業研究論文提出前の点検 | (学修内容) 最終的な確認と点検を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 卒業研究論文の完成および提出への準備をする。内容の確認、誤字脱字等がないか点検する。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|-----------------------------------|--------------------|----------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 社会史 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Social History | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 新矢 昌昭 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 社会史とは、歴史的な事件や出来事など特定の対象を学ぶ歴史ではなく、女性や民衆、家族、人々の心性、深層など、人と人との関係が織り成す歴史を考えるとともに、その当時の社会的な背景を考える学際的な学問である。この講義では、社会史とは何かという方法論をアナル学派や阿部謹也から学び、主として日本の心の深層に焦点を当てたい。社会史を学ぶことで、歴史の見方が広がって欲しい | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | 1) 社会史の視点を把握し歴史観を広げることができる 2) 社会史が歴史学に与えた影響を把握することができる 3) 社会史を通して現在を考えることができる | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (85 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (15 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (歴史的汎用力) | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | | |
| テ キ ス ト | 使用しない。資史料を配布する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 講義中に指示する | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 配布史料に関する解説、学生への考えにコメントを加える | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 社会史の方法を把握すること。わからないことは講義後に聞くこと。現代的な価値観で歴史をみないこと | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室の扉に掲示する | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：高等学校非常勤講師として勤務経験有(現代社会) | | | | | | | | |

| 授業名 | 社会史 | |
|------|----------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会史とは、何かを調べておく |
| 第2回 | 社会史の方法 | (学修内容) アナール学派とは何か、アナール学派の歴史と方法 (事前事後学修課題の内容) (60分) アナール学派について調べておく |
| 第3回 | 社会史の対象 | (学修内容) アナール学派の事例研究 (事前事後学修課題の内容) (60分) 方法論を復習しておく |
| 第4回 | 刑罰の社会史ー前近代の刑罰 | (学修内容) 身体刑の歴史 (事前事後学修課題の内容) (60分) 身体刑を調べておく |
| 第5回 | 刑罰の社会史ー近代以降の刑罰 | (学修内容) 監獄の誕生 (事前事後学修課題の内容) (60分) 現在の刑について考えておく |
| 第6回 | 切腹の社会史ー江戸時代以前 | (学修内容) 切腹の意義を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 切腹のイメージについて考えておく |
| 第7回 | 切腹の社会史ー江戸時代以後 | (学修内容) 日本文化としての切腹 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布史料を読んでおく |
| 第8回 | 戦国時代の社会史ー奴隷 | (学修内容) 戦国時代の民衆 (事前事後学修課題の内容) (60分) 戦国時代の籠城戦の意味について理解しておく |
| 第9回 | 戦国時代の社会史ー大坂の陣 | (学修内容) 大坂夏の陣にみる民衆 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大坂夏の陣布陣図の特徴を考えておく |
| 第10回 | 恋愛の社会史ー恋愛の誕生 | (学修内容) 近代的な恋愛とは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 恋愛に関する配布資料を読んでおく |
| 第11回 | 結婚の社会史ー前近代 | (学修内容) 結婚の歴史 (事前事後学修課題の内容) (60分) 結婚に関する配布資料を読んでおく |
| 第12回 | ファシズム | (学修内容) 何故、人々はファシズムに魅了されるのか (事前事後学修課題の内容) (60分) ファシズムについて調べておく |
| 第13回 | ファシズムの思想 | (学修内容) ファシズム思想を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく |
| 第14回 | アインヒマン実験 | (学修内容) アインヒマン実験に関するグループワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、自身の考えをまとめておく |
| 第15回 | 全体のまとめ | (学修内容) 自身が学んだことを発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) この講義で興味を持ったことについてまとめておく |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 古文書学 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Paleography | | | 開講時期 | 春学期 | | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 坪井 剛 | | | 対象学生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>歴史研究において、文献史料は最も情報量の多い歴史史料です。様々な文献史料を読解することによって、過去に何が起こったのか、過去の人々はどのように生活していたのか、多くのことを知ることができます。しかし、問題となるのは、そこに使われている文体や単語の意味が、現代日本語とは異なっていることです。また、活字になっていないものは、「くずし字」を読解しなければなりません。つまり、過去の文献史料を読みこなし、そこから多くの情報を引き出すためには、それらを正確に読解する訓練が必要となるのです。本授業では、近世の様々な文献史料を読みこなすことにより、その読解力を身に付けることを目標とします。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 近世の文献史料の読解力を向上させる。 2) 基本的なくずし字を読みこなすことができるようになる。 3) すぐには判らないこと、判断が付かないことに対し、粘り強く調べ、考える姿勢を身に付ける。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (60%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 | | |
| テキスト | 原文書のコピーを配布する。 | | | | | | | | |
| 参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』東京堂出版、1993年。 ・ 児玉幸多編『くずし字解読辞典 普及版』東京堂出版、1993年。 ・ 日本歴史学会編『概説 古文書学 近世編』吉川弘文館、1989年。 ・ 佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局、2003年。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 小テストを実施後、授業で解説を行う。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 古文書学 | |
|------|-----------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 古文書とは何か、再確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ・「古文書学」を受講した者は、その内容を振り返っておく。 ・受講していない者は、辞書で「古文書」について調べておく。 |
| 第2回 | 「人相書」を読む | (学修内容) ・漢字仮名交じりの文章を実際に読解する (事前事後学修課題の内容) (60分) ・事前学習 配布したテキスト(文書写真のコピー)を読解してくる。 ・事後学習 授業で読解したテキストを積文なしで読み直してみる。 |
| 第3回 | くずし字で「京都町触」を読む | (学修内容) ・くずし字で「京都町触」を読解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ・事前学習 配布したテキスト(文書写真のコピー)を読解してくる。 ・事後学習 授業で読解したテキストを積文なしで読み直してみる。 |
| 第4回 | 変体漢文の読解法 その1 述語・助動詞 | (学修内容) ・変体漢文を読むルールを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ・事前学習 配布したテキスト(活字史料)を読解してくる。 ・事後学習 授業で読解したテキストの読み下しを作成する。 |
| 第5回 | 変体漢文の読解法 その2 助詞・副詞 | (学修内容) ・変体漢文を読むルールを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ・事前学習 配布したテキスト(活字史料)を読解してくる。 ・事後学習 授業で読解したテキストの読み下しを作成する。 |
| 第6回 | 「京都町触」を読む その1 生類憐れみの令 | (学修内容) ・「京都町触」を活字で読んでみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ・事前学習 配布したテキスト(活字史料)を読解してくる。 ・事後学習 授業で読解したテキストの読み下しを作成する。 |
| 第7回 | 「京都町触」を読む その2 儉約令 | (学修内容) ・「京都町触」を活字で読んでみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ・事前学習 配布したテキスト(活字史料)を読解してくる。 ・事後学習 授業で読解したテキストの読み下しを作成する。 |
| 第8回 | 小テスト | (学修内容) ・これまでの学習成果を確認する小テストを実施する。実施後、その内容を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ・事前学習 配布したテキスト(活字史料)を読解してくる。 ・事後学習 小テストの内容を確認しておく。 |
| 第9回 | くずし字を読む その1 譲状 | (学修内容) ・実際の古文書(譲状)を読んでみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ・事前学習 配布したテキスト(文書写真のコピー)を読解してくる。 ・事後学習 授業で読解したテキストを積文なしで読み直してみる。 |
| 第10回 | くずし字を読む その2 売券 | (学修内容) ・実際の古文書(売券)を読んでみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ・事前学習 配布したテキスト(文書写真のコピー)を読解してくる。 ・事後学習 授業で読解したテキストを積文なしで読み直してみる。 |
| 第11回 | くずし字を読む その3 往来手形 | (学修内容) ・実際の古文書(往来手形)を読んでみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ・事前学習 配布したテキスト(文書写真のコピー)を読解してくる。 ・事後学習 授業で読解したテキストを積文なしで読み直してみる。 |
| 第12回 | くずし字を読む その4 借用状 | (学修内容) ・実際の古文書(借用状)を読んでみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ・事前学習 配布したテキスト(文書写真のコピー)を読解してくる。 ・事後学習 授業で読解したテキストを積文なしで読み直してみる。 |
| 第13回 | くずし字を読む その5 養子証文 | (学修内容) ・実際の古文書(養子証文)を読んでみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ・事前学習 配布したテキスト(文書写真のコピー)を読解してくる。 ・事後学習 授業で読解したテキストを積文なしで読み直してみる。 |
| 第14回 | くずし字を読む その6 奉公人請状 | (学修内容) ・実際の古文書(奉公人請状)を読んでみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ・事前学習 配布したテキスト(文書写真のコピー)を読解してくる。 ・事後学習 授業で読解したテキストを積文なしで読み直してみる。 |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) ・これまでの学習を振り返り、古文書を読む際の注意点についてまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ・第1回～14回までのテキストと復習しておく。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|--------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 考古学演習 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Archeology Seminar | | | 開講時期 | 春学期 | | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 塚本 浩司 | | | 対象学生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 過去に生きた人びとの生活・文化を遺跡・遺構・遺物から研究するのが考古学という学問である。本講義では、弥生時代を中心に、旧石器時代から古墳時代までの生業・社会構造・精神文化・地域的多様性などさまざまなトピックを発掘調査成果から掘り下げていく。時代の流れを把握した上での弥生時代の特徴を浮き彫りにする。考古学の方法論についても説明を行い、実際に出土資料を手にとっての観察と図化（実測）も学ぶ中で、物質資料の分析手法を理解する。また、遺跡は地域の誇りとなり、地域の魅力をアピールする文化資源としても注目を浴びている。近年その重要性が叫ばれる遺跡の活用や、その最前線となる史跡公園や博物館の取り組みについても知ってほしい。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 出土資料をもとに歴史を考える考古学の手法を理解することができる。 2) 過去の生活・文化を知り、日本列島の地域的多様性、また時代的独自性を把握することができる。 3) 考古学における出土資料の観察のポイント、図化のルールを知ることによって物質資料の見方を身に付けることができる。 4) 遺跡の魅力を知り、そのアピールの手法を知ることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業） | | グループワーク ICT活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (60%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (観察発見力) | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | | |
| テキスト | なし（授業中にプリント配布） | | | | | | | | |
| 参考書 | 佐々木恵一ほか著 2011『はじめて学ぶ考古学』有斐閣 松藤和人・門田誠一編著 2010『よくわかる考古学』ミネルヴァ書房 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出された製作物などはコメントを付けて返却する。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 博物館・資料館に出かけ、展示物を観察し、物質資料に対しての関心を深めておく。 史跡公園・博物館に出かけ、その表現手法について、メッセージ・魅力の伝達という観点から自分なりに考えてみる。 講義では、実際に出土した考古資料に触れて、観察し、考古学の基本的な記録作業の実習も行う。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実務経験など：公益財団法人大阪府文化財センターでの発掘調査技師を経て、現在大阪府立弥生文化博物館に学芸員として勤務。 | | | | | | | | |

| 授業名 | 考古学演習 | |
|------|--------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 講義概要説明、歴史の流れと考古学的時代区分について (事前事後学修課題の内容) (15分) 歴史年表で時代の流れを確認しておく |
| 第2回 | 考古学とは(1) - 発掘調査と出土遺物 - | (学修内容) 発掘調査と出土資料の特性について (事前事後学修課題の内容) (30分) 考古学の方法論について調べておく |
| 第3回 | 考古学とは(2) - 編年 - | (学修内容) 出土資料の編年と年代について (事前事後学修課題の内容) (30分) 出土資料の編年研究の具体例について調べておく |
| 第4回 | 旧石器時代から縄文時代 | (学修内容) 日本列島における人の渡来から独自の文化を発達させた縄文時代について (事前事後学修課題の内容) (30分) 旧石器時代と縄文時代の代表的な遺跡を調べておく |
| 第5回 | 弥生時代の始まりと弥生人 | (学修内容) 水田稲作の始まりと朝鮮半島との関係、弥生人の形質について (事前事後学修課題の内容) (30分) 北部九州における弥生時代の始まりの様相について調べておく |
| 第6回 | 弥生時代の祭器とまつり | (学修内容) 銅鐸などの祭器からみた弥生時代の精神文化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 銅鐸について調べておく |
| 第7回 | 弥生時代の戦いと武器 | (学修内容) 武器・集落構造・殺傷人骨からみた弥生時代の戦いの特性について (事前事後学修課題の内容) (30分) 弥生時代の武器について調べておく |
| 第8回 | 博物館の取り組み | (学修内容) 博物館における情報発信の手法について、各自の体験をディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 身近な博物館・資料館を見学しておく |
| 第9回 | 考古資料実習(1) - 遺物に触れ、観察する - | (学修内容) 石器の製作技術、出土資料を手にとって観察する、実測図を知る (事前事後学修課題の内容) (30分) 石器の製作技術について調べておく |
| 第10回 | 考古資料実習(2) - 遺物を記録する - | (学修内容) 考古資料の詳細な観察と図化を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 石器の製作技術について調べておく |
| 第11回 | 考古資料実習(3) - 遺物を記録する | (学修内容) 考古資料の詳細な観察と図化を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 石器の製作技術について調べておく |
| 第12回 | 弥生時代の墓と社会構造 | (学修内容) さまざまな墓のスタイルと副葬品からみえる権力者の姿について (事前事後学修課題の内容) (30分) 弥生時代の墓制について調べておく |
| 第13回 | 弥生時代の地域的多様性 | (学修内容) 東日本や北海道、また南西諸島の独自の文化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 弥生時代の文化的多様性について調べておく |
| 第14回 | 古墳時代 | (学修内容) 弥生時代から古墳時代への変革、権力者と墓について (事前事後学修課題の内容) (30分) 古墳時代の墓について調べておく |
| 第15回 | 遺跡の保護と活用 | (学修内容) 遺跡の保護と史跡公園が発信する地域の魅力について、各自の体験をディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 身近な史跡公園を見学しておく |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|---|
| 授業名 | 日本思想史 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | History of Japanese Thought | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 新矢 昌昭 | | | 対象学生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 日本思想史を通して、近・現代の日本を考えたい。この講義では、近代に影響を与えた国学や水戸学、幕末の思想に注目し、現在日本の原型である近代日本を考える。近代日本については、主として同時代に生きた夏目漱石の視点から考えてみる。漱石が、同時代に対して如何に格闘し、近代日本をどのように見ていたのかを把握してもらいたい | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 現在にも通底する思想を捉え、日本とは何かを考えることができる 2) 思想家に触れることで、どのように当時の社会と格闘したのかを理解することができる 3) 講義で触れた思想を基にして現代社会を考えるきっかけを掴むことができる | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (85 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (15 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テキスト | 授業中に史料を配付する | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介する | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 配布史料に関する解説、学生への考えにコメントを加える | | | | | | | | |
| 留意事項 | 日本の思想を学ぶ講義であるので、部分であるが中心的な思想の資料を配布し、それに基づいた講義を行う。思想の背景にある歴史を抑えておくこと。また、史料の輪読、グループワークを取り入れる予定である。わからない箇所は講義後に聞くこと | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 講義中に指示する | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 日本思想史 | |
|------|----------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 日本思想史とは何か。この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日本思想史の対象を調べておく |
| 第2回 | 日本思想史の方法 | (学修内容) 日本思想史をどのように学ぶのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 日本思想史とは何かの復習 |
| 第3回 | 本居宣長と国学 | (学修内容) 本居宣長の「日本」発見 (事前事後学修課題の内容) (60分) 本居宣長についての基礎知識を理解しておく |
| 第4回 | 水戸学とは | (学修内容) 水戸学の影響 (事前事後学修課題の内容) (60分) 水戸藩と水戸学について調べておく |
| 第5回 | 会沢正志斎の「国体」 | (学修内容) 会沢の近代国家構想 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布史料を読んでおく |
| 第6回 | 近代日本へのまなざし | (学修内容) ネーション、ナショナリズムとは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布史料を読んでおく |
| 第7回 | 夏目漱石と近代日本ー開化とは何か | (学修内容) 漱石「現代日本の開化」を読む (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく |
| 第8回 | 夏目漱石と近代日本ー夏目漱石の思想的格闘 | (学修内容) 漱石「現代日本の開化」を読む (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく |
| 第9回 | 夏目漱石の『こころ』 | (学修内容) DVD鑑賞 (事前事後学修課題の内容) (30分) 『こころ』の概要を把握しておく |
| 第10回 | 『こころ』から思想を考える | (学修内容) グループワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の感想文 |
| 第11回 | 『こころ』のグループワーク | (学修内容) 『こころ』の思想をグループで考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 『こころ』についての配布資料を読んでおく |
| 第12回 | 夏目漱石の個人主義ー他人本位と自己本位 | (学修内容) 漱石「私の個人主義」を読む (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく |
| 第13回 | 夏目漱石の個人主義ー個人主義の寂しさ | (学修内容) 何故、個人主義は孤独なのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく |
| 第14回 | 丸山眞男の思想ー超国家主義とは | (学修内容) 丸山「超国家主義の論理と心理」を読む (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく |
| 第15回 | 丸山眞男の思想ー日本の特徴 | (学修内容) 丸山「超国家主義の論理と心理」を読む (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|-----------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 人物史 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | History of Great People | | | 開講時期 | 秋学期 | | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 新矢 昌昭 | | | 対象学生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 本講義では「敗れた」人物や悲劇の人物について考えたい。そして取り上げる人物を巡る様々な人物を対置させ、「敗れた」人物や悲劇の人物の目指した理想や理念を考える。「敗れた」人物や悲劇の人物に焦点を当てるのは、その人物の持つ可能性や意義を考えることで、多様な歴史観、あるいは現在に通じることを学べるからである。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 現代に生きるわれわれにとって、取り上げた人物から彼らの時代的な意義を掴むことができる 2) 何故、人々は人物に「共感」するのかを考えることができる 3) 時代と人物との関係を把握することができる | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (85%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (15%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テキスト | 使用しない。史料を配布する | | | | | | | | |
| 参考書 | 講義中に指摘する | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 配布史料に関する解説、学生への考えにコメントを加える | | | | | | | | |
| 留意事項 | わからない箇所は、講義後に聞くこと | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室の扉に掲示する | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 人物史 | |
|------|---------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 人物史とは何か (事前事後学修課題の内容) (30分) 自身の好きな歴史的人物について調べておく |
| 第2回 | 人物史の方法 | (学修内容) 人物から歴史を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) どのような人物が主として取り上げられているのかを高校の教科書から調べておく |
| 第3回 | 平維盛と重衡 | (学修内容) 人物から平氏政権の特徴と滅亡を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 平維盛と重衡の基本的な理解をしておく |
| 第4回 | 北条高時の悲劇 | (学修内容) 高時は本当に愚か者なのか (事前事後学修課題の内容) (30分) 高時について基本的な理解をしておく |
| 第5回 | 北条高時と鎌倉炎上 | (学修内容) 高時の教訓 (事前事後学修課題の内容) (60分) 鎌倉滅亡に至る『太平記』の配布史料を一読しておく |
| 第6回 | 足利義教ーくじ引き將軍 | (学修内容) くじ引き將軍の目指したもの (事前事後学修課題の内容) (30分) 義教についての基礎的な理解をしておく |
| 第7回 | 足利義教ー恐怖政治 | (学修内容) 恐怖政治の理由 (事前事後学修課題の内容) (60分) 歴史的な恐怖政治の共通項について考えておく |
| 第8回 | 足利義政と日野富子 | (学修内容) 富子は悪女なのか (事前事後学修課題の内容) (30分) 足利義政と日野富子についての基礎的な理解をしておく |
| 第9回 | 日野富子と経済 | (学修内容) 富子が目指した幕府 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布史料を読んでおく |
| 第10回 | 織田信長と本能寺の変ー光秀は犯人なのか | (学修内容) 信長を殺したのは誰か (事前事後学修課題の内容) (30分) 信長と明智光秀の関係の基礎的な理解をしておく |
| 第11回 | 織田信長と本能寺の変ー黒幕の存在 | (学修内容) 信長を殺しを巡る疑わしい人々 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自身で黒幕を考えてみる |
| 第12回 | 豊臣秀次 | (学修内容) 秀次は、本当に「殺生関白」なのか (事前事後学修課題の内容) (30分) 秀次についての基本的な理解をしておく |
| 第13回 | 豊臣秀次、フィールドワーク | (学修内容) 豊臣秀次の墓地の見学 (事前事後学修課題の内容) (30分) 秀次の死についての理解しておく |
| 第14回 | 幕末の京都を巡る人々ー新撰組 | (学修内容) 芹沢鴨は本当に乱暴者なのか (事前事後学修課題の内容) (30分) 幕末水戸藩についての理解しておく |
| 第15回 | 幕末の京都を巡る人々ー新撰組と会津藩 | (学修内容) 会津藩と新撰組。彼らは、何故京都人から嫌われたのか (事前事後学修課題の内容) (30分) 京都守護職を理解しておく |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 女性史 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | History of Women | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | 必 修 選 択 | | 選 択 | |
| 担 当 者 | 馬場 まみ | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 近世から現代にいたる女性の社会的位置づけの変遷について講義する。さらに、戦後の女性にかかわる社会環境の変化と女性の社会的位置づけについて概観し、現代における課題を考える。理解を深めるために、適宜ディスカッションを行いながら授業を進める。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1. 近世から近代における女性の社会的位置づけを説明することができる。 2. 戦後における、女性を取り巻く社会の変化と女性の状況を説明することができる。 3. 現代社会における女性に関わる課題を指摘することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (90 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (10 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 随時指示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出物については理解度を確認し解説を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 女性史 | |
|---------|---------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 科目ガイダンス | (学修内容) 女性史の研究史と女性史を学ぶ意義について (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読み、これまでに学んだ女性の生活の歴史について振り返る |
| 第2回 | 近世社会と女性1: 女訓書とは | (学修内容) 女訓書について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく |
| 第3回 | 近世社会と女性2: 女訓書を読む | (学修内容) 女訓書の記述内容について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく |
| 第4回 | 近世社会と女性3: 女訓書にみる女性像 | (学修内容) 女訓書にみる女性の役割について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく |
| 第5回 | 近世社会と女性4: 家父長制と女性 | (学修内容) 家父長制と女性に求められる役割について (事前事後学修課題の内容) (60分) 家父長制について調べてくる |
| 第6回 | 近代社会と女性1: 家政書にみる女性像 | (学修内容) 家政書にみる女性について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでくる |
| 第7回 | 近代社会と女性2: 良妻賢母教育 | (学修内容) 近代社会と女性の役割について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく |
| 第8回 | 近代社会と女性3: 明治民法と女性 | (学修内容) 明治民法における女性の位置づけについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく |
| 第9回 | 近代社会と女性4: 近代の女性観 | (学修内容) 近世と近代の女性観の違いについて ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 女性観の違いについて考えてくる |
| 第10回 | 近代社会と女性5: 女性と社会運動 | (学修内容) 婦人参政権運動等の社会運動について (事前事後学修課題の内容) (60分) 婦人参政権運動について調べておく |
| 第11回 | 現代社会と女性1: 戦後の女性の生活 | (学修内容) 戦後の女性の生活について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく |
| 第12回 | 現代社会と女性2: 女性と教育 | (学修内容) 戦後から現代までの女性に対する教育の変遷について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく |
| 第13回 | 現代社会と女性3: 女性差別撤廃条約 | (学修内容) 女性差別撤廃条約について (事前事後学修課題の内容) (60分) 女性差別撤廃条約について調べておく |
| 第14回 | 現代社会と女性4: 男女共同参画社会 | (学修内容) 男女共同参画社会について (事前事後学修課題の内容) (60分) 男女共同参画社会について調べておく |
| 第15回 | 今後の課題 | (学修内容) これまでの内容を振り返り、今後の課題についてディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業内容を振り返る |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 京都体験実習 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Practical Experience in Kyoto 1 | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 新矢 昌昭 | | | 対象学生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>「京都らしさ」とは何か。伝統産業や観光的な視点から京都について体験し知識を深めることが目的である。この講義では、フィールドワークや体験などを通して「京都らしさ」を学んで欲しい。また、「京都らしさ」を考えるために京都を外からも眺めてみる。そのためには事前発表として探訪先の史跡に関する予備知識をグループで発表し、次いで実地調査を行う。結果、予備知識と実地調査の差異はどうであったのかを確認し、新たに明らかになったことなどをグループで事後学習で発表報告する形態をとる。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 「京都らしさ」について学ぶことができる 2) 「京都らしさ」について歴史、文化、観光の視点から学ぶことができる 3) 「京都らしさ」の将来を考えることができる</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 | | |
| テキスト | 使用しない。プリントを配布する | | | | | | | | |
| 参考書 | 使用しない | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 作成したレジュメにコメントや訂正を加える。また、フィールドワークでは適宜補足説明を行う。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | フィールドワークや体験を通して「京都らしさ」を深めて欲しい。単なる参加で終わらず、発見や課題を見つけて欲しい。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室の扉に掲示する | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 京都体験実習 | |
|------|----------------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 京都を体験することについて。この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) 京都のイメージをまとめておく |
| 第2回 | 観光都市京都 | (学修内容) 観光都市京都の特徴 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する統計資料を読みその特徴を把握しておく |
| 第3回 | 観光としての京都の魅力 | (学修内容) 京都の魅力とは (事前事後学修課題の内容) (60分) 旅行業社のパンフレットを用意し、一読する |
| 第4回 | レジュメの作成方法と発表の仕方 | (学修内容) 発表の仕方とグループ分け、行先の選定 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自、京都のどこに行きたいのか、それは何故かをまとめておく |
| 第5回 | 第1グループ。事前発表と討論 | (学修内容) 第1グループによる事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第1グループはレジュメを作成しておく。 |
| 第6回 | フィールドワーク1回目 | (学修内容) 第1グループによる現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第1グループによるガイドの作成、経路確認 |
| 第7回 | 第1グループの事後学習、討論 第2グループの事前学習、討論 | (学修内容) 第1グループによる調査内容、反省点のレジュメ 第2グループによる事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第1、第2グループごとにレジュメを作成しておく |
| 第8回 | フィールドワーク2回目 | (学修内容) 第2グループによる現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第2グループによるガイドの作成、経路確認 |
| 第9回 | 第2グループの事後学習、討論 第3グループの事前学習、討論 | (学修内容) 第2グループによる調査内容、反省点のレジュメ 第3グループによる事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第2、第3グループごとにレジュメを作成しておく |
| 第10回 | フィールドワーク3回目 | (学修内容) 第3グループによる現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3グループによるガイドの作成、経路確認 |
| 第11回 | 第3グループの事後学習、討論 第4グループの事前学習、討論 | (学修内容) 第3グループによる調査内容、反省点のレジュメ 第4グループによる事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3、第4グループごとにレジュメを作成しておく |
| 第12回 | フィールドワーク4回目 | (学修内容) 第4グループによる現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第4グループによるガイドの作成、経路確認 |
| 第13回 | 第4グループの事後学習、討論 第5グループの事前学習、討論 | (学修内容) 第4グループによる調査内容、反省点のレジュメ 第5グループによる事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第4、第5グループごとにレジュメを作成しておく |
| 第14回 | フィールドワーク5回目 | (学修内容) 第5グループによる現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第5グループによるガイドの作成、経路確認 |
| 第15回 | 第5グループの事後学習、討論 全体のまとめ | (学修内容) 第5グループによる調査内容、反省点のレジュメ (事前事後学修課題の内容) (60分) 第5グループはレジュメを作成しておく |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------|--------------|---|
| 授 業 名 | 京都体験実習 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Practical Experience in Kyoto 2 | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 新矢 昌昭 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>に続き、伝統産業や観光的な視点から京都について体験し知識を深めることが目的である。この講義では、フィールドワークや体験などを通して「京都らしさ」を学んで欲しい。また、「京都らしさ」を考えるために京都を外からも眺めてみる。そのためには事前調査として探訪先の史跡に関する予備知識を各自が所持しレジュメを作成し、次いで実地調査を行う。結果、予備知識と実地調査の差異はどうであったのかを確認し、新たに明らかになったことなどを各自が事後学習で発表報告する形態をとる。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 「京都らしさ」を多角的に学ぶことができる 2) 「古都京都」について違う視点から考える 3) 「京都らしさ」を近畿圏から比較して考えることができる</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テ キ ス ト | 使用しない。プリントを配布する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 使用しない | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 作成したレジュメにコメントや訂正を加える。また、フィールドワークでは適宜補足説明を行う | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | フィールドワークや体験を通して「京都らしさ」を疑う。発見や課題を深めて欲しい | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室の扉に掲示する | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 京都体験実習 | |
|------|--|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 京都を深めることについて。この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自身の京都市らしさをまとめておく |
| 第2回 | 文人と京都 | (学修内容) 文学作品ではどのように京都は描かれているのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、特徴をまとめておく |
| 第3回 | 修学旅行と京都 | (学修内容) 新京極の誕生と修学旅行 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布史料を読んでおくこと |
| 第4回 | 個人発表の仕方と行先の選定 | (学修内容) 発表の仕方と個人発表分け、行先の選定 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自、どこに行きたいのか、それは何故かをまとめておく |
| 第5回 | 1回目担当学生による事前発表、討論 | (学修内容) 1回目担当学生による事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 1回目担当学生によるレジユメの作成 |
| 第6回 | フィールドワーク1回目 | (学修内容) 1回目担当学生による現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 1回目担当学生によるガイドの作成、経路確認 |
| 第7回 | 1回目担当学生による事後学習、討論 2回目担当学生による事前学習、討論 | (学修内容) 1回目担当学生による調査内容、反省点のレジユメ 2回目担当学生による事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 2回目、3回目担当学生によるレジユメの作成 |
| 第8回 | フィールドワーク2回目 | (学修内容) 2回目担当学生による現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 2回目担当学生によるガイドの作成、経路確認 |
| 第9回 | 2回目担当学生による事後学習、討論 3回目担当学生による事前学習、討論 | (学修内容) 2回目担当学生による調査内容、反省点のレジユメ 3回目担当学生による事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 2回目、3回目担当学生によるレジユメの作成 |
| 第10回 | フィールドワーク3回目 | (学修内容) 3回目担当学生による現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 3回目担当学生によるガイドの作成、経路確認 |
| 第11回 | 3回目担当学生による事後学習、討論 4回目担当学生による事前学習、討論 | (学修内容) 3回目担当学生による調査内容、反省点のレジユメ 4回目担当学生による事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 3回目、4回目担当学生によるレジユメの作成 |
| 第12回 | フィールドワーク4回目 | (学修内容) 4回目担当学生による現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 4回目担当学生によるガイドの作成、経路確認 |
| 第13回 | 4回目担当学生による事後学習、討論 5回目担当学生による事前学習、討論 | (学修内容) 4回目担当学生による調査内容、反省点のレジユメ 5回目担当学生による事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 4回目、5回目担当学生によるレジユメの作成 |
| 第14回 | フィールドワーク5回目 | (学修内容) 5回目担当学生による現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 5回目担当学生によるガイドの作成、経路確認 |
| 第15回 | 4回目担当学生による事後学習、討論。全体のまとめ | (学修内容) 5回目担当学生による調査内容、反省点のレジユメ (事前事後学修課題の内容) (60分) 5回目担当学生によるレジユメの作成 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 京の年中行事 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Annual Events of Kyoto | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 工藤 美和子 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 京都の四季を通じた様々な年中行事について、1月から12月まで月ごとに行われる行事を紹介し、現代にまで続くその歴史的展開と意義を学びます。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 京都の年中行事を知ることができる。京都の歴史や文化への理解を深めることができる。 2) 京都の年中行事について語ることができる。 3) 伝統文化に親しみ、年中行事の価値を見つめ直し、継承していく大切さを学ぶことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (80 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (20 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 特に指定しません。授業内で資料を配付します。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業内にて指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたレポートはコメントをつけて返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 配布された資料は忘失しないよう注意してください。 できるだけ年中行事にふれてみてください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室に貼付するので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 京の年中行事 |
|---------|-------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 授業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業のまとめをしておく。 |
| 第2回 | 年中行事について | (学修内容) 年中行事とは何かについて解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 年中行事の意味を辞書等を用いて調べ、小レポートにまとめ提出する。 |
| 第3回 | 正月の行事 修正会 | (学修内容) 宮中行事と修正会を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 修正会について辞書等を用いて調べる。 |
| 第4回 | 2月の行事 節分と追儺 | (学修内容) 節分と追儺について紹介します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 節分について辞書等を用いて調べる。 |
| 第5回 | 3月の行事 節句とひな祭り | (学修内容) 上巳の節句とひな祭りを学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 節句について辞書等を用いて調べ、調べたことを小レポートにまとめ提出する。 |
| 第6回 | 4月の行事 やすらい祭 | (学修内容) 花鎮めの祭礼を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) やすらい祭について辞書等を用いて調べる。 |
| 第7回 | 5月の行事 賀茂祭 | (学修内容) 賀茂祭を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 賀茂祭について辞書等を用いて調べる。 |
| 第8回 | 6月の行事 夏越の祓 | (学修内容) 夏越の祓を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 祓について辞書等を用いて調べる。 |
| 第9回 | 7月の行事 七夕 | (学修内容) 七夕の行事を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 七夕について辞書等を用いて調べる。 |
| 第10回 | 8月の行事 五山の送り火 | (学修内容) 五山の送り火を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 五山について辞書等を用いて調べる。 |
| 第11回 | 9月の行事 重陽の節句 | (学修内容) 重陽の節句と菊慈童を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 菊慈童について辞書等を用いて調べる。 |
| 第12回 | 10月の行事 八瀬童子と赦免地踊り | (学修内容) 八瀬童子と赦免地踊りを学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 八瀬童子について辞書等を用いて調べる。 |
| 第13回 | 11月の行事 十夜念仏 | (学修内容) 十夜念仏を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 十夜念仏について辞書等を用いて調べる。 |
| 第14回 | 12月の行事 正月迎え | (学修内容) 正月迎えの行事を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 京都の正月迎えについて辞書等を用いて調べる。 |
| 第15回 | 授業の総括 | (学修内容) 授業のまとめと省察を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業全体の内容を振り返る。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 比較文化論 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Theory of Comparative Culture | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 秋山 裕之 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 本講義では、文化現象は社会状況と密接であり、外部からの影響や内側からの気運によって変化するものであることを取り上げる。主要なトピックとして、明治期における西欧文化の受容と、現代日本文化の変遷を取り上げ、社会と文化の連動性を具体的に把握することを目指す。また、自文化の相対化から感得することのできる文化的ステレオタイプへの批判的視点など、文化について包括的に考察するための材料を提示したい。グループワークや参加者によるディスカッションを行うことがある。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 文化概念を理解し、日本文化の変遷について記述できる。 2) 異文化を理解し自文化を相対化するための視点を持つことができる。 3) さまざまな文化現象について例を挙げながら説明できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 随時紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 授業内でコメントする。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | ディスカッションやグループワークでの積極的な発言を求めます。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 週に1回1時間設定。具体的な日時は授業でアナウンスする。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 比較文化論 | |
|------|---------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 講義スケジュール (事前事後学修課題の内容) (5分) シラバスを読んでくる |
| 第2回 | 文化とグローバリゼーション | (学修内容) 文化の定義・文化概念 (事前事後学修課題の内容) (30分) 文化について考えてくる |
| 第3回 | 明治期の日本文化 江戸期からの変化 | (学修内容) 江戸と明治の連続性と分断 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第4回 | 明治期の日本文化 欧米からの影響 | (学修内容) 芸術分野における西欧の影響 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第5回 | 明治期の日本文化 紹介された日本文化 | (学修内容) 日本文化から海外への影響 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第6回 | 植民地主義と文化侵略 | (学修内容) アフリカにおける植民地主義の影響 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第7回 | 文化の画一化 | (学修内容) アメリカンゼーション (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第8回 | 現代日本文化 高度成長期以降 | (学修内容) 1980年代前半までの現代日本文化 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第9回 | 現代日本文化 バブル経済期以降 | (学修内容) 1990年代までの現代日本文化 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第10回 | 現代日本文化 インターネット大衆化以降 | (学修内容) 1990年代末期以降の現代日本文化 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第11回 | 現代日本文化 通時的比較 | (学修内容) 社会状況と大衆文化の関係 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第12回 | 文化交流・文化発信 | (学修内容) 日本の海外広報への取り組み (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第13回 | 海外文化とステレオタイプ | (学修内容) 文化的偏見 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第14回 | 文化の相対化 自文化を客観的に見る | (学修内容) 文化の客体化・相対化 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習 |
| 第15回 | 振り返り | (学修内容) 総合レポート (事前事後学修課題の内容) (60分) 総復習・資料持参 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 古典研究 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Classic Research | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 土井 哲治 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 昔の人の教養として不可欠とされ、日本文化の基礎を形成した「古今和歌集」を中心に、八代集の和歌の中から人口に膾炙したものを取り上げて教材とし、昔の人のものの考え方や常識、宗教観、自然観、恋愛観、生活等々の表現の背景となっている事柄を正確に理解した上で、和歌特有の語法や技巧を抑えて厳密に読んでいき、和歌にまつわる文化を理解する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 和歌を通して、現代の我々とは異なる昔の人々の感性と常識を理解し、その変遷も含めて説明できる。 2) 日本文化の基礎としての和歌の存在感を種々の方面から語れる。 3) 勅撰和歌集の著名な和歌を、十全に理解した上で、百首は諳んじられる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 初回授業時にプリントを配布する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 随時紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 発表と討議については、説明議論を通してフィードバックし、レポートは翌週に添削の上返却する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 担当箇所以外もよく予習すること。 多くの和歌を暗記する努力を怠らないこと。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 毎回授業終了後 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 古典研究 |
|---------|-------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 導入と国風文化の擡頭 | (学修内容) 講義予定の説明。和歌とは何かの理解。国風文化の擡頭と和歌の関係の理解。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 国風暗黒時代について調べ、レポートにして提出する。 |
| 第2回 | 春の和歌・一月 | (学修内容) 正月の和歌の熟読と勅撰集の約束事の理解。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 担当和歌について発表する準備をし、梅と鶯について討議できるように調べてくる。 |
| 第3回 | 春の和歌・二月 | (学修内容) 仲春の和歌の熟読と和歌基本資料の説明。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 担当和歌について発表する準備をし、基本資料について図書館等でひもといで利用方法をまとめ提出する。 |
| 第4回 | 春の和歌・三月 | (学修内容) 晩春の和歌の熟読と三月尽の理解。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 担当和歌について発表する準備をし、惜春について討議できるように調べてくる。 |
| 第5回 | 夏の和歌 | (学修内容) 夏の和歌の熟読とくだものにまつわる事項の整理。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 担当和歌について発表する準備をし、田島守について討議できるように調べてくる。 |
| 第6回 | 秋の和歌・七月 | (学修内容) 初秋の和歌の熟読と七夕にまつわる事項の整理。 (事前事後学修課題の内容) (80分) 担当和歌について発表する準備をし、鵜の橋についてレポートにして提出する。 |
| 第7回 | 秋の和歌・八月・九月 | (学修内容) 仲秋晩秋の和歌の熟読と紅葉にまつわる事項の整理。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 担当和歌について発表する準備をし、竜田川と高雄について討議できるように調べてくる。 |
| 第8回 | 冬の和歌 | (学修内容) 冬の和歌の熟読と新古今和歌集の美の発見の理解。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 担当和歌について発表する準備をし、わび・さびについて討議できるように調べてくる。 |
| 第9回 | 恋の和歌・古今 | (学修内容) 10世紀頃の恋の和歌の熟読と色好みの理解。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 担当和歌について発表する準備をし、婚姻史について簡潔にまとめたレポートを作成してきて、修正の上提出する。 |
| 第10回 | 恋の和歌・後撰～後拾遺 | (学修内容) 11世紀頃の恋の和歌の熟読と古今和歌集の注釈書の理解。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 担当和歌について発表する準備をし、古今伝授について討議できるように調べてくる。 |
| 第11回 | 恋の和歌・金葉～新古今 | (学修内容) 12世紀頃の恋の和歌の熟読と序詞及び本歌取りの理解。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 担当和歌について発表する準備をし、前回までに出てきた和歌特有の語法についてまとめたレポートを提出する。 |
| 第12回 | 雑の和歌・古今・後撰 | (学修内容) 羈旅の和歌の熟読と古今和歌集と伊勢物語の関係の理解。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 担当和歌について発表する準備をし、指定文献を読んでくる。 |
| 第13回 | 雑の和歌・拾遺～新古今 | (学修内容) 哀傷の和歌の熟読と死出の田長にまつわる事項の整理。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 担当和歌について発表する準備をし、ほととぎすについて討議できるように調べてくる。 |
| 第14回 | その他の和歌 | (学修内容) その他の和歌の熟読と和歌、連歌、聯句、俳諧の関係の理解。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 担当和歌について発表する準備をし、俳言について討議できるように調べてくる。 |
| 第15回 | 学習状況の評価 | (学修内容) 各自のお気に入りの和歌に関する発表を通じた学習の成果の確認。 (事前事後学修課題の内容) (80分) 各自のお気に入りの和歌二首について発表できるようにしてくる。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 京の信仰文化 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 工藤 美和子 | | | 対象学生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>京都には、平安京成立前から成立以降、人々の信仰を集めた自然や寺社が数多くあり、古くから人々の参詣で賑わってきました。授業では、火・水・先祖供養・御霊の4つのキーワードを手がかりに、現在へと引きつがれる京都の人々の信仰文化について考えていきます。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 日本の信仰形態の変遷を時代をおって特徴を把握することができる。 2) 京都の信仰文化の諸相について理解し、説明することができる。 3) 京都の人々の生活にとけこんでいる信仰について、自らまとめあげることができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (100%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テキスト | 特に指定しません。授業内で資料を配付します。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業内で指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | コメントを付けて返却します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | できるだけ京都の町を散策してください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室に日時を貼付するので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 京の信仰文化 | |
|------|------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 授業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業のまとめをしておく。 |
| 第2回 | 京都と火の信仰 愛宕信仰 | (学修内容) 愛宕信仰について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第3回 | 京都と火の信仰 左義長 | (学修内容) 左義長について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第4回 | 京都と火の信仰 迎え火と送り火 | (学修内容) 迎え火と送り火について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第5回 | 京都と火の信仰 火祭りと御火焚 | (学修内容) 京都各地の火祭りと御火焚について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第6回 | 京都と水の信仰 | (学修内容) 京都盆地と水の関係について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第7回 | 京都と水の信仰 貴船信仰 | (学修内容) 貴船信仰について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第8回 | 京都と水の信仰 京の名水 | (学修内容) 名水と称される井戸と京都の人々との生活について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第9回 | 京都の先祖供養 お精霊さん | (学修内容) 先祖供養を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第10回 | 京都の先祖供養 六斎念仏 | (学修内容) 六斎念仏について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第11回 | 京都の先祖供養 地蔵盆 | (学修内容) 地蔵盆について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第12回 | 御霊信仰 怨霊から御霊へ | (学修内容) 怨霊と御霊信仰との関係について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第13回 | 御霊信仰 御霊会のはじまり | (学修内容) 御霊会について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第14回 | 御霊信仰 祇園御霊会から祇園祭へ | (学修内容) 日本各地で行われる祇園祭の原型となった祇園御霊会と現在の祇園祭について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第15回 | 授業の総括 | (学修内容) 授業の振り返りを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをしておく。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|----------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 京都文化特論（伝統芸能） | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 工藤 美和子 | | | 対象学生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 日本の伝統芸能の歴史をたどりながら、京都で誕生した芸能の歴史とその時代ごとの文化の特徴を知り、伝統芸能に慣れ親しんでいきます。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 日本の伝統芸能の知識を得ることができる。 2) 京都で生まれた伝統芸能を学ぶことで、京都の歴史と文化の知識を深めることができる。 3) 伝統芸能について説明することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業） | | グループワーク ICT活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (80 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (20 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テキスト | 特に指定しません。授業内にて資料を配付します。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業内で指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたレポートはコメントを付けて返却します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 伝統芸能の催しなど随時紹介するので、できるだけ足を運んでください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室に日時を貼付するので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 京都文化特論（伝統芸能） | |
|------|-----------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | （学修内容）授業の進め方について説明します。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業のまとめをしておく。 |
| 第2回 | アジア諸国と日本の芸能 | （学修内容）アジア諸国から伝来した芸能と日本に与えた影響について学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。 |
| 第3回 | 古代日本と伝統芸能 神楽 | （学修内容）神楽を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 神楽について辞書等を用いて調べる。 |
| 第4回 | 古代日本と伝統芸能 雅楽 | （学修内容）雅楽の伝来と展開を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 雅楽について辞書等を用いて調べる。 |
| 第5回 | 古代京都と伝統芸能 舞楽 | （学修内容）舞楽の伝来と展開を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 舞楽について辞書等を用いて調べる。雅楽と舞楽について小レポートにまとめ提出する。 |
| 第6回 | 中世京都と伝統芸能 散楽と猿楽 | （学修内容）散楽と猿楽を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 散楽と猿楽について辞書等を用いて調べる。 |
| 第7回 | 中世京都と伝統芸能 能楽と「鶴」 | （学修内容）能楽の誕生と展開を学びます。また京都を舞台にした能楽「鶴」を紹介し ます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 能楽について辞書等を用いて調べる。 |
| 第8回 | 中世京都と伝統芸能 狂言と「栗田口」 | （学修内容）狂言の誕生と展開を学びます。また京都を舞台にした狂言「栗田口」を 紹介し ます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 狂言について辞書等を用いて調べる。 |
| 第9回 | 近世京都の伝統芸能 歌舞伎 | （学修内容）歌舞伎の誕生と展開を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 歌舞伎について辞書等を用いて調べる。 |
| 第10回 | 近世京都の伝統芸能 歌舞伎「俊寛」 | （学修内容）「俊寛」の内容とゆかりの京都の史跡を紹介し ます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「俊寛」について辞書等を用いて調べる。 |
| 第11回 | 近世京都の伝統芸能 門付芸能 | （学修内容）門付芸能を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 門付芸能について辞書等を用いて調べる。 |
| 第12回 | 近世京都と伝統芸能 落語の歴史 | （学修内容）落語の誕生と展開を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 落語について辞書等を用いて調べる。 |
| 第13回 | 近世京都と伝統芸能 安楽庵策伝と『醒睡笑』 | （学修内容）安楽庵策伝の『醒睡笑』について学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 近世京都の伝統芸能（歌舞伎・門付芸能・落語）から1つテーマを選び 小レポートをまとめ提出すること。 |
| 第14回 | 近代京都と伝統芸能 新京極と芸能興行 | （学修内容）新京極と芸能興行を解説し、近代京都の芸能文化について説明し ます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 新京極について辞書等を用いて調べる。 |
| 第15回 | 授業の総括 | （学修内容）授業の振り返りを行います。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業全体をまとめる。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|---|
| 授業名 | 京都文化特論（京の道） | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 工藤 美和子 | | | 対象学生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 大学のある東山地域に焦点を絞り、八坂神社、知恩院、平安神宮、清水寺への参詣路の歴史と特質について文献史料や絵画史料、近世の地誌などを用いて授業を行います。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 東山の歴史や文化を知り、理解を深めることができる。 2) 八坂神社、知恩院、平安神宮の歴史とそこにいたる参詣路の歴史と文化について知ることができる。 3) 文献史料や絵画史料などを用いた研究方法や視点の置き方を学ぶことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業） | | グループワーク ICT活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (80 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (20 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テキスト | 特に指定しません。授業内で資料を配付します。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業内で指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたレポートはコメントを付けて返却します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 授業で紹介した場所をできるだけ散策してください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室に日時を貼付するので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 京都文化特論 (京の道) |
|---------|-------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 授業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容をまとめておく。 |
| 第2回 | 東山の歴史と環境 | (学修内容) 東山全体の歴史や環境を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『京都市の地名』(日本歴史地名大系27)を用いて、東山について調べる。 |
| 第3回 | 八坂神社への参詣路 四条通 | (学修内容) 八坂神社の成立と四条通を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『京都市の地名』を用いて、四条通について調べる。 |
| 第4回 | 八坂神社への参詣路 花見小路と花街 | (学修内容) 花見小路と花街文化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『京都市の地名』を用いて、花見小路について調べる。 |
| 第5回 | 八坂神社参詣路 円山公園 | (学修内容) 円山公園成立の歴史の変遷を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『京都市の地名』を用いて、円山公園について調べる。 |
| 第6回 | 学外授業 円山公園 | (学修内容) 円山公園で学外授業を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学外授業後に小レポートを課すので提出する。 |
| 第7回 | 知恩院への参詣路 古門前通 | (学修内容) 知恩院の成立と古門前通を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『京都市の地名』を用いて、知恩院について調べる。 |
| 第8回 | 知恩院への参詣路 新門前通 | (学修内容) 新門前通を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『京都市の地名』を用いて、新門前通について調べる。 |
| 第9回 | 平安神宮への参詣路 神宮道 | (学修内容) 平安神宮の成立と神宮道を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『京都市の地名』を用いて、平安神宮について調べる。 |
| 第10回 | 平安神宮への参詣路 仁王門通 | (学修内容) 仁王門通を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『京都市の地名』を用いて、仁王門通について調べる。 |
| 第11回 | 学外授業 平安神宮 | (学修内容) 平安神宮で学外授業を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内容をまとめておく。 |
| 第12回 | 清水寺への参詣路 清水坂 | (学修内容) 清水寺と清水坂を学びます (事前事後学修課題の内容) (60分) 『京都市の地名』を用いて、清水寺と清水坂について調べる。 |
| 第13回 | 清水寺への参詣路 産寧坂・二年坂 | (学修内容) 産寧坂・二年坂を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『京都市の地名』を用いて、産寧坂と二年坂について調べる。 |
| 第14回 | 清水寺への参詣路 五条坂 | (学修内容) 五条坂について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『京都市の地名』を用いて、五条坂について調べる。清水寺参詣路を1つ選び、調べたことを小レポートにまとめ提出する。 |
| 第15回 | 授業の総括 | (学修内容) 授業全体の振り返りを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内容をまとめる。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 日本史特論 (近世) | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 工藤 美和子 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 近世は人々の生活や考え方、政治、外交に対する考えが大きく変化する時代です。授業では、とくに豊臣政権期を中心に、文字史料や絵画史料も用いて近世という時代を読み解いていきます。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 日本近世史を学ぶことができる。 2) 豊臣秀吉の京都大改革の関係を学ぶことができる。 3) 豊臣政権下の歴史や文化が、京都の生活文化の基盤を形成する上で果たした役割を知り、語るることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (100 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | 特に指定しません。授業内にて資料を配付します。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業内で指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 課題レポートはコメントを付けて返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 配布した史料について調べることがあります。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室に日時を貼付するので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 日本史特論（近世） | |
|------|--------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | （学修内容）授業の進め方について説明します。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業のまとめをする。 |
| 第2回 | 戦国時代の京都 | （学修内容）戦国時代の京都の歴史を概観します。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 戦国時代の歴史についてあらかじめ調べる。 |
| 第3回 | 豊臣秀吉の京都改造計画 御土居 | （学修内容）豊臣秀吉が行った京都改造計画の事業の1つである御土居を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 御土居について調べる。事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第4回 | 豊臣秀吉の京都改造計画 公家町 | （学修内容）公家町の成立とその空間について解説します。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 公家町の意味を調べる。事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第5回 | 豊臣秀吉の京都改造計画 寺内町 | （学修内容）寺内町の成立とその空間について解説します。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 寺内町の意味を調べる。事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第6回 | 方広寺大仏殿の造営 | （学修内容）方広寺大仏殿の造営の歴史と変遷を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 方広寺と大仏殿について調べる。事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第7回 | 東山方広寺大仏殿の繁栄と衰退 | （学修内容）方広寺大仏殿の移り変わりについて、『洛中洛外図屏風』『都名所図会』から解説します。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布資料『都名所図会』「大仏殿」に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第8回 | 豊臣政権における寺社造営 北野社創建の歴史 | （学修内容）北野社創建の歴史について解説します。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 北野社について調べる。事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第9回 | 豊臣政権における寺社造営 北野社の再興 | （学修内容）北野社の大茶会について解説します。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 北野大茶会について調べる。事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第10回 | 豊臣政権における寺社造営 醍醐寺の歴史 | （学修内容）醍醐寺の歴史を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 醍醐寺について調べる。事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第11回 | 豊臣政権における寺社造営 醍醐寺再興 | （学修内容）『義演准后日記』にみる豊臣秀吉と醍醐寺を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配付資料『義演准后日記』に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第12回 | 豊臣政権における寺社造営 醍醐寺の花見 | （学修内容）太田牛一「大こうさまぐんきのうち」にみる醍醐寺の花見を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配付資料「大こうさまぐんきのうち」に目を通しておく。 |
| 第13回 | 豊臣政権における寺社造営 醍醐寺の花見と武家社会 | （学修内容）太田牛一「大こうさまぐんきのうち」にみる豊臣秀吉と諸大名の関係を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配付資料「大こうさまぐんきのうち」に目を通しておく。 |
| 第14回 | 豊臣秀吉の京都政策のまとめ | （学修内容）豊臣秀吉と京都との関係についてまとめます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第15回 | 授業の総括 | （学修内容）授業全体の振り返りを行います。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業のまとめをする。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 日本史特論 (近代) | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 工藤 美和子 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 近代日本の社会と文化の関係をとりあげます。明治期の日本は近代化への道を求めましたが、そのプロセスのが人々の生活や思考にどのような影響を与えたのかについて考えていきます。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 日本近代史の概論について知識を得ることができる。 2) 近代化とは何かについて理解を深め、語ることができる。 3) 近代から現代への歴史や文化の変遷について知識を得ることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (100 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | 特に指定しません。授業内で資料を配付します。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業内で指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたレポートはコメントを付けて返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 日本の近代史はなじみが薄いかもかもしれませんが、日本史の教科書などでおおよその流れをつかんでください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室に日時を貼付するので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 日本史特論（近代） | |
|------|------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | （学修内容）授業の進め方について説明します。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業のまとめをしておく。 |
| 第2回 | 近代とは何か | （学修内容）近代の概念について学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第3回 | 教育の誕生 | （学修内容）教育の誕生を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「教育」の意味を辞書等を用いて調べる。事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第4回 | 明治時代の新聞とジャーナリズム | （学修内容）新聞創刊とジャーナリズムの台頭について学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第5回 | 農村社会と都市社会 | （学修内容）農村社会と都市社会を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第6回 | 労働者と資本家 | （学修内容）労働者と資本家の関係を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「労働」「資本」の意味を辞書等を用いて調べ、事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第7回 | 文明開化とお雇い外国人 | （学修内容）お雇い外国人と日本との関係について解説します。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「お雇い外国人」の意味を辞書等を用いて調べ、事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第8回 | 文明開化と欧米化 | （学修内容）急速な欧米化の受容と批判の両面を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「文明開化」の意味を辞書等を用いて調べる。事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第9回 | 教育の近代化 学生の誕生 | （学修内容）学生の誕生を学びます。について解説します。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「学生」の意味を辞書等を用いて調べる。事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第10回 | 家族制度と日本社会 | （学修内容）近代化と家族制度について解説します。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「家族」の意味を辞書等を用いて調べる。事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第11回 | 近代以前の天皇と近代における天皇 | （学修内容）前近代と近代以降の天皇観の変化を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第12回 | アジア諸国と日本 | （学修内容）近代以降のアジア諸国と日本との関係を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第13回 | 日清・日露戦争 | （学修内容）日清・日露戦争開戦と戦後の日本社会の変化を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 日清戦争と日露戦争を辞書等を用いて調べる。事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第14回 | 世界大戦前の日本社会 | （学修内容）2度の世界大戦と戦後の日本社会の変化を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第15回 | 授業の総括 | （学修内容）授業の振り返りを行います。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業のまとめをしておく。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-------------|--------------------------|----------------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 観光英会話 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Tourism Orientated English Conversation | | | 開講時期 | 秋学期 | | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 松尾 章子 | | | 対象学生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | リスニングとスピーキング、観光や旅行の際に必要なとされる初歩的な語彙や表現に重点をおいて学習する。ネイティブの英語話者が普段使用している表現も学ぶ。旅行実務英語に関する英語については、希望者が多ければ授業に取り入れる。観光英会話の習得を目標とするため、授業中はグループワークやプレゼンテーションを取り入れ、英語でのコミュニケーション力を高める活動も多く実施する。また、クリッカーを使用し双方向授業に努める。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 身近な場で出会う外国人とのコミュニケーションに慣れ、スモールトークを行うことができる。 2) ファストフード店やレストランの簡単な対応を英語で行うことができる。 3) 観光に関連するシチュエーションで、必要とされる事柄を平易な英語で伝えることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 () () | | | |
| テキスト | 工藤多恵著『すぐに使える!ニッポン案内』センゲージラーニング株式会社 2,000円+税 | | | | | | | | |
| 参考書 | 観光英検センター編『新・観光英検3級の過去問題』三修社 2,000円+税 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 定期試験は、採点后解説を付して、定期試験返却期間(3月27日~4月6日予定)中に希望者に返却する。授業内試験・小テストは、返却時または実施後に解説を行う。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | テキストの会話表現を授業外で何度も声に出して読み練習してください。演習授業のため、積極的な授業参加と授業外練習を期待します。30分以内の遅刻は0.5回の欠席扱い、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室前に掲示しますので、確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールAEON 英会話講師 | | | | | | | | |

| 授業名 | 観光英会話 | |
|------|--|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | Introduction Unit 1: ファストフード店での注文対応 | (学修内容) 授業の進め方、事前・事後学修方法について説明する。ファストフード店での注文に関する内容を学ぶ。Special Activity: Rice Ball (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.15のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit1内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。 |
| 第2回 | Unit 2: レストランでの来客対応 Review Quiz 1 | (学修内容) レストランでの来客対応に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Ramen (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.23のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit2内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。 |
| 第3回 | Unit 3: レストランでの接客サービス Review Quiz 2 | (学修内容) レストランでの接客サービスに関する表現を学ぶ。 Special Activity: Chopsticks (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.31のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit3内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。 |
| 第4回 | Unit 4: コンビニやスーパーでの接客サービス Review Quiz 3 | (学修内容) コンビニやスーパーでの接客サービスに関する表現を学ぶ。 Special Activity: Oden (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.39のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit4内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。 |
| 第5回 | Unit 5: 買い物や飲食の会計 Review Quiz 4 | (学修内容) 買い物や飲食の会計に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Sign (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.47のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit5内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。 |
| 第6回 | Unit 6: 商品やサービスへの苦情対応 Review Quiz 5 | (学修内容) 商品やサービスへの苦情とその対応に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Apology (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.55のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit6内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。 |
| 第7回 | Review 1: Units 1-6 Review Quiz 6 | (学修内容) Unit 1 からUnit 6 の表現を復習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前)pp.57, 58, 60の問題を解く。 (事後)p.60の英文を声に出して5回以上読む。 |
| 第8回 | Unit 7: ホテルや旅館での宿泊客受付 | (学修内容) ホテルや旅館での宿泊客受付に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Japanese Inn (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.67のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit7内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。 |
| 第9回 | Unit 8: 商業施設でのサービス提供や近隣情報の案内 Review Quiz 7 | (学修内容) 客が利用できるサービスや近隣情報の案内に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Souvenir (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.75のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit8内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。 |
| 第10回 | Unit 9: 旅行者への観光案内 Review Quiz 8 | (学修内容) 旅行者の希望に応じた店や観光地などの提案に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Culture (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.83のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit9内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。 |
| 第11回 | Unit 10: 道案内 Review Quiz 9 | (学修内容) 道案内に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Map Symbol (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.91のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit10内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。 |
| 第12回 | Interview Challenge (天候・その他の理由により、日程が多少前後することがある) | (学修内容) フィールドワーク：学外に出て、外国人に英語でインタビューを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前)インタビューで話したい内容・英文を10個書き出し、インタビュー日までに教員からのオッケーをもらう。 |
| 第13回 | Unit 11: 交通機関の利用案内や観光施設の情報提供 Review Quiz 10 | (学修内容) 交通機関の利用案内や観光施設の情報提供に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Transportation (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.99のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit11内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。 |
| 第14回 | Unit 12: 券売機や電化製品の使用方法の説明 Review Quiz 11 | (学修内容) 券売機や電化製品の使用方法の説明に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Contoller (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.107のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit12内の会話文を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。 |
| 第15回 | Review 2: Units 7-12 Review Quiz 12 | (学修内容) Unit 7 からUnit 12 の表現を復習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)pp.109, 110, 112の問題を解く。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 教育心理学 a・b | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Educational Psychology | | | 開講時期 | 春学期 | | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 藤井 裕子 | | | 対象学生 | 幼児教育2ya～yf・2yg～yl | | | | |
| 授業の概要 | <p>社会の構造的変化を視野に入れて保育や学校教育の場における幼児期から青年期までの発達や学習過程を理解し、適切な教育的支援を考えることは重要なことである。本講義では心理学的側面から教育に関わる問題について学んでいく。発達や学習過程、動機づけや評価、学習環境など教育心理学の基本的知識を習得する。個別の教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解深め実際の関わりについて理解を深める。テーマによってグループ討議や発表も行うので理論と実践力を養ってほしい。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1、教育心理学の基礎的知識を習得し、教育現場で応用できる力を養う。 2、乳幼児期から青年期の各時期における精神活動の発達過程と発達特性について理解する。 3、主体的な学習を支える動機づけ、指導方法、学習評価のあり方について理解する。 4、学習を支える教師の役割や意義を理解する。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業） | | グループワーク ICT活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テキスト | プリント配布する。 | | | | | | | | |
| 参考書 | <p>中澤潤編著「よくわかる教育心理学」ミネルヴァ書房 北尾倫彦ほか編著「学校教育の心理学ー明日から教壇に立つ人のためにー」北大路書房</p> | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | <p>毎回リアクションペーパーを用い学習状況を確認し、次回の講義で解説を行い質疑応答に対応する。 提出されたレポートはコメントをつけて返却する。</p> | | | | | | | | |
| 留意事項 | 講義を中心とするがテーマによってはグループ討議も取り入れる。積極的に取り組んでほしい。私語は禁止する。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業終了後に実施する | | | | | | | | |
| 実践的教育 | <p>実践的教育 教員の実務経験など：実務経験など：教育委員会のスクールカウンセラーおよびスーパーバイザーとして勤務、東日本大震災等における緊急支援教育活動、教員や保育者研修の講師</p> | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 教育心理学 a・b | |
|---------|-----------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション 教育心理学の意義、目的、方法 | (学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。教育心理学の研究領域について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読みまとめ提出する。 |
| 第2回 | 教育心理学の基礎知識(1)感覚・知覚 | (学修内容)人の精神活動の基本的知識を習得する。感覚の働き、知覚の機能とその働き、錯視について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読みまとめ提出する。 |
| 第3回 | 教育心理学の基礎知識(2)認知・思考 | (学修内容)認知・思考について代表的な理論を学ぶ。認知の働きや発達段階における思考の変化について知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読みまとめ提出する |
| 第4回 | 教育心理学の基礎知識(3)学習・動機づけ・記憶 | (学修内容)代表的な学習理論について学ぶ。学習を進める動機づけについて理解する。記憶の種類やその特徴について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読みまとめ提出する。 |
| 第5回 | 教育心理学の基礎知識(4)感情・性格・人格の形成 | (学修内容)感情や情緒の発達、性格の成り立ちについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読みまとめ提出する |
| 第6回 | 発達の理論(1)年代別の発達特性:乳幼児期 | (学修内容)代表的な発達の理論を学び、乳幼児期の発達と特性を理解する。グループで意見をまとめ発表する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配布プリントを読み意見を集約する。 |
| 第7回 | 発達の理論(2)年代別の発達特性:学童期 | (学修内容)代表的な発達の理論を学び、学童期の発達と特性を理解する。グループで意見をまとめ発表する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配布プリントを読み意見を集約する。 |
| 第8回 | 発達の理論(3)年代別の発達特性:思春期・青年期 | (学修内容)思春期・青年期の発達特性を理解する。グループで意見をまとめ発表する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配布プリントを読み意見を集約する。 |
| 第9回 | パーソナリティの理解(1)防衛機制、適応と不適応 | (学修内容)自我の防衛機制とその働き、適応と不適応について学びを深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読みまとめる |
| 第10回 | パーソナリティの理解(2)心理検査の活用と解釈 | (学修内容)学校現場で用いられる心理検査や知能検査について基本的な知識を習得する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読み実際の心理検査を事前に調べる。 |
| 第11回 | 教育の方法、学習指導 | (学修内容)教育方法と教育評価について理解し、プロジェクト学習のDVDを視聴して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読み要点をまとめ提出する。 |
| 第12回 | 教育の評価と測定 | (学修内容)さまざまな教育方法と教育評価について知り、実際に指導する方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読みまとめる |
| 第13回 | 特別な配慮の必要な子ども理解と支援 | (学修内容)個別の配慮を必要とする子どもについて理解し、特別支援教育の意義と方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 特別支援教育について調べ提出する。 |
| 第14回 | 問題行動への理解と支援・指導 | (学修内容)問題行動の見られる子どもについて理解し、問題行動への指導、支援の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読みまとめる |
| 第15回 | 組織の体制づくり、関係機関との協働、講義全体のまとめ | (学修内容)組織内の協力、関係機関の役割と連携や協働の方法について学ぶ。総復習を行い各自の学習をふりかえる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ノートや資料の点検を事前に行い不足分の有無を確認する。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------|------------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 総合演習 A | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Senior Seminar | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 山本 明美 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 1年生時の授業や実習から保育者として自らの特性や課題を分析し、実践力の向上を図る。体験学習による事例研究や教材研究を行い幼児教育及び乳幼児教育との関連性を理解する。幼児期を取り巻く環境の重要性について理解を深め、人間性豊かな幼児教育者としての感性や知性、表現力を身につける等の目標を達成するためにディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを行う。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける 3) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (積極的な調査の実施) | プレゼンテーション能力 () | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 授業にて指示する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたレポートや作品は、コメントをつけて返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 演習形式で、直接体験を学生自身が自ら計画・実践し、グループ研究を土台に、積極的に発言、意見交換し、各自が課題意識をもちながらすすめる。日頃より、幼児教育及び乳幼児と環境との関連について関心をもつことが望ましい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 第1回目の授業にて告知。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 総合演習 A | |
|---------|-------------------------|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | はじめに 自己紹介 演習の目標と方法 | (学修内容) 演習の目標と方法について話をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 筆記用具 自己紹介で地域の特産品や行事について考えておく | |
| 第2回 | 課題についての問題意識の発見と計画 | (学修内容) 目標と方法について話し合い課題についての問題意識の発見を促す。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞記事等を切り抜いて持参し、内容を理解しておく | |
| 第3回 | フィールドワーク | (学修内容) 大学周辺を散策する、 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大学周辺の地図を確認し、ホームページなどで情報収集しておく | |
| 第4回 | 体験学習の報告 | (学修内容) フィールドワークで得た情報を話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 情報を整理し、まとめて発表できるようにしておく | |
| 第5回 | 体験学習による事例研究か教材研究(絵本) | (学修内容) 絵本を読む。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 図書館で教材として適切な絵本を選んで借りておく | |
| 第6回 | 体験学習による事例研究か教材研究(計画) | (学修内容) 具体的に研究、製作のための計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 必要なものを考えておく | |
| 第7回 | 体験学習による事例研究か教材研究(制作の準備) | (学修内容) 具体的に研究したり製作したりする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 必要なものを準備しておく | |
| 第8回 | 体験学習による事例研究か教材研究(制作) | (学修内容) 具体的に研究したり製作したりする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 制作に必要なものを準備しておく | |
| 第9回 | 体験学習による事例研究か教材研究(指導案) | (学修内容) 教育実習で使用する指導案の制作をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導案の内容を考えておく | |
| 第10回 | 体験学習による事例研究か教材研究(発表) | (学修内容) 具体的に3分程度の発表・討議を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の練習をしておく | |
| 第11回 | 体験学習による事例研究か教材研究(模擬保育) | (学修内容) 具体的に1人5分程度の発表・討議を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の練習をしておく | |
| 第12回 | 具体的事例か教材研究の発表・討議 造形 | (学修内容) 具体的に研究したか製作したことについて発表・討議する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもたちに作らせる予定の教材を用意する | |
| 第13回 | 具体的事例か教材研究の発表・討議 人間関係 | (学修内容) 具体的に研究したか製作したことについて発表・討議する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 筆記用具 | |
| 第14回 | 具体的事例か教材研究の発表・討議 言葉 | (学修内容) 具体的に研究したか製作したことについて発表・討議する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の読みたい絵本をいくつか用意しておくこと | |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 研究したり製作したことについて反省する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 半年間の振り返りに必要なものを用意しておくこと | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 総合演習 B | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Senior Seminar | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 平尾 隆史 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>1) 短期大学2年間の学修の成果が出るように、グループでテーマを設定し、学生自らが主体的、計画的に取り組む活動の中で、お互い共通の問題意識を共有する。</p> <p>2) 幼児に関する現代的なトピックスに関心を持ち、文献の収集、レポートの作成に取り組む。</p> <p>3) 様々な造形材料の体験、施設見学等により幼児教育の総合的な能力を養う。</p> <p>4) グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら、総合演習のまとめに向けて各自、準備を行う。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 幼児期の教育・保育に関する専門的知識の習得と実践的指導力を身に付けることができる。</p> <p>2) 人間性豊かな幼児教育者として、感性や知性、創造力、表現力を身に付けることができる。</p> <p>3) コミュニケーションやプレゼンテーション能力を身に付け、社会に貢献できる力を養うことができる。</p> <p>4) 制作活動などを通して、創造力を働かせながら表現方法を工夫できる。</p> <p>5) お互いのよいところに気づき、個性を理解することができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | 適宜、担当者が作成したプリントを配布する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 適宜提示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 課題の制作物やレポート等をもとに個人面談による対話を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 毎回の積極的な授業へのかかわりと成果がレポート試験につながっており、毎回の授業での学修を重視する。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 昼休み等の可能な時間を、研究室前に掲示する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | <p>実践的教育 教員の業務経験など：京都市立六原小学校 教諭、京都市立桃山南小学校 教諭、京都市立明親小学校 教諭 京都市立石田小学校 教頭、京都市立羽束師小学校 教頭 京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市園画工作教育研究会 会長</p> | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 総合演習 B | |
|---------|--|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション、自己紹介 | (学修内容) 授業の進め方などについて説明・自己紹介。 前年度の学修経験を互いに共有する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでおく。 |
| 第2回 | 折り紙を使った保育教材の制作 | (学修内容) 折り紙で新たな保育教材を制作する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を読んでおく。 |
| 第3回 | 折り紙を使った保育教材の制作、鑑賞 | (学修内容) 折り紙で新たな保育教材を制作し、鑑賞会をする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を読んでおく。 |
| 第4回 | フィールドワーク 国立民族学博物館「子ども/おもちゃの博覧会」 見学 | (学修内容) 江戸時代から戦後の様々な玩具を通じ、子どもや子どもをめぐる社会に変遷とその意味を探る。(場合により見学地変更もある) (事前事後学修課題の内容)(30分) 見学先のホームページで展示物や概要を調べてくる。 |
| 第5回 | グループ研究の取組 学習スケジュールの計画 | (学修内容) フィールドワークなどを参考に5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)との関連を考えながら、研究テーマを決める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) フィールドワークでの調査内容をまとめておく。 |
| 第6回 | グループ研究の準備 | (学修内容) グループで協力して資料を集め、プレゼンテーション用の資料にまとめる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表に必要な準備をする。 |
| 第7回 | テーマ別グループ研究(健康・人間関係) | (学修内容) 「健康」「人間関係」について、ねらい、内容、内容の取扱いを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表に必要な準備。 |
| 第8回 | テーマ別グループ研究(環境・言葉) | (学修内容) 「環境」「言葉」について、ねらい、内容、内容の取扱いを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表に必要な準備。 |
| 第9回 | テーマ別グループ研究(表現) | (学修内容) 「表現」について、ねらい、内容、内容の取扱いを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表に必要な準備。 |
| 第10回 | グループ別研究についてのディスカッション | (学修内容) グループ別研究のテーマ内容について話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表に必要な準備。 |
| 第11回 | フィールドワーク テーマに係る施設など | (学修内容) 保育、幼児教育について、フィールドワークを通して理解する。(訪問施設は調整中) (事前事後学修課題の内容)(60分) 訪問施設について情報を収集しておく。 |
| 第12回 | グループ研究の報告に向けてレポート作成 | (学修内容) グループ研究の報告に向けて、収集した資料をもとにレポートを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) フィールドワークのふりかえり。 |
| 第13回 | グループ研究の報告に向けてレポート作成 | (学修内容) グループ研究の報告に向けて、収集した資料をもとにレポートを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表に必要な準備。 |
| 第14回 | グループ研究報告会(1) | (学修内容) グループ研究報告会を実施する。聴き手は発表者にコメントをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表に必要な準備。 |
| 第15回 | グループ研究報告会(2) まとめとふりかえり | (学修内容) グループ研究報告会を実施する。聴き手は発表者にコメントをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表に必要な準備。 報告書を作成し完成する。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-------------------------|--------------------------|------------|------------------|-----------|--|
| 授業名 | 総合演習 C | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Senior Seminar | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 必修 | | |
| 担当者 | 小川 隆昭 | | | 対象学生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 幼稚園・保育所などでは様々な行事が行われているが、生活発表もその中で重要な位置を占める。最近では園外での合奏発表なども盛んである。総合演習 では、どの楽器をどのように使えば有効かなど、曲選び・アレンジを中心に、保育現場での実践的な指導を研究する。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 幼児期の音楽教育に関する知識の習得、実践的な指導力を身に付けることができる。 2) 合奏を通して、幼児音楽での表現方法を工夫できる。 3) 合奏によって、個々の信頼関係及びコミュニケーション能力を伸ばすことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (60%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (音楽表現能力) | プレゼンテーション能力 () | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テキスト | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 合奏におけるパート練習の個別指導を行う。総合演習のまとめテーマについては個別に面談で対応する。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 自分たちだけが合奏を楽しむのではなく、合奏することの楽しさを、いかに子供たちに伝えるかを各自考察してほしい。そして何より保育現場で役立つように。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 後日研究室前に掲示。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 総合演習 C | |
|---------|-------------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス ミニコンサートについて説明。 | (学修内容) 春学期授業内容の説明。ミニコンサートの説明(選曲)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んで幼児の合奏曲について調べまともておく。 |
| 第2回 | ミニコンサートのパート選び。楽譜の譜読み。 | (学修内容) パート選び、パートの譜読み。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分の担当パートの楽譜を読み、練習しておく。 |
| 第3回 | ミニコンサートのパートごとの練習。 | (学修内容) 各パート練習。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 弾けない箇所を練習し出来るだけ弾けるように努力すること。 |
| 第4回 | ミニコンサートのパート間での合同練習。 | (学修内容) 各パート練習。 (事前事後学修課題の内容)(60分) どの箇所が上手く弾けないかを確認して、もう一度弾けるように練習する。 |
| 第5回 | ミニコンサートの全体練習。 | (学修内容) 体育館(舞台)での合奏練習。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分のパートだけではなく他のパートも楽譜を読んでおく。 |
| 第6回 | ミニコンサートの全体練習。 | (学修内容) 体育館(舞台)での合奏練習。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 楽器移動も考え、また、全体のバランスを再確認しておくこと。 |
| 第7回 | ミニコンサート。 | (学修内容) コンサート、体育館(舞台) 華頂短期大学附属幼稚園園児を招待する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 練習しておくこと。 |
| 第8回 | ミニコンサートの反省。 | (学修内容) コンサートの反省会。 (事前事後学修課題の内容)(30分) コンサートについてレポートにまとめ提出すること。 |
| 第9回 | 面談1 (前半) | (学修内容) 総合演習まとめ、就職についての相談。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 総合演習のまとめについては、自分の興味のあることを書き出しておく。 |
| 第10回 | 面談2 (後半) | (学修内容) 総合演習まとめ、就職についての相談。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 総合演習のまとめについては、自分の興味のあることを書き出しておく。 |
| 第11回 | 教育実習の反省 | (学修内容) 各自実習について話す。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 何を話すかまともておくこと。 |
| 第12回 | フィールドワーク | (学修内容) 学外での行動 (事前事後学修課題の内容)(20分) 各自どこで何をするか決めておく。 |
| 第13回 | 総合演習まとめのテーマを考える。(前半) | (学修内容) 自分のテーマについて、いくつかの案を考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 書籍やインターネットで、自分のテーマについて調べ、箇条書きで提出する。 |
| 第14回 | 総合演習まとめのテーマを考える。(後半) | (学修内容) 自分のテーマについて、いくつかの案を考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 書籍やインターネットで、自分のテーマについて調べ、箇条書きで提出する。 |
| 第15回 | 総合演習まとめレポート中間発表 | (学修内容) 自分のテーマについて発表する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前にテーマをまとめる。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 総合演習 D | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Senior Seminar | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 坂口 みゆき | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>秋学期の終了時に、2年間の学びの集大成である「総合演習のまとめレポート」を提出する。まとめレポートの作成に向けて、春学期は各自が取り組むテーマを考え、レポートの書き方や構成を学ぶ。また、自身が取り組むテーマについて目的や方法を考え、プレゼンテーションを通してクラスメイトと共有する。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 「総合演習のまとめレポート」作成に向けて、幼児教育・保育に関することで各自取り組むテーマを設定することができる。</p> <p>2) 自分自身が取り組むテーマについて、プレゼンテーションができる。</p> <p>3) 自分自身の取り組みの中間報告をレポートにまとめることができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 適宜資料を配布する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 小笠原喜康著『新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | <p>プレゼンテーションのレジュメと原稿については、コメント等を入れて返却します。</p> <p>また、プレゼンテーションの準備とレポートについては個別指導を行います。</p> | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 2回生のゼミでは、1年かけて自分が特に興味を持っている事柄に取り組みます。自主的・積極的な取り組みが大切です。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 総合演習 D | |
|------|---|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 自己紹介 - セミの仲間と知り合う。 春学期の授業計画について説明を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前準備として、自己紹介を考えまとめておく。まとめた内容をもとに当日自己紹介をする。 |
| 第2回 | 「総合演習のまとめ」の取り組みについて | (学修内容) 「総合演習のまとめ」の取り組みについて説明を受け理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、「総合演習のまとめ」の取り組みについて説明を受けた内容をまとめて提出する。 |
| 第3回 | 各自が取り組むテーマについて考える | (学修内容) 幼児教育や保育に関することで、自分自身が取り組みたいテーマを考える。考えたテーマをクラスメイトと共有する(グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、自分自身が興味のあること(好きなこと)や取り組みたいことはどのようなことかノート等へ書き出し、持参する。 |
| 第4回 | 子どもの遊びを体験する | (学修内容) パズルやブロックなど、子どもの遊びを体験する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、子どもの遊びを実際に体験して気づいたことや感じたことをレポートにまとめて提出する。 |
| 第5回 | 乳幼児向けのテレビ番組を視聴する | (学修内容) 乳幼児向けの番組を視聴し、考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、授業時間内に視聴した番組の感想・考察をレポートにまとめて提出する。 |
| 第6回 | 春の製作をする | (学修内容) 季節にあった壁面を考え、製作する(グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、季節にあった壁面を調べ、ノート等にまとめて持参する。 |
| 第7回 | 各自が「総合演習のまとめ」で取り組むテーマをさらに絞り、取り組む目的や方法を考える | (学修内容) 前回までの授業を踏まえ、各自取り組みたいテーマについてさらに絞っていく。取り組む目的や方法を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、取り組みたいテーマについて、取り組む目的や方法を考え、ノート等にまとめて持参する。 |
| 第8回 | プレゼンテーションのレジюмеと原稿をつくる | (学修内容) 前回の授業を踏まえ、プレゼンテーションのレジюмеと原稿をつくる(パソコン教室を使用する予定)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、前回の授業で考えた内容をノート等にまとめ、持参する。 |
| 第9回 | 個別指導 -1: プレゼンテーションへの個別指導 | (学修内容) 各自が取り組むテーマを確認・検討すると同時に、第12回の授業で実施するプレゼンテーションについて指導する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 個別指導で指摘されたことを踏まえて、レジюмеと原稿を修正し提出する。 |
| 第10回 | 個別指導 -2: プレゼンテーションへの個別指導 | (学修内容) 各自が取り組むテーマを確認・検討すると同時に、第12回の授業で実施するプレゼンテーションについて指導する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 個別指導で指摘されたことを踏まえて、レジюмеと原稿を修正し提出する。 |
| 第11回 | プレゼンテーションの事前準備 | (学修内容) 前回までの個別指導を踏まえて、次週のプレゼンテーションの準備を完成させる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンテーションのレジюмеと原稿を完成させ、Gメールで提出する。 |
| 第12回 | プレゼンテーション: 取り組むテーマの発表とディスカッション | (学修内容) 各自が決定したテーマについて発表する。それぞれの取り組みがより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンテーションの練習をしておく。 |
| 第13回 | 個別指導 -1: 中間報告レポートの進捗状況の確認と内容の指導 | (学修内容) 中間報告レポートの進捗状況と内容の確認・指導を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予め中間報告レポートを各自進め、持参する。 |
| 第14回 | 個別指導 -2: 中間報告レポートの進捗状況の確認と内容の指導 | (学修内容) 中間報告レポートの進捗状況と内容の確認・指導を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予め中間報告レポートを各自進め、持参する。 |
| 第15回 | 春学期のまとめ | (学修内容) 春学期の授業で学んだことを復習し、まとめをする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 春学期の取り組みを通して学んだことをレポートにまとめて提出する。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|--------------------|--------------------------|------------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 総合演習 E | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Senior Seminar | | | 開講時期 | 春学期 | | 必修選択 | 必修 | |
| 担当者 | 鈴木 えり子 | | | 対象学生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>実習を経験して見えてきた自分自身の課題について客観的にとらえ、子ども理解と保育実践の力を確実に身につける。 2年間の学びの中から各自が興味のあるテーマを選び、まとめる。 ゼミ生同士が積極的に交流を図り、お互いを高め合い、集団のひとりとしての自覚をもって活動する。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深めることができる。 2) 各自の興味関心に基づいて研究テーマを設定し、創造的に学びをすすめることができる。 3) 保育者・幼児教育者として自らの学びを表現することができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (60%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 () | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テキスト | なし | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | <p>提出されたレポートについてはコメントをつけて返却します 保育実践発表や制作についてはその都度コメントをします</p> | | | | | | | | |
| 留意事項 | <p>実習や就職・進路などを考えて、目的をもって取り組むこと。必要に応じて個人面談を行う。</p> | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室に日時を提示する | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 総合演習 E | |
|---------|------------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション 自己紹介 | (学修内容)ゼミの目的やまとめレポートについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 1回生ゼミの内容を振り返り、2回生の目標を明確に考える |
| 第2回 | まとめレポートに向けて 1 概要 | (学修内容)まとめレポートの目的、概要を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) まとめレポートで取り組みたい内容を考えて、テーマ設定の動機についてレポートにまとめ提出する |
| 第3回 | フィールドワーク | (学修内容)京都の春の自然や文化に親しむ (事前事後学修課題の内容)(60分) 行き先について調べる 体験後のレポートを作成し提出する |
| 第4回 | まとめレポートに向けて 2 テーマの検討 | (学修内容)テーマを発表し、検討し合う (事前事後学修課題の内容)(60分) まとめレポートで取り組みたい内容や方法を再検討する |
| 第5回 | まとめレポートに向けて 3 テーマの決定と計画 | (学修内容)テーマを決定し、計画書をつくる (事前事後学修課題の内容)(60分) テーマと目的をレポートにまとめて提出する |
| 第6回 | 保育内容の研修 1 | (学修内容)遊び体験、教材研究の企画や運営を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当メンバーと教員であらかじめ準備を行う |
| 第7回 | フィールドワーク | (学修内容)遠足のスポットを体験し、保育者の視点で考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として遠足の意義や目的を考えレポートにまとめて提出する |
| 第8回 | 保育内容の研修 2 | (学修内容)遊び体験、教材研究の企画や運営を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当メンバーと教員であらかじめ準備を行う |
| 第9回 | 教育実習での取り組み 1 | (学修内容)各自が保育内容を立案・実践・振り返りを行う (事前事後学修課題の内容)(90分) 実習に必要な準備を行う |
| 第10回 | 教育実習での取り組み 2 | (学修内容)各自が保育内容を立案・実践・振り返りを行う (事前事後学修課題の内容)(90分) 実習に必要な準備を行う |
| 第11回 | 実習体験交流会 | (学修内容)実習体験を語り合い、意見交換をする (事前事後学修課題の内容)(60分) 実習で印象に残ったことをレポートにまとめて発表用のレジメを作成し提出する |
| 第12回 | まとめレポートの取り組み 1 個別面談 | (学修内容)各自のテーマにそって取り組みを進める 個別面談指導 (事前事後学修課題の内容)(60分) まとめレポートについて、メールやオフィスアワー使って指導を受ける |
| 第13回 | まとめレポートの取り組み 2 個別面談 | (学修内容)各自のテーマにそって取り組みを進める 個別面談指導 (事前事後学修課題の内容)(30分) まとめレポートについて、メールやオフィスアワー使って指導を受ける |
| 第14回 | まとめレポートの中間発表(前半) | (学修内容)まとめレポートの中間発表を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 中間発表ができるようにレジメを作成して準備する |
| 第15回 | まとめレポートの中間発表(後半) 春学期の振り返り | (学修内容)まとめレポートの中間発表を行う ステップアップシート確認(振り返り) (事前事後学修課題の内容)(60分) 中間発表ができるようにレジメを準備する ステップアップシートを作成し自己課題を記入し提出する |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 総合演習 F | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Senior Seminar | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 浅田 瞳 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 乳幼児の保育活動を実践的にイメージし保育者としての資質を向上させる。 様々な角度から子どもを取り巻く環境について体験を通して考える機会をもつ。 メールを用いてレポートを提出し、学びの習慣をつける。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について説明できる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 3) 自らの学びを振り返り社会に貢献する自己の役割を自覚できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | 適宜、必要な資料を配布する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 随時提示する | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 小レポートについてはメールで受け付け、その都度フィードバックを行う。 発表についてはその都度指導・助言を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 積極的に参加してください | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 毎週水曜日昼休み | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 総合演習 F |
|---------|--------------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス・自己紹介 | (学修内容) 講義内容の説明と相互交流をする (事前事後学修課題の内容) (30分) 自己紹介の準備をしておく |
| 第2回 | フィールドワーク (春の草花を探す) | (学修内容) 春の自然環境をリサーチする (事前事後学修課題の内容) (30分) 春の草花について観察し、写真つきのレポートを作成する |
| 第3回 | グループワーク 1 エンカウンター | (学修内容) 構成的グループエンカウンターを実践する (事前事後学修課題の内容) (30分) 活動後のフィードバックについてレポートをまとめる |
| 第4回 | グループワーク 2 非言語コミュニケーション | (学修内容) 言葉を用いないコミュニケーション方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 非言語コミュニケーションについて調べる |
| 第5回 | 保育実践 1 手遊び | (学修内容) 手遊びのバリエーションを増やす (事前事後学修課題の内容) (30分) 手遊びについて、10個以上発表できるようにしておく |
| 第6回 | 保育実践 2 絵本の読み聞かせ | (学修内容) 絵本の選び方や読み聞かせの方法について技能を高める (事前事後学修課題の内容) (30分) 指定された年齢の幼児に適した絵本を選ぶ |
| 第7回 | 保育実践発表 制作物について | (学修内容) 保育実践の個人課題として作成した制作物を発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実践課題を考えてくる、必要な材料や資料を準備する |
| 第8回 | フィールドワーク (動物園見学) | (学修内容) 春の遠足先である動物園へ行く (事前事後学修課題の内容) (30分) 京都市動物園で見学したい動物を考えておく |
| 第9回 | 保育実践課題に取り組む 1 非認知能力を高める | (学修内容) 子どもの非認知能力を高めるための実践を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料収集をして発表の準備をする |
| 第10回 | 保育実践課題に取り組む 2 保護者との関係を考える | (学修内容) 保護者と良好な関係を築くための実践について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 幼児教育における保護者関連の資料を集める |
| 第11回 | 保育実践課題に取り組む 3 発達の違いに応じた関わりを考える | (学修内容) 発達の違いに応じた関わりについて考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 教育実習中に発達の違いで戸惑った事例を集め、発表できるようにしておく |
| 第12回 | 保育実践課題 発表 1 夏の活動を考える | (学修内容) 夏の活動を前提とした保育実践の課題を発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料を作成する |
| 第13回 | 保育実践課題 発表 2 人間関係を築く活動を考える | (学修内容) 人間関係を深めることを前提とした保育実践課題を発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料を作成する |
| 第14回 | 個別面談 | (学修内容) 春学期を総括した後に、個別面談を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 秋学期以降の進路について考えておく |
| 第15回 | まとめ 秋学期の課題について | (学修内容) 春学期を振り返り秋学期に向けての研究課題を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の意見を考えてまとめておく |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 総合演習 G | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | History Seminar | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 乾 眞理子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 幼児教育・保育にかかわる内容で各自がテーマを選び、まとめのレポートに取り組む。 子どもたちの成長に合わせた教材研究を行う。保育内容の計画、実践、振り返りをとおして、教材研究のあり方、理解を深めていく。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 子どもたちの成長を考慮し、保育内容の案を2つ設定できる。 2) 設定した内容についてプレゼンテーションができる。 3) 幼児教育・保育に関する事で各自取り組むテーマを設定することができる。 4) 自分自身が取り組むテーマについて、プレゼンテーションができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 適宜、資料等を配布する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 必要に応じて紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | レポートは、コメントをつけて返却する。口頭発表については随時コメントする。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 主体的な参加、発言を期待する。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 初回到口頭で提示する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 総合演習 G |
|---------|----------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 授業の目的、進め方などについて説明を受ける。自己紹介を通してクラスのメンバーと知り合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自己紹介を考えておく。 |
| 第2回 | 「総合演習」まとめ 概要 | (学修内容) 「総合演習」まとめの取り組みの概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分自身が保育・教育に関する興味のあること、好きなこととは何かを考えておく。 |
| 第3回 | フィールドワーク | (学修内容) 京都の春の自然や文化に親しむ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 春の植物、行き先について調べておく。 |
| 第4回 | 「総合演習」まとめ テーマの検討 | (学修内容) テーマを発表し、検討し合う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テーマを3つほどに絞り、さらに検討しておく。 |
| 第5回 | 「総合演習」まとめ テーマの決定と計画 | (学修内容) テーマを決定し、課題解決手段の検討と今後の進捗計画を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 計画表を作成し、提出する。 |
| 第6回 | 保育教材の研究 教材の検討 | (学修内容) これからの実習の時期に合わせ、保育教材を検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 参考資料を3つ探し、持参する。 |
| 第7回 | 保育教材の研究 教材内容の発表 | (学修内容) 考えた保育教材を発表し、みんなで検討しあう。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育教材の準備を行う。 |
| 第8回 | 保育教材の研究 実践 | (学修内容) 考えた保育内容を実践し、内容の検討を行い、次の課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実践に必要な準備を行う。 |
| 第9回 | 保育教材の研究 改善 | (学修内容) 考えた保育内容を実践し、他の人から意見を求め、改善を図る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実践に必要な準備を行う。 |
| 第10回 | 実習体験報告会 | (学修内容) 実習を振り返り、それぞれの課題を共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 必要な資料を探し、読んでプリントにまとめておく。 |
| 第11回 | 「総合演習」まとめ 資料講読 | (学修内容) 資料講読の結果を発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 必要な資料を探し、読んでプリントにまとめておく。 |
| 第12回 | 「総合演習」まとめ 中間報告のまとめ作成 | (学修内容) 中間報告のレポートの作成を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 中間報告のレポートの作成を完成させておく。 |
| 第13回 | 「総合演習」まとめ 中間報告の内容の確認 | (学修内容) 個別指導により、中間報告の内容の確認と指導を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 指摘されたところを訂正・加筆し中間報告のレポートを完成させる。 |
| 第14回 | 「総合演習」まとめの中間発表 | (学修内容) 現時点での課題の取り組みについて5分程度で発表し、意見交換を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備を行う。 |
| 第15回 | 春学期のまとめ | (学修内容) 春学期の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 中間報告のレポートに他者からの意見を交え、完成させておく。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 総合演習 H | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Senior Seminar | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 山部 泰司 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | グループでテーマを設定し、学生が自主的に計画する活動から課題解決する主体的な学び、グループで共通の問題意識を構築する学び、子どもへの理解を深める実践的な学びなどを行う。また、自らの個性と課題を知るところから、お互いのよいところに気づき伝え合うことのできるコミュニケーション能力や思いやりを育てる。様々な造形材料の体験、動物園、美術館、ギャラリーの見学等により幼児教育の総合的な能力を養う。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について説明することができる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身に付けることができる。 3) 自らの学びを振り返り社会貢献する自己の役割を自覚できる。 4) 制作などを通して、自ら表現の方法を工夫できる。 5) お互いの個性を理解し長所に気付くことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学习支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 適宜、担当者が作成したプリントを配付する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 適宜、紹介する | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 課題の制作物、レポート等をもとに個人面談による対話を行う | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 定期試験（50％）、毎授業のレポート、制作物（30％）、積極的な授業への貢献（20％）とする。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 昼休み等可能時間を、研究室前に掲示する | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 総合演習 H | |
|------|-----------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 導入、グループ研究等について | (学修内容) 授業の進め方についてのコンセンサス、新しいゼミメンバーとの相互理解。前年度の学修経験を互いに共有する (事前事後学修課題の内容)(30分) 1年生時の学修と春休みにおこなった実習のふりかえり考えをまとめておく |
| 第2回 | 保育教材の制作の導入 | (学修内容) 保育実習などの振り返りにより課題発見 (事前事後学修課題の内容)(30分) 保育教材について資料、インターネットなどで調べてまとめておく |
| 第3回 | 保育教材の制作、鑑賞 | (学修内容) 保育教材を制作し、お互いに鑑賞する (事前事後学修課題の内容)(30分) 必要な材料を準備しておく |
| 第4回 | フィールドワーク テーマに関連する施設、場所など | (学修内容) 動物園、植物園、美術館、博物館などより選択して視察する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に探索先のホームページで展示物など概要を調べてまとめる |
| 第5回 | グループ研究テーマを考える グループ学習の導入 | (学修内容) フィールドワークなどをもとに「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域との関連を考えながら取り組むテーマを決める (事前事後学修課題の内容)(30分) フィールドワークをふりかえって考えをまとめて提出する |
| 第6回 | グループでの研究の準備 | (学修内容) 書籍やインターネットから資料を集め、保育現場で実際におこなわれているテーマに沿った活動をプレゼンテーション用の資料にまとめる (事前事後学修課題の内容)(30分) 研究テーマをまとめたものを用意する |
| 第7回 | テーマ別グループ研究の(健康・言葉) | (学修内容) 「健康」「言葉」について、ねらい、効果、保育上の留意点の概要を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) プレゼンテーション用の資料しておく |
| 第8回 | テーマ別グループ研究(人間関係) | (学修内容) 「人間関係」について、ねらい、効果、保育上の留意点の概要を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) プレゼンテーション用の資料を用意しておく |
| 第9回 | テーマ別グループ研究(環境・表現) | (学修内容) 領域「環境」「表現」について、ねらい、効果、保育上の留意点の概要を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) プレゼンテーション用の資料をまとめて用意しておく |
| 第10回 | テーマ別グループ研究(言葉) | (学修内容) 5領域の1つ「言葉」について、ねらい、効果、保育上の留意点の概要を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) プレゼンテーション用の資料をまとめて用意しておく |
| 第11回 | グループ研究についてのディスカッション | (学修内容) グループ研究の題材について語りあう (事前事後学修課題の内容)(30分) プレゼンテーション用の資料をまとめて用意しておく |
| 第12回 | フィールドワーク テーマに関連する施設、場所など | (学修内容) フィールドワークを通して、保育、幼児教育について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 訪問する施設について事前に情報を収集しておく |
| 第13回 | グループ研究の報告に向けてレポート作成 | (学修内容) グループ研究にむけて資料をまとめて作成する (事前事後学修課題の内容)(30分) フィールドワークのふりかえりより各自の要点を考えておく |
| 第14回 | グループ研究報告、発表(前半) | (学修内容) グループ研究発表を実施する。聴き手は発表者にコメントする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) グループ研究の発表資料をまとめて用意しておく |
| 第15回 | グループ研究報告、発表(後半) まとめと振り返り | (学修内容) グループ研究発表を実施する。聴き手は発表者にコメントする。 グループ研究と春学期の振り返りを行う (事前事後学修課題の内容)(30分) グループ研究の発表資料を用意しておく 前回の発表について振り返って考えをまとめておく |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------|------------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 総合演習 A | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Senior Seminar | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 山本 明美 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 総合演習 で学んだことを基礎に、子育てと環境とのかかわりについて、自分が問題とする課題のもと学びをすすめる。その間、中間発表をしながら討議・分析を重ね、課題について、幼児の人間としての育ちを援助するための方法・技術を考え、保育者としての役割の重要性を自覚する。また、グループ活動の実践を通して、他者と協力しながら活動を進めることの意味についても考える時間を持ち、人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につけ自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できるという目標を達成するためにプレゼンテーションを行う。最後に総合演習のまとめとしてレポートを作成する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける 3) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (積極的な調査の実施) | プレゼンテーション能力 () | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 授業にて指示する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 課題に添った資料や発表にコメントします。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 課題にそって個人、もしくはグループ研究を進め、レポートとしてまとめ、発表する。授業への積極的参加を求めます。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 第1回目の授業にて告知。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 総合演習 A | |
|---------|----------------------|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | 休暇中の課題の発表と討議 | (学修内容) 休暇中の課題の発表と討議 (事前事後学修課題の内容) (60分) 筆記用具 | |
| 第2回 | 各自の課題の絞り込み 資料の収集 | (学修内容) 各自の課題の絞り込みのために意見交換をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題をまとめたレジメを作成すること | |
| 第3回 | 各自の課題の絞り込み パワーポイント作成 | (学修内容) 各自の課題の絞り込みのために意見交換をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) パワーポイント作成に必要な資料 | |
| 第4回 | 課題による研究・実践 実習での課題 | (学修内容) 課題による研究・実践をするための教材の計画や準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自教材・資料を持参する。 | |
| 第5回 | 課題による研究・実践 子どもたちの支援 | (学修内容) 課題による研究・実践を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子ども支援に焦点を当てた資料を用意すること | |
| 第6回 | 課題による研究・実践 早期教育の功罪 | (学修内容) 課題による研究・実践を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 早期教育に関する資料を用意すること | |
| 第7回 | 課題による研究・実践 教材研究 | (学修内容) 課題による研究・実践を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教育実習・保育実習で作成した教材 | |
| 第8回 | 課題による研究・実践 環境構成と発達 | (学修内容) 課題による研究・実践を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 環境や発達に関する資料 | |
| 第9回 | 課題による研究・実践 制作と遊び | (学修内容) 課題による研究・実践を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教育実習・保育実習で作成した指導案 | |
| 第10回 | 課題による研究・実践 人間関係の構築 | (学修内容) 課題による研究・実践を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教育実習・保育実習で作成した教材 | |
| 第11回 | 課題の発表・討議 ディベート | (学修内容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 設題に沿った資料 | |
| 第12回 | 課題の発表・討議 KJ法を用いた要約 | (学修内容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 筆記用具・付箋紙・模造紙 | |
| 第13回 | 課題の発表・討議 シンポジウム形式の発表 | (学修内容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 限られた時間で発表するための資料 | |
| 第14回 | 課題の発表・討議 幼児教育の方向性 | (学修内容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼児教育に関する資料 | |
| 第15回 | レポート作成にむけて | (学修内容) レポートを作成するための留意点について解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの発表資料を持参すること。 | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 総合演習 B | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Senior Seminar | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 平尾 隆史 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>1) 短期大学2年間の学修の成果が出るように、各自研究テーマを設定し総合演習のまとめをする。</p> <p>2) 総合演習のまとめに必要な資料や新聞記事、文献の収集、レポートの作成に取り組む。</p> <p>3) 総合演習のまとめを仕上げ、各自がゼミの中でグループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら、協働的な学びを通して、幼児教育者として求められる能力を身につける。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 対 達 目 標 | <p>1) 人間性豊かな幼児教育者として、感性や知性、創造力、表現力を身に付けることができる。</p> <p>2) 幼児期の教育・保育に関する専門的知識の習得と実践的指導力を身に付けることができる。</p> <p>3) コミュニケーションやプレゼンテーション能力を身に付け、社会に貢献できる力を養うことができる。</p> <p>4) お互いの研究や表現を通して、他者のよいところを発見することができる。</p> <p>5) 総合演習をまとめることで、文章の表現力を高め、P Cの活用や情報処理の方法を習熟することができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 適宜、担当者が作成したプリントを配布する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 適宜提示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 課題の制作物やレポート等をもとに個人面談による対話を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 毎回の積極的な授業へのかかわりと成果がレポート試験につながっており、毎回の授業での学修を重視する。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 昼休み等の可能な時間を、研究室前に掲示する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | <p>実践的教育 教員の実務経験など：京都市立六原小学校 教諭、京都市立桃山南小学校 教諭、京都市立明親小学校 教諭 京都市立石田小学校 教頭、京都市立羽束師小学校 教頭 京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長</p> | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 総合演習 B | |
|---------|-------------------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 春学期のふりかえりと反省 秋学期の学習の目標を立てる | (学修内容) 春学期の授業や実習での経験をふりかえり、各自の課題を分析する。 秋学期の学習の目標を明確にする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 春学期の授業や実習のふりかえりと反省。 |
| 第2回 | 個人の研究テーマを決定する | (学修内容) 「総合演習まとめ」に取り組むため、各自の研究テーマを決定する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 研究テーマに必要な資料を収集しておく。 |
| 第3回 | フィールドワーク(1) 研究テーマに関係した施設等の見学 | (学修内容) 研究テーマに関わる施設を見学する。(訪問施設は調整中) (事前事後学修課題の内容)(30分) 訪問施設について情報を収集。 |
| 第4回 | フィールドワーク(2) 研究テーマに関係した施設等の見学、まとめ | (学修内容) 研究テーマに関わる施設見学、視察内容をプレーンテキストとしてまとめる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 訪問施設について情報を収集。 |
| 第5回 | フィールドワークの結果の整理 | (学修内容) フィールドワークの結果を整理・編集し、まとめる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、フィールドワークについてふりかえっておく。 |
| 第6回 | フィールドワークで得た内容と研究テーマとの関連 | (学修内容) フィールドワークで得た内容を研究テーマとの関連で考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) フィールドワークで得た内容を研究テーマとの関連をまとめておく。 |
| 第7回 | フィールドワークで得た内容の共有 | (学修内容) フィールドワークで得た内容を共有し、各自の「総合演習まとめ」の資料とする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 報告内容をまとめておく。 |
| 第8回 | 「総合演習まとめ」の中間指導(1) | (学修内容) 「総合演習まとめ」作成にむけて、研究テーマの原稿を編集する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 資料、データ等をまとめておく。 |
| 第9回 | 「総合演習まとめ」の中間指導(2) | (学修内容) 「総合演習まとめ」作成にむけて、研究テーマの原稿を編集する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 資料、データ等をまとめておく。 |
| 第10回 | 「総合演習まとめ」の中間指導(3) | (学修内容) 「総合演習まとめ」作成にむけて、研究テーマの原稿を編集する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 資料、データ等をまとめておく。 |
| 第11回 | 「総合演習まとめ」発表会(1) | (学修内容) 各自の研究テーマの成果を、時間内に発表し、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 資料、原稿等をまとめておく。 |
| 第12回 | 「総合演習まとめ」発表会(2) | (学修内容) 各自の研究テーマの成果を、時間内に発表し、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 資料、原稿等をまとめておく。 |
| 第13回 | 「総合演習まとめ」発表会(3) | (学修内容) 各自の研究テーマの成果を、時間内に発表し、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 資料、原稿等をまとめておく。 |
| 第14回 | 「総合演習まとめ」の冊子制作 | (学修内容) 総合演習での学びの成果を時間内に決められたフォーマットで完成させ、提出し、冊子を完成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表内容の原稿を完成させておく。 |
| 第15回 | 「総合演習まとめ」冊子により、学修内容の到達を確認 | (学修内容) 「総合演習まとめ」冊子をもとに、1年間の研究内容をふりかえる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 冊子を読んでおく。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 総合演習 C | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Senior Seminar | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 小川 隆昭 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 自分たちが体験した実習を通し、総合演習のまとめのテーマを見つける。 総合演習のまとめを書き上げる。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 幼児期の音楽教育に関する知識の習得、実践的な指導力を身に付けることができる。 2) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付けることができる。 3) 文章表現を豊かにし、まとめのレポートを書き上げることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | レポートについては面談を取り入れ、個々に添削をします。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 書籍またはインターネットを使い情報を収集することがある。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 後日研究室前に掲示。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 学修項目 | 学修内容・課題 |
|---------|-------------------------|--|---------|
| 授 業 計 画 | | | |
| 第1回 | 実習反省会 | (学修内容) 授業内容の説明、夏休みに行った実習の反省会。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習の感想を考えてレポートにまとめる。 | |
| 第2回 | 総合演習のまとめレポート(資料収集、文献講読) | (学修内容) それぞれテーマに沿って資料を集める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テーマの内容に沿って、具体的な資料を集めておく。 | |
| 第3回 | 総合演習のまとめレポート(資料収集、文献講読) | (学修内容) それぞれテーマに沿って資料を集める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた資料をレポートにまとめる。 | |
| 第4回 | 総合演習のまとめレポートのテーマを決定する。 | (学修内容) それぞれテーマを決定する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自のテーマを決めて提出する。 | |
| 第5回 | 個別相談 | (学修内容) 就職活動の相談。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自就職活動について考えをまとめておく。 | |
| 第6回 | 就職試験に向けて(課題曲を決める) | (学修内容) 履歴書・自己PR・模擬面談・ピアノ (事前事後学修課題の内容) (120分) 課題曲を決定しピアノの練習をする。 | |
| 第7回 | 就職試験に向けて(課題曲を練習する) | (学修内容) 履歴書・自己PR・模擬面談・ピアノ (事前事後学修課題の内容) (120分) 課題曲を決定しピアノの練習をする。 | |
| 第8回 | 就職試験に向けて(課題曲を練習する) | (学修内容) 履歴書・自己PR・模擬面談・ピアノ (事前事後学修課題の内容) (120分) 課題曲を決定しピアノの練習をする。 | |
| 第9回 | 就職試験に向けて(課題曲を練習する) | (学修内容) 履歴書・自己PR・模擬面談・ピアノ (事前事後学修課題の内容) (120分) 課題曲を決定しピアノの練習をする。 | |
| 第10回 | 総合演習のまとめのテーマについて中間発表。 | (学修内容) レポートのテーマについて発表。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自のテーマと少し内容についても話が出来るようにする。 | |
| 第11回 | 総合演習のまとめレポートの序論。 | (学修内容) 序論をまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 序論を提出する。 | |
| 第12回 | 総合演習のまとめレポートの本論。 | (学修内容) 本論をまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 本論を提出する。 | |
| 第13回 | 総合演習のまとめレポートの本論。 | (学修内容) 本論をまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 本論を提出する。 | |
| 第14回 | 総合演習のまとめレポートの結論。 | (学修内容) 結論をまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 結論を提出する。全体を見直す。 | |
| 第15回 | 総合演習のまとめレポート発表。 | (学修内容) 総合演習発表会 (事前事後学修課題の内容) (20分) 発表の準備をする。 | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 総合演習 D | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Senior Seminar | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 坂口 みゆき | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 秋学期の終了時に、2年間の学びの集大成である「総合演習のまとめレポート」を提出する。秋学期は、春学期に各自考えたテーマに本格的に取り組む。各自の取り組みに必要なフィールドワーク・ワークショップ・制作・資料購読などを進め、最終的にレポートにまとめる。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 自分自身の取り組みに必要な情報を自主的に調べ、必要があれば制作、フィールドワーク、ワークショップ等を計画・調整・実践することができる。 2) 自分自身の取り組みについて、プレゼンテーションができる。 3) 自分自身の取り組みをレポートにまとめることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 適宜資料を配布する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 小笠原喜康著『新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 各自の作業については、適宜口頭でコメント・助言等を行います。 レポートについては、コメント等を入れ返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 自主的・積極的・計画的な取り組みが重要です。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 総合演習 D | |
|---------|--------------------------------------|--|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | ・計画書を作成する ・資料の集め方を学ぶ | (学修内容) 各自の取り組みについて再確認し、レポートを提出するまでの計画を立てる。資料の集め方とリファレンスの方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、資料の集め方とリファレンスの方法についてレポートにまとめ提出する。 | |
| 第2回 | ・個別指導 - 1: 計画書の内容について ・各自の作業を開始する | (学修内容) 作成した計画書について個別指導を受ける。各自の取り組みに必要なフィールドワーク、ワークショップ、制作、資料購読等を開始する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) この日個別指導を受ける人は事前準備として、計画書を完成させておく。また事後学修として、この日の各自の作業についてまとめ提出する。 | |
| 第3回 | ・個別指導 - 2: 計画書の内容について ・各自の作業を進める | (学修内容) 作成した計画書について個別指導を受ける。各自の取り組みに必要なフィールドワーク、ワークショップ、制作、資料購読等を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) この日個別指導を受ける人は事前準備として、計画書を完成させておく。また事後学修として、この日の各自の作業についてまとめ提出する。 | |
| 第4回 | ・個別指導 - 3: 計画書の内容について ・各自の作業を進める | (学修内容) 作成した計画書について個別指導を受ける。各自の取り組みに必要なフィールドワーク、ワークショップ、制作、資料購読等を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) この日個別指導を受ける人は事前準備として、計画書を完成させておく。また事後学修として、この日の各自の作業についてまとめ提出する。 | |
| 第5回 | 各自の作業を進める | (学修内容) 各自の取り組みに必要なフィールドワーク、ワークショップ、制作、資料購読等を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後学修として、この日の各自の作業についてまとめ提出する。 | |
| 第6回 | 各自の作業を進める | (学修内容) 各自の取り組みに必要なフィールドワーク、ワークショップ、制作、資料購読等を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後学修として、この日の各自の作業についてまとめ提出する。 | |
| 第7回 | 各自の作業を進める | (学修内容) 各自の取り組みに必要なフィールドワーク、ワークショップ、制作、資料購読等を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後学修として、この日の各自の作業についてまとめ提出する。 | |
| 第8回 | 中間報告会: 各自の取り組みについての中間発表 | (学修内容) 各自の取り組みについて、ここまで進めてきた内容を発表し、ゼミの仲間と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前準備としてプレゼンテーションの準備をし、当日発表する。 | |
| 第9回 | ・レポートの書き方のおさらい ・各自の作業を進める | (学修内容) レポートの書き方を復習する。各自の取り組みに必要なフィールドワーク、ワークショップ、制作、資料購読等を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後学修として、この日の各自の作業についてまとめ提出する。 | |
| 第10回 | レポート作成の作業 | (学修内容) 前回までに調べたことや実践したことについてレポートにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の作業についてまとめ、これまでの作業のまとめと合わせて持参する。 | |
| 第11回 | ・レポート作成の作業 ・個別指導 - 1: レポートの内容について | (学修内容) 各自調べたことや実践したことについてレポートにまとめる作業を進める。レポートの内容や書き方について個別指導を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートの執筆を進め、できたところまで持参する。 | |
| 第12回 | ・レポート作成の作業 ・個別指導 - 2: レポートの内容について | (学修内容) 各自調べたことや実践したことについてレポートにまとめる作業を進める。レポートの内容や書き方について個別指導を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートの執筆を進め、できたところまで持参する。 | |
| 第13回 | ・レポート作成の作業 ・個別指導 - 3: レポートの内容について | (学修内容) 各自調べたことや実践したことについてレポートにまとめる作業を進める。レポートの内容や書き方について個別指導を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートの執筆を進め、できたところまで持参する。 | |
| 第14回 | レポートを完成させる | (学修内容) レポートを完成し、提出前の最後の指導を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートを完成させ、提出する。 | |
| 第15回 | レポートの内容についてのプレゼンテーション | (学修内容) 各自が1年間かけて取り組みレポートにまとめた内容を発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前準備としてプレゼンテーションの準備をし、当日発表する。 | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|-----------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 総合演習 E | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Senior Seminar | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 必修 | | |
| 担当者 | 鈴木 えり子 | | | 対象学生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 幼児教育において、興味のあるテーマを見つけ、その課題を主体的に計画的に見通しをもって取り組んでいく。また、テーマについて深く追求しつづける姿勢や意見交換を通して他者理解を深めるとともに、プレゼンテーション能力を高める内容を取り入れる。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 各自の興味関心に基づいて設定した研究テーマについて計画的に学びをすすめることができる。 2) 体験した内容を自分なりに表現することができる。 3) 他者と協同しながら学びを深めることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (60%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テキスト | なし | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | まとめレポートは各自の進捗状況に応じて個々にコメントをつけて返します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | まとめレポートのテーマ(課題)に対して主体的、計画的に取り組むこと。 必要に応じて個人指導、個人面談を実施する。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室に日時を掲示します | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 総合演習 E | |
|---------|--------------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション 実習体験交流会 | (学修内容)実習体験を語り合い、意見交換をする (事前事後学修課題の内容)(60分) 実習で印象に残ったことをレポートにまとめて提出する |
| 第2回 | まとめレポートの取り組み 3 (計画書の作成) | (学修内容)各自取り組みを進める (事前事後学修課題の内容)(60分) まとめレポートについて、取り組み方法など計画書を作成しレポートにまとめ提出する |
| 第3回 | フィールドワーク | (学修内容)遠足のスポットを体験し、保育者の視点を考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 行き先について調べる 復習として体験後に子どもの遠足の意義や保育者の配慮事項についてレポートにまとめて提出する |
| 第4回 | 保育内容の研修 3 (グループ企画) | (学修内容)遊び体験、教材研究の企画・運営を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当メンバーと教員であらかじめ準備を行う |
| 第5回 | まとめレポートの取り組み 4 (進捗状況チェック) | (学修内容)各自取り組みを進める。必要に応じて中間報告を行い、取り組みの検討を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 取り組み方法についてまとめる |
| 第6回 | 保育内容の研修 4 (グループ企画) | (学修内容)遊び体験、教材研究の企画・運営を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当メンバーと教員であらかじめ準備を行う |
| 第7回 | まとめレポートの取り組み 5 中間発表 | (学修内容)各自取り組みを進める。必要に応じて中間報告を行い、取り組みの検討を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) まとめレポートの序論をレポートにまとめて提出する |
| 第8回 | まとめレポートの取り組み 6 中間発表 | (学修内容)各自取り組みを進める。必要に応じて中間報告を行い、取り組みの検討を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) まとめレポートの本論をレポートにまとめて提出する |
| 第9回 | フィールドワーク | (学修内容)京都の秋の自然や文化に親しむ (事前事後学修課題の内容)(60分) 行き先について調べる 復習として秋の自然に対して気づきレポートをまとめて提出する |
| 第10回 | まとめレポートの取り組み7 (各自のレポート添削指導) | (学修内容)各自取り組みを進める まとめレポートの添削、検討を行う(中間報告) (事前事後学修課題の内容)(60分) まとめレポートの取り組みの進行について中間発表の準備をする |
| 第11回 | まとめレポートの仕上げ1 (最終 添削指導) | (学修内容)まとめレポートの原稿を作成する (事前事後学修課題の内容)(60分) まとめレポートの全体構成についてレポートにまとめて提出する |
| 第12回 | まとめレポートの仕上げ2 (最終 添削指導) | (学修内容)まとめレポートの原稿を作成する (事前事後学修課題の内容)(60分) ワード形式で紙面にまとめる準備をする 途中経過を印刷して提出し添削を受け、復習として校正する |
| 第13回 | 保育内容の研修 5 (紙コップを使って体験しよう) | (学修内容)身近な素材(紙コップ)を使った保育内容を体験する (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として保育実践内容をレポートにまとめて提出する |
| 第14回 | まとめレポートの発表 | (学修内容)まとめレポートを発表する (事前事後学修課題の内容)(60分) まとめレポートの発表の準備(レジюме作成)をし、A4用紙にまとめて提出する |
| 第15回 | 1年間のまとめ | (学修内容)1年間の振り返りを行い、まとめた内容を発表する ステップアップシートの作成 (事前事後学修課題の内容)(60分) 1年間の取り組みについてレポートにまとめて提出する 発表後に気づきレポートを作成し提出する |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 総合演習 F | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Senior Seminar | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 浅田 瞳 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>2年間の学びのまとめを行う。現在の幼児教育に深い関心を持ち、卒業に向けた各自の研究課題を明確し、意見交流や資料収集を通して自分の考えをまとめる。授業内では学びのまとめをプレゼンテーションソフトを用いて発表し、最終的にはレポートとしてまとめる。</p> <p>また、グループワークを通じて個々の役割を自覚し、活動全体を見渡す視野の広さを培う。</p> <p>春学期と同様に、レポートはメールで提出し、学びの習慣を身につける。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 幼児教育・保育に関心を持ち課題について深く探求する。</p> <p>2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。</p> <p>3) 自らの学びを振り返り社会に貢献する自己の役割を自覚する。</p> <p>4) 集団のなかで主体的に活動することができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 適宜資料を配布する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 随時提示する | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 小レポートについては次回解説を行う。 発表については、適宜助言・指導を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 研究課題は期日内に仕上げなければなりません。計画性をもって取り組みましょう。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 毎週木曜日昼休み | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 総合演習 F |
|---------|------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 総合演習の達成目標の確認をする (事前事後学修課題の内容) (30分) 春学期の総合演習で配布したプリントを作成・提出する |
| 第2回 | 研究課題(テーマ) 設定 | (学修内容) 幼児教育に関連した課題(テーマ、保育実践、見学観察など)を設定する (事前事後学修課題の内容) (60分) 図書館や情報メディアを通して保育や子育ての問題に関心をもち具体的に考える |
| 第3回 | 研究課題(テーマ) 検討 | (学修内容) 各自の研究課題(テーマ)について発表、意見交流、検討する (事前事後学修課題の内容) (30分) 研究課題(テーマ)作成のための参考資料を収集してもってくる |
| 第4回 | 研究課題(テーマ) 再検討 | (学修内容) 研究課題について個別指導を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 計画の見直し、問題関心をまとめておく、研究課題にそって資料収集を用意する |
| 第5回 | 個別指導 1 課題の方向性をまとめる | (学修内容) 研究課題について個別指導をし、個別面談をする (事前事後学修課題の内容) (30分) 研究課題の整理と方法を考える |
| 第6回 | 個別指導 2 課題を作成する | (学修内容) 個人の研究課題について個別指導をする、個別面談をする (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題の整理と方法を考える |
| 第7回 | 研究課題 中間発表 1 | (学修内容) 研究課題についてパワーポイントで報告・発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 研究課題を中間発表用にまとめる |
| 第8回 | 研究課題 中間発表 2 | (学修内容) 研究課題についてパワーポイントで報告・発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 研究課題を中間発表用にまとめておく |
| 第9回 | フィールドワーク 1 保育施設の見学 | (学修内容) 保育施設を見学する (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設に見学した後のレポートを作成・提出する |
| 第10回 | フィールドワーク 2 秋の自然について考える | (学修内容) 学外を散策する(自然環境について考える) (事前事後学修課題の内容) (30分) 散策についてのレポートを作成・提出する |
| 第11回 | 研究課題 まとめ | (学修内容) 研究内容を文書にまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 研究課題を最終確認してまとめておく |
| 第12回 | 研究課題 提出 | (学修内容) 研究内容について修正を受けた後に完成させる (事前事後学修課題の内容) (30分) 研究課題を完成させる |
| 第13回 | 研究課題 発表 1 | (学修内容) 研究課題について発表し、質疑応答をおこなう (事前事後学修課題の内容) (30分) プレゼンテーションの発表準備を行う |
| 第14回 | 研究課題 発表 2 | (学修内容) 発表についての自己評価をおこなう (事前事後学修課題の内容) (30分) プレゼンテーションの発表準備を行う |
| 第15回 | まとめ 自己評価 | (学修内容) 一年間のまとめをおこない、自分自身の今後の課題を明確にする (事前事後学修課題の内容) (30分) 1年間の活動を振り返っておく |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 総合演習 G | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | History Seminar | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 乾 眞理子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>「総合演習」まとめの完成を目指し、自身が見つけた課題を主体的に解決し、見通しをもって取り組んでいく。調べたことを発表・意見交換を行い、協働的な学びを通して、保育者として求められる能力を身につける。保育者の視点に立って、教材研究を行う。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 自分自身の課題に対し、自主的解決策を考え、計画的に取り組むことができる。 2) 自分自身の取り組みについて、プレゼンテーションができる。 3) 自分自身の取り組みをレポートにまとめることができる。 4) 自作のマペットを使って、素話を話すことができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 適宜、資料等を配布する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 必要に応じて紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | レポートは、コメントをつけて返却する。口頭発表については随時コメントする。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 主体的な参加、発言を期待する。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業初回到口頭で提示する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 総合演習 G | |
|---------|-----------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション 実習体験報告会 | (学修内容) 実習を振り返り、意見交換をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習を振り返り、5分程度の発表内容を考えておく。 |
| 第2回 | 「総合演習」まとめ 計画を立てる | (学修内容) これからの取り組みについて再検討し、秋学期の計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 今までのところを振り返り、計画案を立てておく。 |
| 第3回 | 「総合演習」まとめ 計画と内容の検討 | (学修内容) 計画の内容について、個別指導を受ける (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料収集を行い、資料を準備する。 |
| 第4回 | 「総合演習」まとめ 資料の確認 | (学修内容) 集めた資料の内容を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料収集を読み、レポートにまとめて提出する。 |
| 第5回 | 「総合演習」まとめ 資料講読 | (学修内容) 資料の講読を行い、不足の資料を探す。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料収集を行い、レポートにまとめて提出する。 |
| 第6回 | 布使った教材作成 マペット作り 裁断・縫製 | (学修内容) 布や毛糸などを用いマペットを作る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) デザインを考え、必要な材料を用意する。 |
| 第7回 | 布使った教材 マペットの活用 | (学修内容) マペットを使って、素話を行い、感想を述べ合う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 素話の内容を考えておく。 |
| 第8回 | 「総合演習」まとめ 結果の整理 | (学修内容) 読んだ資料からわかった結果をまとめる。フィールドワーク先と内容を検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 今までのまとめを読み返し、構成を考えておく。 |
| 第9回 | 「総合演習」まとめ レポートの構成 | (学修内容) 集めた資料をもとにレポートの組み立てを考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートの構成を考え、用紙に書いて提出する。 |
| 第10回 | フィールドワーク | (学修内容) 京都の秋の自然や文化に親しむ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 秋の植物、行き先について調べておく。 |
| 第11回 | 「総合演習」まとめ レポートの作成 | (学修内容) 個別指導により、レポートの内容の確認と指導を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 指摘されたところを訂正・加筆しレポートを作成する。 |
| 第12回 | 「総合演習」まとめ レポートの完成に向けて | (学修内容) レポートの作成し、完成させる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートを完成させ提出する。 |
| 第13回 | 「総合演習」まとめ 要旨の作成 | (学修内容) レポートの内容を要旨にまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 要旨を完成させ提出する。 |
| 第14回 | 「総合演習」まとめの発表 | (学修内容) 持参した卒業レポートを提出しする。また、卒業や資格登録等について確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 卒業レポートを完成させて授業に持参する。 |
| 第15回 | 1年間のまとめ | (学修内容) 1年間の演習内容、2年間の学生生活について振り返る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 1年間の授業内容を見直しておく。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 総合演習 H | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Senior Seminar | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 山部 泰司 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 研究テーマを設定し教育・保育の現場で実践できるより具体的なフィールドを考察する。個人で設定したテーマで各自がそれぞれ研究し、レポートにまとめる。ゼミ内でプレゼンテーションを行う。ゼミ全体での協働的な学びを通して、幼児教育者として求められる多面的な力を伸ばす。また、職業選択にむけての面談やディスカッションの時間を持つ。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身に付けることができる。 2) 自らの学びを振り返り社会貢献する自己の役割を自覚できる。 3) 集団で活動する力、リーダーシップの力を養う。 4) お互いの研究や表現から学び、他者の表現の良さを発見する。 5) 文章やデータを美しくまとめることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 適宜、担当者が作成したプリントを配付する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 適宜、紹介する | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 研究内容の個人指導、また、全体での発表、ディスカッションによって学修内容の到達について確認する | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 定期試験(50%)、授業のレポート、制作物(30%)、積極的な発言や授業への貢献など(20%)とする。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み(研究室：1号館3階) | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 総合演習 H | |
|------|----------------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 春学期のふりかきと反省 秋学期の目標を設定する | (学修内容)卒業にむけて、春学期の授業、また、実習での経験をふりかきにより 秋学期の学びの目標を明確にする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 春学期のテーマおよび実習をふりかきりまとめておく |
| 第2回 | 個人の研究テーマを決定する | (学修内容)「総合演習まとめ」のための、個人の研究のテーマについて決定。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に調べたい内容について考えをまとめておく |
| 第3回 | フィールドワーク 研究のテーマに即した見学等 | (学修内容)テーマに関わる施設を見学する (事前事後学修課題の内容)(30分) 見学先について調べてまとめておく |
| 第4回 | フィールドワーク 研究のテーマに即した見学、および、まとめ | (学修内容)テーマに関わる見学、視察内容についてのまとめ (事前事後学修課題の内容)(30分) 見学先について調べてまとめておく |
| 第5回 | フィールドワークの結果の整理 | (学修内容)フィールドワークの内容を文章化する (事前事後学修課題の内容)(30分) フィールドワークについて振り返って考えをまとめておく |
| 第6回 | テーマについての文章化 フィールドワークの結果の整理 | (学修内容)フィールドワークで得た内容をテーマとの関連で考察する (事前事後学修課題の内容)(30分) フィールドワークについて振り返ってテキストする |
| 第7回 | フィールドワークでの発見内容の共有 | (学修内容)ゼミ内でフィールドワークで得た内容を共有し、それぞれの「総合演習 まとめ」につなげる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 報告内容をまとめておく |
| 第8回 | 「総合演習まとめ」の中間指導 1 | (学修内容)「総合演習まとめ」の完成にむけて研究テキスト化、編集する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、資料、データ等をまとめておく |
| 第9回 | 「総合演習まとめ」の中間指導 2 | (学修内容)「総合演習まとめ」の完成にむけて研究テキスト化、編集する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、資料、データ等をまとめておく |
| 第10回 | 「総合演習まとめ」の中間指導 3 | (学修内容)「総合演習まとめ」の完成にむけて研究テキスト化、編集する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、資料、データ等をまとめておく |
| 第11回 | 「総合演習まとめ」の発表 1 | (学修内容)「総合演習まとめ」の発表し、ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、資料、データ等をまとめておく |
| 第12回 | 「総合演習まとめ」の発表 2 | (学修内容)「総合演習まとめ」の発表し、ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、資料、データ等をまとめておく |
| 第13回 | 「総合演習まとめ」の発表 3 | (学修内容)「総合演習まとめ」の発表し、ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、資料、データ等をまとめておく |
| 第14回 | 「総合演習まとめ」の冊子の制作 | (学修内容)総合演習での学びの成果を完成させ、時間内に、決められたフォーマットで提出。冊子づくり (事前事後学修課題の内容)(30分) 発表内容のデータを完成させて提出する |
| 第15回 | 「総合演習まとめ」冊子により、学修内容の到達を確認する | (学修内容)「総合演習まとめ」の冊子をもとにして、研究内容を振り返る (事前事後学修課題の内容)(30分) 冊子を読んで考えをまとめておく |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|--------------------|----------------------------|------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 教育課程総論 a・b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | CE1302 |
| 英 文 名 | Outline of Curriculum | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 浅田 暉 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1AB・1CD | | | | |
| 授業の概要 | <p>幼稚園教育要領の改訂を迎え、保育内容やカリキュラムもいくつか変更されている。 本授業では、これまでの幼稚園教育要領および保育指針の変遷を概観しつつ、実際の幼稚園で使用されている教育要領を参考に、どの年齢期に、どのような活動が想定されているのか、子どもたちの発達段階を考慮しつつ、どのような環境を構成することが求められているのかについて理解を深め、年齢と時期を想定してカリキュラムを構築できることを目的としている。 また、対象年齢別にグループを分け、その年齢に必要な視点について議論し、グループで取りまとめた内容を発表する時間を設ける。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 対 達 目 標 | <p>1) 幼稚園、保育所における教育課程や保育課程について説明できる。 2) 年間計画を想定したうえで、月案や週案など、長期的な保育指導計画について理解できる。 3) 子どもたちの年齢や特性に配慮した指導案を作成できる</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (計画する力) | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | | |
| テ キ ス ト | <p>京都教育大学大学附属幼稚園編『教育課程・指導計画』 文部科学省編「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省編「保育所保育指針解説書」</p> | | | | | | | | |
| 参 考 書 | <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省編「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」</p> | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | <p>小レポートについてはICTを活用して適宜コメントを返却します。 発表についてはその場で助言・指導を行います。</p> | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | <p>テキストにある事例をもとに授業を進めるため、毎回必ず持参すること。</p> | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | <p>第1回目の授業で告知</p> | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 教育課程総論 a・b | |
|---------|--|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション：子どもの現代的教育課題 | (学修内容) 学校における教育課程を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 「カリキュラム」という用語について調べておくこと |
| 第2回 | 教育課程(1)：カリキュラムの基本的な考え方 | (学修内容) 教育課程の編成原理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼稚園教育要領から「教育課程」の意味を読み取る |
| 第3回 | 教育課程(2)：カリキュラムの構成 | (学修内容) 経験主義と系統主義の違い (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料をもとに経験主義と系統主義の違いについてまとめる |
| 第4回 | 幼稚園におけるカリキュラムの変遷(1) 幼稚園の目的・意義 | (学修内容) 「幼稚園教育要領」の変遷を概観する (事前事後学修課題の内容) (30分) 「幼稚園教育要領解説」より幼稚園の目的・意義について重要箇所をマークする |
| 第5回 | 幼稚園におけるカリキュラムの変遷(2) 幼稚園教育の特徴 | (学修内容) 近年の幼稚園教育要領の特徴について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 平成29年版「幼稚園教育要領解説」の総則のなかの重要箇所をマークする |
| 第6回 | 保育所におけるカリキュラムの変遷(1) 保育所保育指針の変遷 | (学修内容) 「保育所保育指針」の変遷を概観する (事前事後学修課題の内容) (60分) 「保育所保育指針」の変遷について重要箇所をマークする |
| 第7回 | 保育所におけるカリキュラムの変遷(2) 幼稚園と保育所のカリキュラムの相違 | (学修内容) 幼稚園と保育所のカリキュラム上の違いについて理解する (事前事後学修課題の内容) (120分) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を見比べて、表現の異なる部分をまとめる |
| 第8回 | 課程編成と指導計画(1)：幼稚園の場合 3歳児 | (学修内容) 3歳児におけるカリキュラム編成の留意点について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 3歳児の活動の特徴をテキストからまとめる |
| 第9回 | 課程編成と指導計画(2)：幼稚園の場合 4歳児 | (学修内容) 4歳児におけるカリキュラム編成の留意点について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 4歳児の活動の特徴をテキストからまとめる |
| 第10回 | 課程編成と指導計画(3)：幼稚園の場合 5歳児 | (学修内容) 5歳児におけるカリキュラム編成の留意点について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 5歳児の活動の特徴をテキストからまとめる |
| 第11回 | 課程編成と指導計画(4)：保育所および認定こども園の場合 | (学修内容) 乳幼児(0~2歳児)におけるカリキュラム編成の留意点について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料から乳幼児の活動の特徴をまとめる |
| 第12回 | 指導計画の実際：幼稚園 | (学修内容) 幼稚園の年間計画と指導案を照らし合わせ、その特徴について考える グループワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼稚園で実際に使用された指導案からその特徴をまとめる |
| 第13回 | 指導計画の実際：保育所 | (学修内容) 保育所の年間計画と指導案を照らし合わせ、その特徴について考える グループワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育所で実際に使用された指導案からその特徴をまとめる |
| 第14回 | 指導計画と環境構成 | (学修内容) 指導案を作成するときの留意点と環境構成について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分で考えた指導案を作成・提出する |
| 第15回 | まとめ これからのカリキュラム構築に必要な能力 | (学修内容) 幼児教育におけるカリキュラム構築について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもたちに「身につけてもらいたい力」を考え、それをもとに指導案を作成・提出する |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|----------------------------|------------------|-----------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 保育内容総論 a・b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CE1301 |
| 英 文 名 | Outline of Child Care | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 鈴木 えり子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1AB・1CD | | | | |
| 授業の概要 | 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」を踏まえながら、保育内容について総合的に理解する。保育内容の5領域である「健康」「人間関係」「言葉」「環境」「表現」について、各年齢別の保育実践の背景となる理論を理解する。理解を深めるために保育実践を行い、体験を通して指導上の留意点や指導計画・方法・援助が理解できるようにする。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 保育内容5領域について理解できる。 2) 各年齢に応じた保育内容のねらいが理解できる。 3) 具体的な保育内容について実践と理論を関係づけることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | プレゼンテーション | | | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・厚生労働省・文部科学省 フレーベル館 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたレポートについてコメントをつけて返却します グループ発表については授業内で評価を行います | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 保育内容を実践する。材料など指定されたものを忘れずに必ず各自で用意し持ってくること。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室に掲示しますので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 保育内容総論 a・b | |
|---------|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション 保育内容とは 保育内容総論とは | (学修内容) 幼少期の生活を振り返り「保育内容」ということばの意味を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 子どもの頃の生活や遊び活動での印象に残った内容についてレポートにまとめて提出する |
| 第2回 | 幼稚園・保育所・認定こども園の一日 | (学修内容) 日本の保育施設を理解する 子どもの保育環境や生活の流れを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(90分) 家庭保育と集団保育の共通点・相違点をレポートにまとめて提出する 復習 提示した課題をレポートにまとめて提出する |
| 第3回 | 保育内容の国家的基準 (幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容) | (学修内容) DVDを視聴し 幼稚園・保育所・認定こども園での保育内容について理解を深める (事前事後学修課題の内容)(60分) 教育要領・指針に示されている保育内容の概要をワークシートにまとめて提出する |
| 第4回 | 保育内容の歴史の変遷 | (学修内容) 日本の保育の戦前・戦後の保育内容の歴史の変遷を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布プリントを読んで歴史の変遷表を作成する |
| 第5回 | 遊びと保育内容(5領域とねらい) | (学修内容) 自発的な活動としての遊びの重要性を理解する 5領域のねらいを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(90分) 遊び(室内・戸外)を具体的にあげ5領域に合わせてレポートにまとめておく 復習として領域のねらいをワークシートにまとめて提出する |
| 第6回 | 領域「環境」と保育内容 | (学修内容) 領域「環境」のねらい・内容を理解する 春の自然観察を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 幼児期の子どもの対象とした自然環境を考えてまとめる |
| 第7回 | 領域「言葉」と保育内容 | (学修内容) 保育内容「言葉」の領域と活動についてねらいを理解する 絵本の読み聞かせをグループで実践する (事前事後学修課題の内容)(60分) 絵本の読み聞かせに適した絵本を選びレポートにまとめて提出する 復習として実践後の気づきをレポートにまとめて提出する |
| 第8回 | 小テスト 領域「健康」「人間関係」「表現」と保育内容 | (学修内容) 小テストをする 領域「健康」「人間関係」「表現」でグループで話し合い発表準備をする (事前事後学修課題の内容)(90分) 小テストの準備をする(5領域/ねらい) 保育内容の実践発表の流れをレポートにまとめて提出する |
| 第9回 | グループごとに発表 | (学修内容) グループで領域を設定し、実践内容を話し合い発表を行う (事前事後学修課題の内容)(90分) グループで話し合い実践発表を行う準備をする 復習として発表後や他者の発表に対して気づきをレポートにまとめて提出する |
| 第10回 | 子どもの発達と保育内容 | (学修内容) 乳児期、幼児期の保育内容と保育環境の構成を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 実践事例の配布プリントについて対象年齢を記入し提出する 復習として保育環境についてレポートをまとめて提出する |
| 第11回 | 科学遊びについて | (学修内容) 科学遊びと領域のねらい・内容を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 科学遊びに適した保育活動を調べてレポートにまとめて提出する 復習として実践事例について気づきレポートを作成し提出する |
| 第12回 | 造形遊びについて | (学修内容) 造形遊びのねらい・内容を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 牛乳パックを使った造形遊びの活動について指導計画(展開のみ)をまとめて提出する |
| 第13回 | 指導計画の作成 | (学修内容) 実践活動(飛ぶカエル制作)の指導計画を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 飛ぶカエルの制作を実践後に活動・援助を考え、指導計画(導入・展開・まとめ)を作成し提出する |
| 第14回 | 子どもの発達の特徴と援助 | (学修内容) 子どもの活動の事例を通して子どもの個々の姿に対して保育者の援助の方法を理解する (事前事後学修課題の内容)(90分) 子どもの姿(提示した事例)について具体的な取り組みや援助をレポートにまとめて提出する |
| 第15回 | 子どもを主体としたカリキュラム・デザイン | (学修内容) 子どもの主体性に応じた指導計画の展開について理解する (事前事後学修課題の内容)(90分) 保育実践における指導計画の意義について考え、レポートにまとめて提出する |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------|------------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 保育内容・健康 a・b | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Child Care : Health | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 山本 明美 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2ya~yf・yg~yl | | | | |
| 授業の概要 | 子どもが健康で安全な生活を送ることが出来るよう、保育者が配慮すべき事項について学ぶ。子どもたちの運動量の減少と遊び体験の減少による運動不足からくる肥満児の増加や、空腹感や疲労感からくる生活リズムの乱れの問題、家庭生活での孤食や夜型の生活が広がり、園生活に大きな影響を及ぼしつつある現状を理解する。子どもの身体の発育・発達に関する基礎的な知識を理解し子どもの安全のための保育者のかかわりかた等を理解する目標達成のためにディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを行う。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 幼児期における心身の健康に関する現状と健康生活に必要な生活習慣の形成やその確立の重要性が理解できる。 2) 身体の発育・発達に関する基礎的な知識を理解できる。 3) 子どもの安全のための保育者のかかわり方について理解できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (積極的な調査の実施) | プレゼンテーション能力 () | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 近藤幹夫監修 徳安敦、山本明美編 『 - 保育内容 - 健康』 青踏社 2018年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業中に指示する | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 事例についての考えや学習課題について回収後、解答や解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 現状分析ができるように、新聞等から子どもの健康に関する情報を調査しておく。課題として、問題点の原因と解決策を考えておく。各授業の中で発表の時間を設ける。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 初回の授業で連絡します。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 保育内容・健康 a・b | |
|---------|-------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 人間と健康 | (学修内容)健康の定義や環境について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 p 10- p 12、 p .25-33を読んでおく 健康な状態と健康でない状態について考えておく |
| 第2回 | 健康と環境 | (学修内容)健康と環境の相互依存について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 P 13 ~ P 23を読んでおく 心とからだのつながりについて考えておく |
| 第3回 | 子どもの体力 | (学修内容)幼児の体力の現状 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 P 35 ~ P 42を読んでおく 体力の低下の原因と対策について考えておく |
| 第4回 | 幼児の体力と運動 | (学修内容)幼児の体力と運動や生活習慣 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 P 42 ~ P 48を読んでおく 運動遊びと獲得できる運動能力について考えておく |
| 第5回 | 保育の特性と領域 | (学修内容)乳幼児にふさわしい生活 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 P 50 ~ P 62を読んでおく 子どもの生活習慣の確立するための配慮を考えておく |
| 第6回 | 具体的な保育内容 | (学修内容)子どもの健康な生活リズムと生活習慣の自立 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 P 64 ~ P 90を読んでおく。 子どもの体の発達と保育の変化について事例を読んでおく |
| 第7回 | 幼児の生活習慣と生活リズム | (学修内容)健康への関心や病気の予防 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 P 90 ~ P 107を読んでおく 子どもが健康的な習慣を身につけていくための方法を調べておく |
| 第8回 | 子どもの健康への関心や病気への予防 | (学修内容)子どもの成長と脳機能や肥満 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 P 108 ~ P 121を読んでおく 子どもの健康と自律神経との関係や肥満予防について調べておく |
| 第9回 | 安全や災害 | (学修内容)園での子供の安全や災害時についての対応 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 P 121 ~ P 132を読んでおく 園内での事故への対応や避難訓練について調べておく |
| 第10回 | 食品材料の安全性 | (学修内容)農薬や食品添加物 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 P 134 ~ P 154を読んでおく 食品添加物の種類を調べておく |
| 第11回 | 食育の目標 | (学修内容)食育の有効性と手法 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 P 154 ~ P 169を読んでおく 園児さんや保護者の方を対象とした食育活動を計画する |
| 第12回 | 食物アレルギー | (学修内容)子どものアレルギー疾患の現状と対処法 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 P 169 ~ P 185を読んでおく 園児の即時型アレルギーへの対応を調べておく |
| 第13回 | 子どもの生活習慣病 | (学修内容)子どものメタボリックシンドロームへの対応 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 P 187 ~ P 203を読んでおく 子どものメタボリックシンドローム予防のための対策を調べておく |
| 第14回 | 衛生管理と安全管理 | (学修内容)施設内外の衛生管理、リスクとハザード (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 P 203 ~ P 211を読んでおく 施設内の衛生管理について調べておく |
| 第15回 | 家庭の健康生活 | (学修内容)家庭生活における衛生、生活リズム、食の内容、運動等に関する習慣 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 P 213 ~ P 222を読んでおく 家庭での健康と生活リズムの習慣について考えておく |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|-----------------|----------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 保育内容・人間関係 a・b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | CE1304 |
| 英 文 名 | Child Care : Human Relations | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | 必 修 選 択 | | 選 択 | |
| 担 当 者 | 鈴木 えり子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1AB・CD | | | | |
| 授業の概要 | 乳幼児の心身は周囲の人との出会いやかかわりを基盤として発達していくことを理解する。子どもを取り巻く人々との相互関係のなかで「人とかかわる力」をどのように形成していくかを理解し、そのうえで、保育者がどのような役割を果たさなければならないかについて、具体的な事例を取り上げ検討していく。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 保育内容「人間関係」のねらい・内容が理解できる。 2) 人とかかわる力の発達過程が理解できる。 3) 領域「人間関係」を主とした活動を通して保育者の援助が理解できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 | | |
| テ キ ス ト | 徳安敦監修『保育内容人間関係』 青踏社 文部科学省編『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針解説』 フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 幼年教育研究所編著 「遊びの指導 乳幼児編」 同文書院 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 課題レポートに対してコメントをして返却するとともに授業内で解説を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | グループ発表があるので、自分自身が人とかかわる力を身につけることを意識して、積極的に授業に臨むこと | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 随時研究室に掲示しますので確認してください | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 保育内容・人間関係 a・b | |
|---------|------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 自分自身の人間関係を振り返る (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分自身の人間関係についてレポートにまとめて提出する 予習としてテキスト第1章を読んでレポートにまとめて提出する |
| 第2回 | 保育の基本と領域「人間関係」の歴史の変遷 | (学修内容) 社会的環境の変化と子どもの育ちを理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分自身の子どもの頃のことを保護者に聞きとりレポートにまとめて提出する 復習として配布プリントを完成させて提出する |
| 第3回 | 領域「人間関係」の意義、ねらいと内容 | (学修内容) 領域「人間関係」の意義及びねらい・内容を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第3章読み、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育保育要領のねらい・内容を配布プリントに記入して提出する |
| 第4回 | 人とかかわる力の発達 (0歳児) | (学修内容) 0歳児の発達と人間関係の育ちを理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の家庭にあった乳児おもちゃについて聞き取りレポートにまとめて提出する |
| 第5回 | 人とかかわる力の発達 (1歳以上3歳未満児) | (学修内容) 1歳以上3歳未満児の発達と人間関係の育ちを理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第4章-2の事例ワークをレポートにまとめて提出する |
| 第6回 | 人とかかわる力の発達 (3歳児) | (学修内容) 3歳児の発達と人間関係の育ちを理解する 遊びの中での人とかかわりの事例について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第5章の事例を自分の考えをレポートにまとめて提出する 復習として配布プリントを完成させて提出する |
| 第7回 | 人とかかわる力の発達 (4歳児) | (学修内容) 4歳児の発達と人間関係の育ちを理解する 遊びを通して、思いやりを育てることについて話し合いを通じて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第6章の事例を自分の考えをレポートにまとめて提出する |
| 第8回 | 人とかかわる力の発達 (5歳児) | (学修内容) 5歳児の発達と人間関係の育ちを理解するルーター (事前事後学修課題の内容) (20分) テキスト第7章の事例に対して自分の考えをレポートにまとめて提出する |
| 第9回 | 個の育ちと集団の育ち、保育者の役割 | (学修内容) 保育における個の育ちと集団の育ちを理解する 遊びの意義と人とかかわる力を育てる保育者の役割について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に紹介した保育活動についてレポートにまとめて提出する |
| 第10回 | 昔遊び・なかよし遊びの実際 | (学修内容) 昔遊びを相互に話し合い発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 昔遊びの遊びについて、遊び方をレポートにまとめる 復習として話し合いでの気づきをレポートにまとめて提出する |
| 第11回 | グループ発表(1班～4班)と実践 | (学修内容) 人とかかわりを育てる遊びを受講生を対象に実践発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで「人間関係」のねらいを主とした活動を考えレポートを作成し提出する 発表後の振り返りレポートをまとめて提出する |
| 第12回 | グループ発表(5班～8班)と実践 | (学修内容) 人とかかわりを育てる遊びを受講生を対象に実践発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで「人間関係」のねらいを主とした活動を考えレポートを作成し提出する 発表後の振り返りレポートをまとめて提出する |
| 第13回 | グループ発表(9班～12班)と実践 | (学修内容) 人とかかわりを育てる遊びを受講生を対象に実践発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで「人間関係」のねらいを主とした活動を考えレポートを作成し提出する 発表後の振り返りレポートをまとめて提出する |
| 第14回 | グループ発表(13班～16班)と実践 | (学修内容) 人とかかわりを育てる遊びを受講生を対象に実践発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで「人間関係」のねらいを主とした活動を考えレポートを作成し提出する 発表後の振り返りレポートをまとめて提出する |
| 第15回 | 指導計画の実際 | (学修内容) 人間関係を主とした指導計画を立案する (事前事後学修課題の内容) (120分) 授業内の実践発表した内容を指導計画として立案して提出する |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|-----------------|--------------------------------|-------------|-------------------------|---------|-----------------|----------|--|
| 授 業 名 | 保育内容・環境 a・b | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Child Care : Environment | | | 開 講 時 期 | 春・秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 浅田 瞳 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2ya~yf、yg~yl | | | | |
| 授業の概要 | <p>他の校種に先駆け、幼稚園では平成30年度より新幼稚園教育要領が施行され、「幼児期の終わりに育みたい10の力」を育てるための「環境」をどのように構成するのか、保育者一人ひとりの力量が問われている。保育内容・環境は5領域のひとつであり、自然や数量、標識など日常生活にあるさまざまなものと子どもの生活につなげ、子どもたちの生活をよりよいものにするためにはどのような指導・援助が必要なのかを考える領域である。たとえば、指導案を考える時の「環境構成」であったり、子どもたちが十分に遊びに没頭できるために、保育者はどのような配慮が必要なのか、保育者に求められる資質能力は年々高くなっている。</p> <p>この授業では、幼稚園および保育所で活動する上で必要な保育内容環境のねらい及び内容を踏まえ、幼児の活動を支える上で必要な知識および技術を習得し、活動上の留意点などを理解できることを目的としている。</p> <p>授業内では、グループワークのなかで作成した指導案をもとにプレゼンテーションとして模擬活動を行い、子どもたちを想定して活動を行う。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | <p>1) 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容について説明できる。</p> <p>2) 1を踏まえ、子どもを取り巻く身近な環境とのかかわりについて調べ、それらのまとめを発表することができる。</p> <p>3) 保育内容環境のねらい及び内容を踏まえた活動指導案を作成することができる。</p> <p>4) みずから作成した指導案にもとづき、それらの活動を実践することができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | 態度・志向性 | | 汎用的技能 | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 | | | | |
| テ キ ス ト | 近藤幹生監修 徳安敦・瀧川光治著・編『生活事例からはじめる保育内容環境』(青踏社) | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 文部科学省『幼稚園教育要領』(フレーベル館)、厚生労働省『保育所保育指針』(フレーベル館) | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 個別に提出された小レポートについては内容について次回の授業で解説を行い、フィードバックをする。グループで作成した指導案や教材については個別に助言・指導する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 『環境』に関する理論面は、講義を通し理解を深め、指導の実際面に関しては、学生自身による課題を発表形式で進める。保育における環境領域の活動事例をとりあげ、教材研究や体験を通し学生達自身で深め、レジュメなどに簡潔にまとめ、発表する。授業の後半ではグループごとに環境を前提とした指導案を作成し、すべてのグループに5分程度の活動を実践発表してもらおう。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 毎週水曜日の昼休み(春期)、毎週木曜日の昼休み(秋期) | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 保育内容・環境 a・b | |
|------|---|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション・「環境」とは | (学修内容) 授業進め方の説明・人と環境との関わりを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 春(秋)に自生する草花を集め、その種類や花言葉、食用かどうかを調べて提出する。 |
| 第2回 | 幼稚園教育要領、保育所保育指針改訂及び領域「環境」について、保育内容のとらえ方と考え方 | (学修内容) 幼稚園教育要領、保育所保育指針における改訂の主旨と領域「環境」・保育内容「環境」について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 34-39を読み、幼稚園と保育所の違いをまとめる |
| 第3回 | 子どもの環境と保育者 | (学修内容) 環境への積極的なかわりのあそびと子どもについて考え、意見交換をする (事前事後学修課題の内容)(60分) 環境領域の発表の準備を進める |
| 第4回 | 子どもの活動や生活と「環境」 | (学修内容) 乳幼児の発達と環境との関わりについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読み、幼児と乳幼児の違いをまとめる |
| 第5回 | 乳幼児の主体的な生活と領域「環境」 | (学修内容) 乳幼児の主体的な生活と領域「環境」との関わりについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 80-85を読み、乳幼児の主体的な活動を進めるための環境構成を考える |
| 第6回 | 園外活動によって育つもの | (学修内容) 散歩、遠足、社会見学などのねらい、保育者の留意点 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 117-124を読み、園外活動の留意点についてまとめる |
| 第7回 | 季節による保育活動 | (学修内容) 身近な植物と保育活動でのかわり (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 129-134を読み、植物を育てることによる子どもへの影響をまとめる |
| 第8回 | 身近な動物と保育活動 | (学修内容) 身近な動物の飼育など子どもとのかわり、保育活動について調べて発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 111-116を読み、動物を飼育することによる子どもへの影響をまとめる |
| 第9回 | 科学性を伸ばすあそびと子ども | (学修内容) 空気、水の遊びについて調べて発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 104-110を読み、空気や水を使った遊びを考える |
| 第10回 | 科学性を伸ばすあそびと子ども | (学修内容) 音、光、磁石の遊びについて調べて発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 100-103を読み、科学性を伸ばす遊びを考える |
| 第11回 | 数量・図形、文字、標識へのかわり、その感覚をのぼすためのあそびと子ども | (学修内容) 数量・図形、文字、標識へのかわり、その感覚をのぼすためのあそびについて発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書 96-98を参考に数量を楽しむ遊びを考える |
| 第12回 | 領域「環境」指導上の問題点 | (学修内容) 領域「環境」指導上の問題点を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) グループ発表のための資料作成を行う |
| 第13回 | 領域「環境」の留意事項 | (学修内容) 領域「環境」の留意事項を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループ発表のための資料作成を行う |
| 第14回 | 領域「環境」を想定した活動の発表 | (学修内容) グループで作成した指導案をもとに模擬活動を発表する (事前事後学修課題の内容)(60分) グループ発表を聞き、どの班の発表がよかったのか、その理由についてまとめる |
| 第15回 | 環境を通して子どもたちの保育を考える | (学修内容) 「環境」と保育の関係性について振り返る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 環境構成と子どもとのつながりについて振り返る |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 保育内容・言葉 a・b・c | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Child Care : Language | | | 開 講 時 期 | 春・秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 水谷 隆 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2ya～yd・2ye～yh・2yi～yl | | | | |
| 授業の概要 | 「保育内容・言葉」とは、子どもの教育に関わる内容を5つの側面からとらえた「5領域」のひとつであり、子どもたちが豊かな言葉を獲得していくための援助のありかたについて考えるものです。この授業では、人間にとって言葉がどのような意味を持つのかということをもふまえた上で、子どもの言葉の発達段階と援助の基本について把握できるよう説明していきます。またあわせて、子どもとのコミュニケーションを意識したプレゼンテーションも行ってもらいます。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 言葉と人間との関わりを理解し、言葉の役割について分かりやすく説明することができる。 1) 子どもの言葉の発達段階と、それぞれの段階に応じた援助の基本を把握できる。 3) 言葉をはぐくむ児童文化財について理解を深め、保育の実践に活かすことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | プリントを配布します。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 随時紹介します。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 理解度確認テストの実施後に解説を行います。 口述については、その都度コメントをします。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 受講生全員に口頭でのプレゼンテーションをしてもらいます。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室に日時を貼付するので、確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 学修項目 | 学修内容・課題 |
|---------|-------------------------------------|--|---------|
| 授 業 計 画 | 保育内容・言葉 a・b・c | | |
| 第1回 | オリエンテーション 「保育内容・言葉」とは何か | (学修内容) 授業の目的と内容等の確認。 指導要領と保育指針についての解説。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、シラバスの内容を確認しておく。 | |
| 第2回 | 言葉の役割 | (学修内容) 言葉と人格の形成、言葉と文化・価値観についての解説。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、コミュニケーション以外の場で用いる言葉の例をみつけておく。 | |
| 第3回 | 言葉の発達段階と援助の基本 新生児の言語獲得能力 | (学修内容) 新生児の言語獲得能力、保育者の援助についての解説。 学生によるプレゼンテーション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、実習時等で経験した0歳児の言葉と保育者の対応について振り返っておく。 | |
| 第4回 | 言葉の発達段階と援助の基本 初語の発現から語彙の増加まで | (学修内容) 初語の発現、語彙の増加、保育者の援助についての解説。 学生によるプレゼンテーション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、実習時等で経験した1～3歳児の言葉と保育者の対応について振り返っておく。 | |
| 第5回 | 言葉の発達段階と援助の基本 統語の高度化と発話の先行 | (学修内容) 統語の高度化と発話の先行する発達、保育者の援助についての解説。 学生によるプレゼンテーション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、実習時等で経験した3～4歳児の言葉と保育者の対応について振り返っておく。 | |
| 第6回 | 言葉の発達段階と援助の基本 統語およびコミュニケーションの高度化 | (学修内容) 統語の高度化、保育者の援助についての解説。 学生によるプレゼンテーション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、実習時等で経験した5～6歳児の言葉と保育者の対応について振り返っておく。 | |
| 第7回 | 言葉の発達段階と援助の基本 幼児期における文字の指導 | (学修内容) 文字指導に対する基本的考え方についての解説。 学生によるプレゼンテーション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、実習時等で経験した子どもたちが用いていた文字について振り返っておく。 | |
| 第8回 | 言葉の発達段階と援助の基本 まとめと確認 | (学修内容) 3～7回目の授業内容確認テストとその解説。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 予習として、3～7回目授業で学んだ内容を振り返っておく。 | |
| 第9回 | 言葉の発達に関わる諸問題 ジェンダーの問題等 | (学修内容) 方言、ジェンダー等の問題についての解説。 学生によるプレゼンテーション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、方言に関する自己の経験を振り返ることと、ジェンダーに関する最近の話題について考えておく。 | |
| 第10回 | 言葉の発達に関わる諸問題 多文化共生に関する問題等 | (学修内容) 障害、国際化等の問題についての解説。 学生によるプレゼンテーション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、多文化共生に関する最近の話題について考えておく。 | |
| 第11回 | 言葉を育む児童文化財 絵本など | (学修内容) 絵本の読み方と種類、紙芝居の演じ方についての解説。 学生によるプレゼンテーション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、任意の絵本を3冊以上読んでおく。 | |
| 第12回 | 言葉を育む児童文化財 昔話など | (学修内容) 昔話・アニメーション等についての解説。 学生によるプレゼンテーション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、「浦島太郎」「桃太郎」の内容を確認しておく。 | |
| 第13回 | 言葉を育む児童文化財 言葉遊びなど | (学修内容) なぞなぞ、駄洒落・童謡唱歌等についての解説。 学生によるプレゼンテーション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、子どもたちと一緒に楽しめる駄洒落やなぞなぞを用意してくる。 | |
| 第14回 | 言葉を育む児童文化財 アニメソングなど。 | (学修内容) アニメソング等、子どもたちが親しんでいる歌についての解説。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、最近話題のアニメソングを一曲以上歌えるようになっておく。 | |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 授業全体の振り返り、重要事項の再確認など。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 予習として、授業全体を振り返り、疑問点がないかどうか確認しておく。 | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|--------------------|----------------------------|------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 保育内容・表現 a・b・c | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Child Care : Expressions | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 山部 泰司・服部 正志 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2ya~yd、ye~yh、yi~yl | | | | |
| 授業の概要 | 感性と創造力を育てる領域「表現」の理解を深めるための演習。さまざまな演習で仲間と表現を伝えあうことの大切さを学ぶ。毎回、テーマを設定し、さまざまな表現活動を行うとともに、その表現体験のレポートによって記録し考察する力を養う。学習項目は、学生の個性や進度によって変更することがある。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 子どもの表現を理解し、表現の意欲を育てる指導法について理解できる。 2) 自ら表現する楽しさ、お互いの「表現」から学ぶことの楽しさを感じ、その豊かさを実感できる。 3) お互いの個性を理解し、協力して活動できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (表現力) | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | | |
| テ キ ス ト | 花篤實・岡田敬吾編『新造形表現 実技編』(三晃書房)(1回生春学期購入のものを使います) | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 花篤實・岡田敬吾編『新造形表現 実技編』(三晃書房)(1回生春学期購入のものを使います) 必要に応じてプリント等を配布する | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 課題の発表、プレゼンテーションについて改善点など指導し、学生同士で評価し合う機会を持つ。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 普段からさまざまな表現活動に対する関心を持つこと。 造形表現にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい態度や気持ちを忘れないこと。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 学生の時間割により判断し、研究室前に掲示する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の業務経験など：子どもの絵画教室、小学校等、美術館等での表現ワークショップの指導経験をもとに表現領域について話します。 | | | | | | | | |

| 授業名 | 保育内容・表現 a・b・c | |
|------|-------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 導入 | (学修内容)「表現」領域について概要を知る (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト35から37項を読んで考えをまとめておく |
| 第2回 | 教室全体を使って落書きする | (学修内容)身体スケールを超えた空間を感じ表現する活動を行う 活動のレポートをまとめる (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト48から49項を読んで考えをまとめておく |
| 第3回 | 手のフォルムからの見立てによる表現 | (学修内容)手に描く活動を行う 活動のレポートをまとめる (事前事後学修課題の内容)(30分) 手の動きを観察して考えをまとめておく |
| 第4回 | 大きなこいのぼりをつくる | (学修内容)身近な素材(新聞紙等)による集団での造形、季節の行事に関心を持つ 活動のレポートをまとめる (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト137から138項を読んで考えをまとめておく |
| 第5回 | クモの巣をつくる | (学修内容)身近な素材(ロープ、紐等)による空間造形 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト119から120項を読んで考えをまとめておく |
| 第6回 | ケント紙で高さ比べ | (学修内容)グループで背の高い構築物を作る (事前事後学修課題の内容)(30分) 造形の動機付けについて考えておく テキスト48から49項を読んで考えをまとめておく |
| 第7回 | 個性的な帽子をつくる | (学修内容)和紙、新聞紙による変身遊び (事前事後学修課題の内容)(30分) いろいろな帽子の作り方について調べる テキスト135項を読んで考えをまとめておく |
| 第8回 | リレー童話をつくる | (学修内容)グループで創作童話を作る (事前事後学修課題の内容)(30分) 創作童話について調べてまとめておく |
| 第9回 | リレー童話の音読 | (学修内容)リレー童話を発表 (事前事後学修課題の内容)(30分) 童話の読み方を練習しておく テキスト94から95項を読んで考えをまとめておく |
| 第10回 | 新聞紙で造形する | (学修内容)テーマを決定する力を養う (事前事後学修課題の内容)(30分) コミュニケーション力を高めておく テキスト48から49項を読んで考えをまとめておく |
| 第11回 | 折りたたみシアターをつくる | (学修内容)折りたたみシアターの制作 (事前事後学修課題の内容)(30分) テーマやアイデアを考えておく テキスト48から49項を読んで考えをまとめておく |
| 第12回 | 折りたたみシアターの発表 | (学修内容)折りたたみシアターを発表する (事前事後学修課題の内容)(30分) 模擬保育の場を想定しておく テキスト98から101項を読んで考えをまとめておく |
| 第13回 | 季節の絵・「夏」 | (学修内容)夏の子どもの生活を描く (事前事後学修課題の内容)(30分) 壁面制作について調べてまとめておく |
| 第14回 | 季節の絵・「秋」 | (学修内容)秋の子どもの遊びを描く (事前事後学修課題の内容)(30分) 就職活動における造形課題について調べてまとめておく |
| 第15回 | まとめ | (学修内容)レポートと講評 (事前事後学修課題の内容)(30分) 授業での演習を復習、考察して考えをまとめておく |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 保育内容・表現 a | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Child Care : Expressions | | | 開講時期 | 秋学期 | | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 森 宜裕 | | | 対象学生 | 幼児教育2ya ~ yd | | | | |
| 授業の概要 | <p>1) 保育内容・領域「表現」のねらいと内容について学ぶ。 2) 保育実践に関する知識を理解し、指導のための基礎技能を習得し、自身の表現力や感性を養い、子どもが主体的に表現することを楽しむための働きかけについて学ぶ。 3) 様々な身体表現の実習を通して、リズムによって動く楽しさや、イメージをふくらませて創造的に表現したり、演じたりする楽しさを学ぶ。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 保育内容・領域「表現」のねらいと内容について理解することができる。 2) 子どもの発育・発達に応じた身体表現あそびの指導・援助ができるようになる。 3) 子どもの発育・発達に応じた身体表現活動の展開ができるようになる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (60%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 | | |
| テキスト | 必要に応じてプリントを配布する | | | | | | | | |
| 参考書 | <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育内容「表現」からだで感じる・表す・伝える 株式会社杏林書院 元気な子どもを育てる幼児体育 保育出版社</p> | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたレポートは、返却し解説します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 積極的な受講姿勢を尊重する。自身の健康維持、安全管理に留意し、室内シューズ、運動着を着用すること。次々と新しい教材を学ぶので、毎回各自で予習・復習をしっかりとすること。授業の進行具合により、学習項目が変更になる場合もある | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業終了後に実施する | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 保育内容・表現 a | |
|---------|--|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいと内容について | (学修内容) 領域「表現」について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 領域「表現」を読んでおく |
| 第2回 | 心と体を動かすふれあいあそび | (学修内容) 心と体をはぐくむふれあいあそびを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が小さいころにしていた動きやあそびなどを思い出しておく |
| 第3回 | 心と体を巧みに動かす表現 | (学修内容) 体を操る・動かす、基本動作を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 筋肉・骨格・神経系などの基礎知識を調べる |
| 第4回 | 幼児体操とリズムあそび | (学修内容) 幼児体操と種々のリズムあそびを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) リズムあそびについて調べる |
| 第5回 | リズムダンスの導入方法 | (学修内容) 種々のリズムあそびの導入方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) リズムあそびの工夫について調べる |
| 第6回 | リズムダンスの展開方法 | (学修内容) 種々のリズムあそびの展開方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) いろいろな工夫を考える |
| 第7回 | フォークダンス実習 | (学修内容) 子ども向けの楽しく簡単なフォークダンスを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) フォークダンスの背景、歴史、特徴などを調べる |
| 第8回 | チアダンス実習 | (学修内容) チアダンスの基本を学ぶ。手具の活用方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 表現としてのチアダンスについて考える |
| 第9回 | チアリーディング実習 | (学修内容) チアリーディングの基本を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) チアダンスやチアリーディングを観る |
| 第10回 | 組体操の導入方法 | (学修内容) 幼児のための組体操の基本を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 組体操を観る |
| 第11回 | リズムダンス創作 創作に向けたねらいの確認 | (学修内容) テーマに合った動きの工夫、楽しくなる工夫を学ぶ グループ編成をする (事前事後学修課題の内容) (30分) 作品に合う音楽・効果音、小物を探しておく |
| 第12回 | リズムダンス創作 いろいろな工夫 | (学修内容) 様々な意見を出し合い、グループで考えて振りをつける (事前事後学修課題の内容) (30分) いろいろな工夫を考える(高低、強弱、方向) |
| 第13回 | リズムダンス創作 テーマを表現する | (学修内容) グループ練習を行い、仕上げる (事前事後学修課題の内容) (30分) テーマが表現されているか確認する |
| 第14回 | 創作作品発表 | (学修内容) 創作した作品を発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 他の人の創作を観て学ぶ |
| 第15回 | 「表現あそび」についてのまとめ | (学修内容) 授業を振り返り、表現あそびについて考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を振り返り、学んだ事を整理する |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|--------------------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 保育内容・表現 b・c | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Child Care : Expressions | | | 開講時期 | 秋学期 | | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 山本 満佐子 | | | 対象学生 | 幼児教育2ye~yh、2yi~yl | | | | |
| 授業の概要 | 保育現場で行われる器楽合奏において幼児に使用される打楽器の奏法を習得する。また、歌やリズムに合わせて動く楽しさや、イメージをふくらませて創造的に表現することの楽しさをグループワークやプレゼンテーションを通して学ぶ。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 子どもの発育・発達に応じた身体表現あそび・音楽表現活動の指導・援助および活動の展開ができる。 2) 保育の現場で自分にできることを明確にすることができる。 3) 基本的な知識を習得することにより、保育現場で起こりうる様々な問題に柔軟な対応力を身につける。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 () () () | | | |
| テキスト | 乳幼児の音楽表現 小西行郎、志村洋子、今川恭子、坂井康子 = 編著 中央法規出版 | | | | | | | | |
| 参考書 | 『幼児の音楽教育』 森田百合子 他 教育芸術社 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | それぞれの課題に対しその都度、コメントを返す。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | それぞれの課題に対し配布プリントの項目にそって、課題達成にむけて内容を確認しておく。特に合奏や小編成のアンサンブルなど練習を要する時は、担当のパート練習をしておくこと。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業終了後に実施する | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実務経験など：大谷大学幼児教育科、京都文教大学子ども未来コース、京都府立鴨沂高等学校、京都福祉専門学校 大阪保健福祉専門学校、京都光華女子大学、京都医健専門学校、宇治市立宇治小学校 宇治市立横島小学校、宇治市立南部小学校、宇治市立菟道第二小学校、幼児教室こどもの城 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 保育内容・表現 b・c | |
|---------|--------------------------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 今期の授業説明・幼児教育の基本と領域「表現」のねらい及び内容について | (学修内容) 授業の進め方・評価の方法などを説明 幼児教育の基本と領域「表現」のねらい及び内容 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト領域「表現」を読む |
| 第2回 | 歌を使つての身体表現活動(1) 幼児と歌あそび | (学修内容) 手あそび 指あそび (事前事後学修課題の内容)(20分) 知っている手遊びが正確にできるようにする |
| 第3回 | 歌を使つての身体表現活動(2) 手あそび歌の創作 | (学修内容) 子どもの歌の本の中から曲を選択する 手あそび 指あそびの動きを考えよう (事前事後学修課題の内容)(30分) シートの記入 |
| 第4回 | 歌を使つての身体表現活動(3) オリジナル手あそび歌の発表 | (学修内容) 保育現場を想定して模擬保育の形式で発表し、評価 (事前事後学修課題の内容)(30分) シートの仕上げ、提出、発表 |
| 第5回 | 保育現場における器楽合奏についての教材研究 | (学修内容) 幼児向けの打楽器の奏法を知ろう (事前事後学修課題の内容)(20分) 打楽器の正しい持ち方・演奏の仕方・名称を覚える |
| 第6回 | 器楽合奏(1) 保育現場で使われる楽器について | (学修内容) 担当する楽器を決める。その打楽器の奏法の確認 (事前事後学修課題の内容)(20分) 打楽器の名称を正確に覚え、奏法を習得する |
| 第7回 | 器楽合奏(2) スコア楽譜とパート譜 | (学修内容) スコア楽譜とパート譜の見方 他の楽器の音を聞いてリズムに合わせよう (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分のパートを練習する |
| 第8回 | 器楽合奏(3) 音のバランスと曲想の表現 | (学修内容) 音楽の構成を考えて表現しよう (事前事後学修課題の内容)(20分) 表情記号に気をつけて楽譜を読んでおく アーティキュレーションを正確に演奏できるように練習する |
| 第9回 | 小編成アンサンブル(1) 奏法、リズムなど体得のための手順 | (学修内容) 小グループによる選曲 (事前事後学修課題の内容)(20分) 自分のパートを理解する |
| 第10回 | 小編成アンサンブル(2) 曲の構成・機器によるメトロノームとピッチ | (学修内容) 奏法の確認 (事前事後学修課題の内容)(30分) スコア楽譜を正しく読み取る |
| 第11回 | 小編成アンサンブル(3) グループでの取り組み | (学修内容) 発表に向けての練習 (事前事後学修課題の内容)(30分) 正確に演奏できるように練習する |
| 第12回 | 小編成アンサンブル(4) 各グループの発表会 | (学修内容) 保育現場での発表会形式で発表し評価 (事前事後学修課題の内容)(30分) 発表のための練習と発表後の評価 |
| 第13回 | 遊びを活用した身体表現活動(1) 幼児の年齢別に体験 | (学修内容) 幼児の発達段階に応じた遊びをする (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストを読む |
| 第14回 | 遊びを活用した身体表現活動(2) 表現(動き)の工夫をし保育指導案を作成 | (学修内容) 楽しさを伴う表現活動の指導案について考える (事前事後学修課題の内容)(40分) テキストを参考にする |
| 第15回 | 領域「表現」とは:まとめ | (学修内容) 領域「表現」のねらいに立ち返り幼児教育全体の構造を理解する (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストを読む |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|-----------------------------------|----------------------------|------------------|------------------|------------|------------|-----------------|--|
| 授 業 名 | 教育方法の研究 a・b | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Educational Method Research | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 堀出 雅人 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2ya~yf、yg~yl | | | | |
| 授業の概要 | 幼稚園教育にふさわしい教育方法について考える。幼児期に遊びや生活を通して心身の調和のとれた発達の基盤を培うことができるよう保育を計画できる能力養う。授業では、指導計画の要点と作成方法を学ぶ、多様な幼児教育の実践を理解しその特徴を説明できるなど、を通して、これからの幼稚園教育の方法を考え、一人ひとりの教育実践につなげる。授業ではお互いの指導案を見せ合い意見交換する中でより質の高い指導計画へとつなげるためにグループワークを実施する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 到 目 標 | 1) 幼児の生活する姿や、幼児一人一人の幼児理解を深めつつ、幼児に必要な教育方法を考えることができる。 2) 幼児が集団生活の中で喜びと充実した学びの体験を幼稚園教育要領の5領域に合わせてイメージできる。 3) その上で自らの力で教育・保育計画を立案し、幼稚園教育実習などでの実践につなげることができる。 以上の3点から学内外において、教育・保育の体験を積み重ね専門知識の幅を広げ、実践力の習得をめざす。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | | | 汎用的技能 | |
| | | 態度・志向性 | | | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | プレゼンテーション | | | | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 担当者が作成したプリントを適宜配付します。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレール館 2018 その他適宜指示をします。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 授業の終わりに書くコメントカードについては次回の授業時に講評およびチェックをして返却します。 指導計画や制作物についても同様に講評しチェックをして返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 定期試験50%、平常試験50%の割合で評価する。平常試験50%のうち、20%が授業中で提出を求める指導案と制作物の完成度、20%が各回のコメントカードの提出状況、10%はそのほか授業への積極的な参加(挙手、グループワークでの働き)から評価します。授業の欠席など事前に本人が相談に来ること。欠席や提出物の遅れについても、できるだけ早く自分で言いに来ることにしてください。他人任せにせず、自分で判断せず、報告、相談、連絡を大切にしてください。その他配慮が必要なことがあればなるべく早く相談に来てください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業期間中の毎週水曜日のお昼休み | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 教育方法の研究 a・b |
|---------|----------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 保育方法の基本とは何か | (学修内容) 保育方法の原理 (自発性と指導性、個別性と共同性) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 シラバスを読んでくる 事後 幼稚園教育要領解説の幼稚園教育の目的を読んで来る |
| 第2回 | 環境による保育とは | (学修内容) 子どもの興味・関心を生かし、一人ひとりの育ちに応じた環境構成のあり方 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 幼稚園教育要領解説の環境構成について指摘がある箇所を読む 事後 1年次の現場体験を踏まえ環境構成の実際をA4にまとめる |
| 第3回 | 遊びによる総合的指導 | (学修内容) 遊びの意味と遊びを大切にしたい保育の展開について (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 幼稚園教育要領解説の環境構成について指摘がある箇所を読む 事後 1年次の現場体験で環境構成で気づいた点をA4にまとめる |
| 第4回 | 保育における個と集団 | (学修内容) 集団の育ちと個の育ち 一人ひとりの良さが響きあう保育 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 個別指導と集団指導の違いを考えメモ書きしてくる 事後 グループで話し合いで出た意見をA4にまとめる |
| 第5回 | 子どもにふさわしい園生活 | (学修内容) 柔軟で多様な保育形態 一日の生活の展開 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 実習園等の一日の保育プログラムを調べてくる 事後 6月の実習に向けて設定保育で取り組むテーマを考える |
| 第6回 | 発達の時期に応じた保育のあり方 | (学修内容) 入園から卒園までの発達に応じた生活の流れを説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 3～5歳児の発達段階を調べて説明できるようにしておく 事後 6月の実習に向けて設定保育で取り組む材料を考える |
| 第7回 | グループワーク 保育計画の立て方 | (学修内容) 保育計画をたてる意義 明日の保育に生かす今日の記録 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 指導計画の下書きをしてくる 事後 グループで出た意見等を参考に指導計画を清書してくる |
| 第8回 | 保育計画の実践 | (学修内容) 明日の保育に生かす今日の記録 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 配布された保育記録を読んでくる 事後 保育記録のポイントコメントカードにまとめ提出 |
| 第9回 | 6月幼稚園実習のふりかえり | (学修内容) 実習の反省から9月実習の保育方法を考える視点を育てる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 部分・設定保育した結果を整理しておく 事後 部分・設定保育の反省をコメントカードにまとめ提出 |
| 第10回 | 行事を生かした保育の展開 | (学修内容) 園生活のなかの行事 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 幼稚園教育要領解説の行事について読んでくる 事後 9月の幼稚園行事について調べてくる |
| 第11回 | 家庭・地域・小学校との連携を生かした保育 | (学修内容) 保護者・地域住民・小学校の教職員との連携 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 書籍やインターネットで幼小連携のキーワードを調べてくる 事後 9月の設定保育の題材を考える |
| 第12回 | さまざまな工夫が求められる保育 | (学修内容) 特別なニーズのある子どもや外国人の子どもへの保育 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 これまでの実習を振り返り特別なニーズ等ある子どもへの保育を考える 事後 9月の設定保育の材料を集める |
| 第13回 | 世界の幼児教育の方法 | (学修内容) 他国の文化、社会によって発展してきた保育方法とその思想 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 授業で指定する世界の教育実践家の方法を調べメモしてくる 事後 9月の設定保育の指導案の構想を立ててくる |
| 第14回 | 素材を楽しむ保育方法 | (学修内容) さまざまな素材の感触を味わい、創作する喜びを感じる保育 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 子どもの五感を使った遊びや制作を考えてくる 事後 9月の設定保育の指導案の下書きの提出 |
| 第15回 | 保育者の成長と保育実践の深まり | (学修内容) 保育者の専門性と省察、研修 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 9月の実習の設定保育の目標をメモ書きしてくる 事後 授業担当者から返却された指導案を元に指導案を清書する |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 保育相談 a・b | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Consultation of Child care | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 武田 康晴 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2ya～yf・2yg～yl | | | | |
| 授業の概要 | <p>保育現場における「相談」の必要性は高まっている。この授業では、保育現場における保育相談の意義と理論、保育相談の前提となる幼児の特性（幼児理解）、保育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングや相談支援に関する基礎的知識も含む）を理解した上で、保育相談の具体的な進め方、ポイント、組織的な取り組みや地域の専門機関との連携について理解を深める。現場実践においては、理論を知っているだけでなく、実際に相談に応じることが求められるため、ワークシートの記入、考えの表明、ディスカッション等によって「自分自身の対応」を常に意識しながら授業を進める。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 幼児の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や発達課題を適切にとらえることができるようになる。 2) 保育現場における保育相談の意義と役割について理解できる。 3) 幼児の不適応や葛藤の意味および幼児に見られるさまざまな問題行動の兆候に気づき把握する方法を理解している。 4) 保育相談に関わる基礎的な理論・概念（カウンセリングや相談支援に関する基礎知識を含む）を理解している。 5) 保育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや地域の専門機関との連携の必要性を理解する。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | プリントを配布する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 杉崎雅子『スギ先生と学ぶ 教育相談の基本』萌文書林,2018、その他にも必要に応じて紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 質問事項や全体に関連する事項は授業中に口頭で説明するほか、レポートについては必要に応じてコメントを記入して返却する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 事例検討については、自分の考えをワークシートに記入し、プレゼンテーションとディスカッションを行うので、聴講だけでなく積極的に授業に参加する。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室前に掲示し、授業時にも口頭で伝える。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 保育相談 a・b | |
|---------|--|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | 科目ガイダンス、保育相談の意義と役割、保育相談の目的 | (学修内容) 保育相談の意義や目的を理解する。相談に応じる際の基本的知識を習得する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。 | |
| 第2回 | 保育相談の基本的知識 | (学修内容) 保育所保育指針等を活用し、保育所保育の特徴、保育所における子育て支援、保育士の専門性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育所保育指針を確認しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。 | |
| 第3回 | カウンセリングと相談支援の基本的知識 (1) カウンセリングと相談支援の基礎 | (学修内容) 全国保育士会倫理綱領の内容を確認しながら、保育士の視点について学ぶ。カウンセリングと相談支援の基礎について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 全国保育士会倫理綱領について事前学習しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。 | |
| 第4回 | カウンセリングと相談支援の基本的知識(事例の検討と発表を含む) (2) 保護者との信頼関係の構築 | (学修内容) 保護者のまなざしを念頭に、子どもの成長を保護者と共有する視点、保護者との信頼関係の構築の方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。 | |
| 第5回 | カウンセリングと相談支援の基本的知識(事例の検討と発表を含む) (3) 傾聴・共感・受容 | (学修内容) カウンセリングと相談支援の基礎として、傾聴、共感的理解、受容について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。 | |
| 第6回 | 保育相談の目標の立て方、進め方(事例の検討と発表を含む) (1) 基本的生活習慣に関すること | (学修内容) 基本的生活習慣の意義を学び適切な指導方法や保護者への助言の仕方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。 | |
| 第7回 | 保育相談の目標の立て方、進め方(事例の検討と発表を含む) (2) 言葉の遅れが見られる場合 | (学修内容) 言葉の遅れの原因や発達支援を学び保護者への助言や適切な保育知識の提供を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。 | |
| 第8回 | 保育相談の目標の立て方、進め方(事例の検討と発表を含む) (3) 発達の偏りが見られる場合 | (学修内容) 発達障害や配慮が必要とされる子どもの保護者への支援を学び、必要に応じて専門家とのコンサルテーションや連携の方法について習得する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。 | |
| 第9回 | 保育相談の目標の立て方、進め方(事例の検討と発表を含む) (4) 問題行動(登園しぶり、過度の乱暴)が見られる場合 | (学修内容) 子どもの気になる行動の種類や背景を学び、保護者への解決への助言や支援を学ぶ。必要に応じて専門機関との連携について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。 | |
| 第10回 | 保育相談の目標の立て方、進め方(事例の検討と発表を含む) (5) 育児不安や育児ストレスの見られる保護者への支援 | (学修内容) 養育上の不安や自信喪失の保護者への対応、心身に不調のある保護者への理解と支援を学び子育て支援に理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。 | |
| 第11回 | 保育相談の目標の立て方、進め方(事例の検討と発表を含む) (6) 虐待や不適切な養育の見られる保護者への支援 | (学修内容) 虐待や放任、不適切な養育の見られる保護者の状況を理解し、適切な子どもとの関わりについて支援し、助言する方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。 | |
| 第12回 | 保育相談の評価、省察、PDCAサイクル(事例の検討と発表を含む) | (学修内容) 保育相談におけるPDCAサイクルを理解し、計画的な保育相談が進められるように方法や技術を習得する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。 | |
| 第13回 | 保護相談に必要な組織的な取り組みと園内の体制整備(事例の検討と発表を含む) | (学修内容) 保育相談を効果的に進めるための園内の体制の整備を図り、役割分担やチームワークの在り方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。 | |
| 第14回 | 地域の関係機関、専門機関との連携や協働(事例の検討と発表を含む) | (学修内容) 地域の関係機関、専門機関の役割や機能を学び、必要に応じて連携・協働が取れるように実践的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。 | |
| 第15回 | 全体の振り返り | (学修内容) これまでの授業内容を順に振り返り、質疑応答を通じて不明な部分を解消する。 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまでのプリントやノートを確認し質問事項を考えてくる。全体を総括してレポートをまとめる。 | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|--------------------|----------------------------|------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 子どもの食と栄養a | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Children's Food and Nutrition | | | 開 講 時 期 | 春・秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 豊原 容子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2ya～yd | | | | |
| 授業の概要 | 成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体をつくるだけでなく生活リズムの形成や健全な心を育むためにも、さらに将来の健康の基礎を築くうえでも大切である。この演習では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、実習などにより特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、今の子どもたちが抱える食の問題点などについて学び、子どもの食生活がどうあるべきかをディスカッションなどを通して理解していく。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解できる。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を習得している。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (5 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (汎用的能力) | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | | |
| テ キ ス ト | 子どもの食と栄養演習第4版 小川雄二編著 建帛社 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 資料を配布する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 翌週に返却するとともに、解説を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 実際の保育における食の問題点を見つけ、改善していくことを考える姿勢をもって受講してもらいたい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ウ ー | オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 子どもの食と栄養a | |
|---------|-----------------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 食の重要性 | (学修内容) 現代の食の現状と課題、食の特徴について、グループごとに話し合い、発表し討論を通して理解していく (事前事後学修課題の内容) (30分) 自らの食生活を振り返っておく |
| 第2回 | 子どもの発育・発達と食生活 | (学修内容) 食べる機能に関わる子どもの発育・発達について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストのp53-60を読んでおくこと。 |
| 第3回 | 三大栄養素について | (学修内容) 糖質・たんぱく質・脂質の種類と機能について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習および課題を行う。テキストのp11-16を読んでおくこと。 |
| 第4回 | その他の栄養素、水について | (学修内容) ビタミン、ミネラルの種類と機能、食物繊維、水の働きについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習および課題を行う。テキストのp16-22を読んでおくこと。 |
| 第5回 | からだのしくみと栄養 | (学修内容) 消化吸収のしくみ、食欲のしくみについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習および課題を行う。テキストのp53-54, p60-70を読んでおくこと。 |
| 第6回 | 一日の食事の考え方, バランスのとれた献立 | (学修内容) 食事摂取基準について学び、食品の分類、献立について、グループごとに話し合い、発表し、バランスよく食べることについて考えていく (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習および課題を行う。テキストのp22-40を読んでおくこと。 |
| 第7回 | 乳児期の栄養 授乳の実際 (実習を含む) | (学修内容) 授乳の意義と乳汁の特徴について実習を通して学んでいく (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習および課題を行う。テキストのp71-92を読んでおくこと。 |
| 第8回 | 乳児期の栄養 離乳の実際 (実習を含む) | (学修内容) 離乳の意義と離乳食の進め方について、実習を通して学んでいく (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習および課題を行う。テキストのp92-114を読んでおくこと。 |
| 第9回 | 幼児期の栄養 (実習を含む) | (学修内容) 幼児期の食生活の特徴と食事の援助について、実習を通して学んでいく (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習および課題を行う。テキストのp114-138を読んでおくこと。 |
| 第10回 | 学童期の栄養 | (学修内容) 学童期の食生活の特徴と注意点 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習および課題を行う。テキストのp139-143を読んでおくこと。 |
| 第11回 | 食育の基本と内容 | (学修内容) 食育について、保育所における食育の実際について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習および課題を行う。テキストのp151-155を読んでおくこと。 |
| 第12回 | 食育の実際 (実習を含む) | (学修内容) 食育計画をグループで考え発表し食育の在り方について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストのp156-164を読み、食育計画について考えておく。 |
| 第13回 | 児童福祉施設における食と栄養 | (学修内容) 児童福祉施設における食生活の現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習を行う。テキストのp172-182を読んでおくこと。 |
| 第14回 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギー | (学修内容) 食物アレルギーの発症機序と対応 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習および課題を行う。テキストのp188-198を読んでおくこと。 |
| 第15回 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 疾病、障害のある子 | (学修内容) 体調不良、疾病の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習および課題を行う。テキストの183-187を読んでおくこと。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 子どもの食と栄養 b | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Children's Food and Nutrition | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 猿渡 綾子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2ye ~ yh | | | | |
| 授業の概要 | 成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体をつくるだけでなく生活リズムの形成や健全な心を育むためにも、さらに将来の健康の基礎を築くうえでも大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、今の子どもたちが抱える食の問題点などについて学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解する。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を取得する。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる力を取得する。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 最新子どもの食と栄養 第8版第5刷 飯塚美和子編 学建書院 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 資料を配布する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出された課題はコメントをつけて返却する。 授業内テストについては採点后、返却・解説を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 実際の保育における食の問題点を見つけ、改善していくことを考える姿勢をもって受講してもらいたい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業の前後とオフィスアワーで対応する。 オフィスアワーは第1回目の講義で案内し、研究室前にも掲示する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 学修項目 | 学修内容・課題 |
|---------|-------------------------------|---|---------|
| 授 業 計 画 | | | |
| 第1回 | 子どもの健康と食生活の意義 | (学修内容) 子どもの食生活の特徴と現状 世界の子どもの現状 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認する 教科書P2~10を事前に読んでおく | |
| 第2回 | 子どもの発育・発達と食生活 | (学修内容) 子どもの発育・発達の特徴 栄養状態の評価 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P66~76を事前に読んでおく 課題プリントを解いてくる | |
| 第3回 | 栄養に関する基本的知識 (炭水化物・たんぱく質・脂質) | (学修内容) 糖質・たんぱく質・脂質の栄養学的特徴と消化・吸収について 食物繊維の役割について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P16~33、46~50を事前に読んでおく 課題プリントを解いてくる | |
| 第4回 | 栄養に関する基本的知識 (ビタミン) | (学修内容) 脂溶性ビタミン、水溶性ビタミンの種類と機能について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P38~43を事前に読んでおく 課題プリントを解いてくる | |
| 第5回 | 栄養に関する基本的知識 (ミネラル、水) | (学修内容) ミネラルの種類と機能について 水の種類と機能について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P34~38、43~45を事前に読んでおく 課題プリントを解いてくる | |
| 第6回 | 子どもの食生活 (演習を含む) | (学修内容) 食生活指針、食事摂取基準、食品の分類、食事バランスガイドについて 献立作成、小テスト (筆記) (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P51~64を事前に読んでおく 食事バランスガイド (3日分) を記入し、次回提出 | |
| 第7回 | 胎児期 (妊娠期) の栄養 | (学修内容) 胎児期の栄養の意義と食生活 妊産婦のための食生活指針 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P77~87を事前に読んでおく 課題プリントを解いてくる | |
| 第8回 | 乳児期の栄養: 乳汁 | (学修内容) 乳汁栄養 (母乳、人工乳、混合栄養) の特徴と意義 調製粉乳の種類と調乳 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P88~109を事前に読んでおく 課題プリントを解いてくる | |
| 第9回 | 乳児期の栄養: 離乳 (実習を含む) | (学修内容) 離乳の意義と離乳食の進め方 授乳・離乳の支援ガイド (事前事後学修課題の内容) (30分) スプーン、タオル (小) を持参すること 教科書P110~119を事前に読んでおく | |
| 第10回 | 幼児期の栄養 (実習を含む) | (学修内容) 幼児期の食生活の特徴と食事の援助 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P122~135を事前に読んでおく 課題プリントを解いてくる | |
| 第11回 | 食育の基本と内容 | (学修内容) 食育基本法、食育推進計画 食育の内容、計画、および評価 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P168~180を事前に読んでおく 課題プリントを解いてくる | |
| 第12回 | 食育の実際 (実習を含む) | (学修内容) 食育計画を考える、食育の体験 食に関するお便りの作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の講義を踏まえ、食に関するお便りを作成するプランを考えておく 必要な資料、筆記具等があれば持参する | |
| 第13回 | 児童福祉施設における食と栄養 | (学修内容) 児童福祉施設における食生活の現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の講義の課題を完成させ提出する 教科書P187~204を事前に読んでおく | |
| 第14回 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 1 (食物アレルギー) | (学修内容) 食物アレルギーの発症機序と対応 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P215~221を事前に読んでおく 課題プリントを解いてくる | |
| 第15回 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 2 まとめ | (学修内容) 体調不良、疾病の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P206~215、221~230を事前に読んでおく 課題プリントを解いてくる | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------|------------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 子どもの食と栄養 c | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Children's Food and Nutrition | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 山本 明美 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2y1~y1 | | | | |
| 授業の概要 | 成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体の成長や生活リズムの形成、健全な心を育み、さらに将来の健康の基礎を築くうえで大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、現代の子どもたちが抱える食に関する問題点について学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する等の目標を達成するために、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを行う。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解する。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を習得する。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる力を習得する。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (積極的な調査の実施) | プレゼンテーション能力 () | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 坂本裕子編 『子どもの食と栄養』 青踏社 2019年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 資料を配布する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 実際の保育における食の問題点を見つけ、現状分析ができるように、新聞等からの情報を調査、収集しておく。授業内で子どもと食に関しての問題点や解決策などについて発表する時間を設ける。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室前に日時を貼付するので、確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 子どもの食と栄養c | |
|------|--|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 現代の子どもたちの健康と食生活 | (学修内容) 子どもの食生活の現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p. 1~10を読んでおく 朝食の重要性など子どもたちを取り巻く諸問題を調べておく |
| 第2回 | 食に関する基礎的な知識 | (学修内容) 栄養素の種類と機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p. 11~14を読んでおく 糖質や脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質の5大栄養素を調べておく |
| 第3回 | 体内での栄養素の代謝と役割 | (学修内容) 栄養素の体内での消化と吸収の仕組み、代謝について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p. 15~18を読んでおく 栄養素の体内での働きを調べておく |
| 第4回 | 食品の基礎的な知識と献立作成について | (学修内容) 食品成分表や日本人の食事摂取基準等を用いてバランスの良い健康的な食事について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 P. 19~25を読んでおく 日常使用する食品の栄養成分を調べ、自分の食生活を点検しておく |
| 第5回 | 小児期の発育・発達 | (学修内容) 子どもの発育・発達の特徴と評価について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p. 26~33を読んでおく カウプ指数やローレル指数などの発育指数について調べておく |
| 第6回 | 子どもの食生活(演習を含む) | (学修内容) 食べる機能の発達、味覚の発達について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p. 33~40を読んでおく 子どもの味覚と偏食を防ぐ方法を調べておく |
| 第7回 | 胎児期(妊娠期)の栄養 | (学修内容) 胎児期の栄養の意義と食生活 妊産婦のための食生活指針 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p. 41~50を読んでおく 妊娠期に必要な栄養について調べておく |
| 第8回 | 乳児期の栄養: 乳汁(実習を含む) | (学修内容) 乳汁栄養(母乳、人工乳、混合栄養)の特徴と意義 調製粉乳の種類と調乳 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p. 50~60を読んでおく 無菌操作法による調乳の手順を理解しておく |
| 第9回 | 乳児期の栄養: 離乳(実習を含む) | (学修内容) 離乳の意義と離乳食の進め方 授乳・離乳の支援ガイド (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p. 61~75を読んでおく スプーン、タオル(小)を持参すること |
| 第10回 | 幼児期の栄養(実習を含む) | (学修内容) 幼児期の食生活の特徴と食事の援助について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p. 76~88を読んでおく。 子どもの間食の重要性について調べておく |
| 第11回 | 学童期・思春期の栄養と食生活 | (学修内容) 学童期・思春期の特徴、学校給食について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p. 89~99を読んでおく 学童期・思春期の食生活上の問題点を調べておく |
| 第12回 | 特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養 子どもの食物アレルギー | (学修内容) 保育所での食物アレルギー対応について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p. 100~110を読んでおく 子どもの食物アレルギーの原因となる食品を調べておく |
| 第13回 | 特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養 障害のある子どもや体調不良の子ども | (学修内容) 障害のある子どもやアトピー性皮膚炎、嘔吐や下痢などの子どもへの対応について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p. 111~120を読んでおく 脱水症の経口補給法について調べておく |
| 第14回 | 家庭や児童福祉施設の食事と栄養 | (学修内容) 家庭での食事の重要性、児童福祉施設での栄養と食生活 保育所や幼稚園での給食 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p. 121~136を読んでおく。 保育所における和食給食の実践について調べておく |
| 第15回 | 子どもの食育 まとめ | (学修内容) 食育の必要性と進め方 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p. 137~157を読んでおく。食育計画を考えて発表する |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 精神保健 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Mental Health | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 岸 優子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 乳幼児期から高齢期まで各期における心の健康について学ぶ。各期別における基本的特徴を理解する。その上で心理的な問題がどのように生じるかについて、発生のメカニズムについて理解する。さらに精神保健に関連する問題への対応や予防についても学び、精神保健を維持することの重要性について理解する。多様なワークを体験しながら、精神的な健康を維持するための方策について学び、今後の生活にいかせるようにする。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 精神保健の基本的知識を習得することができる。 2) 精神的に健康な生活を維持、予防することを理解し、メンタルヘルスの概要を3分間でプレゼンテーションできる。 3) 心身の健康的な行動を増進する方法について体得したことを実践できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 使用しない。(プリントを配布する。) | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業にて指示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 毎回、振り返り用紙(学びのポートフォリオ)を書くことで、学びの要点を確認し、担当者とコミュニケーションをはかる。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | できるだけ具体的な事例を提示するので、自分の問題に引き寄せて学んでほしい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 初回の授業時に連絡する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 精神保健 | |
|------|--------------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 授業の進め方・概要・評価の方法について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 予習として、シラバスを読んで、内容や評価方法などを確認する。 |
| 第2回 | 精神保健とは何か。精神保健を学ぶ目的・意義 | (学修内容) 自らの学ぶことの意味を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、DVDでの気づきを、レポートにまとめて次回提出する。 |
| 第3回 | 精神保健とメンタルヘルスについて | (学修内容) メンタルヘルスについて多様なアプローチの方法・特徴を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、配布プリントを読み、要点をレポートにまとめて次回提出する。 |
| 第4回 | 人生初期のメンタルヘルス | (学修内容) 人生初期における母子関係性の基礎的理論を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、DVDでの要点をレポートにまとめて次回提出する。 |
| 第5回 | 自己覚知についてのワーク | (学修内容) 自己を知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、ワークでの気づきを箇条書きにまとめて、次回、3分間のプレゼンテーションができるように練習しておく。 |
| 第6回 | 各期のメンタルヘルスの基本(1) プレゼンテーション | (学修内容) 感情や社会性の発達を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、配布プリントを読み、要点をレポートにまとめて次回提出する。 |
| 第7回 | 各期のメンタルヘルスの基本(2) ワーク | (学修内容) 各期の特徴と危機を理解し、各期特有の特徴を理解してメンタルヘルスを維持する方策を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、ライフサイクルの中で関心のある時期について、質問を箇条書きで書いてくる。 |
| 第8回 | 病気からみるメンタルヘルス 精神科の病気 | (学修内容) うつ病や自殺についての理解を深め、その予防、対応等について考えることができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、メンタルヘルスに関連する身近な事例を簡潔に書いてくる。 |
| 第9回 | 病気からみるメンタルヘルス 精神科の病気 | (学修内容) 年齢による好発期を理解し、各期の危機を考える。 発達障害、統合失調症、認知症 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、健康維持のため予防的に実践していることを箇条書きにしてくる。 |
| 第10回 | 脳科学からみるメンタルヘルス 精神科の病気 (まとめ) | (学修内容) 脳・心・体との関係を知ることで、人間を理解する背景となる要因を理解し、脳の働きと心や体への影響についての理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、配布プリントを読み質問を箇条書きにして次回提出する。 |
| 第11回 | 自己を振り返るワーク | (学修内容) 自己のメンタルヘルスの危機を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、メンタルヘルスを維持する上で、各自、重要だと思うことを箇条書きにしてくる。 |
| 第12回 | メンタルヘルスー中間まとめ(小テスト)ー | (学修内容) メンタルヘルスについての重要な概念を整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、これまでのプリントを読み返し、キーワードをまとめておく。 |
| 第13回 | ストレスとその対応 ディスカッション・ディベート | (学修内容) ストレスへの対応力や人間関係力を自ら育成する上での課題を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、新聞などで関連する情報を切り抜きしてくる。 |
| 第14回 | メンタルヘルスと生活上の課題 プレゼンテーション | (学修内容) 生活する上でのメンタルヘルスの重要性を理解し、支援の方策を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、新聞などで関連する情報を切り抜きしてくる。 |
| 第15回 | これまでの振り返りをして、今後の生活に繋がる課題を見出す | (学修内容) キーワードを中心にその要点を整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、後期試験にそなえ、その要点をまとめておく。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|--------------------------|----------------------------|------------|------------------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 音楽 a・b・c・d・e・f・g・ h・i | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Music | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 小川 隆昭・後藤 由美子・水谷 佳代子・千田 浩美 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2ya～yd・2ye～yh・2yi～yl | | | | |
| 授業の概要 | 幼稚園・保育所の実習・就職試験、更には将来保育現場で役立つ実践的な能力を身に付けると同時に「子どもの歌」を通して豊かな感性や表現力、及び音楽の楽しさ・喜びを身に付け、それらを伝える方法を学ぶ。また、人前での弾き歌いが、緊張せずに行えるように弾く機会を増やし、最後まで止まらずに弾くことを習得する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1)「こどものうた」のレパートリーを拡げることができる。 2)初見・伴奏付けの力をつけることができる。 3)人前で弾く・歌うことに慣れることで、実習や幼・保就職試験、更には就職後の保育現場で即、役立つ技術を身に付けることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (音楽的演奏能力) | プレゼンテーション能力 () | | 課題発見・解決能力 (初見力) | | |
| テ キ ス ト | 「子どものうた」華頂短大音楽研究室 編 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 練習してきた曲は授業の中でレッスンをします。(幼児の曲に限る) | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 積極的に練習し、実習や幼・保の就職試験を目指して、弾き歌いの出来る曲を増やすことが大事。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 小川以外は担当授業後に実施。小川は後日研究室前に掲示。小川以外の教員のクラスも小川のオフィスアワーも可。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、音楽・ピアノ講師等の経歴を持つ教員が担当 | | | | | | | | |

| 授業名 | 音楽 a・b・c・d・e・f・g・ h・i | |
|------|---------------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス、初見・歌唱 | (学修内容) 春学期授業計画・注意事項・初見 歌唱 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「子どものうた」を数曲練習する |
| 第2回 | 教育実習(幼稚園実習)準備、初見・歌唱、コードネーム・伴奏付け | (学修内容) 多くの幼稚園で歌われている「こどものうた」などの伴奏 初見 歌唱、コードネーム説明 伴奏付け基本練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 「子どものうた」を練習し、指示した曲、直しておく箇所を弾けるようにする |
| 第3回 | 教育実習(幼稚園実習)準備、初見・歌唱、コードネーム・伴奏付け | (学修内容)(幼稚園実習準備)継続、初見 歌唱、伴奏付け基本練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 「子どものうた」を練習し、指示した曲、直しておく箇所を弾けるようにする |
| 第4回 | 教育実習(幼稚園実習)準備、初見・歌唱、コードネーム・伴奏付け | (学修内容)(幼稚園実習準備)継続、初見・歌唱、伴奏付け基本練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 「子どものうた」を練習し、指示した曲、直しておく箇所を弾けるようにする |
| 第5回 | 春学期前半のまとめ、初見・歌唱 | (学修内容) 初見・歌唱、個人チェック曲練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 「子どものうた」の練習をしておく |
| 第6回 | 第1回個人チェック 歌唱指導 | (学修内容) グループ別に課題曲を一人ずつチェック、 歌唱指導の模範 (事前事後学修課題の内容)(120分) 「子どものうた」の練習をしておく |
| 第7回 | 歌唱指導 | (学修内容) 歌唱指導を一人ずつ行う (事前事後学修課題の内容)(120分) 「子どものうた」の練習をしておく ペープサート等準備、指導案作成しておく |
| 第8回 | 歌唱指導 | (学修内容) 歌唱指導を一人ずつ行う (事前事後学修課題の内容)(120分) 「子どものうた」の練習をしておく ペープサート等準備、指導案作成しておく |
| 第9回 | 初見・伴奏付け補充練習 | (学修内容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「子どものうた」の練習をしておく |
| 第10回 | 初見・伴奏付け補充練習 | (学修内容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「子どものうた」の練習をしておく |
| 第11回 | 初見・伴奏付け補充練習 | (学修内容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「子どものうた」の練習をしておく |
| 第12回 | 初見・伴奏付け補充練習 | (学修内容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「子どものうた」の練習をしておく |
| 第13回 | 春学期後半のまとめ | (学修内容) 初見 歌唱、伴奏付け (事前事後学修課題の内容)(60分) 「子どものうた」を練習し、指示した曲、直しておく箇所を弾けるようにする |
| 第14回 | 初見・伴奏付けテスト | (学修内容) 幼・保就職で出題される曲を中心に (事前事後学修課題の内容)(60分) 伴奏付けの練習をしておく |
| 第15回 | 第2回個人チェック | (学修内容) グループ別に課題曲を一人ずつチェック (事前事後学修課題の内容)(120分) 個人チェックの課題曲の練習をしておく |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|---|-----------------------------------|------------|----------------------------|------------|-------------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 音楽 a・b・c | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Music | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 小川 隆昭・後藤 由美子・水谷 佳代子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 幼稚園・保育所の実習及び就職試験に即、対応する能力と、幼稚園・保育園に就職した場合は、現場で役立つ実践的な能力を養う。また、同時に「子どもの歌」や合奏を通して豊かな感性や表現力及び音楽の楽しさ・喜びを身に付ける。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 幼・保就職試験に対応できるピアノの技術力を身に付け、演奏できる。 2) 現場で役立つピアノの実践的な能力を身に付けることができる。 3) ピアノ弾き歌いで表現力豊かに演奏できる。 4) 初見で簡単な楽譜に編曲でき、演奏できる。 5) 「子どものうた」のレパートリーを増やすことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 (音楽的演奏能力 | | | プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 (初見力 | | |
| テ キ ス ト | 「子どものうた」華頂短大音楽研究室 編 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 練習してきた曲は授業の中でレッスンします。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 幼・保の就職試験に対応するため、個人指導を増やし、時間外にもレッスンをします。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 小川以外は担当授業後に実施。小川は後日研究室前に掲示。小川以外の教員のクラスも小川のオフィスアワーも可。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、音楽・ピアノ講師等の経歴を持つ教員が担当 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 音楽 a・b・c |
|---------|-------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 授業内容の説明、歌唱、初見 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「子どものうた」を数曲練習しておく |
| 第2回 | 初見・伴奏付けテスト | (学修内容) 就職試験のリハーサル (事前事後学修課題の内容) (60分) 初見、伴奏の練習をしておく |
| 第3回 | 初見・伴奏付け補充練習 | (学修内容) 歌唱・初見伴奏付け (事前事後学修課題の内容) (60分) 初見、伴奏の練習をしておく |
| 第4回 | 初見・伴奏付け補充練習 | (学修内容) 歌唱・初見伴奏付け (事前事後学修課題の内容) (60分) 初見、伴奏の練習をしておく |
| 第5回 | 第1回個人チェック | (学修内容) 前半課題曲の小テスト (事前事後学修課題の内容) (120分) 個人チェック曲練習しておく |
| 第6回 | リズム変奏 | (学修内容) マーチ・スキップ・かけ足・ワルツに変奏 (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノの練習しておく |
| 第7回 | 初見・伴奏付け補充練習 | (学修内容) 歌唱・初見伴奏付け (事前事後学修課題の内容) (60分) 初見、伴奏の練習しておく |
| 第8回 | 初見・伴奏付け補充練習 | (学修内容) 歌唱・初見伴奏付け (事前事後学修課題の内容) (60分) 初見、伴奏の練習しておく |
| 第9回 | 初見・伴奏付け補充練習 | (学修内容) 歌唱・初見伴奏付け (事前事後学修課題の内容) (60分) 初見、伴奏の練習しておく |
| 第10回 | 合奏 | (学修内容) クリスマス曲合奏 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のパートの楽譜を読んでおく |
| 第11回 | 合奏 | (学修内容) クリスマス曲合奏 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のパートの楽譜を読んでおく |
| 第12回 | 合奏 | (学修内容) クリスマス曲合奏 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のパートの楽譜を読み練習しておく |
| 第13回 | 合奏 | (学修内容) クリスマス曲合奏 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のパートの楽譜を読み練習しておく |
| 第14回 | 合奏 | (学修内容) 合奏指導法 (事前事後学修課題の内容) (15分) 指揮の練習をしておく |
| 第15回 | 第2回個人チェック | (学修内容) 後半課題曲の小テスト (事前事後学修課題の内容) (120分) 個人チェック曲の練習をしておく |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|-----------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授 業 名 | ピアノ実技(個人指導) a・b・c・d | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Piano (Private Lesson) | | | 開 講 時 期 | 春学期 | 必 修 選 択 | | 選 択 | |
| 担 当 者 | 坂口 みゆき・高科 絵美代・服部 さやか | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2ya~yd・2ye~yh・2yi~yl | | | | |
| 授業の概要 | ブルグミュラーからソナチネ初級レベルの学生を対象に、1回生で修得した読譜力・ピアノ演奏能力を更に向上させる。幼稚園・保育所の就職試験及び卒業後の現場で役立つピアノの演奏力を身につける。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1』の中の指定する曲をを1曲でも多く弾くことができるようになる。 2) 楽譜を正確に読むことができる。 3) 楽譜通りに強弱をつけて弾くことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (80%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (20%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (演奏技術) | プレゼンテーション能力 (読譜力) | | 課題発見・解決能力 | | |
| テキスト | 『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1』等、受講生個々の進度に合わせて随時指定する。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 使用しない | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 毎回、練習してきた曲ついて、個別指導を行う。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 1) 履修条件： 学外でレッスンを受けていない 幼稚園・保育所に就職希望している 音楽 を修了している 2) 音楽療法士(2種)資格の取得を希望する学生は資格必修のため、上記の の条件に関わらず必ず履修する。 3) 本科目では「子どものうた」の弾き歌いのレッスンは基本的にしない。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 坂口(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示) 高科・服部(担当授業終了後に実施) * 高科・服部のレッスンを受ける学生は、坂口のオフィスアワーも利用してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実務経験など：英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法士、オルガニスト、ピアノ講師等の経歴を持つ教員が担当 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | ピアノ実技（個人指導） a・b・c・d | |
|---------|---------------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | （学修内容）レッスンの進め方と注意事項等の説明・レッスン曲決定 （事前事後学修課題の内容）（30分） 基本的な音楽理論について復習をしておく（口頭で理解度を確認する） |
| 第2回 | ピアノ個人レッスン（ブルグミュラーまたはソナチネ） | （学修内容）教員より指定された曲の個人レッスン （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し（1日20分～30分以上）、弾けるようにしておく |
| 第3回 | ピアノ個人レッスン（ブルグミュラーまたはソナチネ） | （学修内容）教員より指定された曲の個人レッスン （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し（1日20分～30分以上）、弾けるようにしておく |
| 第4回 | ピアノ個人レッスン（ブルグミュラーまたはソナチネ） | （学修内容）教員より指定された曲の個人レッスン （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し（1日20分～30分以上）、弾けるようにしておく |
| 第5回 | ピアノ個人レッスン（ブルグミュラーまたはソナチネ） | （学修内容）教員より指定された曲の個人レッスン （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し（1日20分～30分以上）、弾けるようにしておく |
| 第6回 | ピアノ個人レッスン（ブルグミュラーまたはソナチネ） | （学修内容）教員より指定された曲の個人レッスン （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し（1日20分～30分以上）、弾けるようにしておく |
| 第7回 | ピアノ個人レッスン（ブルグミュラーまたはソナチネ） | （学修内容）教員より指定された曲の個人レッスン （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し（1日20分～30分以上）、弾けるようにしておく |
| 第8回 | ピアノ個人レッスン（ブルグミュラーまたはソナチネ） | （学修内容）教員より指定された曲の個人レッスン （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し（1日20分～30分以上）、弾けるようにしておく |
| 第9回 | ピアノ個人レッスン（ブルグミュラーまたはソナチネ） | （学修内容）教員より指定された曲の個人レッスン （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し（1日20分～30分以上）、弾けるようにしておく |
| 第10回 | ピアノ個人レッスン（ブルグミュラーまたはソナチネ） | （学修内容）教員より指定された曲の個人レッスン （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し（1日20分～30分以上）、弾けるようにしておく |
| 第11回 | ピアノ個人レッスン（ブルグミュラーまたはソナチネ） | （学修内容）教員より指定された曲の個人レッスン （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し（1日20分～30分以上）、弾けるようにしておく |
| 第12回 | ピアノ個人レッスン（ブルグミュラーまたはソナチネ） | （学修内容）教員より指定された曲の個人レッスン （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し（1日20分～30分以上）、弾けるようにしておく |
| 第13回 | ピアノ個人レッスン（ブルグミュラーまたはソナチネ） | （学修内容）教員より指定された曲の個人レッスン （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し（1日20分～30分以上）、弾けるようにしておく |
| 第14回 | ピアノ個人レッスン（ブルグミュラーまたはソナチネ） | （学修内容）教員より指定された曲の個人レッスン （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し（1日20分～30分以上）、弾けるようにしておく |
| 第15回 | ピアノ個人レッスン（ブルグミュラーまたはソナチネ） | （学修内容）教員より指定された試験曲の個人レッスン （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自教員より指定された試験曲を練習し（1日20分～30分以上）、完成させておく |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|--------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授 業 名 | ピアノ実技（個人指導） a・b | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Piano (Private Lesson) | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | 必 修 選 択 | | 選 択 | |
| 担 当 者 | 坂口 みゆき・高科 絵美代 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 幼稚園・保育所の就職試験に対応できるピアノ技術を身につける。ピアノ曲だけでなく、初見や弾き歌いなど、随時受験する園に応じた曲も練習する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1』・『ソナタアルバム1』など、個々の進度に応じた曲を1曲でも多く弾くことができるようになる。 2) 音符だけでなく記号等も含め、楽譜を正確に読むことができる。 3) 感情を込めた演奏をすることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業） | | グループワーク ICT活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (80 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (20 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (演奏技術) | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 (詳細な読譜力) | | | | |
| テ キ ス ト | 『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1』・『ソナタアルバム1』等、受講生個々の進度に合わせて、随時指定する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 使用しない | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 毎回、練習してきた曲について個別指導を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 音楽療法士（2種）資格の取得を目指す学生は必ず履修すること | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 坂口（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示）高科（担当授業終了後に実施 坂口のオフィスパワーも利用してよい） | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実務経験など：英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法士、オルガニスト等の経歴を持つ教員が担当 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 国語 a・b | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Japanese | | | 開 講 時 期 | 春・秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 水谷 隆 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2ya~yf・yg~yl | | | | |
| 授業の概要 | <p>「国語」とは、日常生活を円滑に送るための道具であると同時に、私たちが共有している文化の基層をかたちづくるものでもあります。この授業では、「国語」の様々な機能やありかたについて保育の観点から再確認することと、重要な国語教材でもある児童文学と社会・文化との関わりについて理解することを目指して、解説とディスカッションをします。またあわせて、文学作品の講読をすることで、読解力と説明力を高めていきます。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 「国語」について基本的な説明ができる。 2) 児童文学の歴史と現状について概略を説明できる。 3) 児童文学作品についての自分なりの読解を提示できる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テ キ ス ト | プリントを配布します。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 適宜紹介します。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 理解度確認テストの実施後に解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 国語辞典(スマホの辞書アプリ等でもよるしい)を携帯してください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室に日時を貼付するので、確認してください。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | <p>実践的教育 教員の実務経験など：帝塚山学院高等学校非常勤講師 公益財団法人日本漢字能力検定協会アドバイザー</p> | | | | | | | | |

| 授業名 | 国語 a・b | |
|------|------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション 「国語」とは何か | (学修内容) 授業の目的と内容等についての確認。 教育における「国語」の位置づけについての解説。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習として、幼稚園教育要領に目を通しておく。 |
| 第2回 | 言葉はなぜ伝わるのか | (学修内容) 記号論の初歩および文脈と文化的背景についての解説。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習として、同じフレーズが異なる意味を有するケースを具体的に想起しておく。 |
| 第3回 | 音韻と音声 | (学修内容) 音韻と音声学の基本、幼児音、音声の持つ音楽的側面についての解説。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、耳に心地よい言葉(単語でもフレーズでもよるしい)をできるだけ多く想起しておく。 |
| 第4回 | 国語の表記 | (学修内容) 五十音図と記号、漢字の用い方についての解説。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、五十音図を記し、同じ行で子音の異なる箇所をチェックしておく。 |
| 第5回 | 待遇表現(敬語) | (学修内容) 日本語の待遇表現の本質、保育現場における待遇表現の使いこなしについての解説。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、各自の敬語使用に関する印象的なエピソードを具体的に想起しておく。 |
| 第6回 | 通時の変化および位相語 | (学修内容) ら抜き言葉に代表される通時の変化および若者言葉等の位相語についての解説。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、各自の使用言語のうち、若者言葉と思われるものをリストアップしておく。 |
| 第7回 | 児童文学の誕生 | (学修内容) 1～6回目の内容の確認テスト。 児童文学誕生の経緯についての解説。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、「教訓」が読み取れると思う昔話をリストアップしておく。 |
| 第8回 | 日本の経済的発展と「赤い鳥」の主張 | (学修内容) 鈴木三重吉と「童心主義」についての解説。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習として、『蜘蛛の糸』を読んでおく。 |
| 第9回 | 軍国主義の時代と「復興現象」 | (学修内容) プロレタリア児童文学とリアリズム、「赤い鳥」の復刊についての解説。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習として、『ごんぎつね』を読んでおく。 |
| 第10回 | 戦後の思想と文芸としての児童文学 | (学修内容) 戦争への反省と児童文学の変化、児童文学を取り巻く現代の状況についての解説。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、『かっぱのめだま』を読んでおく。 |
| 第11回 | 児童文学の読解 『おおきなかぶ』 | (学修内容) 7～10回目の内容の確認テスト。 作品と作家の意図についての解説。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、2種類の『おおきなかぶ』を読んで、両者の違いを考える。 |
| 第12回 | 児童文学の読解 『泣いた赤鬼』 | (学修内容) 物語世界の追体験、主人公と読者の成長についての解説。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、『泣いた赤鬼』を読んで、青鬼の手紙の真意を考える。 |
| 第13回 | 児童文学の読解 『セロ弾きのゴーシュ』 | (学修内容) 主人公が成長しない物語、およびファンタジーについての解説。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、『セロ弾きのゴーシュ』を読んで、ゴーシュの心情をたどっておく。 |
| 第14回 | 児童文学の読解 『百万回生きたねこ』 | (学修内容) 子どもと大人の読書体験共有についての考察。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、『百万回生きたねこ』を読んで、ねこの死が何を意味するのか考える。 |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 多様化する社会における国語の役割についての考察。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 予習として、授業全体をふり返り、疑問点がないかどうか確認しておく。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | リズム | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Rhythm | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 佐東 恒子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 心も体も解放させ様々なリズムに合わせて体を動かし、リズムによって動く楽しさを体験する。子どもを生き生きさせる重要な活動である事を知る。創造性豊かな保育者として、子どもの発達に応じたリズムダンスの指導と援助が出来るように学習する。いろんなリズムに体が反応することができるようにしていく。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 子どもの発育・発達を考えて、楽しいリズムダンスを子ども達に提供できる。 2) 自分でリズムダンスを創作して、踊る事ができる。 3) リズムよく動ける体づくりと、イメージしたものを即興で表現できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 使用しない。子どもとリズムについてプリントを配布。リズムの特性についてプリント配布。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 「リズムと動き」エルザ・フィンドレイ著 (全音楽譜出版社) | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたレポートについては、コメントを付けて返却する。 実技については、その都度コメントを致します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 保育者として現場に立つ時のことを考えて、取り組んでもらいたい。 いろんなリズムを体で感じることを、常日頃からこころがけてもらいたい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：復活幼稚園・向陽幼稚園・ひかり幼稚園・篠村幼稚園(リズム遊びの指導講師) 奈良教育大学附属小学校(非常勤講師) | | | | | | | | |

| 授業名 | リズム | |
|------|----------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 動ける体づくり(1)リズムに反応して動く | (学修内容)リズムに合わせて心と体を解放させて動く。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ノートを作成(授業内容をまとめる) シラバスの内容を確認しておく。 |
| 第2回 | 動ける体づくり(2)速い曲に反応して動く | (学修内容)リズムエクササイズ(リズムの変化を体で感じる) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回行った動きのリズムを思い出してまとめる。 |
| 第3回 | 動きの変化 | (学修内容)呼吸と動作について知る(呼吸の仕方でも動きが変化することを体験する) (事前事後学修課題の内容)(30分) 動きの復習をして身体反応をよくしておく。 |
| 第4回 | リズム遊び(1)音符の体得 | (学修内容)手や足で音符を表現する。発令された音符を素早く反応して身体で表現する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 呼吸と動きについて体験した動きの復習をしておく。 |
| 第5回 | リズム遊び(2)異なる音符の表現 | (学修内容)いろんなリズムを体で感じ表現する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の授業で行った復習をしておく。 |
| 第6回 | リズムパターンの体得 | (学修内容)いろんなリズムパターンを行う。2人組でリズムパターンを行う(カノンで行う) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回のリズムパターンを体得しておく。 |
| 第7回 | 音階とステップ | (学修内容)音階を体で表現しながら基本ステップを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 基本ステップの復習をしておく。 |
| 第8回 | 子どものリズムエクササイズ | (学修内容)子どもが楽しむリズムエクササイズを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 動きを考えてノートにまとめておく。 |
| 第9回 | 子どものリズムエクササイズを作る | (学修内容)各自が考えた動きをつなげて完成させる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自の動きを仕上げてノートにまとめておく。 |
| 第10回 | リズムダンス | (学修内容)幼児のダンスを楽しく表現豊かに動いてみよう。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 知っているダンスがあれば書き出しておく。 |
| 第11回 | 創作 | (学修内容)グループでリズムダンスを創作する。グループでディスカッション。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 曲をみつけて準備をしておく。 |
| 第12回 | 創作 | (学修内容)曲のリズムと動きがうまく合っているかディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループの人と話し合いをする。動きをノートにまとめておく。 |
| 第13回 | 創作 | (学修内容)リズムダンスの完成。気になるところの修正。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループでまとめ、修正した動きをノートにまとめておく。 |
| 第14回 | 発表 | (学修内容)グループごと発表を行う各自が評価する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表の講評をまとめておく。 |
| 第15回 | まとめ | (学修内容)全体の授業の振り返り。 (事前事後学修課題の内容)(60分) リズムについてまとめておく。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|--------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 子どもの造形 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Children's Art | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 山部 泰司 | | | 対象学生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 「図画工作・」 「保育内容・表現」などで学んだ内容をもとに、子どもの造形活動や造形表現についてさらに深く理解し、実践的に指導支援できる力を身につける。学習内容については、履修者の興味関心によって、その希望の課題内容に変更することもある。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 技法、材料による多様な造形的表現について研究する。 2) 子どもの意欲や興味関心に寄り添うテーマと課題の設定について考える。 3) 子どもの個性や発達に即した指導の計画を立てる力を養う。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (60%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (表現力) | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | | |
| テキスト | プリントを配布する | | | | | | | | |
| 参考書 | 図書館にあるものを活用する 花篤實・岡田敬吾 編著 『新造形表現 実技編』(三晃書房) 1回生春学期に購入したもの | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 制作した作品、指導について学生との対話のなかから「子どもの造形」についての可能性、実践的な応用について理解を促す | | | | | | | | |
| 留意事項 | 内容等については受講生の人数、学生の希望によってより適切なものに変更することがある。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 登録学生の希望により決定し研究室前に掲示する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実務経験など：子どもの絵画教室、自閉症児の造形指導、美術館等のワークショップ | | | | | | | | |

| 授業名 | 子どもの造形 | |
|------|--------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 導入。相互に子どもの造形の関心領域について発表する授業の進め方についてのコンセンサスをつくる (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスに目を通してやりたい内容をまとめておく |
| 第2回 | 技法研究・フィンガーペインティング 小麦粉 | (学修内容) 小麦粉によるフィンガーペインティングによる表現 (事前事後学修課題の内容) (30分) 指絵の具について復習して考えをまとめておく |
| 第3回 | 技法研究・フィンガーペインティング その他の材料 | (学修内容) 市販の指絵の具やその他の素材での触覚体験について工夫する (事前事後学修課題の内容) (30分) 何が指絵の具になるか考えて発案紙まとめておく |
| 第4回 | 技法研究・ローラーで遊ぶ | (学修内容) ローラー遊びからの展開について、指導の場面から具体案を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) ローラーでの活動について調べ、アイデアをまとめておく |
| 第5回 | 材料研究・落ち葉を並べる 採集と試行 | (学修内容) 落ち葉や自然素材による表現についての指導について考え、具体的か活動を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 落ち葉や自然素材をつかった指導について調べてまとめておく |
| 第6回 | 材料研究・落ち葉を並べる | (学修内容) 自然素材による造形について、模擬保育を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 季節感とテーマの設定について事例を調べてまとめておく |
| 第7回 | 指導法研究・食べ物をテーマにした制作、導入 | (学修内容) 食物サンプルについて学び、試作する (事前事後学修課題の内容) (30分) つくりたい食べ物について調べてまとめておく |
| 第8回 | 指導法研究・食べ物をテーマにした制作、完成 | (学修内容) 食物サンプルを制作紙、彩色する (事前事後学修課題の内容) (30分) 彩色できるように作品を完成させておく |
| 第9回 | 材料研究・紙コップ、紙皿による造形 構想 | (学修内容) テーマの設定 動く、飾る、変身をテーマに紙コップを素材にした指導について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 紙コップと紙皿を準備してアイデアをまとめておく |
| 第10回 | 材料研究・紙コップ、紙皿による造形 制作 | (学修内容) 実際の素材に触れて、リサイクル素材による創作をおこなう (事前事後学修課題の内容) (30分) リサイクル素材による造形のアイデアを練ってまとめておく |
| 第11回 | 材料研究・ストローをつかった造形 | (学修内容) ストローによる動くおもちゃを制作し、子どもと造形と遊びについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 動くおもちゃについて調べて、アイデアをまとめておく |
| 第12回 | 頭足人を描く、描画の発達について知る | (学修内容) 描画の発達段階、追体験により身体的に理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に配布する資料を読んで考えをまとめておく |
| 第13回 | レントゲン画を描く | (学修内容) レントゲン画の理解 子どもの造形の発達についてのディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読んで考えをまとめておく |
| 第14回 | 造形のための環境整備について | (学修内容) 素材、道具の管理について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 物的環境の整備について調べ考えをまとめておく |
| 第15回 | まとめ・記録のファイリング | (学修内容) 授業全体の活動を総括し、子どもの造形の意義についてディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の取り組みについてまとめておく |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 発達障害と子ども支援 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Developmental Disorder and Child Support | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 流石 智子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 障害のある子どもを取り巻く環境は、大きく変化している。国の障害児支援施策においては、一層の充実が求められている。この授業では、障害のある子ども、気になる子ども等、またその子どもを育てている家庭への支援について学ぶ。グループにわかれて、討議を行い、相互交流し発達障害についての学びを深める。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1, 障害児の子どもについて理解できる。 2, 障害児と保育の関係について学び、理解できる。 3, 障害児の保育、発達について、子どもを育てる家庭への必要な支援について理解できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | 青木豊他編著『コンパクト版 保育者養成シリーズ 新版 障害児保育』一藝社 2018年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業内で提示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | レポート提出3回、授業中にも小レポートの提出あり。返却時に解説等を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | レポートの提出3回、授業時の小レポート提出あり。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室前、演習室に掲示するので確認。在室時は、時間があれば対応する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 発達障害と子ども支援 | |
|---------|-------------------------|--|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | 「障害」の理解 | (学修内容) 障害をどのように捉えるのか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストP9~16を読み、理解する。事後: P14の「ノーマライゼーションについて」を考察し、800字程度でまとめ提出。 | |
| 第2回 | 障害児の日本における歴史 | (学修内容) 障害児の歴史について (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: テキストP17~24を読み、理解する。前回の課題レポートの提出あり。 | |
| 第3回 | 障害児保育の現状と課題 | (学修内容) 障害児保育について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストP25~32を読み、理解する。 | |
| 第4回 | これからの障害児保育を支える理念と形態 | (学修内容) 障害児保育の理念について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストP33~40を読み、理解する。 | |
| 第5回 | 「気になる子ども」の理解と支援 | (学修内容) 「気になる子ども」の理解と支援策について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストP41~48を読み、理解する。事後: P47の気になる子どもの保護者理解について、考察し、800字程度でまとめ提出。 | |
| 第6回 | 肢体不自由児の理解と支援 | (学修内容) 肢体不自由のある子どもについて (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: テキストP49~56を読み、理解する。前回の課題レポート提出あり。 | |
| 第7回 | 視覚障害児・聴覚障害児の理解と支援 | (学修内容) 視覚障害児・聴覚障害児について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストP57~64を読み、理解する。 | |
| 第8回 | 知的障害児の理解と支援 | (学修内容) 知的障害児について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストP65~72を読み、理解する。 | |
| 第9回 | 発達障害児(自閉スペクトラム症等)の理解と支援 | (学修内容) 発達障害児の理解と支援について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストP73~80を読み、理解する。 | |
| 第10回 | 一人ひとりが大切にされる障害児保育の展開 | (学修内容) 一人ひとりを大切に保育について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストP81~88を読み、理解する。 | |
| 第11回 | 家族理解と支援 | (学修内容) 家族理解と支援について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストP89~96を読み、理解する。 | |
| 第12回 | 関係機関との連携と協働 | (学修内容) 関係機関との連携と協働について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストP97~104を読み、理解する。事後: P101~関係機関との連携を読み、理解したことを、800字程度でまとめ提出。 | |
| 第13回 | 障害児の理解と支援 | (学修内容) 障害児の理解と支援・個別支援計画について (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: テキストP105~112を読み、理解する。前回の課題レポート提出あり。 | |
| 第14回 | 障害児保育の実際 | (学修内容) 障害保育の事例について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストP113~120を読み、理解する。 | |
| 第15回 | 障害児保育の質を高めるために | (学修内容) 障害児保育の質の向上について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキストP121~128を読み、理解する。 | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|------------------------------------|-----------------------------------|-----------|----------------------------|-----------------|------------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 保育実習指導 a | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Guidance on Child Care Training | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 野田 隆生・名賀 亨・友本 喜代子・安藤 正彦・日永 よし子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>「保育実習（保育所）」の事前・事後に行う学内指導となる。「保育実習（保育所・施設）」の保育所実習の経験を踏まえて、ふりかえり、学んだことを深化、発展させ、「保育実習（保育所）」に向けての実習課題を明確にする。「保育実習」の実習の意義や目的を認識するとともに、現代社会における子どもや保護者を取り巻く保育環境や問題点を理解し、保育士として必要とされる資質や能力を養うことを目的とす。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | <p>1) 保育実習 の意義や目的を理解できる。 2) 保育士の職業倫理・守秘義務を理解できる。 3) 指導計画を理解し立案できる。 4) 実習課題を明確にできる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 () | | | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 随時資料を配布します。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | <p>下記の冊子は毎時携行することが望ましい。（出版社はフレーベル館）</p> <p>1) 『保育所保育指針』厚生労働省 2) 『保育所保育指針解説』厚生労働省 3) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 4) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省</p> | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 個別面談を通じて、各課題に対するコメントを行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | <p>「保育実習」の実施に向けて、実習の重要な事項を学ぶ授業となるため無断欠席は認めない。 学科の保育関係科目の履修状況及び出席状況によっては、実習を開始できないので注意すること。</p> | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ウ ー | <p>専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。（事前に予約を入れることが望ましい。）</p> | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 授 業 計 画 |
|----------|----------------------------------|---|
| 保育実習指導 a | | 学修項目 |
| | | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 保育実習 についての実習概要・講義の進め方等について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 (保育所・施設) に関する実習ノート等を準備し、記載事項の不備がないことを確認しておく。 |
| 第2回 | 保育実習 の目的・意義 | (学修内容) 保育実習 との相違点や段階性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 (保育所) の内容について整理し、良くできたこととこれからの課題についてまとめておく。 |
| 第3回 | 保育実習 のふりかえりレポートの作成 | (学修内容) 保育実習 (保育所・施設) の内容について整理する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 (施設) の内容について整理し、良くできたこととこれからの課題についてまとめておく。 |
| 第4回 | 保育実習 のふりかえり | (学修内容) 保育実習 (保育所実習) のふりかえりをプレゼンテーションすることで、保育実習 の目的意識を高める。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習記録ならびに指導案を読み返し、ワークシートに記入しておく。 |
| 第5回 | 保育実習 の評価面談 | (学修内容) 保育実習 (保育所実習) の個別評価面談を通して、保育実習 の目的意識を高める。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 評価面談終了後、これからの課題についてまとめておくこと。 |
| 第6回 | 保育実習 のふりかえりと評価面談 | (学修内容) 保育実習 (保育所実習) ふりかえりや個別評価面談を通して、保育実習 に向けた課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回までのふりかえりと個別評価面談の内容についてまとめておくこと。 |
| 第7回 | 実習生カードの作成・提出 | (学修内容) 実習生カードの作成 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習生カード作成に必要なものを用意し、保育実習 に向けた動機を整理しておくこと。 |
| 第8回 | 保育士の倫理綱領について理解する | (学修内容) 保育士の倫理綱領を解説しながら、保育士として、実習生としての倫理観について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育専門職としての倫理について、ワークシートにまとめておくこと。 |
| 第9回 | 保育実習 実習目標・課題の作成 | (学修内容) 保育実習 の新たな目標・課題を設定する (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習目標を3つ考え、それぞれに課題を設定し、説明ができるようにしておくこと。 |
| 第10回 | 実習目標・課題の添削・指導 | (学修内容) 実習課題の添削指導を個別相談にて行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習目標と課題を清書用シートに記入しておくこと。 |
| 第11回 | 実習記録ノートの配布と書き方の説明 | (学修内容) 保育実習 の実習記録ノートの配布、記録の書き方について説明 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 の記録ノートを読み返し、書きにくかったことをまとめておくこと。 |
| 第12回 | 8月の保育内容 ～水遊びの指導・注意事項・指導計画の立案～ | (学修内容) 保育実践を学ぶとともに、指導案作成の留意点の理解、指導計画を立案し実践に向けての準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 夏の保育活動をイメージし、指導案の内容について考えておくこと。 |
| 第13回 | 実習事前指導 ～実習の心得などの説明ならびに個別面談～ | (学修内容) 実習の心得、実習園とのオリエンテーション、質疑応答 (事前事後学修課題の内容) (45分) 配布プリントをよく読み、実習園の特徴や保育内容に関する情報を収集しておくこと。 |
| 第14回 | 実習事前指導 ～必要書類の説明ならびに個別面談～ | (学修内容) 実習に伴う書類等準備についての説明 検便等 (事前事後学修課題の内容) (45分) 配布プリントをよく読み、目標と課題について理解した上で、個別面談に臨めるようにしておくこと。 |
| 第15回 | 実習訪問担当者との面談 | (学修内容) 実習訪問担当者との面談にて個別指導 (事前事後学修課題の内容) (45分) 報告書等に必要事項を記入し、面談時に提出すること。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------|-----------|---|
| 授 業 名 | 保育実習指導 a | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | | | | 開 講 時 期 | 春学期 | 必 修 選 択 | | 選 択 | |
| 担 当 者 | 武田 康晴 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>「保育実習（施設）」の事前・事後に行う学内指導となる。「保育実習（保育所・施設）」の施設実習の経験を踏まえて、振り返り、学んだことを深化、発展させ、「保育実習（施設）」に向けての実習課題を明確にする。「保育実習」の実習の意義や目的を認識するとともに、現代社会における子どもや保護者を取り巻く保育環境や問題点を理解し、保育士として必要とされる資質や能力を養うことを目的とす。実践力を身につけることを目的に学生同士の意見交換、グループ作業を取り入れて授業を進める。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | <p>1) 保育実習 の意義や目的を理解できる。 2) 保育士の職業倫理・守秘義務を理解できる。 3) 保育士としての社会的責任を説明することができる。 4) 実習課題を明確にできる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テ キ ス ト | 必要に応じて資料を配布する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 必要に応じて紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 個別面談を通じて口頭で行うほか、必要に応じて提出物にコメントを記入して返却する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | <p>「保育実習」の実施に向けて、実習の重要な事項を学ぶ授業となるため無断欠席は認めない。 学科の保育関係科目の履修状況及び出席状況によっては、準備ができていないという理由で実習開始できないので注意すること。</p> | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室に掲示し、口頭でも伝える。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 保育実習指導 a | |
|---------|-----------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 保育実習指導、保育実習 について、実習概要、授業の進め方について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスに目を通しておく。保育実習指導 のノートを確認し、不備がないものを準備する。 |
| 第2回 | 保育実習 の目的・意義 | (学修内容) 保育実習 との関連また相違点や段階的学習について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 の実習ノートの該当箇所を復習し、課題を抽出しておく。 |
| 第3回 | 保育実習 の振り返りレポートの作成 | (学修内容) 保育実習 の内容について振り返りを行い、個別面談を経て保育実習 へ向かう課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習に関するファイル情報を作成し提出する。 |
| 第4回 | 保育実習 の振り返りと評価面談 | (学修内容) 保育実習 の振り返りと個別面談を通じて保育実習 の目的、意義を理解する。個別面談以外の学生は課題を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に提示した課題に取り組み提出する。 |
| 第5回 | 保育実習 の振り返りと評価面談 | (学修内容) 保育実習 の振り返りと個別面談を通じて保育実習 の目的、意義を理解する。個別面談以外の学生は課題を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に提示した課題に取り組み提出する。 |
| 第6回 | 保育実習 の振り返りと評価面談 | (学修内容) 保育実習 の振り返りと個別面談を通じて保育実習 の目的、意義を理解する。個別面談以外の学生は課題を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に提示した課題に取り組み提出する。 |
| 第7回 | 実習生カードの作成と提出 | (学修内容) 実習生カードその他、保育実習 に必要な書類について準備する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 写真等実習生カードその他の作成に必要なものを準備してくる。 |
| 第8回 | 保育士として持つべき価値観・倫理観 | (学修内容) 全国保育士会の倫理綱領等を活用し、保育士として、また実習生としての倫理、義務、責任について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 倫理綱領に目を通しておく。また事後には、保育士の倫理についてレポートを作成する。 |
| 第9回 | 実習目標と課題の作成 | (学修内容) 保育実習 の積み残し課題を踏まえ、保育実習 としての目標と課題を検討、所定の用紙を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 目標と課題の用紙を作成し、提出する。 |
| 第10回 | 実習目標と課題の添削指導 | (学修内容) 前回の授業を通じて作成、提出した実習課題と目標の用紙を使い、グループ作業も取り入れながら相互添削、教員による添削を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の内容を踏まえ、目標と課題の用紙を清書して提出する。 |
| 第11回 | 実習記録ノートの配布と書き方の解説 | (学修内容) 実習記録の書き方を学ぶ。また、保育実習 (施設) の実習ノートを持参し、自己添削するワークショップも用いて記録について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 実習ノートを使って1日の記録を記入して提出する。 |
| 第12回 | 保育実習 に関するグループ指導 | (学修内容) 保育実習 (施設) という枠内でテーマを設定し、ディスカッションを通じて課題と対応策について探求する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内容に関するレポートを作成する。 |
| 第13回 | 保育実習 に関するグループ指導 | (学修内容) 保育実習 (施設) という枠内でテーマを設定し、ディスカッションを通じて課題と対応策について探求する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内容に関するレポートを作成する。 |
| 第14回 | 書類の作成指導 | (学修内容) 保育実習 に必要な書類について、活用方法、必要性を十分に理解しながら作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 書類作成に必要なものを準備する。 |
| 第15回 | 保育実習 に向けた最終確認・指導と訪問教員との顔合わせ | (学修内容) 保育実習 に向けた最終的な諸注意事項を理解する。また、訪問担当教員と面談し、実習中の指導方法について確認する。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 実習に向けて総括的なレポートを作成する。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 博物館展示論 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Theory of Museum Exhibition | | | 開講時期 | 春学期 | | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 井上 ひろ美 | | | 対象学生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 博物館活動の中心の一つである展示について、その成立の歴史、変遷について学ぶ。さらに展覧会の企画から開催、終了まで、また展示作業に必要な機器・道具などについても具体例で示すことで、展覧会開催に必要な知識や技術についての基礎知識を講義する。理解を深めるために展覧会チラシのデザイン作成を行い、プレゼンテーションを行う。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 博物館の展示機能に関する基礎的知識を身につけることができる。 2) 一つのことを創造し、表現することの多様性について理解できるようになる。 3) 優れたデザイン感覚を身につけることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (60%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 | | |
| テキスト | 適宜プリントを配布する。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出された制作物については、丁寧に解説します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | できるだけ博物館や美術館、寺社などを訪れて、文化財に親しむ機会を作ってください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実務経験など：博物館で学芸員として、博物館経営、国内外の国立博物館での展覧会開催、普及啓発活動などに携わってきました。実務経験をもとに、博物館展示に必要とされる考え方、技術等について話をします。 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 博物館展示論 |
|---------|--------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 講義方針の説明。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認しておく。 |
| 第2回 | 博物館施設の種類と現状 | (学修内容) 博物館施設の種類と現状について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 博物館・美術館の種類を調べておく。 |
| 第3回 | 博物館と展示の歴史 | (学修内容) 博物館と展示の歴史について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 近代博物館のはじまりについて調べておく。 |
| 第4回 | 展示公開と出品作品 | (学修内容) 展示公開における出品作品の位置づけ、また関連する諸法令・規則について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料の展示公開における注意点について調べる。 |
| 第5回 | 博物館展示の諸形態 | (学修内容) 博物館展示の諸形態について解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実際に開催されている展覧会を見学しておくこと。 |
| 第6回 | 展示の企画・開催 | (学修内容) 展示の企画から開催までの過程を概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実際に開催されている展覧会を見学しておくこと。 |
| 第7回 | 博物館展示の実例 - 国内共催編 - | (学修内容) 国内における展示の実例を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 展覧会の企画・開催の過程について復習しておくこと。 |
| 第8回 | 博物館展示の実例 - 海外展編 - | (学修内容) 海外での日本美術展示の実例を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 国内での展覧会開催について復習しておくこと。 |
| 第9回 | 博物館展示の実例 - 海外編 - | (学修内容) 海外の美術館の実例をみる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 海外のいずれかの美術館のHPを見ておくこと。 |
| 第10回 | 博物館展示のコンポーネント | (学修内容) 展示に必要な道具と技術を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 博物館で使用する道具を調べておくこと。 |
| 第11回 | 広報とデザイン | (学修内容) 展覧会広報の重要性とその方法を概説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 展覧会チラシを3枚集めておくこと。 |
| 第12回 | 展覧会チラシを作る | (学修内容) 展覧会チラシをデザインする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 展覧会チラシをデザインする際に気を付ける点について復習しておくこと。 |
| 第13回 | 展示計画・空間デザインと照明 | (学修内容) 前回デザインした展覧会チラシのプレゼンテーションを行ったあと、展示室内の構成、演出について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 空間をデザインするために必要なことについて考えをまとめておくこと。 |
| 第14回 | 空間デザインの実際 | (学修内容) 実際に博物館を見学して展示室の構成について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 展示計画と空間デザインで気を付ける点について復習しておくこと。 |
| 第15回 | 展覧会にまつわる人々 | (学修内容) 展覧会開催に必要な職業について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 展覧会を開催するために必要な学芸員以外の職業について調べておくこと。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 博物館実習 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 3単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Museum Training | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 井上 ひろ美 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 学芸員に必要なとされる基礎的な知識・技術等について、実習を通じて体験的に修得することを目指す。さらに、広範な学芸員業務の実際についても、理解を図る。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 学芸員としての基礎知識を修得することができる。 2) 文化財を取り扱う技術を身につけることができる。 3) 館園実習に向けての心構えを身につけることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | 適宜授業中に配布する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 実習での実物資料取り扱い時には、個別に指導、コメントします。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 館園実習の準備となる授業です。館園実習を実りあるものとするためにも、しっかりと取り組んでください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：博物館学芸員として、博物館経営、国内外の国立博物館での展覧会開催、普及啓発活動などに携わって来ました。実務経験をもとに、博物館で必要な資料取り扱い技術を中心に指導します。 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 博物館実習 |
|---------|---------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 講義方針の説明 (事前事後学修課題の内容) (15分) シラバスの内容を確認しておくこと。 |
| 第2回 | 博物館と学芸員 | (学修内容) 博物館における学芸員の業務や学芸員の果たす役割について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 博物館活動の柱について確認しておくこと。 |
| 第3回 | 彫刻の調査と取り扱い | (学修内容) 仏像彫刻の調査のために必要な知識や方法、取り扱いについて学ぶ(実習・グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 仏像の各部名称を確認しておくこと。 |
| 第4回 | 絵画の調査と取り扱い | (学修内容) 絵画の調査のために必要な知識や方法、取り扱いについて学ぶ(実習・グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 絵画の種類について確認しておくこと。 |
| 第5回 | 掛軸の調査と取り扱い | (学修内容) 掛軸の取り扱い技術を学び、実際に調査する(実習・グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 掛軸の各部名称を確認しておくこと。 |
| 第6回 | 巻子の調査と取り扱い | (学修内容) 巻子の取り扱い技術を学び、実際に調査する(実習・グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 巻子の各部名称を確認しておくこと。 |
| 第7回 | 屏風の調査と取り扱い | (学修内容) 屏風の取り扱い技術を学び、実際に調査する(実習・グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 屏風の各部名称を確認しておくこと。 |
| 第8回 | 書跡・典籍の調査と取り扱い | (学修内容) 書跡・典籍のために必要な知識や方法、取り扱い技術について学ぶ(実習・グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 書跡・典籍の種類について確認しておくこと。 |
| 第9回 | 古文書の調査と取り扱い | (学修内容) 古文書調査のために必要な知識や方法、取り扱い技術について学ぶ(実習・グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 古文書解読について復習しておくこと。 |
| 第10回 | 和綴じ本などを作る | (学修内容) 書跡、典籍、古文書に見られる様々な形態の和綴じ本などを実際に作る(実習・グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 本の形態について確認しておくこと。 |
| 第11回 | 工芸品の調査と取り扱い | (学修内容) 工芸品調査のために必要な知識や方法、取り扱いについて学ぶ(実習・グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 工芸品の種類について確認しておくこと。 |
| 第12回 | 写真撮影 | (学修内容) 文化財の写真撮影の方法について学び、実際に撮影してみる(実習・グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 文化財の写真を展覧会図録等の書籍で見ておくこと。 |
| 第13回 | 展覧会の企画 | (学修内容) 展覧会を企画する際の内容と要点について学び、実際に企画書を作成する(実習)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 興味があるテーマと作品について調べておくこと。 |
| 第14回 | 見学実習 | (学修内容) 学外授業として博物館を見学する(フィールドワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 見学先について下調べをしておくこと。 |
| 第15回 | 展示実習 展示 | (学修内容) 展示方法について学ぶ(実習・グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各種の文化財の取り扱い方法について復習しておくこと。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-------------------------|--------------------------|------------|------------------|-----------|--|
| 授業名 | 図書館情報技術論 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Theory of Library Information Technology | | | 開講時期 | 秋学期 | | 必修選択 | 必修 | |
| 担当者 | 岡 紀子 | | | 対象学生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 今日の図書館司書の業務は、コンピュータを中心とする情報機器に関する基礎知識と的確な情報処理を遂行するための実務の習得が不可欠である。本科目では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、コンピュータシステム、データベース、検索エンジン、図書館システム、電子資料等について学習する。授業では、ほぼ毎回授業内容に関する課題を行う。数回はグループディスカッションを行う。実践学習として、音声翻訳システムを体験する。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 図書館の現場で必要となる基礎的な情報技術の知識を習得する。 2) 知識を活用して図書館が直面する今日的な課題に対応することができる。 3) インターネット上の情報源や電子出版の動向などを理解し、それらと連携した図書館サービスを企画・立案できる。 4) 情報サービス演習・情報サービス論とあわせて履修することにより、「検索技術者検定3級」に合格できる実力を身に着ける。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (課題遂行能力) | プレゼンテーション能力 () | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テキスト | 改訂 図書館と情報技改訂術(樹村房)2018 4月発刊 | | | | | | | | |
| 参考書 | ・メディアリテラシ(上田裕子・増永良文、Computer ScienceLibrary15) 植田裕子・増永良文(サイエンス社) ・最新 情報リテラシー第4版-インターネットと情報機器を上手に利用するために-(監修:久野靖他)大串 夏身(青弓社) ・デジタルアーカイブ 基点・手法・課題(文化とまちづくり叢書) 笠羽 晴夫(水曜社) | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | ・提出されたレポートは、発表の際に都度コメントします。 ・制作物などについては、その実習中に個別に対応します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | ・授業で学ぶことは基本的なことだけです。この分野についてより広く深く知りたい場合は、活用場所を図書館に限定せずに各専門書を参照してください。現代の社会の情報技術の進歩は目覚ましいので、常に最新の情報を入手するよう心がけましょう。新しい技術を図書館でどのように活用できるかを考えるのが、これからの司書の重要な使命だと思いますので、既成概念にとらわれない自由な発想ができるように期待しています。 ・自ら図書館に足を運び、図書館における業務を把握し、情報技術がどのように活用・応用されているか確かめておく。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業後に質問を受け付ける | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 図書館情報技術論 | |
|---------|--|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | 図書館情報技術論の概要とねらい | (学修内容) IT技術が重要な基盤となっている現代の図書館情報技術の重要性、および学習の概要とねらいについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習 | |
| 第2回 | コンピュータの基礎 | (学修内容) コンピュータの基本、仕組みについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習 | |
| 第3回 | ネットワークの基礎 | (学修内容) ネットワーク、インターネット、WWWについて基礎を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習 | |
| 第4回 | 情報技術と社会・法律 | (学修内容) 情報化社会の特徴をふまえ情報技術との深い関わりを理解する。情報技術の法的保護の観点から、知的財産権、特に著作権について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習 | |
| 第5回 | データベースの仕組み | (学修内容) データベースの定義、種類、データベースシステムなど。データ・情報・知識について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習 | |
| 第6回 | サーチエンジン(検索エンジン)の仕組み | (学修内容) ウェブ検索の歴史と検索エンジン、種類。ロボット型検索エンジンの特徴。新しい情報アクセス技術(RDF)について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習 | |
| 第7回 | コンピュータシステムの管理とセキュリティ | (学修内容) コンピュータシステムが安全確実に運用されるためのセキュリティシステムとその技術について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習0 | |
| 第8回 | 図書館の新たなITの活用 その1 | (学修内容) 図書館の管理システムにつて、技術面から学習する。図書管理システムの概要、ICタグ、自動化技術などを活用したシステムについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習 | |
| 第9回 | 図書館の新たなITの活用 その2 | (学修内容) デジタルレファレンスサービス、レファレンス協同データベース、および学術機関リポジトリ、ディスカバリーサービスについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習 | |
| 第10回 | 図書館と電子資料 | (学修内容) 図書館で扱う電子資料と、その管理技術を学習する。電子ジャーナル、電子ブック、文献デリバリーおよび資料のデジタル化について。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習 | |
| 第11回 | デジタルアーカイブ ・最終レポート課題設定: 提出期限は13回目 ・図書館における障がい者支援のとりくみ DAISYの作成の概要: アカウントとPWを配布 | (学修内容) デジタルアーカイブの定義、歴史、さらにその動向と意義、応用分野と特長、作成技術などについて。ウェブサイト例を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習 | |
| 第12回 | マルチメディアDAISY作成の演習(1) | (学修内容) 障がい者支援機能の一つである、マルチメディアDAISYについて学ぶ。音声支援システムソフトを用いてmDAISY形式資料の編集を実践をする。 (事前事後学修課題の内容) (10分) アカウント・PWでアクセスの確認 | |
| 第13回 | 最終レポート提出 プレゼンテーション(1) マルチメディアDAISY作成の演習(2) | (学修内容) レポート提出期限 課題レポートの発表(1) (事前事後学修課題の内容) (60分) mDAISY編集作業を継続 | |
| 第14回 | 最終レポートのプレゼンテーション(2) プレゼンの状況に応じて、 マルチメディアDAISY作成の演習(3)継続 | (学修内容) 課題レポートの発表(2) (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業を継続 | |
| 第15回 | 最終レポートのプレゼンテーション(2) マルチメディアDAISY完成・提出(4) | (学修内容) 課題レポートの発表(3) mDAISY編集完成版の提出 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業完成 | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------------------------------|-----------------------------------|--------------------|----------------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 博物館資料保存論 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Theory of Museum Material Preservation | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 藤澤 典彦 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 何が博物館資料となり得るのかを考え、それをどの様に収集し、保存・保管し利用してゆくのかについて考える。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 博物館資料保存目的の明確化。目的を確認する事により自発的に仕事を行える様にする 2) 博物館資料の多様性の確認。如何なる物が博物館資料になるかを考える力を付ける。 3) 博物館資料の保存の具体的手法の確認。資料保存のための具体的行動を取れる様になる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (100 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 () | | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | | |
| テ キ ス ト | 使用しない | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 『新しい博物館学』(芙蓉出版) | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 各回の授業の初めに前回授業の簡単な振り返りを行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 博物館に積極的に出掛け、展示物だけでなく、展示の在り方、展示スペースの構造、受付、警備の状況など様々な面をみてきて欲しい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 随時質問を受け付ける。担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 博物館資料保存論 | |
|------|-----------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 博物館資料とは何か | (学修内容) 博物館資料の形成過程を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 近代世界の形成について考えておくこと。 |
| 第2回 | 何が資料で、資料の収集とは何か | (学修内容) 資料収集の手段について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自己のコレクションの充実(購入・交換・受贈)との関連で考えておくこと。 |
| 第3回 | 資料保存とは何か | (学修内容) 何のために保存するのか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 同じものでも見る時点によつて感覚・意味が異なることがあることについて考えておくこと。 |
| 第4回 | 資料研究の必要性 | (学修内容) 資料研究と展示の関係。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 物を通して何を如何に伝えることができるかについて考えておくこと。 |
| 第5回 | 資料の修復・復元 | (学修内容) 資料の修復・復元の目的。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 物の変化(破壊・破損・消滅)の問題について考えておくこと。 |
| 第6回 | レプリカの作成 | (学修内容) レプリカの利用方法。近年のレプリカ作成方法の進歩について。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 模造品の限界と可能性について考えておくこと。 |
| 第7回 | 考古資料保存の問題点 | (学修内容) 考古資料保存の多様性。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 土・木・金属(金・銀・銅・鉄)などの錆び方・消滅の問題について考えておくこと。 |
| 第8回 | 彫刻資料保存の問題点 | (学修内容) 大型資料の保存。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の生活における大型品の保管・収納の問題と関連付けて考えておくこと。 |
| 第9回 | 絵画資料保存の問題点 | (学修内容) 日本画・洋画資料保存の諸注意。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の生活における平面的な大型品の保管・収納の問題と関連付けて考えておくこと。 |
| 第10回 | 紙・拓本・写真資料保存の問題点 | (学修内容) 古文書・近代紙資料・写真劣化との戦い。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の生活における紙資料のファイル化・アルバムの作り方などの問題と関連付けて考えておくこと。 |
| 第11回 | 民俗資料保存の問題点 | (学修内容) 木材・金属・皮革・布・藁など複合材料資料の保存。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の生活における、複合素材でできている物の保管・収納の問題について考えておくこと。 |
| 第12回 | 資料保存のための設備 | (学修内容) 収蔵庫の重要性。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の家の物置・棚・机の引き出し等の収納の問題と関連づけて考えておくこと。 |
| 第13回 | 資料保存のためのスケジュール | (学修内容) 資料点検・虫干し・燻蒸などのスケジュール。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の生活における、ものの点検・整理・整頓・掃除などの年間スケジュールと関連づけて考えておくこと。 |
| 第14回 | 資料保存と展示と公開 | (学修内容) 保存資料の公開としての展示と出版。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の物を他人に見せる意図と見せ方と、その記憶・記録の問題などと関連づけて考えておくこと。 |
| 第15回 | 講義のまとめ | (学修内容) 博物館資料保存の目的。 (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの講義項目を確認しておくこと。また自分が見てきた博物館のよかった点について一言ずつ発言してもらい、それについて話し合う。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 博物館情報・メディア論 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Theory of Museum Information and Media | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 喜多 祐子 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 最近のコンピュータ技術の発展は目覚ましい。博物館においても、こうした技術が導入され、運営に活かす試みがなされている。そこで、本講義では、博物館における情報の意義と活用方法、情報発信について理解し、情報を配信・活用することができる能力を養成する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | 1) メディアの歴史、およびメディアの特性について説明することができる。 2) デジタル化された情報を発信する手法について理解できる。 3) デジタルアーカイブの現状やその課題について理解することができる。 4) 資料のドキュメンテーション、データベース、デジタルアーカイブについて説明することができる。 5) 博物館が情報を公開するにあたり、配慮すべき諸権利やその処理方法について理解できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | 講義内で配布するプリント。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 随時指示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出物については、コメントをつけて返却をする。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | いろいろな博物館や美術館へ行き、どのようなメディアが用いられているか、どのように情報を発信しているのかを観察して、知識を増やしてほしい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：神戸大学文学部ティーチングアシスタント 荒尾市役所 市史編纂協力員 宝塚市立中央図書館 資料調査員 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 博物館情報・メディア論 | |
|---------|---------------------------|--|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | 博物館における情報とメディアの意義 | <p>(学修内容) 情報の伝達と、その伝達手段。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (10分) 情報を伝達する方法について自分なりに考えてみる。</p> | |
| 第2回 | メディアとしての博物館 | <p>(学修内容) 視聴覚メディアの歴史。メディアの特性。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 博物館が取り扱う情報にはどのようなものがあるのかを考えてみる。</p> | |
| 第3回 | 博物館資料のドキュメンテーションとデータベース化 | <p>(学修内容) メディアを用いた情報の記録、整理方法を説明した後、実際にパソコンでデータベースを作成してみることで、その意義を検証する。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (15分) 情報を整理、検索する方法について考えてみる。</p> | |
| 第4回 | 博物館情報のデジタル化 | <p>(学修内容) デジタル化の技法と留意点について学習した後、実際にデジタルカメラを用いて、史料や建造物などの撮影の際に配慮すべきことを理解する</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (15分) デジカメやスマホなどで写真を撮ってみる。</p> | |
| 第5回 | デジタル撮影 | <p>(学修内容) 文字資料、大型資料、建造物など被写体に応じたデジタル撮影方法。デジタル画像処理の留意点。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする。</p> | |
| 第6回 | デジタルアーカイブの構築、活用 | <p>(学修内容) デジタルアーカイブの意義、実践例。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (15分) 予習として、デジタルミュージアムを扱うHPを探してくる。</p> | |
| 第7回 | 映像理論 | <p>(学修内容) 展示における情報メディアの手法。その実践例。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (30分) 視覚・聴覚から得られる情報のメリットとデメリットを整理しておく。</p> | |
| 第8回 | 通信端末を用いた取り組み | <p>(学修内容) 情報通信技術を活用した情報の配信。その実践例。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、普段の生活のなかで、必要な情報をどのように得ているのかを考えてみる。</p> | |
| 第9回 | 博物館における情報配信 | <p>(学修内容) 情報管理と情報公開。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 博物館情報を管理するために何をすべきかを考えてみる。</p> | |
| 第10回 | インターネットを活用した情報提供のあり方 | <p>(学修内容) インターネットを活かした様々な取り組みを説明した後、博物館におけるVRの実践例を体験。VRによる情報公開の意義を整理。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (15分) インターネットを用いた情報配信の可能性を考えてみる。</p> | |
| 第11回 | 博物館メディアの役割と学習活用 | <p>(学修内容) 博物館利用者への学習支援、情報教育の意義と重要性。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 地域に博物館資料に関する情報をどのように還元できるかを考えてみる。</p> | |
| 第12回 | 博物館と知的財産 | <p>(学修内容) 著作権の取り扱い。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 「著作権」という言葉はどのようなときに使われるのかを整理する。</p> | |
| 第13回 | 個人情報の保護 | <p>(学修内容) 個人情報とプライバシー。権利処理の方法。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (15分) どのような情報が個人情報にあたるのかを考えてみる。</p> | |
| 第14回 | ICT社会のなかの博物館 | <p>(学修内容) 情報資源の双方向性と役割、情報倫理。地域機関との連携。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、インターネットを用いて、博物館が図書館、学校と研究機関とどのような連携をとっているのか、その活動内容を調べてみる。</p> | |
| 第15回 | 博物館情報の伝達 / 配信にあたり、配慮すべきこと | <p>(学修内容) これまでの講義内容を踏まえ、実際に博物館展示における解説コンテンツを制作。情報伝達をする上で、留意すべき点を整理。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、これまでの講義内容を復習し、情報を発信する際に留意すべき点をまとめておく。</p> | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 図書館サービス概論 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Introduction to Library Services | | | 開講時期 | 春学期 | | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 川瀬 綾子 | | | 対象学生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>図書館サービスにかかる理念、構造、活動内容、規範について公共図書館を基本として解説し、学びを深めていく。図書館サービスとネットワーク化の必要性など、現代の図書館における様々なサービスについて、その意味や意義を理解する。また近年の情報社会において図書館で扱う資料や情報提供サービスの基本と展開についても学んでいく。授業では、図書館に関する映像を見たり、ディスカッションやレポートの作成、プレゼンテーションにも取り組む。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 現代の図書館サービスについて、その基本と意義、理念を把握することができる。 2) 図書館における様々なサービスを学び、その多様な在り方について理解し、考察を深める。 3) 今後の図書館サービスの在り方を考えることができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 | | |
| テキスト | 宮部頼子編『図書館サービス概論』樹村房、2012年 | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業にて指示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたレポートは、コメントを付けて返却します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | <p>公共図書館等を積極的に訪れてその図書館でどのようなサービスが行われているかなどを注意深く観察してください。授業の予習・復習は欠かさずに行い、わからない点などがあれば次の授業までに調べるなど自ら学習を深める努力を行うようにしてください。 出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位は与えません。</p> | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業終了時に実施する。また毎授業時にコメント等を書く用紙を配布するので、質問などがあればその用紙を活用すること。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | <p>実践的教育 教員の実務経験など：図書館司書として児童図書館、学校図書館、病院図書室に勤務。実務経験も踏まえて図書館サービスについて話をします。</p> | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 図書館サービス概論 | |
|---------|--|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 授業の概要説明、公共図書館における図書館サービスについて | (学修内容) 授業の概要(授業計画、内容、評価方法、本講義の進め方等についての説明)、図書館のサービスとはどのようなものであるのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 今まで自分が図書館で体験した、もしくは見聞きしたことのある図書館サービスについて考えておく。 |
| 第2回 | 図書館サービスの意義と理念1 - 図書館サービスの概要 - | (学修内容) 様々な図書館サービスについての解説、その意義や理念などを概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章1・2項を読んでおくこと。 |
| 第3回 | 図書館サービスの意義と理念2 - 図書館業務の概要 - | (学修内容) 図書館で行われている業務について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章3-6項を読んでおくこと。 |
| 第4回 | 公共図書館サービスの変遷 | (学修内容) 公共図書館サービスの基盤整備から市民の図書館への流れと今日の公共図書館サービスの確立についてを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第2章を読んでおくこと。 |
| 第5回 | 図書館サービスの種類と方法 | (学修内容) 公共図書館を主とした閲覧サービスと貸出サービスを中心に説明し、その意味を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第3章を読んでおくこと。 |
| 第6回 | 資料提供サービス | (学修内容) 資料提供サービスについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第4章を読んでおくこと。 |
| 第7回 | 情報提供サービス | (学修内容) レファレンスサービスを中心に解説する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 教科書第5章を読んでおくこと。レファレンスサービスに関する課題を課す。 |
| 第8回 | 利用者対象別サービス - 児童サービス、ヤングアダルトサービスについて - | (学修内容) 利用対象者が幼児や児童などの場合、どのような図書館サービスが行われているかを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 公共図書館で行われている児童向けのサービスに参加し、その感想や意見をまとめて授業にのぞむこと。教科書第6章を読んでおくこと。 |
| 第9回 | 利用者対象別サービス - 多文化サービス、障害者サービス、高齢者サービスについて - | (学修内容) 外国の方への図書館サービスや、障害者、高齢者の方への図書館サービスについてを解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第6章を読んでおくこと。 |
| 第10回 | 図書館サービスとコミュニケーション | (学修内容) 利用者に対する接遇・広報について理解する。第7回の授業で課した課題の発表とディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 公共図書館のHPや広報物等を確認しておくこと。 教科書第7章を読んでおくこと。 |
| 第11回 | 図書館サービスと著作権1 - 著作権の概要 - | (学修内容) 著作権の意義と概要について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第8章を読んでおくこと。 |
| 第12回 | 図書館サービスと著作権2 - 図書館における著作権 - | (学修内容) 図書館で行われている複写サービスを中心に解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第8章を読んでおくこと。 |
| 第13回 | 図書館サービスの協力と連携 | (学修内容) 図書館サービスにおける協力・連携の意義について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第9章を読んでおくこと。 |
| 第14回 | 図書館サービスの課題と展望 | (学修内容) これまで学んできた内容を振り返り、現代の図書館サービスについての理解を深め、これからの課題、問題点などを考える。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 今まで学んできたことを振り返って復習し、図書館に必要なサービスとは何かを考えてくる。教科書第10章を読んでおくこと。 |
| 第15回 | 図書館サービスの未来：授業まとめ | (学修内容) これからの図書館の在り方について考える。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 教科書を再度通読すること。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|----------------|-----------|--|
| 授業名 | 情報サービス論 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Theory of Information Services | | | 開講時期 | 春学期 | | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 渡邊 雄一 | | | 対象学生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 図書館における情報ニーズとサービス、レファレンスツール及びレファレンスプロセスについて学習する。情報サービスとは何か、また情報やサービスを提供する際に注意すべきことは何か、図書館と図書館員の役割を把握することが目的である。図書館における情報サービスの実際を理解するために、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 図書館における情報サービスの種類とその内容について説明することができる。 2) レファレンス事例とレファレンス資料に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (60%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 (| | |
| テキスト | 授業にて指示する。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 『情報サービス論』(現代図書館情報学シリーズ5)、山崎久道、樹村房、2012年 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 図書館の情報サービスについて理解を深めるために、公共図書館などに出向き、興味関心のあるテーマについて図書館員に質問し、レファレンスサービスを体験していただくことが望ましい。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館で勤務。実務経験をもとに情報サービスについて話をします。 | | | | | | | | |

| 授業名 | 情報サービス論 | |
|------|----------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスを読んでおくこと。 |
| 第2回 | 情報社会と図書館 | (学修内容)図書館の役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 情報社会の特質についてまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。 |
| 第3回 | 情報サービスの実際 直接的サービス | (学修内容)情報サービスのうち直接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1回授業で解説したレファレンスサービスの概要について復習し、まとめておくこと。 |
| 第4回 | 情報サービスの実際 間接的サービス | (学修内容)情報サービスのうち間接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 情報サービスの種類と内容をまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。 |
| 第5回 | レファレンスサービスの理論と実際 | (学修内容)レファレンスサービスの理論を学習する。サービスの実施に関わる具体的問題についてグループディスカッションを行うことで理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(20分) レファレンスサービスの理論に関わる配付プリントをよく読んでおくこと。 |
| 第6回 | レファレンスプロセス | (学修内容)レファレンスプロセスの概念について学習し、情報探索行動に対応したレファレンスプロセスの在り方について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(20分) レファレンスプロセスに関するプリントを配付するのでよく読んでおくこと。 |
| 第7回 | 情報検索と情報検索システム 種類と内容 | (学修内容)情報検索の種類・内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 情報検索システムに関する配付資料をよく読んでおくこと。 |
| 第8回 | 情報検索と情報検索システム 検索過程 | (学修内容)情報検索システムにおける検索過程の内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、OPACを用いて特定のテーマに関する情報検索を行い、結果をまとめておくこと。 |
| 第9回 | 情報サービスにおける各種情報源の利用法 | (学修内容)個々の情報源の特性を理解し、多様な情報源を駆使した情報サービスを提供する技能を習得する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館に行き、授業中に紹介した各種情報源を手に取り、利用すること。 |
| 第10回 | 情報サービスと知的財産権 | (学修内容)著作権法について概説し、図書館における複写サービスなどについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 図書館に行き、複写サービスの内容と範囲を確認しておくこと。 |
| 第11回 | オンラインデータベース | (学修内容)オンラインデータベースの作成から利用までの流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、いくつかのオンラインデータベースを用いて情報検索を行い、それぞれのオンラインデータベースの特徴をまとめておくこと。 |
| 第12回 | 電子ジャーナル | (学修内容)電子ジャーナルの種類について概説する。オープンアクセス雑誌と機関リポジトリについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館に行き、電子ジャーナルを利用しておくこと。 |
| 第13回 | レファレンス事例について(プレゼンテーション) | (学修内容)レファレンス質問とその回答についてまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表レジュメを作成する。 |
| 第14回 | レファレンス資料の概要について(プレゼンテーション) | (学修内容)前回のレファレンス事例中にある参考資料について、レファレンス資料としての特徴をまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表レジュメを作成する。 |
| 第15回 | まとめ | (学修内容)今後の情報サービスあり方について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回までの配付プリントを読んでおくこと。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 児童サービス論 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Theory of Child Services | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 岸 優子 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>1) 児童図書館における児童サービスの理念や意義・役割について理解を深める。 2) IT時代を迎える現代の子どもたちにとって、より望ましい読書支援とはどうあるべきかを考える。 3) 子どものための文化財としてある絵本や児童文学等を具体的にとりあげ、その特質をふまえて児童図書館の蔵書構成や選書について検討する。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 児童図書館の蔵書を構成する児童文化関連資料の全体像について基本的知識を習得できる。 2) 1) を活用した利用者サービスの内容と方法について理解できる。 3) 選書やブックトークの内容について知り、実践することができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 使用しない(適宜プリントを配布)。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 受講生は、毎回、「振り返り用紙(学びのポートフォリオ)」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は、適宜、添削・助言等をする。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 児童図書館や子どもの本についてのフィールドワークを数回実施するので、実際に見学をとおして体験することで学びを深めてほしい。フィールドワークについては、事前に受講生と充分相談・説明のうえ、見学先の開館日・時刻・場所等により、授業時間外の曜日・時刻に実施することもある。また受け入れ施設の都合により見学先を変更せざるを得ない場合もある。やむを得ず見学を欠席する場合は、必ず、事前に連絡すること。見学当日の無断欠席は、単位取得の意思がないものとみなす。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業の初回に連絡する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：保育所に勤務。 子育て支援員。 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 学修項目 | 学修内容・課題 |
|---------|------------------------------------|---|---------|
| 授 業 計 画 | | | |
| 第1回 | ガイダンス 授業の概要および進め方 | (学修内容) 本授業の目的やねらい、取り組み内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 予習として、シラバスを読んで授業内容や評価方法を確認しておく。 | |
| 第2回 | 児童サービスとは何か | (学修内容) 日本における児童図書館および児童サービスについて理解を深めることができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、児童図書について要点を3分間で説明できるようまとめておく。 | |
| 第3回 | 児童関係資料の種類と特質 フィールドワーク | (学修内容) 児童に関連する資料について、その種類や特質について学び、理解を深めることができる。(場所: 子ども絵本専門店) (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、各自が選書した絵本の概要をまとめ、読み聞かせの練習を3回しておく。 | |
| 第4回 | 選書の内容と方法(絵本)1 プレゼンテーション | (学修内容) 選書の内容と方法について知るとともに、選書する資料(絵本)の特質をふまえ、その視点を学ぶことができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、児童図書館について調べておく。 | |
| 第5回 | 選書の内容と方法(絵本)2 フィールドワーク | (学修内容) 選書の内容と方法について知るとともに、選書する資料(絵本)の特質をふまえ、その視点を学ぶ。(場所: こどもみらい館子育て図書館) (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、絵本の特徴について考えておく。 | |
| 第6回 | 選書の内容と方法(絵本)3 ワーク | (学修内容) 資料をいかに評価するか、実際に絵本の選書を行うことで資料に対する見識を培う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、絵本の選書を行う際の重要な点について考えておく。 | |
| 第7回 | 選書の内容と方法(絵本)4 フィールドワーク | (学修内容) 資料をいかに評価するか、実際に絵本の選書の方法を学ぶことで資料に対する見識を培う。(場所: 京都市中央図書館) (事前事後学修課題の内容)(60分) 絵本の選書を行う際の重要な点について考えておく。 | |
| 第8回 | 中間まとめ | (学修内容) 復習として、選書を行う際の重要な点について考えておく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでのフィールドワークについて振り返り、各自、得たこと、気づいたこと、疑問に思ったことについてまとめておくこと。 | |
| 第9回 | 選書の内容と方法(読物)1 フィールドワーク | (学修内容) 選書する資料の特質をふまえ、その視点を学ぶ。(場所: 京都府立図書館) (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、選書を行う際の重要な点について考えておく。 | |
| 第10回 | 選書の内容と方法(読物)2 | (学修内容) 資料をいかに評価するか、実際に読み物の選書を行うことで資料に対する見識を培う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、読み物の選書を行う際の重要な点について考えておく。 | |
| 第11回 | 児童関係コレクションの収集と構築 フィールドワーク | (学修内容) 選書のありかた、蔵書構成などについて、実際の図書館をサンプルに分析し、そのありようを学ぶ。(場所: 国立国会図書館関西館) (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、身近な児童図書館を見学して蔵書構成について考えておく。 | |
| 第12回 | 子どもと本をつなぐ活動1 ブックトーク/読み聞かせ | (学修内容) 読み聞かせやブックトークなど、主な活動について理解し、その特質と役割を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、ブックトークする題材を決めて、3分間でプレゼンテーションする練習をする。 | |
| 第13回 | 子どもと本をつなぐ活動2 ワーク | (学修内容) 図書館の乳幼児サービス、特にブックスタート活動について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自の居住する地域のブックスタート運動について事前学習しておく。 | |
| 第14回 | 子どもと本をつなぐ活動3 子どもと本との関係 | (学修内容) オンラインを活用した児童向け検索システムについて知り、子どもと本との関係について理解を深める (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、子どもの資料検索についてサイトを調べておく。 | |
| 第15回 | 本授業のまとめと今後につながる課題を見出す 児童サービスの課題 | (学修内容) 全回のまとめを行い、これからの児童サービスの課題について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業で取り上げてきたことを振り返り、自分なりの理想の児童図書館像を考えておく。 | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 情報サービス演習 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Information Service Practice | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 渡邊 雄一 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 情報サービス、レファレンスサービス業務に必要な各種情報源（冊子体、電子データ）の基礎知識や検索理論・検索技法を講義と演習を通して学習する。また、レファレンス質問事例をもとに冊子体の文献情報の読み方、利用法等を図書館の蔵書探索を通じて学習する。発信型情報サービスの理解を深めるために、グループワーク、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 図書館利用者の情報要求に対し、適切な情報源(電子情報、冊子情報)を用いて情報探索することができる。 2) 情報検索理論を理解し、適切な情報検索技術を用いて検索することができる。 3) パスファインダーの調査成果についてプレゼンテーションすることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力 (| 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 原田智子編『現代図書館情報学シリーズ7 情報サービス演習』、樹村房、2017年11月(改訂第2刷)、¥2000(税別) | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 今まどこ編『図書館情報学基礎資料』、樹村房、2016 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 毎回の講義で紹介された専門用語は意味・用法等を復習してマスターすること。 講義で紹介されたデータベースについては、授業後に再度利用し、そのデータベースの特性、内容、利用法等をしっかりと復習すること。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに情報サービス、レファレンスサービスについて解説を行います。 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 情報サービス演習 |
|---------|--------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容)本講義の概要を理解し、授業計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。 |
| 第2回 | 情報サービスの設計と評価 | (学修内容)情報サービス、レファレンスサービスの概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト1章、2章を読んで予習しておくこと。 |
| 第3回 | 情報探索の基礎 | (学修内容)情報検索理論について、検索方式、検索語、トランケーションを中心に学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト2章を読んで予習しておくこと。 |
| 第4回 | 情報資源の探し方 | (学修内容)さまざまな情報資源の種類、使い方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回講義の基礎理論を理解しておくこと。 テキスト3章を読んで予習しておくこと。 |
| 第5回 | Webページ、Webサイトの探し方 | (学修内容)Webページ、Webサイト、検索エンジン、インターネット上の情報の探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト4章を読み予習すること。 |
| 第6回 | 図書情報の探し方 | (学修内容)図書情報の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト5章を読み予習すること。 |
| 第7回 | 雑誌および雑誌記事の探し方 | (学修内容)雑誌、雑誌記事の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト6章を読み予習すること。 |
| 第8回 | 新聞および新聞記事の探し方 | (学修内容)新聞の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト7章を読み予習すること。 |
| 第9回 | 言葉、事柄、統計の探し方 | (学修内容)言葉、事柄、統計資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト8章を読み予習すること。 |
| 第10回 | 歴史、日時、地理、地名、地図の探し方 | (学修内容)歴史、日時、地理、地名、地図資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト9章、10章を読み予習すること。 |
| 第11回 | 法律、判例、特許の探し方 | (学修内容)法令、判例、特許資料の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト12章を読み予習すること。 |
| 第12回 | 発信型情報サービス | (学修内容)発信型情報サービス(パスファインダー)の構築する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト15章を読み予習すること。 |
| 第13回 | 人物、企業、団体の探し方 | (学修内容)人物、企業、団体資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト9、10章を読み予習すること。 |
| 第14回 | レファレンスコレクションの整備 | (学修内容)レファレンスコレクションの整備・評価の在り方について学習する。Web上に公開されているデータベースの調査、評価を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト14章を読み予習すること。 |
| 第15回 | パスファインダーの調査成果発表まとめ | (学修内容)パスファインダー調査成果を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自調査結果の発表準備を行う。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 情報資源組織演習 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Bibliographic Organization Practice | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 喜多 祐子 | | | 対 象 学 生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 多様な情報資源に関するデータを整理し、図書館の利用者に目的の情報資源を提供することができるための技術を習得する。情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、メタデータの作成などを理解し、情報資源の組織化に必要な能力を身につける。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 情報資源の組織化業務に必要な技術について説明できる。 2) 書誌データを作成することができる。 3) ネットワーク情報資源のメタデータの作成手法を理解できる。 4) 主題分析、分類作業、統制語彙適用を行うことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 志保田務・高鷲忠美編『情報資源組織法 第2版』第一法規 2016年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 授業中に行う課題については、添削をした後、解説をする。提出物に関しては、添削をして返却をする。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 講義内容を復習すること。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：宝塚市立中央図書館 資料調査員 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 情報資源組織演習 |
|---------|---------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 書誌データの作成 | (学修内容) 目録法及び記述に関する総則を解説 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「情報資源組織論」で学習した内容を復習しておくこと。 |
| 第2回 | 各書誌的事項の記述 | (学修内容) 和資料を中心に各書誌的事項の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。 |
| 第3回 | 書誌階層構造 | (学修内容) 集合・基礎・構成単位の書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。 |
| 第4回 | 継続資料の書誌データの作成 | (学修内容) 逐次刊行物に関する書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。 |
| 第5回 | 非図書資料の書誌データの作成 | (学修内容) 地図資料、電子資料、映像資料、録音資料に関する書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。 |
| 第6回 | 標目の付与、『日本目録規則2018年版』 | (学修内容) 標目の表記方法を解説、演習問題。今年出された『日本目録規則2018年版』の内容を解説。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。 |
| 第7回 | 書誌ユーティリティにおける目録作成 | (学修内容) 集中化・共同化による書誌データ作成の実際、メタデータの作成。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。 |
| 第8回 | 書誌データ管理・検索システムの構築 | (学修内容) 書誌データベースの構築。メタデータの作成。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。 |
| 第9回 | 主題分析と分類作業の実際 | (学修内容) 主題分析の方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。 |
| 第10回 | 日本十進分類法の活用法 | (学修内容) 日本十進分類法の構成、利用の仕方を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。 |
| 第11回 | 日本十進分類法による分類作業 形式区分 | (学修内容) 日本十進分類法の形式区分に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。 |
| 第12回 | 日本十進分類法による分類作業 地理区分、海洋区分 | (学修内容) 日本十進分類法の地理区分・海洋区分に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。 |
| 第13回 | 日本十進分類法による分類作業 言語区分、固有補助表 | (学修内容) 日本十進分類法の言語区分、固有補助表(言語共通区分、文学共通区分ほか)に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。 |
| 第14回 | 分類規程・図書記号の付与 | (学修内容) 分類規程、図書記号の付与に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。 |
| 第15回 | 基本件名標目表による件名付与 | (学修内容) 基本件名標目表の構成、利用の仕方を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 図書・図書館史 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | |
| 英文名 | History of Books and Libraries | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 渡邊 雄一 | | | 対象学生 | 歴史2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>図書の形態、印刷、普及、流通に関して歴史的に概説し、あわせて図書館の歴史的な展開についても解説する。古代知識の集積と図書館のはじまり、中世社会の思想と図書館との関係、近世図書館思想の広まりから公共図書館の誕生までの歴史を、西欧、中国、日本の視点から考えていく。図書館の歴史に対する理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 図書を中心とするメディアの歴史や、西洋・東洋の図書館の歴史を説明することができる。 2) 図書館の歴史的意義、文化的意義を説明することができる。 3) 日本の図書館の歴史に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (55%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (45%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テキスト | 『図書・図書館史』(現代図書館情報学シリーズ11) 佃一可、樹村房、2012年 | | | | | | | | |
| 参考書 | 随時指示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 普段から図書館に向かうよう心掛け、図書館の様子を観察してもらいたい。グループワークやプレゼンテーションでは主体的な学びが求められる。積極的に授業に参加してもらいたい。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館の歴史について解説します。 | | | | | | | | |

| 授業名 | 図書・図書館史 | |
|------|----------------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。 |
| 第2回 | 古代の図書館(西洋) | (学修内容)文字の発生と記録、古代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 古代の文字の種類とその記録媒体について考えておくこと。 |
| 第3回 | 中世の図書館(西洋) | (学修内容)修道院図書館や大学図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.62~P.77をよく読んでおくこと。 |
| 第4回 | 近世の図書館(西洋) | (学修内容)ガブリエル・ノーデやライプニッツの図書館思想などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.94~P.111をよく読んでおくこと。 |
| 第5回 | 近現代の図書館(西洋) | (学修内容)大英博物館図書館やボストン公共図書館の成立などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.134~P.146をよく読んでおくこと。 |
| 第6回 | 中国の図書の歴史(古代・中世) | (学修内容)紙の発明、四部分類について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.27~P.40をよく読んでおくこと。 |
| 第7回 | 中国の図書の歴史(近世・近代) | (学修内容)印刷時代の図書について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.123~P.131をよく読んでおくこと。 |
| 第8回 | 古代の図書館(日本) | (学修内容)奈良時代・平安時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.50~P.60をよく読んでおくこと。 |
| 第9回 | 中世の図書館(日本) | (学修内容)鎌倉時代・室町時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.86~P.91をよく読んでおくこと。 |
| 第10回 | 近世の図書館(日本) | (学修内容)江戸時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.112~P.122をよく読んでおくこと。 |
| 第11回 | 近代の図書館(日本) | (学修内容)明治・大正・昭和前期の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.147~P.166をよく読んでおくこと。 |
| 第12回 | 現代の図書館(日本) | (学修内容)第二次世界大戦以降の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.183~P.204をよく読んでおくこと。 |
| 第13回 | 日本の図書館の歴史について(グループワーク) 図書館の概要 | (学修内容)これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の概要をワークシートに従って調査する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 取り上げる図書館について、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 |
| 第14回 | 日本の図書館の歴史について(グループワーク) 関わった人物 | (学修内容)これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の創立に関わった人物について調査する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、取り上げる図書館について記載されている資料を閲覧しておくこと。 |
| 第15回 | 日本の図書館の歴史について(プレゼンテーショ | (学修内容)前回までの調査で明らかになった事項をパワーポイントを用いて発表する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 前回までの調査で明らかになった事柄を整理し、パワーポイント資料を作成する。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|----------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 家庭支援論 a・b | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Studies on Family Support | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 斧出 節子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2ya~yf、yg~yl | | | | |
| 授業の概要 | 現在子育てに関する多くの問題が提示されているが、家族のあり方そのものや、私たちの家族に対するイメージが問題解決を阻む要因となる場合も少なくない。本講義では、家族は歴史的産物であるという認識をもち、何が問題なのかということを広く社会システムの中で考え、それとともに何が家族の支援になるのかを国際比較も用いながら考えていく。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 現代家族の「見方」を習得することができる。 2) 現代家族がかかえる育児問題を理解することができる。 3) 保育場面での親の問題を理解することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (80 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (20 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 (| | |
| テ キ ス ト | 配布プリント使用 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 『男の育児・女の育児』大和礼子ほか編著(昭和堂)、『よくわかる現代家族』神原文子ほか編著(ミネルヴァ書房)ほか適宜紹介する | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | リアクションペーパーに対してコメントする。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 家庭支援論 a・b | |
|------|----------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション・家族イメージについて | (学修内容)現在の私たちの家族イメージはどのようなものか理解する(グループワーク、ディスカッションを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスをよみ、授業の全他像を把握しておく |
| 第2回 | 近代化と家族 | (学修内容)近代化することによって家族はどのような変化を遂げたのかを理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 近代化とは何か調べておく |
| 第3回 | 育児ストレス | (学修内容)育児ストレスや育児不安について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) どのような育児ストレスがあるか調べておく |
| 第4回 | 母親の育児ストレス | (学修内容)母親の育児ストレスの実態について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく |
| 第5回 | 育児ストレス:事例研究 | (学修内容)育児ストレスにかかわる具体的な映像を見る(ディスカッションを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく |
| 第6回 | 育児ストレス:事例研究まとめ | (学修内容)事例を分析する(グループワーク含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく |
| 第7回 | 母親の育児ネットワーク | (学修内容)母親の育児ネットワークについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業内容をまとめておく |
| 第8回 | 父親の育児 | (学修内容)父親の育児の実態について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 父親はどのように子どもとかわっているか調べておく |
| 第9回 | 父親の育児ストレス | (学修内容)父親の育児ストレスについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく |
| 第10回 | 日本の育児支援制度 | (学修内容)育児休業について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 育児休業制度について調べておく |
| 第11回 | 家庭保育時間の実態 | (学修内容)父親、母親の保育時間の実態について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく |
| 第12回 | スウェーデンの子育て支援制度 | (学修内容)スウェーデンの子育て支援について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) スウェーデンの国について調べておく |
| 第13回 | スウェーデンの子育て支援の実際 | (学修内容)スウェーデンの子育て支援の実際について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく |
| 第14回 | 具体的な保育者の支援 | (学修内容)保護者に対し保育者としてどのように支援していくかを考える(グループワークを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 実際の保育者の支援の方法について調べておく |
| 第15回 | まとめ | (学修内容)半期間の授業内容をまとめる (事前事後学修課題の内容)(30分) 疑問点をまとめておく |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|--------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 児童文化 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Children's Culture | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 川北 典子 | | | 対象学生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>多様化を極める現代の子どもをとりまく文化的環境のなかで、玩具や絵本など、乳幼児の身近な児童文化財については、それらを手渡すおとなの役割が重要となる。この授業では、保育教材としての児童文化財の活用・伝達の技術体得をとおり、それらが子どもの心身の発達に及ぼす影響について考察する。なお、絵本や人形劇等の実際を学ぶにあたっては適宜グループワークやディスカッションも取り入れる。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 子どもの生活に密接にかかわる児童文化について、概要を知り、その重要性を十分に理解する。 2) 実際に保育現場で、絵本や紙芝居、おはなしなど種々の児童文化財を活用することができるよう、技術や方法を習得する。 3) 児童文化施設について理解し、そこでの子育て支援活動の方法を身につける。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (創作力) | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | | |
| テキスト | 『子どもの育ちを支える 児童文化』川北典子編著 あいり出版 | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業中に適宜紹介する。 保育所保育指針 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出された制作物や小レポートについては、随時コメントを付けて返却する。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 講義が中心であるが、適宜実技も取り入れる。常に子どもをとりまく文化的環境に関心を持つこと。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 児童文化 |
|---------|------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 児童文化とは何か | (学修内容) 授業概要の説明。児童文化の概念を理解し、考察を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼児期に自分自身が出あった絵本や玩具について思い出しておく。 |
| 第2回 | 現代の子どもの生活と文化・文化財 | (学修内容) 児童文化の歴史を解説。子どもの生活と環境について見直す。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自身の子どもの頃の生活や遊び環境を思い出しておく。 |
| 第3回 | 児童文化財(絵本の創造) | (学修内容) 絵本とは何かの認識を深め、概要を学ぶ。 グループでディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもにとっての絵本の意義を考えておく。 |
| 第4回 | 児童文化財(絵本の種類) | (学修内容) 絵本の種類について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 家庭や図書館で、自分の好きな絵本を見つける。 |
| 第5回 | 児童文化財(絵本の内容) | (学修内容) 絵本の年齢や発達に応じた役割を理解する。 グループに分かれて各自のお薦め絵本を読み合う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 家庭や図書館で、多くの絵本を読み選択する。 |
| 第6回 | 児童文化財(児童文学・詩) | (学修内容) 幼年文学や詩について、概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼年文学や幼児対象の詩を自分で選んで読んでおく。 |
| 第7回 | 児童文化財(おはなし) | (学修内容) 口演童話・ストーリーテリングについて学ぶ。 覚えたおはなしを発表する。 (事前事後学修課題の内容) (80分) おはなしを覚えて発表の準備をする。 |
| 第8回 | 児童文化財(紙芝居) | (学修内容) 紙芝居と絵本の違いを理解する。 グループに分かれて紙芝居を演じる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 図書館等で紙芝居を選び、演じる練習をする。 |
| 第9回 | 児童文化財(人形劇) | (学修内容) 人形劇の歴史と概要について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育教材としての人形劇の特徴について調べる。 |
| 第10回 | 児童文化財(玩具・遊具) | (学修内容) 子どもの発達に応じた玩具や遊具を知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自身の子どもの頃に遊んだ玩具や遊具を思い出しておく。 |
| 第11回 | 指人形の制作 | (学修内容) 簡単な指人形を制作し、演じ方を身につける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 指定された道具や材料を用意する。 人形のデザインを考える。 |
| 第12回 | 児童文化施設 | (学修内容) 児童文化施設について解説。児童館や児童図書館、博物館等について意義や役割を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 地域の児童館や児童図書館(室)における子どもや保護者への支援について調べておく。 |
| 第13回 | 児童文化活動(造形活動) | (学修内容) 身近な素材で工夫して玩具を作る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 指定された道具や材料を準備する。 作品の原案を考えておく。 |
| 第14回 | 児童文化活動(遊び) | (学修内容) 子どもの発達における遊びの重要性を理解する。 幼児期の遊び場マップを作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもにとっての遊びの意義について考えておく。 |
| 第15回 | 児童文化の展望と課題 | (学修内容) 児童文化にかかわる問題点と今日的課題を提示し考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 全学習をととしての気づきや自分自身の課題についてまとめておく。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|-------------|--------------------------|----------------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 音楽理論 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Music Theory | | | 開講時期 | 春学期 | | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 山中 信子 | | | 対象学生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 音楽の諸理論（音階・音程・調性・機能と和声・旋律・リズム等）に対する理解を深め、音楽的諸活動を感性的な視点からだけでなく、理論的な視点の双方向から理解できるようになることを目指す。このため、理論と実践との関係を常に念頭に置きつつグループワークやディスカッション、楽器の実演等を行い、授業を進めていく。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 西洋および日本の音楽の基本的な音階構造を理解できる。 2) 和音・機能と和声について理解することができる。 3) 平行調・属調・下屬調等をはじめとする調の関係性について理解することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業） | | グループワーク ICT活用（自主学习支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 () () | | | |
| テキスト | 『保育者・教師を目指すあなたへ 音楽の理論』小畑秀樹・渡辺明子・春日保人著 共同音楽出版社 『先生のための楽典入門』加藤徹也著 スタイルノート | | | | | | | | |
| 参考書 | 『楽典(理論と実習)』石桁真礼生他著 音楽之友社 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 授業にて毎回小試験を実施。小試験は採点后に答案を返却し、解答の解説を行う。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 理論と実践とを関連付けて理解するため、適宜鍵盤楽器等を用いた解説・および個別小試験も実施する。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日12:10～13:00 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 音楽理論 | |
|------|--------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション・既学習事項の確認 | (学修内容) 授業の注意事項・既習の音楽理論事項の確認 (事前事後学修課題の内容) (60分) シラバスを確認し、予習として音楽理論の既学習事項をまとめておくこと。授業時に理解度確認のための小試験を実施する。 |
| 第2回 | 音部記号、階名・音名、音程 | (学修内容) 各音部記号の意味、階名・音名の違い、長短系・完全系音程について (事前事後学修課題の内容) (60分) 各音部記号の意味、階名・音名の違い、長短系・完全系音程について復習しておくこと。次回授業時に小試験を実施する。 |
| 第3回 | 調性、長・短音階 | (学修内容) 調性、長・短音階(自然・和声・旋律短音階)の音程構造について (事前事後学修課題の内容) (60分) 調性、長・短音階(自然・和声・旋律)の音程構造について復習しておくこと。次回授業時に小試験を実施する。 |
| 第4回 | 関係調 | (学修内容) 関係調(平行調・同主調・属調・下属調)と音楽作品内におけるその扱いについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 関係調について復習しておくこと。次回授業時に小試験を実施する。 |
| 第5回 | 和音(長・短・増・減3和音) | (学修内容) 長・短・増・減3和音の構造およびコードによる表記について (事前事後学修課題の内容) (60分) 長・短・増・減3和音の構造とその響きの違いを復習しておくこと。次回授業時に小試験(筆記・ピアノ)を実施する。 |
| 第6回 | 和音(属7その他の和音) | (学修内容) 属7その他の和音の構造およびコードによる表記について (事前事後学修課題の内容) (60分) 属7その他の和音構造その響きの違いを復習しておくこと。次回授業時に小試験(筆記・ピアノ)を実施する。 |
| 第7回 | 和音まとめ | (学修内容) 各和音のバリエーションとコードによる表記について (事前事後学修課題の内容) (60分) 各和音のバリエーションを実際の楽譜上での扱いを見つつ復習しておくこと。次回授業時に小試験(筆記・ピアノ)を実施する。 |
| 第8回 | 音価 | (学修内容) 音価の相対的関係性について (事前事後学修課題の内容) (60分) 音価の相対的関係性について復習しておくこと。次回授業時に小試験を実施する。 |
| 第9回 | リズム | (学修内容) リズム表記とそのバリエーションについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 基本的なリズム表記とそのパターンについて復習しておくこと。次回授業時に小試験を実施する。 |
| 第10回 | 拍子(2拍子系) | (学修内容) 拍子(2拍子系)について (事前事後学修課題の内容) (60分) 拍子(2拍子系)について復習し、その強・弱拍の特徴を復習しておくこと。次回授業時に小試験を実施する。 |
| 第11回 | 拍子(3拍子系) | (学修内容) 拍子(3拍子系)について (事前事後学修課題の内容) (60分) 拍子(3拍子系)について復習し、その強・弱拍の特徴を復習しておくこと。次回授業時に小試験を実施する。 |
| 第12回 | 和声進行 | (学修内容) 和声進行の基本的なパターンについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 和声進行の基本パターンについて復習しておくこと。次回授業時に小試験を実施する。 |
| 第13回 | 和声音・非和声音 | (学修内容) 旋律上の和声音・非和声音について (事前事後学修課題の内容) (60分) 旋律上の和声音・非和声音の扱いについて復習しておくこと。次回授業時に小試験を実施する。 |
| 第14回 | 音階のバリエーション | (学修内容) 日本と日本以外の音階、全音音階・12音音階、西洋の教会旋法等について (事前事後学修課題の内容) (60分) 日本の音階の典型的な4種のパターンと全音音階について重点的に復習しておくこと。次回授業時に小試験を実施する。 |
| 第15回 | 記譜のルールと学習内容の総まとめ | (学修内容) 記譜のルール確認と学習内容の総まとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として既に学習した内容と疑問点をまとめておくこと。また、記譜の基本的なルールを復習しておくこと。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|--------------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 養護内容 a・b | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Social Corporate Parenting | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 箱田 成司 | | | 対象学生 | 幼児教育2ya～yf・2yg～yl | | | | |
| 授業の概要 | 社会的養護について理論的な内容を踏まえて説明するとともに、施設や里親家庭で生活する子どもたちの具体的な姿を紹介することにより、社会的養護の現状と課題を明らかにする。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 社会的養護の現状と課題を理解することができる。 2) 児童養護施設や里親家庭で暮らす子どもたちの現状と課題を理解できる。 3) ソーシャルワークのできる保育者としての姿勢・態度・実践力を身につける。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (60%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (授業態度) | プレゼンテーション能力 (提出物と出席率) | 課題発見・解決能力 | | | | |
| テキスト | 安藤和彦・石田慎二・山川宏和 編著 『社会的養護内容演習』 建帛社 | | | | | | | | |
| 参考書 | 適宜紹介する | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 講義の時に、その都度対応する。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 視聴する映像素材などもすべて試験の範囲となります。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 養護内容 a・b | |
|------|-----------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション 社会的養護の課題 | (学修内容) 社会的養護の課題について (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習を振り返っておく |
| 第2回 | 社会的養護を利用する子どもの理解について | (学修内容) 社会的養護が必要な子どもが存在する理由について (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習を振り返っておく |
| 第3回 | 社会的養護を利用する子どもの自立について | (学修内容) 衣食住について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の生活力について考える。 |
| 第4回 | 社会的養護を利用する子どもの自立について | (学修内容) 学習や就職するという事について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の今までの就学歴や今後の就職について考える。 |
| 第5回 | 社会的養護を利用する子どもの自立について | (学修内容) 社会性について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会に入るとい事を理解する。 |
| 第6回 | 自立支援と対処後の支援について | (学修内容) 社会的養護の退所後の生活 (事前事後学修課題の内容) (30分) 税金や保険について調べておく |
| 第7回 | 親の支援について (P C I T) | (学修内容) P C I T (親子相互交流療法) について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 最近あった、虐待のニュースの理解をする。 |
| 第8回 | 虐待をしてしまう親の心理について | (学修内容) 虐待について理解を深める (事前事後学修課題の内容) (30分) 最近あった虐待のニュースを調べる。 |
| 第9回 | 虐待を受けた児童の心理について | (学修内容) 被虐待児の理解を深める (事前事後学修課題の内容) (30分) 最近あった虐待のニュースを調べる。 |
| 第10回 | 障がい児について | (学修内容) 障がいについての理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 知っている障がいについて調べる。 |
| 第11回 | 障がい児について | (学修内容) 障がい児の福祉サービスについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 福祉サービスについて調べておく |
| 第12回 | 障がい児の個別支援計画について | (学修内容) 個別支援計画の作成について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第5章を読んでおく |
| 第13回 | 児童相談所の業務について理解する | (学修内容) 児童相談所の役割について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第12章を読んでおく |
| 第14回 | 里親委託児童の支援 | (学修内容) 里親委託と養子縁組について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第13章を読んでおく |
| 第15回 | これからの社会と児童を養護について | (学修内容) これからの社会課題についての理解をする (事前事後学修課題の内容) (30分) 関心を持っているニュースを見る。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|----------------------------|------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 教育実習事前・事後指導 b | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten) | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 鈴木 えり子・浅田 瞳・平尾 隆史・大野 照美・乾 眞理子・東野 洋子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 教育実習を行うために必要な事前の事項について具体的に学ぶ。 幼稚園教育の概要を学び現場の教育の全体が理解できるようにする。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 対 達 目 標 | 1) 実習の意義、目的を理解することができる。 2) 実習に臨むための心構えや教員の倫理観が理解できる。 3) 日常の態度や言動を振り返り、幼児のモデルとなるよう見直すことができる。 4) 実習直前の準備として、幼児とのかかわり(指導)、指導計画案の理解、実習ノート記入などの重要な意義を確認することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | プレゼンテーション | | | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 文部科学省編『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 京都教育大学附属幼稚園編「教育課程・指導計画」 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 授業中に提出したレポートに対してコメントをつけて返却し、授業内で解説を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 教育実習に関する内容であるので無断欠席は認めない。 免許取得にかかる関係科目の履修状況、出席態度によって実習開始できないこともある。 授業時間外で評価面談を行う。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 木曜日12時10分から13時 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 教育実習事前・事後指導 b |
|---------|--|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 教育実習事前・事後指導の授業について | (学修内容) 実習に向けた授業の進め方を理解する。実習生カードを記入する (事前事後学修課題の内容) (30分) 1回生の授業内容を確認し配布プリント類をまとめておく |
| 第2回 | 幼稚園教諭になるための心構え 教育実習2週間の内容 | (学修内容) 教師としての意識をたかめる。2週間の実習内容を想定する (事前事後学修課題の内容) (30分) どのような教師になるか考えレポートにまとめて提出する |
| 第3回 | 6月実習目標の設定 オリエンテーションと報告書の説明 | (学修内容) 6月実習目標の設定、オリエンテーションの内容と報告書の記入について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習に至る手続きを振り返り、配布した書類は不備がないように完成させて提出する |
| 第4回 | 「幼稚園指導計画案」の作成1 6月の指導計画 | (学修内容) 指導計画の目的と書き方を理解する。6月の幼児の遊び・生活を予想して計画を立案作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 6月実習の目標を配布プリントに記入し提出する |
| 第5回 | 実習の心構え 実習ノート記入の実際 | (学修内容) 6月実習ノート配布 実習の心構えの確認 実習ノートの内容を把握する (事前事後学修課題の内容) (120分) 指導計画案の立案・作成して提出する |
| 第6回 | 実習ノートを書くための保育の理解 | (学修内容) 実習ノート記入の必要性を理解し、記録のとり方を練習する (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布された実習ノートを見直し授業内で指示した項目を記入し提出する |
| 第7回 | 諸届けの記入 個人情報保護に関する誓約書の説明 実習訪問担当教員との顔合わせ | (学修内容) 諸届けの記入の仕方と必要性を理解する。個人情報保護の重要性和社会人としての責任を確認する (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼児の姿と保育の記録を作成し提出する |
| 第8回 | 「幼稚園指導計画案」の作成2 学生作成の指導計画案から学ぶ 実習評価の観点 | (学修内容) 学生が作成した指導案をもとに書き方を学び、各自見直す。実習評価の観点について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習ノートの実習園の概要、教育方針など必要事項を記入する |
| 第9回 | 幼稚園教育実習期間 | (学修内容) 実習 (事前事後学修課題の内容) (180分) 各自の実習に応じて、設定保育・部分実習の計画や準備、ピアノ練習などを行う |
| 第10回 | 幼稚園教育実習期間 | (学修内容) 実習 (事前事後学修課題の内容) (180分) 各自の実習に応じて、設定保育・部分実習の計画や準備、ピアノ練習などを行う |
| 第11回 | 6月実習の振り返り 9月実習の目標設定 | (学修内容) 振り返りシートを記入し提出する(6月実習の振り返り、自己課題を明確する) (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習振り返りシートの項目について考え、まとめる |
| 第12回 | 幼児と楽しむ保育内容(実技・教材研究) | (学修内容) 七夕の伝統行事を取り入れた幼児と楽しむ保育を体験する (事前事後学修課題の内容) (60分) 9月の実習目標(下書き)を作成する。七夕の行事について調べる。 |
| 第13回 | 「幼稚園指導計画案」の作成3 9月の指導計画 | (学修内容) 9月の幼児の遊び・生活を予想して計画を立案作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 「教育課程・指導計画」の各学年9月の内容を予習する |
| 第14回 | 6月実習の体験報告 | (学修内容) 各園の状況や実習内容の共通理解を図る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体験報告で聞いた内容を自分の実習体験と比較してレポートにまとめて提出する |
| 第15回 | 9月実習に向けての心構えと準備 | (学修内容) 9月実習ノートの配布 9月実習に向けて心構えや準備の再確認をする (事前事後学修課題の内容) (60分) 9月の保育を予想して心構えややるべきことを確認する |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|----------------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 相談援助 a・b | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Consultation Support | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 必修 | | |
| 担当者 | 名賀 亨 | | | 対象学生 | 幼児教育2ya~yf、yg~yl | | | | |
| 授業の概要 | 相談援助の理論や意義を理解するとともに、相談援助の方法（主にケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク）に関して、発展過程や基本的枠組み、具体的な援助方法について保育と関連させながらその内容を学習する。授業の方法としてアクティブラーニングも組み入れて、事前に学習しまとめたことを適宜発表するとともに、それぞれが講義内容と照らし合わせながら学びを深めることができるようにする。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 相談援助の基本的な考え方や方法、また直接援助技術および間接援助技術の内容と方法について説明することができるようになる。 2) 学んだ知識を保育現場での対応に活用することができるようになる。 3) 援助方法の一つであるグループワークにおける相互作用を理解し、保育の現場で実践できるようになる 4) 課題を適宜プレゼンテーションすることを通して、まとめる力や発表する力の基礎を身につけることができる | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業） | | グループワーク ICT活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 () () | | | |
| テキスト | 大嶋恭二・金子恵美 編著 「相談援助」 建帛社 2018 | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 日常的な課題やレポートについて記載内容を評価するとともに、関連事項を加味してその解説を行いそれぞれの学びを促す。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 保育士も実践現場において相談援助の諸技術を活用し支援することが求められている。この授業では、相談援助の価値や原則、過程をワークショップなども交えて学ぶため、援助者としての保育士を意識して積極的にかつ主体的に授業に参加すること。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 水曜日 昼休み | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 相談援助 a・b | |
|------|----------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 授業オリエンテーション | (学修内容) 授業の内容と進め方、評価方法などを説明するとともに、15回の授業計画と概要を説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み相談援助を自分なりに整理し、15回の学びをイメージしておく。 |
| 第2回 | 相談援助の基本的な考え方 | (学修内容) 相談援助の必要性や専門性から相談援助を学ぶ意義、相談援助の定義と内容を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター1を読み、保育現場での相談援助の必要性を整理しておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第3回 | 相談援助の理論、意義、機能 | (学修内容) 保育業務と相談援助を関連させながら、相談援助の意義や機能について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター2を読み、相談援助の意義や機能を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第4回 | 相談援助とソーシャルワーク | (学修内容) 相談援助という観点から、ソーシャルワークの意味や原理・原則について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター3を読み、相談とは何か、援助とは何かについて整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第5回 | 保育とソーシャルワーク | (学修内容) 保育を通じたソーシャルワークの在り方や保育ソーシャルワークの基本原則について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター4を読み、保育ソーシャルワークの意味および基本原則を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第6回 | 相談援助の方法と技術 1 相談援助の対象 | (学修内容) 相談援助の対象や対象理解の視点について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター5を読み、相談援助の対象とは何か整理してまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第7回 | 相談援助の方法と技術 2 相談援助の過程 | (学修内容) 相談援助の具体的な支援の過程とそれぞれの内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター6を読み、相談援助の支援の過程を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第8回 | 相談援助の方法と技術 3 相談援助の技術とアプローチ | (学修内容) 相談援助技術の具体的な方法についてその意味と意義について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター7を読み、直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第9回 | 相談援助の方法と技術 4 個別援助技術 | (学修内容) 直接援助技術の一つとしてとしてのケースワークについて、その内容、方法、原則について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター7を読み、ケースワークの原則について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第10回 | 相談援助の方法と技術 5 集団援助技術 1 | (学修内容) 直接援助技術の一つとしてのグループワークについて、様々な定義を理解し、その内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター7を読み、グループワークの意味について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第11回 | 相談援助の方法と技術 6 集団援助技術 2 | (学修内容) グループワークの実践方法、支援者としてのかわり方、ファシリテーションの在り方などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター7を読み、グループワークの原則、支援者と対象者との関係についてまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第12回 | 相談援助の方法と技術 7 地域援助技術 | (学修内容) 間接援助技術の一つの方法としての、コミュニティ・ワークについてその基本的な考え方と実際について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター8を読み、コミュニティ・ソーシャル・ワークの意味を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第13回 | 相談援助の方法と技術 8 その他の援助技術 | (学修内容) その他の間接援助技術について、それらの意味と実際の支援について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター8を読み、相談援助のアプローチを間接援助技術の視点で整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第14回 | 相談援助の方法と技術 9 基本資料の作成 | (学修内容) 相談援助計画作成の意義・作成の視点・作成のプロセスなどについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストチャプター9を読み、相談援助計画とは何かを整理してまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第15回 | まとめ 授業全体の振り返り | (学修内容) 保育を軸にした相談援助に関する具体的な展開について、これまでの授業を振り返り、今後の保育における相談援助の在り方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ここまでの授業内容を振り返り、相談援助に必要な社会資源の活用や調整あるいは開発について整理しておく。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 小児保健実習 c | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Infant Health Care Training | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 中村 洋子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2y1~y1 | | | | |
| 授業の概要 | 保育の指導者としてやまた養育者として、子育てする際に必要な乳幼児の健康管理の方法について、実習を通して学び、保育現場で起きる保健衛生の問題（乳幼児の疾病・その予防と早期発見、看護、救急処置等）について適切に対応できる能力を養う。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 乳幼児の成長と発達及び生理的機能の観察について理解できる。 2) 乳幼児の基本的習慣の獲得への援助について理解できる。 3) 日常生活に必要な看護技術について理解できる。 4) 乳幼児の事故及び救急手当について理解できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 『子どもの保健・実習』 兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著（同文書院） | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 『小児保健実習ノート』 榎原洋一監修（診断と治療社） | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 実習後に振り返りを提出し、解説をする。 小テストの回答を解説する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | グループで実習を行うが、全員が技術を習得すること。事前にテキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室に提示します。確認しておいてください。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：市役所、医療少年院に保健師として勤務。 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 小児保健実習 c |
|---------|--------------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション 乳幼児の扱い方 | (学修内容) 授業の進め方、乳児の抱き方と衣服の着脱 (実習) (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおくこと。 該当するテキスト部分をよく読んでおくこと |
| 第2回 | 身体発育の測定方法 | (学修内容) 身長・体重・胸囲・頭囲の測定、大泉門の観察 (実習) (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習したことをまとめておくこと。 (次回発表) |
| 第3回 | 乳幼児の発達 身体発育の評価法 | (学修内容) 発達曲線とカウプ指数、母子健康手帳の活用 (事前事後学修課題の内容) (30分) カウプ指数を復習しておくこと〔母子健康手帳持参〕 |
| 第4回 | バイタルサインの測定法 | (学修内容) 体温・脈拍・呼吸・血圧の整理と測定方法 (実習) (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習したことをまとめておくこと。 |
| 第5回 | 生理機能の観察 視力・聴力の測定方法 | (学修内容) 視力・聴力の発達と測定方法、尿便の生理 (実習) (事前事後学修課題の内容) (30分) 乳幼児健診の資料をよく読んでおくこと |
| 第6回 | 歯の健康と歯みがき指導法 | (学修内容) 歯の発育、虫歯の原因と予防、ブラッシング法 (実際にプレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に子ども達への指導する内容を確認しておくこと 〔歯ブラシと手鏡、コップ持参のこと〕 |
| 第7回 | 咀嚼機能 母乳の与え方・調乳の方法 | (学修内容) 母乳と人工栄養の特徴、授乳と調乳の方法 (実習) (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習内容をまとめておくこと。 配布した資料を読んでおくこと。 |
| 第8回 | 生活リズムの確立 赤ちゃん体操 | (学修内容) 生活リズムの作り方、発達を促す赤ちゃん体操、ベビーマッサージ (実習) (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習内容をまとめておくこと。 配布資料をよく読んでおくこと |
| 第9回 | 新生児の沐浴 身体の清潔法 | (学修内容) 沐浴の意義・沐浴の仕方、清拭・部分浴 (実習) (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当するテキスト部分をよく読んでおくこと 〔エプロン・ジャージ持参のこと〕 |
| 第10回 | 乳幼児の病気と看護 感染予防 手洗い | (学修内容) ウイルス性・細菌性疾患と看護、手洗い方法 (実習) (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当するテキスト部分をよく読んでおくこと |
| 第11回 | 一般症状に対する看護(発熱腹痛下痢便秘) 電法 | (学修内容) 発熱・腹痛・下痢・便秘の看護、電法の意義と方法 (実習) (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習した復習をしておくこと。 |
| 第12回 | 一般症状に対する看護(嘔吐咳嗽けいれん脱水) 消毒方法 | (学修内容) 嘔吐・咳嗽・けいれん・脱水の看護、消毒方法 (実習) (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習内容をまとめておくこと。 該当するテキスト部分をよく読んでおくこと |
| 第13回 | 薬の扱い方与え方 保育の現場での医薬品 エピペン等の使用方法 | (学修内容) 薬の正しい与え方、エピペンの使い方 (実習) (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当するテキスト部分をよく読んでおくこと |
| 第14回 | 乳幼児の事故 心肺蘇生法 | (学修内容) 事故・心肺蘇生法の意義と方法、AEDの使い方 (実習) (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習内容を復習しておくこと |
| 第15回 | 応急手当 包帯法 まとめ | (学修内容) 誤飲・創傷・熱傷の対処法、包帯の種類と方法 (実習) (事前事後学修課題の内容) (40分) 今までの資料・テキストをまとめておくこと |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|-----------|--|
| 授 業 名 | 小児保健実習 b | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | |
| 英 文 名 | Infant Health Care Training | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 高田 智恵子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2ye～yh | | | | |
| 授業の概要 | 保育の指導者として、あるいは、将来母親として子育てする際に必要な乳幼児の健康管理の方法について、実習を通して学び、保育現場で起きる保健衛生の問題（乳幼児の疾病・その予防と早期発見、看護、救急処置等）について適切に対応できる能力を養っていく。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 乳幼児の成長と発達及び生理的機能の観察について理解できる。 2) 乳幼児の基本的習慣の獲得への援助について理解できる。 3) 日常生活に必要な看護技術について理解できる。 4) 乳幼児の事故及び救急手当について理解できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 『子どもの保健・実習』 兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著（同文書院） | | | | | | | | |
| 参 考 書 | | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | フィードバックとして、理解度確認テスト終了後、解答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | グループで実習を行うが、全員が技術を習得すること。事前に教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：市町村保健師として勤務。 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 小児保健実習 b |
|---------|----------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 科目ガイダンス 乳幼児の扱い方 | (学修内容) 授業の進め方・乳児の抱き方と衣服の着脱 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト P.84~85 P.90~92について、よく読んでおくこと |
| 第2回 | 身体発育の測定方法 | (学修内容) 身長、体重、胸囲、頭囲の測定・大泉門の観察 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト P.35~37についてよく読んでおくこと |
| 第3回 | 身体発育の評価方法 | (学修内容) 発達曲線、カウプ指数、肥満度の理解・母子手帳の活用 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト P.32~35についてよく読んでおくこと |
| 第4回 | バイタルサインの測定方法 | (学修内容) 体温、脈拍、呼吸、血圧の測定・一般状態の観察法 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト P.107~109についてよく読んでおくこと |
| 第5回 | 視力・聴力の発達と測定方法 | (学修内容) 視力検査、聴力検査 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に資料配布するので、よく読んでおくこと |
| 第6回 | 身体の清潔法・新生児の沐浴 | (学修内容) 沐浴の意義、沐浴の仕方・清拭、部分浴の仕方 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト P.93~98についてよく読んでおくこと |
| 第7回 | 子どもの咀嚼機能の発達 母乳の与え方・調乳方法 | (学修内容) 母乳と人工栄養の特徴、授乳と調乳の方法と離乳食の進め方 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト P.52~63についてよく読んでおくこと |
| 第8回 | 歯の健康と虫歯予防 | (学修内容) 歯の発育、歯みがき指導(ブラッシング指導) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に資料配布するので、よく読んでおくこと |
| 第9回 | 生活リズムの確立 排泄の自立 | (学修内容) 生活リズムの作り方、発達を促す赤ちゃん体操、排泄の自立について (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト P.74~79 P.246 P.86~88について、よく読んでおくこと |
| 第10回 | 一般的な症状に対する看護(1) | (学修内容) 発熱、腹痛、下痢等の看護、電法の方法 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト P.113~119についてよく読んでおくこと |
| 第11回 | 一般的な症状に対する看護(2)・薬の与え方 | (学修内容) 嘔吐・けいれん等の看護、経口補水療法、薬の取り扱いについて (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト P.119~124 P.125について、よく読んでおくこと |
| 第12回 | 感染症・感染予防 | (学修内容) 感染の予防の仕方、嘔吐物の処理の仕方、手洗い方法 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト P.161~181について、よく読んでおくこと |
| 第13回 | 乳幼児の事故 応急手当・心肺蘇生法 | (学修内容) 子どもの事故の特徴、けが・やけど・鼻出血等の対処法、AEDの使い方 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト P.189~215についてよく読んでおくこと |
| 第14回 | 乳幼児の事故 骨折や打撲の手当(包帯法) | (学修内容) 副木や三角巾の使い方、包帯の巻き方 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に資料配布するので、よく読んでおくこと |
| 第15回 | 集団保育における健康管理 小児保健実習のまとめ | (学修内容) 保育における健康支援について 小児保健実習のまとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト P.219~245についてよく読んでおくこと |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 小児保健実習 a | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Infant Health Care Training | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 今井 富江 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2ya ~ yd | | | | |
| 授業の概要 | <p>幼児の保育・教育の場において、子どもの成長を守るために必要な、保健の知識・技術を身につけ、保育の現場で保育の専門家として発揮できる豊かな能力を養う。理解を深めるために、適宜ビデオをみたり、グループワークを実施する。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 乳幼児期の身体的、精神的、生理的発達について理解できる。 2) 乳幼児の日常生活に必要な看護技術が理解できる。 3) 乳幼児期の事故や応急手当の方法について理解できる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 「子どもの保健・実習」(同文書院)兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 理解度テストを回収後、解答を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 講義や演習により保育・子育てに役立つよう学んでいくため、事前に教科書等熟読しておくこと。 現状がわかるように新聞等から社会の動きを常に理解しておく。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 小児保健実習 a | |
|---------|---------------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション・授業計画、乳幼児の扱い方 | (学修内容) 乳児の抱き方、衣服の着脱おむつのあて方 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストp89～p92をよく読み、レポートにまとめて提出。 |
| 第2回 | 身体発育の測定方法について | (学修内容) 身長・体重・胸囲・頭囲の測定、大泉門の観察(実習) (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストp35～p39、復習としてレポートにまとめて提出。 |
| 第3回 | 乳幼児の発達 身体発育の評価法について | (学修内容) 発達曲線とカーブ指数、母子健康手帳の活用 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストp21～p35 母子手帳持参。復習としてレポートにまとめて提出。 |
| 第4回 | バイタルサインの測定方法について | (学修内容) 体温・脈拍・呼吸・血圧の測定方法(実習) (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストp107～p109を読んでおくこと。復習としてレポートにまとめて提出。 |
| 第5回 | 生理機能の観察 視力・聴力の測定方法 | (学修内容) 視聴覚の発達と測定方法 尿便の生理 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストp86～p89を読んでおくこと。復習としてレポートにまとめて提出。 |
| 第6回 | 歯の健康と歯みがき指導 | (学修内容) 乳歯の役割、虫歯の原因と予防、ブラッシング法(実習) (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストp251～p253 歯ブラシと手鏡持参、復習としてレポートにまとめて提出。 |
| 第7回 | 母乳の与え方と咀嚼機能の発達、調乳と消毒 | (学修内容) 母乳の与え方、人工栄養(授乳と調乳の方法)(実習) (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストp52～p61を読んでおくこと、復習としてレポートにまとめて提出。(グループワーク) |
| 第8回 | 生活リズムの確立と赤ちゃん体操 | (学修内容) 生活リズムの作り方、赤ちゃん体操(実習) (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストp41～p43 p73～p84 復習としてレポートにまとめて提出。 |
| 第9回 | 身体の清潔と新生児の沐浴について | (学修内容) 沐浴の意義と沐浴の仕方・清拭・部分浴、(実習) (事前事後学修課題の内容) (90分) p93～p98 エプロン持参のこと。復習としてレポートにまとめて提出。 |
| 第10回 | 乳幼児の病気と看護 感染予防 手洗い | (学修内容) 手洗い ウイルス性・細菌性の病気と看護(実習) (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストp161～p183を読んでおくこと。復習としてレポートにまとめて提出。 |
| 第11回 | 一般的な症状に対する看護(発熱 腹痛 下痢 便秘) | (学修内容) 発熱・腹痛・下痢・便秘の看護 冷罨法(実習) (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストp113～p119を読んでおくこと。復習としてレポートにまとめて提出。 |
| 第12回 | 一般的な症状(嘔吐 咳嗽 けいれん 脱水)などの看護と消毒方法 | (学修内容) 嘔吐・咳嗽・けいれん・脱水の看護、吐物の消毒(実習) (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストp119～p124 p162～p163を読んでおくこと。復習としてレポートにまとめて提出。 |
| 第13回 | 薬の与え方・保育現場での医薬品について | (学修内容) 薬を与えるための工夫、エビペンの使用について (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストp125～p127 p150を読んでおくこと。復習としてレポートにまとめて提出。 |
| 第14回 | 乳幼児の事故 心肺蘇生法 | (学修内容) 誤飲・窒息・やけど・転落などの事故、心肺蘇生法、AEDについて(実習) (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストp184～p211を読んでおくこと、復習としてレポートにまとめて提出。 |
| 第15回 | 応急手当・包帯法 | (学修内容) 全体的な復習 応急処置と傷の手当(実習) (事前事後学修課題の内容) (90分) 包帯法 テキストp204～p207。復習としてレポートにまとめて提出。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|----------------------------|--------------------------|------------|------------------|-----------|--|
| 授業名 | 器楽演習 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | instrumental performance | | | 開講時期 | 秋学期 | | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 小川 隆昭 | | | 対象学生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>本授業では、音楽療法の実践の基礎となる音楽技術を身につけることを目的とする。授業では、ギター、リコーダー、木琴、鉄琴などの演奏を行う。具体的には、初心者でも、簡単な演奏ができるように次のように授業を進める。まず、ギター、リコーダーの、音階やコードの押さえ方を習得し、また、木琴、鉄琴など、鍵盤打楽器の練習も行う。授業後半は各パートごとに分かれて合奏を行う。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) ピアノ以外（ギター・リコーダー）の旋律楽器の音階、コードを弾くことができる。 2) 打楽器（木琴・鉄琴等）の基礎的な演奏ができる。 3) ピアノ以外の旋律楽器で合奏ができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業） | | グループワーク ICT活用（自主学习支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (音楽的演奏能力) | プレゼンテーション能力 () | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テキスト | プリント | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 練習してきたパートは授業の中で個々に指導する。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 受講生は、授業以外でも、担当楽器を必ず練習することが必要。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 後日研究室前に掲示。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 器楽演習 |
|---------|-----------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス ギター | (学修内容) 授業についての説明 ギターのチューニング、指の押さえ方、音階 (事前事後学修課題の内容) (30分) ギターのチューニングが一人でできるようにする |
| 第2回 | ギター リコーダー | (学修内容) ギターのチューニング、指の押さえ方、音階 リコーダー運指の練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) ギターの練習 リコーダーの練習 |
| 第3回 | ギター リコーダー | (学修内容) ギターのチューニング、指の押さえ方、音階 リコーダー運指の練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダーの練習 |
| 第4回 | ギター リコーダー | (学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダーの練習 |
| 第5回 | ギター リコーダー | (学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダーの練習 |
| 第6回 | ギター リコーダー | (学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダーの練習 |
| 第7回 | ギター リコーダー 木琴、鉄琴 | (学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習 |
| 第8回 | ギター リコーダー 木琴、鉄琴 | (学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (90分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習 |
| 第9回 | ギター リコーダー 木琴、鉄琴 | (学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (120分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習 |
| 第10回 | ギター リコーダー 木琴、鉄琴 | (学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (120分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習 |
| 第11回 | ギター リコーダー 木琴、鉄琴 | (学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (120分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習 |
| 第12回 | 合奏 | (学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自パートの練習 |
| 第13回 | 合奏 | (学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自パートの練習 |
| 第14回 | 合奏 | (学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自パートの練習 |
| 第15回 | 合奏 | (学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自パートの練習 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 音楽療法各論 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | CL1704 |
| 英 文 名 | Advanced Music Therapy | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 坂口 みゆき | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 音楽療法概論を踏まえて、心理療法としての音楽療法についてさらに理解を深める。クライアント（対象者）のニーズをさらに詳しく学び、音楽療法がクライアントをどのように援助するのか考察する。音楽療法概論に引き続き、音楽療法の「音楽」について、ワークショップやそれに伴うディスカッション等を通して体験的に理解を深める。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 対象者の抱える様々なニーズを理解することができる 2) 様々なニーズを抱える対象者に対する音楽療法の概要を説明することができる。 3) 芸術的手段を通して創造的かつ自由に自己表現をすることができ、同時に表現中の自分自身の内的反応を素直に感じることができるようになる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力 (| 課題発見・解決能力) (| | | |
| テ キ ス ト | 稲田雅美 (2016) 『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 藤田哲也監修 串崎真志編著 (2016) 『絶対役立つ臨床心理学：カウンセラーを目指さないあなたにも』ミネルヴァ書房 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 授業内で提出したレポートについては、コメント等を入れて返却する。 ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | テキストの指定箇所または配布プリントを読んでおくこと。ワークショップでは特に、積極的・主体的な取り組みを評価します。また、学生からの積極的な発言は歓迎します。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて事例の具体的な解説や実践的なワークショップを行う。 | | | | | | | | |

| 授業名 | 音楽療法各論 | |
|------|--|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | イントロダクション：音楽療法士に求められるもの | (学修内容) 秋学期の授業計画について説明を受け理解する/音楽療法士(2種)資格について確認する/音楽療法士に求められるものについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、配布資料を読み感想を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第2回 | 音楽療法士の仕事を概観する | (学修内容) 音楽療法士の仕事の実際について、配布資料を読みながら理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、今回の授業で学んだことを小レポートにまとめて提出する。 |
| 第3回 | ワークショップ(実技とディスカッション): コラージュを演奏する | (学修内容) コラージュを制作し、作ったコラージュを見ながら即興的な音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。 |
| 第4回 | 発達の援助と音楽療法: 発達障害と知的障害の概観 | (学修内容) 発達障害と知的障害について概観し、これらの障害を持つ子どものニーズを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第5回 | 発達の援助と音楽療法: ニーズのある子どもの発達を援助する音楽療法 | (学修内容) 様々なニーズを持つ子どもの発達を援助する音楽療法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、テキスト p.30~p.39 を読み、内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第6回 | ワークショップ(実技とディスカッション): 音楽を目に見える形で表現する | (学修内容) 音楽を鑑賞しながら、様々な素材を用いて自由に描画・制作をする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。 |
| 第7回 | 知的障害と音楽療法: 知的障害者の心のニーズ | (学修内容) 知的障害者の心のニーズについて、特にシナソンのセカンダリー・ハンディキャップの概念を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、テキストp.99~p.102を読み内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第8回 | 知的障害と音楽療法: 知的障害者の心のニーズを取り扱う音楽療法 | (学修内容) 知的障害者の心のニーズを取り扱う音楽療法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第9回 | ワークショップ(実技とディスカッション): 制作したものを音楽で表す | (学修内容) 前回のワークショップで制作したものを見ながら即興的な音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。 |
| 第10回 | 精神疾患と音楽療法: 精神疾患の概要 | (学修内容) 精神疾患の概要を学び、精神障害を患う人びとの心のニーズや社会的ニーズについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第11回 | 精神疾患と音楽療法: 精神障害者のニーズを取り扱う音楽療法 | (学修内容) 精神障害者のニーズを取り扱う音楽療法とニーズに応じた実践形態について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、テキストp.17~p.26を読み内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第12回 | ワークショップ(実技とディスカッション): 言葉を音楽で表す | (学修内容) 形容詞と名詞を組み合わせる言葉をつくり、その言葉を即興的に音楽で表す。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。 |
| 第13回 | 高齢者と音楽療法: 高齢者が患う病と心のニーズ | (学修内容) 高齢者が患う病の概要を学び、高齢者の心のニーズを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第14回 | 高齢者と音楽療法: 高齢者のニーズを取り扱う音楽療法 | (学修内容) 高齢者のニーズを取り扱う音楽療法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、テキストp.26~p.28を読み内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第15回 | 秋学期のまとめとワークショップ(実技とディスカッション): 年度終わりの即興演奏 | (学修内容) 秋学期に学んだことのまとめと、グループ即興を行う。ワークショップを通して感じたことなどを感想を話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 音楽療法概論 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | CL1701 |
| 英 文 名 | Introduction to Music Therapy | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必修 | |
| 担 当 者 | 坂口 みゆき | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 音楽療法の歴史を踏まえながら、現在行われている音楽療法の実践・理論の概要と、臨床場面で音楽を活用する意義について、特に音楽療法の先進国である欧米の現状から学ぶ。また、音楽療法がクライアント（対象者）のどのようなニーズを取り扱うのかを学ぶ。さらに、楽器を用いたワークショップやそれに伴うディスカッション等を通して、音楽療法における「音楽」と一般的な「音楽」の相違点と類似点を体験的に学ぶ。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 音楽療法の歴史・実践・理論の概要を説明することができる。 2) 音楽療法の実践領域と音楽療法が取り扱うニーズを説明することができる。 3) 音楽療法における「音楽」の意義について説明することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 適宜プリントを配布する。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 稲田雅美 (2016) 『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房 藤田哲也監修 申崎真志編著 (2016) 『絶対役立つ臨床心理学：カウンセラーを目指さないあなたにも』ミネルヴァ書房 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 授業内で提出したレポートについては、コメント等を入れて返却する。ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 毎回、配布プリントの次回の講義に関連する部分を読んだ上で授業に臨んでください。ワークショップでは、特に積極的・主体的な取り組みを評価します。学生からの積極的な発言も歓迎します。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて事例の具体的な解説や実践的なワークショップなどを行う。 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 音楽療法概論 |
|---------|--|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | イントロダクション | (学修内容) 春学期の授業計画について/音楽療法士(2種)資格について/音楽療法とは何か, その理解のための導入 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として, 配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第2回 | 音楽療法の歴史と発展 | (学修内容) 音楽療法の誕生から現在までの発展について学ぶ。音楽療法とは何か, 国際的な共通認識を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として, 配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第3回 | ワークショップ (実技とディスカッション): 音楽療法で使う楽器に触れる・気持ちを音で表してみる | (学修内容) 音楽療法で使用する楽器に触れる。いろいろな気持ちや感情を様々な楽器を使って即興的に表す体験をする。感じたことを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として, ワークショップを通して感じたことや思ったこと, 考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。 |
| 第4回 | 心理療法としての音楽療法 : 行動学的アプローチ | (学修内容) 行動理論に基づく音楽療法の理論と実践について学ぶと同時に音楽療法が基本的な何を取り扱っているのかを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として, 配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第5回 | 心理療法としての音楽療法 : 人間性心理学的アプローチ | (学修内容) 人間性心理学に基づく音楽療法の理論と実践について学ぶ。人間性心理学から他のアプローチにも通底する「セラピストの在り方」を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として, 配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第6回 | ワークショップ (実技とディスカッション): 図形楽譜を使って即興する | (学修内容) 図形楽譜を用いて, 即興的な音楽づくりを体験的に学ぶ。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として, ワークショップを通して感じたことや思ったこと, 考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。 |
| 第7回 | 心理療法としての音楽療法 : 精神分析的アプローチ | (学修内容) 精神分析理論に基づく音楽療法の理論と実践について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として, 配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第8回 | 音楽療法の対象者と実践形態 | (学修内容) 音楽療法が対象者のどのようなニーズを取り扱うのかを学ぶ。またニーズに応じた実践形態を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として, 配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第9回 | ワークショップ (実技とディスカッション): 絵を演奏する | (学修内容) 絵を見ながら, 即興的な音楽づくりを行う。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として, ワークショップを通して感じたことや思ったこと, 考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。 |
| 第10回 | 音楽療法の「音楽」について | (学修内容) 音楽療法における「音楽」について学ぶ。「即興的な音楽づくり」が音楽療法の臨床に用いられる意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として, 配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第11回 | 心理療法と芸術の意義 | (学修内容) ここまで学んできたことを踏まえて, 改めて「心理療法」とは何かを考察し, 心理療法における芸術の意義を検討する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として, この授業で学んだ「心理療法における芸術の意義」を小レポートのまとめ提出する。 |
| 第12回 | ワークショップ (実技とディスカッション): 物語を演奏する | (学修内容) 絵本などの物語を読み, 即興的な音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として, ワークショップを通して感じたことや思ったこと, 考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。 |
| 第13回 | 近年の音楽療法の動向 : 音楽中心音楽療法 | (学修内容) 「音楽中心音楽療法」について学ぶ中で, 即興的な音楽づくりの本質を考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として, 配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第14回 | 近年の音楽療法の動向 : 文化中心音楽療法 | (学修内容) 「文化中心音楽療法」について学ぶ中で, 人と文化の関係と, クライエントの抱えるニーズについて理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として, 配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第15回 | ワークショップ (実技とディスカッション): 「今」を演奏する | (学修内容) 「今」思いつくままに, 即興で音を奏で, 音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として, ワークショップを通して感じたことや思ったこと, 考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 音楽療法演習 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Seminar on Music Therapy | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 坂口 みゆき | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 即興的かつ創造的な音楽活動を学生自ら展開し、体験的な学びをさらに深める。また、音楽療法実習（保育実習 又は）に向けて子どもの発達を促す音楽活動を考える。ディスカッションやレポート作業を通して、体験的な学びを言語化し考察する力を身につける。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 即興的な音楽活動を考案し、活動を主導・調整することができる 2) 子どもの発達を踏まえた音楽活動を考案し、ワークショップを展開することができる 3) 1)及び2)の体験的な学びをレポートにまとめ考察することができる | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学习支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 必要に応じて資料を配布する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 稲田雅美著『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 授業内で提出したレポートについては、コメント等を入れて返却する。 ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 本演習は音楽療法実習の事前指導的な性格を持つため、本科目未履修の場合、また提出物の未提出や無断欠席等により単位を取得できなかった場合、実習ができなくなることがあります。積極的な取り組みと努力を特に必要とします。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実際経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて実践的なワークショップなどを行う。 | | | | | | | | |

| 授業名 | 音楽療法演習 | |
|------|------------------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ・イントロダクション ・ワークショップ：音楽的な再会 | (学修内容) 春学期の授業計画とワークショップの発表について説明を受け理解する / クラスメイトと即興的な音楽づくりを通して再会する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや考えたことを小レポートにまとめ提出する。 |
| 第2回 | 子どもの発達と援助：音楽療法と保育の共通点と相違点 | (学修内容) 子どもの発達とその援助について学ぶ中で、音楽療法と保育の共通点と相違点を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学修として、配布資料を読み、内容を小レポートにまとめ提出する。 |
| 第3回 | 子どもの発達と援助：子どもの音楽発達 | (学修内容) 子どもの音楽発達について概観し、音楽を介した発達の援助にどのように生かすことができるか考える。発表について説明を受け理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学修として、参考書p.39~40を読み、内容を小レポートにまとめ提出する。 |
| 第4回 | 即興的な音楽づくりのワークショップ | (学修内容) 発表者が考えた即興的な音楽づくりのワークショップを実施しディスカッションをする。WSのレポートの書き方について説明を受け理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者はワークショップの準備をする。 事後学修として、ワークショップのレポートを作成し提出する。 |
| 第5回 | 即興的な音楽づくりのワークショップ | (学修内容) 発表者が考えた即興的な音楽づくりのワークショップを実施しディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者はワークショップの準備をする。 事後学修として、ワークショップのレポートを作成し提出する。 |
| 第6回 | 即興的な音楽づくりのワークショップ | (学修内容) 発表者が考えた即興的な音楽づくりのワークショップを実施しディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者はワークショップの準備をする。 事後学修として、ワークショップのレポートを作成し提出する。 |
| 第7回 | 即興的な音楽づくりのワークショップ | (学修内容) 発表者が考えた即興的な音楽づくりのワークショップを実施しディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者はワークショップの準備をする。 事後学修として、ワークショップのレポートを作成し提出する。 |
| 第8回 | 個別指導：子どもの発達に即した音楽活動の発表に向けて | (学修内容) 10回目以降の授業で実施する「子どもの発達に即した音楽活動」の発表に向けて、個別指導を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもの発達に即した音楽活動の発表内容を考え、ノート等にまとめて持参する。 |
| 第9回 | 個別指導：子どもの発達に即した音楽活動の発表に向けて | (学修内容) 10回目以降の授業で実施する「子どもの発達に即した音楽活動」の発表に向けて、個別指導を受ける(前回からの続き)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもの発達に即した音楽活動の発表内容を考え、ノート等にまとめて持参する。 |
| 第10回 | 子どもの発達に即した音楽活動：0歳児 | (学修内容) 0歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。 |
| 第11回 | 子どもの発達に即した音楽活動：1歳児 | (学修内容) 1歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。 |
| 第12回 | 子どもの発達に即した音楽活動：2歳児 | (学修内容) 2歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。 |
| 第13回 | 子どもの発達に即した音楽活動：3歳児 | (学修内容) 3歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。 |
| 第14回 | 子どもの発達に即した音楽活動：4歳児 | (学修内容) 4歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。 |
| 第15回 | 子どもの発達に即した音楽活動：5歳児 学期終わりのグループ即興 | (学修内容) 5歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 音楽療法総合演習 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Integrated Seminar of Music Therapy | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 必 修 | |
| 担 当 者 | 坂口 みゆき | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 音楽療法の実際について事例を通して学ぶことを中心とする。必要な理論や対象者のニーズを学び、ディスカッション・ワークショップを通して考察を深める。自分自身を理解することを通して対象者への理解を深めることを経験する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 音楽療法の対象者のニーズを理解・考察することができる 2) 事例を通して音楽療法の臨床を学び、その在り方や介入について考察することができる 3) 講義・ディスカッション・ワークショップを通して学んだ内容をレポートにまとめ考察することができる | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力 (| 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テ キ ス ト | 適宜資料を配布する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 稲田雅美著『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | ディスカッションやワークショップを通して学びを深めます。積極的・自主的にクラスに貢献する姿勢を評価します。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて事例の具体的な解説や実践的なワークショップなどを行う。 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 音楽療法総合演習 | |
|---------|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | イントロダクション 実習の振り返り | (学修内容) 秋学期の授業計画について説明を受け理解する。夏休み中の実習で実際に行った音楽活動についてそれぞれ発表しディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習で行った音楽活動の内容や感想・反省点を発表する準備をしておく。 |
| 第2回 | 心の発達を援助する音楽療法の実際 : 自閉スペクトラム障害を持つ子どものニーズ | (学修内容) 一例として自閉スペクトラム障害を取り上げ、障害の特性やニーズの理解を深めつつ、音楽療法がどのように援助をしていくのかを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第3回 | 心の発達を援助する音楽療法の実際 : 音楽療法の在り方 | (学修内容) 自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について事例を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。 |
| 第4回 | 心の発達を援助する音楽療法の実際 : 介入の実際 | (学修内容) 自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について事例を通して理解を深める(グループワークとディスカッションの続き) (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。 |
| 第5回 | 心の発達を援助する音楽療法の実際 : ワークショップ | (学修内容) 前回までの学びを踏まえ、ワークショップを行い体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第3回と第4回のグループワーク・ディスカッションの内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第6回 | 心の発達を援助する音楽療法の実際 : ワークショップ | (学修内容) 前回は引き続き、ワークショップを行い体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回のワークショップを踏まえ、今回のワークショップの準備をしておく。 |
| 第7回 | 心の発達を援助する音楽療法の実際 : 介入の実際 | (学修内容) 自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について、さらに事例を読み進める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。 |
| 第8回 | 心の発達を援助する音楽療法の実際 : 介入の実際 | (学修内容) 引き続き自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について、事例を読み進める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。 |
| 第9回 | ワークショップ: 他者を音楽的に伴走(伴奏)する | (学修内容) 音楽療法士はどのようにクライアントの在り方を音楽的に支えるのかワークを通して体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第7回と第8回のグループワークとディスカッションの内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第10回 | ワークショップ: 音楽的に「共にいる」こと | (学修内容) 前回は引き続き音楽療法士はどのようにクライアントの在り方を音楽的に支えるのか体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回のワークショップを踏まえて、今回のワークショップの準備をしておく。 |
| 第11回 | グループ形態の音楽療法 : グループが形成されるプロセス | (学修内容) 小グループでのセラピーについて、文献を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。 |
| 第12回 | グループ形態の音楽療法 : 相手を受けとめることから音楽的体験へ | (学修内容) 引き続き、小グループでのセラピーについて、文献を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。 |
| 第13回 | グループ形態の音楽療法 : グループで「音楽すること」 | (学修内容) 引き続き、小グループでのセラピーについて、文献を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。 |
| 第14回 | 「音楽療法の終結」と学びの終わりに向けて | (学修内容) 音楽療法の終結について学び、その重要性を理解・考察する。2年間の音楽療法の学びを振り返り、音楽療法の仲間とお別れする準備をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第11回～第13回のグループワークとディスカッションの内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第15回 | 「音楽療法の終結」と学びのまとめ | (学修内容) 前回は引き続き2年間の学びを振り返り、音楽療法の仲間とお別れする中で、「終結」の重要性にさらに思いを巡らせる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 2年間の音楽療法の学びを振り返り、学んだことや感想を発表できるように準備をしておく。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 幼児と生活 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | Infant and Life | | | 開講時期 | 秋学期 | | 必修選択 | 選択 | |
| 担当者 | 乾 真理子・岸 優子 | | | 対象学生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 「生活科」の設置目的や内容を理解する。幼児の遊びや生活経験をかさね身についた学びを小学校以降の生活や学習の芽生えとして伸ばしていくことの重要性を学ぶ。幼児にふさわしい生活展開ができるよう、幼稚園教員としての専門性を高め、資質の向上を図る。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 生活科の目標や概要を理解し説明することができる。 2) 自然教材を用いた保育について、保育者としての視点を説明することができる。 3) 子どもの非認知的能力を育てるためのかわりについて説明することができる。 4) ワードやパワーポイントなどパソコンを使って課題を発表することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 | | |
| テキスト | 文部科学省編『幼稚園教育要領』平成29年3月、『小学校学習指導要領解説 総則編』平成29年7月 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年3月 | | | | | | | | |
| 参考書 | 文部科学省編『幼稚園教育要領解説』平成30年3月、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年3月)、 文部科学省編『小学校学習指導要領解説 生活編』平成29年とその他は適宜紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出物については点検し、コメントをつけて返却する。または、授業内にてフィードバックを行う。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 出席を重視する。この授業は完全なオムニバス形式で、前半8回、後半7回で行う。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 1回目の授業で発表する | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 幼児と生活 | |
|---------|--|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 授業の進め方・流れ・評価の仕方を確認する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として配布プリントを読み返し、内容をノートにまとめておく。 |
| 第2回 | 「生活科」について理解する 幼児教育と小学校教育の連続性 | (学修内容) 「生活科」の目標・内容・改訂の要点などを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として配布プリントを読み返し、内容をノートにまとめておく。 |
| 第3回 | 幼児の「遊び」と小学校教育以降の「学習」の連続性について理解する | (学修内容) 幼児の「遊び」と小学校教育以降の「学習」の連続性について理解し、教材を考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として配布プリントを読み返し、内容をノートにまとめておく。 |
| 第4回 | 幼児理解に基づいた教材づくり | (学修内容) 自然観察について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 周りの自然を観察し、写真を撮っておく。また、観察したものを調べ、ノートにまとめておく。 |
| 第5回 | 遊びの中で広がり深まる生活経験 | (学修内容) 自然と生活環境の関連を考え、教材設定を考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 周りの自然を観察し、写真を撮っておく。また、観察したものを調べ、ノートにまとめておく。 |
| 第6回 | 幼児の活動を豊かにする事例研究(秋を見つけよう) | (学修内容) パワーポイントを用いて、発表原稿を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 自然観察で撮った写真や資料を整理し、持ってくる。 |
| 第7回 | 観察したことをわかりやすく伝える 他の人の発表を興味を持って聞く | (学修内容) 「自然観察」の経験をパワーポイントを用いて、発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表原稿を完成させておく。 |
| 第8回 | 生活についての振り返り | (学修内容) 食や睡眠の重要性を確認する。自分の生活について振り返る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 1日の生活時間、食事の内容を記録しておく。 |
| 第9回 | 学びの特徴 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』非認知的能力 | (学修内容) 授業の進め方・内容・評価の仕方を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として「非認知能力」の要点をまとめておく。 |
| 第10回 | 「生きる力」と学びの諸相 『小学校学習指導要領 総則編』幼児期から児童期へ | (学修内容) 幼小中高一貫した「学び」の構造を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 『小学校学習指導要領 総則編』を読み、「生きる力」について要点を箇条書きにまとめておく。 |
| 第11回 | 教育者の役割を考える 『幼稚園教育要領』における「三つの資質・能力」 | (学修内容) 「子ども理解」の視点を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 『幼稚園教育要領』を読み「三つの資質・能力」について、要点をまとめる。 |
| 第12回 | 指導案における非認知的能力の育成(その1) 「環境構成及び指導のポイント」における「教育的意図」に着目して | (学修内容) 自己肯定感を高める多様な関わり方を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、課題プリントを完成させ、次回提出する。 |
| 第13回 | 指導案における非認知的能力の育成(その2) 小テスト「環境構成及び指導のポイント」を構想する | (学修内容) 小テストを実施し、保育場面における「教育的意図」を考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 課題プリントを読み、「環境構成」についてレポートにまとめ、提出する。 |
| 第14回 | 教育者としての専門性と課題(その1) 非認知能力を育成する「援助」の方法 | (学修内容) 一人ひとりの特性を理解出来る視点を身につける。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 『幼稚園教育要領』を読み、教育者としての課題をレポートにまとめ、提出する。 |
| 第15回 | 教育者としての専門性と課題(その2) リスクマネジメント | (学修内容) いのちを守る教育者としての責任と専門性を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教育者として心得るべきリスクマネジメントの課題をレポートにまとめる。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|------------------------------------|-----------------------------------|-----------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 教職実践演習（幼稚園） | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Teaching Practice (Kindergarten) | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 鈴木 えり子・乾 眞理子・平尾 隆史・東野 洋子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>教職課程の各授業が実践と結びついていることを確認できる機会をもち、学生が自己の課題を自覚する。幼稚園教育の基本をしっかりと身につけ、「遊びを通しての総合的な指導」を行うための保育実践力を高め、専門性や資質の向上を図る。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 幼稚園教員として必要な資質について説明することができる。 2) 履修カルテを参照し、自らの課題が認識できる。 3) 季節の行事をグループで企画、実践発表することができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学习支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 () | | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | <p>京都教育大学附属幼稚園編 『指導計画・教育課程』 文部科学省編 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</p> | | | | | | | | |
| 参 考 書 | | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | <p>提出されたレポートについては授業内でコメントをします 発表についてはその都度コメントを返します</p> | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | <p>教職課程を履修し確実に身につけることができたか確認すること。保育現場において幼児を育てる責任の重さを認識すること。</p> | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 木曜日12時10分から13時 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 教職実践演習（幼稚園） | |
|---------|--|--|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | 教育実習の振り返り | （学修内容）教育実習について振り返り、学びの成果と課題について省察する （事前事後学修課題の内容）（60分） 9月実習振り返りシートの記述内容をまとめる | |
| 第2回 | 教師の役割について研修1 「3年間の保育記録 - 4歳児 - 」 | （学修内容）4歳児の保育記録から、幼児の発達や実態に応じた指導援助を考察する （事前事後学修課題の内容）（30分） 復習として4歳児の発達と援助についてまとめてレポートを提出する | |
| 第3回 | 華頂幼稚園運動会見学に向けて研修 | （学修内容）運動会の目的、幼児の発達に応じた内容、日頃の遊びや生活とのつながりを理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、幼児の運動的な遊びについてまとめる | |
| 第4回 | 華頂幼稚園運動会の見学・研修 | （学修内容）運動会の目的・内容について、幼児の活動する姿から理解し記録する （事前事後学修課題の内容）（120分） 復習として運動会に参加体験レポートを活動へのかかわりと教師の役割の視点からレポートにまとめて提出する | |
| 第5回 | 保護者対応について1 - 保護者との信頼関係を育む - | （学修内容）保護者理解を深め、保護者との信頼関係の構築について学ぶ また身近な事例について検討する （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として講義内容をまとめてレポートを提出する | |
| 第6回 | 保護者対応について2 - 子どもの発達と保護者支援 - | （学修内容）子育て支援の中でも、発達支援を取り上げて学び、事例について検討する （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として講義内容をまとめレポートを提出する | |
| 第7回 | 命を大切にすることを育む1 「小動物の飼育を通して」 | （学修内容）小動物を飼育することから育まれる感性、命の理解と大切さについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として講義内容をまとめ、レポートを提出する | |
| 第8回 | 命を大切にすることを育む2 「栽培を通して」 | （学修内容）自然や栽培から育まれる感性、季節感を取り入れた指導計画、保育技術、環境構成について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として講義内容をまとめ、レポートを提出する | |
| 第9回 | 学生によるグループ発表（保育を想定した実践に向けて）1 打ち合わせ | （学修内容）テーマにそって、幼児が楽しんで参加したいと思う保育を考え企画する （事前事後学修課題の内容）（60分） グループで話し合い、保育活動を考え、計画書を作成する | |
| 第10回 | 幼小連携について - 小学校への滑らかな接続を考える - | （学修内容）幼児教育と小学校教育の接続について学び、子どもが安心して小学校生活をおくるための保育者の役割について考察する （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として講義内容をまとめ、レポートを提出する グループ発表の計画書を提出する | |
| 第11回 | 学生によるグループ発表（保育を想定した実践に向けて）2 準備とリハーサル | （学修内容）各グループで準備を進める （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習としてグループ発表時に必要な準備物を話し合って書き出し提出する | |
| 第12回 | 学生によるグループ発表（保育を想定した実践に向けて）3 グループ発表（前半） | （学修内容）各グループで保育場面を想定し、導入・主活動・まとめの流れで発表を行う （事前事後学修課題の内容）（90分） 予習としてグループ発表に向けて練習・準備を完了する 復習として各グループの発表評価とコメントをレポートにまとめ提出する | |
| 第13回 | 学生によるグループ発表（保育を想定した実践に向けて）4 グループ発表（後半） | （学修内容）各グループで保育場面を想定し、導入・主活動・まとめの流れで発表を行う （事前事後学修課題の内容）（90分） 予習としてグループ発表に向けて練習・準備を完了する 復習として各グループの発表評価とコメントをレポートにまとめ提出する | |
| 第14回 | 教師の役割について研修2 「3年間の保育記録 - 5歳児 - 」 | （学修内容）5歳児の保育記録から、集団の中で自立していく幼児の姿とそれを援助する教師の役割について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として保育記録をレポートにまとめ提出する | |
| 第15回 | 学級経営の視点 「幼児と教師でつくる生活発表会」 履修カルテをもとに自己課題を明確にする | （学修内容）幼児理解を大切にしながら日常の保育から生活発表会へつなぐ保育の実践について学ぶ 履修カルテを提出する （事前事後学修課題の内容）（60分） 履修カルテの作成を通して自己課題についてレポートをまとめて提出する | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|-------------------------|----------------------------|-----------------|-----------------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 施設養護論 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Theory of Social Corporate Parenting | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 必 修 | |
| 担 当 者 | 芹澤 出 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 社会的養護を必要とする問題の発生状況と今日の特徴を踏まえた上で、事例やビデオ学習を通してニーズの把握と具体的援助の方法 について学ぶと共に、施設や施設職員の役割を理解し、援助者としての基本的スキルについて学ぶ。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 社会的養護の発生状況と援助について理解する。 2) 子どもや親に対する支援について理解する。 3) 社会的養護における家庭的養護について理解する。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (積極的な質問) | プレゼンテーション能力 () | | 課題発見・解決能力 (積極的な発言) | | |
| テ キ ス ト | プリントを配付 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 児童福祉法 児童虐待の防止に関する法律 社会的養護の課題と将来像 新しい社会的養育ビジョン | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 最終事業において授業の振り返りと確認を行い、必要な補足を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 施設種別ごとに、講義と事例・ビデオ学習、グループディスカッションと解説を組みあわせて授業を進め、施設の理解と援助の展開について学ぶ。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：母子生活支援施設職員として30年以上勤務 京都市社会福祉審議会委員、京都市児童処遇里親部会委員を兼任 社会的養育や社会的養護について実践を通じた話をします。 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 施設養護論 |
|---------|---------------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション・社会変化の理解 | (学修内容) シラバスの説明 家族観の変化と養護ニーズの理解 (事前事後学修課題の内容) (15分) 社会的養護を担う施設についての事前学習 |
| 第2回 | 家庭養育の現状の理解 | (学修内容) 家庭養育の現状について学び理解を深める (事前事後学修課題の内容) (15分) 家庭養育の現状についての事前学習 |
| 第3回 | 社会的養護の理解 | (学修内容) 社会的養護の現状と課題についての学び理解を深める (事前事後学修課題の内容) (15分) 社会的養護の現状と課題についての事前学習 |
| 第4回 | 児童相談所の機能と役割 | (学修内容) 児童福祉法と児童虐待防止法 児童相談所の機能と役割について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (15分) 児童福祉法についての事前学習 児童虐待防止法についての事前学習 |
| 第5回 | 児童相談所取り扱い事例の紹介とビデオ学習 | (学修内容) 児童相談所機能のについて事例を通して考察を深める (事前事後学修課題の内容) (15分) 児童相談所の機能と役割について振り返る |
| 第6回 | 乳児院の事例紹介とビデオ学習 | (学修内容) 乳児院の事例について考察し理解を深める (事前事後学修課題の内容) (15分) 乳児院の機能と役割について振り返る |
| 第7回 | 児童養護施設の事例紹介とビデオ学習 | (学修内容) 児童養護施設の事例について考察し理解を深める (事前事後学修課題の内容) (15分) 児童養護施設のメリットやデメリット、施設機能と役割について振り返る |
| 第8回 | 地域小規模児童養護施設の事例紹介とビデオ学習 | (学修内容) 地域小規模児童養護施設の事例について考察し理解を深める (事前事後学修課題の内容) (15分) 地域小規模児童養護施設のメリットとデメリット、機能と役割について振り返る |
| 第9回 | 里親の事例紹介とビデオ学習 | (学修内容) 里親の事例について考察し理解を深める (事前事後学修課題の内容) (15分) 里親のメリットやデメリット、課題について考察する |
| 第10回 | 児童心理治療施設の事例紹介とビデオ学習 | (学修内容) 児童心理治療施設の事例について考察し理解を深める (事前事後学修課題の内容) (15分) 児童心理治療施設の機能と役割について振り返る |
| 第11回 | 施設を退所する児童の事例紹介とビデオ学習 | (学修内容) 施設を退所し自立を目指す子どもについて事例を通して理解を深め考察する (事前事後学修課題の内容) (15分) 施設を退所し自立を目指す子どもの課題について振り返る |
| 第12回 | 自立援助ホームの事例とビデオ学習 | (学修内容) 自立援助ホームの事例を考察し理解を深める (事前事後学修課題の内容) (15分) 自立援助ホームの機能と役割について振り返る |
| 第13回 | 母子生活支援施設の事例とビデオ学習 | (学修内容) 母子生活支援施設の事例を考察し理解を深める (事前事後学修課題の内容) (15分) 母子生活支援施設の機能と役割について振り返る |
| 第14回 | 少年犯罪について事例を通して学ぶ | (学修内容) 少年犯罪の事例を考察し理解を深める (事前事後学修課題の内容) (15分) 少年犯罪についてその背景と予防について振り返る |
| 第15回 | 授業を振り返り、これからの社会的養護について考える | (学修内容) 社会的養護についてのまとめ (事前事後学修課題の内容) (15分) これまでの授業の振り返りとまとめ、課題レポート準備 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 保育所保育論 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Theory of Nursery School Child Care | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 必 修 | |
| 担 当 者 | 鈴木 えり子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 修得した知識や技能を踏まえて、保育者としての保育実践に必要な資質、実践力の向上を目指す。現場に即した視点より総合的に保育を捉えることができる保育力を身につける。保育観や自己課題を明確にする。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 保育内容が総合的に理解できる。 2) 保育実践力を高めることができる。 3) 保育者の役割について説明できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 随時プリントを配布する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 幼年教育研究所編 『遊びの指導 乳幼児編』 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたレポートはコメントをつけて返却します 発表課題は授業内で評価解説を行います | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 受講人数、受講生の希望などで保育実践の内容を変更する 保育実践研究に必要な材料等は各自で準備すること | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業時に提示する | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 保育所保育論 | |
|---------|------------------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション 保育所保育の保育内容・基本的原理を理解する | (学修内容) 講義の進め方を知る 保育所保育の保育内容・基本的原理を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育の基本原理についてワークシートを使って保育用語など理解度を把握する |
| 第2回 | 実習体験を共有する | (学修内容) 保育所実習における実習体験を相互に共有する (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育所実習での保育実践の内容をレポートにまとめて提出する |
| 第3回 | 保育実践の振り返り | (学修内容) 保育における実践内容をまとめて発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習時の振り返りを発表するためのまとめレジュメを作成し提出する 復習として発表での気づきをレポートにまとめて提出する |
| 第4回 | 保育行事の意義 | (学修内容) 保育における1年間の行事について、行事の意味や保育に必要な行事内容について話し合う (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育所実習園での行事についてレポートにまとめて提出する |
| 第5回 | 素話の実践 | (学修内容) 素話の意義について学ぶ。課題に取り組む (事前事後学修課題の内容) (60分) 素話について調べ、意義や具体的な題材を見つけてレポートにまとめて提出する |
| 第6回 | わらべうた・手遊びの実践 | (学修内容) わらべうた・手遊びについて意義を理解し、相互に実践発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) わらべうた・手遊びなど自分の知っている内容をまとめてみる 復習として発表後の気づきをレポートにまとめて提出する |
| 第7回 | 身近な素材を使ったおもちゃ制作実践 | (学修内容) 身近な素材をつかったおもちゃづくりをする おもちゃをつかった劇遊びの略案を作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 牛乳パックを使った具体的な人形を決定し、そのイメージ人形をデザインしレポートで提出する |
| 第8回 | 制作おもちゃでの劇発表 | (学修内容) 身近な素材を使ったおもちゃを使って、グループで劇を考え発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで発表について話し合い、発表の準備を行う 発表後に振り返りをい気づきレポートを作成し提出する |
| 第9回 | 劇発表の振り返り | (学修内容) 劇発表について意見交換を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表について振り返りをするとともに他者の発表をまとめ気づきレポートとして提出する |
| 第10回 | 保育者の資質 | (学修内容) 保育者の資質について意見交換を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育者の職務や倫理観について考えレポートにまとめて提出する 意見交換を行った気づきレポートをまとめて提出する |
| 第11回 | ヒヤリハット | (学修内容) ヒヤリハットの言葉を理解する。事例を通して、保育中に留意するべき点について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでまとめてくる 安全な保育環境整備の方法についてインターネットで調査しレポートにまとめて提出する |
| 第12回 | パネルシアターの実践 | (学修内容) パネルシアターの制作方法を学び実践する (事前事後学修課題の内容) (60分) 実践したパネルシアターについて振り返りをまとめて提出する |
| 第13回 | 運動遊びの実践 | (学修内容) 運動遊びのねらいを理解する。子どものダンスを実践し、意義について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 運動遊びの意義について配布プリントをレポートにまとめて提出する 実践後の気づきレポートを作成し提出する |
| 第14回 | 保育士の社会的役割 | (学修内容) 保育士の社会的役割を理解する 幼稚園と保育所、認定こども園の現状を考える (事前事後学修課題の内容) (90分) 配布プリントをレポートにまとめて提出する |
| 第15回 | 総まとめ | (学修内容) 自分自身の保育観について発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育観をレポートにまとめて発表の準備をする 復習として自分の目指す保育者像や授業後の気づきや自己課題をレポートにまとめて提出する |

| | | | | | | | | | |
|------------------------------|---|------------------------------------|-----------------------------------|-----------------|----------------------------|------------|------------------|--------------|--|
| 授 業 名 | 子育て支援論 | | | 開 講 学 年 | 2回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | |
| 英 文 名 | Theory of Child-care Support | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 必 修 | |
| 担 当 者 | 岸 優子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 現代における子育ての現状を理解する。子育て支援の問題・課題を考え、今後どのような子育て支援制度が必要になってくるのかを理解する。また、子育て支援を行っている人の専門性の向上にはどのような学びの場が必要かについても考える。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 対 象 業 | 1) 現代の子育て家庭の現状について理解することができる。 2) 子育て支援のあり方を学び、子育て支援の課題を考えることができる。 3) 子育て支援の事例を参考にして、具体的な子育て支援の方法を理解し、プレゼンテーションすることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (6 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (4 0 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 () | | | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 厚生労働省編『保育所保育指針』平成29年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年3月 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業中に適宜紹介する。 | | | | | | | | |
| 課 題 対 対 する フィードバック の方法 | 受講生は、毎回、「振り返り用紙(学びのポートフォリオ)」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は、適宜、添削・助言等をする。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 子育てについて自分の考え方を確立できるよう多様なワークを行いながら授業をすすめる。日頃から、子育て関係の新聞記事などに関心をもっておく。また、実際の子育て支援施設へのフィールドワークを予定している。受け入れ施設との調整で場所、日程などを変更することがあるので、事前の予定を確認しておくこと。無断の欠席は、受け入れ施設にも迷惑をかけることになるので、やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に教員まで連絡すること。見学当日の無断欠席は、単位取得の意思がないものとみなす。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 初回に伝える。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：保育所に勤務 子育て支援員 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 子育て支援論 | |
|---------|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 授業の進め方。授業の目標、評価について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 予習として、シラバスを読み、授業の流れ、評価方法などを確認する。 |
| 第2回 | 子ども・子育て支援新制度の特徴と課題ー『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』ー | (学修内容) 現代の保育政策・三法令改訂の要点など、子育て支援について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、現代の保育政策について最新の動向を理解し、その要点をまとめる。 |
| 第3回 | ライフスタイルの選択：自立・結婚・出産 | (学修内容) 自分にとって、自立とは何かを考えることができる。人生の選択肢(仕事、結婚、妊娠、出産、子育てなど)について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読み、要点をまとめる。 |
| 第4回 | ライフコースのパターンー働くこと・家庭をもつこと・子育てすることー | (学修内容) 多様なライフコースがあることを理解することができる。ライフサイクルにおける子育てについて、自らの課題として考えてみる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、子育て支援の課題を理解し、要点をまとめる。 |
| 第5回 | 働くことと子育て | (学修内容) 働くこと・子育てをすることのメリット・デメリットを考えることができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、関連する箇所のプリントを読んで、要点をまとめる。 |
| 第6回 | 子育て環境フィールドワーク | (学修内容) 現代の子育て環境に対応する子育て支援施設の見学をする。(場所：子育て支援関連施設) (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、日本の子育て環境の現状と問題点を自分の言葉でまとめる。 |
| 第7回 | 中間まとめプレゼンテーション | (学修内容) これまでの授業内容を振り返り、子育て支援の課題を具体的に考え、10分間のプレゼンテーションができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、性別役割分業規範、家事労働、ジェンダーなどについて要点をまとめる。 |
| 第8回 | 母子保健・妊娠、出産、子育ての支援フィールドワーク | (学修内容) 母子保健について、妊娠期からの支援について理解する。(場所：こどもみらい館) (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、母子の支援方法を具体的事例を考え、自分の言葉でまとめる。 |
| 第9回 | 日本の子育て観・3歳児神話、育児不安 | (学修内容) 日本の子育て観について理解することができる。育児不安や孤立、若年、ひとり親など問題をかかえる親を支援する方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、プリントを読み、子育て環境の問題点を箇条書きでまとめる。 |
| 第10回 | 保育・働きながら子どもを育てるとはフィールドワーク | (学修内容) 認定こども園や保育所の現状と子育て支援の課題について理解できる。(場所：認定こども園/保育所) (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、認定こども園や保育所における子育て支援の事例を簡潔にまとめる。 |
| 第11回 | 保育所と認定こども園における子育て支援ー待機児童・病児保育などの問題ー | (学修内容) 待機児童・病児保育などの問題を解消するための政策を学び、保育所・認定こども園およびそれ以外の子育て支援施設について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、今後子育てをしたいと思う市町村の待機児童について、その現状を調べる。 |
| 第12回 | 子育て支援講座をデザインするグループワーク | (学修内容) 地域における子育て家庭における児童虐待等の子育ての諸問題を理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、プリントを読み、子育ての問題点について要点をまとめる。 |
| 第13回 | 子育て支援講座をデザインするプレゼンテーション | (学修内容) 地域での子育て支援について地域の子育て関連の施設間の連携・協働を理解することができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、各自興味のある市町村における子育て支援制度・方法の概要を調べて、発表できるように準備する。 |
| 第14回 | 子育て支援講座をデザインするプレゼンテーション | (学修内容) 子育て支援政策の課題と支援方法を考えることができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、課題用紙を完成しておく。 |
| 第15回 | まとめと振り返りをし、次に繋がる課題を見出す | (学修内容) 子育て支援施設と保健・福祉・教育の課題を理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの学びを振り返り、プリントの要点をキーワードごとに箇条書きでまとめる。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|-------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--|
| 授業名 | 音楽史 | | | 開講学年 | 2回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | |
| 英文名 | History of Music | | | 開講時期 | 秋学期 | | 必修選択 | 必修 | |
| 担当者 | 山中 信子 | | | 対象学生 | 幼児教育2回生 | | | | |
| 授業の概要 | 古代から現代までの西洋音楽史を概観し、その音楽の特徴を把握する。また、日本音楽の史的展開との比較・検討を通して、それぞれの様式発展の特徴を知る。このため、講義だけでなく、音楽史上の人物・および作品について研究発表を行い、ディスカッションやグループワーク等を通して授業を進めていく。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 西洋音楽の史的展開を把握するとともに各々の時代の作曲家の特徴的手法を聞き取り、理解することができる。 2) 日本音楽の史的展開を概観するとともにその音楽の特徴を理解することができる。 3) 西洋および日本音楽の史的展開の特徴を比較・検討することにより、各々の様式変遷の道程を幅広い視点から理解することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (70%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 | () | | | |
| テキスト | 『はじめての音楽史』片桐功・吉川文他著 音楽之友社 | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業にて指示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 小レポートは回収後、コメントを付けて返却する。 また、発表に関しては履修者全員がコメントシートに記入し、それをもとに討議を行う。また、コメントシートは教員が回収した後、意見をピックアップし、授業で履修者全員と共有した後に返却する。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 発表に関する相談(作品の選定・音や映像資料などの検索方法を含む)は個別に受け付ける。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室に日時を掲示するので、確認すること。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 音楽史 | |
|------|----------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 現代の音楽(偶然性の音楽) | (学修内容)偶然性の音楽(ジョン・ケージ)の音楽について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、ジョン・ケージの音楽について、授業で取り上げた作品以外の作品を一つ取り上げて小レポートを作成し、提出すること。 |
| 第2回 | 現代の音楽(サウンドスケープ・ミニマルミュージック) | (学修内容)サウンドスケープ(マリー・シェーファー)、ミニマル・ミュージック(スティーヴ・ライヒ等)について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、サウンドスケープ・ミニマルミュージックいずれかを選んで小レポートを作成し、提出すること。 |
| 第3回 | ジャズ | (学修内容)ガーシュウィンとジャズについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、ガーシュウィンとジャズとの関係について小レポートを作成し、提出すること。 |
| 第4回 | 12音技法 | (学修内容)シェーンベルクの12音技法について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、シェーンベルクの作品について小レポートを作成し、提出すること。 |
| 第5回 | 近代 | (学修内容)パリ博覧会と近代の音楽に関するグループ発表・ディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) 近代の音楽に関する発表準備をしておくこと。 |
| 第6回 | ロマン派 | (学修内容)前・後期ロマン派(シューマン・ショパン・リスト・チャイコフスキー・ラヴェル等)の音楽についてのグループ発表・ディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) 前・後期ロマン派の音楽に関する発表準備をしておくこと。 |
| 第7回 | 古典派 | (学修内容)ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェン等の音楽についてのグループ発表・ディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) 古典派の音楽に関する発表準備をしておくこと。 |
| 第8回 | 前古典派 | (学修内容)シンフォニーとソナタの誕生について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、マンハイム楽派とベルリン楽派の功績に関する小レポートを作成して提出すること。 |
| 第9回 | バロック(様式) | (学修内容)コンチェルトとオペラの誕生について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、バロック音楽の様式に関する小レポートを作成して提出すること。 |
| 第10回 | バロック(作曲家とその功績) | (学修内容)J.S.バッハの音楽と調性について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、J.S.バッハの音楽作品と調性に関する小レポートを作成して提出すること。 |
| 第11回 | 中世・ルネサンス | (学修内容)グレゴリオ聖歌、単声から多声音楽への変遷、ヒルデガルド・フォン・ピンゲンの音楽について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、グレゴリオ聖歌かヒルデガルド・フォン・ピンゲンの音楽のいずれかをテーマに選定し、小レポートを作成して提出すること。 |
| 第12回 | 雅楽 | (学修内容)雅楽とその楽器のルーツ、伝播について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、雅楽の伝播について小レポートを作成して提出すること。 |
| 第13回 | 雅楽以外の日本の音楽の諸相 | (学修内容)浄瑠璃・能、その他の日本の芸能とその発展について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、日本の芸能とその音楽の特徴について小レポートを作成して提出すること。 |
| 第14回 | 日本音楽史・西洋音楽史の発展とその比較 | (学修内容)日本と西洋音楽の通史的比較 (事前事後学修課題の内容)(60分) 日本と西洋の音楽通史比較についての発表、グループディスカッション |
| 第15回 | 小泉文夫の功績・授業のまとめ | (学修内容)小泉文夫の日本音楽史への視点とその功績について・授業のまとめ (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後に小泉文夫の功績についてまとめ、小レポートを作成して提出すること。 |

| | | | |
|-------|--|------|-----------|
| 実習名 | 教育実習 | 対象学生 | 幼児教育学科2回生 |
| 担当者 | 鈴木 えり子・武田 康晴・浅田 瞳・平尾 隆史・名賀 亨・乾 真理子・東野 洋子・高岡 理恵・野田 隆生・山本 明美・山部 泰司・小川 隆昭・坂口 みゆき・林 静香 | | |
| 実習の概要 | <p>幼稚園教諭二種免許状取得に必要な幼稚園教育実習を行う。</p> <p>実習では、幼稚園の保育の中で幼児や教師とかわり、一人一人の幼児を理解することが重要であり、教師の姿から保育に対する考え方や指導方法を学んでいく。さらに、幼児とのかかわりを通して子ども観、教育観を形成していくための幼児理解を積み重ねていくことが重要である。</p> <p>机上の勉強だけでは習得できない様々な体験を重ね、幼稚園の教育現場で教員として実際に保育していく上に必要なことを学び、学校で学んだ理論や学習内容を確認する。</p> <p>実習は教師として人間として成長する重要な学びの場であり、教師として幼児を育てる意義について深く考え自覚する貴重な機会である。</p> <p>華頂短期大学附属幼稚園や各都道府県市町村の公立・私立の幼稚園および認定こども園で、2年次に4週間、教育実習を行う。</p> <p>6月に2週間、9月に2週間の合計4週間の実習を行う。原則、同一園で実習を行うものとする。</p> <p>教育実習の期間中に実習園を訪問し巡回指導を実施する。但し、訪問による巡回指導が難しい場合は同等の手段を用いて実施する。</p> <p>教育実習は、限られた期間内で効果的な体験が得られるよう、次の段階を踏まえて実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前オリエンテーション 実習園でオリエンテーションを受け、実習園の沿革、人的・物的環境、学級編成、幼児の実態、教師の役割などを総合的に把握し、幼稚園の全体像を知る。 参加実習 担任の助手的な立場で保育活動に参加し、幼児とのかかわりを実習体験し、幼児のすがた、教師の対応を体験しながら学ぶ。 部分実習・指導実習（研究実習） 実習生が主体となって指導計画案を立案し、実際に指導を担当する。この指導実習を通して自ら反省し指導を振り返る。さらに、担当教員から講評・指導を受けて、次への指導の向上を図る。 | | |
| 備考 | <p>「教育実習事前事後指導」（1回生秋学期、2回生春学期）を必ず履修していること。</p> <p>「教育実習事前事後指導」の出席状況、受講態度および各種レポート等の提出がない場合には、実習を中止することがあるので気をつけること。</p> <p>また、教職課程関係の授業の履修状況においても同様である。</p> | | |

| | | | |
|-------|--|------|-----------|
| 実習名 | 保育実習 a | 対象学生 | 幼児教育学科1回生 |
| 担当者 | 高岡 理恵・安藤 正彦・武田 康晴・名賀 亨・日永 よし子・野田 隆生・鈴木 えり子・友本 喜代子・山本 明美・山部 泰司・乾 真理子・林 静香・浅田 瞳・小川 隆昭・坂口 みゆき | | |
| 実習の概要 | <p>「保育実習」は「保育所実習」と「施設実習」があり、どちらの実習も実施しなければならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 実習目標・目的 実習では、授業で習得した基礎知識や技能を実際の職務に応用しながらその経験を通して乳幼児（利用者）に対する理解を深めること、保育士の職務内容を理解し保育・養護技術を習得すること、保育士としての自覚を高めることを目標にします。 実習内容及び実習形態 保育所実習 公立・私立の認可保育所（幼保連携型認定こども園を含む）で行う。 実習時期は1回生の2～3月、実習日数は原則1日8時間以上、80時間以上（10日間以上） 通勤による実習 実習先は近畿2府4県と福井県内とし、その選定方法は「保育実習指導」において説明します。 施設実習 児童福祉法に定められる児童福祉施設等で保育所以外の居住型福祉施設で行う。 実習時期は1回生の2～3月、実習日数は原則1日8時間以上、80時間以上（10日間以上） 原則宿泊による（一部のみ通勤）による実習 実習先の種別：乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設・知的障害者支援施設等 実習先は学校で割り振り配属します。（個人的な事情等については事前に申し出ること配慮します） 実習生に対する指導法 実習中は、実習担当職員からの指導・助言を受けながら実習を行います。教員は、原則的に実習中に1回訪問し、指導を行う。 事前事後指導等の内容について 実習先で事前にオリエンテーションを受け、事前オリエンテーション報告に記入します。 その際、実習先で指導された内容について詳細に記載するとともに、教員に伝える必要性のある事項については、必ず連絡すること。指導は個別に行うこともあるため、Gメールを利用し、教員としっかり連絡をとるように心がけてください。 実習受講条件 「保育実習指導」を受講していること 実習態度等 実習先の方針や守秘義務を遵守しなければなりません。社会とのかかわりの第一歩であるため、積極的に実習に臨んでください。 また、子どもとかわることを意識した、表情や態度を示してください。 | | |
| 備考 | <p>・この科目の単位認定されるには、「保育実習指導」を履修する必要があります。「保育実習」と「保育実習指導」は個別に単位認定されますがそれぞれが有機的に連動している科目のため単独で単位認定されることはありません。</p> <p>・保育実習指導（1回生春学期・秋学期）を必ず履修していること。</p> <p>・出席状況および各レポート等が未提出の場合は実習できないこともあるので気をつけること。</p> <p>・実習記録は毎日提出すること。</p> | | |

| | | | |
|-------|---|------|-----------|
| 実習名 | 保育実習 a | 対象学生 | 幼児教育学科2回生 |
| 担当者 | 野田 隆生・鈴木 えり子・名賀 亨・友本 喜代子・安藤 正彦・日永 よし子・高岡 理恵・山本 明美・山部 泰司・乾 眞理子・林 静香・浅田 瞳・小川 隆昭・坂口 みゆき | | |
| 実習の概要 | <p>1. 目標・目的 「保育実習（保育所・施設）」の保育所実習で学んだ内容を発展的に深化させ、実践力や応用力をさらに高めることを目的とする。</p> <p>2. 保育実習（保育所）の内容 乳幼児の成長・発達を理解し、個々に応じた保育者の援助について学ぶ。 健康管理、安全対策、子どもの心身の状態に応じた環境づくりを学ぶ。 保育実習の内容（観察・参加・部分実習）に加えて、指導計画を立案し研究実習（部分、半日、全日のいずれか）を行う。 保育士の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。</p> <p>3. 実習生に対する指導方法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、保育所の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態 公立・私立の認可保育所（幼保連携型認定こども園を含む）で行い、原則「保育実習」の保育所実習先と同様とする。 期間は、2回生の8月のうち10日間以上（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について 「保育実習指導」で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとすることがある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、保育所の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</p> | | |
| 備考 | <p>1. 実習受講の条件など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保育実習」の実習を終了していること。 ・「保育実習」の単位を取得するには、「保育実習指導」の単位を取得することを条件とする。 <p>「保育実習」と「保育実習指導」は形式上個別に単位認定されますが、それぞれが連動している科目のため個別に単位認定されることはありません。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライバシー保護に基づいて、実習中に知り得た情報を第三者等に漏らしてはならない。 ・子どもと保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。 | | |

| | | | |
|-------|--|------|---------|
| 実習名 | 保育実習 a | 対象学生 | 幼児教育2回生 |
| 担当者 | 武田 康晴 | | |
| 実習の概要 | <p>1. 目標・目的 「保育実習（保育所・施設）」の保育所実習で学んだ内容を発展的に深化させ、実践力や応用力をさらに高めることを目的とする。</p> <p>2. 保育実習（施設）の内容 利用者の成長・発達、またニーズを理解し、個々に応じた保育者の援助について学ぶ。 健康管理、安全対策、子どもや利用者の心身の状態に応じた環境づくりを学ぶ。 保育実習の内容（観察・参加・部分実習）に加えて、必要に応じて指導計画を立案し研究実習を行う。 保育士の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。</p> <p>3. 実習生に対する指導方法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態 学校の斡旋した児童福祉施設（児童館を含む）または障害者支援施設で実習を行う。 期間は、原則2回生の8月のうち10日間以上（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について 「保育実習指導」で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、準備ができていないという理由で実習を行えないことがある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導での着実な準備が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、実習先の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</p> | | |
| 備考 | <p>1. 実習受講の条件など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保育実習」の実習を終了していること。 ・「保育実習」の単位を取得するには、「保育実習指導」の単位を取得することを条件とする。 <p>「保育実習」と「保育実習指導」は形式上個別に単位認定されるが、それぞれが連動している科目のため片方のみ単位認定されることはない。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライバシー保護に基づいて、実習中に知り得た情報を第三者等に漏らしてはならない。 ・子どもと保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。 | | |

| | | | |
|-------|---|------|---------|
| 実習名 | 介護実習 a | 対象学生 | 専攻科介護専攻 |
| 担当者 | 高岡 理恵・中村 洋子・野田 隆生 | | |
| 実習の概要 | <p>1. 実習の目的 講義、演習、学内実習で学んだ理論と技術を実際に活用し、利用者への総合的な介護が実践できるための基礎能力を習得する。実習指導者の指導を受けながら、実習目標に沿った介護計画のたてかたや記録について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を養い、介護福祉士の役割について理解を深めることを目的とする。</p> <p>2. 実習内容の区分及び形態 「実習施設・事業等（ ）」及び「実習施設・事業等（ ）」に区分して、210時間の介護実習を実施する。 「実習施設・事業等（ ）」 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて、利用者、家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践・多職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置く。 秋学期に「介護総合演習」を配当し「実習施設・事業等（ ）」において5日間の実習を行う。1日8時間。 「実習施設・事業等（ ）」 一つの施設・事業所等において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程の展開を行う。 介護実習は春学期に「介護総合演習」を配当し、8月に「実習施設・事業等（ ）」において22日間の実習を行う。1日8時間。</p> <p>3. 実習施設 介護実習の実習施設は、老人福祉法に定められている特別養護老人ホーム、介護保険法に定められている老人保健施設、児童福祉法に定められている重度心身障がい児施設、障がい者自立支援法に定められている施設であって、本校と契約を取り交わしている施設である。</p> <p>4. 実習生に対する指導 実習中は、実習担当者から指導、助言を受けながら実習を行う。教員は週に1回訪問し、指導を行う。</p> <p>5. 実習受講条件 「介護総合演習」を受講していること</p> <p>6. 実習態度等 実習先の方針や守秘義務を遵守しなければなりません。積極的に実習に臨んでください。</p> | | |
| 備考 | 実習先でオリエンテーションを受け、実習担当職員からの指導・助言を受けながら実習を行います。介護総合演習を履修していなければ介護実習ができません。 | | |

| | | | |
|-------|--|------|---------|
| 実習名 | 介護実習 b | 対象学生 | 専攻科介護専攻 |
| 担当者 | 高岡 理恵・中村 洋子・野田 隆生 | | |
| 実習の概要 | <p>1. 実習の目的 講義、演習、学内実習で学んだ理論と技術を実際に活用し、利用者への総合的な介護が実践できるための基礎能力を習得する。実習指導者の指導を受けながら、実習目標に沿った介護計画のたてかたや記録について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を養い、介護福祉士の役割について理解を深めることを目的とする。</p> <p>2. 実習内容の区分及び形態 「実習施設・事業等（ ）」及び「実習施設・事業等（ ）」に区分して、210時間の介護実習を実施する。 「実習施設・事業等（ ）」 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて、利用者、家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践・多職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置く。 秋学期に「介護総合演習」を配当し「実習施設・事業等（ ）」において5日間の実習を行う。1日8時間。 「実習施設・事業等（ ）」 一つの施設・事業所等において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程の展開を行う。 介護実習は春学期に「介護総合演習」を配当し、8月に「実習施設・事業等（ ）」において22日間の実習を行う。1日8時間。 介護実習 b においては「実習施設・事業等（ ）」を行うものとする。</p> <p>3. 実習施設 介護実習の実習施設は、老人福祉法に定められている特別養護老人ホーム、介護保険法に定められている老人保健施設、児童福祉法に定められている重度心身障がい児施設、障がい者自立支援法に定められている施設であって、本校と契約を取り交わしている施設である。</p> <p>4. 実習生に対する指導 実習中は、実習担当者から指導、助言を受けながら実習を行う。教員は週に1回訪問し、指導を行う。</p> <p>5. 実習受講条件 「介護総合演習」を受講していること</p> <p>6. 実習態度等 実習先の方針や守秘義務を遵守しなければなりません。積極的に実習に臨んでください。</p> | | |
| 備考 | | | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | 子どもの人権 a・b | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | CS1112 |
| 英文名 | Children's Rights a・b | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 向出 佳司 | | | 対象学生 | 幼児教育1AB・1CD | | | | |
| 授業の概要 | <p>人権は、歴史的にみればわかるように、固定的なものではない。人権の主張があり、それが支持を得て社会的に承認され、法的に認められること等を通して、人権として定着してくる。このように人権は人々の努力によって拡大、伸張するものであることを把握する。授業では、具体的にいくつかの問題を取りあげ、人権と人権問題、その改善と解決の方法を考えていく（授業の進展度合いにより予定の変更もあります）。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、子ども・高齢者の世代間交流、障害者との共生・育児についてどのような問題があるのかについて理解できる。 2) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、男女共同参画社会の実現についてどのような問題があるのかについて理解できる。 3) 「グローバル化」とともに人口減少が進行し労働力が弱体化していく日本社会において、女性の社会進出は重要なものとなる。女性労働において、どのような問題があるのかについて理解できる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業） | | グループワーク ICT活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テキスト | 授業時に資料を配布する | | | | | | | | |
| 参考書 | 適宜紹介する | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 授業始め又終盤にて実施する | | | | | | | | |
| 留意事項 | 積極的・主体的な学習参加を期待する | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 子どもの人権 a・b | |
|------|-------------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス 人間の概念 | (学修内容)本講義の概要について説明する。人間について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 指定した予習・復習 |
| 第2回 | 人権の概念 | (学修内容)社会権・平等権・自由権について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 日本国憲法の人権条項を準備する。 |
| 第3回 | 人権侵害の概念 | (学修内容)尊厳・平等・自由が否定される事例について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 世界人権宣言を準備する。 |
| 第4回 | 障害者問題 | (学修内容)障害者との共生・共育の3つの理念について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 関連報道記事を準備する。 |
| 第5回 | 高齢者問題 | (学修内容)高齢社会下における高齢者の人権について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 関連報道記事を準備する。 |
| 第6回 | 子ども・家族の問題 | (学修内容)少子社会における子ども・家族の人権について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 関連報道記事を準備する。 |
| 第7回 | 性の問題 | (学修内容)男女共同参画社会への道のりについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 関連報道記事を準備する。 |
| 第8回 | 男女の行動の違いについて --性差の刷り込みの影響 | (学修内容)性差の刷り込みの影響について考察します。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 前講の復習。 |
| 第9回 | 男女の行動の違いについて --社会環境が性差を生む? | (学修内容)社会環境により性差を生む側面について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 前講の復習 |
| 第10回 | 男女の行動の違いについて --女性は交渉を避ける傾向あり? | (学修内容)女性らしさというジェンダー規範の問題について考査する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 前講の復習。 |
| 第11回 | 性差を超えた取り組み | (学修内容)人との関わりかたの差について考察し、性差を超えた取り組みについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 前講の復習。 |
| 第12回 | 女性労働の問題 --女性の社会進出の現状 | (学修内容)国際比較をまじえて女性の社会進出の現状について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 前講の復習。 |
| 第13回 | 女性労働の問題 --女性労働の壁について | (学修内容)女性労働の制度的な壁となっている問題について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 前講の復習。 |
| 第14回 | 女性労働の問題について --社会保障のありかた | (学修内容)女性労働における社会保障のありかたについて考察する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 前講の復習。 |
| 第15回 | まとめ | (学修内容)本講義のポイント整理。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 定期試験にむけた質問事項。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | 現代子ども学 a・b | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | CS1103 |
| 英文名 | Study of Modern Children a・b | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 必修 | | |
| 担当者 | 流石 智子 | | | 対象学生 | 幼児教育1AB・1CD | | | | |
| 授業の概要 | <p>私たちは子どものことを十分知っているのか。子どもには、成長発達する権利があり、どのような状況でも守られる権利がある。そのことは社会で理解されているのであるが、近年子どもに関係した問題や課題、理解が不十分であるためにおこる子どもの生活不安等、もっと子どもへの理解を深める必要がある。この授業では、子どもに関係するさまざまな事柄を、理解するために多面的な視点で、学びを深める。グループに分かれて討議したり、自分の意見を相手に伝えることができよう、発表等をすることもある。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1, 子どもとは、どのような存在かを理解できる。 2, 生活をする子どもの姿を知り、子どもの成長発達について理解できる。 3, 大切な存在として、子どもを取り巻く環境を理解できる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (70%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テキスト | なし。適宜、資料を配付する。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業内で、提示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | レポートの返却時に、説明、解説をする。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | レポート課題の提出は2回あり。授業内で、小レポートの提出あり。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室に掲示、演習室にも掲示あり。在室時、時間があれば対応する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 現代子ども学 a・b | |
|------|-----------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 子どもってなに | (学修内容) 子どもの理解をする (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 子どもについて調べ、ノートに整理する。 |
| 第2回 | 子どもの発達 | (学修内容) 発達するとは (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 発達とはどういうことか、ノートに整理する。 |
| 第3回 | 健康と子ども | (学修内容) 健康ってどういうことかな。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 「あなたは、健康ですか。」について、400字程度でノートに整理する。 |
| 第4回 | 養育環境と子ども | (学修内容) 養育について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 養育について、ノートにまとめておく。800字程度。 |
| 第5回 | 自然と子ども | (学修内容) 自然を子どもはどのように受け取っているのか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 木登りや虫取りについて、自分の体験を800字程度にノートにまとめておく。 |
| 第6回 | 妊娠と出産と子ども | (学修内容) 妊娠・出産について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 「妊娠・出産について」この授業から学んだことを800字程度にまとめ提出。 |
| 第7回 | 子どもの社会的スキル・仲間関係 | (学修内容) コミュニケーションと社会的スキル (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: コミュニケーションについて調べる。前回のレポート提出あり。 |
| 第8回 | 子どもを取り巻く遊びなど | (学修内容) 今どき・・・の子どもについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 子どものあそびについて調べる。ノートに整理する。 |
| 第9回 | 子どもの服装 | (学修内容) 子どもはどのような服装を着る。装いについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 子どものおしゃれについて調べる。ノートに整理する。 |
| 第10回 | 子どもと文化 | (学修内容) 文化と子どもの発達について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 子どもにとって文化とはなにかをノートに整理する。 |
| 第11回 | 子どもの貧困・社会的排除 | (学修内容) 子どもの生活事態を知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 「子どもの貧困について」レポートにまとめて提出800字程度。 |
| 第12回 | 教育を受ける権利と子ども | (学修内容) 教育を受ける権利とは (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: 教育を受ける権利について、ノートに整理する。前回のレポート提出あり。 |
| 第13回 | わらべうたと子ども | (学修内容) わらべうたを知ってる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: わらべうたにどのようなものがあるか調べる。ノートに整理する。 |
| 第14回 | 子育て支援と子ども | (学修内容) 子育て支援とは (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 子育て支援策を5つ調べ、ノートに整理する。 |
| 第15回 | 外国籍の子どもたち | (学修内容) 多文化教育・保育 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 外国籍の子どもは、どれくら日本にいるのか調べ、ノートに整理する。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 子どもの理解と援助 a・b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | CS1111 |
| 英 文 名 | Understanding and Supporting Children a・b | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 西川 由紀子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1AB・1CD | | | | |
| 授業の概要 | 保育において、ひとりひとりの発達を把握して実践を展開することの意義を理解し、具体的な保育場面からそのイメージを具体的にもつことを目的とする。授業においては、発達の状況を把握する意義を押さえた後、各年齢の発達の特徴があらわれている保育実践を紹介し、保育の展開を理解できるようにする。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 生後6年間の子どもの発達を理解する。 2) 保育のなかでどのように子どもたちを援助しているかを理解する。 3) 集団保育の中で気になる子どもへの支援をどのようにしているかを理解する。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (90 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (10 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 西川由紀子『子どもの思いにこころをよせて』(かもがわ出版) 西川由紀子『かかわりあって育つ子どもたち』(かもがわ出版) | | | | | | | | |
| 参 考 書 | | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 授業への感想や質問について、翌週の授業冒頭で解説する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業時に伝える | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 子どもの理解と援助 a・b | |
|---------|------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 子どもの発達を学ぶ意義 | (学修内容) 子どもを理解するために発達を学ぶことにどんな意義があるかを解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 1章を読んで、たいせつなポイントにラインを引いてくる |
| 第2回 | 0歳児の発達 | (学修内容) 0歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 2章、3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる |
| 第3回 | 0歳児の保育の実際 | (学修内容) 0歳児クラスの保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 2章3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる |
| 第4回 | 1歳児の発達 | (学修内容) 1歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる |
| 第5回 | 1歳児の保育 | (学修内容) 1歳児クラスの保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる |
| 第6回 | 2歳児の発達 | (学修内容) 2歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章、テキスト 2章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる |
| 第7回 | 2歳児の保育 | (学修内容) 2歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章、テキスト 2章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる |
| 第8回 | 3歳児の発達 | (学修内容) 3歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる |
| 第9回 | 3歳児の保育 | (学修内容) 3歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる |
| 第10回 | 4歳児の発達 | (学修内容) 4歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる |
| 第11回 | 4歳児の保育 | (学修内容) 4歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでくる |
| 第12回 | 5歳児の発達 | (学修内容) 5歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる |
| 第13回 | 5歳児の保育 | (学修内容) 5歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる |
| 第14回 | 気になる子への対応(乳児クラス) | (学修内容) 乳児クラスの気になる子どもへの対応を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章、5章、2章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる |
| 第15回 | 気になる子への対応(幼児クラス) | (学修内容) 幼児クラスの気になる子どもへの対応を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 3, 4, 5章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|-------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | ことばと表現 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | CS1104 |
| 英文名 | Words and Expressions | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 水谷 隆 | | | 対象学生 | 幼児教育1回生 | | | | |
| 授業の概要 | この授業は、保育の学びの基盤となる、ことばと表現に関する知識や考え方を身につけることを目的としています。この目的を果たすために、ことばと思考の関係、社会人として求められるコミュニケーションの基本、保育の学びに必要な言葉、という三つの観点にわけて、講義形式の解説を行い、次いで、解説に基づいた、プレゼンテーションや作文等の作業をしていきます。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) ことばと表現の本質についてわかりやすく説明できる。 2) 自分の考えをことばでもって的確に伝えることができる。 3) 保育の学びに必要な基本的用語を知り、今後の学修に活かすことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 | | | |
| テキスト | プリントを配布します。 | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたレポートは、コメントとともに返却します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 国語辞典、あるいはそれに類するもの(スマホのアプリ等)を持参してください。 授業の進行や受講生の興味・関心に応じて各回の内容を変更する可能性があります。なお、その際には事前事後学習課題と併せて、前もって連絡します。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室に日時を貼付するので、確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | ことばと表現 | |
|------|------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス 言葉による世界の把握 | (学修内容) 授業の目的と運営方針の解説 言葉とものの捉え方の関係について (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、シラバスを読んでおく。 |
| 第2回 | リフレーミング ネガティブとポジティブ | (学修内容) リフレーミングについての解説。リフレーミングの練習とプレゼンテーション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、「リフレーミング」について自分なりに調べておく。 |
| 第3回 | リフレーミング 多様な視点 | (学修内容) 視点を転換した昔話についての解説。創作とプレゼンテーション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、日本の昔話(任意のもの3つ以上)のあらすじを確認しておく。 |
| 第4回 | 弁証法的な思考 小論文の構成 | (学修内容) 弁証法的な思考方法、小論文構成の基本についての解説。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、ヘーゲルの「弁証法」について自分なりに調べておく。 |
| 第5回 | 弁証法的な思考 小論文の作成 | (学修内容) 小論文のテーマに関する意見交換。論文執筆。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、原稿用紙の使い方や日本語表記の基本について再確認しておく。 |
| 第6回 | コミュニケーション力とは何か | (学修内容) 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションについての解説。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、コミュニケーションにはどのような種類があるのか調べておく。 |
| 第7回 | 日本語の表記 | (学修内容) 仮名の由来と書き方、漢字とかなの使い分けについての解説。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、五十音をひらがな・カタカナ・ローマ字で書いてくる。 |
| 第8回 | 分かりやすい説明文 | (学修内容) 5W1H、あるいはそれに類する観点についての解説。説明文の作成。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、四条河原町から本学までの順路を具体的にイメージできるようにしておく。 |
| 第9回 | 文章のフォーマット | (学修内容) 目的に応じた文章のフォーマットについての解説。取扱説明書の作成。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、任意の機器の取扱説明書を見る、および西野カナの「トリセツ」を聞いておく。 |
| 第10回 | 受け手を意識した発言 | (学修内容) 相手の立場や文化的背景を踏まえた発言についての解説。作文。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、アリアナ・グランデについて調べておく。 |
| 第11回 | 挨拶に関わる諸問題 | (学修内容) 様々な職場における挨拶が意味するものについての考察。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、挨拶のもつ機能について自分なりに考えておく。 |
| 第12回 | ジェンダーと言葉の問題 | (学修内容) 日本語の人称とジェンダーの問題についての解説と考察。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として「ジェンダー」とは何か、またどんな問題があるのかについて確認しておく。 |
| 第13回 | 保育に関わることば 専門用語のこと | (学修内容) 保育現場で用いる専門用語についての解説。専門用語の認定作業。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、日常の授業で出会った専門用語をリストアップしておく。 |
| 第14回 | 保育に関わることば その理解 | (学修内容) 辞書のフォーマットについての解説。専門用語辞書の作成。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、国語辞典及び百科事典の項目フォーマットを確認しておく。 |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 授業の振り返りと自己評価。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、授業全体を振り返り、自己の課題と今後の学修について考えておく。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|--------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 健康と生涯スポーツ a・b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | CE1404 |
| 英 文 名 | Health and Lifelong Sports Ia・b | | | 開 講 時 期 | 春学期 | 必 修 選 択 | | 選 択 | |
| 担 当 者 | 吉永 有佳 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1A・1B | | | | |
| 授業の概要 | 受講者全員に体力測定を実施する。講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深める。実技では各種スポーツのルールを理解し、基本的な技術の習得により、生涯にわたり日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識・技能を習得し、生涯スポーツにつなげる事できる 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理することができる 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育み、積極的に参加できる | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (健康への理解) | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | | |
| テ キ ス ト | 使用しない | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 『健康・スポーツ科学講義』出村慎一監修 (杏林書院) | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 授業後に質問を受け付け、次回の授業で解説を行う。また、必要に応じて個別に対応をする。実技テスト及び授業後に小レポートを行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 必要に応じてプリントを配布する。体操服と体育館シューズを必ず持参すること。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業終了後体育準備室で実施する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 健康と生涯スポーツ a・b | |
|---------|---------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | はじめに | (学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと |
| 第2回 | アイスブレイキング | (学修内容)コミュニケーションを目的としたレクリエーション (事前事後学修課題の内容)(60分) アイスブレイキングについて具体的に調べてまとめる |
| 第3回 | ソフトバレーボール1 | (学修内容)基本技術の習得・ルールの理解・ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの特徴を具体的に調べてまとめる |
| 第4回 | ソフトバレーボール2 | (学修内容)基本技術の習得・ソフトバレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) ソフトバレーボールのルールの復習 |
| 第5回 | ソフトバレーボール3 | (学修内容)ソフトバレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) ソフトバレーボールの戦術について具体的に調べてまとめる |
| 第6回 | ソフトバレーボール4 | (学修内容)ソフトバレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術について具体的に調べてまとめる |
| 第7回 | 講義1 | (学修内容)健康と体力について (事前事後学修課題の内容)(60分) 健康について自分の考えをまとめておく |
| 第8回 | 体力測定1 | (学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(60分) 体力テストについて具体的に調べてまとめる |
| 第9回 | 体力測定2 | (学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(30分) 体力テストについて具体的に調べてまとめる |
| 第10回 | 講義2 | (学修内容)体力評価 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体力測定について振り返りをしておく |
| 第11回 | バドミントン1 | (学修内容)基本技術の習得・バドミントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントンのルールを具体的に調べてまとめる |
| 第12回 | バドミントン2 | (学修内容)バドミントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントンの戦術について具体的に調べてまとめる |
| 第13回 | 卓球1 | (学修内容)基本技術の習得・卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 卓球のルールを具体的に調べてまとめる |
| 第14回 | 卓球2 | (学修内容)卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(30分) 卓球の戦術について具体的に調べてまとめる |
| 第15回 | まとめ | (学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(80分) 講義内容を振り返り、レポートにまとめて提出 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|----------------------|----------------------------|-----------------|------------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 健康と生涯スポーツ c・d | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CE1404 |
| 英 文 名 | Health and Lifelong Sports Ic・d | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 山本 武司 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1C・1D | | | | |
| 授業の概要 | 講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深め、実技では各種スポーツのルールを理解し、基本的な技術の習得により、生涯に亘り日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。また、体力測定を実施し自己の体力の現状を認識する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得することができる。 2) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識と技能を習得することができる。 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを身につけることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (協調性) | プレゼンテーション能力 () | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修 (杏林書院) | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 口頭で講評する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業終了後体育準備室で実施する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 健康と生涯スポーツ c・d |
|---------|------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | はじめに | (学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(30分) 筆記用具、顔写真(3cm×3cm)、プリントを配布する |
| 第2回 | バドミントン1 | (学修内容)バドミントンの基本技術(フォア・バックハンド、サーブ、スマッシュ)の習得 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントンの基本技術を調べる |
| 第3回 | バドミントン2 | (学修内容)基本技術の習得、バドミントン・ダブルスの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントンのルールを調べ理解する |
| 第4回 | バドミントン2 | (学修内容)バドミントン・ダブルスの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントンの戦術について調べ理解する |
| 第5回 | バドミントン3 | (学修内容)バドミントン・ダブルスの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントンの戦術について理解する |
| 第6回 | バドミントン4 | (学修内容)バドミントン・ダブルスの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントンの戦術について理解する |
| 第7回 | 講義1 | (学修内容)健康と体力、運動とトレーニング (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布したプリントの体力について理解しておく |
| 第8回 | 体力測定1 | (学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(30分) 体調管理 |
| 第9回 | 体力測定2 | (学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(30分) 体調管理 |
| 第10回 | ソフトバレーボール1 | (学修内容)ソフトバレーボールの基本技術(パス、レシーブ)の習得 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの基本技術を調べ理解する |
| 第11回 | ソフトバレーボール2 | (学修内容)基本技術の習得、ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールのルールを調べ理解する |
| 第12回 | ソフトバレーボール3 | (学修内容)ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術を調べ理解する |
| 第13回 | ソフトバレーボール4 | (学修内容)ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術を理解する |
| 第14回 | 講義2 | (学修内容)体力測定の結果を検討、評価 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体力測定の結果を検討・評価する |
| 第15回 | まとめ | (学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体力測定の結果を検討・考察する |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|-------------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 健康と生涯スポーツ a・b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CE1411 |
| 英 文 名 | Health and Lifelong Sports a・b | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 吉永 有佳 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1A・1B | | | | |
| 授業の概要 | 本講では、運動が身体にどのような影響を及ぼすかを学習し、学生個人の健康についての理解を各種スポーツの実践を通して深める。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識・技能を高めることができる 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理することができる 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップを育み、積極的に参加できる | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (健康への理解) | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 使用しない | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 『健康・スポーツ科学講義』出村慎一監修 (杏林書院) | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 授業後に質問を受け、次回の授業で解説を行う。また、必要に応じて個別対応を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 必要に応じてプリントを配布する。体操服と体育館シューズを必ず持参すること。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業終了後体育準備室で実施する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 健康と生涯スポーツ a・b | |
|------|---------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | はじめに | (学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを確認しておく |
| 第2回 | 講義1 | (学修内容)健康づくりのための運動について (事前事後学修課題の内容)(60分) 健康づくりの運動にはどのようなものがあるか、考えておく |
| 第3回 | 講義2 | (学修内容)体力づくりのための運動について (事前事後学修課題の内容)(60分) 体力づくりの運動にはどのようなものがあるか、考えておく |
| 第4回 | バレーボール1 | (学修内容)基本技術の習得・ルールの理解・バレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バレーボールのルールを具体的に調べてまとめる |
| 第5回 | バレーボール2 | (学修内容)基本技術の習得・バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) バレーボールのルールの復習 |
| 第6回 | バレーボール3 | (学修内容)バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) バレーボールの戦術について具体的に調べ、まとめる |
| 第7回 | バレーボール4 | (学修内容)バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) バレーボールの戦術について具体的に調べてまとめる |
| 第8回 | バドミントン1 | (学修内容)基本技術の習得・バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンのルールを具体的に調べてまとめる |
| 第9回 | バドミントン2 | (学修内容)バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(30分) バドミンントンの戦術について具体的に調べてまとめる |
| 第10回 | バドミントン3 | (学修内容)バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(30分) バドミンントンの戦術について具体的に調べてまとめる |
| 第11回 | バスケットボール1 | (学修内容)基本技術の習得・ルールの理解・バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールのルールを具体的に調べてまとめる |
| 第12回 | バスケットボール2 | (学修内容)基本技術の習得・バスケットボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) バスケットボールのルールの復習 |
| 第13回 | バスケットボール3 | (学修内容)バスケットボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) バスケットボールの戦術について具体的に調べてまとめる |
| 第14回 | バスケットボール4 | (学修内容)バスケットボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) バスケットボールの戦術について具体的に調べてまとめる |
| 第15回 | まとめ | (学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(80分) 授業内容を振り返り、レポートにまとめて提出する |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|----------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 健康と生涯スポーツ c・d | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CE1411 |
| 英 文 名 | Health and Lifelong Sports c・d | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 山本 武司 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1C・1D | | | | |
| 授業の概要 | 運動時にハートレートモニターを装着し、心拍数を測定する。測定結果から各運動の強度を調べ、運動の内容について検討を加えレポートにまとめる。各種運動の実践を通して日常的に運動を行う態度と能力を養う。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 運動実践時の心拍数、継続時間を測定して運動強度を判定し、実践した運動内容について検討することができる。 2) 健康の保持増進を目的としたスポーツの実践を通して、適切な強度による運動を生涯に亘り実践する意義について理解することができる。 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを身につけることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (協調性) | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修 (杏林書院) | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 口頭で講評する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。 ウォーキング時は運動靴を使用すること。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業終了後体育準備室で実施する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 健康と生涯スポーツ c・d | |
|------|-----------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | はじめに | (学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(30分) 筆記用具 |
| 第2回 | 講義 1 | (学修内容)健康を維持増進するための運動 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布したプリントを読んで身体運動について理解する |
| 第3回 | ウォーキング時心拍数の測定 1 | (学修内容)ウォーキング時の心拍数測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 正しい歩き方、適正運動強度を調べ理解する |
| 第4回 | ウォーキング時心拍数の測定 2 | (学修内容)ウォーキング時の心拍数測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 適正運動強度を理解する |
| 第5回 | ウォーキング時心拍数の測定 3 | (学修内容)ウォーキング時の心拍数測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 適正運動強度を理解する |
| 第6回 | ウォーキング時心拍数の測定 4 | (学修内容)ウォーキング時の心拍数測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 適正運動強度を理解する |
| 第7回 | 各種スポーツの実践 1 | (学修内容)大縄跳び (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理 |
| 第8回 | 各種スポーツの実践 2 | (学修内容)綱引きの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 綱引きの戦術について調べ理解する |
| 第9回 | 各種スポーツの実践 3 | (学修内容)ドッジボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ドッジボールのルールを調べ理解する |
| 第10回 | バスケットボール 1 | (学修内容)バスケットボールの基本技術(ドリブル、パス、シュート)の習得 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの基本技術を調べ理解する |
| 第11回 | バスケットボール 2 | (学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールのルールを理解する |
| 第12回 | バスケットボール 3 | (学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの戦術を調べ理解する |
| 第13回 | バスケットボール 4 | (学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの戦術を理解する |
| 第14回 | 講義 2 | (学修内容)心拍数測定資料の整理、検討、考察 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、測定資料の整理、検討、考察 |
| 第15回 | まとめ | (学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、測定資料の検討、考察 |

| | | | | | | | | | |
|---------------------------------|---|--------------------|---------------------------------|-------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 保育英語コミュニケーション a・d | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | CE1405 |
| 英 文 名 | Child Care English Ia・d | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 山本 典子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1A・1D | | | | |
| 授 業 の 概 要 | 演習形式の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域において総合的な英語力の基礎をバランスよく習得します。予習をしていることを前提にしてテキストを進めます。保育英語に特化した授業になりますが、また、専門領域に関する教材や異文化理解にもつながる多読も授業に取り入れます。さらに毎回の授業でグループワークを取り入れます。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を身につけることができる。 2) 自身のことについて英語で伝えることができる。 3) 平易な英語絵本を訳すことなく英語のまま理解することができる。 | | | | | | | | |
| 学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 | | | |
| テ キ ス ト | [Speaking of Childcare] 著者: Peter Vincent / 中里菜穂子 南雲堂 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 保育英語ワークブック (保育英語検定3級問題集) 社団法人国際子育て支援機構著 保育英語ワークブック (保育英語検定2級問題集) | | | | | | | | |
| 課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法 | 提出された宿題や課題は採点しコメントとともに返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | テキストは毎回使用するので、必ず購入し持参してください。このテキストは秋学期も使用します。宿題は期日に提出すること。予習・復習はしっかりと行うこと。評価方法は上記にあります。テキストを持ってきていない、寝ている、スマホを見ているなど、授業態度によってはそのとおりではありません。欠席5回で定期試験受験資格がなくなります。出欠、遅刻に関しては初講日にくわしく説明します。授業の進み具合によっては授業計画は前後することがあります。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など: NHK文化センター京都支社 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 保育英語コミュニケーション a・d | |
|---------|--|--|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | オリエンテーション Classroom English / ABC song | (学修内容) 読書記録シート、出欠・遅刻の扱いについて テキストp.5 Classroom English ABCの歌を歌う (事前事後学修課題の内容)(30分) p.5目を通しておく | |
| 第2回 | be動詞・一般動詞の理解 Unit 1 What's your name? ~p.8 | (学修内容) be動詞・一般動詞の演習 テキストp.8 リスニングの後ペアーワークで音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト p. 6-8の予習 特にp.8 | |
| 第3回 | be動詞・一般動詞の疑問文 1 Unit 1 What's your name? | (学修内容) be動詞・一般動詞の疑問文の演習 リスニングの後、音読 次回p.11単語テスト (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にbe動詞・一般動詞の復習しておくこと | |
| 第4回 | 単語テスト be動詞・一般動詞の疑問文 2 Unit 2 Where are you from? ~p.15 | (学修内容) be動詞・一般動詞の疑問文の演習 テキストに基づき簡単な自己紹介をグループで行う (事前事後学修課題の内容)(60分) be動詞・一般動詞の疑問文の復習しておくこと テキストp.14,15を予習 | |
| 第5回 | be動詞・一般動詞の復習 5文型の理解 Unit 2 Where are you from? | (学修内容) be動詞・一般動詞,5文型 Practice 5ゆっくり確認 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にp.16 Practice 5を準備しておく | |
| 第6回 | 現在進行形の理解 Unit 3 Good morning? ~p.21 | (学修内容) 会話リスニングの後音読 現在進行形の演習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 笑顔で場面を楽しめるよう会話の予習 | |
| 第7回 | Unit 3 Good morning? 頻度を表す副詞 | (学修内容) 現在進行形の復習 頻度を表す副詞を使って文を作る (事前事後学修課題の内容)(60分) 現在進行形の復習 p.24 Practice7の予習 | |
| 第8回 | Unit 4 Are you OK? 単語テストp.27 | (学修内容) 症状の言い方を覚える 会話のリスニングの後ペアーワークで音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) Unit 4 の準備として単語を覚えておく | |
| 第9回 | 単語テストp.30 現在進行形の復習 Unit 5 What are you doing? | (学修内容) 会話リスニングの後ペアーワークで音読 p.37 Practice 4は提出 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に現在進行形の復習しておく | |
| 第10回 | Unit 6 How are you feeling? ~p.41 感情を表す形容詞 | (学修内容) 感情を表す形容詞の理解、演習 会話のリスニングの後ペアーワークで音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.39,40の単語を予習、次回テスト | |
| 第11回 | Unit 6 How are you doing? 否定疑問文 過去形 単語テスト | (学修内容) 否定疑問と過去形の演習 パッセージの音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) 不規則変化動詞の復習 | |
| 第12回 | 不規則動詞変化表テスト Unit 7 What's she like? ~p.49 | (学修内容) 人の性格や特徴の表現を覚える 会話リスニングの後グループで音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) 単語p.47の予習 | |
| 第13回 | Unit 7 What's she like? 家系図 単語テスト Unit 8 Do's and Don'ts | (学修内容) 家族を表す単語を覚える (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてp.53 Practice 7 完成させ次回提出 | |
| 第14回 | 単語テスト Unit 8 Do's and Don'ts 命令文 | (学修内容) 標識を命令文で表す 会話リスニングの後ペアーワークで音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト p.54-62の予習 | |
| 第15回 | Review of Units 1 to 8 春学期の総復習 | (学修内容) 文法事項も含めて復習 定期試験の説明 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習としてp.63-66見ておく | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|-----------------|----------------------------|----------------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 保育英語コミュニケーション b・c | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CE1405 |
| 英 文 名 | Child Care English Ib・c | | | 開 講 時 期 | 春学期 | 必 修 選 択 | 選 択 | | |
| 担 当 者 | 早瀬 和栄 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1B・1C | | | | |
| 授業の概要 | 演習形式の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域において総合的な英語力の基礎をバランスよく習得します。予習をしていることを前提にテキストを進めます。また、専門領域に関連する教材や、異文化理解にもつながる多読も授業に取り入れます。保育英語に特化した授業を行います。毎回の授業で、グループワークをとりいれます。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を身につけることができる。 2) 自身のことについて伝えることができる。 3) 平易な英語絵本を訳すことなく、英語のまま理解することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 () () | | | |
| テ キ ス ト | 『新・保育の英語』 森田和子 (三修社) | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 保育英語検定受験予定の者は各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し、学習に取り組むことが望ましい。 『保育英語検定3級テキスト(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2057円 『保育英語検定2級テキスト(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2057円 『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著、1472円 『保育英語ワークブック(保育英語検定2級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著、1472円 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたりレポートについては、コメントを付けて返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 本授業では定期試験を実施する。 5回以上の欠席は認めないが、正当な理由がある場合は考慮しますので、必ず報告すること。 授業には辞書を必ず持参すること。 授業の進み具合によって授業計画は前後することがあります。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 保育英語コミュニケーション b・c | |
|---------|-----------------------|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介 (事前事後学修課題の内容) (15分) 本授業のシラバスを読む | |
| 第2回 | 英語でエッセイを読む | (学修内容) 多読のすすめ 英語でエッセイを読む (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 6-7の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 | |
| 第3回 | Chapter 1 新学期・園の人々・園舎 | (学修内容) 保育で使う英会話表現 リスニング問題 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 8-9の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 | |
| 第4回 | Chapter 2 登園・家族 | (学修内容) 登園時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 10-13の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 | |
| 第5回 | Chapter 3 室内あそび・欠席の連絡 | (学修内容) 教室内で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 14-17の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 | |
| 第6回 | Chapter 4 外あそび・遊具 | (学修内容) 外遊びで使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 18-21の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 | |
| 第7回 | Chapter 5 園庭・けんか | (学修内容) 園庭で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 22-25の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 | |
| 第8回 | 文法の復習 (一般動詞・be動詞) | (学修内容) 文法の復習 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 26-29 の予習、テキストの問題をしておく。 | |
| 第9回 | Chapter 6 昼食・献立表 | (学修内容) 昼食時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 30-33の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 | |
| 第10回 | Chapter 7 着替え・おはなし | (学修内容) 着替えの時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 34-37の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 | |
| 第11回 | Chapter 8 トイレ・お昼寝 | (学修内容) トイレやお昼寝時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 38-41の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 | |
| 第12回 | Chapter 9 病気・身体の名称 | (学修内容) 病気の時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 42-45の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 | |
| 第13回 | Chapter 10 緊急連絡 | (学修内容) 緊急連絡時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 46-49の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 | |
| 第14回 | 文法の復習 (疑問文・否定文・命令文) | (学修内容) 文法の復習 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 50-53の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 | |
| 第15回 | 総復習 | (学修内容) 日常表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの見直し | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | 保育英語コミュニケーション a・d | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | CE1412 |
| 英文名 | Child Care English a・d | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 山本 典子 | | | 対象学生 | 幼児教育1A・1D | | | | |
| 授業の概要 | 演習形式の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域において総合的な英語力の基礎をバランスよく習得します。予習していることを前提にテキストを進めます。春学期から引き続き保育英語に特化した授業になります。毎回の授業でグループワークを取り入れます。また異文化理解にもつながる多読も続けます。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を実につけることができる。 2) 過去形や現在完了形を用いて自身のことを伝えることができる。 3) 平易な英語絵本を訳すことなく、英語のまま理解することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 | | | |
| テキスト | 「Speaking of Childcare」 Peter Vincent/中里菜穂子 著 南雲堂 春学期のテキストの続きをします。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 保育英語ワークブック (保育英語検定3級問題集) 保育英語ワークブック (保育英語検定2級問題集) 国際子育て支援機構著 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出された宿題、課題はコメントをつけて返却します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 後期もテキスト中心に授業を進めますが、音読や発表の機会が増えます。予習、復習、宿題はしっかりとやっておいてください。評価方法は上記のとおりですが、前期同様、授業態度によってはそのとおりではありません。進み具合によっては授業計画は前後することがあります。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実務経験など：NHK文化センター京都支社 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 保育英語コミュニケーション a・d | |
|---------|---|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | 動詞の時制復習テスト Unit 9 Let's eat lunch! ~p.70 | (学修内容) 動詞の復習 会話リスニング、音読 letを使って文を作る (事前事後学修課題の内容)(60分) 動詞の時制の復習 | |
| 第2回 | Unit 9 Let's eat lunch! | (学修内容) let, want toを使って文を作る 会話のペアワーク音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.71-73の予習 | |
| 第3回 | Unit 10 What do you want to do? ~p.78 | (学修内容) 現在進行形の復習 want toを使って文を作る (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にp.78の単語を覚えておく | |
| 第4回 | 単語テストp.78 Unit 10 What do you want to do? 形容詞とその反対語 感嘆文 | (学修内容) 形容詞と反対語を覚える 感嘆文の演習 会話の音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) 感嘆文の予習 | |
| 第5回 | 単語テストp.79 Unit 11 What do you have to do? 助動詞 ~p.87 | (学修内容) 助動詞の意味と使い方 会話の音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.84-86の予習 | |
| 第6回 | Unit 11 What do you want to do? | (学修内容) 助動詞を使って文を作る p.88 Practice 5は提出 (事前事後学修課題の内容)(60分) 助動詞の復習 p.88から予習、特にPractice 5 はやっておく | |
| 第7回 | Unit 12 I need to go potty 依頼の表現 ~p.95 | (学修内容) please, make sure, need などを使ってイベントで 必要なものを連絡する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にp.93 Practice 1はやっておく p.95までの予習 | |
| 第8回 | Unit 12 I need to go potty can, could で依頼 | (学修内容) can, couldで依頼する練習 会話リスニング、ペアワークで音読 p.98 Practice 8は提出 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.96から予習 | |
| 第9回 | Unit 13 Good job! ~p.104 過去形の復習 | (学修内容) 過去形の復習、不規則動詞変化表確認 会話リスニングとペアワーク音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に過去形の復習 | |
| 第10回 | Unit 13 Good job! | (学修内容) 会話の書き換えと音読・発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.107 Practice 10がスムーズにできるよう準備 | |
| 第11回 | Unit 14 Injuries and emergencies ~p.111 体の部位の単語 | (学修内容) 体の部位の単語を覚える p.110ペアワーク音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にp.110がスムーズに進むよう準備 | |
| 第12回 | 単語テストp.109 Unit 14 Injuries and emergencies 事故や怪我を伝える単語 | (学修内容) 怪我や事故を英語で伝える メッセージのリスニング、音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.110-115の予習 | |
| 第13回 | Unit 15 We're going to go outside 未来形1 ~p.118 | (学修内容) 未来形の作り方1 会話音読 現在形・過去形あわせて理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) p.117の会話が流暢に読めるように準備 | |
| 第14回 | Unit 15 We're going to go outside 未来形2 | (学修内容) 未来形の作り方2 会話音読 p.122 Practice 6は提出 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にp.122 Practice 6の準備をしておく | |
| 第15回 | Reviews of Units 9 to 15 秋学期の復習 | (学修内容) 秋学期復習 定期試験の準備 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.123-125の予習 | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|----------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 保育英語コミュニケーション b・c | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CE1412 |
| 英 文 名 | Child Care English b・c | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 早瀬 和栄 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1B・1C | | | | |
| 授業の概要 | 英語・コミュニケーション に続き、演習形式の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域において総合的な英語力の基礎をバランスよく習得します。予習をしていることを前提にテキストを進めます。また、専門領域に関連する教材や、異文化理解にもつながる多読も授業に取り入れます。グループワークやプレゼンテーションを実践します。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 会話や多読に必要な文法の基礎を身につけることができる。 2) 身近なトピックについて、簡単な単語を用いて意見を伝えることができる。 3) 平易な英語本を訳すことなく、英語のまま理解することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | 『新・保育の英語』 森田和子(三修社) | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 保育英語検定受験予定の者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し、学習に取り組むことが望ましい。 『保育英語検定テキスト3級(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2057円 『保育英語検定テキスト2級(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2057円 『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著 1472円 『保育英語ワークブック(保育英語検定2級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著 1472円 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたりレポートについては、コメントを付けて返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 本授業では定期試験を実施する。 5回以上の欠席は認めないが、正当な理由がある場合は考慮しますので、必ず報告すること。 授業には辞書を必ず持参すること。 授業の進み具合によっては、授業計画は前後することがあります。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 授 業 計 画 |
|-------------------|--------------------------|---|
| 保育英語コミュニケーション b・c | | |
| | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 保育英語について考える (事前事後学修課題の内容) (15分) シラバスを読む |
| 第2回 | Chapter 11 行事の案内状・電話連絡 | (学修内容) 行事の案内状で使う英語表現と電話連絡の時に使う英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.54-57の予習、英作文の練習問題をしておく。 |
| 第3回 | Chapter 12 運動会・動作 | (学修内容) 運動会で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.58-61の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第4回 | Chapter 13 散歩 (1) 地図 | (学修内容) 地図を見る時に使う英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.62-65の予習、英作文の練習問題をしておく。 |
| 第5回 | Chapter 14 散歩 (2) 交通 | (学修内容) 交通手段を利用するときに使う英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.66-69の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第6回 | Chapter 15 お絵かき・お手紙書き | (学修内容) 絵や手紙を書く時に使う英語表現、プレゼンテーションの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.70-73の予習、英作文の練習問題をしておく。 |
| 第7回 | 文法の復習・前置詞 | (学修内容) 前置詞に関する文法問題 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.74-77の予習、文法問題をしておく。 |
| 第8回 | Chapter 16 雪の日・工作 | (学修内容) 工作で使う英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.78-81の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第9回 | Chapter 17 降園・お知らせ | (学修内容) 降園時に使う英語表現とお知らせで使う英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.82-85の予習、英作文の練習問題をしておく。 |
| 第10回 | Chapter 18 連絡帳・乳児室 | (学修内容) 連絡帳を書くときに使う英語表現と乳児室で使う英語表現、プレゼンテーションの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.86-89の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第11回 | Chapter 19 家庭調査書・園行事 (1) | (学修内容) 家庭調査書を書く時に使う英語表現と伝統行事の英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.90-93の予習、英作文の練習問題をしておく。 |
| 第12回 | Chapter 20 園だより・園行事 (2) | (学修内容) 園だよりを書く時の英語表現と園行事の英語表現、プレゼンテーションの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.94-97の予習、わからない単語は辞書で調べておく。 |
| 第13回 | 文法の復習・疑問詞を使った疑問文 | (学修内容) 疑問詞を使った疑問文の復習 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.98-101の予習、文法問題をしておく。 |
| 第14回 | テキスト総復習 (1) | (学修内容) テキストの文法問題の復習 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト文法問題の見直し |
| 第15回 | テキスト総復習 (2) | (学修内容) 日常で使える英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト英作文の見直し |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | 教育原理 a | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | CE1208 |
| 英文名 | Principles of Education | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 浅田 瞳 | | | 対象学生 | 幼児教育1AB | | | | |
| 授業の概要 | <p>洋の東西を問わず、教育に求められる役割はますます肥大化し、教師の役割も同様になりつつある。本講義では、教育の基本的な考え方やしぐみを社会や歴史との関係をふまえながら学習する。とりわけ幼児教育に大きな影響を与えたフレーベルおよびモンテッソーリの思想を中心に、幼児教育に求められる基本概念について理解する。また、今後の幼児教育のあり方を予測するとともに、人間の発達や現代社会と教育との関係をもとに、幼児教育で大切なことは何か、さまざまな資料や記事をもとに自らの意見を述べるのが授業の目的である。レポートはメールで受け付け、その都度学びの到達度を確認します。</p> | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | <p>1) 諸外国における教育の変遷や原理の違いについて説明できる 2) 幼児教育の発展過程について、専門的な知識をもとに説明できる。 3) 乳幼児に対する教育観・保育観について、説明できる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 | | |
| テキスト | 西本望『いまがわかる教育原理』みらい | | | | | | | | |
| 参考書 | 適宜指示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたレポートについてはメール上でその都度フィードバックを行う。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 主として講義により授業を進める。ただ、教育に関する時事について不定期に問うために適宜、指名して意見の発表もしくは記述を求める。緊張感をもって講義に臨んでもらいたい。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 毎週水曜日の昼休み | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 教育原理 a | |
|------|-----------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | イントロダクション | (学修内容)本講義の到達目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(90分) なぜ幼稚園教諭・保育士になりたいのかをレポートにまとめる |
| 第2回 | 教育の意義 | (学修内容)教育とは何かについて、その概念と性格について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.17およびp.19の問の回答を記入しておくこと。 |
| 第3回 | 教育の目的 | (学修内容)教育の目的について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.25の演習課題の回答を記入しておくこと。 |
| 第4回 | 教育と児童福祉のつながり | (学修内容)児童の権利に関する条約や子育て支援について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.37の演習課題の回答を記入しておくこと。 |
| 第5回 | 人間形成と家庭・地域・社会 | (学修内容)学校と家庭や地域、社会とのつながりを概観する (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.47の演習課題の回答を記入しておくこと。 |
| 第6回 | 教育制度の基礎 | (学修内容)欧米および日本の教育制度について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.58の演習課題の回答を記入しておくこと。 |
| 第7回 | 教育思想家から教育を読み取る | (学修内容)教育における重要人物を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(180分) テキストp.70をよく読んでおくこと。 テキスト第6章の人物の中から1人を選び、レポートを作成する。 |
| 第8回 | わが国における教育思想家と歴史 | (学修内容)日本の教育思想家の功績とその歴史について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.82の演習課題の回答を記入しておくこと。 |
| 第9回 | 近代教育の成立 | (学修内容)近代公教育の成立とその過程について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.99の演習課題の回答を記入しておくこと。 |
| 第10回 | 子ども観と教育観の変遷 | (学修内容)近代的孩子観について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.113の演習課題の回答を記入しておくこと。 |
| 第11回 | 教育行政のしくみ | (学修内容)教育行政や学級経営について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.129の演習課題の回答を記入しておくこと。 |
| 第12回 | 保育・教育のカリキュラム | (学修内容)保育のカリキュラムの基礎部分について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.141の演習課題の回答を記入しておくこと。 |
| 第13回 | 教育実践の多様な取り組み | (学修内容)近年の特徴的な教育実践について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.157の演習課題の回答を記入しておくこと。 |
| 第14回 | 生涯学習社会と教育 | (学修内容)生涯学習社会の進展と課題について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.173の演習課題の回答を記入しておくこと。 |
| 第15回 | まとめにかえて 現代の教育課題 | (学修内容)多様性(Diversity)について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.189の演習課題の回答を記入しておくこと。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|------------------------------|--------------------------|------------|------------------|-----------|--------|
| 授業名 | 教育原理 b | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | CE1208 |
| 英文名 | Principles of Education | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 堀出 雅人 | | | 対象学生 | 幼児教育1CD | | | | |
| 授業の概要 | 洋の東西を問わず、教育に求められる役割はますます肥大化し、教師の役割も同様になりつつある。本講義では、教育の基本的な考え方やしくみを社会や歴史との関係をふまえながら学習する。とりわけ幼児教育に大きな影響を与えたフレーベルおよびモンテッソーリの思想を中心に、幼児教育に求められる基本概念について理解する。また、今後の幼児教育のあり方を予測するとともに、人間の発達や現代社会と教育との関係をもとに、幼児教育で大切なことは何か、さまざまな資料や記事をもとに自らの意見を述べるのが授業の目的である。なお、資料の共有やレポート作成・提出のためにICT機器を活用する予定である。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 諸外国における教育の変遷や原理の違いについて説明できる。 2) 幼児教育の発展過程について、専門的な知識をもとに説明できる。 3) 乳幼児に対する教育観・保育観について、説明できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (授業に対する興味・関心) | プレゼンテーション能力 () | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テキスト | 西本望 『いまがわかる教育原理』 みらい 2018年 | | | | | | | | |
| 参考書 | 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年 その他、適宜指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出を求めるレポートなどは後日授業中にチェックしたものを返却します。優れているレポート等は授業中に紹介し、他の受講生の見本としてどこが優れていたのか説明を行います。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 主として講義により授業を進めます。テキストを読みその内容から幼児教育を考え意見を書く話すことが授業の中心となります。そのため、必ずテキストは購入してください。また、配慮事項がある場合は、早めに相談してください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 教育原理 b | |
|------|------------------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | イントロダクション | (学修内容)本講義の到達目標を理解し、学習計画を立てる (事前事後学修課題の内容)(90分) なぜ幼稚園教諭・保育士になりたいのか、授業時に配付するコメントシートにまとめ、次回提出 |
| 第2回 | 教育の意義 | (学修内容)教育とは何かについて、その概念と性格について考察する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.17およびp.19の問の回答を記入しておくこと |
| 第3回 | 教育の目的 | (学修内容)教育の目的について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.25の演習課題の回答を記入しておくこと |
| 第4回 | 教育と児童福祉のつながり | (学修内容)児童の権利に関する条約や子育て支援について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.37の演習課題の回答を記入しておくこと |
| 第5回 | 人間形成と家族・地域・社会 | (学修内容)学校と家庭や地域、社会とのつながりを概観する (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.47の演習課題の回答を記入しておくこと |
| 第6回 | 教育制度の基礎 | (学修内容)欧米および日本の教育制度について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.58の演習課題の回答を記入しておくこと |
| 第7回 | フレーベル、モンテッソーリなど幼児教育の思想家から教育論 | (学修内容)教育における重要人物を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(180分) 【ICT活用】テキストp.70を読んでおく。テキスト第6章の人物の中から1名選び、人物の業績と思想をレポートをWordで作成しメールで送信 |
| 第8回 | わが国おける教育思想家と歴史 | (学修内容)日本の教育思想家の功績とその歴史について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.82の演習課題の回答を記入しておくこと |
| 第9回 | 近代教育の成立 | (学修内容)近代公教育の成立とその過程について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.99の演習課題の回答を記入しておくこと |
| 第10回 | 子ども観と教育観の変遷 | (学修内容)近代子ども観について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.113の演習課題の回答を記入しておくこと |
| 第11回 | 教育行政の仕組み | (学修内容)教育行政や学級経営について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.129の演習課題の回答を記入しておくこと |
| 第12回 | 保育・教育のカリキュラム | (学修内容)保育のカリキュラムの基礎部分について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.141の演習課題の回答を記入しておくこと |
| 第13回 | 教育実践の多様な取り組み | (学修内容)近年の特徴的な教育実践について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.157の演習課題の回答を記入しておくこと |
| 第14回 | 生涯学習社会と教育 | (学修内容)生涯学習社会の進展と課題について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.173の演習課題の回答を記入しておくこと |
| 第15回 | まとめにかえて 現代の教育課題 | (学修内容)多様性(Diversity)について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.189の演習課題の回答を記入しておくこと |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 保育原理 a・b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | CE1201 |
| 英 文 名 | Principles of Child Care | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 鈴木 えり子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1AB・1CD | | | | |
| 授業の概要 | 保育の意義や目的について理解し、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領を中心とした保育に関する法令や制度を学ぶ。また、保育の基本、保育思想や歴史の変遷について学び、保育の現状と課題を学びながら深めていく。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 保育の意義及び目的が理解できる。 2) 保育所、幼稚園、認定こども園における保育の基本が理解できる。 3) 保育に関する法令や制度、保育の思想や歴史の変遷について理解できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 伊藤潔志編著 『哲学する 保育原理』 教育情報出版 『新版 保育用語辞典』 一藝社 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・厚生労働省・文部科学省 フレーベル館 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたレポートはコメントをつけて返却します。 小テストは添削をして返却し解答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 講義を中心とするが、理解を深めるために視聴覚資料も取り入れる。教科書をしっかり読んでおく。途中で理解度を把握するため、小テストを実施する。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 随時研究室に掲示しますので確認してください | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 学修項目 | 学修内容・課題 |
|---------|--------------------|---|---------|
| 授 業 計 画 | 保育原理 a・b | | |
| 第1回 | オリエンテーション | (学修内容) 講義の目的や授業の進め方を理解する 到達目標について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の幼少期を振り返りレポートにまとめて提出する | |
| 第2回 | 保育に関する法令や制度 | (学修内容) 保育所、幼稚園、認定こども園に関する法令や制度を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第1章-1を読んでワークシートを完成させ提出する 復習としてワークシートを見直す | |
| 第3回 | 保育・教育課程の現在 | (学修内容) 保育所・幼稚園・認定こども園における保育・教育課程の意義を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第1章-2読んでワークシートを完成させ提出する 復習としてワークシートを見直しておく | |
| 第4回 | 日本の保育の現状 | (学修内容) 待機児童問題 子どもの貧困 潜在保育士 小1プロブレム 保育士不足問題など日本の保育の現状を把握する (事前事後学修課題の内容) (90分) 保育用語辞典で提示した用語をレポートにまとめて提出する 復習として自分の地域の保育の現状を調べレポートにまとめて提出する | |
| 第5回 | 保育を基礎から考える | (学修内容) 保育に関連する諸法令を理解する 保育所保育指針の保育の原理を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第4章を読んでワークシートにまとめて提出する 復習としてワークシートを見直す | |
| 第6回 | 子どもの発達理解と援助 | (学修内容) DVDの視聴を通して、子どもをどのようにとらえ、理解するべきかをディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第3章を読んでレポートにまとめて提出する 復習として事例についてレポートにまとめて次回提出する | |
| 第7回 | 小テスト 保育者の援助について | (学修内容) 小テストを実施する 前回のDVDを再度視聴し、保育者の援助・役割についてディスカッション・発表を通して考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 小テストに向けて前回までの内容を復習しておく 復習としてディスカッションや発表についての気づきをレポートにまとめて提出する | |
| 第8回 | 諸外国の保育の思想と歴史変遷 | (学修内容) 諸外国の保育思想と歴史を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第2章-1,2を読んでワークシートをまとめて提出する | |
| 第9回 | 日本の保育の思想と歴史変遷 | (学修内容) 日本の保育思想と歴史を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第2章-3,4,5を読んでワークシートをまとめて提出する 復習として返却されたワークシートを見直す | |
| 第10回 | 幼稚園・保育所・認定こども園での遊び | (学修内容) 保育所、幼稚園、認定こども園の一日を理解し、子どもの生活・遊びについて理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) インターネットで実習園の保育の一日の流れを調べて配布プリントに記入し提出する | |
| 第11回 | 養護と教育の違い | (学修内容) 教育と養護の目的について理解する 教育と養護の違いを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園保育教育要領の第1章総則の部分を読みワークシートを仕上げ提出する | |
| 第12回 | 子ども理解の視点 | (学修内容) 事例を通して子ども理解を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として事例について自分の考えをレポートにまとめて提出する 復習として提示した事例について気づきをレポートにまとめて提出する | |
| 第13回 | 指導計画の考え方 | (学修内容) 指導計画と保育実践との関係を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読み指導計画の必要性についてレポートにまとめて提出する | |
| 第14回 | 保育内容のねらい・内容の考え方 | (学修内容) 指導計画の事例を通して、保育のねらい及び内容を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) モデルの指導計画の不明な部分をまとめて提出する 復習として不明な部分がどのように理解できたかをまとめる | |
| 第15回 | 保育者の役割 | (学修内容) 保育者の役割を理解する (事前事後学修課題の内容) (90分) 返却したワークシートや配布プリントを見直し不十分な部分を書き出す | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|----------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 子どもの保健 a・b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | CE1210 |
| 英 文 名 | Infant Health | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 中村 洋子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1AB・1CD | | | | |
| 授業の概要 | 乳幼児期のからだや心を健康に保つために、保育者や保護者は正しい知識と実践が大切となる。子ども時代を健康に過ごす、また健康増進するために、医学的知識を中心に健康・病気の予防を学んでいく。安全の確保のための事故の予防を学び、実習を行う。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 医学的基礎知識を理解し、保育・育児の場で対応できる。 子どもの健康増進や病気に対して、どのように支援・援助したらいいのか等、基本となる生活や対応の仕方等の知識を実習から学び、活用することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 (| | |
| テ キ ス ト | 大澤眞木子監修 「子どもの保健～健康と安全～」最新版(日本小児医事出版社) | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 「子どもの保健・実習」(同文書院) 「図表で学ぶ子どもの保健」(建帛社)「大人が知らない子どもの身体の不思議」(講談社) | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 小テストを実施し、次回に解説。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 子どもの健康については小児保健や医学の知識が重要になるので、事前に教科書等読んでおくこと | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 毎週1回オフィスアワーを設けます。確認しておいてください。研究室にいるときは対応します。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：市役所、医療少年院に保健師として勤務。 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 子ども の 保健 a・b |
|---------|----------------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 科目ガイダンス 子どもの健康と安全の目的と意義 | (学修内容) 授業の目的・内容・評価について 子どもの健康と保育環境について (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでおくこと |
| 第2回 | 子どもの健康と保育の環境 | (学修内容) 子どもの生活習慣と養護について、食事、睡眠、排泄等 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと |
| 第3回 | 清潔を保つ方法 衣類の着脱 | (学修内容) 衣類の着脱について(実習) 入浴、手洗い、歯磨き、うがい等の仕方 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習した個所をまとめておくこと。 (次回発表) |
| 第4回 | 子どもの保健における個別対応と集団での管理 | (学修内容) 保育現場における衛生管理と消毒の仕方 (実習) (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習内容をまとめておくこと。 (終了後発表) |
| 第5回 | 保育における健康安全管理の実際 | (学修内容) 事故防止及び安全対策の重要性について 発達段階から見た事故とその予防 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料、該当する教科書の部分を読んでおくこと |
| 第6回 | 危機管理と災害への準備 | (学修内容) 危機管理の目的と基本 災害時の対応とその予防、準備 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと |
| 第7回 | 子どもの体調不良への対応 | (学修内容) 子どもの体調不良等に対する適切な対応 嘔吐、下痢、発熱、閉、発疹等への対応 (事前事後学修課題の内容)(30分) 感染症ガイドラインをまとめておくこと。 |
| 第8回 | 救急処置と応急処置 | (学修内容) 傷病への応急処置(実習) 鼻血等への救急処置 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習したことをまとめておくこと。 |
| 第9回 | 心肺蘇生法 AEDの使用方法 | (学修内容) 子どもに対する胸骨圧迫と人工呼吸 (実際にAEDを使用する) (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと |
| 第10回 | 感染症対策 集団発生の予防 | (学修内容) 感染症予防対策と吐物処理の仕方(実習) (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習内容をまとめておくこと。 (次回提出) |
| 第11回 | 保育における保健的対応 | (学修内容) 3歳未満児への対応 体温調節・水分調節 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと |
| 第12回 | 個別的対応の必要な子どもへの対応 | (学修内容) 慢性疾患児への対応 アレルギー疾患への対応 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと |
| 第13回 | 障害のある子どもへの対応 | (学修内容) 医療的ケアを必要とする児への対応 チック、異尿等の障害を持つ児への保健的対応 (事前事後学修課題の内容)(30分) 該当する教科書の部分を読んでおくこと |
| 第14回 | 保育における保健活動計画と評価について | (学修内容) 保健活動計画を立てる・評価方法の理解 (実際に立ててみる) (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料等よりまとめた保健計画を提出すること。 |
| 第15回 | 職員間の連携・地域との連携 全体のまとめ | (学修内容) 地域との連携や職員間での連携について 授業全体のまとめを行う (事前事後学修課題の内容)(40分) すべての配布資料、教科書を見直し、まとめること。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|----------------------------|----------------------------|------------|------------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 子どもの保健 a・b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | CE1203 |
| 英 文 名 | Infant Health | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 山本 明美 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1AB・1CD | | | | |
| 授業の概要 | 子どもが健康な体と健全な心をもって発育するためには、保健に関する知識や実践的技術が必要である。さらに、子どもの保健は、健康を増進する積極的な活動であり、医学の知識だけでなく日常生活で実践されるものである。すなわち、子どもの心身の問題や栄養、生活、母子関係、環境、社会の制度と施策など関連づけて学ぶ。また、子どもにとって良い環境や感染症などの病気等についての基本的知識について学ぶ。日常生活の中や保育者の現場での子どもの保健に関する知識や保健の実践ができ、子どもの健康増進対策ができるという目標達成のためにディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを行う。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 日常生活の中や、保育の現場での子どもの保健に関する知識を理解し保健の実践ができる。 医学的基礎知識が理解できる。 子どもの健康増進対策ができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (積極的な調査の実施) | プレゼンテーション能力 () | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 大澤真木子監修 小国美也子編 『子どもの保健～健康と安全～』 日本小児医事出版社 2018年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業中に紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 新聞等の情報を検討し、社会の動向や保健に関する情報を調査する。また、子どもの病気の流行についても把握する。 授業内で発表の時間を設ける。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 初回の授業で連絡します。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 子どもの保健 a・b | |
|---------|-------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 子どもの健康保健の意義 | (学修内容) 健康の概念と健康指標 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.1~9を読んでおく 「健やか親子21」について調べておく |
| 第2回 | 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 | (学修内容) 子どもの貧困や児童虐待について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.10~15を読んでおく 新聞等で児童虐待の事件を調べておく |
| 第3回 | 子どもの身体発育 | (学修内容) 身体発育と保健 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.17~20を読んでおく 体格指数について調べておく |
| 第4回 | 子どもの生理機能の発育 | (学修内容) 呼吸や心臓、消化、腎機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.20~22を読んでおく 胎児と子どもの生理機能の特徴を調べておく |
| 第5回 | 子どもの感覚機能や排泄機能等の発達 | (学修内容) 排泄排便の自立や睡眠リズムについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.22~24を読んでおく ノンレム睡眠とレム睡眠について調べておく |
| 第6回 | 子どもの運動機能の発達 | (学修内容) 乳幼児の発達の特徴について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.25~29を読んでおく モロー反射やパラシュート反射について調べておく |
| 第7回 | 子どもの精神機能の発達 | (学修内容) 探索操作、言語機能、社会性の発達 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.30~33を読んでおく 生後1か月~6歳までの精神機能の発達を調べておく |
| 第8回 | 子どもの食と栄養 | (学修内容) 乳汁栄養の種類と特徴、離乳食の必要性と進め方 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.34~48を読んでおく 食事バランスガイドについて調べておく |
| 第9回 | 子どもの健康状態の把握 | (学修内容) 健康状態の観察方法、身体計測の方法 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.49~66を読んでおく カウプ指数やローレル指数、肥満度等の発育の評価について調べておく |
| 第10回 | 子どもの疾病 | (学修内容) 感染症、免疫・アレルギー性疾患 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.67~84を読んでおく 感染症の種類、アレルギーの原因物質を調べておく |
| 第11回 | 消化器系疾患、循環器系疾患 | (学修内容) 消化器系疾患、循環器系疾患の特徴と対処法 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.85~101を読んでおく ロタウイルスやノロウイルスについて調べておく |
| 第12回 | 血液系の疾患、代謝疾患 | (学修内容) 血液の働きと疾患、ホルモンの調節や疾患、糖尿病などの代謝性疾患の特徴と対処法 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.102~118を読んでおく ホルモンの種類とその作用について調べておく |
| 第13回 | 神経系の疾患、腎・泌尿器疾患 | (学修内容) 神経系の障害による疾患、腎臓疾患の特徴と対処法 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.119~137を読んでおく 神経系の伝達経路と腎臓の構造と働きについて調べておく |
| 第14回 | 先天性の疾患 | (学修内容) 先天性の疾患の種類と特徴、対処法 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.137~142を読んでおく 遺伝的要因と環境的要因について調べておく |
| 第15回 | 子どもの疾病の予防と対応 | (学修内容) 学校保健安全法で定められている疾患について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.143~155を読んでおく 予防接種の種類と時期を調べておく |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|-----------------------------------|-------------|----------------------------|----------------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 子ども家庭福祉 a・b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | CE1204 |
| 英 文 名 | Child Welfare | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 山川 宏和 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1AB・1CD | | | | |
| 授業の概要 | 保育士は、保育所のみならず、児童福祉施設全般で働く社会福祉専門職である。そのため、保育士には、少子化・保育・虐待など児童問題について 現代の子どもの生活について 諸外国の児童福祉について 児童福祉の法制度について学ぶことが必須となる。教科書を用いて統計的に理解し、配布プリントで重要点を整理し、映像素材を視聴して、実践の様子を理解する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 社会問題のひとつである児童問題と児童福祉の関係が理解できる。 2) 保育士に求められる福祉援助職としての働きが理解できる。 3) 児童福祉の制度が、日本と諸外国ではどのように相違があるか理解できる。 4) 児童福祉の法制度の対象とサービス内容が理解できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (65 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (35 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 () () | | | |
| テ キ ス ト | 喜多一憲 監修 堀場純矢 編集 「児童家庭福祉」[みらい] | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 随時指示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたレポートは、採点してコメントを書いて返却する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 出席とレポートを重視する。テストの参照資料が成績に大きく関係する。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 子ども家庭福祉 a・b | |
|---------|-------------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 現代社会と子ども | (学修内容)人口減少社会 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストChapter 1を参照しておく |
| 第2回 | 児童の権利保障 | (学修内容)コルチャック、子どもの権利条約について (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストChapter 2を参照しておく |
| 第3回 | 児童福祉の歴史 | (学修内容)日本・欧米の児童福祉史 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストChapter 3を参照しておく |
| 第4回 | 児童福祉法について 児童相談所 | (学修内容)児童福祉六法、行政機関について (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストChapter 4を参照しておく |
| 第5回 | 児童福祉法について 1997、2001年の改正 | (学修内容)児童福祉法改正について (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストChapter 4を参照しておく |
| 第6回 | 児童福祉法について 2004～2008年の改正 | (学修内容)児童福祉法と児童虐待防止法について (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストChapter 4を参照しておく |
| 第7回 | 児童福祉法について 2012～2019年の改正 | (学修内容)近年の児童福祉法改正について (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストChapter 4を参照しておく |
| 第8回 | 児童虐待について 身体的虐待・ネグレクト | (学修内容)児童虐待の定義と対策 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストChapter 7を参照しておく |
| 第9回 | 児童虐待について 心理的・性的虐待 | (学修内容)児童虐待の定義と対策 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストChapter 7を参照しておく |
| 第10回 | 児童福祉の専門職について | (学修内容)児童福祉に従事する専門職について (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストChapter 11を参照しておく |
| 第11回 | 保育支援と福祉について | (学修内容)日本と諸外国の保育政策・サービスについて (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストChapter 5を参照しておく |
| 第12回 | 母子保健について | (学修内容)妊産婦死亡率や保健所、未熟児医療について (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストChapter 6を参照しておく |
| 第13回 | 社会的養護について | (学修内容)非行少年の実際について (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストChapter 8を参照しておく |
| 第14回 | 障がい児の福祉について | (学修内容)障がい児の現状と福祉サービスについて (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストChapter 9を参照しておく |
| 第15回 | ひとり親家庭の支援について | (学修内容)ひとり親家庭への福祉サービスについて (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストChapter 6を参照しておく |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|-------------|----------------------------|----------------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 社会福祉 a | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | CE1205 |
| 英 文 名 | Introduction to Social Welfare | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 名賀 亨 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1AB | | | | |
| 授業の概要 | <p>本講では、現代社会が抱えるさまざまな社会問題を題材に福祉のあるべき姿を考察し、保育に焦点をあてながら周辺に位置する制度や実践の仕組みなど多様な面から考え社会福祉のあり方を総合的に学ぶ。 授業内容やテーマに応じて適宜グループワークやまとめの発表などのアクティブラーニングも組み入れて、能動的に学べるように進める。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | <p>1) 社会福祉の意味やその内容について総合的に説明できるようになる 2) 保育を軸にした社会福祉の役割について、保育と関連するさまざまな分野とのつながりを含めて理解できる。 3) 保育に関わる専門職の役割と意義について社会福祉の視点から理解できる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 () () | | | |
| テ キ ス ト | 学ぶ・わかる・みえる 「保育と社会福祉」 橋本 好市・宮田 徹 編集 出版社：株式会社 みらい | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 適宜紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 課題レポートや適宜行う発表に関してその内容を評価するとともに、関連事項を加味してその解説を行いそれぞれの学びを促す。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 常に新聞等から社会情勢の変化を読み取り、ボランティアとの関連性について考えておく。また、授業には主体的かつ積極的に参加し、講義内容を整理し必要に応じてプレゼンテーションできるようにする。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 水曜日 昼休み | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 社会福祉 a | |
|------|-----------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 授業オリエンテーション | (学修内容) 授業の内容と進め方を説明。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認しておく。 |
| 第2回 | 保育と社会福祉の関係性 | (学修内容) 社会福祉を学ぶにあたって、今の社会にあるさまざまな社会的課題を保育との関係から学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第1章表紙のコラムを読み、社会福祉を学ぶ意義を自分なりに整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第3回 | 社会福祉の考え方と役割 | (学修内容) 社会福祉の基本的な概念を整理し、構造面や保育との関係からそのあり方と役割を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第2章表紙のコラムを読み、社会福祉の考え方を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第4回 | 社会福祉の歴史 | (学修内容) 特に中世期以降の欧米の社会福祉の変遷、合わせて明治期以降の日本の社会福祉の歴史について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 社会福祉の歴史を学ぶことの意味を第3章表紙のコラムを参考にしながら整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第5回 | 社会保障制度 | (学修内容) 生活守る基本となる生活保障の概念と体系について社会保険や公的扶助も含めて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第4章表紙のコラムを読み社会保障の在り方と必要性を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第6回 | 社会福祉の制度と法体系 | (学修内容) 日本国憲法を基本とした社会福祉の法制度についてその内容や構造について福祉サービスの利用も含めて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 日本国憲法、社会福祉法についてその意味と関係性を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第7回 | 社会福祉の実施機関と行財政 | (学修内容) 社会福祉に関連する、国・都道府県・市町村の福祉行政機関、福祉の専門行政機関、民間の福祉推進機関など社会福祉実施機関について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第6章表紙のコラムを読み複雑な行政機関の意味やあり方について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第8回 | 社会福祉の施設 | (学修内容) 社会福祉施設について、その目的と意義、施設の概要などから現状とこれからについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第7章表紙のコラムを読み本文も参考にして社会福祉施設に関して整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第9回 | 子ども家庭支援と社会福祉 | (学修内容) 子どもの人権を軸に子ども家庭支援の意味やその動向について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第8章コラムを読み本文も参考にして子どもの福祉について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第10回 | 地域共生と障害者福祉 | (学修内容) 障害者福祉の法体系あるいは障害のある子どもへの施策などの現状について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第9章表紙コラムを読み共生社会の意味について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第11回 | 高齢者の福祉と介護保険 | (学修内容) 介護保険制度を軸にしながら高齢者福祉の現状について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 介護保険制度についてその内容を自分なりに整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第12回 | 地域福祉の意味と推進方法 | (学修内容) 地域福祉の意味やその担い手、あるいは具体的な推進方法などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第11章を読み地域福祉とは何か、自分なりに整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第13回 | 社会福祉の専門職と倫理 | (学修内容) 社会福祉の専門職としての保育士の意味やその他の社会福祉専門職の内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第12章表紙コラムや本文を参考に社会福祉の専門職意味について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第14回 | 相談援助の意味と方法 | (学修内容) 福祉社会を実現するために重要な相談援助の意味と具体的な方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第13章表紙コラムや本文を参考にしながら相談援助とは何か整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。 |
| 第15回 | 福祉サービスの利用支援と第三者評価・権利擁護と苦情解決 | (学修内容) 福祉サービス利用事業の概要や第三者評価の内容、権利擁護の内容や苦情解決の仕組みについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 本文を読んで福祉サービス利用事業の内容および権利擁護の意味について整理しまとめておく。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|------------|-----------------------------------|-----------------|----------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 社会福祉 b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | CE1205 |
| 英 文 名 | Introduction to Social Welfare | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 野田 隆生 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1CD | | | | |
| 授業の概要 | <p>わたしたちが住んでいる地域では、乳幼児・子ども・青年・高齢者・障害者等さまざまな人が生活をしています。すべての人が「幸せだ」と実感できる社会であれば何も言うことはないのですが、ある日突然、当たり前の生活を送ることができない現実に直面することがあります。そうなったら、どうすればいいのでしょうか？</p> <p>本講では、わたしたちの生活をおびやかすような「あっ、どうしよう!？」に対して、どのような支援体制が準備されているのかを理解し、そこから保育士を目指す専門職として必要な知識や価値観を見出していくことを目的としています。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | <p>1) 保育士が社会福祉専門職であることを理解できる。 2) 社会福祉の法的基盤や行政の仕組みについて説明することができる。 3) 社会問題を理解し、それに対して必要な社会資源を結びつけることができる。 4) 保育士としての資格を生かすことのできる社会福祉事業を知ることができる。 5) 生存権(生きる権利)について説明することができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (80 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (20 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 | | | |
| テ キ ス ト | 橋本好市・宮田徹 編集 『学ぶ・わかる・みえる 保育と社会福祉【第3版】』みらい 2019年4月1日 第3版第1刷発行 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 流石智子著 『日本の母子福祉 これからの母子家庭の幸せを考えるための本』あいら出版 2016年、糸井佐知子著 『えっ7人の子ども?』女子パウロ会 2008年、曾和信一著 『障がい者・児共生とは何か 「自立と共生」の福祉・教育・保育』ミネルヴァ書房 2007年、宮野誠保著 『昔話にみる福祉 ひとつの試み』朝日新聞出版サービス 2001年、小倉襄二・浅野仁編 『新版老後保障を学ぶ人のために』世界思想社 2006年 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 視聴覚教材(ビデオ、DVD等)を使用した場合のリアクションペーパーの内容を踏まえ、次の授業冒頭にてコメントを行います。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 1) テキスト履修となるので、毎回の講義時には必ずテキストを持参するように。 2) ノートについては取り外しができるようルーズリーフが望ましい。 3) 視聴覚教材(ビデオ、DVD等)を使用する場合には、必ず小レポートを課すことになるので指定された様式にて期限までに提出すること。 4) 定期試験(筆記試験)については、予め出題の内容や持込みできる物について説明する。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ウ ー | 講義初回時に連絡をします。 基本的に研究室(1R-404)に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 社会福祉b | |
|------|--------------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | はじめに ～なぜ「社会福祉」を学ぶのか?～ | (学修内容) 1) 講義の進め方と成績評価の方法について 2) 「社会福祉」を学ぶ意味 (事前事後学修課題の内容)(15分) テキストを必ず購入すること。 ノートはルーズリーフが望ましい。 |
| 第2回 | 保育と社会福祉 | (学修内容) 1) 少子・高齢社会について 2) 生活課題と社会福祉 3) 社会福祉の概念 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第1章ならびに第2章(pp.15-39)を読んでおくこと。 |
| 第3回 | 社会福祉のあゆみ | (学修内容) 1) 欧米の社会福祉 2) 日本の社会福祉 3) 戦後の社会福祉 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第3章(pp.41-54)を読んでおくこと。 |
| 第4回 | 生活を守る社会保障制度 | (学修内容) 1) 社会保障とは 2) 個人の尊厳と生存権 3) 年金と医療と福祉 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第4章(pp.55-70)ならびに第15章(pp.205-220)を読んでおくこと。 |
| 第5回 | 社会福祉の法制度と行財政 | (学修内容) 1) 福祉三法から福祉六法へ 2) 福祉行政の実施機関 3) 福祉計画と財源 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第5章ならびに第6章(pp.71-95)を読んでおくこと。 |
| 第6回 | 子どもと児童家庭福祉 ～子どもを取り巻く環境と諸問題～ | (学修内容) 1) 子どもの権利保障 2) 子ども・子育てに関する制度の変遷 3) 子どもを取り巻く環境と諸問題 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第8章(pp.105-119)を読んでおくこと。 |
| 第7回 | 子どもと児童家庭福祉 ～子ども虐待の現状と課題～ | (学修内容) 1) 子ども虐待の現状 2) 対応する行政機関 3) 社会的養護と家庭的養護 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容を復習し、テキスト第6章ならびに第8章を再度読んでおくこと。 |
| 第8回 | 障害と社会福祉 ～障害者・児福祉の変遷過程～ | (学修内容) 1) 日本人の障害観 2) 障害者の権利とノーマライゼーション 3) 障害に関する制度の変遷過程 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第9章(pp.121-132)を読んでおくこと。 |
| 第9回 | 障害と社会福祉 ～障害のある子どもへの援助～ | (学修内容) 1) 障害児の現状 2) 専門施設での援助 3) 関連する課題 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容を復習し、テキスト第8章ならびに第9章を読んでおくこと。 |
| 第10回 | 高齢者と社会福祉 ～高齢社会が抱える課題～ | (学修内容) 1) 高齢者保健福祉の変遷過程とその課題 2) 介護保険制度の誕生 3) 地域包括ケアシステムの構築 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第10章(pp.133-144)を読んでおくこと。 |
| 第11回 | 高齢者と社会福祉 ～認知症の特性とその介護～ | (学修内容) 1) 高齢者の疾病と障害 2) 認知症の特性と理解 3) 介護の現場では (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容を復習し、テキスト第6章ならびに第7章(pp.97-103)、 第10章を読んでおくこと。 |
| 第12回 | 社会福祉の専門職と倫理 | (学修内容) 1) 社会福祉の専門職 2) 社会福祉に関連する専門職 3) 社会福祉専門職の倫理 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第12章(pp.157-174)を読んでおくこと。 |
| 第13回 | 地域で生きるということ ～介護と保育の連携～ | (学修内容) 1) タテ割り行政からの脱却 2) 介護と保育の融合 3) 地域共生社会の実現に向けて (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第11章(pp.145-156)を読んでおくこと。 |
| 第14回 | 地域で生きるということ ～小規模施設と地域社会～ | (学修内容) 1) 地域密着型施設の誕生 2) 世代間交流 3) ある施設の挑戦 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容を復習し、テキスト第11章を再度読んでおくこと。 |
| 第15回 | まとめにかえて ～「生きる権利」と「社会福祉」～ | (学修内容) 1) 全体のふりかえり 2) なぜ「社会福祉」を学ぶのか 3) 保育士と介護福祉士のこれから (事前事後学修課題の内容)(60分) ノートの整理とテキスト第16章(pp.221-226)を読んでおくこと。 |

| | | | | | | | | | |
|---------------------------------|--|------------|---------------------------------|-------------------------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 日本国憲法 a・b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | CE1206 |
| 英 文 名 | The Constitution of Japan | | | 開 講 時 期 | 春・秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 小松 郁夫 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1AB・1CD | | | | |
| 授 業 の 概 要 | <p>憲法とは如何なる法か、憲法に基づいて国家の組織はどのようにつくられ運用されているのか、また、国民にはどのような権利が保障され、義務があるのか。さらに、現行憲法には如何なる問題があるのか、などの諸点について、中学・高校以来の学習の深化を図る。また、選挙権を有する存在としての自覚を高め、現在、高まっている憲法論議に着目して、主体的に論点を理解し、深められるようにする。最近注目されている様々なテーマを取り上げ、授業中に仲間との議論を活用するなど、主体的で対話的な学びを取り入れていく。所属学科の特性を踏まえ、特に、教育との関連を重視した講義とする。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | <p>1) 憲法学(政治学)上の基本的な用語が理解できる。 2) 憲法の存在とその適切な運用が、私たちの生活の基盤をなしていることに気付く。 3) さまざまな憲法学説を学ぶことを通して、物事を多面的に捉えることができる。</p> | | | | | | | | |
| 学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (論理的思考力と根拠を提示しての判断力) | プレゼンテーション能力 (国語表現力) | 課題発見・解決能力 | | | |
| テ キ ス ト | 『スタート憲法〔第2版補訂版〕』、吉田 仁美編(成文堂、2016年)。具体的な使用方法などは、参考文献も含めて初回到説明します。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 『憲法〔第六版〕』[岩波書店]、『憲法判例百選・〔第6版〕』[有斐閣]、『教養憲法 11章』[嵯峨野書院]、『憲法という希望』[講談社現代新書]、『憲法学読本〔第2版〕』[有斐閣]、『憲法論点教室』[日本評論社]、『憲法ガール』[法律文化社]ほか、授業中に適宜紹介する。 | | | | | | | | |
| 課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法 | 毎回、予習した内容、その日の講義で学んだことなどに関連する小テストやコメントを求め、既習事項の確認と更なる興味・関心を持つように学習意欲の喚起を促す。その後のより深い学びへとつながるような振り返りを行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 基本的には授業計画通りすすめるので、教科書の該当箇所を精読した後、授業に臨むことが必須である。ただし、受講生の理解の程度やテーマの難易度によっては、順番や時間配分を変更したり、学び直し等を行うことがある。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 質問・相談等は、担当授業終了後にも受け付けます。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 日本国憲法 a・b | |
|------|---------------------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 法学入門(法とは何か、そして憲法とは?) | (学修内容) イントロダクション(講義の概要、評価などについて)。社会規範としての法、法の体系、憲法の意味などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 本授業計画(シラバス)とテキストの目次、プロローグに目を通しておくこと。(30分)。 |
| 第2回 | 日本国憲法の成立過程を振り返る | (学修内容) 日本国憲法の成立過程を振り返りながら、最高法規としての憲法、憲法の意義及び目的について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「憲法とは何か」を高等学校時代までの学びを思い出し、「日本国憲法の成立」を精読しておく。(30分)。 |
| 第3回 | 人権とは何かを考える | (学修内容) 人権の観念、私人間効力をめぐる問題、公共の福祉などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「基本的人権総論」を精読しておく。基本的人権の重要性を考え、その概要を考える。(30分)。 |
| 第4回 | 人権は誰のもの? | (学修内容) 誰に人権は保障されるのか、外国人の人権、子どもの人権など人権の享有主体について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章を精読しておく。(30分)。 |
| 第5回 | 人権保障の現在(1) 包括的基本権、自己決定権、プライバシー | (学修内容) 憲法13条(包括的基本権)、新しい人権の観念(プライバシー、環境権など)、個人情報の保護などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第3章を精読しておく。特に自己決定権やプライバシー保護の重要性を学ぶ。(30分)。 |
| 第6回 | 人権保障の現在(2) 法の下での平等 | (学修内容) 男女平等などをめぐる問題を中心に、私たちの社会の中の「自由と平等」に関するテーマ、さまざまな差別などの現状と課題を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第4章を精読しておく。身近な出来事で、平等の視点から課題がないかを考えてみる。(30分)。 |
| 第7回 | 人権保障の現在(3) 精神的自由、思想・良心の自由、表現の自由、信教の自由 | (学修内容) 表現の自由などの現代的意義について学ぶ。特に、インターネット社会における表現のあり方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第5章から第7章を精読しておく。これらの章の「考えてみよう」の部分について自分なりの考えをまとめる。(30分)。 |
| 第8回 | 人権保障の現在(4) 経済的自由、財産権 | (学修内容) 経済的自由と様々な規制のあり方について学ぶ。財産権の保障について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第8章を精読しておく。身近な場面で経済的な規制などを探してみ、その意義や課題を考えてくる。(30分)。 |
| 第9回 | 人権保障の現在(5) 社会権、特に教育を受ける権利 | (学修内容) 教育を受ける権利を中心に社会権の保障について学ぶ。福祉国家と社会権の保障について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト第9章、第10章を精読しておく。特に受教育権、学習権概念の内容を学ぶ。(30分)。 |
| 第10回 | 憲法と教育関係法令 | (学修内容) 教育基本法、学校教育法、地教行法、教育公務員特例法、その他、教育に関連する主要な法令と憲法上の規定について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に主要な法律を指示するので、法令集などで事前学習をしておくこと。(1時間)。 |
| 第11回 | 人権保障と権力分立 | (学修内容) 人権保障とのための制度的基盤や政党の役割について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「統治機構総論」を精読しておく。政治的動向に興味・関心を持って、憲法との関連などを考える。(30分)。 |
| 第12回 | 民主政治のしくみ(1) 国会 | (学修内容) 国会の地位や構成、国会の権能などについて学ぶ。国会の審議、特に予算編成と国家財政について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト第11章、第12章を精読しておく。コラム4の財政と租税について予習する。(30分)。 |
| 第13回 | 民主政治のしくみ(2) 内閣、行政、地方自治 | (学修内容) 議院内閣制、行政の民主的統制、官僚制度、地方自治の概念、地方公共団体の機関と権能、住民自治の制度などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト第13章を精読しておく。地方自治や地方分権の重要性を考え、コラム1の地方自治を予習する。(30分)。 |
| 第14回 | 民主政治のしくみ(3) 裁判所 | (学修内容) 裁判所の役割、裁判員制度について学ぶ。違憲立法審査権を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第14章を精読しておく。判例を考察し、検事、弁護士、裁判官の立場から多面的な意見を構想してみる。(30分)。 |
| 第15回 | 授業のまとめ ~ 憲法改正論議と私たち ~ | (学修内容) 15回の授業のまとめ。昨今の憲法改正論議の主要な論点を学び、改めて日本国憲法を学ぶ意味について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「エピローグ」を精読する。憲法改正の是非、論点整理を行い、講義の内容を振り返りながらまとめる。(1時間)。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|---------------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 音楽の基礎理論 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | | 科 目 コ ー ド | CE1207 |
| 英 文 名 | Basic Theory of Music | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 小川 隆昭 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>保育現場で必要な音楽理論の基礎学習と並行しながら、初歩的なピアノ技術を身につける。 理論（楽典）については、グループに分かれ、問題を考察し合い、解決するまで互いに話し合う。また、ピアノについては、音楽の補助的役割を担っている。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 保育現場で使う音楽理論の基礎が理解できる。 2) グループワークによる理論の習得及び、発表によって自身の習得が確認できる。 3) 音楽理論を理解した上で、ピアノを弾くことによって正しく楽譜が読めるようになる。 4) 一人で新しい曲を弾くことが出来るための基礎的な能力を身につける。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (基本的な音楽技術) | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | <p>『ジュニアクラスの楽典問題集』（ドレミ楽譜出版社）森本琢朗・池田恭子 共著 『バイエルピアノ教則本』（音楽之友社）他 経験者は進度に応じた曲</p> | | | | | | | | |
| 参 考 書 | | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 音楽理論の課題について、毎回解答の解説を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 音楽理論について、理解できるまで担当者に質問すること。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 週1回、曜日と時間は研究室前に掲示。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | <p>実践的教育 教員の実務経験など：・私立音楽院助手 ・おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導</p> | | | | | | | | |

| 授業名 | 音楽の基礎理論 | |
|------|----------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 音楽理論 ピアノ | (学修内容)線と間 ト音記号 音名 ヘ音記号 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習 |
| 第2回 | 音楽理論 ピアノ | (学修内容)音符と休符 小節と縦線 拍子記号 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習 |
| 第3回 | 音楽理論 ピアノ | (学修内容)譜表 オクターブ バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習 |
| 第4回 | 音楽理論 ピアノ | (学修内容)音符と休符 拍子とリズム バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習 |
| 第5回 | 音楽理論 ピアノ | (学修内容)強起と弱起 奏法を指示する記号 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習 |
| 第6回 | 音楽理論 ピアノ | (学修内容)強弱を表す記号 シンコペーション バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習 |
| 第7回 | 音楽理論 ピアノ | (学修内容)複縦線と反復記号 連符 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習 |
| 第8回 | 音楽理論 ピアノ | (学修内容)速度記号 装飾音符と装飾記号 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習 |
| 第9回 | 音楽理論 ピアノ | (学修内容)奏法を指示する用語と記号 変化記号 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く。 今回習ったピアノの復習。 |
| 第10回 | 音楽理論 ピアノ | (学修内容)幹音と派生音 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習 |
| 第11回 | 音楽理論 ピアノ | (学修内容)音程(完全音と長音程、短音程) バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習 |
| 第12回 | 音楽理論 ピアノ | (学修内容)音程(幹音どうしの音程の数え方、派生音を含んだ音程の数え方) バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習 |
| 第13回 | 音楽理論 ピアノ | (学修内容)音階(長音階)バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習 |
| 第14回 | 音楽理論 ピアノ | (学修内容)音階(短音階) バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習 |
| 第15回 | 音楽理論 ピアノ | (学修内容)和音 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 今回習ったピアノの復習 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 乳児保育 a・b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | CE1303 |
| 英 文 名 | Infant Care | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | 必 修 選 択 | 選 択 | | |
| 担 当 者 | 岸 優子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1AB・1CD | | | | |
| 授業の概要 | <p>保育所や認定こども園における乳児3歳未満児(0、1、2歳児)の保育に関する基礎的な理念や知識を理解、習得し、実際の保育場面で活用・探究できる実践力を身につける。</p> <p>1)乳児保育の概念と意義、乳児保育の基本や援助方法を理解する。</p> <p>2)発達段階の特徴を踏まえ、いのちを守る保育者の立場から、乳児を理解する視点を身につける。生活や遊びでの援助・方法の実際を学ぶ。</p> <p>3)保護者との連携により乳児を育てる保育者として、地域における子育て支援の実際を学ぶ。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1)乳児期(0、1、2歳児)の理論や基礎的な知識・技術を理解し実践できる。</p> <p>2)乳児期の発育・発達について理解し、年齢に応じた援助、健康管理、事故防止などの視点を3分間で説明できる。</p> <p>3)保護者支援の重要性を理解し、その対応や配慮事項について簡潔に説明できる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 | | |
| テ キ ス ト | 厚生労働省編『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年3月 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業中、適宜、紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 受講生は、毎回、「振り返り用紙(学びのポートフォリオ)」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は、適宜、添削・助言等をする。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 日常生活の中で、「乳児」を観察する積極的な意識を持つておくこと。乳児の理解を助けるためにDVDを視聴することにより、保育者としての資質や実践力を深めてほしい。なお、シラバスの順番については、受講者への十分な説明の上、受講者の興味・関心・理解等により、柔軟に対応することがある。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業の初回に連絡する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：保育所で勤務 子育て支援員 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 乳児保育 a・b | |
|---------|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 乳児および乳児保育の概念 | (学修内容) 乳児の概念について理解することができる。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 予習として、シラバスを読んで内容、評価方法を確認しておく。 |
| 第2回 | 乳児保育の基本、保育制度改革の動向 | (学修内容) 乳児期の法的制度および乳児保育の歴史、基本について理解する。 「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 (事前事後学修課題の内容)(60分) あらかじめ「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読んで、「養護」の要点をまとめておく。 |
| 第3回 | 乳児の発達と保育の方法 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」の要点(0歳児・1歳児) | (学修内容) 保育者としての発達段階、発達過程を理解して、受容的・応答的・共感的なかわりの重要性を自覚できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」を読んでおく |
| 第4回 | 乳児の発達と保育の方法 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」の要点(2歳児) | (学修内容) 応答的かわりについて理解できる。DVD視聴しながら、乳児の実際について映像を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」のうち、「満1歳以上3歳未満」について保育の要点を列挙する。 |
| 第5回 | 乳児の発達と保育の方法 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」の要点(3歳未満児から3歳児への移行) | (学修内容) 乳児保育の実際の配慮事項について理解するために「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、乳児保育について三つの資質・能力について、「生きる力」の基礎との関連性を自分の言葉でまとめる。 |
| 第6回 | 乳児保育の方法 寝ることと食べる | (学修内容) 睡眠や食事(授乳・離乳食)などの基本的な生活リズムなどの援助について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、プリントを読んで、基本的な生活習慣について、その要点をまとめる。 |
| 第7回 | 乳児保育の方法 基本的な生活習慣 | (学修内容) 乳児期の基本的な生活習慣の重要性について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、プリントを理解し、脳科学から発達段階の構造の要点をまとめる。 |
| 第8回 | 乳児保育の方法 五感を育む遊びやおもちゃ おもちゃづくりワーク | (学修内容) 乳児にとっての生活や遊びについて理解する。安全・安心・快適なおもちゃを考案する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) あらかじめ、五感を育成するおもちゃづくりの準備物を持参する。 |
| 第9回 | 中間まとめ(小テスト) | (学修内容) 発達の諸相を理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、これまでのプリントを読んで要点をまとめておく。 |
| 第10回 | 乳児期の保育の実際 プレゼンテーション | (学修内容) 乳児期の保育の実際を知り、テーマを決めてグループでプレゼンテーションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、課題プリントを完成して来る。 |
| 第11回 | 乳児期の保育の実際 指導計画の書き方を学ぶワーク | (学修内容) 乳児期の保育課程・指導計画の必要性と考え方を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 【第1回レポート提出】 乳児保育について「発達」の視点でとらえる際の要点をまとめる。 |
| 第12回 | 乳児期の保育の実際 認定こども園・保育所での保育における「教育的意図」 | (学修内容) 教育者として「教育的意図」を自覚し、専門性の資質向上の視点に身をつける。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」の子育て支援の部分を読んでまとめておく。 |
| 第13回 | 乳児期の保育の実際 乳児の健康管理と安全への配慮 | (学修内容) 保育室の安全管理、健康管理(SIDSの理解)などリスクマネジメントについての理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、配布プリントを読んで要点をまとめておく。 |
| 第14回 | まとめ(小テスト) プレゼンテーション | (学修内容) 乳児期の保育の実際と配慮すべき事項を理解し、3分間のプレゼンテーションができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの配布物を振り返り、乳児期の発達の課題をまとめ、プレゼンテーションの練習をする。 |
| 第15回 | これまでの授業をふりかえり、次につながる保育者としての課題を明確にする。 | (学修内容) いのちを守る保育者として、安心・安全・快適にかかわるための課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの配布プリントを読み、キーワードを中心に要点を確認する。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|-----------------------------------|-----------------------|----------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 音楽 (ピアノと歌) a・b・c・d | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | CE1401 |
| 英 文 名 | Music | | | 開 講 時 期 | 春学期 | 必 修 選 択 | 選 択 | | |
| 担 当 者 | 坂口 みゆき・小川 隆昭・阿久津 啓・今井 順子・加藤 雅子・北村 陽子・小織治 弘美・権田 志帆子・服部 さやか・高科 絵美代・永峯 翠子・内藤 規子・永松 圭子・松村 佳奈・千田 浩美 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1A・1B・1C・1D | | | | |
| 授業の概要 | 幼稚園教諭及び保育士に求められる音楽の基礎力を身につけるため、ピアノ及び子どものうたの弾き歌いレッスン(個別指導)と、子どもの歌等の歌唱指導(声楽専門教員による集団指導)を行う。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 到 目 標 | 1) 楽譜を正確に読むことができる 2) 基礎的なピアノ演奏技術を習得し、『バイエルピアノ教則本』96番以上の曲を弾くことができる 3) 基本的な歌唱法を習得し、『子どものうた』を大きな声で正確に歌うことができる | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (音楽的基礎能力) | プレゼンテーション能力 (演奏能力) | 課題発見・解決能力 | | | | |
| テ キ ス ト | 『バイエルピアノ教則本』(音楽之友社)他、個々の経験や進度に応じて随時指定する。 『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室発行) | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 毎回練習してきた曲について個別指導を行い、口頭で助言・指導を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 『バイエルピアノ教則本』と『子どものうた』の弾き歌いは、レッスンのステップ表(1回目の授業で配布)に従ってレッスンを進める。授業期間内にステップ9(全15ステップ)まで終了しなければ、定期試験を受けることができない。授業に出席するだけでなく、毎日のピアノの練習が必須である。 音楽療法士(2種)資格の取得を目指す学生は、1回生終了時に音楽 を必ず修了する必要がありますので留意してください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 坂口(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示)小川(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示) 坂口・小川以外の教員(担当授業終了後に実施) *坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の業務経験など: おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法士、音楽教室、ピアノ講師、小学校・中学校・高等学校音楽科非常勤講師、ピアニストとして国内・海外のコンサートに出演等の経歴を持つ教員が担当 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 音楽（ピアノと歌）a・b・c・d | |
|---------|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | （学修内容）レッスンの進め方と注意事項等の説明・担当教員の紹介・各自のピアノレッスン曲の決定 （事前事後学修課題の内容）（60分） 小中高等学校の音楽の授業で学んだ基本的な音楽理論を復習しておく（各レッスン担当者が口頭で理解度を確認する）。 |
| 第2回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]腹式呼吸と発声法・手遊び歌 | （学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]腹式呼吸と発声法の習得・手遊び歌「キャベツ」「大きな栗の木の下で」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） |
| 第3回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]腹式呼吸と発声法・輪唱 | （学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]腹式呼吸と発声法の習得・輪唱「かえるの合唱」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） |
| 第4回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]腹式呼吸と発声法・輪唱（小グループ活動） | （学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]腹式呼吸と発声法の習得・輪唱「一年中のうた」（小グループ活動） （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） |
| 第5回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]輪唱（小グループ活動） | （学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]輪唱「一年中のうた」（小グループ活動） （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） |
| 第6回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]輪唱のグループ発表 | （学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]輪唱「一年中のうた」のグループ発表 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） |
| 第7回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・付点のリズム | （学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・「おべんとう」「おつかいあいさん」（付点のリズム） （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） |
| 第8回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・付点のリズム | （学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・「おべんとう」「おつかいあいさん」（付点のリズム） （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） |
| 第9回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・付点のリズム | （学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・「おべんとう」「おつかいあいさん」（付点のリズム） （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） |
| 第10回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・シンコペーションのリズム | （学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・「いぬのおまわりさん」（シンコペーションのリズム） （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） |
| 第11回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・シンコペーションのリズム | （学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・「いぬのおまわりさん」（シンコペーションのリズム） （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） |
| 第12回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・試験曲の発表と練習 | （学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・試験曲の発表と練習 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） |
| 第13回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・試験曲の練習 | （学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・試験曲の練習 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） |
| 第14回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・試験曲の練習 | （学修内容）[ピアノ]各自指定された試験曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・試験曲の練習 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける試験曲を練習する（1日20分～30分以上） |
| 第15回 | 声楽のまとめ | （学修内容）「子どものうた」歌唱指導の総括と声楽小試験 （事前事後学修課題の内容）（140分） 声楽の試験曲を練習する（30分以上） ピアノの試験曲を練習する（1日20分～30分以上） |

| | | | | | | | | | | | |
|------------------|--|-------------------------------------|--------------------------------|--------|-----------------|-------------------------|------------------|-----------|----------|--------|--|
| 授 業 名 | 音楽 (ピアノと歌) a・b・c・d | | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | CE1408 | |
| 英 文 名 | Music | | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | | |
| 担 当 者 | 坂口 みゆき・小川 隆昭・阿久津 啓・今井 順子・加藤 雅子・北村 陽子・小織治 弘美・権田 志帆子・千田 浩美・高科 絵美代・内藤 規子・永峯 翠子・永松 圭子・松村 佳奈・後藤 由美子・水谷 佳代子・服部 さやか | | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1A・1B・1C・1D | | | | | |
| 授業の概要 | 音楽 で修得した音楽的感性と知識・技能を更に発展させ、幼稚園教諭及び保育士に求められる音楽の基礎力を高める。音楽 に引き続き、 ピアノ及び子どものうたの弾き歌いレッスン(個別指導)と、 子どもの歌の歌唱指導(声楽専門教員による集団指導)を行う。 | | | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 『ブルグミュラー25の練習曲』1番以上の曲を弾くことができる(『バイエルピアノ教則本』は終了する)。 2) 子どものうた・生活のうたの弾き歌いができる。 3) 保育実習・教育実習に必要な、基本的な歌唱法を身につけ、『子どものうた』を大きな声で表情豊かに歌うことができる。 | | | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | | | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 (音楽的能力) | | | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 (演奏能力) | | | | |
| テ キ ス ト | 『バイエルピアノ教則本』バイエル著(音楽之友社)他、個々の経験や進度に応じて随時指定する。 『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学発行) | | | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 使用しない。 | | | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 毎回練習してきた曲について個別指導を行う。 | | | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 『バイエルピアノ教則本』と『子どものうた』は、レッスンのステップ表(音楽 で配布)に従ってレッスンを進める。授業期間内にステップをすべて(全15ステップ)終了しなければ、定期試験を受けることができない。授業に出席するだけでなく、毎日のピアノの練習が必須である。 音楽療法士(2種)資格の取得を希望する学生は、必ず1回生のうちに音楽 を修了しなくてはならないので留意してください。 | | | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 坂口(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示)小川(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示) 坂口・小川以外の教員(担当授業終了後に実施) *坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。 | | | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など: おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法士、音楽教室、ピアノ講師、小学校・中学校・高等学校音楽科非常勤講師、ピアニストとして国内・海外のコンサートに出演等の経歴を持つ教員が担当 | | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 音楽（ピアノと歌）a・b・c・d | |
|---------|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・発声の発展・秋の歌 | (学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・『コンコーネ50番』より(より発展的な発声の練習)・秋の歌「こおろぎ」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) |
| 第2回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]仏教聖歌・発声の発展・秋の歌 | (学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・『コンコーネ50番』より(より発展的な発声の練習)・秋の歌「きくのはな」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) |
| 第3回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]発声の発展・秋の歌 | (学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]「コンコーネ50番」より(より発展的な発声の練習)・秋の歌「きのこ」「まっかな秋」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) |
| 第4回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]発声の発展・秋の歌 | (学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]「コンコーネ50番」より(より発展的な発声の練習)・秋の歌「きのこ」「まっかな秋」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) |
| 第5回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]複雑なリズムの習得 | (学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]「となりのトトロ」「小さな世界」(より発展的なリズムの練習) (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) |
| 第6回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]複雑なリズムの習得 | (学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]「となりのトトロ」「小さな世界」(より発展的なリズムの練習) (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) |
| 第7回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]複雑なリズムの習得 | (学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]「となりのトトロ」「小さな世界」(より発展的なリズムの練習) (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) |
| 第8回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]8分の6拍子の習得 | (学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]「思い出のアルバム」(8分の6拍子の歌) (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) |
| 第9回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]より複雑なリズムの習得 | (学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]「せかいじゅうのこどもたちが」「虹」(さらに複雑なリズムの練習) (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) |
| 第10回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]より複雑なリズムの習得 | (学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]「せかいじゅうのこどもたちが」「虹」(さらに複雑なリズムの練習) (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) |
| 第11回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]冬の歌 | (学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]冬の歌「あわてんぼうのサンタクロース」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) |
| 第12回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]試験曲の発表と練習 | (学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]試験曲の発表と練習(明瞭な発音と正しい音程を意識し、大きな声で歌う) (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) |
| 第13回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]試験曲の練習 | (学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]試験曲の練習(明瞭な発音と正しい音程を意識し、大きな声で歌う) (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) |
| 第14回 | [ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声 楽]試験曲の練習 | (学修内容)[ピアノ]各自指定された試験曲の個別指導/[声楽]試験曲の練習(明瞭な発音と正しい音程を意識し、大きな声で歌う) (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける試験曲を練習する(1日20分～30分以上) |
| 第15回 | 声楽のまとめ | (学修内容)「子どものうた」歌唱指導の総括と声楽小試験 (事前事後学修課題の内容)(140分) 声楽の試験曲を練習する(30分以上) ピアノの試験曲を練習する(1日20分～30分以上) |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|-----------------------------------|-----------------------------|----------------------------|------------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 形象音楽 a・b・c・d | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | CE1402 |
| 英 文 名 | Figurative Music | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 明山 娟美 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1A・1B・1C・1D | | | | |
| 授業の概要 | <p>形象音楽とは音楽を形に表す意味で、インドのラーガ思想を参考に命名した科目である。1回生で履修する音楽の基礎技能の上に立って子どものうたの歌唱を中心に、その内容の具象化即ち、折り紙・手あそび・壁面飾り・あやとり等をもって、歌の内容のイメージを具体的に表現させ、創意工夫させ、歌の心をより深く浸透させ、イメージを形作る能力の養成を目指す。又、グループワークを取り入れながら授業を進める。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 子どものうたを正確に歌えることが出来る。 2) 手遊びのレパートリーや、折り紙の折り方を多く覚えることが出来る。 3) 子ども達に指導するスキルを高めることが出来る。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (イメージを形作る能力) | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 「子どものうた」華頂短大音楽研究室編 プリント カスタネット(リズム楽器)を使用する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 使用しない。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出された制作物はその都度コメントを返します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 課題に積極的に取り組み、折り紙・手遊びのレパートリーを増やせるように努力すること。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 授業終了後 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 形象音楽 a・b・c・d | |
|---------|---------------------|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | ガイダンス 歌唱・手遊び | (学修内容) 授業についての説明 子どものうた・手あそび (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認しておくこと | |
| 第2回 | 歌唱・手遊び・折り紙 チューリップ | (学修内容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習をしておくこと | |
| 第3回 | 歌唱・手遊び・折り紙 こいのぼり | (学修内容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題を仕上げる | |
| 第4回 | 歌唱・手遊び・折り紙 カーネーション | (学修内容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題を仕上げる | |
| 第5回 | 歌唱・手遊び・折り紙 コリ | (学修内容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題を仕上げる | |
| 第6回 | 歌唱・手遊び・合奏 | (学修内容) 基本的な楽器の使い方及び合奏 (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼・保でよく使われる楽器について調べておく | |
| 第7回 | 歌唱・手遊び・製作 紙ひこうき | (学修内容) 子どものうたを中心に紙ひこうきを作る (事前事後学修課題の内容) (30分) 次回の授業の準備をする | |
| 第8回 | 歌唱・手遊び・折り紙 ネクタイ・シャツ | (学修内容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題を仕上げる | |
| 第9回 | 歌唱・手遊び・グループワーク | (学修内容) 手遊びを作る (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どものうたを一曲選び、理解を深めておく | |
| 第10回 | 歌唱・手遊び・グループワーク | (学修内容) 手遊びを作る (事前事後学修課題の内容) (60分) ディスカッションの内容をまとめておく | |
| 第11回 | グループ発表・ディスカッション | (学修内容) グループで発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 練習をしておく | |
| 第12回 | 歌唱・手遊び・折り紙 あじさい | (学修内容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (事前事後学修課題の内容) (60分) 制作内容を考えておく | |
| 第13回 | 歌唱・手遊び・折り紙 あじさい | (学修内容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題を仕上げる | |
| 第14回 | 歌唱・手遊び | (学修内容) 子どものうたを中心に手あそびをする (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題を仕上げる | |
| 第15回 | 歌唱・手遊び・折り紙 あさがお | (学修内容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (事前事後学修課題の内容) (60分) 制作内容を考えておく | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|--------------------|----------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 図画工作 a・b・c・d | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | CE1403 |
| 英 文 名 | Arts and Crafts | | | 開 講 時 期 | 春学期 | 必 修 選 択 | | 選 択 | |
| 担 当 者 | 山部 泰司・松井 沙都子・服部 正志・藤本 裕紀 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1A・1B・1C・1D | | | | |
| 授業の概要 | <p>絵を描いたり、物をつくったりすることは子どもの発達にとって大切な活動である。子どもの造形表現を指導・支援するための図画工作の基礎的な技能や知識について学ぶとともに、制作を楽しみ、自分の中にある柔軟な発想や感性、造形力に気付くことのできる創作活動を実施する。また、制作について振り返りまとめた作品集を作成する。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | <p>1) 様々な表現の方法を、描いたり作ったりする体験を通して学ぶ。 2) 表現方法に自分の工夫を加えて自分らしい作品にする。 3) 制作した作品やその表現技法、作品の考察を、美しく分かりやすくまとめることができる。 4) 秋学期の「新装開店 子どもデパート」についての導入を行う。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (造形力) | プレゼンテーション能力 () | 課題発見・解決能力 () | | | | |
| テ キ ス ト | 新造形表現・実技編 花篤 實・岡田 ? 吾 編著 (三晃書房) | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 保育所保育指針、幼稚園教育要領の改訂についてのプリントを授業時に配布する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 各課題の提出時、また、制作物をまとめたワークブックについて指導を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 制作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参すること。 必携の画材、スケッチブックを購入すること。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：幼児の絵画教室などでの指導、造形ワークショップ、自らの造形活動での経験をもとに、子どもの造形について話をします。 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 図画工作 a・b・c・d | |
|---------|---|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 授業の概要説明、受講のための諸注意 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスに目を通してまとめておく 必携教材を持参すること | |
| 第2回 | 水彩絵の具による表現 にじみ絵など | (学修内容) 水彩絵の具の使い方や技法にじみ絵などの技法遊び (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所18～19項を読んでまとめておく | |
| 第3回 | 水彩絵の具による表現 ドリッピングほか | (学修内容) 水彩絵の具の技法 ドリッピング、デカルコマニーなどの技法遊び (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所22項などを読んでまとめておく | |
| 第4回 | 水彩絵の具による表現・作品のまとめ | (学修内容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 学習した技法について調べてまとめておく | |
| 第5回 | 水彩絵の具による表現 スパッタリングなど | (学修内容) 水彩絵の具の技法 スパッタリング、スタンピングなどの技法遊び (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所23項などを読んでまとめておく | |
| 第6回 | 水彩絵の具・パスによる表現 | (学修内容) 水彩絵の具・パスによる技法 パチックなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所55項などを読んでまとめておく | |
| 第7回 | 水彩絵の具・パスによる表現・作品のまとめ | (学修内容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所に目を通してまとめておく | |
| 第8回 | パスによる表現 | (学修内容) パスによる技法 フロッタージュ、スクラッチなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所25項などを読んでまとめておく | |
| 第9回 | パスによる表現・作品のまとめ | (学修内容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 学習した技法について調べてまとめておく | |
| 第10回 | フロッタージュ(表面の凹凸を写す) コラーージュ(フロッタージュからの展開) | (学修内容) フロッタージュ(クーピーペンシルによる) コラーージュの技法による個人の表現 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書28～29項を読んでまとめておく | |
| 第11回 | いろいろな版画表現 | (学修内容) 表現方法・活用・展開などについてまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所29項、61項などを読んでまとめておく | |
| 第12回 | 「新装開店 子どもデパート」の導入 | (学修内容) 課題についての説明とグループ作り (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの造形活動について考えながら、教科書を読んでまとめておく 前回までの作品をまとめてスケッチブックを提出する | |
| 第13回 | 「新装開店 子どもデパート」のアイデアづくり | (学修内容) 課題についてのグループ、ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の作品のアイデアを考えてまとめておく | |
| 第14回 | 「新装開店 子どもデパート」の製作計画 | (学修内容) 「新装開店 子どもデパート」で必要な材料や技法について調べる (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所を読んでまとめておく | |
| 第15回 | まとめ・レポート | (学修内容) 授業全体の振り返り、造形表現の意味と大切さについて学ぶ。 作品、および、ワークブックの返却 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業で学んだ事を振り返ってまとめておく | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|----------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | 図画工作 a・b・c・d | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 1単位 | 科目コード | CE1409 |
| 英文名 | Arts and Crafts | | | 開講時期 | 秋学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 山部 泰司・松井 沙都子・服部 正志・藤本 裕紀 | | | 対象学生 | 幼児教育1A・1B・1C・1D | | | | |
| 授業の概要 | この授業では、「子どもデパート」にむけてさまざまな材料による造形体験を持ち幼児期の造形活動の意味について理解を深める。又、子どもの生活環境や経験、発達に応じた素材や課題の選択、意欲をひき出す動機付けや声かけ、用具の扱い方や環境の整備などについての理解を深める。「子どもデパート」の取り組みでは、グループワーク、ディスカッションを通して表現、発表の方法を工夫し、教員と学生、学生同士、また、子どもの視点による多方向の学びと主体的な学修を生み出す。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 子どもの表現に関心を持ちながら、図画工作についての知識と技術を学習する。 2) 子どもが造形表現によって伝えたい内容を理解できる柔軟な感性を養う。 3) 子どもの発達と造形表現について理解して活動の方法や題材を計画する力を身につける。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (造形力) | プレゼンテーション能力 (表現力) | 課題発見・解決能力 | | | | |
| テキスト | 花篤實・岡田敬吾編『新造形表現実技編』(三晃書房)(1回生春学期購入のものを使用) | | | | | | | | |
| 参考書 | プリント等で配布する | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 「子どもデパート」についてのまとめレポート、自己評価チェック票による学修内容の到達度を知る | | | | | | | | |
| 留意事項 | 第1回から7回の授業は、チームによるグループワーク、創作活動になります。子どもとの関わりや造形活動にふさわしい服装や態度、言葉遣いを心がけること。「子どもデパート」の発表において子どもとの関わりの機会を持ちます。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | 実践的教育 教員の実務経験など：幼児の絵画教室などでの指導、造形ワークショップ、自らの造形活動での経験をもとに、子どもの造形について話をします。 | | | | | | | | |

| 授業名 | 図画工作 a・b・c・d | |
|------|----------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 子どもデパート | (学修内容) 子どもデパートのための課題の説明 春学期のディスカッションの内容を振り返り、グループにより計画する (事前事後学修課題の内容) (30分) さまざまな技法を復習してまとめておく |
| 第2回 | 子どもデパート | (学修内容) 課題についてのグループでの相談する 具体的な制作物やプランについて試し、工夫する (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでまとめておく |
| 第3回 | 子どもデパート | (学修内容) 材料について理解し、制作の分担や行程について把握し、話し合う (事前事後学修課題の内容) (30分) さまざまな素材を探してまとめておく |
| 第4回 | 子どもデパート | (学修内容) 子どもを想定して展示の環境構成について工夫する (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの動きと活動について考えてまとめておく |
| 第5回 | 子どもデパート | (学修内容) 華頂祭での作品の準備と展示の素材を完成させる (事前事後学修課題の内容) (30分) 展示作業などの予定を立てまとめておく |
| 第6回 | 子どもデパートの発表 | (学修内容) グループでの制作をもとに子どもと関わり、子どもを理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの発達について調べまとめておく |
| 第7回 | 子どもデパートのまとめと考察 | (学修内容) 課題が達成できたか。レポートと考察をおこなう (事前事後学修課題の内容) (30分) 自らの取り組みについて考えてまとめておく |
| 第8回 | 指絵の具をつくる | (学修内容) 指絵の具について学び、指絵の具をつかって表現する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト24項を読んでまとめておく |
| 第9回 | 小麦粉粘土をつくる | (学修内容) 小麦粉粘土の制作と遊び 子どもと粘土の出会いについて考えて話し合う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト33項を読んでまとめておく |
| 第10回 | 張り子の制作 1 | (学修内容) かたちをつくり、和紙を貼り込む (事前事後学修課題の内容) (30分) つくりたい作品のアイデアを考えてまとめておく |
| 第11回 | 張り子の制作 2 | (学修内容) 彩色とニス塗り はりこを完成させる (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の内容を完成させておく |
| 第12回 | マーブリング紙の制作 | (学修内容) マーブリング紙をつくる 色彩の美しさや偶然にできるかたちの面白さに気づく (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト27項を読んでまとめておく |
| 第13回 | マーブリング紙の活用 | (学修内容) 制作したマーブリング紙で何かをつくる 作品を記録して提出する (事前事後学修課題の内容) (30分) アイデアを考えてまとめておく |
| 第14回 | スライムをつくる | (学修内容) スライムの制作と遊びへの展開 スライムと子どもの活動について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト32項を読んでまとめておく |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 秋学期の授業を振り返り、レポートと講評において、自ら到達した内容について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 自らの活動について考えてまとめておく |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 子どもと運動 a・b・d | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | CE1410 |
| 英 文 名 | Infant Physical Education | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 佐東 恒子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1A・1B・1D | | | | |
| 授業の概要 | <p>幼児期は生涯にわたる健康の基礎をつくる時期であり、子どもの発達に適した運動経験を積んでいく必要がある。運動遊びの実践を通して、遊びの中で体を動かす楽しさを体験しながら、それらの遊びの特性について理解を深める。子どもの発育・発達を視野に入れながら、多様な運動遊びの指導方法や援助について学び、運動遊びの重要性を理解する。保育の現場で、子どもたちにどのように声をかければ、子どもたちのやる気を引き出せるかを考える授業でもある。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 保育の現場で運動遊びを実践する時、理解しておかなければならない理論と実践を学ぶとで、運動遊びの指導ができる。 2) 子どもが楽しいと思う、運動遊びの指導ができる。 3) 子どもの発育・発達を理解し集団遊びの指導ができる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 『新・体育あそびアラカルト』 西村誠・山口孝治・榎岡義明編著 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 『幼児体育 基礎理論と指導の方法』 前橋明編著 樹村房 『幼児の運動遊び』 菊池秀範・石井美晴編著(相川書房) 『0～5歳児の運動遊び指導百科』 前橋明著(ひかりにくに株式会社) | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたレポートは、コメントを付けて返却する。 実技については、その都度コメントをする。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 保育者として現場に立つ時の事を考えて、積極的に運動遊びに取り組んでもらいたい。 毎回の学習内容・課題で提示される内容について、事前に調べておくこと。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア フ ァ ー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：復活幼稚園・向陽幼稚園・ひかり幼稚園・篠村幼稚園(運動遊びの指導講師) 奈良教育大学附属小学校(非常勤講師) | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 子どもと運動 a・b・d | |
|---------|---------------|---|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 授業の目的や、授業の進め方について説明。 子どもの運動遊びの必要性について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内容を、レポートにまとめる。 | |
| 第2回 | 基本の運動 | (学修内容) 歩く・走るの違いについて知る。歩く・走る・跳ぶの動きから、いろいろな遊びに発展させる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 基本の運動にはどのような運動があるかを調べ、ノートにまとめる。 | |
| 第3回 | リズム運動 | (学修内容) いろいろなリズムに反応して動いてみる。(反応遊び) 2拍子～4拍子のリズム遊び。 (事前事後学修課題の内容) (60分) どんなリズムが有るのか考え、ノートにまとめる。 | |
| 第4回 | リズムダンス | (学修内容) 楽しくリズムに合わせて体を動かし、表現力を身につける。子どもが楽しめるリズムダンス。 (事前事後学修課題の内容) (80分) 幼児の好きな曲を選曲し、簡単な動きを考え、レポートにまとめて提出する。 | |
| 第5回 | ボール遊び | (学修内容) ボールの特性を知る。つく・蹴る・ころがす・投げる・受けるなどの遊びを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 少人数のボール遊びを考え、ノートにまとめる。 | |
| 第6回 | ボールでゲーム遊び | (学修内容) 多人数でのボール遊び。いろいろなゲーム遊びを体験し、子ども達に楽しいゲーム遊びを提供出来るようにする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どものころに遊んだゲーム遊びを思い出し、ノートにまとめる。 | |
| 第7回 | フープ遊び | (学修内容) フープの特性を知り、まわす・転がす・くぐる・投げる・跳ぶ遊びを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 色々なフープ遊びを考え、レポートにまとめて提出する。 | |
| 第8回 | フープでゲーム遊び | (学修内容) グループでのフープ遊びを行う。グループで競争ゲームを行う。協力する事を経験する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) いろいろなゲーム遊びを考え、ノートにまとめる。 | |
| 第9回 | マット遊び | (学修内容) 床を利用しているような動きを行う。(床となかよし這い這いで進む、動物遊び) (事前事後学修課題の内容) (60分) いろいろな動物のうごきを考え、レポートにまとめて提出する。 | |
| 第10回 | マット遊びの補助 | (学修内容) マット遊びの注意点について説明。前転・後転側転遊びの補助の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 補助で大事な事は何かを考え、ノートにまとめる。 | |
| 第11回 | 体操をつくる | (学修内容) 体操の基本的な考え方を学び、グループで体操をつくる。幼児の年齢に合った体操を考える。グループディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもの年齢に合った体操を考え、レポートにまとめて提出する。 | |
| 第12回 | 体操をつくる 曲を選択する | (学修内容) 体操の動きを見直し、より良い体操に仕上げる。グループディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体操の動きを変えた部分を書き、ノートにまとめる。 | |
| 第13回 | 体操の発表 | (学修内容) 発表した体操の評価をする。評価表を配付する。各自責任を持って評価をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体操のグループの評価をノートにまとめる。 | |
| 第14回 | パラバルーン遊び | (学修内容) パラバルーンの扱い方を知る。みんなと協力して行う遊びである事を知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) パラバルーンの遊びを調べて、レポートにまとめて提出する。 | |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 授業全体の振り返りを行い、学びや課題について話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 運動遊びの重要性を、レポートにまとめて提出する。 | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 子どもと運動c | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CE1410 |
| 英 文 名 | Infant Physical Education | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 森 宜裕 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1C | | | | |
| 授業の概要 | <p>幼児期は生涯にわたる健康の基礎をつくる時期であり、子どもの発達に適した運動経験を積んでいく必要がある。運動遊びの実践を通して、遊びの中で体を動かす楽しさを体験し、それらの遊びの特性について理解を深める。子どもの発育・発達を視野に入れながら、多様な運動遊びの指導や援助について学習する。理解を深めるために、適宜グループワークを実施する。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 保育現場で運動遊びを実践する時、理解しておかなければならない理論と実践を学び指導できるようにする。 2) 子どもが楽しいと思う、運動遊びの指導ができる保育者になることを目標とする。 3) 子どもの発育・発達を理解し集団遊びの指導が出来るようになることを目標とする。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 () | | | |
| テ キ ス ト | 必要に応じてプリントを配布する | | | | | | | | |
| 参 考 書 | <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育内容「表現」からだて感じる・表す・伝える 株式会社杏林書院 元気な子どもを育てる幼児体育 保育出版社</p> | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたレポートは、返却し解説します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 積極的な受講姿勢を尊重する。自身の健康維持、安全管理に留意し、室内シューズ、運動着を着用すること。次々と新しい教材を学ぶので、毎回各自で予習・復習をしっかりとすること。授業の進行具合により、学習項目が変更になる場合もある | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | <p>実践的教育 教員の実務経験など：理学療法士として、整形クリニックに勤務。実務経験をもとに子どもと運動について話をします。</p> | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 子どもと運動c | |
|---------|---------------|--|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 授業の目的や、授業の進め方について説明。 子どもの運動遊びの必要性について理解する。 (事前事後学修課題の内容) | |
| 第2回 | 基本の運動 | (学修内容) 歩く・走るのの違いについて知る。歩く・走る・跳ぶの動きから、いろいろな遊びに発展させる。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 基本の運動にはどのような運動があるか考える。 | |
| 第3回 | リズム運動 | (学修内容) いろいろなリズムに反応して動いてみる。(反応遊び) 2拍子～4拍子のリズム遊び (事前事後学修課題の内容) (15分) どんなリズムがあるのか考えておく。 | |
| 第4回 | リズムジャンプ | (学修内容) リズムに合わせてジャンプをし、身体機能を高める方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (15分) どんなリズムがあるのか考えておく。 | |
| 第5回 | リズムダンス | (学修内容) 楽しくリズムに合わせて体を動かし、表現力を身につける。子供が楽しめるリズムダンスをつくる。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 幼児の好きな曲を選曲しておく。 | |
| 第6回 | ボール遊び | (学修内容) ボールの特性を知る。つく・ける・転がす・投げる・受けるなどの遊びを行う。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 少人数のボール遊びを考えておく。 | |
| 第7回 | ボールでゲーム遊び | (学修内容) 多人数でのボール遊び。いろいろなゲーム遊びを体験し、子どもたちに楽しいゲーム遊びを提供できるようにする。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 子どものころに遊んだゲーム遊びを考える。 | |
| 第8回 | フープ遊び | (学修内容) フープの特性を知り、まわす・転がす・くぐる・投げる・飛ばす遊びを行う。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 色々なフープ遊びを考えておく。 | |
| 第9回 | フープでゲーム遊び | (学修内容) グループでのフープ遊びを行う。グループで競争ゲームを行う。協力することを体験する。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 色々なゲーム遊びを考えておく。 | |
| 第10回 | マット遊び | (学修内容) 床を利用して、いろいろな動きを行う。(動物遊び) (事前事後学修課題の内容) (15分) いろいろな動物のうごきを考える。 | |
| 第11回 | マット遊びの補助 | (学修内容) マット遊びの注意点について説明。前転・後転・側転遊びの補助の方法を考える。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 補助で大事なことは何かを考える。 | |
| 第12回 | 体操をつくる | (学修内容) 体操の基本的な考え方を学び、グループで体操を作る。幼児の年齢にあった体操を考える。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 何歳の体操を作るのかを決めて、曲を選んでおく。 | |
| 第13回 | 体操をつくる 曲を選択する | (学修内容) 体操の動きを見直しより良い体操に仕上げる。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 体操の動きの流れを見直す。 | |
| 第14回 | 体操の発表 | (学修内容) 発表した体操の評価をする。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 搜索した体操の動きを自分の動きとなるように練習する。 | |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 授業全体の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 幼児の運動遊びで大切なことをまとめておく。 | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 教育実習事前・事後指導 a | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | CE1413 |
| 英 文 名 | Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten) | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 鈴木 えり子・浅田 瞳・平尾 隆史・大野 照美・乾 眞理子・小川 隆昭・東野 洋子・野田 隆生 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 幼稚園教諭として責任ある行動がとれるように、教育実習の意義・目標・実際の計画や内容を学習し、望ましい教師になるための実践を積む。実習では講義や演習・実技で学んだ授業を総合的に実践することを確認する。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到達目標 | 1) 幼稚園現場で実際に保育し幼児理解を学び身に付けたことが実践できるように、総合的な力を身につけることができる。 2) 幼稚園見学・保育の観察記録・指導計画案の理解などを通して、幼稚園教育実習への意識と責任をもつことができる。 3) 幼稚園現場研修に参加して現場体験から学ぶことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 「教育課程・指導計画」京都教育大学附属幼稚園編 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 授業中に提出されたレポートに対して、コメントをつけて返却し授業内で解説を行う。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 教育実習に関する内容であるので無断欠席は認めない。 免許取得にかかわる関係科目の履修状況、出席態度によって実習開始できないこともある。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 木曜日12時10分から13時 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 教育実習事前・事後指導 a | |
|------|-----------------------|---|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 教育実習事前・事後指導の授業について | (学修内容) 授業の進め方 受講の心構え 教育実習の目的 幼稚園ボランティアの意義 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスを読んでくる |
| 第2回 | 幼稚園教育の基本 | (学修内容) 幼稚園教育の意義、目的、方法について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 幼稚園教育要領の総則を読み、教育実習の目的や意義について考える |
| 第3回 | 幼児理解について | (学修内容) 幼児期の発達と幼児理解の考え方をと幼児のかかわりについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習を通して、発達過程とかかわりをまとめる |
| 第4回 | 幼稚園指導計画の理解 | (学修内容) 指導計画案の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習を通して、指導計画の考え方をまとめる |
| 第5回 | 幼児の観察記録の記入 | (学修内容) 幼稚園見学の課題である観察記録の目的・方法について 観察記録の作成について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の復習を通して、観察記録を再度作成しなおす |
| 第6回 | 実技・教材研究(制作と遊び) | (学修内容) 季節の行事に関連した制作と制作物を使った遊びを体験する (事前事後学修課題の内容) (60分) 観察記録提出用のレポートをしあげる |
| 第7回 | 2回生の教育実習体験を聴く会 | (学修内容) 実習の体験を聴き自分たちの実習に見通しをもつ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習体験を聞いてまとめるとともに、各自の課題を明確にする |
| 第8回 | 幼稚園の見学について | (学修内容) 華頂幼稚園の概要 見学の注意事項の確認 (事前事後学修課題の内容) (30分) 幼稚園の見学の目的、注意事項をレポートにまとめてくる |
| 第9回 | 華頂短期大学附属幼稚園見学(前半グループ) | (学修内容) 幼稚園へ見学に行き子どもを観察する (事前事後学修課題の内容) (60分) 華頂幼稚園のしおりを読む。見学に必要なものを準備する。 見学後に観察記録をレポートにまとめて提出する |
| 第10回 | 華頂短期大学附属幼稚園見学(後半グループ) | (学修内容) 幼稚園へ見学に行き子どもを観察する (事前事後学修課題の内容) (60分) 華頂幼稚園のしおりを読む。見学に必要なものを準備する。 見学後に観察記録をレポートにまとめて提出する |
| 第11回 | グループ制作活動の振り返り | (学修内容) 活動内容を振り返り、遊び・教材・用具に関する知識、声かけやかかわり、環境構成の工夫などについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 華頂幼稚園見学の観察記録レポートを作成する |
| 第12回 | 実技・教材研究(行事と保育) | (学修内容) 季節感を取り入れた制作を主とした保育の流れを体験する (事前事後学修課題の内容) (20分) 幼児が興味をもつ教材について調べる |
| 第13回 | 華頂幼稚園見学の振り返り | (学修内容) 幼稚園見学を振り返る。各クラスの保育の内容を知り理解を図る (事前事後学修課題の内容) (30分) 見学・観察実習の内容を振り返り、指導案を見直しておく |
| 第14回 | 実技・教材研究(歌と生活) | (学修内容) 生活の歌、仏教保育の歌、季節の歌、行事の歌を実践する (事前事後学修課題の内容) (30分) 『幼児のうた』を見て、幼稚園で歌う歌、教育実習の現場で弾く歌を想定しておく |
| 第15回 | 幼稚園現場研修のまとめ | (学修内容) 各現場研修の状況と体験について共通理解し、2回生の教育実習に向けて各自の課題を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分が理解できていることと理解できていないことを抜き出してみる |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|-----------------------------------|-------------|----------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 保育の心理学 a・b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | CE1202 |
| 英 文 名 | Child Care Psychology | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 林 静香 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1AB・1CD | | | | |
| 授業の概要 | 発達心理学の基礎知識を習得し、その知識を用いて子ども理解を深めていく。また、心理学の具体的な話題や幼児教育・保育現場の事例を紹介し、発達過程と保育実践を関連づけながら講義をすすめる。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 子どもの発達に関する心理学の基礎知識を習得することができる。 2) 発達心理学の基礎知識を用いて子ども理解をすすめる、発達過程と保育実践を関連づけて理解することができる。 3) 乳幼児期の経験の重要性を認識し、主体的に学ぶ態度を身につけることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 | | |
| テ キ ス ト | 大野雄子 / 小池庸生 / 小林玄 / 前川洋子著『保育の心理学演習ブック』ミネルヴァ書房2019年 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業中に随時紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 講義内で実施する筆記試験や提出物を回収後、添削して返却するとともに解答を解説します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 復習をしっかりと行い、基本的な心理用語や理論を覚えること。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する。(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。) | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：大津市職員 保育士として勤務 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 学修項目 | 学修内容・課題 |
|---------|--------------------------|--|---------|
| 授 業 計 画 | 保育の心理学 a・b | | |
| 第1回 | ガイダンス：保育における発達心理学の意義と役割 | (学修内容) 子ども理解のために発達心理学の知識が必要であることを知る。生涯発達の観点、発達の原理について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分自身の幼少期の保育経験や子どもとかわった経験について思い出す。テキスト p p. 2 - 5 を読んでおく | |
| 第2回 | 発達を通じた子どもへの理解 | (学修内容) 発達に関する理論、原理、法則、遺伝と環境の影響について学ぶ。発達段階(ピアジェ)、発達課題を知る。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前) 授業の復習をしておく。 | |
| 第3回 | 個人差や発達過程に応じた保育 | (学修内容) 発達には個人差が生じることを理解し、規定要因について学ぶ。発達過程を学び、乳幼児期の発達の特徴を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業の復習をしておく。 p p 3 0、3 1 の演習課題を自分なりに考えてみる。 | |
| 第4回 | 身体感覚経験と環境の相互作用 | (学修内容) 子どもにとっての経験とはどのような効果があるのかを理解する。身体感覚、知覚、認知について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 今までの授業の復習をし、ノートにまとめておく。 | |
| 第5回 | 子どもの発達と保育の取り組みについて | (学修内容) 筆記試験(小テスト)実施。 フィードバック(解説) 授業内容を振り返りまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業の復習をしておく。 | |
| 第6回 | 子ども相互の関わりと関係づくり | (学修内容) 親子関係だけでなく仲間(集団・友達)関係を通じて社会性を発達させていくことを学ぶ。自己主張と自己統制について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業の復習をしておく。 自分自身が幼いころに楽しんだ「集団遊び」について思い出す。 | |
| 第7回 | 子ども集団と保育の環境 | (学修内容) 個と集団について学ぶ。子どもの集団運営を行うリーダーとしての保育者の役割を理解する。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) 今まで授業の復習し、ノートをまとめておく。 | |
| 第8回 | 他者との関わりと子どもの発達 | (学修内容) 筆記試験(小テスト)実施。 フィードバック(解説)。今までの授業内容を振り返り、まとめる。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業の復習をしておく。 | |
| 第9回 | 子どもの遊びと学び | (学修内容) 子どもにとって遊びのもたらす効果を心理的側面から学ぶ。発達段階に応じた遊びの分類について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業の復習をしておく。 | |
| 第10回 | 豊かな人間性を育てる：インクルーシブ教育(保育) | (学修内容) 乳幼児期の発達課題である基本的信頼の獲得について学ぶ。豊かな人間性を育てることで生きる力を培うことを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業の復習をしておく。 | |
| 第11回 | 基本的生活習慣の獲得と発達援助 | (学修内容) 基本的生活習慣について学ぶ。子どもたちの発達に応じたレディネス(準備)を確立する援助の必要性を理解する。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業の復習をしておく。 | |
| 第12回 | 自己の主体性の形成と発達援助 | (学修内容) 子ども主体の行動について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業の復習をしておく。 | |
| 第13回 | 発達の課題に応じた援助や関わり | (学修内容) 特別な配慮が必要な子どもへの発達援助について学ぶ。 (知的障がい、発達障がい、診断は受けていないが気になる子を含む) (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業の復習をしておく。 | |
| 第14回 | 地域との連携、就学への援助 | (学修内容) 発達の連続性を学び、小学校や地域との連携の必要性を理解する (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業の復習をしておく。 | |
| 第15回 | まとめ：現代社会での子どもの発達と保育の課題 | (学修内容) 子どもを取り巻く問題と保育の課題を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業の復習をしておく。 | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|----------------------------|------------------|-----------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 保育者論 a・b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | CE1209 |
| 英 文 名 | Theory of Child Care Worker | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 林 静香 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1AB・1CD | | | | |
| 授業の概要 | 子どもを取り巻く環境が多様化するなかで、これからの時代に求められる保育者の役割や責務、保育者として守るべき倫理や制度的位置づけについて解説する。保育者の職務内容を具体的に理解することで、そのために必要な専門性を意識し、主体的に学ぶ姿勢を育む。インシデントやエピソード（事例）なども取り入れながら、授業をすすめる。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 保育者の役割を理解することができる。 2) 保育者の職務の全体像を理解することができる。 3) 保育者は専門性の向上が必要であることを理解することができる。 4) 事例検討などを通じて自主的に学ぶことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業） | グループワーク I C T活用（自主学習支援） | プレゼンテーション | | | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 矢藤誠慈郎・天野珠路著 『新・保育基本シリーズ7 保育者論』中央法規出版 2019年 『幼稚園教育要領』 『保育所保育指針』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業中に随時紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 授業内で筆記試験（数回実施）、提出課題回収後、採点して返却します。その際に解答の解説もします。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 子どもに関する時事問題や保育に関する動きなど新聞や保育雑誌などから常に理解しておく。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に対応する（変更の場合は、研究室に日時を貼付する。） | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：大津市職員 保育士として勤務 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 学修項目 | 学修内容・課題 |
|---------|--------------------------|---|---------|
| 授 業 計 画 | | | |
| 第1回 | 保育者の役割 子どもにとっての保育者の存在 | (学修内容) 保育者の役割 子どもにとっての保育者の存在の重要性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第1講を読んでくる | |
| 第2回 | 保育者の倫理 | (学修内容) 全国保育士会倫理綱領 保育者に必要な倫理(専門的倫理) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第2講を読んでくる | |
| 第3回 | 保育者の資格と責務 | (学修内容) 保育士の職務 幼稚園教諭の職務 保育教諭の要件 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3講を読んでくる | |
| 第4回 | 養護と教育の関係 | (学修内容) 保育における養護 保育における教育 養護と教育が一体となった保育 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第4講を読んでくる | |
| 第5回 | 保育者の資質と能力 | (学修内容) 保育者として求められる資質と能力 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第5講を読んでくる | |
| 第6回 | 専門的な知識・技術と判断 | (学修内容) 必要とされる専門的な知識や技術 事例から考える保育者の判断 (グループワーク・ディスカッション) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第6講を読んでくる(30分) | |
| 第7回 | 保育者の省察と保育の評価 | (学修内容) 保育記録の意味 保育におけるPDCAサイクル 保育者の自己評価と園の 自己評価(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第7講、第9講を読んでくる(30分) | |
| 第8回 | 保育課程と保育の実際 | (学修内容) 全体的な計画、指導計画の編成 子どもの実態に即した保育 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第8講を読んでくる(30分) | |
| 第9回 | 指導計画の立案 | (学修内容) 子どもの実態に即した指導計画の立案 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に配布した指導計画案を見ておく。 | |
| 第10回 | 保育者同士の連携・協働 | (学修内容) 保育者連携、情報の共有、協働の実際 組織の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第10講を読んでくる | |
| 第11回 | 専門機関との連携 | (学修内容) 医療・保健・福祉・療育・教育機関など専門機関との連携 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第11講を読んでくる | |
| 第12回 | 保護者との連携 | (学修内容) 子育て支援の必要性 地域社会との連携 保幼小の連携・接続 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第12講を解説する | |
| 第13回 | 家庭的保育 | (学修内容) 家庭的保育の特徴 家庭的保育の現状 安全対策と連携 教材研究(保育者の視点をもって) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第13講を読んでくる | |
| 第14回 | 保育者の専門性の向上 | (学修内容) 保育者の成長発達 保育者の専門性 保育者の研修 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第14講、第15講を読んでくる | |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 授業の振り返り 保育者観の形成 (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業で学んだことを振り返っておく | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|------------------------------------|-----------------------------------|-----------|----------------------------|------------|------------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 保育実習指導 a | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コー ド | CE1406 |
| 英 文 名 | Guidance on Child Care Training | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 高岡 理恵・林 静香・武田 康晴・名賀 亨・野田 隆生 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1回生 | | | | |
| 授業の概要 | この授業は、保育を担う豊かな感性をもつ保育士資格を取得するための必修科目であるため、保育士に必要な知識、技術、態度、職業倫理を学ぶ。 具体的には、実習事前準備として、実習目標や記録の意義の理解、保育実習の意義・目的の理解、実習施設の概要、実習施設における子どもの人権とプライバシーへの配慮、援助職に求められるコミュニケーション等について学ぶ。 実習施設の生活の流れや保育士の職務について理解や、援助職に求められるコミュニケーションが必要とされることから、講義だけでなく視覚教材の使用、グループワークやディスカッションも取り入れる内容とする。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 達 成 目 標 | 1) 保育実習の意義・目的・内容を理解できる。 2) 実習生としての心構えが身についている。 3) 学生間、教員とのコミュニケーションがとれる。 4) 一定の約束事を守ることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 () | | | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 適宜、プリントを配布します | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説書』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 必要です | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | ワークを行ったあとに課されるレポートについては、確認後返却を行う。 授業後の振り返りシートも同様。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 保育実習に関わる内容であるので、無断欠席及び遅刻は認めない。やむを得ず欠席せざるを得ないときには、Gメールを利用して、教員に連絡を行う必要がある。 学科の保育関係科目の状況及び出席状況、受講態度や理解度によっては実習開始できないこともある。レポートや書類等の提出遅れや未提出の場合も同様である。(要注意) | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ウ ー | 専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 保育実習指導 a | |
|---------|-------------------------------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 授業内容や受講に關しての諸注意 シラパスを用いて、本授業における流れと留意事項の確認 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前) シラパスを読み保育士取得の有無を考える |
| 第2回 | 保育士資格取得の動機付け 福祉職としての保育士 | (学修内容) 福祉職としての保育士が理解しておくべき職務内容や背景にある理念について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前) 子どもの権利条約について調べ、ノートにまとめる |
| 第3回 | 保育実習の意義・目的 保育実習の概要 | (学修内容) 保育実習の意義・目的・内容を理解する (事前事後学修課題の内容)(20分) 事後) 保育士の法的根拠を調べておく |
| 第4回 | 保育士の職務理解と 目指すべき保育士の明確化 | (学修内容) 社会で求められる保育士について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後) 目指すべき保育士像を考え言語化できるようにする |
| 第5回 | 実習に必要な基礎的な知識と技術 1 自己覚知 | (学修内容) 第一印象に与える影響について学び、グループワークを通して自己覚知を行う (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前) 自分の強みを言語化できるようにする |
| 第6回 | 実習に必要な基礎的な知識と技術 2 コミュニケーション | (学修内容) 保育実習に必要なコミュニケーションの方法を演習しながら学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前) 非言語コミュニケーションについて調べ質問に答えられるようにしておく |
| 第7回 | 実習に必要な基礎的な知識と技術 3 目標と目的 | (学修内容) 保育実習に必要な目標と目的について、実際に自身の目標を明確にし、グループワークを通して学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前) 自分自身の卒業時の目標についてノートに書いてくる(初年次教育(基礎ゼミ)で行っているものがあれば、それを持ってくる) |
| 第8回 | 実習に必要な基礎的な知識と技術 4 レポートの書き方 | (学修内容) 授業で課題とされるレポート提出に必要な書き方の基本を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後) 与えられたテーマでレポートを書く(提出)(評価1) |
| 第9回 | 実習施設を理解する 1 保育所の役割と子どもの理解 | (学修内容) 保育所の一泊についてビデオ視聴し保育所実習とは何を考えるのかを考え、保育内容や、保育所のデイリープログラムを理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後) 「保育所の役割と実習を行う視点」というテーマでレポートを書く(提出)(評価2) |
| 第10回 | 実習施設を理解する 2 児童養護施設・乳児院の役割と子どもの理解 | (学修内容) 児童養護施設の一泊についてビデオ視聴し保育所実習とは何を考えるのかを考え、内容や、施設のデイリープログラムを理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後) 「児童養護施設の役割と実習を行う視点」というテーマでレポートを書く(提出)(評価3) |
| 第11回 | 保育実習の心構えと準備 1 実習に関する事務手続き | (学修内容) 実習方法、実習園の選択についての説明を受け、自分の実習園を選定する。実習報告書の書類提出である実習生カードの下書きをする。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事後) 実習生カードに必要な事項を書き提出する |
| 第12回 | 保育実習の心構えと準備 2 実習施設に求められるマナー | (学修内容) 実習生としての心得と留意事項についてグループワークを通して学ぶ(態度、アポイントの取り方等) (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前) 配布したプリント(言葉遣い)に記入して持参する |
| 第13回 | 保育実習の心構えと準備 3 健康管理 | (学修内容) 保育実習を余さず最後までやり切れるよう、自身の健康管理及び感染についての知識を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前) 配布プリントを読んでおく |
| 第14回 | 保育実習の心構えと準備 4 保育士の倫理 | (学修内容) 国家資格である保育士の守るべき倫理綱領について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前) 全国保育士会倫理綱領を調べ、質問に答えられるようにしておく |
| 第15回 | 春学期のまとめ(学びの振り返り) 秋学期に向けての課題 | (学修内容) 保育実習依頼時の電話のかけ方やマナーを学ぶ。 春学期の学びの振り返りと夏期休暇中の課題の説明を聞く。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後) 資料をファイルをまとめる |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 保育実習指導 a | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | CE1406 |
| 英 文 名 | Guidance on Child Care Training | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 高岡 理恵・林 静香・武田 康晴・名賀 亨・安藤 正彦・野田 隆生・日永 よし子・友本 喜代子 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>本授業は、春学期「保育実習指導」の引き続きの授業です。 保育現場で、保育を担う豊かな感性、人間性を有することのできるよう、保育所実習・施設実習におけるそれぞれの目的意識を高め、学生自身が実習目標を明確にもって自立的に取り組めるように準備を行います。 実習を円滑にするための記録の記入方法、指導計画の考え方と立案、指導案の立案を行うとともに、保育施設実習がイメージできるようにグループワークや演習を通して授業を進めます。 なお、華頂幼稚園での見学実習がありますので、見学の視点をもち積極的に臨んでください。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 自分自身の実習先の施設の概要、機能について理解ができる 2) 保育所実習と施設実習の違いが理解でき、実習課題に取り組むことができる 3) 実習生としての心構えが体得できる。 4) 実習の事前準備を行うことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (50 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | | 課題発見・解決能力 () | | |
| テ キ ス ト | 適宜、プリントを配布します | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説書』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 必要です | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | ワークを行った後に課せられるレポートや課題物については、確認後返却を行う。 授業後の振り返りシートも同様 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 保育実習の事前・事後にあたる通年の学内実習指導であるため、春学期からの通年で必ず履修すること。実習に関する重要事項を学ぶ場であるので、無断欠席は認めない。また、学科の保育関係科目の修得状況及び出席状況、受講態度や理解度によっては実習開始できないこともある。レポートや書類等の提出遅れや未提出の場合も同様である。(要注意) | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ウ ー | 専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 保育実習指導 a |
|---------|----------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 秋学期に向けての心構え、予定、実習期間の確定、夏期休暇の課題の点検を行い、必要な学生に対し個別指導を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前) シラバスを読み理解しておく |
| 第2回 | 実習施設を理解する1 乳児院・児童養護施設 | (学修内容) 乳児院・児童養護施設の役割と機能を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 事後) 乳児院・児童養護施設の役割と機能について理解したことをレポートにして提出(評価1) |
| 第3回 | 実習施設を理解する2 障がい児(者)施設 | (学修内容) 障がい児(者)施設の役割と機能を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 事後) 障がい児(者)施設の役割と機能について理解したことをレポートにし提出(評価2) |
| 第4回 | 実習施設を理解する3 保育所 | (学修内容) 保育所の役割と機能を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 事後) 保育所の役割と機能について理解したことをレポートにして提出(評価3) |
| 第5回 | 実習課題を理解する1 実習目標の設定(保育所) | (学修内容) 実習目標のたてかたを学び、保育実習を行うための自己の実習目標を設定する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後) 保育所実習の実習目標を設定し、それが達成できるための具体的な方法について考えA4用紙にまとめる(提出) |
| 第6回 | 実習課題を理解する2 実習目標の設定(施設) | (学修内容) 実習目標のたてかたを学び、施設実習を行うための自己の実習目標をグループワークを行いながら、設定する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後) 施設実習の実習目標を設定し、それが達成できるための具体的な方法について考えA4用紙にまとめる(提出) |
| 第7回 | 実習課題を理解する3 保育計画と指導案 | (学修内容) 保育計画と指導案について理解し、指導計画を立案方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後) 指導計画を立案する。(提出) |
| 第8回 | 実習課題を理解する4 実習記録 | (学修内容) 実習記録の意義・記録方法についてグループワークを行いながら学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後) 華頂祭、子どもデパートについて記録を行う(提出) |
| 第9回 | 実習課題の指導1 実習目標の指導 | (学修内容) 設定した実習目標の指導を受け、実習目標と到達するための具体的な方法を明確化する (事前事後学修課題の内容)(45分) 事後) 指導された箇所を直し再提出する |
| 第10回 | 実習課題の指導2 保育計画と指導案の指導 | (学修内容) 自身の考えた保育計画と指導案について指導を受ける (事前事後学修課題の内容)(45分) 事後) 指導された箇所を直し再提出する |
| 第11回 | 実習課題の指導3 実習記録の指導 | (学修内容) 実習記録の指導を受ける (事前事後学修課題の内容)(45分) 事後) 指導された箇所を直し再提出する |
| 第12回 | 実習課題の指導4 実習課題の再提出 | (学修内容) 学びの進度に応じて、実習課題を再提出し課題の理解を深める (事前事後学修課題の内容)(45分) 事後) 再提出後指導された箇所を直し再提出する |
| 第13回 | 事前オリエンテーションへの臨み方 | (学修内容) 実習の心得、実習中の注意事項、実習園とのオリエンテーション、実習の具体的な内容を確認する。手続きの説明と書類提出を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前) 検査に伴う証紙、切手代を購入しておく 事後) 実習先をイメージしてお礼状を書く |
| 第14回 | 実習直前指導 実習記録への記載 | (学修内容) 実習課題の個別添削を返却し指導及び実習記録への記載をし、実習準備を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前) 秋学期の内容を見直し疑問点を明確にしておく |
| 第15回 | 学内オリエンテーション及び訪問担当者との個別面談 | (学修内容) 実習訪問担当者との個別面談を実施し、相互連絡の確認と質疑応答を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前) 実習園とのオリエンテーション報告書を作成しておく |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|----------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 社会的養護 a・b | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | CE1211 |
| 英 文 名 | Principles of Corporate Parenting | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 山川 宏和 | | | 対 象 学 生 | 幼児教育1AB・1CD | | | | |
| 授業の概要 | <p>保育士として必要な社会的養護の基本原則と知識を深めるために、以下の内容で授業を進める。</p> <p>1．社会的養護の概念と歴史的経過について 2．社会的養護体系について 3．施設によるケアについて 4．里親によるケアについて</p> <p>配布プリントと視聴覚教材を用いて具体的に説明し、レーダーチャートによって1日の学びを振り返る。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <p>1) 社会的養護の現状や、入所施設や里親に関する制度について説明できる。 2) 乳児院や児童養護施設等に入所している児童の現状が理解できる。 3) 社会的養護を必要とする保護者について、現状と支援が理解できる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (80 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (20 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | 独自に作成したプリントを配布して授業を行う | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 随時指示する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 授業期間内に2度実施する小テストは、採点して返却する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 視聴するDVDや映像素材の内容も試験の範囲となる。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 3号館に掲示してあるオフィスアワーを参照。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 社会的養護 a・b | |
|------|---------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 児童虐待の理解 身体的虐待・ネグレクト | (学修内容) 身体的虐待とネグレクトがどのようなものか説明できる (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前にシラバスをよく読んでおくこと |
| 第2回 | 児童虐待の理解 心理的虐待・性的虐待 | (学修内容) 心理的虐待にあてはまるものを説明できる (事前事後学修課題の内容)(30分) 児童虐待に関心をもってニュースなどを見る |
| 第3回 | 家庭養護 里親と養子縁組制度 | (学修内容) 里子の試し行動や養子のケアが説明できる (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布したプリントを振り返る |
| 第4回 | 家庭養護 養育里親の活動 | (学修内容) 養育里親の手当や生活費、認定について説明できる (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布したプリントを振り返る |
| 第5回 | 家庭養護 家庭復帰支援 | (学修内容) 家庭復帰支援の実際と留意点が説明できる (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布したプリントを振り返る |
| 第6回 | 家庭養護 アフターケア | (学修内容) 里子の心理、当事者団体について説明できる (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布したプリントを振り返り、小テストに備える |
| 第7回 | 家庭的養護 自立援助ホーム | (学修内容) 自立援助ホームの機能と実態がわかる (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布したプリントを振り返り、小テストに備える |
| 第8回 | 施設養護 乳児院の機能 | (学修内容) 乳児院の機能や入所児童の特徴が説明できる (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布したプリントを振り返る |
| 第9回 | 施設養護 乳児院の養子縁組支援 | (学修内容) 乳児院の実態と養子縁組支援について説明できる (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布したプリントを振り返る |
| 第10回 | 施設養護 児童養護施設の機能 | (学修内容) 児童養護施設の機能と実態が説明できる (事前事後学修課題の内容)(30分) 関心をもってニュースなどを見る |
| 第11回 | 施設養護 児童養護施設の今後 | (学修内容) 新たな社会的養育ビジョンによって起こる変化が説明できる (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布したプリントを振り返り、小テストに備える |
| 第12回 | 非行少年の処遇について | (学修内容) 保護処分や検察官送致について内容を説明できる (事前事後学修課題の内容)(30分) 春学期の内容を振り返っておく |
| 第13回 | アタッチメント障害 | (学修内容) アタッチメント(愛着)障害の種類について説明できる (事前事後学修課題の内容)(30分) 保育における愛着を復習しておく |
| 第14回 | 施設養護 児童心理治療施設 | (学修内容) 児童心理治療施設の機能と児童指導員の職務が説明できる (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布したプリントを振り返る |
| 第15回 | 施設養護 児童養護施設等のアフターケア | (学修内容) 退所児童のアフターケア事業について説明できる (事前事後学修課題の内容)(30分) ブリッジ・フォー・スマイルの活動を調べる |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 健康と食の文化 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | IC1202 |
| 英 文 名 | Health and Food Culture | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 必修 | |
| 担 当 者 | 塩田 二三子 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | <p>「食文化」は、健康やQOLへ影響を及ぼす要因の1つと言え、「健康寿命」の長さが世界トップクラスなのである日本の食文化は諸外国からも注目されている。</p> <p>本授業では、自然環境、社会環境など様々な側面から日本および諸外国の食文化の特色についての基礎的知識を学び、ユネスコ無形文化遺産である「和食・日本人の伝統的な食文化」を大切に守りつつ、日本とは異なる諸外国の食文化の優れた点を取り入れ、日本の食文化や世界の食文化をどのように継承していくかを考える。随所でグループワークを行う。</p> | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の食文化がユネスコの無形文化遺産に選ばれた理由を理解し、説明できる。 ・日本および日本の食文化に多大な影響を及ぼした諸外国の食文化について、その特色を理解し、説明できる。 ・日本の食文化が、健康寿命の長さなどにどのように影響を及ぼしているかを理解し、説明できる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | |
| テ キ ス ト | プリントを配布し、テキストは使用しない。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 必要に応じて、授業中に紹介する。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたものをチェック後、必要な部分については次週以降に解説する。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 現在の日本の食が持つ問題点についても考え、自分としてはどうしていけば良いかを考え続けてほしい。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 初回の授業でお伝えします。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 健康と食の文化 | |
|---------|---------------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 日本の食文化とは | (学修内容)和食、日本の食文化について、その特徴を考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 和食といえば何を思い出すか、考えておこう。 |
| 第2回 | 日本食と健康 | (学修内容)日本食が体に良いとされるその所以について。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 今の自分の食生活で、体に悪いなと思う点があるか考えてみよう。 |
| 第3回 | 日本の食文化の歴史 | (学修内容)今の日本の食文化はどのような変遷を経て成り立っていったのかをみていく。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 平安時代の人々がどんな食生活をしていたか想像してみよう。 |
| 第4回 | 日本の食文化に影響を及ぼした諸外国の食文化とその歴史(中国) | (学修内容)中国の食文化がどのように成立し、日本の食文化にどのように影響を及ぼしたかをみていく。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 中国料理の特徴を考えておこう。 |
| 第5回 | 日本の食文化に影響を及ぼした諸外国の食文化とその歴史(西洋) | (学修内容)西洋の食文化がどのように成立し、日本の食文化にどのように影響を及ぼしたかをみていく。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 西洋料理の特徴を考えておこう。 |
| 第6回 | 日本の食文化に影響を及ぼした諸外国の食文化とその歴史(インド) | (学修内容)インドの食文化がどのように成立し、日本の食文化にどのように影響を及ぼしたかをみていく。 (事前事後学修課題の内容)(30分) インド料理の特徴を考えておこう。 |
| 第7回 | ユネスコ無形文化遺産「和食；日本人の伝統的な食文化」とは | (学修内容)和食がなぜユネスコ無形文化遺産に選ばれたのかを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 和食以外で、食に関する文化がユネスコの無形文化遺産に選ばれているものがあるか調べておこう。 |
| 第8回 | 食事作法と食事様式 | (学修内容)和・洋・中の食事作法や食事様式についてその特徴を比較する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 和食のマナーにおいて、マナー違反とされる箸使いについて調べてみよう。 |
| 第9回 | 食器とテーブルセッティング | (学修内容)主に和と洋の食器についてその種類と特徴、使い方を説明する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 西洋の有名な食器メーカーにどんなものがあるか調べてみよう。 |
| 第10回 | 主食の文化 | (学修内容)主食とは何か、また世界各地でどのような主食が食べられているのかをみる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日本における主食の消費量の変化について調べてみよう。 |
| 第11回 | 魚食文化 | (学修内容)魚が日本の食文化、京都の食文化においてどのような意味を持つのか、またその生理作用について。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分の食生活の中で、週に何度くらい魚を食べるか、またどんな魚をどんな調理法で食べるかまとめておこう。 |
| 第12回 | だしの文化 | (学修内容)和・洋・中のだし汁についてその種類と特徴をみる。特に、鰹節だし、昆布だしについては生理作用も含め、詳しくみていく。 (事前事後学修課題の内容)(15分) 日頃使用するだし汁はなにか調べておく。 |
| 第13回 | 発酵の文化 | (学修内容)世界各国でどのような発酵食品が利用されているかその種類と特徴、生理作用をみる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 自分の食生活の中に、発酵食品があるかみておく。 |
| 第14回 | 現在の食の問題点(食糧問題) | (学修内容)現在の日本の食に関する問題点について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 現在の日本の食についてどんな点に問題があるのか考えておく。 |
| 第15回 | これまでのまとめ | (学修内容)これまでの振り返りをおこなう。 (事前事後学修課題の内容)(20分) これまでの学修内容で不明な点があればまとめておく。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-------------|--------------------------|----------------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | 日本文化 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | IC1201 |
| 英文名 | Japanese Culture | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 必修 | | |
| 担当者 | 工藤 美和子 | | | 対象学生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 日本の歴史を背景に、日本文化の成立と多面性について学びます。授業では、古代から現代までを対象に、地域文化、宗教文化、生活文化などの文化領域を歴史的、相対的な視点をふまえつつ日本文化について考えます。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 日本文化の特徴を説明することができる。 2) 時代や身分階層による文化の変遷を説明することができる。 3) 自国の文化と異文化を公平にみる視点を養うことができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | |
| | | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (100%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | 課題発見・解決能力 () () | | | |
| テキスト | 特に指定しません。授業内にて資料を配付します。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業内にて指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたレポートはコメントを付けて返却します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | 日本文化に関し、中学校や高等学校の日本史教科書や資料集を一読して、文化史の流れを把握してください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室に日時を貼付するので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 日本文化 |
|---------|-----------------|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 授業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内のまとめをしておく。 |
| 第2回 | 「日本」および「文化」とは何か | (学修内容) 「日本」と「文化」の概念について考えます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に「日本」と「文化」を日本語辞典や歴史事典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。 |
| 第3回 | 日本神話と神々 | (学修内容) 日本神話と祭祀を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に「神話」を日本語辞典や歴史事典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。 |
| 第4回 | 仏教の伝来と受容 | (学修内容) 仏教の伝来と受容がもたらした影響を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に「仏教伝来」を歴史事典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。 |
| 第5回 | 中国文化の受容と展開 | (学修内容) 中国文化が日本にもたらした影響を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。 |
| 第6回 | 国風文化 | (学修内容) 国風文化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に「国風文化」について歴史辞典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。 |
| 第7回 | 貴族と武家の文化 | (学修内容) 貴族文化と武家文化の形成と展開を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に「貴族」「武家」を日本語辞典や歴史事典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。 |
| 第8回 | 寺社と芸能 | (学修内容) 寺社と芸能(狂言・能・歌舞伎など)との関係を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に「芸能」を日本語辞典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。 |
| 第9回 | 儒教と日本文化 | (学修内容) 儒教思想が日本に与えた影響を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「儒教」について日本語辞典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。 |
| 第10回 | 蘭学と国学 | (学修内容) 蘭学との伝来と影響、国学の成立と展開を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に「蘭学」と「国学」について日本語辞典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。 |
| 第11回 | 都市の文化 | (学修内容) 江戸時代の都市のあり方を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に「都市」という言葉を日本語辞典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。 |
| 第12回 | 町人と学問 | (学修内容) 江戸時代の町人文化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に「町人」について日本語辞典や歴史事典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。 |
| 第13回 | 海外からみた日本文化 | (学修内容) 近代日本の西洋化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に「近代」「近代化」について日本語辞典や歴史事典で調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。 |
| 第14回 | 創られた伝統と文化 | (学修内容) 創られた日本文化観について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後、授業内容や配付資料をもとに、前近代と近代以降の日本文化観の変化について各自ノートにまとめること。 |
| 第15回 | 授業の総括 | (学修内容) 授業全体の振り返りを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをしておく。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | 日本の歴史 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | IC1203 |
| 英文名 | Japanese History | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 坪井 剛 | | | 対象学生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 伝統的な日本文化を理解し、それらを生かして地域社会の発展に寄与するためには、日本文化・社会の歴史的背景に関する基礎知識が必要となります。また、現在までに明らかになっている歴史的知見が、どういったプロセスで見出されてきたのかを理解することで、今後、主体的に知識を獲得していくための指標を得ることができるでしょう。本授業では、日本史における基礎的知識を確認しつつ、幾つかの事象を掘り下げることで、歴史的に物事を考えるための視座を養います。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 「歴史学」という学問分野の基本的な考え方を理解することができる。 2) 日本の各時代における社会の特性を理解し、説明できる。 3) 歴史的に物事を考えるための視座を得ることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (60%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | | コミュニケーション能力 | プレゼンテーション能力 | | 課題発見・解決能力 | | |
| テキスト | 毎回の授業でレジュメを配布する。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 五味文彦他『新 もういちど読む 山川日本史』山川出版社、2009年。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 毎回、コミュニケーションカードに課題への解答、感想、質問事項を書いてもらいます。適宜、解説が必要なものについては、次回授業で説明します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 日本の歴史 | |
|------|-------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | 「歴史を研究する」とは？ | (学修内容) 歴史教科書を比較することから、高校日本史と大学での「歴史学」の違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 シラバスと参考図書を粗方、一通り読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。 |
| 第2回 | 「史料」と「史実」 | (学修内容) 年表・歴史漫画を比較することから、教科書や概説書に書かれる歴史的事象がどのようにして明らかになったのかを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 第一回授業で提示した課題について再考しておく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。 |
| 第3回 | 「歴史を叙述する」とは？ | (学修内容) 教科書や概説書に書かれる歴史的事象がどうして取り上げられるのかを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 第二回授業で提示した課題について再考しておく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。 |
| 第4回 | 飛鳥時代 『日本書紀』と仏教伝来 | (学修内容) 『日本書紀』の記述から歴史的な事象を拾い上げるプロセスを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「飛鳥時代」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。 |
| 第5回 | 奈良時代 律令の制定と古代社会 | (学修内容) 古代社会の様相について、律令から読み解く。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「奈良時代」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。 |
| 第6回 | 平安時代 平安貴族社会の変転と「未来記」の出現 | (学修内容) 古代社会の移り変わりとその影響により出現する新たな文書について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「平安時代」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。 |
| 第7回 | 院政期・鎌倉時代 鎌倉幕府の成立と武家社会 | (学修内容) 中世社会の成立を古文書から読み解く。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「鎌倉時代」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。 |
| 第8回 | 南北朝・室町時代 室町幕府の成立と伝統文化 | (学修内容) 中世社会の変化について、絵画資料から読み解く。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「南北朝室町」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。 |
| 第9回 | 戦国時代 応仁・文明の乱と地域社会の発展 | (学修内容) 室町幕府の崩壊による地域社会の発展について、絵図から理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「戦国時代」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。 |
| 第10回 | 織豊期 天下統一と秀吉の「京都改造」 | (学修内容) 近世社会の成立と京都における都市構造の変化について、現在に残る史跡などから理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「織豊期」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。 |
| 第11回 | 江戸時代前期 「文治政治」と五代将軍綱吉の治世 | (学修内容) 江戸時代の治世と政争について、複数の文献史料から読み解く。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「江戸前期」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。 |
| 第12回 | 江戸時代後期 明治維新への過程 | (学修内容) 近世社会の変容と近代への過程を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「江戸中後期」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。 |
| 第13回 | 明治時代 廃仏毀釈と寺社景観の変貌 | (学修内容) 近代社会の成立とその政策による景観変化について、絵図等から理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「明治時代」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。 |
| 第14回 | 大正・昭和前期 御大典と京都 | (学修内容) 近代社会の変容とその政策による景観の変化について、京都をフィールドとして理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 高校教科書・参考書の「大正～戦前」の部分を読んでおく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。 |
| 第15回 | まとめ | (学修内容) 15回を改めて総括し、歴史的に物事を考える視座について確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習 1～14回の授業を復習し、疑問点等が無いが確認しておく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 京都の風土と文化 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 2単位 | 科 目 コ ー ド | IC1209 |
| 英 文 名 | Climate and Culture in Kyoto | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 喜多 祐子 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 人は自然と共生し、人々との関わりのなかで文化を築きあげてきた。本講義では、京都を事例に、自然と人間との関わり、人々との交流のなかで育まれてきた文化について学習する。都市景観の変遷にも着目してみたい。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 自然と生活との関わりについて理解を深める 2) 様々な事例を通して、自分の意見を述べることができる 3) 京都で培われてきた文化の歴史的、文化的背景を理解できる | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (60 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (40 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 講義内で配布するプリント。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 講義内で紹介する | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出物にはコメントをつけて返却をする。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 京都に関連する新聞記事や文献を読んだり、ガイドブックや地図を見たりして、様々なことから関心をもつように心がける。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 担当授業終了後に実施する。 | | | | | | | | |
| 実 践 的 教 育 | 実践的教育 教員の実務経験など：宝塚市立中央図書館 資料調査員 | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 京都の風土と文化 | |
|---------|------------|--|--|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 | |
| 第1回 | 京都と風土 | (学修内容)「風土」について 京都の地形 人々が抱く「京都」の範囲 (事前事後学修課題の内容)(10分) 予習として、「風土」という言葉を辞書で調べてくること | |
| 第2回 | 京都の通り | (学修内容)住所表記 両側町 辻子と路地 メインストリートの変遷 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする | |
| 第3回 | 京都の町屋と民家 | (学修内容)町屋の構造 鐘馗さん 伊根の舟屋 美山かやぶきの里 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする | |
| 第4回 | 京都の花街 | (学修内容)花街 祇園界隈の景観形成 花見小路 上知 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする | |
| 第5回 | 京都の都市景観 | (学修内容)歴史的建造物群保存地区 景観条例 近代的建築 田の字地区 老舗 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする | |
| 第6回 | 東山の景観 | (学修内容)上知 二条～四条の景観形成 平安神宮 市電 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする | |
| 第7回 | 計算された庭園 | (学修内容)庭園 借景 庭園鑑賞 おもてなし (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする | |
| 第8回 | 東山の植生 | (学修内容)里山 林野利用 植生の変化 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする | |
| 第9回 | 北山杉 | (学修内容)北山杉 川端康成の小説『古都』 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする | |
| 第10回 | 複雑な行政境 | (学修内容)府県境 自然国境 画定 飛び地 境界神 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする | |
| 第11回 | 河川補修と都市景観 | (学修内容)水害 鴨川 河川補修 河川近辺の景観の変化 市街地の形成 先斗町 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする | |
| 第12回 | 京都の地下水 | (学修内容)名水と観光 地下水脈 地下水を利用した産業 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする | |
| 第13回 | 京都の同業者町 | (学修内容)同業者町 地名 西陣 仏具店 茶道 清水焼団地 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする | |
| 第14回 | 京都と映画撮影所 | (学修内容)京都撮影所の歴史 時代劇 東映 松竹 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする | |
| 第15回 | 古都「京都」と小京都 | (学修内容)京都と小京都との関係 アンノン族 観光 津和野 中村 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|---------------------------------|------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授業名 | 京都理解 | | | 開講学年 | 1回生 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | IC1204 |
| 英文名 | Understanding Kyoto | | | 開講時期 | 春学期 | 必修選択 | 選択 | | |
| 担当者 | 工藤 美和子 | | | 対象学生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 古代から近現代の日本において、政治・文化・宗教の中心に位置した京都について、その歴史と文化をたどり、京都で創られ全国に発信された京都文化について学びます。 | | | | | | | | |
| 学修成果到達目標 | 1) 京都の歴史と文化を知ることができる。 2) 京都の歴史と文化の理解を深めることができる。 3) 京都の歴史と文化について説明することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | PBL 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業) | | グループワーク ICT活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評価方法 | 定期試験 (80%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (20%) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評価基準 | 主たる評価の観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テキスト | 特に指定しません。授業内で資料を配付します。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業内で指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたレポートはコメントを付けて返却します。 | | | | | | | | |
| 留意事項 | できるだけ京都を散策してください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 研究室に日時を貼付するので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 京都理解 | |
|------|------------------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 授業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業のまとめをする。 |
| 第2回 | 世界遺産と京都 | (学修内容) 京都の世界遺産を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に京都で指定された世界遺産を調べ、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第3回 | 京都の自然環境 | (学修内容) 平安京成立以前の京都の自然について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第4回 | 長岡京から平安京成立 | (学修内容) 現在の京都市が平安京に選ばれた理由を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第5回 | 政治都市と京都 公家町と公家社会 | (学修内容) 政治の中心都市京都の歴史について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第6回 | 学外授業 京都市平安京創生館の見学 | (学修内容) 京都市平安京創生館の見学を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 見学後、小レポートをまとめて提出する。 |
| 第7回 | 豊臣秀吉と京都大改革 | (学修内容) 豊臣秀吉が行った京都の都市改革(御土居、聚楽第、寺内町)を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第8回 | 山鉾町と町衆 | (学修内容) 山鉾町と町衆の関係を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第9回 | 京都の祭礼 葵祭と祇園祭 | (学修内容) 葵祭・祇園祭の歴史と文化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第10回 | 京都と服飾文化 十二単衣から京友禅と西陣織へ | (学修内容) 平安京成立時から近代までの京都人の服飾文化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第11回 | 京都の住宅環境 町家 | (学修内容) 京都の町屋とその再生活動を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第12回 | 宗教空間の京都 | (学修内容) 宗教都市の性格をもつ京都を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第13回 | 京都の食文化 | (学修内容) 京都で創られ広まった食文化について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。小レポートの課題に取り組み提出する。 |
| 第14回 | 京都の年中行事と京菓子 | (学修内容) 菓子の歴史と京都の年中行事とともに発達した京菓子を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第15回 | 授業の総括 | (学修内容) 授業全体の振り返りを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをする。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|-----------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 伝統芸能と工芸 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | IC1401 |
| 英 文 名 | Traditional Performance Art and Industrial Art | | | 開 講 時 期 | 春学期 | | 必 修 選 択 | 選 択 | |
| 担 当 者 | 工藤 美和子 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 古代より日本にはさまざまな伝統芸能がアジア諸国より伝来し変容しながら継承されてきました。古代から現代まで伝わる伝統芸能のいくつかを学びます。また京都には国指定の伝統工芸品が17あります。これら伝統工芸のいくつかも紹介しながら、伝統の技が継承されてきたという点で互いに共通点をもつ芸能と工芸の関係についても学びます。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 伝統芸能を知ることができる。 2) 伝統芸能について理解を深め説明することができる。 3) 京都の伝統工芸を知ることができる。 4) 京都の伝統工芸について理解を深め説明することができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | | 知識・理解 | | | | 汎用的技能 | | | |
| | | 態度・志向性 | | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (80 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (20 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力 (| 課題発見・解決能力 (| | | | |
| テ キ ス ト | 特に指定しません。授業内で資料を配付します。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業内で指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | 提出されたレポートはコメントを付けて返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 博物館や資料館、伝統産業会館、伝統芸能の催しを随時紹介します。できるだけ足をはこんでください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室日時を貼付するので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授業名 | 伝統芸能と工芸 | |
|------|---------------|--|
| 授業計画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 授業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業のまとめをしておく。 |
| 第2回 | 伝統芸能とは何か | (学修内容) 伝統と芸能という言葉について辞書を用いてその意味を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「伝統」および「芸能」の意味を辞典等を用いて調べる。 |
| 第3回 | 古代京都と芸能 雅楽と舞楽 | (学修内容) 雅楽と舞楽の歴史と雅楽寮の成立とその役割を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第4回 | 中世京都と芸能 散楽と猿楽 | (学修内容) 散楽と猿楽の誕生と歴史の変遷を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第5回 | 中世京都と芸能 能楽と狂言 | (学修内容) 能楽と狂言の誕生と歴史の変遷を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第6回 | 近世京都と芸能 歌舞伎 | (学修内容) 歌舞伎の誕生と歴史の変遷を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌舞伎に関する教材を視聴し、授業で学んだ歌舞伎の内容を小レポートにまとめて提出する。 |
| 第7回 | 近世京都の芸能 門付芸能 | (学修内容) 門付芸能を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第8回 | 工芸とは何か | (学修内容) 工芸の誕生とその概念を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「工芸」という言葉の意味を辞書等を用いて調べる。 |
| 第9回 | 西陣織と京友禅 | (学修内容) 西陣織と京友禅を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第10回 | 学外授業 京都伝統産業会館 | (学修内容) 京都伝統産業会館の見学を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 見学会後、小レポートをまとめ提出する。 |
| 第11回 | 京漆器と京仏具 | (学修内容) 京漆器と京仏具を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第12回 | 京の金属工芸 | (学修内容) 京の金属工芸と京象嵌を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第13回 | 京の木工芸 | (学修内容) 京指物について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 |
| 第14回 | 和紙工芸と京唐紙 学外授業 | (学修内容) 京唐紙を学び、体験授業を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体験授業で学んだことを小レポートにまとめて提出する。 |
| 第15回 | 授業の総括 | (学修内容) 授業全体の振り返りを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをしておく。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------|--------------|--------|
| 授 業 名 | 日本の歳時と年中行事 | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コ ー ド | IC1402 |
| 英 文 名 | Seasonal and Annual Events | | | 開 講 時 期 | 春学期 | 必 修 選 択 | 選 択 | | |
| 担 当 者 | 伊藤 茂樹 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 日本は四季があり、様々な行事がある。季節を感じ、古式ゆかしい日本の行事を学ぶことを目的とする。正月、雛祭り、お盆、彼岸とあるように、各行事の意義を概説し、フィールドワークでは、その一端を体験する。また適宜グループワークを実施して相互に理解を深め、新たな知見を得る場としたい。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 四季にまつわる日本の諸行事を理解する 2) 地域における習慣の相違を学び、地域文化を尊重することを目指す 3) 様々な文献を駆使して積極的に調べる方法を身につける | | | | | | | | |
| 学位授与の 方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| アクティブ・ ラーニング 対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (70 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (30 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (|) | | | |
| テ キ ス ト | 必要資料をこちらで配布します。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | ありません。 | | | | | | | | |
| 課題に対する フィードバック の方法 | レポートを回収後、コメントをして返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 関連する本、例えば祭り、暦、日本の習俗についての本を積極的に読んでください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 後日、研究室に掲示します。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | 日本の歳時と年中行事 | |
|---------|-------------------------------|---|
| 授 業 計 画 | 学修項目 | 学修内容・課題 |
| 第1回 | オリエンテーション、本講義で学ぶ内容を説明します。桜見学。 | (学修内容) 講義の内容を説明します。また、近辺の桜の見学に行きます。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスをじっくりと読んでください。 |
| 第2回 | 京都東山の春行事 - 知恩院の御忌 | (学修内容) 京都の春の行事ともいえる知恩院の御忌について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ノートをしっかりまとめてください。配布プリントを参照してください。 |
| 第3回 | 知恩院御忌の参拝 - フィールドワーク | (学修内容) 衣装比べと呼ばれる知恩院の御忌を参拝して、行事を拝観してもらいます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノートを参照すること。授業後、感想文を書くこと。 |
| 第4回 | 元号について | (学修内容) 日本の元号について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ノートをまとめてください。配布プリントを参照してください。 |
| 第5回 | 日本の暦について | (学修内容) 日本の暦について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (20分) ノートをまとめる。配布プリントを参照する。 |
| 第6回 | 一年の行事について | (学修内容) 日本古来からの行事。また近年はやりだした行事などをグループワークで探ります。内容を検討し皆でディスカッションします。 (事前事後学修課題の内容) (50分) 行事の由来を調べておくこと。 |
| 第7回 | 大晦日とお正月について | (学修内容) お正月の意義を概説します。皆さんが体験するお正月行事、初詣やおせち料理についてディスカッションします。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 皆さんが経験しているお正月の初詣やおせち料理を教えてください。まとめてください。 |
| 第8回 | 初詣のコースを考える | (学修内容) 初詣のコースを検討してみましょう。それぞれがおすすめの初詣コースを作成してプレゼンテーションしてもらいます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) それぞれが初詣のコースを自分で作成してもらいます。 |
| 第9回 | フィールドワーク - 作製した初詣を参詣します - | (学修内容) 講義中に皆で検討した初詣のコースを実際に参詣します (事前事後学修課題の内容) (30分) 初詣のコースをまとめて提出してもらいます。 |
| 第10回 | 日本の年中行事について - お水取り | (学修内容) お水取りを取り上げ概説します。 (事前事後学修課題の内容) (20分) ノートをまとめる、配布プリントを参照する。 |
| 第11回 | 日本の年中行事について - 盂蘭盆 | (学修内容) 盂蘭盆会を取り上げ、概説します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 地方における特色あるお盆行事を調べてください。 |
| 第12回 | フィールドワーク - 京都の釣鐘 - | (学修内容) 京都の寺に所蔵する梵鐘を拝観します。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 鐘の持つ意義についてまとめてもらいます。 |
| 第13回 | 祭りについて | (学修内容) 日本の祭りについて概説します。 (事前事後学修課題の内容) (20分) ノートをまとめます。配布プリントを参照します。 |
| 第14回 | フィールドワーク - 祭り - | (学修内容) 京都で行われる祭りについて、ゆかりの場所に行き、内容に触れてもらいます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) フィールドワークについてまとめてもらいます。 |
| 第15回 | 講義のまとめ | (学修内容) これまでの内容をふり振り返りまとめます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ノートやプリントを整理し、関心のあったところをまとめてください。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------|-----------------------------------|------------------|----------------------------|------------|------------|-----------|--------|
| 授 業 名 | 伝統産業に学ぶ | | | 開 講 学 年 | 1回生 | 単 位 数 | 1単位 | 科 目 コー ド | IC1404 |
| 英 文 名 | Traditional Industry | | | 開 講 時 期 | 秋学期 | 必 修 選 択 | | 選 択 | |
| 担 当 者 | 工藤 美和子 | | | 対 象 学 生 | 総合文化1回生 | | | | |
| 授業の概要 | 現在の京都は、18世紀末の天明の大火後の姿であり、京都の伝統産業は何度も途切れているのが現状です。さらに、明治維新以降、首都機能が東京に移ったことで、京都の伝統産業界は、さまざまな形で近代化に直面します。以上の点から、今日、日本伝統産業の源流とまで評されることとなった、京都の伝統産業が中断と継続を繰り返すなかで、どのような対応をとってきたのかについて考えていきます。 | | | | | | | | |
| 学 修 成 果 到 達 目 標 | 1) 主要な京都の伝統産業の知識を得ることができる。 2) 京都の伝統産業の文化的背景、製造工程、今日的課題を知り、語るができる。 3) 伝統産業の近代化に尽力した人物や組織の知識を得ることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針との関連 | 知識・理解 | | | 汎用的技能 | | | | | |
| | 態度・志向性 | | | 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | | |
| アクティブ・ラーニング対象授業 | P B L 実習・フィールドワーク | | ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業) | | グループワーク I C T活用(自主学習支援) | | プレゼンテーション | | |
| 評 価 方 法 | 定期試験 (80 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | 平常試験 (20 %) | 筆記試験 口述 | レポート 実習 | 制作物 実技 | |
| 評 価 基 準 | 主たる評価の 観点 | 知識・理解 授業態度・参加意欲 | コミュニケーション能力 (| プレゼンテーション能力) | 課題発見・解決能力 (| | | |) |
| テ キ ス ト | 特に指定しません。授業内で資料を配付します。 | | | | | | | | |
| 参 考 書 | 授業内で指示します。 | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出されたレポートはコメントを付けて返却します。 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | 取り上げる伝統産業について、できる限り先入観を排して吸収するように努めてください。 | | | | | | | | |
| オ フ ィ ス ア ワ ー | 研究室の日時を貼付するので確認してください。 | | | | | | | | |
| 実践的教育 | | | | | | | | | |

| 授 業 名 | | 学修項目 | 学修内容・課題 |
|---------|---------------------|---|---------|
| 授 業 計 画 | | | |
| 第1回 | ガイダンス | (学修内容) 授業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業のまとめをしておく。 | |
| 第2回 | 創造された京都 | (学修内容) 天明の大火後の京都の景観を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 | |
| 第3回 | 京都の近代化 琵琶湖疏水事業 | (学修内容) 琵琶湖疏水事業について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 琵琶湖疏水について、事前に配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 | |
| 第4回 | 京都の近代化ー疏水事業と電力 | (学修内容) 日本初の電力産業について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 | |
| 第5回 | 京都の近代化 疏水と京都の人々 | (学修内容) 疏水が京都の人々にもたらした影響を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 | |
| 第6回 | 京焼・清水焼 誕生と変遷 | (学修内容) 京焼・清水焼の誕生と歴史の変遷を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 京焼・清水焼について事前に配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 | |
| 第7回 | 京焼・清水焼 芸術としての京焼・清水焼 | (学修内容) 海外で評価された京焼・清水焼について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 | |
| 第8回 | 京焼・清水焼 戦時下の窯業 | (学修内容) 世界大戦下での京焼・清水焼について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 | |
| 第9回 | 京都の茶産業 | (学修内容) 茶の伝来と茶文化の歴史の変遷を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 京都と茶について事前に配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 | |
| 第10回 | 京都の茶産業 喫茶文化 | (学修内容) 喫茶文化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 | |
| 第11回 | 京都の茶産業 宇治茶の栽培 | (学修内容) 宇治と茶栽培を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。課題を出すので小レポートを作成する。 | |
| 第12回 | 京都の茶産業 現代の茶文化 | (学修内容) 現代の抹茶ブームを学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。課題の小レポートを提出する。 | |
| 第13回 | 京都と和菓子 | (学修内容) 菓子の伝来と歴史の変遷を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 和菓子について、事前に配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 | |
| 第14回 | 京都と和菓子 現代の和菓子文化 | (学修内容) 京都の和菓子文化について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。 | |
| 第15回 | 授業の総括 | (学修内容) 授業全体の振り返りを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをしておく。 | |